

# HP Quality Center

ソフトウェア・バージョン : 10.00

---

## ユーザーズ・ガイド

ドキュメント番号 : T7334-99001

ドキュメント発行日 : 2009 年 1 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日 : 2009 年 1 月 (英語版)



# 利用条件

## 保証

HP の製品およびサービスの保証は、かかる製品およびサービスに付属する明示的な保証の声明において定められている保証に限ります。本ドキュメントの内容は、追加の保証を構成するものではありません。HP は、本ドキュメントに技術的な間違いまたは編集上の間違い、あるいは欠落があった場合でも責任を負わないものとします。

本ドキュメントに含まれる情報は、事前の予告なく変更されることがあります。

## 制限事項

本コンピュータ・ソフトウェアは、機密性があります。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアのドキュメント、および商用アイテムの技術データは、HP の標準商用ライセンス条件に基づいて米国政府にライセンスされています。

## サードパーティ Web サイト

HP は、補足情報の検索に役立つ外部サードパーティ Web サイトへのリンクを提供します。サイトの内容と利用の可否は予告なしに変更される場合があります。HP は、サイトの内容または利用の可否について、いかなる表明も保証も行いません。

## 著作権

© Copyright 2005 - 2009 Mercury Interactive (Israel) Ltd.

## 商標

Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Intel®, Pentium®, および Intel® Xeon™ は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Java™ は、Sun Microsystems, Inc. の米国商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows NT® および Windows® XP は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle® は、カリフォルニア州レッドウッド市の Oracle Corporation の米国登録商標です。

Unix® は、The Open Group の登録商標です。

## 文書の更新

本書のタイトル・ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェア・バージョン番号
- ドキュメントが更新されるたびに更新されるドキュメント発行日
- 本バージョンのソフトウェアをリリースした日付を示す、ソフトウェア・リリース日付

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals> を参照します。

このサイトでは、HP Passport に登録してサインインする必要があります。HP Passport ID の登録は、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログイン・ページの [**New users - please register**] リンクをクリックしてください。

適切な製品サポート・サービスに登録すると、更新情報や最新情報も入手できます。詳細については HP の営業担当にお問い合わせください。

## サポート

HP ソフトウェアのサポート Web サイトは、次の場所にあります。

**<http://support.openview.hp.com>**

HP ソフトウェアのオンライン・サポートは、インタラクティブな技術サポート・ツールにアクセスするための効率的な手段を提供します。サポート・サイトを利用することで、次のようなことができるメリットがあります。

- 関心のある内容のナレッジ・ドキュメントの検索
- サポート・ケースおよび機能強化要求の提出および追跡
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの連絡先の表示
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ほかのソフトウェア顧客との議論の開始
- ソフトウェアのトレーニングに関する調査と登録

ほとんどのサポート・エリアは、HP Passport ユーザとしての登録およびサインインが必要です。また多くは、サポート契約も必要です。アクセス・レベルの詳細情報については、**[http://h20230.www2.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp)** を参照してください。

HP Passport ID の登録は、次の場所で行います。

**<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>**

---

# 目次

はじめに .....	17
本書の構成 .....	17
文書ライブラリ .....	18
その他のオンライン・リソース .....	21
ドキュメントのアップデート .....	22

## 第 I 部 : QUALITY CENTER の基礎

<b>第 1 章 : はじめに</b> .....	25
アプリケーションのライフサイクル管理 .....	27
リリースの定義 .....	28
要件の定義 .....	30
テストの計画 .....	31
テストの実行 .....	33
不具合の追跡 .....	34
プロジェクト・データベースを使った作業 .....	35
ユーザの権限 .....	35
Microsoft Word と Microsoft Excel からのインポート .....	36
<b>第 2 章 : 作業を始める前に</b> .....	37
Quality Center の起動 .....	38
パスワードのリセット .....	42
Quality Center ウィンドウ .....	43
Quality Center 共通ツールバー .....	45
ユーザ・プロパティおよびパスワードの変更 .....	47
履歴のクリア .....	49
管理者メッセージの表示 .....	50

<b>第 3 章：Quality Center データを使った作業</b> .....	51
Quality Center のデータを使った作業について .....	52
カラムの配置 .....	52
ユーザの選択 .....	55
レコードのフィルタ処理 .....	56
レコードに対する詳細 / クロス・フィルタ処理 .....	61
レコードの並べ替え .....	66
グリッド・レコードのグループ分け .....	68
複数のレコードの更新 .....	71
設定のコピー .....	72
設定の更新とクリア .....	72
レコードの検索 .....	73
ファイルへのデータのエクスポート .....	75
<b>第 4 章：変更発生時の警告</b> .....	77
変更に対する警告について .....	77
警告について .....	78
警告の表示 .....	82
警告のクリア .....	84
フォローアップ・フラグの設定 .....	84
<b>第 5 章：添付ファイルの追加</b> .....	87
添付ファイルの追加について .....	88
ファイルの添付 .....	89
URL の添付 .....	89
スナップショットの添付 .....	90
システム情報の添付 .....	91
クリップボードからのアイテムの添付 .....	92
添付ファイルの管理 .....	92
<b>第 6 章：お気に入りビューを使用した作業</b> .....	95
お気に入りのビューでの作業 .....	95
お気に入りビューの追加 .....	96
お気に入りビューの読み込み .....	97
お気に入りビューの更新 .....	98
お気に入りビューの整理 .....	98

<b>第7章：バージョン・コントロールを使った作業</b> .....	101
バージョン・コントロールを使った作業について .....	101
バージョン・コントロールの概要 .....	102
エンティティのチェックアウト .....	106
エンティティのチェックイン .....	108
チェックアウトの取り消し .....	109
チェックアウト済みエンティティの表示 .....	110
バージョン履歴の表示 .....	111

## 第 II 部：リリースの管理

<b>第8章：リリース管理のワークフロー</b> .....	117
リリースとサイクルの定義 .....	118
要件の割り当て .....	119
テスト・セットの割り当てと実行 .....	120
不具合の割り当て .....	121
リリースとサイクルの分析 .....	121
<b>第9章：リリース・モジュールの概要</b> .....	123
リリース・モジュール .....	124
リリース・メニュー・バー .....	125
リリース・ツールバー .....	125
リリースとサイクルのフィールド .....	126
<b>第10章：リリース・ツリーの開発</b> .....	129
リリース・ツリーの開発について .....	130
リリース・ツリーの作成 .....	135
リリース・フォルダへのリリースの追加 .....	136
リリースへのサイクルの追加 .....	137
割り当て済みの要件とテスト・セット・フォルダの表示 .....	138
リリースとサイクルのカバレッジの進行状況の表示 .....	139
リリースとサイクルの不具合の表示 .....	143
リリース・ツリーの変更 .....	145

## 第 III 部：要件の定義

<b>第11章：要件定義のワークフロー</b> .....	151
要件範囲の定義 .....	152
要件のアウトライン作成 .....	153
要件の詳細定義 .....	154
リリースへの要件の割り当て .....	154
要件定義の分析 .....	155
ベースラインの確立 .....	155

<b>第 12 章 :要件モジュールの概要</b> .....	157
要件モジュール .....	157
要件メニュー・バー .....	168
要件ツールバー .....	169
要件フィールド .....	172
<b>第 13 章 :要件ツリーの構築</b> .....	179
要件ツリーの構築について.....	180
要件ツリーの作成.....	181
リリースまたはサイクルへの要件の割り当て.....	184
要件へのリッチ・テキストの追加.....	185
要件の更新.....	186
要件の検索.....	189
フィールド値の置換 .....	190
要件ツリーの表示 .....	193
要件の履歴の表示 .....	194
電子メールでの要件の送信.....	196
要件の変更.....	198
要件からのテストの作成 .....	202
<b>第 14 章 :要件の追跡</b> .....	209
要件の追跡について .....	210
トレーサビリティ関係の定義 .....	212
トレーサビリティ関係の表示 .....	214
トレーサビリティの影響の表示 .....	216
トレーサビリティ関係のリンクの削除.....	218
<b>第 15 章 :要件のリスクの計算</b> .....	219
要件のリスクの計算について .....	220
リスク・ベース品質管理プロセス.....	221
要件の評価.....	222
テスト・ポリシー設定の定義 .....	228
テスト・ポリシーの仕上げ.....	230
テスト戦略の分析 .....	233
リスク・ベース品質管理の例.....	237



## 第 IV 部 : テストの計画

<b>第 16 章 : テスト計画のワークフロー</b> .....	243
テスト戦略の定義.....	244
テスト・サブジェクトの定義.....	244
テストの設計.....	245
要件カバレッジの作成.....	246
テスト・ステップの設計.....	246
テストの自動実行.....	247
テスト計画の分析.....	248
ベースラインの作成.....	248
<b>第 17 章 : テスト計画モジュールの概要</b> .....	249
テスト計画ツリー.....	250
テスト計画メニュー・バー.....	252
テスト計画ツールバー.....	254
テスト・グリッド.....	256
<b>第 18 章 : テスト計画ツリーの開発</b> .....	263
テスト計画ツリーについて.....	264
テスト計画ツリーの作成.....	265
テスト計画ツリーへのテストの追加.....	267
テスト計画ツリーの表示.....	271
テストのインスタンスの表示.....	274
テストの履歴の表示.....	275
テストのメール送信.....	276
ツリーまたはテスト・グリッド内でのテストの検索.....	279
テスト・グリッド内でのフィールド値の置換.....	281
テスト・グリッド内での複数のレコードの更新.....	282
テストのコピー.....	282
テストの URL のコピー.....	285
テスト計画ツリーの並べ替え.....	285
テスト計画ツリーの変更.....	287
<b>第 19 章 : 要件とテスト・カバレッジ</b> .....	289
要件とテスト・カバレッジについて.....	290
要件のテストへのリンク.....	293
テストの要件へのリンク.....	297
カバレッジの分析.....	301
<b>第 20 章 : テストの作成</b> .....	307
テストの作成について.....	307
デザイン・ステップの定義.....	309
手動テストの呼び出し.....	311
デザイン・ステップの管理.....	313

<b>第 21 章 : 手動テストでのパラメータを使った作業</b> .....	323
手動テストでのパラメータを使った作業について .....	323
テスト・パラメータの定義 .....	325
テスト・パラメータの更新 .....	326
デザイン・ステップへのテスト・パラメータの挿入 .....	327
実際の値の割り当て .....	328
テスト・パラメータの管理 .....	330
<b>第 22 章 : 自動テストの作成</b> .....	333
自動テストの作成について .....	333
自動テスト・スクリプトの生成 .....	334
<b>第 23 章 : システム・テストの活用</b> .....	337
システム・テストでの作業について .....	338
テスト計画ツリーへのシステム・テストの追加 .....	338
システム・テストの定義 .....	340
システム・テストの実行 .....	341
システム・テスト結果の表示 .....	342
<b>第 24 章 : テスト・リソースの管理</b> .....	345
テスト・リソースの管理について .....	346
テスト・リソース・モジュール .....	347
テスト・リソース・ツリーの作成 .....	348
リソースおよびフォルダの詳細の更新 .....	351
リソースを使った作業 .....	353
テスト・リソースの依存関係の表示 .....	355
テスト・リソース・ツリーの管理 .....	355
リソースの履歴の表示 .....	364
<b>第 25 章 : 依存関係の表示</b> .....	365
依存関係の表示について .....	365
依存関係の表示 .....	366

## 第 V 部 : テストの実行

<b>第 26 章 : テスト・ラボにおけるワークフロー</b> .....	373
テスト・セットの作成 .....	374
テスト実行のスケジュール設定 .....	374
手動テストの実行 .....	374
テストの自動実行 .....	375
テスト結果の分析 .....	375

<b>第 27 章 :テスト・ラボ・モジュールの概要</b> .....	377
テスト・ラボ・モジュール .....	378
テスト・ラボのメニュー・バー .....	380
テスト・ラボのツールバー .....	381
実行グリッド .....	383
実行フロー .....	388
<b>第 28 章 :テスト・セットの作成</b> .....	391
テスト・セットの作成について .....	392
テスト・セット・ツリーの作成 .....	394
サイクルへのテスト・セット・フォルダの割り当て .....	395
テスト・セットの追加 .....	396
テスト・セットへのテストの追加 .....	399
テスト・セット通知の設定 .....	402
失敗時のルールに関するテスト・セットの設定 .....	404
テスト・セットの管理 .....	408
<b>第 29 章 :テスト実行のスケジュール</b> .....	421
テスト実行のスケジュール設定について .....	421
テスト実行のスケジュール設定 .....	423
テスト実行のスケジュール変更 .....	426
テストの順序の設定 .....	429
テストの検索 .....	430
実行フロー図の表示 .....	430
<b>第 30 章 :テストの手動実行</b> .....	433
手作業によるテストの実行について .....	433
手作業によるテストの実行 .....	434
テスト・ステップの編集 .....	440
手動テストの実行の再開 .....	441
<b>第 31 章 :テストの自動実行</b> .....	443
テストの自動実行について .....	443
テストの自動実行 .....	444
実行ログの表示 .....	448
テストのリモート実行のためのホストの設定 .....	449
実行グリッドのテストの順序の設定 .....	452
実行グリッドでの値の検索と置換 .....	453

<b>第 32 章 : テスト結果の表示</b> .....	455
テスト結果の表示について .....	456
テスト結果の表示 .....	457
テスト実行の詳細の表示 .....	460
すべての実行結果の比較 .....	462
テスト実行の設定の表示 .....	465
リンクされている不具合の表示 .....	470
テスト実行の履歴の表示 .....	472

## 第 VI 部 : 不具合の追跡

<b>第 33 章 : 不具合追跡のワークフロー</b> .....	477
不具合の追加 .....	478
新しい不具合の確認 .....	479
未解決の不具合の修正 .....	479
アプリケーションの新しいビルドのテスト .....	480
不具合データの分析 .....	480
<b>第 34 章 : 不具合モジュールの概要</b> .....	481
不具合モジュール .....	482
不具合メニュー・バー .....	484
不具合ツールバー .....	485
不具合グリッド .....	487
<b>第 35 章 : 不具合の追加と追跡</b> .....	491
不具合の追加と追跡について .....	492
新しい不具合の追加 .....	493
不具合の検索 .....	496
不具合の更新 .....	500
値の検索と置換 .....	503
複数のレコードの更新 .....	505
不具合の履歴の表示 .....	505
不具合のメールでの送信 .....	506
不具合のコピー .....	509
不具合の URL のコピー .....	510
不具合の印刷 .....	510
不具合の削除 .....	511
<b>第 36 章 : 不具合のリンク</b> .....	513
不具合のリンクについて .....	513
不具合のリンクの表示 .....	516
不具合のリンクの追加 .....	517
不具合リンクの削除 .....	518

## 第 VII 部 : ライブラリの管理

<b>第 37 章 : ライブラリ・モジュールの概要</b> .....	521
ライブラリ・モジュール .....	522
ライブラリ・メニュー・バー .....	523
ライブラリ・ツールバー .....	523
ライブラリ・フィールドとベースライン・フィールド .....	524
<b>第 38 章 : ライブラリとベースライン</b> .....	527
ライブラリとベースラインについて .....	528
ライブラリ・ツリーの作成 .....	529
ライブラリの作成 .....	529
ベースラインの作成 .....	531
ベースライン比較ツール .....	534
比較の設定 .....	537
ベースラインの履歴の表示 .....	539
テスト・セットをベースラインに固定 .....	540
ライブラリ・ツリーの変更 .....	541
エンティティの比較 .....	543
<b>第 39 章 : ライブラリのインポート</b> .....	547
ライブラリのインポートについて .....	548
ライブラリのインポート .....	550
関連ライブラリの表示 .....	554
ライブラリ比較ツール .....	558
ライブラリの同期化 .....	561
ライブラリのメール送信 .....	564

## 第 VIII 部 : QUALITY CENTER での分析

<b>第 40 章 : ダッシュボード・モジュール</b> .....	569
ダッシュボード・モジュールについて .....	569
ダッシュボード・モジュールの概要 .....	570
アナリシス・ツリーとダッシュボード・ツリーの構築 .....	571
アナリシス項目の作成 .....	572
ダッシュボード・ページの作成 .....	573
アナリシス項目とダッシュボード・ページの管理 .....	577

<b>第 41 章 : グラフの作成</b> .....	581
グラフの作成について .....	582
グラフ・ウィザードによるグラフの作成 .....	582
クイック・グラフの作成 .....	588
ダッシュボード・モジュールでのグラフの作成 .....	589
グラフの設定 .....	591
クロス・プロジェクト・グラフの作成 .....	594
グラフの表示 .....	596
Quality Center のグラフの種類 .....	604
<b>第 42 章 : 標準レポートの作成</b> .....	623
標準レポートの作成について .....	623
クイック標準レポートの作成 .....	624
ダッシュボード・モジュールでの標準レポートの作成 .....	628
標準レポートの設定 .....	632
サブレポートの追加 .....	635
標準レポートの表示 .....	638
<b>第 43 章 : Excel レポートの作成</b> .....	641
Excel レポートの作成について .....	642
Excel レポートの作成 .....	643
SQL クエリの作成 .....	644
SQL クエリへのパラメータの追加 .....	648
後処理スクリプトの作成 .....	652
Excel レポートの実行 .....	654
<b>第 44 章 : ライブ・アナリシス・グラフの作成</b> .....	657
ライブ・アナリシス・グラフの作成について .....	658
ライブ・アナリシス・グラフの作成 .....	658
ライブ・アナリシス・グラフの削除 .....	665
グラフの表示形式の設定 .....	666
<b>第 45 章 : プロジェクト・ドキュメントの作成</b> .....	669
ドキュメント・ジェネレータの使用について .....	670
ドキュメント・ジェネレータの起動 .....	672
書式の設定 .....	673
プロジェクト・データの指定 .....	679
プロジェクト・ドキュメントの生成 .....	705

## 第 IX 部：付録

<b>付録 A: VAPI-XP を使った作業</b> .....	709
VAPI-XP を使用した作業について .....	710
VAPI-XP テスト・スクリプトの作成 .....	710
VAPI-XP テスト・スクリプトの編集 .....	720
VAPI-XP API の使用 .....	724
デバッグ・モードでの VAPI-XP テストの実行 .....	730
VAPI-XP テストのテスト・モードでの実行 .....	731
VAPI-XP テスト・スクリプトのデバッグ .....	733
<b>付録 B: Quality Center キーボード・ショートカット</b> .....	737
Quality Center モジュールの切り換え .....	738
一般的なキーボード・ショートカット .....	738
添付ファイルのショートカット .....	740
[電子メールを送信] ダイアログ・ボックスのショートカット .....	741
管理モジュールのショートカット .....	741
要件モジュールのショートカット .....	742
テスト計画モジュールのショートカット .....	742
テスト・リソース・モジュールのショートカット .....	743
テスト・ラボ・モジュールのショートカット .....	743
不具合モジュールのショートカット .....	745
ダッシュボード・モジュールのショートカット .....	746
<b>付録 C: Quality Center エディション</b> .....	749
Quality Center エディションについて .....	749
エディションごとの Quality Center 機能 .....	750
<b>索引</b> .....	755





---

# はじめに

HP Quality Center へようこそ。Quality Center は、HP の Web ベースのアプリケーション・ライフサイクル管理ソリューションです。Quality Center によって、リリースの定義、要件の指定、テスト計画、テスト実行、不具合追跡など、アプリケーションのライフサイクル管理プロセスのあらゆる段階を編成し、管理できます。

## 本書の構成

本書では、Quality Center のシステム要件とインストール・プロセスについて説明します。

本書は、以下の章で構成されています。

### 第 I 部 Quality Center の基礎

Quality Center の機能と使用方法の概要を説明します。

### 第 II 部 リリースの管理

アプリケーションのライフサイクルを管理するためのリリースおよびサイクルを定義する方法について説明します。

### 第 III 部 要件の定義

要件ツリーを作成して要件を定義する方法について説明します。

### 第 IV 部 テストの計画

テスト計画ツリーの構築からテストの作成までのテスト・プロセスを計画する方法について説明します。

## 第 V 部 テストの実行

テスト・セットの作成，手動テストと自動テストの実行，およびテスト結果の確認方法について説明します。

## 第 VI 部 不具合の追跡

アプリケーションの不具合を Quality Center プロジェクトに報告する方法，不具合が解決されるまでにわたって，修正のプロセスを追跡する方法について説明します。

## 第 VII 部 ライブラリの管理

ライブラリの定義によるプロジェクトでの変更の追跡，プロジェクトでのエンティティの再利用，または複数のプロジェクト間でのエンティティの共有方法について説明します。

## 第 VIII 部 Quality Center での分析

グラフ，標準レポート，Excel レポート，ダッシュボード・ページおよびプロジェクト文書を作成して，アプリケーション・ライフ・サイクルの管理プロセスを分析する方法について説明します。

## 第 IX 部 付録

VAPI-XP テスト・ツールの使用方法の説明と Quality Center のキーボード・ショートカット一覧を提供します。また，Quality Center のそれぞれのエディション（Starter，Enterprise および Premier）について説明します。

## 文書ライブラリ

文書ライブラリは，Quality Center の使用方法を説明するオンライン・ヘルプ・システムです。文書ライブラリには，次のいずれかの方法でアクセスできます。

- ▶ Quality Center の [ヘルプ] メニューで [**文書ライブラリ**] をクリックし，文書ライブラリのホームページを開きます。このホームページでは，主なヘルプ・トピックへのクイック・リンクが含まれます。
- ▶ Quality Center の [ヘルプ] メニューで [**このページのヘルプ**] をクリックして，現在のページを説明するトピックへの文書ライブラリを開きます。

## 文書ライブラリ・ガイド

文書ライブラリは、次のガイドとリファレンスで構成されており、オンライン、PDF 形式、またはその両方で提供されています。PDF の表示や印刷には、Adobe Reader を使用します。Adobe Reader は Adobe 社の Web サイト (<http://www.adobe.com/jp/>) からダウンロードできます。

『**はじめに**』: 文書ライブラリの使用方法および編成方法について説明していません (オンラインで利用可能)。

『**新機能**』: 最新バージョンの Quality Center における新しい機能について説明しています (オンラインおよび PDF 形式で利用可能)。

Quality Center の [ヘルプ] メニューから [新機能] にアクセスすることもできます。また、[ヘルプ] > [製品の機能紹介ムービー] を選択して主な製品機能の短いデモ・ムービーを見ることもできます。

『**最初にお読みください**』: Quality Center に関する最新のお知らせと情報が含まれています。

## Quality Center ガイド

『**HP Quality Center ユーザーズ・ガイド**』: Quality Center を使用してアプリケーションのライフサイクル管理プロセスのあらゆる段階を組織し、実行する方法を説明しています。また、リリースの指定、要件定義、テスト計画、テスト実行、および不具合追跡を行う方法についても説明しています (オンラインおよび PDF 形式で利用可能)。

『**HP Quality Center Administrator's Guide**』 (英語版): 「サイト管理」機能を使用してプロジェクトを作成し保守する方法、および「プロジェクトのカスタマイズ」機能を使用してプロジェクトのカスタマイズを行う方法を説明しています (オンラインおよび PDF 形式で利用可能)。

『**HP Quality Center チュートリアル**』: Quality Center を使ってアプリケーション・テスト・プロセスを管理する方法について自分のペースで学べるガイドです (PDF 形式で利用可能)。

『**HP Quality Center インストール・ガイド**』: Quality Center をクラスタ環境のサーバ・マシンに、あるいはスタンドアロン・アプリケーションとしてインストールする方法を説明しています (PDF 形式で利用可能)。

『**HP Quality Center アップグレード・ガイド**』: プロジェクトのアップグレード前に問題を検出し修復する方法を説明しています (PDF 形式で利用可能)。

『**HP Quality Center Database Best Practices Guide**』（英語版）：Quality Center をデータベース・サーバ上にデプロイするためのベスト・プラクティスを提供します。（PDF 形式で利用可能）。

### **Business Process Testing ガイド**

『**HP Business Process Testing User's Guide**』（英語版）：Business Process Testing を使用して、ビジネス・プロセス・テストを作成する方法を説明しています（オンラインおよび PDF 形式で利用可能）。

『**HP Business Process Testing チュートリアル**』：Quality Center アプリケーションにおける Business Process Testing の基本について、自分のペースで学べるガイドです（PDF 形式で利用可能）。

### **API リファレンス**

『**HP Quality Center Database Reference**』（英語版）：プロジェクト・データベースのすべてのテーブルとフィールドのオンライン・リファレンスを提供しています（オンラインで利用可能）。

『**HP Quality Center Open Test Architecture API Reference**』（英語版）：Quality Center の COM ベース API 全体のオンライン・リファレンスを提供しています。Quality Center のオープン・テスト・アーキテクチャを使用して、ユーザ独自の設定管理ツール、不具合追跡ツール、および自社開発のテスト・ツールを Quality Center プロジェクトに統合できます（オンラインで利用可能）。

『**HP Quality Center Site Administration API Reference**』（英語版）：COM ベースのサイト管理 API 全体のオンライン・リファレンスです。サイト管理 API を使用して、アプリケーションを編成、管理し、Quality Center のユーザ、プロジェクト、ドメイン、接続およびサイトの設定パラメータを保守できます（オンラインで利用可能）。

『**HP Quality Center Entity Dependencies API Reference**』（英語版）：Quality Center エンティティ間の関係を管理するためのオンライン・リファレンスです。関係を管理する際に使われる Quality Center の COM ベースの API のサブセットと、データ・テーブルのサブセットをカバーしています。このリファレンスを使ってテスト・ツールと Quality Center を統合できます（オンラインで利用可能）。

『**HP Quality Center Custom Test Type Guide**』（英語版）：独自のテスト・ツールの作成および Quality Center 環境への統合について網羅的に説明するオンライン・ガイドです（オンラインで利用可能）。

## その他のオンライン・リソース

Quality Center の [ヘルプ] メニューから、次のオンライン・リソースも使用できます。

[**トラブルシューティング & ナレッジ ベース**] : HP ソフトウェア・サポート Web サイトのトラブルシューティングのページにアクセスします。このページで、セルフ・ソルブ技術情報を検索できます。[ヘルプ] > [**トラブルシューティング & ナレッジ ベース**] を選択します。この Web サイトの URL は <http://h20230.www2.hp.com/troubleshooting.jsp> です。

[**HP ソフトウェア・サポート**] : HP ソフトウェア・サポートの Web サイトにアクセスします。このサイトで、セルフ・ソルブ技術情報を参照できます。また、ユーザ・ディスカッション・フォーラムへの書き込みや検索、サポート要求の送信、パッチや更新されたドキュメントのダウンロードなどを行うこともできます。[ヘルプ] > [**HP ソフトウェア・サポート**] を選択します。Web サイトの URL は <http://support.openview.hp.com> です。

サポート・エリアの大部分において、HP パスポート・ユーザとしての登録と、サインインが必要になります。また、多くの場合サポート契約も必要になります。

アクセス・レベルの詳細については、下記の URL にアクセスしてください：  
[http://h20230.www2.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp)

HP パスポート・ユーザ ID を登録するには、下記の URL にアクセスしてください：  
<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

[**HP ホーム ページ**] : HP のホームページにアクセスします。このサイトでは、HP ソフトウェア製品に関する最新情報をご覧になれます。たとえば、新しいソフトウェアのリリース、セミナー、展示会、カスタマー・サポートなどの情報が含まれます。[ヘルプ] > [**HP ホームページ**] を選択します。この Web サイトの URL は <http://welcome.hp.com/country/jp/ja/prodserve/software.html> です。

[**アドイン ページ**] : HP Quality Center アドイン・ページを表示します。このページは、HP 製ツールやサードパーティ製ツールとの統合および同期化ソリューションを提供します。詳細については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

## ドキュメントのアップデート

HP ソフトウェアの製品ドキュメントは、常に更新されています。

最新の更新情報の確認や、使用しているドキュメントが最新版であるかどうかの確認を行うには、HP ソフトウェアの製品ドキュメント Web サイトを参照してください ([http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc\\_serv/](http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/))。

# 第 I 部

---

## Quality Center の基礎





# 第1章

---

## はじめに

HP Quality Center へようこそ。HP Quality Center は、アプリケーションのライフサイクルを管理するための HP の Web ベースのソリューションです。

Quality Center へのアクセスは、Web ブラウザを使用してインターネット経由または社内イントラネット経由で行います。

アプリケーションのライフサイクル管理は複雑なプロセスです。このプロセスには、リリースの定義、要件の開発、テストの設計と検証、および不具合の監視と報告などの相互に関連するステップが必要です。アプリケーション管理プロセスのすべての側面を管理するのは、時間のかかる困難な作業です。

Quality Center では、プロセス全体を体系的に管理することによって、アプリケーション管理の簡素化と組織化を可能にします。アプリケーション管理ワークフローの枠組みと基盤の形成に役立てることができます。

Quality Center にはアプリケーションのリリースを整理して追跡するためのシステムが組み込まれているため、ビジネス優先度および品質の期待値をプロジェクトの要件、テスト、および不具合に連携させることができます。

Quality Center を使用すると、要件およびテストのプロジェクト・データベースを定義および維持できます。要件は、アプリケーションの機能のすべての側面をカバーするのに役立ちます。次に、アプリケーションの正しい側面がテストされることを保証するために、これらの要件からテストを自動的に生成できます。また、プロジェクトのさまざまな目標を達成するために、プロジェクトで行うテストを個別のグループにまとめることができます。Quality Center では、テスト・セットのスケジュール設定と実行、テスト結果の収集、およびデータの分析を直観的に効率よく行う手段を提供します。

また、アプリケーションの不具合を追跡する高度なシステムも組み込まれており、最初に不具合を検出してから解決するまで詳細に監視できます。

Quality Center を電子メール・システムと組み合わせることによって、アプリケーション開発、ビジネス・アナリスト、品質保証、カスタマー・サポート、および情報システムの各担当者間で、不具合追跡情報を共有できます。

Quality Center では、要件、テスト設計と実行、および不具合追跡を分析するためのツールを提供します。ビジネス・パフォーマンスをさまざまな観点から示すインタラクティブなグラフを生成したり、データの断面を示すレポートを定義したりできます。また、単一のビューに複数のグラフを並べて配置することにより、複数のビジネス・メトリックスを監視できます。

Quality Center は、HP のテスト・ツール（WinRunner, QuickTest Professional, LoadRunner, および Visual API-XP）をはじめとして、サードパーティ製のテスト・ツールや自社のカスタム・テスト・ツール、要件管理ツールや構成管理ツールと統合できます。Quality Center は選択したテスト・ツールとシームレスに通信できる、アプリケーション・テストを完全に自動化するソリューションを実現できます。

Quality Center では、アプリケーションのライフサイクル管理に関するすべての段階の手順を導いてくれます。アプリケーション管理に関するあらゆる作業が統合されることにより、品質の高いアプリケーションを顧客に提供することが可能になります。

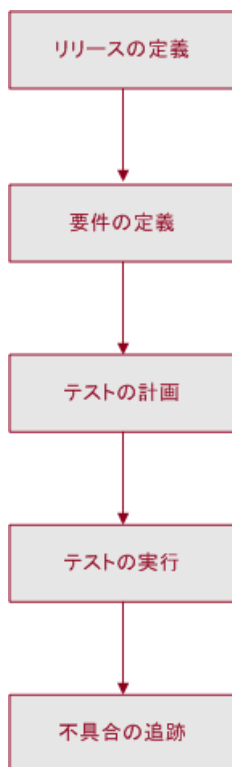
---

**Quality Center のエディション** : 利用できる機能は、Quality Center のエディションである Starter, Enterprise, または Premier によって異なります。詳細については、付録 C 「Quality Center エディション」を参照してください。

---

## アプリケーションのライフサイクル管理

Quality Center によるアプリケーションのライフサイクル管理プロセスには、次の段階があります。



**リリースの定義**：リリース・サイクルの管理計画を開発します。

**要件の定義**：アプリケーションを分析し、要件を決定します。

**テストの計画**：要件に基づいて、テスト計画を作成します。

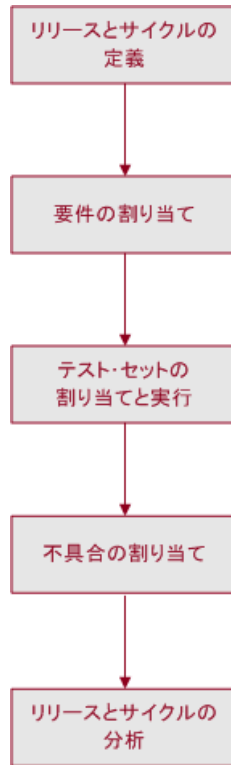
**テストの実行**：テスト・セットを作成し、テストを実行します。

**不具合の追跡**：アプリケーションで検出された不具合を報告し、修正の進行状況を追跡します。

各段階を通して、詳細なレポートとグラフを作成することによってデータを分析できます。

## リリースの定義

リリース・サイクルの管理計画を開発します。



**リリースとサイクルの定義**：リリースとサイクルを定義するためにリリース・ツリーを構築します。**リリース**は、同時に配布可能な1つ以上のアプリケーションにおける変更のグループを示します。**サイクル**は、プロジェクト・スケジュールに基づいた開発とQAのサイクルを示します。

**要件の割り当て**：要件モジュールで要件を定義して、リリース・ツリーでリリースとサイクルに割り当てます。

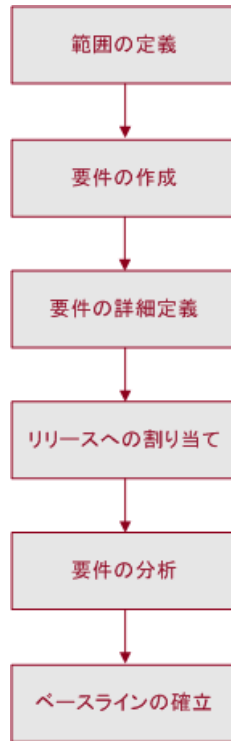
**テスト・セットの割り当てと実行**：テスト・セット・フォルダをテスト・ラボ・モジュールで作成し、リリース・ツリーでサイクルに割り当てます。**テスト・セット**とは、Quality Center プロジェクト内のテストのグループで、特定のテスト目標を達成するように設計されています。テスト・セット・フォルダをサイクルに割り当てたら、そのテスト・セット・フォルダのテスト・セットを実行します。

**不具合の割り当て**：アプリケーションで検出した新しい不具合を Quality Center プロジェクトに送信します。リリース・ツリーで関連するリリースとサイクルに不具合を割り当てます。

**リリースとサイクルの分析**：リリースの進行状況の分析を支援するためにレポートとグラフを生成します。リリース目標を満たしていることを保証するためにリリース・ツリーを確認します。

## 要件の定義

アプリケーションを分析し、要件を決定します。



**範囲の定義**：範囲，目的，および戦略を決定するために，アプリケーションのドキュメントを検討します。

**要件の作成**：要件の枠組みを定義するために要件ツリーを作成します。

**要件の詳細定義**：要件ツリーの要件ごとに，詳細な要件のリストを作成します。各要件を記述し，優先順位レベルを割り当て，必要に応じて添付ファイルを追加します。

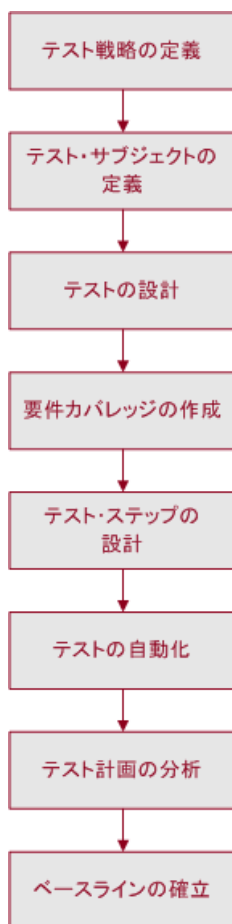
**リリースへの割り当て**：リリース・モジュールのリリース・ツリーでリリースとサイクルに各要件を割り当てます。**リリース・ツリー**には，階層ツリー構造に製品のリリースが表示されます。

**要件の分析**：要件の分析を支援するためにレポートやグラフを作成します。要件を検討し、アプリケーション管理の範囲に一致していることを確認します。

**ベースラインの確立**：ベースラインは、特定時点における要件のスナップショットを提供します。アプリケーションのライフサイクルで重要なマイルストーンを承認または比較するためにベースラインを作成します。

## テストの計画

要件に基づいて、テスト計画を作成します。



**テスト戦略の定義**：テストの目標を決定するために、アプリケーション、システム環境、およびテスト・リソースを検討します。

**テスト・サブジェクトの定義**：アプリケーションをテストの対象となる機能ごとに分類します。アプリケーションをテスト単位、つまりサブジェクトに階層的に分割するために、テスト計画ツリーを作成します。

**テストの設計**：サブジェクトごとに必要なテストのタイプを決定します。各テストの基礎定義をテスト計画ツリーに追加します。

**要件カバレッジの作成**：各テストに1つまたは複数の要件をリンクします。

**テスト・ステップの設計**：テスト計画ツリーのテストにステップを追加し、手動テストを作成します。「**テストステップ**」は、テストの操作と各テストの期待結果を示します。自動化するテストを決めます。

**テストの自動化**：自動化するテストについては、HPのテスト・ツールまたはユーザ独自のテスト・ツールやサードパーティ製のテスト・ツールを使用して、テスト・スクリプトを作成します。

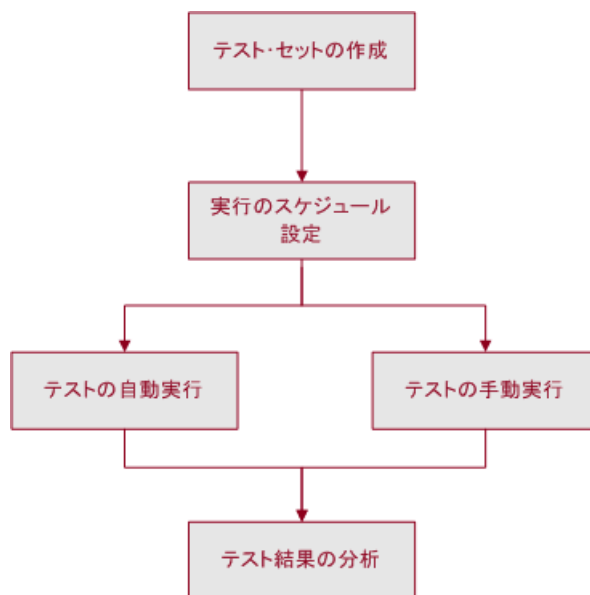
**テスト計画の分析**：テスト計画データの分析に役立つレポートやグラフを作成します。テストを検討して、テスト目標に対する適合性を判定します。

**ベースラインの確立**：ベースラインは、特定時点におけるテスト計画のスナップショットを提供します。アプリケーションのライフサイクルで重要なマイルストーンを承認または比較するためにベースラインを作成します。



## テストの実行

テスト・セットを作成し、テストを実行します。



**テスト・セットの作成**：プロジェクトの各種テスト目標に沿ったテスト・グループを定義します。たとえば、新しいアプリケーション・バージョンのテストや、アプリケーションの特定機能のテストを行うグループです。各テスト・セットに含まれるテストを決定します。リリース・モジュールのリリース・ツリーで定義したサイクルにテスト・セット・フォルダを割り当てます。

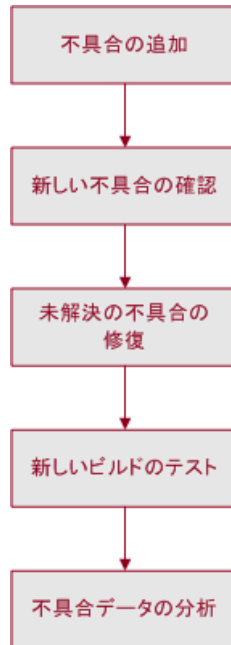
**実行のスケジュール設定**：テスト実行のスケジュールを設定し、アプリケーションのテスト担当者に作業を割り当てます。

**テストの実行**：テスト・セットに含まれるテストを自動または手作業で実行します。

**テスト結果の分析**：アプリケーションで不具合が検出されたかどうかを確認するために、テスト実行の結果を確認します。結果の分析に役立つレポートやグラフを作成します。

## 不具合の追跡

アプリケーションで検出された不具合を送信し，修正の進行状況を追跡します。



**不具合の追加**：アプリケーションで検出された新しい不具合を報告します。品質保証テスト担当者，開発者，プロジェクト・マネージャ，およびエンド・ユーザーは，アプリケーション管理プロセスのどの段階においても不具合を追加できます。

**新しい不具合の確認**：新しい不具合を確認し，修正する不具合を決定します。

**未解決の不具合の修復**：修正対象の不具合を修正します。

**新しいビルドのテスト**：アプリケーションの新しいビルドをテストします。不具合が修正されるまでこのプロセスを繰り返します。

**不具合データの分析**：レポートやグラフを作成し，不具合修正の進行状況の分析や，アプリケーションのリリース時期の決定に活用します。

## プロジェクト・データベースを使った作業

Quality Center プロジェクトを作成する場合、Quality Center によって作成および収集されたデータを格納および管理する必要があります。各プロジェクトは、プロジェクト情報を格納したデータベースによってサポートされています。

サポートされているデータベース・サーバの詳細については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

Quality Center プロジェクトの作成と管理の詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

## ユーザの権限

Quality Center では、プロジェクトへのユーザ・アクセスを管理できます。アクセスを許可されたユーザのリストを作成し、各ユーザにパスワードとユーザ・グループを割り当てることで、各ユーザがプロジェクトに対して行う追加や変更を制御できます。プロジェクトにおける各ユーザの権限はユーザが属するユーザ・グループによって決まります。Quality Center には、プロジェクトのフィールドごとにルールを作成するために必要な権限や許可の仕組みがあります。

Quality Center で使用できるユーザ・グループ、およびパスワードや権限の割り当ての詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

## Microsoft Word と Microsoft Excel からのインポート

Word または Excel から Quality Center プロジェクトヘデータをインポートできます。

### Word からのインポート

要件またはテスト計画のデータを Word ドキュメントから Quality Center プロジェクトへインポートできます。Word からインポートするには、クライアント・マシンに HP Quality Center Microsoft Word Add-in および HP Quality Center Connectivity Add-in がインストールされている必要があります。アドインをインストールするには、[ヘルプ] > [アドイン ページ] を選択して [HP Quality Center アドイン] ページを開き、該当するアドインのリンクをクリックします。

詳細については、Microsoft Word Add-in のページで入手できる『**HP Quality Center Microsoft Word Add-in Guide**』（英語版）を参照してください。

### Excel からのインポート

要件、テスト計画、または不具合のデータを Excel ワークシートから Quality Center プロジェクトへインポートできます。Excel からインポートするには、クライアント・マシンに HP Quality Center Microsoft Excel Add-in および HP Quality Center Connectivity Add-in がインストールされている必要があります。アドインをインストールするには、[ヘルプ] > [アドイン ページ] を選択して [HP Quality Center アドイン] ページを開き、該当するアドインのリンクをクリックします。

詳細については、Microsoft Excel Add-in のページで入手できる『**HP Quality Center Microsoft Excel Add-in Guide**』（英語版）を参照してください。

# 第 2 章

---

## 作業を始める前に

本章では、Quality Center の起動方法を説明し、Quality Center ウィンドウを紹介します。

### 本章の内容

- ▶ Quality Center の起動 (38 ページ)
- ▶ パスワードのリセット (42 ページ)
- ▶ Quality Center ウィンドウ (43 ページ)
- ▶ Quality Center 共通ツールバー (45 ページ)
- ▶ ユーザ・プロパティおよびパスワードの変更 (47 ページ)
- ▶ 履歴のクリア (49 ページ)
- ▶ 管理者メッセージの表示 (50 ページ)

## Quality Center の起動

自分のマシン上で Web ブラウザを使用して Quality Center を起動します。

Quality Center を開始するには、次の手順を実行します。

- 1 お使いの Web ブラウザを起動し、Quality Center の URL として、  
`http:// < Quality Center サーバ名 > [ < : ポート番号 > ]/qcbn` を入力します。  
正しいパスがわからない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

[HP Quality Center オプション] ウィンドウが開きます。



- 2 [Quality Center] リンクをクリックします。

Quality Center を初めて実行するときに、ファイルがマシンにダウンロードされ、Microsoft .NET Framework 2.0 がインストールされていない場合は、Microsoft .NET Framework 2.0 Setup プログラムが実行されます。2 回目以降の実行では、バージョン確認が行われます。サーバに新しいバージョンがあると、更新されたファイルがマシンにダウンロードされます。

**注：**

- ▶ コンピュータにファイルをダウンロードするには、管理者権限でログインする必要があります。クライアント・コンポーネントをインストールするのに必要な最小の権限に関する詳細については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。
  - ▶ ブラウザを使ってファイルをダウンロードすることが禁止されている場合は、HP Quality Center Add-in ページで HP Quality Center Client Side Setup Add-in からこれらのファイルをインストールできます。アドインの詳細については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。
  - ▶ Microsoft .NET Framework 2.0 がマシンにインストールされていない場合は、Microsoft .NET Framework 2.0 をインストールするように求めるメッセージが Quality Center によって表示されます。インストールを実行するには、ソフトウェア更新のインストール・ウィザード（Windows Installer 3.1 がインストールされていない場合）および Microsoft .NET Framework 2.0 セットアップの手順に従って操作します。
-

## 第2章・作業を始める前に

Quality Center のバージョンが確認され、必要に応じてファイルが更新されると、HP Quality Center のログイン・ウィンドウが表示されます。



The image shows the HP Quality Center login interface. On the left, there is a blue banner with the HP logo and the text "Quality Center". On the right, there is a photograph of a blue sign with a white outline of a head containing a network diagram. Below the banner, the login form is displayed on a light gray background. It includes fields for "ログイン名:" (Login Name), "パスワード:" (Password), "ドメイン:" (Domain), and "プロジェクト:" (Project). There is a checkbox labeled "このマシンで最後に使用したドメインとプロジェクトに自動的にログインする" (Automatically log in to the domain and project used last on this machine). A "認証" (Authenticate) button is present, along with a blue link "パスワードを忘れた場合" (Forgot password). A "ログイン" (Login) button is at the bottom.

- 3 [ログイン名] ボックスに、ユーザ名を入力します。
- 4 [パスワード] ボックスに、サイト管理者から割り当てられたパスワードを入力します。パスワードを思い出せない場合は、[パスワードを忘れた場合] リンクをクリックします。詳細については、42 ページ「パスワードのリセット」を参照してください。

割り当てられているパスワードの変更については、47 ページ「ユーザ・プロパティおよびパスワードの変更」を参照してください。
- 5 前回作業していたプロジェクトに Quality Center が自動的にログインするようにするには、[このマシン上で最後に使用したドメインとプロジェクトにログインする] チェック・ボックスを選択します。



- 6 [認証] ボタンをクリックします。Quality Center はユーザ名およびパスワードを確認し、ユーザがアクセス可能なドメインおよびプロジェクトを決定します。自動ログインを指定している場合は、Quality Center が開きます。

認証に失敗した場合は、ユーザ名とパスワードが正しいことを確認し、再度実行します。

- 7 [ドメイン] リストからドメインを選択します。標準設定では、前回作業していたドメインが表示されます。

- 8 [プロジェクト] リストからプロジェクトを選択します。標準設定では、前回作業していたプロジェクトが表示されます。

デモ・プロジェクトが Quality Center サーバにインストールされている場合、**QualityCenter\_Demo** プロジェクトを選択できます ([ドメイン] リストで **DEFAULT** を選択している必要があります)。プロジェクトにはサンプル・データが含まれており、Quality Center について学ぶことができます。詳細については、『**HP Quality Center チュートリアル**』を参照してください。

- 9 [ログイン] ボタンをクリックします。Quality Center が起動し、前回のセッションで作業していたモジュールが表示されます。

Quality Center を初めて実行したときには、[ようこそ] ページが開きます。[ようこそ] ページから、Quality Center ドキュメントに直接アクセスできます。Quality Center にログインするたびに [ようこそ] ページを表示したくない場合は、[次回から表示しない] を選択します。[ようこそ] ページを毎回開くには、[ヘルプ] > [ようこそページ] を選択します。

- 10 終了して HP Quality Center のログイン・ウィンドウに戻るには、ウィンドウの右上にある [ログアウト] ボタンをクリックします。

あるいは、[ツール] > [プロジェクトを変更] を選択して、別のプロジェクトにログインします。

## パスワードのリセット

Quality Center にログインするときにパスワードを思い出せない場合は、パスワードをリセットして新しく作成できます。

---

**注：** 次の状況では、パスワードをリセットできません。

- ▶ **PASSWORD\_RESET\_DISABLE** サイト設定パラメータによって無効化されている場合。
- ▶ LDAP 認証が有効化されている場合。

詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

---

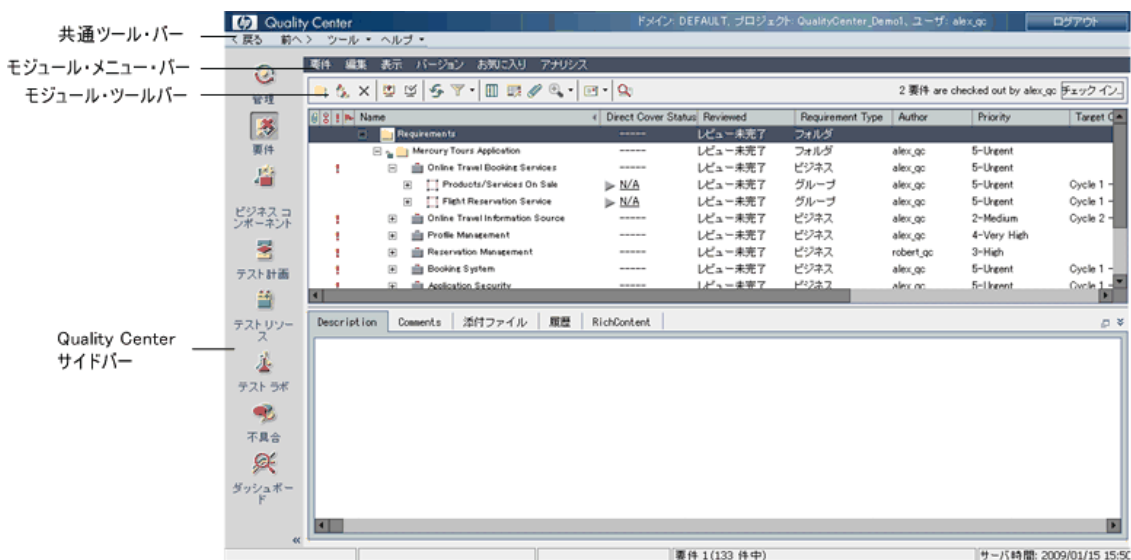
パスワードをリセットするには、次の手順を実行します。

- 1 Quality Center のログイン・ウィンドウで、[**パスワードを忘れた場合**] リンクをクリックします。[**パスワードを忘れた場合**] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [**ログイン名**] ボックスに、ユーザ名を入力します。標準設定では、Quality Center のログイン・ウィンドウに入力した名前が表示されます。
- 3 [**OK**] をクリックします。Quality Center によって、Quality Center ユーザ名に割り当てられている電子メール・アドレスにメッセージが送信されます。  
メッセージに含まれているリンクは、設定した期間内のみ有効です。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
- 4 Quality Center 電子メールを見つけて、[**Reset your password**] リンクをクリックします。[Password Reset] ウィンドウが開きます。
- 5 [**ログイン名**] ボックスに、ユーザ名を入力します。
- 6 [**新しいパスワード**] ボックスに、新しいパスワードを入力します。
- 7 [**パスワードの再入力**] ボックスに、パスワードを再度入力します。
- 8 [**OK**] をクリックします。Quality Center のログイン・ウィンドウが開きます。新しいパスワードを使用してログインします。

## Quality Center ウィンドウ

プロジェクトに接続すると、Quality Center メイン・ウィンドウが開き、最後に使用していたモジュールが表示されます。ウィンドウの右上に、ドメイン名、プロジェクト名、およびユーザ名が表示されます。

**注：**使用できる Quality Center の機能は、サイトまたはプロジェクトの管理者がどのように Quality Center プロジェクトを設定しているかによって異なります。



[Quality Center] ウィンドウには、次の主要な要素があります。

- ▶ **Quality Center サイドバー**：モジュールへのアクセスを提供します。詳細については、44 ページ「Quality Center モジュール」を参照してください。
- ▶ **Quality Center 共通ツールバー**：ナビゲーション・ボタン、共通ツールへのアクセス、ドキュメント、その他のリソースを提供します。このツールバーは、ウィンドウの左上に表示されます。詳細については、45 ページ「Quality Center 共通ツールバー」を参照してください。

- ▶ **モジュール・メニュー・バー**：メニュー名が表示されます。メニュー・バーから現在の Quality Center モジュールでコマンドを選択できます。
- ▶ **モジュール・ツールバー**：現在表示している Quality Center モジュールでよく使用されるコマンドのボタンが表示されます。

## Quality Center モジュール

Quality Center には、次のモジュールがあり、サイドバーからアクセスできます。

---

**Quality Center のエディション**：利用できるモジュールおよび機能は、Quality Center のエディションである Starter, Enterprise, または Premier によって異なります。詳細については、付録 C「Quality Center エディション」を参照してください。

---



- ▶ **[管理]**：このモジュールには、次のサブモジュールが含まれています。
  - ▶ **[リリース]**：アプリケーション管理プロセスに対してリリースとサイクルを定義できます。
  - ▶ **[ライブラリ]**：ライブラリの定義によるプロジェクトでの変更の追跡、プロジェクトでのエンティティの再利用、または複数のプロジェクト間でのエンティティの共有を行えます。



- ▶ **[要件]**：要件は階層ツリー構造で管理できます。要件は、ほかの要件、テスト、または不具合にリンクできます。



- ▶ **[テスト計画]**：テストは階層ツリー構造で開発および管理できます。テストは要件および不具合にリンクできます。



- ▶ **[テストリソース]**：テスト・リソースは階層ツリー構造で管理できます。テスト・リソースはテストに関連付けることができます。



- ▶ **[テストラボ]**：テストを管理および実行できます。テストの実行後、結果を分析できます。



- ▶ **[不具合]**：不具合の追加、修正の優先度の指定、未解決の不具合の修正、およびデータの分析を行えます。



- ▶ **[ダッシュボード]**：グラフ、レポート、および Excel レポートを作成できます。また、ダッシュボード・ページを作成し、複数のグラフを並べて表示できます。



お使いの Quality Center ライセンスにより、**ビジネス・コンポーネント・モジュール**にもアクセスできます。このモジュールを使用すると、各分野のエキスパートは HP のテスト自動化ソリューションである **Business Process Testing** を使用して、品質の最適化プロセスを行うことができます。詳細については、『**HP Business Process Testing User Guide**』（英語版）を参照してください。

---

**ヒント**：ショートカット・キーを使用して、モジュール間を移動できます。ショートカット・キーの一覧については、付録 B 「Quality Center キーボード・ショートカット」を参照してください。

---

モジュール名のカスタマイズについては、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

## Quality Center 共通ツールバー

Quality Center ウィンドウの左上に表示される Quality Center 共通ツールバーは、すべてのモジュールで利用できます。このツールバーには、次のボタンが表示されます。

### ナビゲーション・ボタン

[戻る]：Quality Center で前に表示していた場所に移動します。

[前へ]：Quality Center で以前表示していた次の場所に移動します。

### [ツール] ボタン

[ツール] ボタンには、次のメニュー項目が含まれています。

[プロジェクトを変更]：現在のプロジェクトをログアウトし、マシンで以前開いたプロジェクトから1つを選択するか（該当する場合）、[ログイン] ウィンドウで別のプロジェクトを選択します。

[カスタマイズ]：[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウを開き、プロジェクトをカスタマイズできます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

[**新規不具合**] : [新規不具合] ダイアログ・ボックスが開き、新しい不具合を追加できるようになります。詳細については、第35章「不具合の追加と追跡」を参照してください。

## スペルと文法

- ▶ [**スペル チェック**] : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。誤りがなければ、**確認メッセージ**・ボックスが開きます。誤りが見つかった場合は、[スペル] ダイアログ・ボックスに該当する単語と修正候補が表示されます。
- ▶ [**スペル オプション**] : [スペル オプション] ダイアログ・ボックスが開き、Quality Center によるスペル・チェックの方法を設定できます。
- ▶ [**類語辞典**] : [類語辞典 : 英語] ダイアログ・ボックスが開き、選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。選択した単語を置換したり、新しい単語を調べたりすることができます。

[**履歴のクリア**] : [履歴のクリア] ダイアログ・ボックスが開きます。プロジェクトから履歴データを削除できます。これは、プロジェクトの管理者権限を持つユーザのみが使用できます。詳細については、49 ページ「履歴のクリア」を参照してください。

[**ドキュメント ジェネレータ**] : ドキュメント・ジェネレータを起動します。詳細については、第45章「プロジェクト・ドキュメントの作成」を参照してください。

[**ツール**] メニューのカスタマイズ方法については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

## ヘルプ・ボタン

[**ヘルプ**] ボタンを使用すると、Quality Center ドキュメントライブラリやその他のオンライン・リソースを表示できます。また、Quality Center の各クライアント・コンポーネントのバージョン情報も表示できます。詳細については、18 ページ「文書ライブラリ」および21 ページ「その他のオンライン・リソース」を参照してください。

[**ヘルプ**] メニューのカスタマイズ方法については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

### [ログアウト] ボタン

[ログアウト] ボタンを使用すると、現在のプロジェクトをログアウトして、HP Quality Center のログイン・ウィンドウを表示できます。

## ユーザ・プロパティおよびパスワードの変更

名前、電子メール・アドレス、電話番号、その他の詳細を含むユーザ・プロパティを変更できます。電子メールによる通知および警告をメール・ボックスに直接受信できるようになるため、電子メール情報は重要です。Quality Center プロジェクトにアクセスするためのパスワードを変更できます。

サイト管理者はユーザのプロパティまたはパスワードの変更および上書きができます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

ユーザのプロパティおよびパスワードを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 ウィンドウの左上にある [ツール] ボタンをクリックし、[カスタマイズ] を選択します。[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウが表示されます。

- 2 **[ユーザのプロパティ]** リンクをクリックします。**[ユーザのプロパティ]** ウィンドウが開きます。

ユーザのプロパティ

ユーザ名 alex\_gc

名前

電子メール

電話番号

説明

パスワードの変更...

保存 ヘルプ

- 3 ユーザのプロパティを編集します。
- 4 **[上書き保存]** をクリックして変更内容を保存します。
- 5 **[パスワードの変更]** ボタンをクリックします。**[パスワードの変更]** ダイアログ・ボックスが開きます。

[alex\_gc] のパスワードの変更

現在のパスワード:

新規パスワード:

新しいパスワードの再入力:

OK キャンセル

- 6 **[現在のパスワード]** ボックスに、古いパスワードを入力します。
- 7 **[新規パスワード]** ボックスに、新しいパスワードを入力します。



- 8 **[新しいパスワードの再入力]** ボックスに、パスワードを再入力します。
- 9 **[OK]** をクリックすると、変更が保存されます。[パスワードの変更] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 10 ウィンドウの右上の **[戻る]** ボタンをクリックして [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウを終了し、プロジェクトに戻ります。

## 履歴のクリア

プロジェクトをカスタマイズする場合、システムおよびプロジェクトのユーザ・フィールドの値をログに保存するように Quality Center を設定できます。フィールドの履歴を有効にする方法については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

履歴データが不要になったら、このデータを Quality Center プロジェクトから削除できます。たとえば、作成したテスト・セットを正常に実行できた場合、テストの履歴をプロジェクトからクリアできます。

すべての履歴データをクリアすることも、特定のエンティティまたはフィールドを選択してその履歴をクリアすることもできます。さらに、特定の日付までの（当該日付のデータを含む）履歴データを削除することもできます。これにより、対応するモジュールの [履歴] タブに表示される指定データがクリアされます。

---

**注：**履歴のクリアを行うには、プロジェクトの管理者権限が必要です。

---

履歴をクリアするには、次の手順を実行します。

- 1 ウィンドウの左上にある **[ツール]** ボタンをクリックし、**[履歴のクリア]** を選択します。[履歴のクリア] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 **[エンティティ]** ボックスで、削除する履歴を持つエンティティを選択します。すべてのエンティティから履歴データを削除するには、**[すべて]** を選択します。
- 3 **[フィールド]** ボックスで、削除する履歴を持つフィールドを選択します。すべてのフィールドから履歴データを削除するには、**[すべて]** を選択します。

- 4 **[期限]** ボックスで、日付を選択します。選択した日付までの（選択した日付を含む）データが削除されます。
- 5 **[OK]** をクリックします。

## 管理者メッセージの表示

サイト管理者は、Quality Center プロジェクトに接続されているユーザに、重要なメンテナンスやその他の問題を通知するメッセージを送信できます。たとえば、サイト管理者は、ユーザが接続しているプロジェクトへの接続が解除される、または Quality Center サーバが再起動されるという警告メッセージを送信します。

サイト管理者からのメッセージ送信の詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

**管理者メッセージを表示するには、次の手順を実行します。**

- 1 サイト管理者がユーザにメッセージを送信すると、ユーザのコンピュータでポップアップ・ウィンドウが自動的に開き、メッセージ・テキストが表示されます。
- 2 複数のメッセージがある場合は、**[前のメッセージ]** ボタンおよび **[次のメッセージ]** ボタンを使用して、それぞれのメッセージを表示します。
- 3 メッセージ・ボックスを閉じるには、**[閉じる]** ボタンをクリックします。

# 第 3 章

---

## Quality Center データを使った作業

Quality Center のグリッドとツリーを使って、プロジェクトのデータの表示および変更を行うことができます。

### 本章の内容

- ▶ Quality Center のデータを使った作業について (52 ページ)
- ▶ カラムの配置 (52 ページ)
- ▶ ユーザの選択 (55 ページ)
- ▶ レコードのフィルタ処理 (56 ページ)
- ▶ レコードに対する詳細 / クロス・フィルタ処理 (61 ページ)
- ▶ レコードの並べ替え (66 ページ)
- ▶ グリッド・レコードのグループ分け (68 ページ)
- ▶ 複数のレコードの更新 (71 ページ)
- ▶ 設定のコピー (72 ページ)
- ▶ 設定の更新とクリア (72 ページ)
- ▶ レコードの検索 (73 ページ)
- ▶ ファイルへのデータのエクスポート (75 ページ)

## Quality Center のデータを使った作業について

Quality Center では、グリッドまたはツリーでデータの整理や表示を行います。カラムの再配置、フィルタ処理、並べ替え、およびグループ化など、さまざまな方法でデータを操作できます。また、設定のコピー、特定のテキストの検索、およびファイルへのデータのエクスポートを行えます。

Quality Center のグリッドやツリーはそれぞれに表示内容が異なるため、本章で説明する作業がすべてのグリッドとツリーに適用できるとは限りません。

---

**ヒント**：並べ替えやフィルタなど、グリッドおよびツリーの設定をお気に入りビューとして保存できます。詳細については、第6章「お気に入りビューを使用した作業」を参照してください。

---

## カラムの配置

カラムの表示順序とサイズを変更することによって、データ表示をカスタマイズできます。カスタマイズしたカラムは、次にプロジェクトを開いたときも同じ設定で表示されます。

---

**Quality Center Starter Edition** : Starter Edition を使って作業している場合は、一部のフィールドと機能を利用できない場合があります。

---

### カラム順の設定

[カラムの選択] ダイアログ・ボックスで、Quality Center に表示するカラムとその順序を指定します。たとえば、「サブジェクト」をテスト・グリッドの最初のカラムとして設定できます。

コラムの表示とその順序を指定するには、次の手順を実行します。



- 1 **[コラムの選択]** ボタンをクリックします。[コラムの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。



[非表示] には、現在表示されていないコラムが表示されます。[表示するコラム] には、現在表示されているコラムが表示されます。


- 2 要件モジュールから [コラムを選択] ダイアログ・ボックスを開いている場合、このダイアログ・ボックスには [要件タイプ] ボックスおよび [リスクベース品質管理コラムの非表示] チェック・ボックスも表示されます。

[要件タイプ] リストから要件のタイプを選択します。その要件タイプで利用できるコラムが表示されます。

[非表示] リストでリスク・ベース品質管理に関する要件フィールドを非表示にするには、[リスクベース品質管理コラムの非表示] チェック・ボックスを選択します。フィールドを表示するには、このチェック・ボックスをクリアします。

- 3 カラム名を選択し、矢印ボタン（[>] および [<]）をクリックして、[非表示] と [表示するカラム] との間でカラムを移動します。すべてのカラムを一方のリストから他方に移動するには、二重矢印ボタン（[>>] または [<<]）をクリックします。また、リスト間でカラム名をドラッグしたり、カラム名をダブルクリックしてリスト間でカラムを移動したりできます。

---

**注：**  アイコンが表示されているカラムは、[表示するカラム] リストから削除できません。

---



- 4 [表示するカラム] では、上矢印または下矢印を使用してカラムの表示順序を設定します。また、カラム名をドラッグして上または下に移動することもできます。
- 5 非スクロール・カラムを設定するには、非スクロール・カラム数を [固定カラム] に指定します。左端から指定した数のカラムが非スクロール・カラムとして設定されます。非スクロール・カラムは、左右のスクロール時には固定されたままになります。これらのカラムはグレー表示になります
- 6 [OK] をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じ、新しいカラムの順序を適用します。

### カラムのサイズ変更

マウスを使用して、カラムのサイズを変更できます。カラムの見出しの右端をクリックし、ドラッグして幅を調節します。サイズを変更できるのは、固定化（非スクロール化）されていないカラムだけです。

## ユーザの選択

Quality Center のグリッドまたはツリーでユーザ名の値を含むカラムを選択すると、各ユーザのユーザ名および氏名を記載したユーザ・リストが表示されます。ユーザ・リストの並べ替え、ユーザの検索、ユーザ・グループによるユーザのグループ分け、およびリストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。

ユーザを選択するには、次の手順を実行します。

- 1 ユーザ・フィールドを選択し、ドロップダウン矢印をクリックします。[ユーザリスト] ダイアログ・ボックスが開きます。

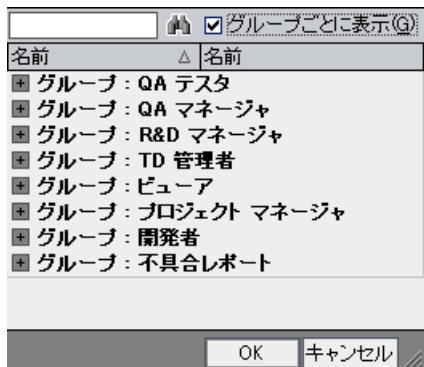




ユーザ・リストをユーザ名または氏名の昇順または降順で並べ替えるには、[名前] または [正式名] カラムの見出しをクリックします。表示の並び順を逆にするには、同じカラムの見出しをもう一度クリックします。

- 2 ユーザを検索するには、次の手順を実行します。
  - ▶ ユーザ名の先頭の文字を入力して、インクリメンタル検索を行います。検索条件を絞り込むには文字を追加します。検索文字列の最初の文字が入力されるとすぐに検索が始まり、検索文字列のすべての文字が最初に見つかったレコードが強調表示されます。
  - ▶ ユーザ名または氏名でユーザを検索します。[検索] ボックスにユーザの名前（または名前の一部）を入力します。[検索] ボタンをクリックします。検索文字列が最初に見つかったレコードが強調表示されます。



- 3 ユーザ・グループごとにユーザを表示するには、[グループごとに表示] を選択します。ユーザがユーザ・グループごとにグループ分けされます。



ツリーの分岐を展開して表示するには、ユーザ・グループ名の左にある展開記号  をクリックします。ツリーの分岐を折りたたむには、ユーザ・グループ名の左にある折りたたみ記号  をクリックします。


- 4 ユーザを選択し、[OK] をクリックします。[ユーザリスト] ダイアログ・ボックスが閉じ、データ・フィールドにユーザの値が表示されます。

## レコードのフィルタ処理

Quality Center のデータをフィルタ処理して、定義した条件に一致するレコードだけを表示させることができます。フィルタ条件として、「Failed」のように単一の項目を指定することも、「Passed Or Failed」のように論理式を指定することもできます。フィルタのすべての条件に合うレコードだけが、グリッドまたはツリーに表示されます。

また、複数のフィルタを定義することもできます。たとえば、[ステータス] フィルタを「Failed」と定義し、[テスト担当者] フィルタを「David Or Mark」と定義することができます。この場合、David または Mark が実施して失敗したテスト実行のみが表示されます。

ツリーをフィルタ処理する場合、結果は次のように Quality Center に表示されます。

- ▶ 要件ツリーでフィルタリングを行う場合、フィルタに対応しないフィルタ・エンティティの親には、 アイコンが表示されます。



- ▶ テスト計画またはテスト・セット・ツリーでフィルタリングする場合、フィルタに対応していないツリーのフォルダは表示されません。

---

**Quality Center Starter Edition** : Starter Edition を使って作業している場合は、一部のフィールドと機能を利用できない場合があります。

---

---

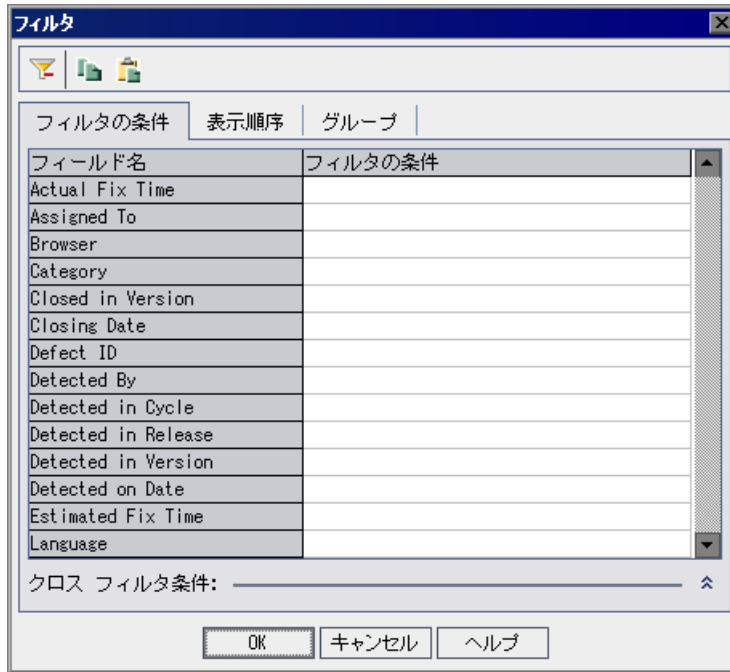
**ヒント** : フィルタを保存してお気に入りビューとして情報を並べ替え、後に必要に応じて読み込むことができます。お気に入りビューとして保存するには、**[お気に入り]** > **[お気に入りに追加]** を選択します。詳細については、第6章「お気に入りビューを使用した作業」を参照してください。

---

フィルタを定義するには、次の手順を実行します。



- 1 **[フィルタ / 並べ替えの設定]** ボタンをクリックします。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開き、[フィルタ条件] タブが表示されます。



- 2 要件タイプごとにフィルタを定義するには、**[要件タイプ]** ボックスで参照ボタンをクリックします。[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。要件タイプを選択します。**[OK]** をクリックして、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを閉じます。[フィルタ条件] タブに関連するフィールド名が表示されます。
- 3 要件モジュールで作業している場合は、**[リスク ベース品質管理カラムの非表示]** チェック・ボックスを選択してリスク・ベース品質管理に関する要件フィールドを非表示にできます。フィルタ条件が設定されていないフィールドだけが非表示になります。フィールドを表示するには、このチェック・ボックスをクリアします。
- 4 [フィルタ条件] タブのフィールドに移動するには、**[フィールド名]** カラムでボックスをクリックしてフィールド名の最初の文字を入力します。最初のフィールド名が強調表示されます。

- 5 フィールドにフィルタ条件を設定するには、対応する [フィルタの条件] ボックスをクリックします。参照ボタンをクリックします。[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。



---

**注：**

- ▶ ユーザ名の値を含むフィールドを選択すると、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスに、ユーザの並べ替え、ユーザの検索、ユーザのユーザ・グループごとのグループ分け、リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができるユーザ・リストが表示されます。詳細については、55 ページ「ユーザの選択」を参照してください。
- ▶ 要件モジュールで [親要件] フィールドを選択すると、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスに要件名ごとに並べ替えられて要件ツリーが表示されます。要件ツリーで要件を選択すると、完全パスが [条件] ボックスに表示されます。フィルタを適用すると、この要件の子孫である要件だけが表示されます。

- 
- 6 フィルタの条件を定義します。該当する項目があれば、リストの中から選択します。演算子を追加することで、論理式を作成できます。

---

**注：**

- ▶ 階層リストに表示される項目の中には、サブリストが含まれるものもあります。こうした項目の先頭には、フォルダ・アイコンが表示されます。サブリストから項目を選択するには、フォルダをダブルクリックしてから、項目をクリックします。
- ▶ ユーザの条件を定義する場合、現在のユーザ（[CurrentUser] を選択）か、ユーザ・グループ全体（例：[開発者]）を指定できます。
- ▶ 複数の語から成る項目を入力する場合は、引用符で囲む必要があります。たとえば、[条件] ボックスでテスト **Login Boundary** を検索するには、「**login boundary**」と入力します。
- ▶ 項目名の一部のみを入力する場合は、アスタリスク (\*) を使用します。たとえば、[条件] ボックスで **Login** という語が入ったすべてのテストを検索するには、「**\*login\***」と入力します。たとえば、[条件] ボックスで「**Insert New**」という語で始まるすべてのテストを検索するには、「**insert new\***」と入力します。
- ▶ 空のカラムを指定するには、「**''**」と入力します。
- ▶ 空ではないフィールドを指定するには、「**not ''**」と入力します。

---

7 **[OK]** をクリックして、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを閉じます。



8 クロス・フィルタを追加するには、**[詳細フィルタの表示]** の矢印ボタンをクリックします。詳細については、61 ページ「レコードに対する詳細/クロス・フィルタ処理」を参照してください。



9 設定をコピーするには、**[フィルタ設定をコピー]** ボタンをクリックします。詳細については、72 ページ「設定のコピー」を参照してください。



10 設定をクリアするには、**[フィルタのクリア]** ボタンをクリックします。

11 **[OK]** をクリックして、[フィルタ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

すべてのフィルタが適用され、フィルタの詳細が表示されます。グリッドの場合、各カラム名の下グリッド・フィルタ・ボックスにフィルタ条件も表示されます。

グリッド・フィルタ・ボックスを表示するには、[表示] > [グリッドのフィルタ] を選択します。このフィルタ・ボックスが空の場合、現在カラムにはフィルタが適用されていません。ボックスに条件を直接入力するか、ボックスをクリックして [参照] ボタンを表示し、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。

共通ツールバー

フィルタ: Designer[michael\_qc]; 並び替え順: Test Name[Asc];

[設計者]カラムの  
グリッド・フィルタ・ボックス

Test Name	Type	Designer	Status	Reviewer	Priority
Book Flight Page	MANUAL	michael_qc	Ready	alex_qc	3-High
Connect To Site	WR-AUTOMATED	michael_qc	Ready	shelly_qc	5-Urgent
Edit Profile Page	MANUAL	michael_qc	Ready	shelly_qc	3-High
Find Flight Page	MANUAL	michael_qc	Ready	shelly_qc	3-High
Flight Confirmation	MANUAL	michael_qc	Ready	shelly_qc	3-High
Flight Demo Module	WR-AUTOMATED	michael_qc	Ready	shelly_qc	3-High
Forms	MANUAL	michael_qc	Ready	shelly_qc	3-High
HTML Page Layout	MANUAL	michael_qc	Ready	shelly_qc	4-Very High
HTML Page Source	MANUAL	michael_qc	Ready	shelly_qc	3-High
HTML Tag	MANUAL	michael_qc	Ready	shelly_qc	2-Medium
Itinerary Page	MANUAL	michael_qc	Ready	shelly_qc	3-High
Navigation Bars	MANUAL	michael_qc	Ready	shelly_qc	3-High
Profiling	MANUAL	michael_qc	Ready	shelly_qc	4-Very High
Registration Page	MANUAL	michael_qc	Ready	shelly_qc	3-High
Reservation Details	MANUAL	michael_qc	Design		3-High
Select Flight Page	MANUAL	michael_qc	Ready	shelly_qc	3-High
Sign-On Page	MANUAL	michael_qc	Ready	shelly_qc	3-High
Spelling & Grammar	MANUAL	michael_qc	Ready	shelly_qc	3-High

1 Test is checked out

## レコードに対する詳細 / クロス・フィルタ処理

フィルタを定義するとき、「クロス・フィルタ」を含めることもできます。このフィルタは、要件、テスト、テスト・セット、不具合など、関連付けられた項目を対象として、より詳細な絞り込みを行うための高度で2次的なフィルタです。たとえば、テスト計画ツリーで、関連付けられたテスト・セットのクロス・フィルタを「Open」として定義するとします。これにより、ステータスが「Open」であるテスト・セットに属するテストのみが表示されます。あるいは、関連付けられたテスト・セット・フィルタを定義して、テスト・セットに属していないテストを検索できます。

次の表に、Quality Center の各モジュールで使用できるクロス・フィルタの概要を示します。

モジュール	クロス・フィルタ
要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>テスト</b>：対象となるテストを使って、要件をフィルタ処理します。</li> <li>▶ <b>不具合</b>：要件に直接または間接的にリンクされている不具合を使って、要件をフィルタ処理します。</li> <li>▶ <b>要件：追跡元</b>：追跡元要件を使って、要件をフィルタ処理します。</li> <li>▶ <b>要件：追跡先</b>：追跡先要件を使って、要件をフィルタ処理します。</li> <li>▶ <b>警告を持つ要件</b>：呼び出された警告を使って、要件をフィルタ処理します。</li> </ul>
テスト計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>要件</b>：対象となる要件を使って、テストをフィルタ処理します。</li> <li>▶ <b>テスト・セット</b>：そのテストが含まれているテスト・セットを使って、テストをフィルタ処理します。</li> <li>▶ <b>不具合</b>：テストに直接または間接的にリンクされている不具合を使って、テストをフィルタ処理します。</li> <li>▶ <b>警告を持つテストを表示</b>：呼び出された警告によってテストをフィルタ処理します。</li> </ul>
テスト・ラボ ([テストセット]に表示されるリスト)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>テスト</b>：含まれているテストを使って、テスト・セットをフィルタ処理します。</li> <li>▶ <b>不具合</b>：テストに直接または間接的にリンクされている不具合を使って、テスト・セットをフィルタ処理します。</li> </ul>
テスト・ラボ - 実行グリッド	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>要件</b>：選択した要件を対象とするテストを使って、テスト・インスタンスをフィルタ処理します。</li> <li>▶ <b>不具合</b>：テストに直接または間接的にリンクされている不具合を使って、テストをフィルタ処理します。</li> <li>▶ <b>警告を持つテスト・インスタンスを表示</b>：呼び出された警告を使って、テスト・インスタンスをフィルタ処理します。</li> </ul>

モジュール	クロス・フィルタ
不具合	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>要件</b> : リンクされている要件を使って, 不具合をフィルタ処理します。</li> <li>▶ <b>テスト・セット</b> : リンクされているテスト・セットを使って, 不具合をフィルタ処理します。</li> <li>▶ <b>テスト</b> : リンクされているテストを使って, 不具合をフィルタ処理します。</li> <li>▶ <b>警告を持つ不具合を表示</b> : 呼び出された警告を使って, 不具合をフィルタ処理します。</li> </ul>
ダッシュボード・アナリシス・ビュー	要件, テスト, テスト・インスタンス, および不具合に対してクロス・フィルタを定義できます。

**注 :**

- ▶ クロス・フィルタ機能は, すべての Quality Center モジュールで同じですが, ダッシュボード・モジュール内の [フィルタ] ダイアログ・ボックスのインタフェースは, ほかのモジュールとわずかに異なります。
- ▶ **Quality Center Starter Edition** : Starter Edition を使って作業している場合は, 一部のフィールドと機能を利用できない場合があります。

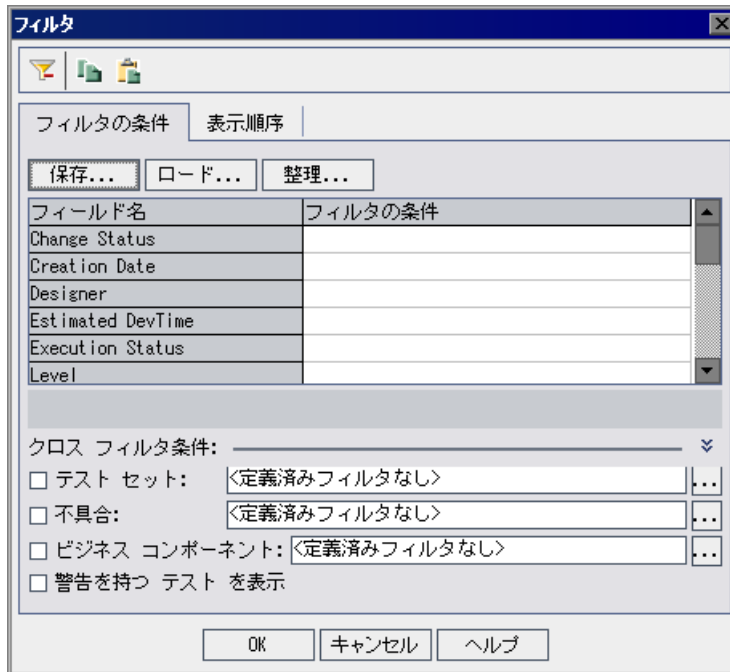
クロス・フィルタを定義するには、次の手順を実行します。



- 1 [フィルタ / 並べ替えの設定] ボタンをクリックします。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開き、[フィルタ] タブが表示されます。

フィルタの定義の詳細については、56 ページ「レコードのフィルタ処理」を参照してください。

- 2 [詳細フィルタの表示] の矢印ボタンをクリックし、クロス・フィルタ・オプションを表示します。





- 3 [クロス フィルタ条件] セクションで、いずれかのフィルタ・チェック・ボックスを選択します。たとえば、[テストセット] を選択します。[クロス フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。



テスト計画モジュールでは、次のオプションを利用できます。

- ▶ [フィルタ どのテストセットにも属さないテスト]: テスト・セットに含まれていないテストをフィルタ処理します。たとえば、実行されていないテストを識別するのに役立ちます。このオプションは [クロス フィルタ: テストセット] ダイアログ・ボックスにのみ表示されます。
  - ▶ [フィルタ 要件カバレッジのないテスト]: 要件をカバーしていないテストをフィルタ処理します。たとえば、重複しているテスト、または要件カバレッジ・リンクが存在しないテストを識別するのに役立ちます。このオプションは [クロス フィルタ: 要件] ダイアログ・ボックスにのみ表示されます。
- 4 フィルタの定義と同じように、クロス・フィルタ条件を定義します。詳細については、56 ページ「レコードのフィルタ処理」を参照してください。



5 設定をコピーするには、[**フィルタ設定をコピー**] ボタンをクリックします。詳細については、72 ページ「設定のコピー」を参照してください。



6 設定をクリアするには、[**フィルタをクリア**] ボタンをクリックします。

7 [**OK**] をクリックして変更を保存し、[クロス フィルタ] ダイアログ・ボックスを閉じます。[フィルタ] ダイアログ・ボックスの [**クロス フィルタ条件**] の下に、定義したクロス・フィルタが表示されます。

8 [**OK**] をクリックして変更を保存し、[フィルタ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

## レコードの並べ替え

標準設定では、レコードは追加された順に表示されます。並べ替えの優先順位を設定すると、レコードは ASCII コードの順に従って並べ替えられて表示されます。ASCII コードの並び順では、数値で始まるレコードより、空白または文字で始まるレコードが優先されます。また、小文字より大文字が優先されます。

たとえば、テスト・グリッドの [**設計者**] カラムの並べ替え優先順位を最高にすると、レコードは、[設計者] カラムに表示される名前の、ASCII コード順に並べられます。[**テスト名**] の並べ替えの優先順位を次に高い優先順位にすると、[**設計者**] カラムに表示される名前が同じテスト・レコードは、テスト名の ASCII コード順に並べられます。

---

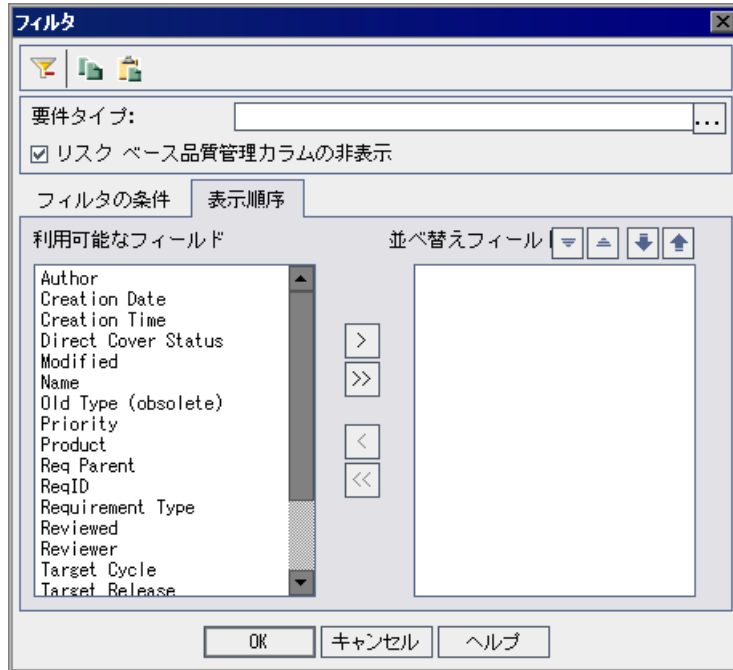
### 注：

- ▶ フィルタを保存してお気に入りビューとして情報を並べ替え、後に必要に応じて読み込むことができます。お気に入りビューとして保存するには、[**お気に入り**] > [**お気に入りに追加**] を選択します。詳細については、第6章「お気に入りビューを使用した作業」を参照してください。
  - ▶ **Quality Center Starter Edition** : Starter Edition を使って作業している場合は、一部のフィールドと機能を利用できない場合があります。
-

レコードの並べ替えは、次の手順で行います。







- 1 **[フィルタ / 並べ替えの設定]** ボタンをクリックします。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 **[表示順序]** タブをクリックします。



[**利用可能なフィールド**] には、表示可能なすべてのフィールドの名前が含まれています。[**並び替えフィールド**] には、並び替え順が現在割り当てられているフィールド名が表示されます。

- 3 要件モジュールで作業している場合、[**要件タイプ**] リストから要件タイプを選択します。[表示順序] タブに関連するフィールド名が表示されます。
- 4 要件モジュールで作業している場合は、[**リスク ベース品質管理カラムの非表示**] チェック・ボックスを選択してリスク・ベース品質管理に関する要件フィールドを[**利用可能なフィールド**] リストで非表示にできます。フィールドを表示するには、このチェック・ボックスをクリアします。

- 5 フィールド名を選択し、矢印ボタン（[>] または [<]）をクリックして、**[利用可能なフィールド]** と **[並べ替えたフィールド]** の間でフィールド名を移動します。すべてのフィールド名を一方のリストから他方に移動するには、二重矢印ボタン（[>>] または [<<]）をクリックします。また、リスト間でフィールド名をドラッグしたり、カラム名をダブルクリックしてリスト間でカラムを移動したりできます。
-  6 **[並べ替えたフィールド]** でフィールドを選択し、**[昇順]** ボタンと **[降順]** ボタンを選択して、フィールドの表示順序を昇順または降順に設定します。
-  7 **[並べ替えフィールド]** でフィールドを選択し、**[上のフィールドに移動]** と **[下のフィールドに移動]** ボタンを使用して、並べ替えの優先順位を設定します。また、フィールド名をドラッグして上または下に移動することもできます。
-  8 設定をコピーするには、**[フィルタ設定をコピー]** ボタンをクリックします。詳細については、72 ページ「設定のコピー」を参照してください。
-  9 設定をクリアするには、**[フィルタをクリア]** ボタンをクリックします。
- 10 **[OK]** をクリックし、並べ替え順を適用します。

## グリッド・レコードのグループ分け

Quality Center のグリッドで作業する場合、条件を指定してデータを分類し、グループ分けできます。レコードのグループ分けの基準とする情報を指定できるほか、各基準の表示の優先順位を設定できます（最大3レベルまで）。これにより、大きなデータ・セット内を容易に移動できるようになります。

たとえば、不具合グリッドの **[責任者]** カラムのグループ分けの優先順位を最高にすると、レコードは、**[責任者]** カラムに表示される名前によってグループ分けされます。**[ステータス]**、そして **[重要度]** の優先順位をそれぞれ次に高い優先順位にすると、**[責任者]** カラムに表示される名前が同じテストの不具合は、ステータス、その次に重要度によってグループ分けされます。

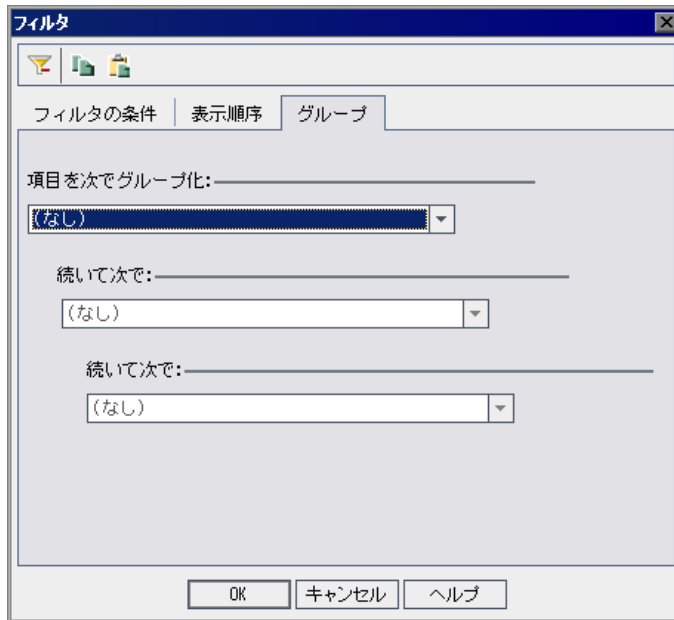
**注：**

- ▶ グループ・ヘッダを選択してグループ全体を対象に Quality Center アクションを実行することはできません。複数のレコードを対象にアクションを実行するには、CTRL キーまたは SHIFT キーを押しながら、レコードを選択します。
  - ▶ 複数の値を含むフィールドを基準にレコードをグループ分けすると、フィールド内の値の情報がまとめられて、全体で1つの値として扱われます。この値がグループ分けのカテゴリとなります。たとえば、「English」と「French」を含む値は、「English」と「French」という個別のカテゴリの一部としてではなく、「English;French」として一度だけグループ分けされます。複数の値の許可の詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
  - ▶ グループ分けリストには、ユーザ・リストまたはロックアップ・リスト・タイプのフィールドに関連付けられているシステム・フィールドおよびユーザ定義フィールドのみが表示されます。フィールド・タイプの詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
  - ▶ **Quality Center Starter Edition** : Starter Edition を使って作業している場合は、一部のフィールドと機能を利用できない場合があります。
-

グリッド・レコードをグループ分けするには、次の手順を実行します。



- 1 [フィルタ / 並べ替えの設定] ボタンをクリックします。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [グループ] タブをクリックします。



- 3 要件モジュールで作業している場合、[要件タイプ] リストから要件タイプを選択します。[グループ] タブに関連するフィールド名が表示されます。  
要件モジュールで作業している場合は、[リスクベース品質管理カラムの非表示] チェック・ボックスを選択してリスク・ベース品質管理に関する要件フィールドを非表示にできます。フィールドを表示するには、このチェック・ボックスをクリアします。
- 4 [項目を次でグループ化] の矢印ボタンをクリックします。レコードのグループ分けの基準とするフィールドを選択します。
- 5 レコードのグループ分けの基準とするフィールドを追加するには、[続いて次で] の矢印ボタンをクリックし、フィールドを選択します。レコードを複数のフィールドでグループ分けする場合は、表示する階層構造でフィールドを選択します。すでに選択されているフィールドは選択できません。

- 6 グループ・レベルを削除するには、レベルを [(なし)] に変更します。親グループ・レベルを [(なし)] に変更すると、その子グループ・レベルも自動的に [(なし)] に変更されます。



- 7 設定をコピーするには、[フィルタ設定をコピー] ボタンをクリックします。詳細については、72 ページ「設定のコピー」を参照してください。



- 8 設定をクリアするには、[フィルタをクリア] ボタンをクリックします。

- 9 [OK] をクリックして、[フィルタ] ダイアログ・ボックスを閉じます。グリッド・レコードがグループ分けの設定に基づいてグループ分けされます。

Assigned To : mary_qc (14 レコード)
<ul style="list-style-type: none"> <li>Status : Open (13 レコード) <ul style="list-style-type: none"> <li>Severity : 1-Low (1 レコード)</li> <li>Severity : 2-Medium (2 レコード)</li> <li>Severity : 3-High (4 レコード)</li> <li>Severity : 4-Very High (6 レコード)</li> </ul> </li> <li>Status : Reopen (1 レコード)</li> </ul>
Assigned To : peter_qc (14 レコード)

## 複数のレコードの更新

複数のレコードのフィールド値をグリッドまたはツリーで更新できます。このオプションは、Quality Center の要件、テスト計画（グリッドのみ）、および不具合モジュールで利用できます。

複数のレコードを更新するには、次の手順を実行します。

- 1 **Ctrl** キーまたは **Shift** キーを使用してレコードを選択します。
- 2 [編集] > [選択済みの更新] を選択します。[Update Selected] ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 [Update in Field] ボックスでフィールドを選択します。
- 4 置換する値を [値] ボックスに入力します。
- 5 [Update] をクリックします。情報ダイアログ・ボックスが開き、更新された値の数と更新されなかった値の数が表示されます。[OK] をクリックします。
- 6 [閉じる] をクリックして、[Update Selected] ダイアログ・ボックスを閉じます。

## 設定のコピー

設定によりクリップボードとの間でフィルタ、並べ替え、およびグループのコピーと貼り付けを行えます。設定をコピーして、ほかのプロジェクトに貼り付けることができます。また、電子メールまたはテキスト・ファイルに設定を貼り付けることによって、ほかのユーザと設定を共有できます。

設定をコピーするには、次の手順を実行します。



- 1 **[フィルタ / 並べ替えの設定]** ボタンをクリックします。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 **[フィルタ設定をコピー]** ボタンをクリックします。設定がクリップボードにコピーされます。



- 3 別のプロジェクトに貼り付けるには、設定を貼り付けるプロジェクトにログインして適切なモジュールを表示し、[フィルタ] ダイアログ・ボックスを開きます。**[フィルタ設定を貼り付ける]** ボタンをクリックします。**[OK]** をクリックします。

電子メールまたはテキスト・ファイルに貼り付けるには、貼り付けボタンをクリックします。

## 設定の更新とクリア

Quality Center のデータに適用するフィルタ、並べ替え、およびグループ分けの設定を更新およびクリアできます。



- ▶ グリッドまたはツリー内のデータを更新するには、**[全て更新]** ボタンをクリックします。



- ▶ グリッド内またはツリー内のすべてのフィルタと並べ替えの優先順位をクリアするには、**[フィルタ / 並べ替えの設定]** ボタンの矢印をクリックし、**[フィルタ / ソートをクリア]** を選択します。



## レコードの検索

テキスト検索を使用して、要件、テスト計画、および不具合モジュールの定義済みフィールドのレコードを検索できます。検索可能なテキスト・フィールドは、プロジェクト管理者により [プロジェクトのカスタマイズ] であらかじめ定義されています。検索可能なフィールドの定義の詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

キーワードを入力すると、定義済みフィールドを対象に、キーワードと、キーワードの変化形（活用形）が検索されます。たとえば、「log」と入力して検索すると、「log」、「logs」、「logging」、および「logged」を含むフィールドが検索されます。「login」または「logical」は、「log」の変化形（活用形）ではないので検索されません。検索の詳細については、74 ページ「検索について考慮すべき事項」を参照してください。

モジュールに対してフィルタ条件を定義している場合、フィルタされたレコードに検索対象を限定するか、またはモジュール内のすべてのレコードを検索できます（これにより現在のフィルタをクリアし再定義する必要がなくなります）。モジュール内でフォルダを選択している場合、選択したフィルタ・オプションの対象となるモジュール内のすべてのレコードを対象に検索が実行されます。

Quality Center は検索結果をリスト形式で、適合順に並べ替えて表示します。検索結果を確認し、レコードの詳細を表示できます。表示するカラムと表示順を指定することにより、データをカスタマイズできます。

---

### 注：

- ▶ **バージョン管理**：Quality Center では、チェックインされたバージョンのみが検索されます。
  - ▶ テキスト検索は、プロジェクトで有効になっている場合にのみ使用できません。検索オプションが使用できない場合は、Quality Center サイト管理者に問い合わせてください。
  - ▶ **Quality Center Starter Edition**：テキスト検索は利用できません。
-

## 検索について考慮すべき事項

テキスト検索を使用する場合、次について検討する必要があります。

- ▶ 冠詞 (a, an, the), 等位接続詞 (and, but, for, nor, or), ブール演算子 (and, or, not, if, then) は検索では無視されます。
- ▶ 複数の検索語を入力すると, 検索結果には, 検索語のうち少なくとも1つを含むレコードがすべて含まれます。
- ▶ 大文字と小文字は区別されません。
- ▶ 検索結果はランク付けされ, 適合順で表示されます。

レコードを検索するには, 次の手順を実行します。



- 1 **[テキスト検索]** ボタンをクリックするか, **[編集] > [テキスト検索]** を選択します。ウィンドウの下部に, テキスト検索の表示枠が開きます。

Defect ID	Status	Priority	Summary

- 2 **[検索する対象]** ボックスに, 検索する語を入力します。テスト計画モジュールで作業している場合, **[In]** ボックスで **[テスト]** または **[デザイン ステップ]** を選択します。
- 3 モジュール内のすべてのレコードを検索するには, **[現在のフィルタに限定]** チェック・ボックスをクリアします。
- 4 **[検索]** をクリックします。定義済みフィールドに対してテキスト検索が実行され, 検索結果が適合率順で表示されます。



- 5 カラムの外観と順序を変更するには, **[カラムを選択]** ボタンをクリックします。**[カラムの選択]** ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については, 52 ページ「カラムの配置」を参照してください。



- 6 **[プロジェクトのカスタマイズ]** で設定されている定義済みの検索フィールドのリストを表示するには, **[利用可能フィールド情報]** ボタンをクリックします。定義済みの検索フィールドのリストが表示されます。**[OK]** をクリックして, 検索可能なフィールドのリストを閉じます。



- 7 レコードの詳細を表示するには、レコードを選択し、レコードの [ID] リンクまたは [名前] リンクをクリックします。あるいはレコードを選択し、[エンティティに移動] ボタンをクリックします。

---

**注：**Quality Center のツリー・ビューでは、レコードが現在のフィルタと一致するときのみレコードの詳細が表示されます。このフィルタに一致しないレコードの詳細を表示するには、フィルタを変更またはクリアします。

---

## ファイルへのデータのエクスポート

グリッドのデータをテキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、または HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。

ファイルにデータをエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 次のように、すべてのグリッド・データまたは選択したレコードをエクスポートできます。
  - ▶ すべてのグリッド・データをエクスポートするには、グリッドを右クリックして、[エクスポート] > [すべて] を選択します。[全グリッドデータをエクスポート] ダイアログ・ボックスが開きます。
  - ▶ グリッドの選択したレコードをエクスポートするには、**Ctrl** キーまたは **Shift** キーを押しながらレコードを選択します。グリッドを右クリックし、[エクスポート] > [選択] を選択します。[選択したグリッドデータをエクスポート] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [保存する場所] ボックスで、ファイルを保存する場所を選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスに、ファイルの名前を入力します。
- 4 [ファイルの種類] ボックスで、ファイルの種類を選択します。
- 5 [上書き保存] をクリックします。



# 第4章

---

## 変更発生時の警告


アプリケーション管理プロセスに影響を与える可能性のある変更がプロジェクトに対して加えられた場合に、そのことを知らせる警告を自動的に作成して関係者に電子メールで送信するように、Quality Center に指示できます。また独自にフォローアップ警告を追加することも可能です。


### 本章の内容

- ▶ 変更に対する警告について (77 ページ)
- ▶ 警告について (78 ページ)
- ▶ 警告の表示 (82 ページ)
- ▶ 警告のクリア (84 ページ)
- ▶ フォローアップ・フラグの設定 (84 ページ)

## 変更に対する警告について

プロジェクトのテスト実行と並行して、要件やテスト、不具合に関する変更を追跡できます。Quality Center では、次に示す2種類の警告機能を使用できます。

- ▶ **自動通知警告**：Quality Center のプロジェクト管理者は、警告ルールを有効にできます。警告ルールは、Quality Center で作成した、要件、テスト、および不具合間の関連に基づいて設定されます。プロジェクトのエンティティに変更が加えられると、その変更の影響を受ける可能性のある、関連付けられているエンティティが警告  されます。すべてのユーザが警告を見ることができます。その変更の影響を受ける可能性のある関連するエンティティについて、変更発生時にエンティティの担当者に通知が送られます。詳細については、78 ページ「警告について」および 82 ページ「警告の表示」を参照してください。

- ▶ **フォローアップ警告**：フォローアップ・フラグを特定の要件，テスト，テスト・インスタンス，または不具合に追加して，問題をフォローアップすることができます。フォローアップ処理の設定日が到来すると，Quality Center によって電子メールの通知が送信されます。詳細については，84 ページ「フォローアップ・フラグの設定」を参照してください。

## 警告について

要件，テスト，または不具合に変更があった場合に，Quality Center では関連するエンティティを警告し，関連するエンティティの担当者に自動的に通知できます。Quality Center における警告ルールは，ユーザが作成する次の関連付けに基づいて設定されます。

- ▶ テスト計画ツリー内のテストと要件を関連付けることができます。この関連付けは，テスト計画モジュールで**要件カバレッジ**を作成するか，または要件モジュールで**テスト・カバレッジ**を作成することによって行います。詳細については，第19章「要件とテスト・カバレッジ」を参照してください。
- ▶ テスト・インスタンスと不具合を関連付けることができます。この関連付けは，テスト計画モジュールで [**リンクされている不具合**] を作成するか，または手動テスト実行時に不具合を追加することによって行います。詳細については，第36章「不具合のリンク」を参照してください。
- ▶ 要件モジュールで，要件間の**トレーサビリティ・リンク**を作成できます。詳細については，第14章「要件の追跡」を参照してください。

プロジェクト内に関連付けを作成すると，関連付けを使用して変更を追跡できます。プロジェクト内のエンティティに変更が加えられると，その変更の影響を受ける可能性のある，関連付けられているエンティティが警告されます。すべてのユーザが警告を見ることができます。その変更の影響を受ける可能性のある関連するエンティティについて，変更発生時にエンティティの担当者に通知が送られます。

**バージョン管理**：新しいバージョンがチェックインされたときのみ，Quality Center によって関連するエンティティが警告されます。警告は，バージョン・ステータスが [**チェック イン**] に変更されたことを示します。次に，新しいバージョンを以前のバージョンと比較できます。バージョンの比較の詳細については，111 ページ「バージョン履歴の表示」を参照してください。

Quality Center プロジェクト管理者は、次に示す4種類の警告ルールを有効にできます。

規則	説明	フラグの立てられたエンティティ	電子メールで通知されるユーザ
1	要件が変更されると、関連するテストが警告されます。 <b>注：</b> 要件に対する変更は、 <b>「直接カバレッジステータス」</b> フィールドおよびリスク・ベース品質管理フィールドに対する変更を除く、すべての変更が対象となります。	要件をカバーするテスト。	テスト設計者。
2	不具合ステータスが <b>「修正済み」</b> に変更された場合、関連するテスト・インスタンスが警告されます。	不具合に関連するテスト・インスタンス。	テスト・インスタンスのテスト責任者。
3	テストの実行が成功した場合（ステータスが <b>「成功」</b> に変更）、リンクされている不具合が警告されます。	テスト実行にリンクされている不具合。	不具合に割り当てられているユーザ。
4	要件が変更または削除される場合、トレース終了要件および子要件が警告されます。	要件の子要件およびトレース終了要件。	要件の作成者。

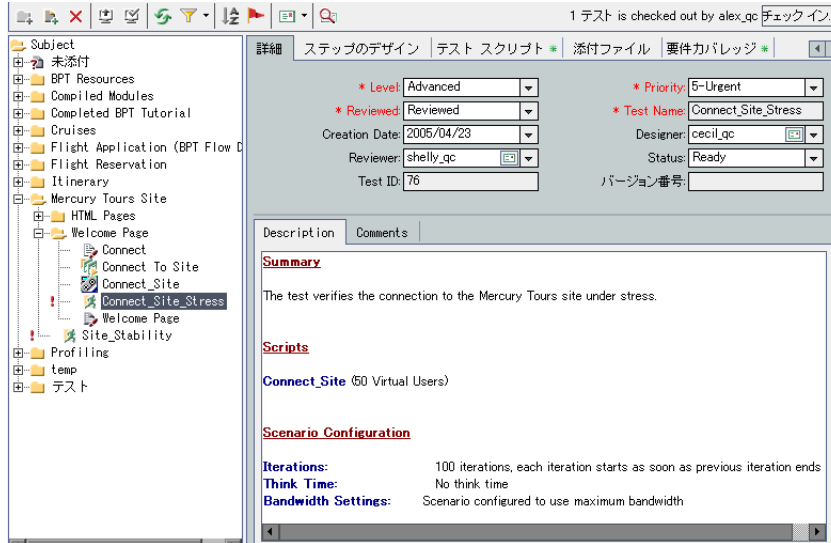
[プロジェクトのカスタマイズ] における警告ルールの有効化の詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

## 警告の例

ここでは、Mercury Tours アプリケーションに基づいた **QualityCenter\_Demo** プロジェクトを使用していると仮定します。[プロジェクトのカスタマイズ] で、プロジェクト管理者が最初のルール「要件に変更があった場合、関連付けのあるテストに警告します。」を有効にします。さらに、プロジェクト管理者は通知が電子メールで送信されるように設定します。

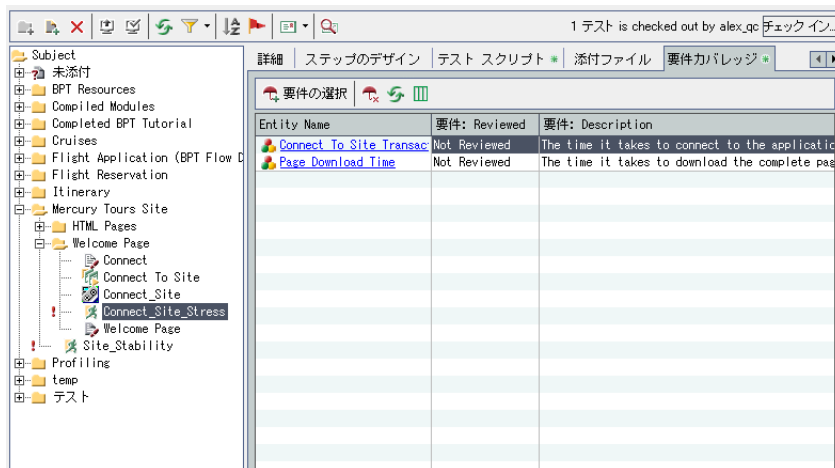
要件モジュールで、QA マネージャが「**Page Download Time**」([アプリケーションのパフォーマンス] の下) という要件を設定します。

次に、テスト計画モジュールで、QA マネージャがこの要件に対応する、「**Connect\_Site\_Stress**」という新規のテストを「**Mercury Tours Site**」 > 「**Welcome Page**」の下に作成します。[詳細] タブで、プロジェクト管理者は、この新規のテストを Cecil という設計者に割り当てます。



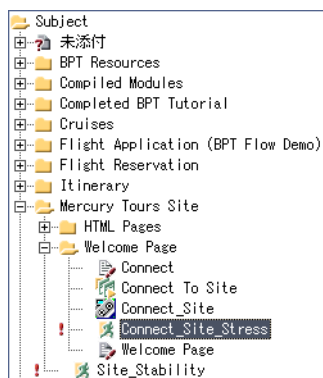


[要件カバレッジ] タブで、QA マネージャは **Connect\_Site\_Stress** テストを **Page Download Time** という要件にリンクします。



QA テスト担当者の Mike は、**Page Download Time** 要件を確認し、10 秒というページのダウンロード時間は長すぎると判断します。Mike は要件の詳細を 7 秒に変更します。その結果、Cecil は **Connect\_Site\_Stress** というテストが変更後の要件に合致するようテストを調整する必要が生じます。

ルールが有効になっている場合、Mike が要件に変更を加えたことで、この要件に関連付けられているテストにフラグが設定されます。この警告は、テストの担当設計者である Cecil およびほかのすべてのプロジェクト・ユーザが見ることができます。



警告フラグをクリックすると、[警告] ダイアログ・ボックスに変更内容の詳細が表示されます。詳細については、82 ページ「警告の表示」を参照してください。

さらに Cecil (テストの設計者) は、**Page Download Time** 要件に加えられた Mike による変更の説明と、Cecil が関連付けられている **Connect\_Site\_Stress** テストを確認することを勧める、Quality Center による自動通知電子メールを受け取ります。Cecil はリンクをクリックして Quality Center を開き、指定された要件またはテストを表示できます。

### 警告の表示

選択したエンティティに関する警告のリストを表示できます。エンティティとは、次のいずれかです。

- ▶ 要件モジュール・ビューの要件
- ▶ テスト計画ツリー内またはテスト・グリッド内のテスト
- ▶ 実行グリッド内のテスト・インスタンス
- ▶ [不具合] のグリッドまたは [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスの不具合

---


**注：**また、[フィルタ] ダイアログ・ボックスで **[警告を持つ<エンティティ>を表示]** オプションを選択することによって、選択されているモジュールに対するすべての警告のリストを表示できます。詳細については、61 ページ「レコードに対する詳細/クロス・フィルタ処理」を参照してください。

---

Quality Center による警告の作成方法に関する詳細については、78 ページ「警告について」を参照してください。

警告を表示するには、次の手順を実行します。

1 次のように警告が示されているエンティティを選択します。

- ▶ メイン・モジュールで、ツリーまたはグリッドの [警告] カラムの [警告] フラグをクリックします。このカラムが表示されていない場合は、[表示] > [インディケータ カラム] を選択します。または、[編集] > [警告] を選択します。



- ▶ [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスで、[警告] ボタンをクリックします。

赤のフラグは、新規の警告であることを表します。グレーのフラグは、既読の警告であることを表します。

[警告] ダイアログ・ボックスが開きます。



選択したエンティティと警告のリストが表示されます。ダイアログ・ボックス内のリンクをクリックすると、Quality Center の中でその項目が強調表示されます。



2 [警告を削除] ボタンをクリックして特定の警告を削除したり、[すべてクリア] をクリックしてエンティティに対するすべての警告を削除したりできます。[はい] ボタンをクリックして、確定します。クリアできるのは、自身に割り当てられている警告と、ユーザに割り当てられていない警告だけであることを注意してください。警告が割り当てられているユーザとは、警告の発生時に電子メール通知が送信されるユーザのことです。警告のリストおよび電子メール通知を送信されるユーザの詳細については、78 ページ「警告について」を参照してください。

3 [警告] ダイアログ・ボックスを閉じます。

## 警告のクリア

[警告] ダイアログ・ボックスでは、個々の警告または選択されたエンティティに対するすべての警告をクリアできます。[警告] ダイアログ・ボックスの詳細については、82 ページ「警告の表示」を参照してください。

また、Quality Center モジュールのすべてのエンティティに関連付けられているすべての警告をクリアできます。このオプションを選択すると、現在のフィルタに一致するエンティティに関連付けられている警告だけがクリアされます。また、クリアできるのは、自身に割り当てられている警告と、ユーザに割り当てられていない警告だけです。警告が割り当てられているユーザとは、警告の発生時に電子メール通知が送信されるユーザのことです。このユーザは警告に対する [警告] ダイアログ・ボックスに表示されます。警告のリストおよび電子メール通知を送信されるユーザの詳細については、78 ページ「警告について」を参照してください。

モジュールに対するすべての警告クリアするには、次の手順を実行します。

- 1 要件、テスト計画、または不具合モジュールで作業している場合は [編集] > [警告のクリア] を選択します。テスト・ラボ・モジュールで作業している場合は、[テスト] > [警告をクリア] を選択します。
- 2 [はい] ボタンをクリックして、確定します。警告がクリアされます。


## フォローアップ・フラグの設定

Quality Center を使用して、自動トレーサビリティ通知のほかに、独自の警告を追加できます。**フォローアップ・フラグ**を使用すると、後で処理するべき事柄を忘れないよう通知できます。たとえば、1 週間以内にステータスを確認する必要がある不具合があれば、そのことを忘れないようフォローアップ・フラグを設定できます。

フォローアップ・フラグを設定できる対象は次のとおりです。

- ▶ 要件モジュール・ビューの要件
- ▶ テスト計画ツリー内またはテスト・グリッド内のテスト
- ▶ 実行グリッド内のテスト・インスタンス

## ▶ [不具合] のグリッドまたは [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスの不具合

フラグを追加すると、灰色のフラグのアイコン  がレコードに追加されます。フォローアップ警告は、いつでも開いて詳細を確認できます。フォローアップ処理の設定日が到来すると、Quality Center によって電子メールによる通知が送信され、フラグのアイコンは赤色に変わります。

フォローアップ警告に対しては、情報バーも表示されます。この情報バーは、テスト・フォローアップの場合にはテスト計画ツリーの右表示枠、テスト・インスタンス・フォローアップの場合には [テスト インスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックス、不具合フォローアップの場合には [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスに表示されます。

---

**注：**フォローアップ・フラグは、ユーザのログイン名に固有のものです。ほかの人がレコードを表示しても、フォローアップ警告は見えません。

---


新規のフォローアップ警告を作成することも、既存の警告を表示して変更することもできます。

### フォローアップ警告の作成

要件、テスト、テスト・インスタンス、または不具合に対してフォローアップ警告を作成できます。

フォローアップ警告を作成するには、次の手順を実行します。




- 1 フォローアップ・フラグを設定する対象となるレコードを選択します。[フォローアップフラグ] ボタンをクリックするか、またはレコードを右クリックして [フォローアップフラグ] を選択します。[フォローアップフラグ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [フォローアップ期限] で、Quality Center によりフォローアップ電子メールを送信する日付を選択します。
- 3 [説明] に、表示するメッセージを入力します。
- 4 [OK] をクリックします。フォローアップ警告が保存され、フラグのアイコン  がレコードに追加されます。

### フォローアップ警告の変更

レコードに対して作成したフォローアップ警告はいつでも開くことができます。フォローアップ警告については、説明の表示や変更を行ったり、フォローアップ警告を削除したりできます。

フォローアップ警告の変更は、次の手順で行います。

- 1 ツリーまたはグリッドでフラグの設定されたレコードに対して、[Follow Up Flag] カラムのフラグのアイコン  をクリックします。このカラムが表示されていない場合は、[表示] > [インジケータ カラム] を選択します。[フォローアップフラグ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 警告を変更するには、[フォローアップ期限] の日付または[説明] を必要に応じて変更します。[OK] をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 3 フォローアップ・フラグを削除するには、[フラグの削除] ボタンをクリックします。[はい] をクリックして確定し、ダイアログ・ボックスを閉じます。

# 第 5 章

---

## 添付ファイルの追加

Quality Center レコードには添付ファイルを追加できます。

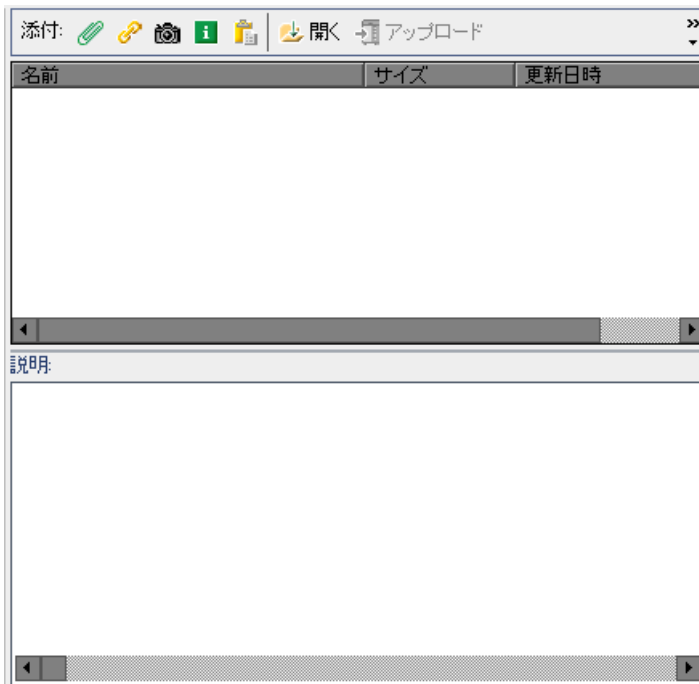
### 本章の内容

- ▶ 添付ファイルの追加について (88 ページ)
- ▶ ファイルの添付 (89 ページ)
- ▶ URL の添付 (89 ページ)
- ▶ スナップショットの添付 (90 ページ)
- ▶ システム情報の添付 (91 ページ)
- ▶ クリップボードからのアイテムの添付 (92 ページ)
- ▶ 添付ファイルの管理 (92 ページ)

## 添付ファイルの追加について

アプリケーション管理プロセス全体を通じて、添付ファイルを追加することによって、作業の内容をわかりやすくできます。ファイル、URL、アプリケーションのスナップショット、クリップボードのアイテム、またはシステム情報を添付できます。添付ファイルをレコードに追加すると、Quality Center によって📎アイコンがレコードに追加されます。

添付ファイルは、[添付ファイル] タブまたはダイアログ・ボックスを使って管理します。





## ファイルの添付

Quality Center レコードには、ファイルを添付できます。

ファイルの添付は、次の手順で行います。



- 1 [添付ファイル] ダイアログ・ボックスで、[**ファイル**] ボタンをクリックします。[ファイルを開く] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 ファイル名を選択し、[**開く**] をクリックします。あるいは、ファイル名をダブルクリックします。  
[添付] リストには、ファイル名、サイズ、および変更日が表示されます。ファイルに関連付けられているアプリケーションのアイコンが、ファイル名の横に表示されます。
- 3 [**説明**] ボックスに、添付したファイルに関するコメントを入力します。

## URL の添付

Quality Center レコードには、URL (Uniform Resource Locator) を添付できます。HTTP, FTP, Gopher, News, Mailto, または File など、有効な任意の URL スキームを添付 URL に使用できます。

URL を添付するには、次の手順を実行します。



- 1 [添付] ダイアログ・ボックスで、[**URL**] ボタンをクリックします。[URL の添付] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [**URL**] ボックスに有効な URL を入力し、[**OK**] をクリックします。  
URL が [添付] リストに表示されます。標準設定の Web ブラウザのアイコンが、URL の横に表示されます。
- 3 [**説明**] ボックスに、添付した URL に関するコメントを追加します。

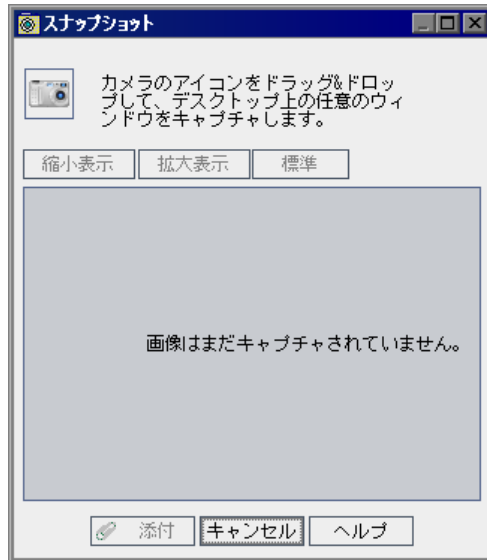
## スナップショットの添付

Quality Center レコードには、アプリケーションの画像を添付できます。

スナップショットを添付するには、次の手順を実行します。



- 1 [添付ファイル] ダイアログ・ボックスで、[スナップショット] ボタンをクリックします。[スナップショット] ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 2 キャプチャ対象オブジェクトに、**カメラ**・アイコンをドラッグします。キャプチャされた画像が、[スナップショット] ダイアログ・ボックスに表示されます。
- 3 キャプチャされた画像の表示倍率レベルを変更できます。
  - ▶ 目的の表示倍率レベルにするには、[縮小表示] または [拡大表示] をクリックします。
  - ▶ 標準レベルに戻すには、[標準] をクリックします。
- 4 [添付] をクリックします。

画像には、**.jpg** 拡張子付きの一意のファイル名が割り当てられます。ファイル名は [添付] リストに表示され、その横には画像のアイコンが表示されます。ファイルのサイズと変更日も表示されます。
- 5 [説明] ボックスに、添付したスナップショットに関するコメントを入力します。

## システム情報の添付

Quality Center レコードには、マシンに関する情報を添付できます。

システム情報を添付するには、次の手順を実行します。



- 1 [添付ファイル] ダイアログ・ボックスで、[システム情報] ボタンをクリックします。[システム情報] ダイアログ・ボックスが表示されます。

システム情報

ネットワーク	デバイス	プリンタ	エンジン			
ドライブ	時間帯	プロセス	スタートアップ	ソフトウェア		
マシン	Windows NT	CPU	メモリ	表示	APM	メディア

識別子

コンピュータ名 LOCALIZATION

ユーザ名 Administrator

BIOS 情報

名前 AT/AT COMPATIBLE

著作権 DELL - 7

Date 02/20/06

拡張情報

起動情報

最終起動 2009/01/13 11:21:04

システム起動経過時間 2 日間, 5 時間, 47 分, 40 秒

Num Lock Caps Lock Scroll Lock

添付: 現在のトピック すべてのトピック 更新 OK

- 2 1つのタブの情報を添付するには、タブをクリックし、[現在のトピック] ボタンをクリックします。
- 3 すべてのタブの情報を添付するには、[すべてのトピック] をクリックします。

情報には、.tsi 拡張子付きの一意のファイル名が割り当てられます。ファイル名は [添付] リストに表示され、その横には画像のアイコンが表示されます。ファイルのサイズと変更日も表示されます。

- 4 **[説明]** ボックスに、添付したテキスト・ファイルに関するコメントを入力します。

## クリップボードからのアイテムの添付

Quality Center レコードには、クリップボードにコピーしたテキストおよび画像を添付できます。

クリップボードからアイテムを添付するには、次の手順を実行します。

- 1 クリップボードにテキスト文字列または画像をコピーします。
- 2 **[添付ファイル]** ダイアログ・ボックスで、**[クリップボード]** ボタンをクリックします。



テキスト文字列には、**.txt** 拡張子付きの一意のファイル名が割り当てられます。画像には、**.jpg** 拡張子付きの一意のファイル名が割り当てられます。添付ファイル名は**[添付]** リストに表示され、その横には画像のアイコンが表示されます。ファイルのサイズと変更日も表示されます。

## 添付ファイルの管理

**[添付ファイル]** ダイアログ・ボックスまたはタブで、添付ファイルの表示、変更、保存、および削除を行うことができます。

### 添付ファイルの表示

添付ファイルは、**[添付]** リストで参照できます。

添付ファイルを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 **[添付]** リストで、添付ファイルを選択します。対応する説明が、**[説明]** ボックスに表示されます。
- 2 添付ファイルをダブルクリックするか、**[ダウンロードして開く]** ボタンをクリックします。添付ファイルが、ファイルに関連付けられているアプリケーションで開きます。たとえば、URL は標準設定の Web ブラウザで開きます。



## 添付ファイルの変更

添付ファイルは、[添付] リストで変更できます。関連付けられているアプリケーションで添付ファイルを開くと、添付ファイルがクライアント・マシンのローカル・ディレクトリにダウンロードされます。添付ファイルに変更を加えた場合は、2回保存する必要があります。1回目は、そのファイルを開いたアプリケーションでローカルに保存します。2回目は、Quality Center で、**[選択項目のアップロード]** ボタンをクリックし、添付ファイルのローカル・コピーを Quality Center プロジェクトに保存します。

添付ファイルに変更を加えるには、次の手順を実行します。

- 1 **[添付]** リストで、添付ファイルをダブルクリックします。添付ファイルのローカル・コピーが、関連付けられているアプリケーションで開きます。
- 2 添付ファイルに変更を加えます。
- 3 開いたアプリケーションで添付ファイルを保存します。これにより、添付ファイルのローカル・コピーが保存されます。
- 4 添付ファイルを閉じます。
- 5 Quality Center で、[添付ファイル] ダイアログ・ボックスの **[選択項目のアップロード]** ボタンをクリックします。これにより、添付ファイルのローカル・コピーが Quality Center プロジェクトに保存されます。

## 添付ファイルの保存

添付ファイルは、クライアント・マシンのローカル・ディレクトリに保存できます。

添付ファイルを保存するには、次の手順を実行します。

- 1 **[添付]** リストで添付ファイルを選択し、**[名前を付けて保存]** ボタンをクリックします。**[添付ファイルを保存]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 **[保存する場所]** ボックスで、ファイルを保存する場所を選択します。
- 3 **[ファイル名]** ボックスに、ファイルの名前を入力します。
- 4 **[上書き保存]** をクリックします。添付ファイルがダウンロードされ、クライアント・マシンのローカル・ディレクトリに保存されます。

### 添付ファイルの削除

添付ファイルは、[添付] リストから削除できます。

添付ファイルを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [添付] リストで、削除する添付ファイルを選択します。複数の添付ファイルを選択するには、CTRL キーを使用します。
- 2 [選択項目の削除] ボタンをクリックし、[はい] をクリックして、確定します。

# 第 6 章

---

## お気に入りビューを使用した作業

「お気に入りビュー」とは、ユーザの設定を適用した Quality Center ウィンドウのビューのことです。お気に入りビューを保存すると、次回から再ロードできます。

### 本章の内容

- ▶ お気に入りのビューでの作業 (95 ページ)
- ▶ お気に入りビューの追加 (96 ページ)
- ▶ お気に入りビューの読み込み (97 ページ)
- ▶ お気に入りビューの更新 (98 ページ)
- ▶ お気に入りビューの整理 (98 ページ)

### お気に入りのビューでの作業

特定の設定を選択することにより、Quality Center ウィンドウの表示方法を指定できます。たとえば、これらの設定にはグリッドのカラムへのフィルタの適用、グリッドのフィールドの並べ替えなどがあります。お気に入りビューを保存すると、次回からは必要に応じてロードできます。

お気に入りビューは、公開フォルダまたは固有フォルダに保存します。**公開**フォルダ内のビューには、すべてのユーザがアクセスできます。**固有**フォルダ内のビューには、その作成者だけがアクセスできます。

一部のお気に入りビュー・コマンドには、特定のユーザ・グループのみがアクセスできます。ユーザ・グループの権限の詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

---

**注：**お気に入りビューでの作業は、ドキュメント・ジェネレータに対する本章の説明とは異なります。



ドキュメント・ジェネレータでは、新しいビューを追加するには「**お気に入りに追加**」ボタンをクリックし、ビューを整理するには「**お気に入り**」ボタンをクリックします。

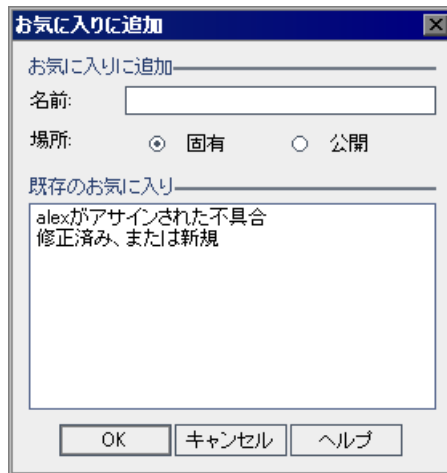
---

## お気に入りにビューの追加

固有フォルダまたは公開フォルダにビューを追加できます。

お気に入りビューを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 「**お気に入り**」 > 「**お気に入りに追加**」を選択します。「お気に入りに追加」ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 「**名前**」ボックスに、ビューの名前を入力します。
- 3 「**場所**」で、次の手順を実行します。
  - ▶ ビューを固有フォルダに追加するには、「**固有**」を選択します。このフォルダのお気に入りビューには、作成者のみがアクセスできます。



- ▶ ビューを共有フォルダに追加するには、[公開] を選択します。このフォルダのお気に入りビューには、プロジェクトのすべてのユーザがアクセスできます。

選択したフォルダにすでに存在しているお気に入りビューは、[既存のお気に入り] に表示されます。

- 4 [OK] をクリックします。新しいビューが固有フォルダまたは公開フォルダに追加されます。

## お気に入りビューの読み込み

Quality Center ウィンドウで既存のお気に入りビューを読み込むことができます。

お気に入りビューを読み込むには、次の手順を実行します。

- ▶ 最近使用したお気に入りビューを読み込むには、[お気に入り] メニューを開いてビューを選択します。

---

**注：**標準設定では、Quality Center によって、最近使用したビューが4つ [お気に入り] メニューに表示されます。「サイト管理」の [サイト設定] タブで **FAVORITES\_DEPTH** パラメータを設定することによって、メニューに表示するビューの数を定義できます。詳細については、『HP Quality Center Administrator Guide』（英語版）を参照してください。

---

- ▶ お気に入りビューを読み込むには、[お気に入り] > [非公開] または [お気に入り] > [公開] を選択してビューを選択します。

あるいは、モジュール・ツールバーの [お気に入り] バーでビューを選択します。標準設定では、[お気に入り] バーは表示されません。表示するには、[表示] > [お気に入りバー] を選択します。[お気に入り] バーは Quality Center のグリッド・ビューからのみ利用できます。

## お気に入りビューの更新

既存のお気に入りビューの設定は更新できます。

お気に入りビューを更新するには、次の手順を実行します。

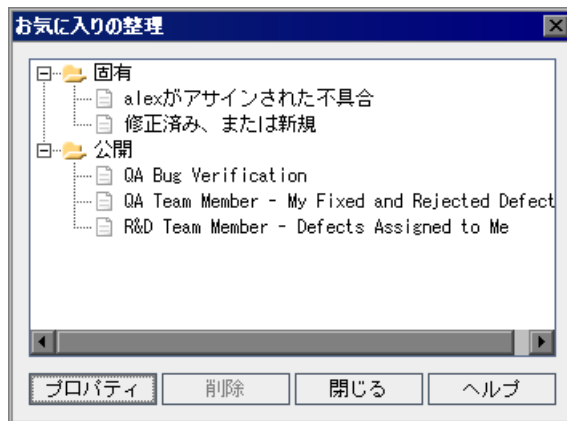
- 1 **「お気に入り」** メニューからお気に入りビューを読み込みます。詳細については、97 ページ「お気に入りビューの読み込み」を参照してください。
- 2 ビューに変更を加えます。
- 3 **「お気に入り」** > **「お気に入りに追加」** を選択します。**「お気に入りに追加」** ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 4 **「既存のお気に入り」** の下でビュー名を選択して **「OK」** をクリックします。
- 5 以前の設定を上書きするには、**「はい」** をクリックします。

## お気に入りビューの整理

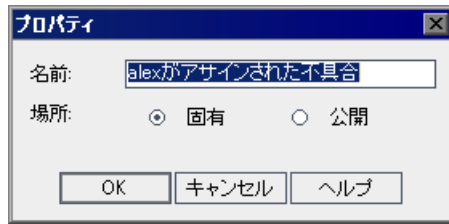
ビューのプロパティを変更したり、ビューを削除したりすることによって、固有フォルダおよび公開フォルダのお気に入りビューのリストを整理できます。

お気に入りビューを整理するには、次の手順を実行します。

- 1 **「お気に入り」** > **「お気に入りの整理」** を選択します。**「お気に入りの整理」** ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 2 プロパティを変更するには、リスト内のビューを選択し、**[プロパティ]** をクリックします。**[プロパティ]** ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 **[名前]** ボックスに、新しいビューの名前を入力します。
- 4 **[場所]** で、次の操作を行います。
  - ▶ ビュー名を固有フォルダに追加するには、**[固有]** を選択します。作成者だけがアクセスできるビューとなります。
  - ▶ ビュー名を共有フォルダに追加するには、**[公開]** を選択します。すべてのユーザがアクセスできるビューとなります。
- 5 **[OK]** をクリックしてプロパティを保存します。**[はい]** ボタンをクリックして、確定します。
- 6 お気に入りビューを削除するには、リストのビューを選択し、**[削除]** をクリックします。**[OK]** をクリックして確定します。
- 7 **[閉じる]** をクリックし、**[お気に入りの整理]** ダイアログ・ボックスを閉じます。



# 第7章

---

## バージョン・コントロールを使った作業

バージョン・コントロールにより、要件、テスト、テスト・リソース、およびビジネス・コンポーネントなど、プロジェクトでエンティティ加えられた変更を追跡できます。

### 本章の内容

- ▶ バージョン・コントロールを使った作業について (101 ページ)
- ▶ バージョン・コントロールの概要 (102 ページ)
- ▶ エンティティのチェックアウト (106 ページ)
- ▶ エンティティのチェックイン (108 ページ)
- ▶ チェックアウトの取り消し (109 ページ)
- ▶ チェックアウト済みエンティティの表示 (110 ページ)
- ▶ バージョン履歴の表示 (111 ページ)

### バージョン・コントロールを使った作業について

バージョン・コントロールを有効にしたプロジェクトでは、Quality Center エンティティを作成および管理しながら、これらのエンティティの以前のバージョンを維持できます。これには、要件、テスト、テスト・リソース、およびビジネス・コンポーネントが含まれます。バージョン・コントロールを有効にしたプロジェクトでのビジネス・コンポーネントを使った作業の詳細については、『**HP Business Process Testing User Guide**』（英語版）を参照してください。

変更を行うにはエンティティをチェックアウトします。次に、エンティティをチェックインして変更を保存し、エンティティの新しいバージョンをほかのユーザが利用できるようにします。エンティティの以前のバージョンを表示および比較したり、または以前のバージョンをチェックアウトしたりできます。

プロジェクトのバージョン・コントロールの有効化に関する詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

### バージョン・コントロールの概要

バージョン・コントロールを有効にしたプロジェクトでエンティティに変更を加えるには、最初にエンティティをチェックアウトする必要があります。エンティティをチェックアウトすると、**Quality Center** によりエンティティがロックされ、加えた変更をほかのユーザが上書きするのを防ぐことができます。エンティティのチェックアウトしたバージョンは、ほかのユーザには表示されません。詳細については、106 ページ「エンティティのチェックアウト」を参照してください。

変更を加え終わったら、エンティティをチェックインします。これで、エンティティの新しいバージョンを、ほかのユーザが利用できるようになります。詳細については、108 ページ「エンティティのチェックイン」を参照してください。

エンティティをチェックアウトした後で、変更をキャンセルするためにチェックアウトを取り消すことができます。詳細については、109 ページ「チェックアウトの取り消し」を参照してください。



エンティティの以前のバージョンをすべて表示したり、または以前のバージョンをチェックアウトしたりできます。また、エンティティの2つのバージョンを比較してバージョン間の変更内容を表示できます。エンティティの以前のバージョンの表示に関する詳細については、111 ページ「バージョン履歴の表示」を参照してください。

---

**注：**ユーザビリティおよびデータの完全性を維持するために、Quality Center では、エンティティ間の関係に関するほとんどのデータを除いて、エンティティの以前のバージョンが保存されます。要件およびテスト・カバレッジ、要件トレーサビリティ、および不具合のリンクのデータは、以前のバージョンについては保存されません。また、リスク・データもエンティティの以前のバージョンについては保存されません。

---

プロジェクトでチェックアウトしたすべてのエンティティのリストを表示できます。詳細については、110 ページ「チェックアウト済みエンティティの表示」を参照してください。

バージョン・コントロールを有効にしたプロジェクトでのエンティティの作成および管理は、ツリー・ビューとグリッド・ビューの両方で行えます。ツリー・ビューでは、現在のユーザによってチェックアウトされたエンティティは、開いた緑色の鍵のアイコンで表示されます。ほかのユーザによってチェックアウトされたエンティティは、赤色の鍵のアイコンで表示されます。グリッド・ビューには、「バージョンのステータス」など追加のバージョン・コントロール・フィールドが表示され、エンティティがチェックインされているか、チェックアウトされているかを示します。

次の表は、Quality Center モジュールでのバージョン・コントロールを使った作業に関する追加情報を示します。

モジュール	新規エンティティの作成	バージョン・コントロール・フィールド
要件	新しい要件を作成すると、その要件は Quality Center によって自動的にチェックアウトされます。	要件モジュールには、追加のバージョン・コントロール・フィールドが含まれています。詳細については、172 ページ「要件フィールド」を参照してください。
テスト計画	新しいテストを作成すると、そのテストを直ちにチェックアウトできます。詳細については、267 ページ「テスト計画ツリーへのテストの追加」を参照してください。	テスト計画モジュールには、追加のバージョン・コントロール・フィールドが含まれています。詳細については、259 ページ「テスト・グリッドのカラム」を参照してください。
テスト・リソース	新しいテスト・リソースを作成すると、そのリソースは Quality Center によって自動的にチェックアウトされます。	テスト・リソース・モジュールには、追加のバージョン・コントロール・フィールドが含まれています。詳細については、351 ページ「リソースおよびフォルダの詳細の更新」を参照してください。

要件、テスト計画、およびテスト・リソース・モジュールのツールバーには、エンティティをチェックインおよびチェックアウトするために、次の追加のボタンが表示されます。



- ▶ **[チェックアウト]**: [チェックアウト] ダイアログ・ボックスを開き、選択したエンティティをチェックアウトできます。



- ▶ **[チェックイン]**: [チェックイン] ダイアログ・ボックスを開き、選択したエンティティをチェックインできます。



## バージョン管理されないフィールド

次のフィールドへの変更は、バージョン・コントロールでは保存されません。

- ▶ 要件フィールド：[確認済み]，[直接カバレッジステータス]，[ターゲットリリース]，[ターゲットサイクル]，およびすべての RBQM フィールド。
- ▶ テスト・フィールド：[実行ステータス]。

バージョン・コントロールを有効にしたプロジェクトでバージョン管理されていないフィールドを使って作業する場合は、次の点を考慮します。

- ▶ チェックアウトを取り消す場合、エンティティがチェックアウトされている間にバージョン管理されていないフィールドに加えられた変更内容は取り消されずに、新しい値が残されます。
- ▶ 以前のバージョンをチェックアウトする場合、バージョン管理されていないフィールドの値は、現在チェックインされているバージョンの値になります。
- ▶ エンティティの以前のバージョンを表示および比較する場合、バージョン管理されていないフィールドは、[Non-versioned Field] 値とともに表示されます。

## バージョン・コントロールの例

次の例は、バージョン・コントロールの使用方法を示します。

### ▶ 変更内容の監視とバージョンの比較

製品マネージャは、期待とは違う方法で製品開発が行われていることに気づきます。彼は、製品の要件を確認して一部が変更されていることを見つけます。彼は、現在の要件をリリースの最初に合意した要件のバージョンと比較します。

### ▶ 前バージョンの復元

QA テスト担当者は、現在開発中の銀行アプリケーションの新しいビルドを受け取ります。彼女は、新しいリリースのニーズを満たすために関連するテストの更新を開始します。次に開発チームは、ビルドに関する重要な問題について通知します。開発は以前のビルドにロールバックされます。テスト担当者は、チェックアウトして以前のビルドに使用したテストのバージョンに戻し、そこからテストを続けることに決定します。

▶ **編集のためにエンティティをロック**

ビジネス・アナリストは、アプリケーションの特定の機能を更新したいと考えています。このためには、一連の要件を更新する必要があります。要件を更新するには数日が必要で、編集中は、ほかのユーザに要件を変更してほしくないと考えています。彼は関連する要件をチェックアウトして編集を開始します。

## エンティティのチェックアウト

エンティティに変更を加えるには、バージョン・コントロールを有効にしたプロジェクトでエンティティをチェックアウトします。エンティティをチェックアウトすると、Quality Center によりエンティティがロックされ、加えた変更をほかのユーザが上書きするのを防ぐことができます。エンティティのチェックアウトしたバージョンは、ほかのユーザには表示されません。

エンティティは、次の方法でチェックアウトできます。

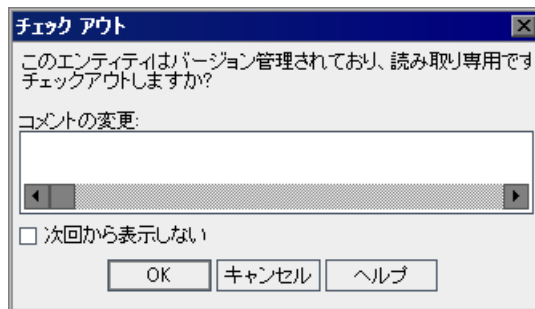
- ▶ 自動的なエンティティのチェックアウト
- ▶ 手動によるエンティティのチェックアウト


### 自動的なエンティティのチェックアウト

バージョン・コントロールを有効にしたプロジェクトでエンティティに変更を加え始めると、Quality Center により、エンティティの自動チェックアウトが開始されます。

エンティティを自動的にチェックアウトするには、次の手順を実行します。

- 1 エンティティを選択して編集を開始します。[チェックアウト] ダイアログ・ボックスが表示されます。



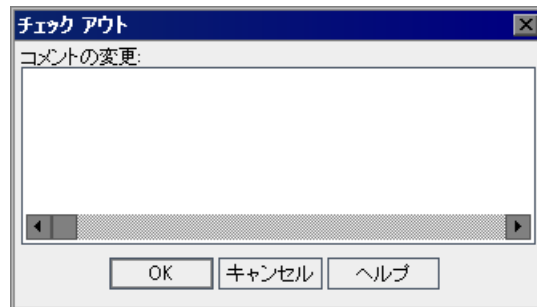
- 2 **[コメントの変更]** ボックスに、チェックアウトの理由を簡単に入力します。
- 3 確認することなく編集を開始したエンティティを自動的にチェックアウトするように Quality Center を設定するには、**[次回から表示しない]** を選択します。  
エンティティを自動的にチェックアウトする前に確認メッセージが表示されるように Quality Center を設定するには、メニュー・バーで **[バージョン] > [チェックアウト前に警告する]** を選択します。
- 4 **[OK]** をクリックします。ツリー・ビューに、エンティティはチェックアウトされていることを示す鍵のアイコンとともに表示されます。


### 手動によるエンティティのチェックアウト

エンティティに変更を加えるには、バージョン・コントロールを有効にしたプロジェクトで1つ以上のエンティティをチェックアウトします。

エンティティを手動でチェックアウトするには、次の手順を実行します。

- 1 チェックアウトするエンティティを選択します。複数のエンティティをチェックアウトするには、CTRL キーを押してエンティティを選択します。
- 2 **[チェックアウト]** ボタンをクリックするか、**[バージョン] > [チェックアウト]** を選択します。あるいは、エンティティを右クリックして **[バージョン] > [チェックアウト]** を選択します。**[チェックアウト]** ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 3 **[コメントの変更]** ボックスに、チェックアウトの理由を簡単に入力します。
- 4 **[OK]** をクリックします。ツリー・ビューに、エンティティはチェックアウトされていることを示す鍵のアイコンとともに表示されます。

## エンティティのチェックイン

エンティティに変更を加えた後に、エンティティをチェックインします。エンティティをチェックインするたびに、新しいバージョンが作成されます。たとえば、要件の現在のバージョンがバージョン番号3であるとします。要件をチェックアウトして変更を加えます。要件をチェックインすると、Quality Center によってバージョン番号4として定義されます。エンティティをチェックインすると、ロックが解除されてほかのユーザが利用できるようになります。

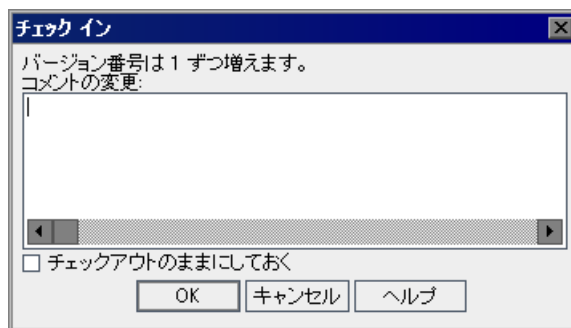
また、現在のモジュールでチェックアウトしたすべてのエンティティのリストを表示することもできます。詳細については、110 ページ「チェックアウト済みエンティティの表示」を参照してください。

エンティティをチェックインするには、次の手順を実行します。

- 1 チェックインするエンティティを選択します。複数のエンティティをチェックインするには、CTRL キーを押してエンティティを選択します。



- 2 **[チェックイン]** ボタンをクリックするか、**[バージョン]** > **[チェックイン]** を選択します。あるいは、エンティティを右クリックして **[バージョン]** > **[チェックイン]** を選択します。**[チェックイン]** ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 3 **[コメントの変更]** ボックスに、このバージョンに加えた変更内容を簡単に入力します。
- 4 エンティティをチェックアウトしたまま新しいバージョン番号を使って変更内容を保存するには、**[チェックアウトのままにしておく]** を選択します。
- 5 **[OK]** をクリックします。

## チェックアウトの取り消し

エンティティをチェックアウトした後で、変更をキャンセルするためにチェックアウトを取り消すことができます。ほかのユーザがチェックアウトしたエンティティのチェックアウトを取り消すには、適切なユーザ権限が必要です。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

チェックアウトを取り消す場合、エンティティがチェックアウトされている間にバージョン管理されていないフィールドに加えられた変更内容は取り消されずに、新しい値が残ります。詳細については、105 ページ「バージョン管理されないフィールド」を参照してください。

現在のモジュールでチェックアウトしたすべてのエンティティのリストを表示することができます。詳細については、110 ページ「チェックアウト済みエンティティの表示」を参照してください。

チェックアウトを取り消すには、次の手順を実行します。

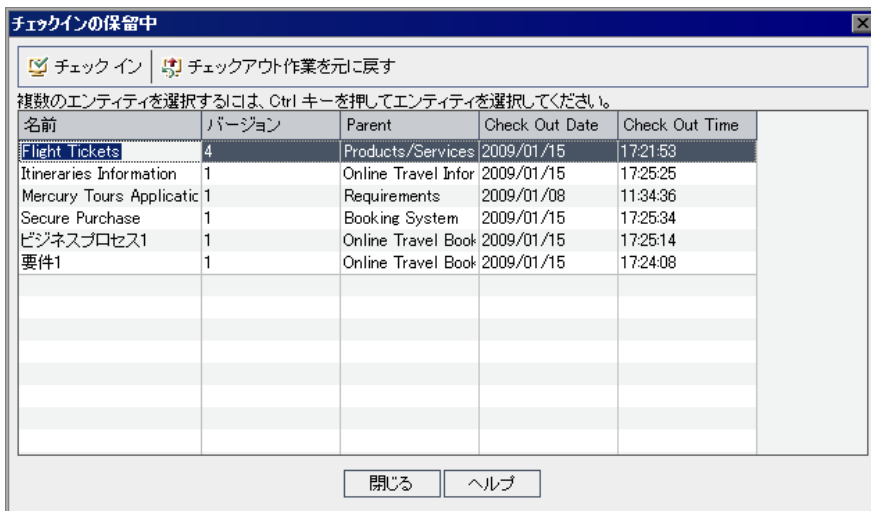
- 1 エンティティを1つ選択するか、CTRL キーを押してチェックアウトを取り消す複数のエンティティを選択します。
- 2 [バージョン] > [チェックアウト作業を元に戻す] を選択するか、エンティティを右クリックして [バージョン] > [チェックアウト作業を元に戻す] を選択します。
- 3 [はい] ボタンをクリックして、確定します。

## チェックアウト済みエンティティの表示

現在のモジュールでチェックアウトしたすべてのエンティティのリストを表示して、選択したエンティティをチェックインしたり、チェックアウトを取り消したりできます。

チェックアウト済みエンティティを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [バージョン] > [チェックインの保留中] を選択するか、モジュール・ツールバーの右側にある [チェックイン] ボタンをクリックします。[保留中のチェックイン] ダイアログ・ボックスが開き、現在のモジュールで現在のユーザによってチェックアウトされたすべてのエンティティのリストが表示されます。



カラム・ヘッダをドラッグしてカラムを並べ替えることができます。

- 2 エンティティをチェックインするには、リストでエンティティを1つ選択するか、CTRL キーを押して複数のエンティティを選択します。[チェックイン] をクリックします。詳細については、108 ページ「エンティティのチェックイン」を参照してください。
- 3 チェックアウトを取り消すには、リストでエンティティを1つ選択するか、CTRL キーを押して複数のエンティティを選択します。[チェックアウト作業を元に戻す] をクリックします。詳細については、109 ページ「チェックアウトの取り消し」を参照してください。

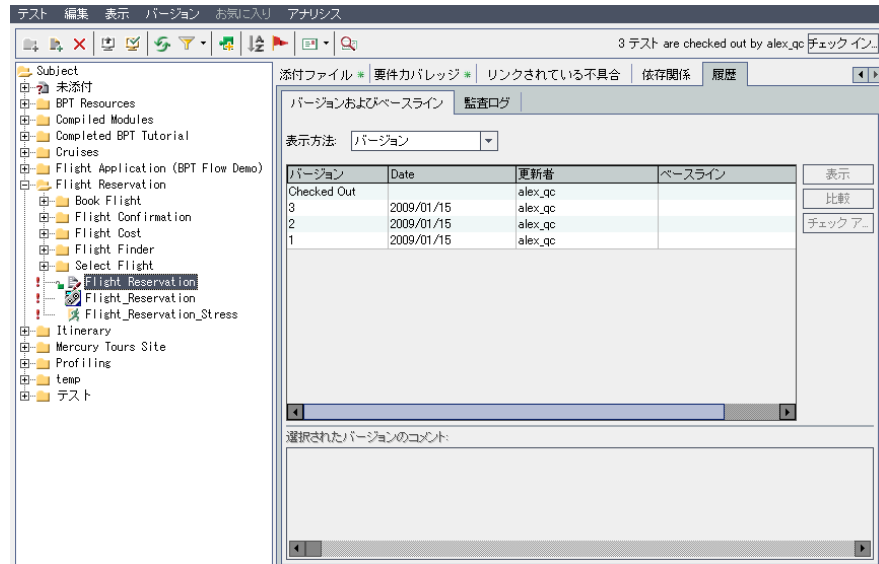
## バージョン履歴の表示

すべての以前のバージョン，各バージョンを作成したユーザの名前，および各バージョンが作成された日付など，選択したエンティティの履歴を表示できます。2つのバージョンを比較することも，以前のバージョンをチェックアウトすることもできます。

また，バージョンが保存されているベースラインを表示することもできます。詳細については，539 ページ「ベースラインの履歴の表示」を参照してください。

バージョン履歴を表示するには，次の手順を実行します。

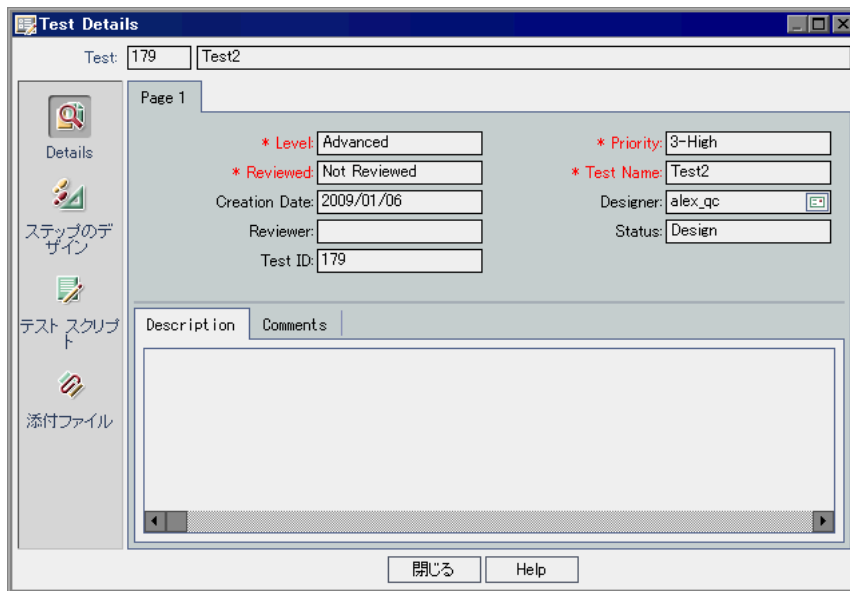
- 1 エンティティを選択して [履歴] タブをクリックします。エンティティのバージョン履歴が表示されます。



- 2 [バージョンおよびベースライン] タブの [表示方法] ボックスで, [バージョン] を選択します。エンティティのバージョン履歴がグリッドに表示されます。

カラム	説明
[バージョン]	バージョン番号です。エンティティが現在チェックアウトされている場合, チェックアウトされているバージョンの [バージョン] カラムに [Checked Out] と表示されます。
[日付]	該当するバージョンが作成された日付です。
[更新者]	該当するバージョンを作成したユーザです。
[ベースライン]	該当するバージョンが表示されるベースラインです。

- 3 [選択されたバージョンのコメント] に, バージョンのチェックイン時にユーザが入力したコメントが表示されます。
- 4 以前のバージョンの詳細を表示するには, バージョンを選択して [表示] をクリックします。[詳細] ダイアログ・ボックスが開き, バージョンに関する読み取り専用の詳細が表示されます。たとえば, テストの以前のバージョンに関する詳細を表示できます。





バージョンに関する追加の詳細を表示するには、[デザインのステップ]、[テストスクリプト]、および[添付]など、サイドバー上のボタンをクリックします。利用できるボタンは、特定のエンティティ・タイプに対するバージョン・コントロールに保存されているデータによって異なります。

一部のフィールドへの変更は、バージョン・コントロールには保存されません。詳細については、105 ページ「バージョン管理されないフィールド」を参照してください。

[閉じる] をクリックして、[詳細] ダイアログ・ボックスを閉じます。

- 5 2つのバージョンを比較するには、CTRL キーを押して各バージョンを選択します。[比較] をクリックします。エンティティのバージョンの比較に関する詳細については、543 ページ「エンティティの比較」を参照してください。
- 6 以前のバージョンをチェックアウトするには、バージョンを選択して [チェックアウト] をクリックします。チェック・アウト・プロセスの詳細については、106 ページ「エンティティのチェックアウト」を参照してください。

---

**注：**ユーザビリティおよびデータの完全性を維持するために、Quality Center では、ほとんどのデータがエンティティ間の関係に関係なく、エンティティの以前のバージョンが保存されます。要件およびテスト・カバレッジ、要件トレーサビリティ、および不具合のリンクのデータは、以前のバージョンについては保存されません。また、リスク・データもエンティティの以前のバージョンについては保存されません。

---

[確認] ダイアログ・ボックスが表示されます。[はい] ボタンをクリックして、確定します。



# 第 II 部

---

リリースの管理



# 第 8 章

---

## リリース管理のワークフロー

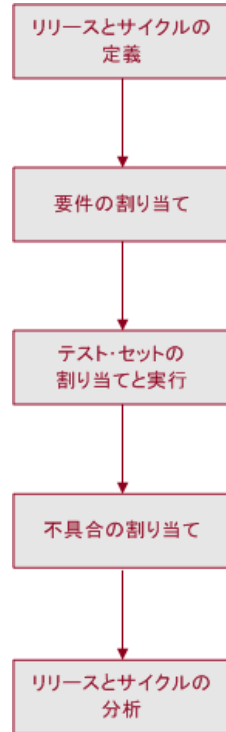
アプリケーション管理プロセスを開始するには、リリース・モジュールでリリース・ツリーを定義します。

---

**Quality Center のエディション**：リリース・モジュールは、Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition で利用できます。

---

本章では、Quality Centerを使用してリリースのライフサイクルを管理する方法について説明します。リリース管理ワークフローは、次の段階から構成されます。



## リリースとサイクルの定義

リリース・モジュールの基盤はリリース・ツリーです。このツリーにより、階層ツリー構造内で次のリリースのモデリングが可能になります。

最初に、リリースとともにリリース・フォルダを定義します。**リリース**は、同時に配布可能な1つ以上のアプリケーションにおける変更のグループを示します。リリースを定義したら、サイクルを定義します。**サイクル**とは、リリース・スケジュールに基づいて共通の目標を達成するために行う一連の開発および品質保証のための作業のことです。

たとえば、サンプルの Mercury Tours アプリケーションに対して次のリリースを定義するとします。**Mercury Tours Application** フォルダには **Release 10.5** が含まれています。このリリースには4つのサイクルが含まれています。リリースおよびサイクルは、リリース・ツリーで次のように定義できます。

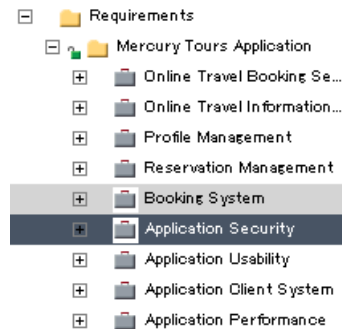


リリースの定義の詳細については、第10章「リリース・ツリーの作成」を参照してください。

## 要件の割り当て

リリース・ツリーを定義したら、要件モジュールで要件を定義および確認して、リリースおよびサイクルに割り当てます。[要件]にはアプリケーションのニーズが詳細に記載されます。

たとえば、**Mercury Tours Application** フォルダの要件ツリーで、**Booking System** および **Application Security** を **Release 10.5** リリースの **Cycle 1 - New Features** サイクルに割り当てることができます。



要件はテスト計画モジュールでテスト計画の基礎として使用されます。テスト計画段階で作成するテストでは、これらの要件をカバーするようにします。

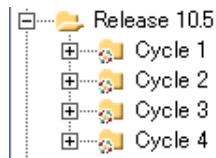
要件の詳細については、第13章「要件ツリーの構築」を参照してください。

テスト計画の詳細については、第18章「テスト計画ツリーの開発」を参照してください。カバレッジの詳細については、第19章「要件とテスト・カバレッジ」を参照してください。

## テスト・セットの割り当てと実行

要件をリリースとサイクルに割り当てたら、テスト・ラボ・モジュールの各テスト・セット・フォルダをサイクルに割り当てます。**テスト・セット**とは、Quality Center プロジェクト内のテスト・インスタンスのグループのことで、特定のテスト目標を達成するように設計されています。

たとえば、テスト・セット・ツリーで **Release 10.5** に対して次のテスト・セット・フォルダを定義できます。



各テスト・セット・フォルダはサイクルに割り当てられます。たとえば、**Cycle 1** テスト・セット・フォルダは、Cycle 1 - New Features サイクルに割り当てられています。

テスト・セット・フォルダをサイクルに割り当てた後に、そのテスト・セット・フォルダのテスト・セットを実行します。

テスト・セットの詳細については、第28章「テスト・セットの作成」を参照してください。テストの実行の詳細については、第30章「テストの手動実行」および第31章「テストの自動実行」を参照してください。



## 不具合の割り当て

テスト・セットの実行中にアプリケーションの不具合を検出した場合は、不具合を送信できます。Quality Centerにより、テスト実行、関連するリリースとサイクル、および新しい不具合の間に自動的にリンクが設定されます。

**Cycle 1** テスト・セット・フォルダのテスト・セットからテスト・インスタンスを実行しているときに不具合が検出されたとします。不具合が最初にプロジェクトに送信されたとき、**[検出リリース]** フィールドは **Release 10.5** リリースに割り当てられ、**[検出サイクル]** フィールドは **Cycle 1 - New Features** サイクルに割り当てられます。

修正する新しい不具合を確認および決定している間に、適切なターゲット・リリースおよびサイクルに割り当てることができます。

この例の続きとして、この不具合が次のサイクルに修正される予定とします。**[ターゲットリリース]** フィールドは **Release 10.5** に割り当てられ、**[ターゲットサイクル]** フィールドは **Cycle 2 - New Features + Regression** に割り当てられます。

不具合は、アプリケーション管理プロセスの任意の段階のどのモジュールからでも Quality Center プロジェクトに送信できます。

不具合の送信に関する詳細については、第35章「不具合の追加と追跡」を参照してください。

## リリースとサイクルの分析

テスト実行の後に、リリース目標がどの程度満たされているかを判断するためにテストの進行状況を確認できます。また、解決された不具合の数、および未対応の不具合の数を判断することもできます。結果は、リリース・レベルまたはサイクル・レベルで分析できます。

リリース・ツリーを分析し、リリース目標と一致することを確認することによって、リアルタイムにアプリケーション管理プロセスの進行状況を追跡できます。リリース・レベルまたはサイクル・レベルで結果を分析する方法の詳細については、第10章「リリース・ツリーの作成」を参照してください。



# 第9章

---

## リリース・モジュールの概要

本章では、リリース・モジュールの主な要素について説明します。

---

**Quality Center のエディション：**リリース・モジュールは、Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition で利用できます。

---

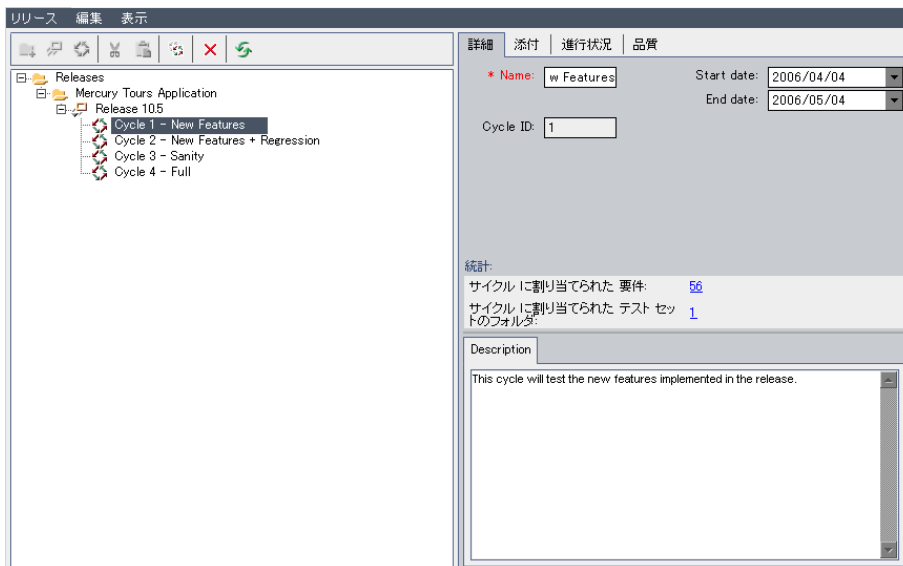
### 本章の内容

- ▶ リリース・モジュール（124 ページ）
- ▶ リリース・メニュー・バー（125 ページ）
- ▶ リリース・ツールバー（125 ページ）
- ▶ リリースとサイクルのフィールド（126 ページ）

## リリース・モジュール



Quality Center では、リリース・モジュールを使用してリリースおよびサイクルを定義します。このモジュールを表示するには、サイドバーの **[管理]** ボタンをクリックしてから **[リリース]** タブをクリックします。



リリース・モジュールの主な要素は、次のとおりです。

- ▶ **リリース・メニュー・バー**：リリース・モジュール・コマンドのドロップダウン・メニューが表示されます。
- ▶ **リリース・ツールバー**：リリース・モジュール・コマンドのボタンが含まれます。
- ▶ **[詳細] タブ**：リリース・フォルダ、リリース、またはリリース・ツリーで現在選択されているサイクルについて説明します。また、リリースの範囲とサイクルの日付も示します。**[統計]** 表示枠には、リリースまたはサイクルに関連する要件およびテスト・セット・フォルダが表示されます。
- ▶ **[添付] タブ**：現在選択されているリリース・フォルダ、リリース、またはサイクルに関する追加情報を提供する添付ファイルが表示されます。詳細については、第5章「添付ファイルの追加」を参照してください。

- ▶ **[進行状況] タブ**：リリースまたはサイクルの進行状況に関する上位レベルの概要が表示されます。詳細については、139 ページ「リリースとサイクルのカバレッジの進行状況の表示」を参照してください。
- ▶ **[品質] タブ**：リリースまたはサイクルの間に追加された不具合の数が表示されます。また、未解決の不具合の数も表示されます。詳細については、143 ページ「リリースとサイクルの不具合の表示」を参照してください。

## リリース・メニュー・バー

リリース・メニュー・バーには、次のメニューが含まれています。

- ▶ **[リリース]** メニューには、リリース・フォルダ、リリース、およびサイクルを追加するためのコマンドがあります。
- ▶ **[編集]** メニューには、リリース・フォルダ、リリース、およびサイクルの切り取り、貼り付け、削除、および名前変更を行うためのコマンドがあります。また、サイクルの複製を作成するコマンドもあります。
- ▶ **[表示]** メニューには、リリース・ツリーを展開したり折りたたんだりするためのコマンドがあります。また、リリース・ツリーを更新するコマンドもあります。

## リリース・ツールバー

リリース・ツールバーには、次のボタンがあります。



**[新規リリース フォルダ]**：新しいリリース・フォルダをリリース・ツリーに追加します。



**[新規リリース]**：新しいリリースをリリース・ツリーに追加します。



**[新規サイクル]**：新しいサイクルをリリース・ツリーに追加します。



**[切り取り]**：リリース・フォルダまたはリリースをリリース・ツリーから切り取り、ツリー内の別の場所に移動します。



**[貼り付け]**：切り取ったリリース・フォルダまたはリリースをツリー内の指定した場所に貼り付けます。



**【サイクルの複製】**：同じリリース内でサイクルの複製を作成します。



**【削除】**：選択したアイテムを削除します。リリース・フォルダを削除すると、対応するリリースとサイクルも削除されます。リリースを削除しても対応するサイクルが削除されます。



**【全て更新】**：最新のデータが表示されるように、リリース・ツリーおよびタブを更新します。

## リリースとサイクルのフィールド

リリース・モジュールの **【詳細】** タブには、次のフィールドが表示されます。

フィールド	説明
<b>【名前】</b>	リリース・フォルダ、リリース、またはサイクルの名前です。
<b>【開始日】</b>	リリースまたはサイクルが開始される日付です。カレンダーを表示して開始日を選択するには、下向き矢印をクリックします。
<b>【終了日】</b>	リリースまたはサイクルが終了する日付です。カレンダーを表示して終了日を選択するには、下向き矢印をクリックします。
<b>【リリース ID】</b>	Quality Center によってリリースに自動的に割り当てられる一意の ID 番号です。リリース ID は読み取り専用です。
<b>【サイクル ID】</b>	Quality Center によってサイクルに自動的に割り当てられる一意の ID 番号です。サイクル ID は読み取り専用です。
<b>Statistics</b>	リリースおよびサイクルに割り当てられている要件およびテスト・セット・フォルダの統計です。
<b>【詳細】</b>	リリース・フォルダ、リリース、またはサイクルの説明です。

**注：**

- ▶ サイクルの日付は、リリースの日付内に含まれている必要があります。
  - ▶ リリース・モジュールでは、ユーザ定義フィールドの追加や、フィールドのラベルの変更ができます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
  - ▶ スクリプト・エディタを使用して、リリース・モジュールに表示されるフィールドと値を制限し、動的に変更することができます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
-





# 第 10 章

---

## リリース・ツリーの開発

アプリケーション・リリースの発行は困難な場合があります。これには、ビジネス優先度および品質の期待値をプロジェクトの要件、テスト、および不具合と調整する必要があります。ほとんどのアプリケーションでは、複数のハードウェア・プラットフォーム、複数のシステム構成（コンピュータ、オペレーティング・システム、およびブラウザ）、およびアプリケーションの複数のバージョンを対象にテストを行う必要があります。アプリケーション・リリースのあらゆる面を管理することは、時間のかかる困難な作業です。リリース・モジュールでは、リリース・ツリーを定義することによって、次のリリースを整理および追跡できます。

---

**Quality Center のエディション**：リリース・モジュールは、Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition で利用できます。

---

### 本章の内容

- ▶ リリース・ツリーの開発について（130 ページ）
- ▶ リリース・ツリーの作成（135 ページ）
- ▶ リリース・フォルダへのリリースの追加（136 ページ）
- ▶ リリースへのサイクルの追加（137 ページ）
- ▶ 割り当て済みの要件とテスト・セット・フォルダの表示（138 ページ）
- ▶ リリースとサイクルのカバレッジの進行状況の表示（139 ページ）
- ▶ リリースとサイクルの不具合の表示（143 ページ）
- ▶ リリース・ツリーの変更（145 ページ）

## リリース・ツリーの開発について

リリース・モジュールでは、リリースおよびサイクルを含む階層型リリース・ツリーを定義することによって、次のリリースを整理および追跡できます。**リリース**は、同時に配布可能な1つ以上のアプリケーションにおける変更のグループを示します。各リリースは多数のサイクルを含むことができます。**サイクル**は、プロジェクト・スケジュールに基づいた開発とQAのサイクルを示します。リリースとサイクルの両方において開始日と終了日を定義します。

リリース・ツリーを定義したら、要件モジュールで要件を定義してリリースおよびサイクルに割り当てます（第13章「要件ツリーの構築」を参照してください）。要件には、アプリケーションを対象にテストする必要がある事項の詳細が記述されます。

要件をカバーするには（特定のサイクルで開発されたすべての機能が完全にテストされることを確認するには）、テスト計画モジュールでテストを作成します（第18章「テスト計画ツリーの開発」および第19章「要件とテスト・カバレッジ」を参照してください）。

次に、テスト・ラボ・モジュールで、テスト・セットを保存するテスト・セット・フォルダを作成します。次に、テスト・セット・フォルダをサイクルに割り当てます。次に、テスト・セットをテスト・セット・フォルダに追加します。最後に、テストを各テスト・セットに追加することによって、テスト・カバレッジ計画を完成します（第28章「テスト・セットの作成」を参照してください）。

次にテスト・セットを実行します（第30章「テストの手動実行」および第31章「テストの自動実行」を参照してください）。アプリケーションの不具合が検出された場合、不具合を送信できます。これは、リリース・ツリーの特定のリリースおよびサイクルに割り当てます（第35章「不具合の追加と追跡」を参照してください）。これにより、すべての関連する開発者およびテスト担当者は、何を修正する必要があるか、および各修正の目標日を決定できます。

指定したテスト・セットを実行した後で、リリース・モジュールでリリースの進行状況を確認し、どの程度リリース目標を満たしているかを判断できます。また、検出された不具合の数、および未解決の不具合の数を判断することもできます。結果は、リリースまたはサイクルのレベルで分析できます。

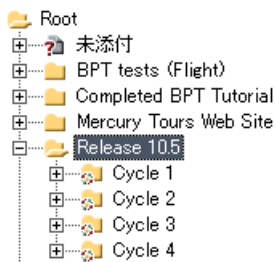
## リリース管理の例



航空券予約アプリケーションを開発しているとします。4 か月以内にバージョン 10.5 をリリースすることを計画しています。このリリースには 4 つのサイクルが含まれています。最初のサイクルは、新しい機能をテストするためのものです。2 つ目のサイクルは、回帰テストを行うためのものです。3 つ目のサイクルは、動作確認テストを行うためのものです。4 つ目のサイクルでは、アプリケーションが完全に機能することを確認します。このリリース・ツリーは、次のように定義されます。



要件モジュールでは、各サイクルでカバーする必要のある要件を判断し、それに応じて関連するサイクルに割り当てます。テスト計画モジュールでは、カバレッジを作成するために、テストを作成して割り当てた要件に関連付けます。

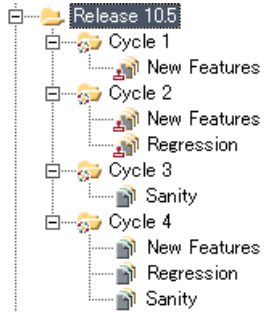
テスト・ラボ・モジュールでは、テスト・セット・フォルダを作成して特定のサイクルに割り当てます。たとえば、**Cycle 1**、**Cycle 2**、**Cycle 3**、および **Cycle 4** テスト・セット・フォルダを定義します。



テスト・セット・フォルダをサイクルに割り当てると、テスト・セット・フォルダのアイコン  は、割り当て済みテスト・セット・フォルダのアイコン  に置き換えられます。

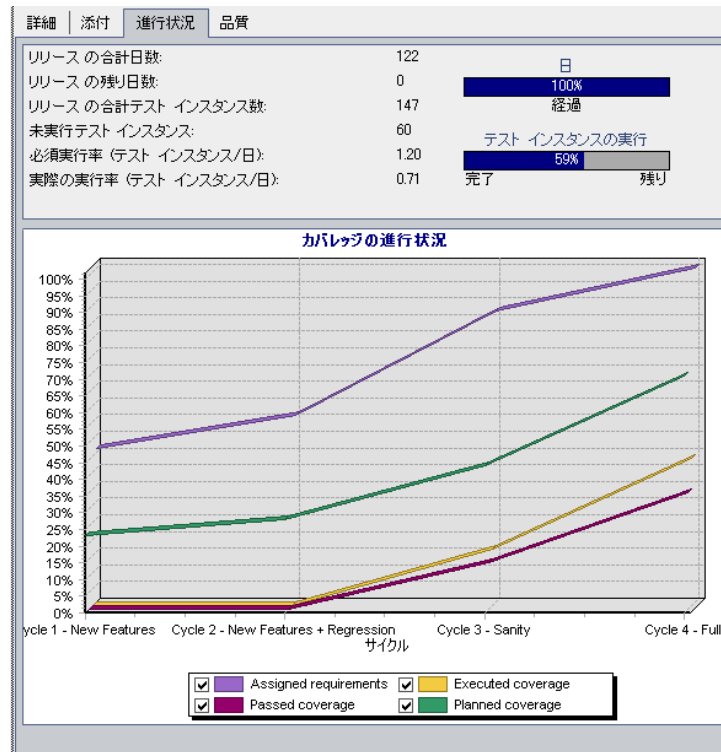
## 第10章・リリース・ツリーの開発

割り当てたテスト・セット・フォルダごとに、次に示すようにテスト・セットを作成してテストを追加します。



割り当てたテスト・セット・フォルダからテスト・セットを実行した後に、リリース・モジュールの [進行状況] タブで進行状況を確認し、どの程度リリース目標を満たしているかを判断できます。これにより、リリースの進行状況に関して上位レベルの概要を得ることができます。

次の図は、Release 10.5 の例における進行状況を示しています。



上部表示枠には、リリースの合計日数および残り日数、リリースのテスト・インスタンスの合計、実行する実際のテスト・インスタンスおよび残りテスト・インスタンスなどが表示されます。

下部表示枠には、カバレッジの進行状況グラフが表示されます。このグラフに表示される曲線は累積的なものです。つまり、各カーブは、リリースの開始からすべてのリリース情報を累積して計算されます。

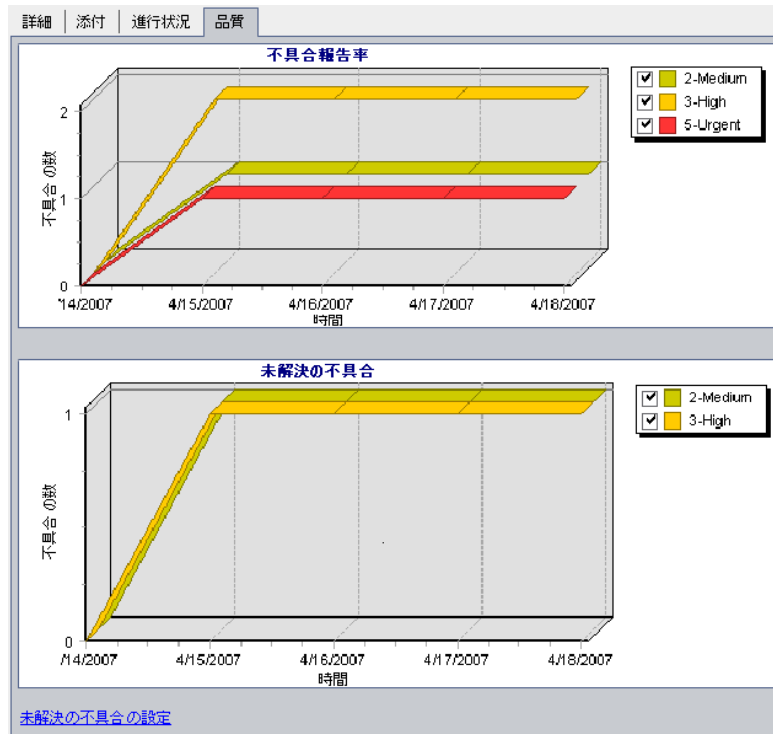
[Assigned requirements] 曲線は、リリースのサイクル内の割り当て済み要件の分布を示します。この例では、この曲線は、「**Cycle 4 - Full**」サイクルで 100% の値を示しています。

[Assigned requirements] 曲線の下に [Planned coverage] 曲線は、リリース全体にわたってカバーされる要件の割合を示しています。この例では、要件の 60% のみが「**Cycle 4 - Full サイクル**」でカバーされています。

[Planned coverage] 曲線の下に [Executed coverage] 曲線は、リリースの進捗とともに実行されたテストの割合を示しています。この例では、この曲線は、「Cycle 4 - Full」では割り当てられたテストの40%のみが実行されたことを示しています。

[Passed Coverage] 曲線は [Executed coverage] 曲線の下にあります。この曲線は、最新のステータスが成功であるテスト実行を示しています。この例では、この曲線は、「Cycle 4 - Full」サイクルで20%の値を示しています。

サイクルごとに、[品質] タブに送信された不具合の数およびその重要度を表示できます。**Release 10.5** テスト・セット・フォルダの **Cycle 1** テスト・セットの実行中に、4つのアプリケーションの不具合が検出されたとします。リリース・ツリーで **Cycle 1** の **New Features** サイクルを選択し、[品質] タブをクリックしてサイクル中に追加された不具合の数を表示します。不具合は、[1-Low] から [5-Urgent] までの重要度レベルで分類されます。




この [不具合報告率] グラフでは、最初のサイクルをテストする間に検出された 4 つの不具合のうち、2 つの不具合が重要度値 [3- High] を割り当てられ、1 つの不具合が [5- Urgent] を割り当てられ、1 つの不具合が [2- Medium] を割り当てられていることを確認できます。

[未解決の不具合] グラフでは、4 つの不具合のうち 2 つの不具合が未解決であることがわかります。一方の不具合は [2- Medium] を割り当てられ、他方の不具合は [3- High] を割り当てられています。

## リリース・ツリーの作成

リリース・ツリーを作成することによって、リリースに対して階層形式の枠組みを定義します。ツリー内のリリース・フォルダごとに、リリースを定義してサイクルを追加します。**リリース・ルート・フォルダ**でフォルダを追加することによってリリース・ツリーの作成を開始します。


リリース・ツリーを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 リリース・ツリーで、**リリース・フォルダ**を選択します。
- 2  **[新規リリース フォルダ]** ボタンをクリックするか、または [**リリース**] > **[新規リリース フォルダ]** を選択します。[フォルダの新規作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 **リリース・フォルダ名**を入力して [**OK**] をクリックします。新しいフォルダが、リリース・ツリーの [**リリース**] の下に追加されます。
- 4 **[詳細]** タブに、リリース・フォルダの説明を入力します。
- 5 **[添付]** タブをクリックし、必要に応じてフォルダに添付ファイルを追加します。ファイル、URL、アプリケーションのスナップショット、クリップボードからのアイテム、またはシステム情報を添付できます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。
- 6 追加のフォルダを作成するには、フォルダを選択してステップ 2 から 5 を繰り返します。

## リリース・フォルダへのリリースの追加

リリース・ツリーを作成したら、リリースをリリース・フォルダに追加します。定義したリリースごとに、サイクルを追加します。

リリースをリリース・フォルダに追加するには、次の手順を実行します。

- 1 リリース・ツリーでリリース・フォルダを選択します。
- 2  **[新規リリース]** ボタンをクリックするか、または **[リリース]** > **[新規リリース]** を選択します。**[新規リリース]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 **リリース名**を入力して **[OK]** をクリックします。選択したリリース・フォルダの下に新しいリリースが表示されます。
- 4 **[詳細]** タブに、次のリリースの詳細を入力します。

フィールド	説明
<b>[開始日]</b>	リリースが開始される日付です。カレンダーを表示して開始日を選択するには、下向き矢印をクリックします。
<b>[終了日]</b>	リリースが終了する日付です。カレンダーを表示して終了日を選択するには、下向き矢印をクリックします。
<b>[詳細]</b>	リリースの詳細を入力します。


- 5 **[添付]** タブをクリックし、必要に応じてリリースに添付ファイルを追加します。ファイル、URL、アプリケーションのスナップショット、クリップボードからのアイテム、またはシステム情報を添付できます。詳細については、第5章「添付ファイルの追加」を参照してください。
- 6 追加のリリースを作成するには、リリース・フォルダを選択してステップ2から5を繰り返します。



## リリースへのサイクルの追加

リリースをリリース・フォルダに追加したら、サイクルを各リリースに追加します。

サイクルをリリースに追加するには、次の手順を実行します。

- 1 リリース・ツリーでリリースを選択します。
- 2  **[新規サイクル]** ボタンをクリックするか、または **[リリース]** > **[新規サイクル]** を選択します。**[新規サイクル]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 **サイクル名**を入力して **[OK]** をクリックします。選択したリリースの下に新しいサイクルが表示されます。
- 4 **[詳細]** タブに、次のサイクルの詳細を入力します。

フィールド	説明
<b>[開始日]</b>	サイクルが開始される日付です。カレンダーを表示して開始日を選択するには、下向き矢印をクリックします。
<b>[終了日]</b>	サイクルが終了する日付です。カレンダーを表示して終了日を選択するには、下向き矢印をクリックします。
<b>[詳細]</b>	サイクルの詳細を入力します。

サイクルの日付は、リリースの日付内に含まれている必要があります。

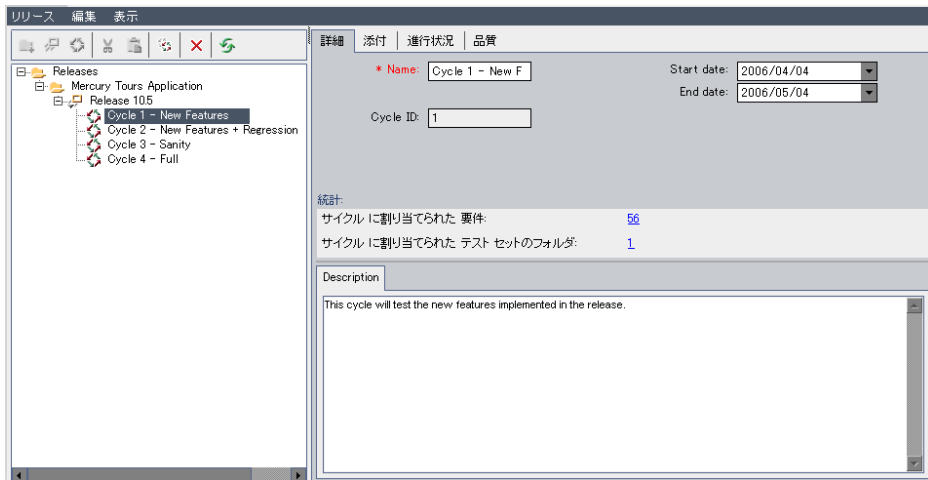
- 5 **[添付]** タブをクリックし、必要に応じてサイクルに添付ファイルを追加します。ファイル、URL、アプリケーションのスナップショット、クリップボードからのアイテム、またはシステム情報を添付できます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。
- 6 追加のサイクルを作成するには、リリースを選択してステップ 2 から 5 を繰り返します。

## 割り当て済みの要件とテスト・セット・フォルダの表示

リリースおよびサイクルに割り当てられている要件およびテスト・セット・フォルダの統計を表示できます。

リリースまたはサイクルに割り当てられている要件を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 リリース・ツリーで、リリースまたはサイクルを選択します。
- 2 **[詳細]** タブをクリックします。リリースまたはサイクルの詳細が表示されます。



- 3 リリースを選択した場合、**[統計]** 領域に次の統計が表示されます。

オプション	説明
<b>[リリースに割り当てられた要件]</b>	選択したリリースに関連付けられている要件の数が表示されます。要件モジュールでリリースに割り当てられている要件を表示するには、要件の数を示すリンクをクリックします。あるいは、リリース・ツリーでリリースを右クリックして <b>[要件の表示]</b> を選択します。

サイクルを選択した場合、**[統計]** 領域に次の統計が表示されます。

オプション	説明
<b>[サイクルに割り当てられた要件]</b>	選択したサイクルに関連付けられている要件の数が表示されます。要件モジュールでサイクルに割り当てられている要件を表示するには、要件の数を示すリンクをクリックします。あるいは、リリース・ツリーでサイクルを右クリックして <b>[要件の表示]</b> を選択します。
<b>[サイクルに割り当てられたテストセットフォルダ]</b>	選択したサイクルに関連付けられているテスト・セット・フォルダの数が表示されます。テスト・ラボ・モジュールでサイクルに割り当てられているテスト・セット・フォルダを表示するには、テスト・セット・フォルダの数を示すリンクをクリックします。あるいは、リリース・ツリーでサイクルを右クリックして <b>[テストセットフォルダの表示]</b> を選択します。

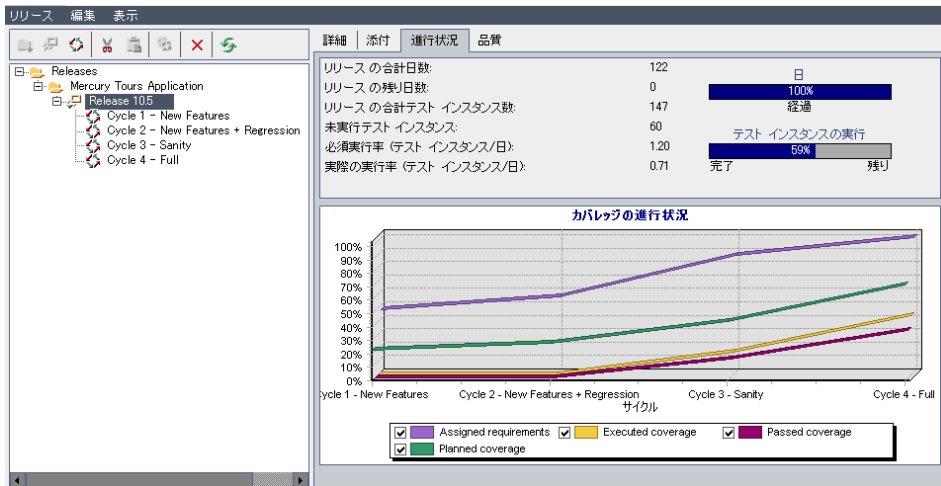
## リリースとサイクルのカバレッジの進行状況の表示

**[進行状況]** タブには、リリースまたはサイクルの現在の進行状況を視覚的に示す統計とグラフが表示されます。このタブには、経過日数および残り日数、完了したテスト・インスタンスおよび実行する残りテスト・インスタンス、ならびに実際の実行率および必要な実行率などの情報が表示されます。

リリースまたはサイクルのカバレッジの進行状況を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 リリース・ツリーでリリースまたはサイクルを選択します。

2 [進行状況] タブをクリックします。



リリースごとに、[進行状況] タブの上部表示枠に、次の情報が表示されます。

オプション	説明
[リリースの合計日数]	選択したリリースの合計日数です (終了日 - 開始日)。
[リリースの残り日数]	選択したリリースの残り合計日数です。
[リリースの合計テスト インスタンス数]	選択したリリースに割り当てられているテスト・セット・フォルダに含まれているテスト・インスタンスの合計数です。
[未実行テスト インスタンス]	選択したリリースの割り当て済みテスト・セット・フォルダに含まれている未実行のテスト・インスタンスの合計数です。
[必須実行率 (テスト インスタンス/日)]	選択したリリースの残り日において 1 日に必要なテスト・インスタンスの実行の平均数です。
[実際の実行率 (テスト インスタンス/日)]	選択したリリースの現在の日付までの 1 日あたりのテスト・インスタンスの実行の平均数です。
[日] (進行状況バー)	選択したリリースの経過日数の割合です。
[テスト インスタンスの実行] (進行状況バー)	選択したリリースで完了したテスト・インスタンスの実行の割合です。

サイクルごとに、[進行状況] タブの上部表示枠に、次の情報が表示されます。

オプション	説明
[サイクルの合計日数]	選択したサイクルの合計日数です（終了日 - 開始日）。
[サイクルの残り日数]	選択したサイクルの残り合計日数です。
[サイクルの合計テストインスタンス数]	選択したサイクルに割り当てられているテスト・セット・フォルダに含まれているテスト・インスタンスの合計数です。
[未実行テストインスタンス]	選択したサイクルの割り当て済みテスト・セット・フォルダに含まれている未実行のテスト・インスタンスの合計数です。
[必須実行率（テストインスタンス / 日）]	選択したサイクルの残り日において 1 日に必要なテスト・インスタンスの実行の平均数です。
実際の実行率（テストインスタンス / 日）]	選択したサイクルの現在の日付までの 1 日あたりのテスト・インスタンスの実行の平均数です。
[日]（進行状況バー）]	選択したサイクルの経過日数の割合です。
[テストインスタンスの実行]（進行状況バー）]	選択したサイクルで完了したテスト・インスタンスの実行の割合です。

- 3 選択したリリースの [カバレッジの進行状況] グラフをカスタマイズするには、次のオプションのチェック・ボックスを選択またはクリアします。

オプション	説明
[Assigned requirements]	リリース内のすべてのサイクルに割り当てられた要件の累積割合です。
[Planned coverage]	リリース内のすべてのサイクルに計画されているテストの累積割合です。
[Executed coverage]	リリース内のすべてのサイクルで実行されたテストの累積割合です。
[Passed coverage]	リリース内のすべてのサイクルで実行に成功したテストの累積割合です。

- 4 選択したサイクルの [カバレッジの進行状況] グラフをカスタマイズするには、次のオプションのチェック・ボックスを選択またはクリアします。

オプション	説明
[Planned coverage]	サイクル内に1日に実行することが計画されているテストの割合です。
[Executed coverage]	サイクル内に1日に実行されたテストの割合です。
[Passed coverage]	サイクル内に1日に実行に成功したテストの割合です。



- 5 [進行状況] タブのデータを更新するには、[**全て更新**] ボタンをクリックします。

## リリースとサイクルの不具合の表示

[品質] タブは、迅速に結論を導き出したり、リリースまたはサイクルの間に送信された不具合の数を確認したりするのに役立ちます。不具合はシステムの運用に与える影響の点から重要度によって分類されます。重要度レベルの範囲は、「**Low-1**」から「**Urgent-5**」まであります。アプリケーション管理プロセスのどの段階でもグラフを表示して、リリースの進行状況を確認できます。

リリースごとに、[品質] タブに次のグラフを表示できます。

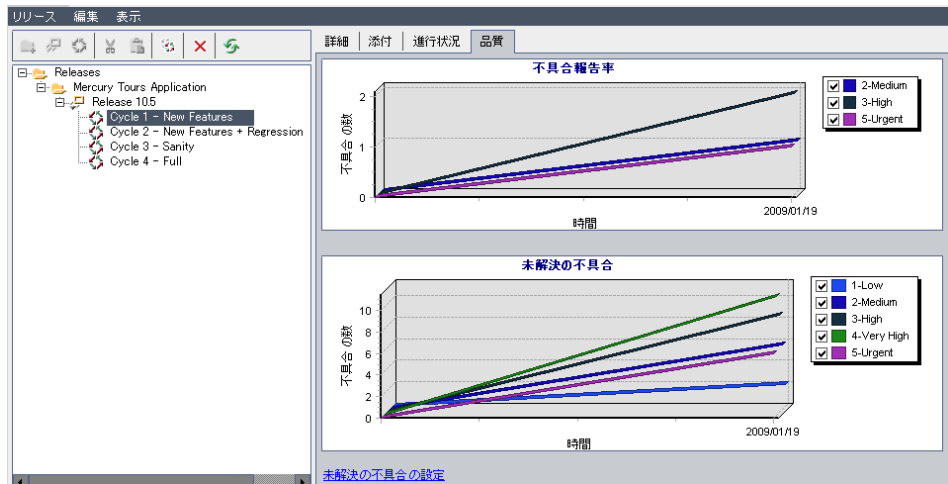
グラフ	説明
<b>[不具合報告率]</b>	リリースの間に追加された不具合の数が表示されます。グラフには、 <b>[検出リリース]</b> 値が選択したリリースに一致する不具合が表示されます。不具合は <b>[重要度]</b> のレベルによってグループ化されます。x軸には、各サイクルの最終日の重要度に基づいて不具合の数が表示されます。
<b>[未解決の不具合]</b>	選択したリリースの未解決の不具合の数が表示されます。グラフには、 <b>[ターゲットリリース]</b> 値が選択したリリースに一致する、または空の不具合が表示されます。不具合は <b>[重要度]</b> のレベルによってグループ化されます。x軸には、各サイクルの最終日の重要度に基づいて未解決の不具合の数が表示されます。標準設定では、「 <b>新規</b> 」、「 <b>修正中</b> 」、および「 <b>要再修正</b> 」の不具合が未解決とみなされます。

サイクルごとに、[品質] タブに次のグラフを表示できます。

グラフ	説明
[不具合報告率]	サイクルの間に追加された不具合の数が表示されます。グラフには、[検出サイクル] 値が選択したサイクルに一致する不具合が表示されます。不具合は [重要度] のレベルによってグループ化されます。x 軸には、既存の不具合の数が日付ごとに表示されます。
[未解決の不具合]	サイクルの未解決の不具合の数が表示されます。グラフには、[検出サイクル] 値が選択したサイクルに一致する不具合が表示されます。不具合は [重要度] のレベルによってグループ化されます。x 軸には、未解決の既存の不具合の数が日付ごとに表示されます。標準設定では、「新規」、「修正中」、および「要再修正」の不具合が未解決とみなされます。


リリースまたはサイクルの不具合を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 リリース・ツリーでリリースまたはサイクルを選択します。
- 2 [品質] タブをクリックします。



タブには、選択したリリースまたはサイクルの [不具合報告率] および [未解決の不具合] グラフが表示されます。



- 3 **[不具合報告率]** グラフでは、このグラフに表示される不具合の重要度レベルのチェック・ボックスを選択またはクリアできます。
- 4 **[未解決の不具合]** グラフでは、次の操作を行えます。
- ▶ このグラフに表示される不具合の重要度レベルのチェック・ボックスを選択またはクリアします。
  - ▶ ステータスによってフィルタ処理することによって、グラフに表示する不具合を決定します。**[未解決の不具合の設定]** をクリックします。**[未解決の不具合の設定]** ダイアログ・ボックスで不具合ステータスを選択し、矢印ボタン（>および<）をクリックして**[利用可能な不具合ステータス]**と**[可視不具合ステータス]**の間を移動させます。すべての種類を1つのリストから別のリストに移動するには、二重矢印のボタン（>>および<<）をクリックします。**[OK]** をクリックします。
-  5 **[品質]** タブのデータを更新するには、**[全て更新]** ボタンをクリックします。

## リリース・ツリーの変更

リリース・ツリーの修正に関する本項は、次の項目について説明します。

- ▶ リリース・フォルダ、リリース、およびサイクルの名前変更
- ▶ リリース・フォルダとリリースの移動
- ▶ サイクルの複製
- ▶ リリース・フォルダ、リリース、およびサイクルの削除

### リリース・フォルダ、リリース、およびサイクルの名前変更

リリース・フォルダ、リリース、またはサイクルは、名前を変更できます。

リリース・フォルダ、リリース、またはサイクルの名前を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 リリース・ツリーから項目を選択します。
- 2 **[編集]** > **[名前の変更]** を選択します。あるいは、リリース・フォルダ、リリース、またはサイクルを右クリックし、**[名前の変更]** を選択します。要件の名前を編集し、ENTER キーを押します。
- 3 項目名を編集し、ENTER キーを押します。

## リリース・フォルダとリリースの移動

リリース・フォルダまたはリリースは、リリース・ツリー内の別の場所に移動できます。リリース・フォルダを移動すると、対応するリリースとサイクルも移動されます。リリースを移動すると対応するサイクルも移動します。**リリース・ルート・フォルダは移動できません。**

---

**ヒント：**リリース・フォルダまたはリリースは、ドラッグすることでもリリース・ツリー内の新しい場所に移動できます。

---

リリース・フォルダまたはリリースを移動するには、次の手順を実行します。

- 1 リリース・ツリーでリリース・フォルダまたはリリースを選択します。複数の項目を移動するには、CTRL キーを押しながら移動する項目を選択します。



- 2 **[切り取り]** ボタンをクリックします。あるいは、**[編集]** > **[切り取り]** を選択します。

- 3 リリース・ツリーでフォルダを選択します。



- 4 **[貼り付け]** ボタンをクリックします。あるいは、**[編集]** > **[貼り付け]** を選択します。

## サイクルの複製

同じリリース内でサイクルの複製を作成できます。

サイクルを複製するには、次の手順を実行します。

- 1 リリース・ツリーで、サイクルを選択します。

複数のサイクルを複製するには、CTRL キーを押しながら複製するサイクルを選択します。選択する複数のサイクルは、同じリリースに属している必要があります。



- 2 **[サイクルの複製]** ボタンをクリックします。あるいは、**[編集]** > **[サイクルの複製]** を選択します。複製がリリースに追加されます。

## リリース・フォルダ、リリース、およびサイクルの削除


リリース・フォルダ、リリース、またはサイクルは削除できます。フォルダを削除すると、フォルダ内のリリースおよびサイクルも削除されます。リリースを削除すると、リリース内のサイクルも削除されます。

---

**注：**リリース・フォルダ、リリース、またはサイクルを削除すると、関連付けられている要件、テスト・セット・フォルダ、および不具合の割当ても解除されます。

---

リリース・フォルダ、リリース、またはサイクルを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 リリース・ツリーから項目を選択します。複数の項目を削除するには、CTRL キーを押しながら削除する項目を選択します。
- 2  **[削除]** ボタンをクリックします。あるいは、**[編集]** > **[削除]** を選択します。確認メッセージが表示されます。
- 3 **[はい]** ボタンをクリックして、確定します。項目が削除されます。



# 第 III 部

---

## 要件の定義



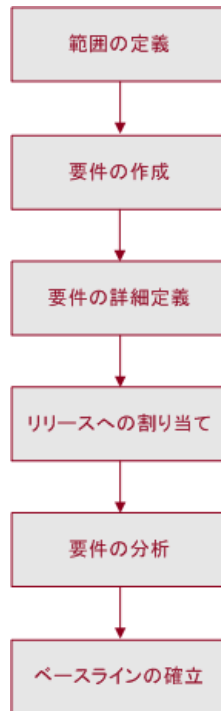
# 第 11 章

---

## 要件定義のワークフロー

要件とは、開発対象のアプリケーションの目的を達成するために、何を解決または実現する必要があるのかを詳細に記述するものです。

本章では、要件モジュールを使用して要件を定義する方法について説明します。要件定義のワークフローは、次の段階から構成されます。



---

**Quality Center Starter Edition** : Starter Edition を使用している場合、要件モジュールのフィールドおよび機能の中には使用できないものもあります。

---

## 要件範囲の定義

アプリケーションのライフ・サイクル管理プロセスを開始するにあたり、マーケティングやビジネスの要件定義書、システム要件定義書、設計書など、開発対象のアプリケーションに関して入手できるすべてのドキュメントを収集します。

こうしたドキュメントを使用して、開発対象のアプリケーションを完全に理解し、範囲、目標、目的、および戦略を決めます。

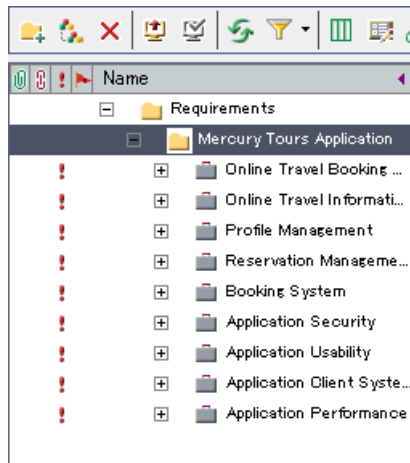
たとえば、次のようなことを知りたくなるのではないのでしょうか。

- ▶ アプリケーションの主な用途と方向性
- ▶ アプリケーションの重大な制約
- ▶ アプリケーションの主な機能
- ▶ アプリケーション機能における各要素の相対的な重要性
- ▶ アプリケーションの重要な機能、またはリスクの高い機能
- ▶ ビジネスおよびテストの優先度
- ▶ あなたが考える優先度と顧客やエンド・ユーザの優先度との一致
- ▶ 全体的な品質の目標



## 要件のアウトライン作成

開発対象のアプリケーションの全体的な要件を決定するには、要件範囲を使用します。そして、要件タイプまたは機能領域に基づいて、さまざまな要件グループを定義します。「要件ツリー」を作成することによって、要件モジュールに要件グループを記録します。**要件ツリー**は要件定義を視覚的に表したもので、要件間の階層関係を示すものです。



たとえば、フライトのスケジューリング、搭乗予約、および航空券販売を管理する航空券予約アプリケーション（デモ・アプリケーションは英語）の場合を考えてみます。主な要件として、Online Travel Booking Services, Online Travel Information Source, Profile Management, Reservation Management, Booking System, Application Security, Application Usability, Application Client System および Application Performance などが考えられます。

詳細については、第 13 章「要件ツリーの構築」を参照してください。

## 要件の詳細定義

要件グループごとに、要件ツリーに詳細な要件のリストを作成します。たとえば、要件の「**Profile Management**」は、次の要件に分けることができます。



ツリーの各要件を詳細に記述し、必要に応じて添付ファイルを含めることができます。そして、テスト計画を作成するときに考慮すべき優先度レベルを要件に割り当てます。

要件を定義したら、要件間にトレーサビリティを追加できます。特定の要件に対して提案されている変更の影響を分析する際、トレーサビリティを使用すれば、変更の影響を受ける可能性がある要件がわかります。詳細については、第 14 章「要件の追跡」を参照してください。

## リリースへの要件の割り当て

要件は、リリース・モジュールのリリース・ツリーのリリースおよびサイクルに割り当てることができます。リリース・ツリーの階層ツリー構造の中に、過去、現在、そして今後の製品リリースが明記されます。「**リリース**」は、一度の配布で提供される、1 つ以上のアプリケーションの変更のグループを意味します。「**サイクル**」は、リリースのスケジュールに基づいて、共通の目標を達成するために行われる一連の開発および品質保証作業です。要件の割り当ての詳細については、184 ページ「リリースまたはサイクルへの要件の割り当て」を参照してください。

割り当てられた要件は、次に、テスト計画モジュールでテスト計画の基礎として使用されます。テスト計画段階で作成したテストは、割り当てられた要件にリンクしてカバレッジを作成するのに使用されます。要件およびテスト・カバレッジの詳細については、第 19 章「要件とテスト・カバレッジ」を参照してください。

## 要件定義の分析

要件をレビューし、先に定義した範囲に合致していることを確認します。要件を承認したら、要件のステータスを「**レビュー未完了**」から「**レビュー済み**」に変更します。

リスク・ベースのテストは、使用可能なリソースの割り当て方法を決定する際に役立ちます。詳細については、第 15 章「要件のリスクの計算」を参照してください。

要件のレビューに役立つレポートやグラフが作成できます。詳細については、第 40 章「ダッシュボード・モジュール」を参照してください。

## ベースラインの確立

要件のレビューおよび承認が終わったら、要件のベースラインを作成します。ベースラインは、関係者全員が承認する責任を持つ取り決めとして使用できます。その場合、このベースラインは、変更を比較できる参照ポイントとなります。要件のベースラインは、持続的な有効性が確保されるように、プロジェクト全体を通じてレビューできます。

ベースラインの詳細については、第 38 章「ライブラリとベースライン」を参照してください。



# 第 12 章

---

## 要件モジュールの概要

本章では、要件モジュールの主な要素について説明しています。

### 本章の内容

- ▶ 要件モジュール (157 ページ)
- ▶ 要件メニュー・バー (168 ページ)
- ▶ 要件ツールバー (169 ページ)
- ▶ 要件フィールド (172 ページ)

## 要件モジュール



Quality Center では、要件を指定するのに要件モジュールを使用します。要件モジュールは、サイドバーの **[要件]** ボタンをクリックして開きます。

要件は、以下のビューに表示できます。

- ▶ 要件ツリー
- ▶ 要件の詳細
- ▶ 要件グリッド
- ▶ カバレッジ・アナリシス

**注：**要件は、Microsoft Word, Excel, またはその他のサード・パーティ製の要件管理ツールから Quality Center プロジェクトにインポートすることもできます。要件をインポートするには、まず適切な HP Quality Center アドインをインストールする必要があります。詳細については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

**Quality Center Starter Edition：** Starter Edition を使用している場合、要件モジュールのフィールドおよび機能の中には使用できないものもあります。

## 要件ツリー

要件ツリー・ビューでは、要件をツリー形式で表示できます。





The screenshot shows the HP Quality Center interface with a tree view of requirements. The top menu bar includes '要件', '編集', '表示', 'バージョン', 'お気に入り', and 'アナリシス'. The toolbar contains various icons for navigation and editing. The main area displays a table of requirements under the 'Requirements' folder.


Name	Direct Cover Status	Reviewed	ReqID	Requirement Type	Author
Requirements	-----	レビュー未完了	0	フォルダ	
Mercury Tours Application	-----	レビュー未完了	3	フォルダ	alex_qc
Online Travel Booking Services	-----	レビュー未完了	4	ビジネス	alex_qc
Online Travel Information Source	-----	レビュー未完了	5	ビジネス	alex_qc
Profile Management	-----	レビュー未完了	8	ビジネス	alex_qc
Reservation Management	-----	レビュー未完了	71	ビジネス	robert_qc
Booking System	-----	レビュー未完了	7	ビジネス	alex_qc
Application Security	-----	レビュー未完了	20	ビジネス	alex_qc
Application Usability	-----	レビュー未完了	45	ビジネス	shelly_qc
Application Client System	-----	レビュー未完了	42	ビジネス	shelly_qc
Application Performance	-----	レビュー未完了	46	ビジネス	shelly_qc

At the bottom, there are tabs for 'Description', 'Comments', '添付ファイル', '履歴', and 'RichContent'. The 'Description' tab is currently selected and is empty.

要件ツリー・ビューに表示される主な要素は、次のとおりです。

- ▶ **要件メニュー・バー**：要件モジュールのコマンドのドロップダウン・メニューが表示されます。詳細については、168 ページ「要件メニュー・バー」を参照してください。
- ▶ **要件ツールバー**：要件の作成および変更を行う場合によく使用するコマンドのボタンが含まれます。詳細については、169 ページ「要件ツールバー」を参照してください。
- ▶ **インジケータ・カラム**：指定された要件に添付ファイル、リンクされている不具合、警告、フォローアップ・フラグがあることを示します。このカラムを表示するには、**[表示]** > **[インジケータ カラム]** を選択します。

カラム	説明
添付ファイル	 アイコンをクリックすると、要件の添付ファイルが表示されます。詳細については、第5章「添付ファイルの追加」を参照してください。
リンクされている不具合	 アイコンをクリックすると、要件のリンクされている不具合が表示されます。詳細については、第36章「不具合のリンク」を参照してください。
警告	 アイコンをクリックすると、要件の警告が表示されます。詳細については、82 ページ「警告の表示」を参照してください。
フォローアップ・フラグ	 アイコンをクリックすると、要件のフォローアップ警告が表示されます。詳細については、84 ページ「フォローアップ・フラグの設定」を参照してください。

- ▶ **要件ツリー**：要件がツリー形式で表示されます。
- ▶ **情報パネル**：[詳細]、[コメント]、[添付ファイル]、[履歴]、[リッチテキスト] のタブが表示されます。このタブを表示するには、**[表示]** > **[情報パネル]** を選択するか、**[表示]** ボタン  をクリックします。

タブ	説明
[詳細]	現在選択されている要件の説明が表示されます。
[コメント]	現在選択されている要件についてのコメントが表示されます。

タブ	説明
[添付ファイル]	現在選択されている要件に関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。
[履歴]	現在選択されている要件に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、194 ページ「要件の履歴の表示」を参照してください。また、要件が表示されるベースラインの履歴も示されます。詳細については、539 ページ「ベースラインの履歴の表示」を参照してください。
[リッチ テキスト]	Quality Center から直接、Microsoft Word リッチ・テキストを追加、表示、および編集できます。詳細については、185 ページ「要件へのリッチ・テキストの追加」を参照してください。

---

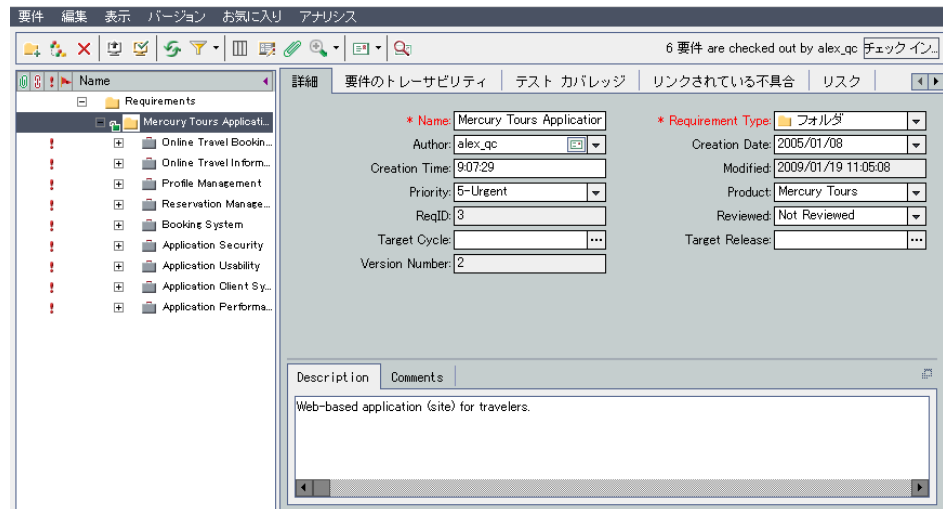
**ヒント：**要件ツリー・ビューで [要件 ID] を基に特定の要件を検索するには、[要件] > [要件へ移動] を選択し、要件 ID を入力します。要件 ID を表示するには、[カラムの選択] ダイアログ・ボックスで「要件 ID」カラムを選択します。現在のフィルタ内の要件にのみ移動できます。

---



## 要件の詳細





要件の詳細ビューでは、要件とほかのエンティティとの間にリンクを作成できます。また、要件のリスクの計算および分析を行うこともできます。



要件の詳細ビューに表示される主な要素は、次のとおりです。

- ▶ **要件メニュー・バー**：要件モジュールのコマンドのドロップダウン・メニューが表示されます。詳細については、168 ページ「要件メニュー・バー」を参照してください。
- ▶ **要件ツールバー**：要件の作成および変更を行う場合によく使用するコマンドのボタンが含まれます。詳細については、169 ページ「要件ツールバー」を参照してください。

- ▶ **インジケータ・カラム**：指定された要件に添付ファイル、リンクされている不具合、警告、フォローアップ・フラグがあることを示します。このカラムを表示するには、**[表示]** > **[インジケータ カラム]** を選択します。

カラム	説明
添付ファイル	 アイコンをクリックすると、要件の添付ファイルが表示されます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。
リンクされている不具合	 アイコンをクリックすると、要件のリンクされている不具合が表示されます。詳細については、第 36 章「不具合のリンク」を参照してください。
警告	 アイコンをクリックすると、要件の警告が表示されます。詳細については、82 ページ「警告の表示」を参照してください。
フォローアップ・フラグ	 アイコンをクリックすると、要件のフォローアップ警告が表示されます。詳細については、84 ページ「フォローアップ・フラグの設定」を参照してください。

- ▶ **要件ツリー**：要件がツリー形式で表示されます。
- ▶ **[詳細] タブ**：現在選択されている要件についての詳細が表示されます。また、このタブには次のタブが含まれています。

タブ	説明
<b>[説明]</b>	現在選択されている要件の説明が表示されます。
<b>[コメント]</b>	現在選択されている要件についてのコメントが表示されます。

[詳細] タブに表示されるフィールドの詳細については、172 ページ「要件フィールド」を参照してください。

- ▶ **[要件のトレーサビリティ] タブ**：現在選択されている要件にリンクされている要件の一覧です。詳細については、第 14 章「要件の追跡」を参照してください。
- ▶ **[テスト カバレッジ] タブ**：現在選択されている要件に関連付けられているテストの一覧です。詳細については、第 19 章「要件とテスト・カバレッジ」を参照してください。

- ▶ **[リンクされている不具合] タブ**：現在選択されている要件にリンクされている不具合の一覧です。詳細については、第 36 章「不具合のリンク」を参照してください。
- ▶ **[リスク] タブ**：要件のリスクの計算および分析を行います。詳細については、第 15 章「要件のリスクの計算」を参照してください。
- ▶ **[添付ファイル] タブ**：現在選択されている要件に関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。
- ▶ **[リッチ テキスト]**：Quality Center から直接、Microsoft Word リッチ・テキストを追加、表示、および編集できます。詳細については、185 ページ「要件へのリッチ・テキストの追加」を参照してください。
- ▶ **[履歴] タブ**：現在選択されている要件に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、194 ページ「要件の履歴の表示」を参照してください。また、要件が表示されるベースラインの履歴も示されます。詳細については、539 ページ「ベースラインの履歴の表示」を参照してください。

---

**ヒント**：要件の詳細ビューで **[要件 ID]** を基に特定の要件を検索するには、**[要件]** > **[要件へ移動]** を選択し、要件 ID を入力します。要件 ID を表示するには、**[カラムの選択]** ダイアログ・ボックスで「**要件 ID**」カラムを選択します。現在のフィルタ内の要件にのみ移動できます。

---


## 要件グリッド




要件グリッド・ビューでは、要件を表形式の非階層型のビューとして表示できます。グリッドの各行には、要件が個別に表示されます。


Name	Requirement	Direct Cover	Reviewed	Author	Priority	Target Cycle	Target Rele	Creation Da	Crea
Flight Ticket	機能	Failed	Reviewed	shelly_gc	5-Urgent	Cycle 1 - New Features;Cycle 3 - Sani	Release 10.5	2005/01/08	101E
Authorized Ir	Security	Not Covered	Not Reviewe	robert_gc	5-Urgent	Cycle 1 - New Features;Cycle 2 - New	Release 10.5	2005/01/09	1317
Itineraries In	機能	Not Covered	Not Reviewe	alex_gc	2-Medium	Cycle 2 - New Features + RegressionC	Release 10.5	2005/01/08	105E
Secure Purc	機能	Not Complet	Not Reviewe	alex_gc	5-Urgent	Cycle 1 - New Features;Cycle 2 - New	Release 10.5	2005/01/08	1312
Credit Card	グループ	N/A	Not Reviewe	alex_gc	4-Very High	Cycle 1 - New Features;Cycle 2 - New	Release 10.5	2005/01/10	105C
Change Pass	機能	Not Covered	Not Reviewe	robert_gc	2-Medium			2005/01/24	144C
Airline Comp	グループ	N/A	Not Reviewe	robert_gc	5-Urgent	Cycle 1 - New Features;Cycle 2 - New	Release 10.5	2005/02/07	124C
One-Way Tri	機能	Not Complet	Not Reviewe	robert_gc	3-High	Cycle 1 - New Features;Cycle 3 - Sani	Release 10.5	2005/01/30	1419
Encrypted Tr	Security	Not Covered	Not Reviewe	robert_gc	5-Urgent	Cycle 1 - New Features;Cycle 2 - New	Release 10.5	2005/01/09	1207
Connect To	Testing	Passed	Not Reviewe	cecil_gc	4-Very High	Cycle 3 - Sanity	Release 10.5	2005/02/27	105E
Size	Testing	Failed	Not Reviewe	robert_gc	1-Low	Cycle 4 - Full	Release 10.5	2005/01/29	120E
Names Of P	機能	Failed	Reviewed	robert_gc	4-Very High	Cycle 2 - New Features + Regression;C	Release 10.5	2008/10/15	125E
Lists Correct	機能	Failed	Not Reviewe	michael_gc	2-Medium	Cycle 3 - Sanity;Cycle 4 - Full	Release 10.5	2005/02/20	1019
Microsoft W	Testing	Not Covered	Not Reviewe	robert_gc	3-High	Cycle 4 - Full	Release 10.5	2005/01/23	101C
Access Auth	グループ	N/A	Not Reviewe	alex_gc	5-Urgent	Cycle 1 - New Features;Cycle 2 - New	Release 10.5	2005/01/08	131E
Blue Skies P	Security	Not Covered	Not Reviewe	alice_gc	4-Very High	Cycle 1 - New Features;Cycle 2 - New	Release 10.5	2005/02/13	1513
Registration	グループ	N/A	Not Reviewe	robert_gc	4-Very High			2005/01/24	125E
Data Access	Security	Not Covered	Not Reviewe	robert_gc	5-Urgent	Cycle 1 - New Features;Cycle 2 - New	Release 10.5	2005/01/09	1351
Operating Sy	グループ	N/A	Not Reviewe	shelly_gc	3-High	Cycle 4 - Full	Release 10.5	2005/01/21	9344
American Ex	Security	Not Covered	Not Reviewe	alice_gc	4-Very High	Cycle 1 - New Features;Cycle 2 - New	Release 10.5	2005/02/13	1514

要件グリッド・ビューに表示される主な要素は、次のとおりです。

- ▶ **要件メニュー・バー**：要件モジュールのコマンドのドロップダウン・メニューが表示されます。詳細については、168 ページ「要件メニュー・バー」を参照してください。
- ▶ **要件ツールバー**：要件の作成および変更を行う場合によく使用するコマンドのボタンが含まれます。詳細については、169 ページ「要件ツールバー」を参照してください。
- ▶ **インジケータ・カラム**：指定された要件に添付ファイル、リンクされている不具合、警告、フォローアップ・フラグがあることを示します。このカラムを表示するには、**[表示] > [インジケータ カラム]** を選択します。

カラム	説明
添付ファイル	 アイコンをクリックすると、要件の添付ファイルが表示されます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。

カラム	説明
リンクされている不具合	 アイコンをクリックすると、要件のリンクされている不具合が表示されます。詳細については、第 36 章「不具合のリンク」を参照してください。
警告	 アイコンをクリックすると、要件の警告が表示されます。詳細については、82 ページ「警告の表示」を参照してください。
フォローアップ・フラグ	 アイコンをクリックすると、要件のフォローアップ警告が表示されます。詳細については、84 ページ「フォローアップ・フラグの設定」を参照してください。

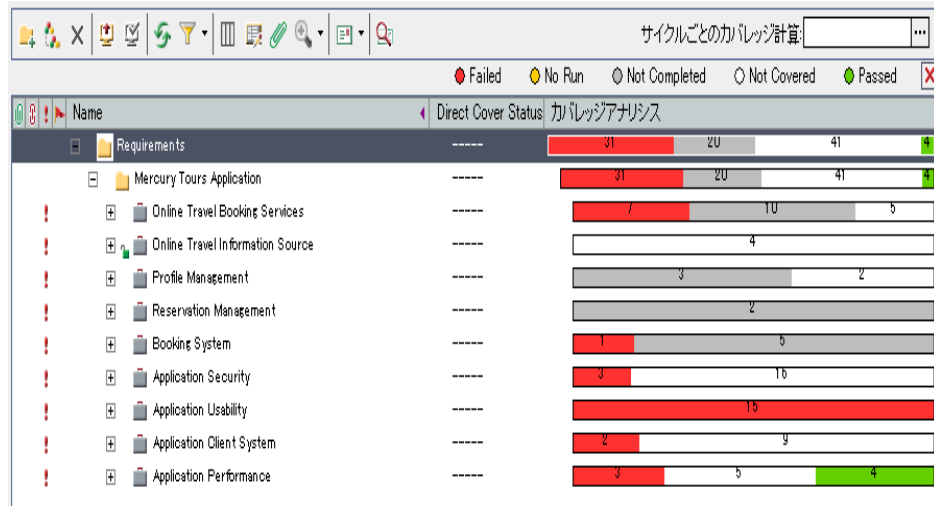
- ▶ **情報パネル**：[詳細]，[コメント]，[添付ファイル]，[履歴]，[リッチテキスト] のタブが表示されます。このタブを表示するには、[表示] > [情報パネル] を選択するか、[表示] ボタン  をクリックします。

タブ	説明
[詳細]	現在選択されている要件の説明が表示されます。
[コメント]	現在選択されている要件についてのコメントが表示されます。
[添付ファイル]	現在選択されている要件に関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。
[履歴]	現在選択されている要件に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、194 ページ「要件の履歴の表示」を参照してください。また、要件が表示されるベースラインの履歴も示されます。詳細については、539 ページ「ベースラインの履歴の表示」を参照してください。
[リッチテキスト]	Quality Center から直接、Microsoft Word リッチ・テキストを追加、表示、および編集できます。詳細については、185 ページ「要件へのリッチ・テキストの追加」を参照してください。

**ヒント**：要件グリッド・ビューで [要件 ID] を基に特定の要件を検索するには、[要件] > [要件へ移動] を選択し、要件 ID を入力します。要件 ID を表示するには、[カラムの選択] ダイアログ・ボックスで「要件 ID」カラムを選択します。

## カバレッジ・アナリシス





カバレッジ・アナリシス・ビューでは、テスト・カバレッジのステータスに応じて、子要件の詳細を分析できます。




カバレッジ・アナリシス・ビューに表示される主な要素は、次のとおりです。

- ▶ **要件メニュー・バー**：要件モジュールのコマンドのドロップダウン・メニューが表示されます。詳細については、168 ページ「要件メニュー・バー」を参照してください。
- ▶ **要件ツールバー**：要件の作成および変更を行う場合によく使用するコマンドのボタンが含まれます。詳細については、169 ページ「要件ツールバー」を参照してください。

- ▶ **インジケータ・カラム**：指定された要件に添付ファイル、リンクされている不具合、警告、フォローアップ・フラグがあることを示します。このカラムを表示するには、**[表示]** > **[インジケータ カラム]** を選択します。

カラム	説明
添付ファイル	 アイコンをクリックすると、要件の添付ファイルが表示されます。詳細については、第5章「添付ファイルの追加」を参照してください。
リンクされている不具合	 アイコンをクリックすると、要件のリンクされている不具合が表示されます。詳細については、第36章「不具合のリンク」を参照してください。
警告	 アイコンをクリックすると、要件の警告が表示されます。詳細については、82ページ「警告の表示」を参照してください。
フォローアップ・フラグ	 アイコンをクリックすると、要件のフォローアップ警告が表示されます。詳細については、84ページ「フォローアップ・フラグの設定」を参照してください。

- ▶ **要件ツリー**：要件がツリー形式で表示されます。
- ▶ **情報パネル**：[詳細]、[コメント]、[添付ファイル]、[履歴]、[リッチテキスト]のタブが表示されます。このタブを表示するには、**[表示]** > **[情報パネル]** を選択するか、**[表示]** ボタン  をクリックします。

タブ	説明
[詳細]	現在選択されている要件の説明が表示されます。
[コメント]	現在選択されている要件についてのコメントが表示されます。
[添付ファイル]	現在選択されている要件に関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、第5章「添付ファイルの追加」を参照してください。

タブ	説明
[履歴]	現在選択されている要件に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、194 ページ「要件の履歴の表示」を参照してください。また、要件が表示されるベースラインの履歴も示されます。詳細については、539 ページ「ベースラインの履歴の表示」を参照してください。
[リッチ テキスト]	Quality Center から直接、Microsoft Word リッチ・テキストを追加、表示、および編集できます。詳細については、185 ページ「要件へのリッチ・テキストの追加」を参照してください。

---

**ヒント：**要件の詳細ビューで [要件 ID] を基に特定の要件を検索するには、[要件] > [要件へ移動] を選択し、要件 ID を入力します。要件 ID を表示するには、[カラムの選択] ダイアログ・ボックスで「要件 ID」カラムを選択します。現在のフィルタ内の要件にのみ移動できます。

---

## 要件メニュー・バー

要件メニュー・バーには、次のメニューがあります。メニュー・バーで使用できるメニューおよびコマンドは、要件ビューに応じて変わります。

- ▶ [要件] メニューには、ツリーへの要件の追加、ツリー内の要件の検索、要件に基づくテストの生成、要件の詳細の表示、要件のメール送信を行うためのコマンドがあります。
- ▶ [編集] メニューには、要件の切り取り、コピー、貼り付け、名前の変更、削除、置換、検索を行うためのコマンドがあります。また、要件の警告の表示やクリアを行ったり、要件にフォローアップ・フラグを設定したりすることもできます。警告とフォローアップの詳細については、第 4 章「変更発生時の警告」を参照してください。
- ▶ [表示] メニューには、要件ツリーまたは要件グリッドの表示の設定、要件のフィルタリングと並べ替え、表示されているカラムの設定、要件ビューの選択を行うためのコマンドがあります。



- ▶ **[バージョン]** メニューは、バージョン管理が有効になっているプロジェクトで使用できます。このメニューには、要件のチェックインおよびチェックアウト、チェックアウトの取り消し、チェックアウトしたすべての要件の表示を行うためのコマンドがあります。詳細については、第7章「バージョン・コントロールを使った作業」を参照してください。
- ▶ **[お気に入り]** メニューには、お気に入りのビューの追加、整理、およびロードを行うためのコマンドがあります。詳細については、95 ページ「お気に入りビューを使用した作業」を参照してください。
- ▶ **[アナリシス]** メニューには、要件レポートおよびグラフを作成するためのコマンドがあります。要件レポートの詳細については第42章「標準レポートの作成」を、要件グラフの詳細については第41章「グラフの作成」を参照してください。

---

**ヒント：**F9 ショートカット・キーを押せば、要件モジュールから要件メニュー・バーにアクセスできます。さらに、ショートカット・キーを使用してほかの多くの Quality Center 操作を実行できます。ショートカット・キーの一覧は、付録 B「Quality Center キーボード・ショートカット」を参照してください。

---

## 要件ツールバー

要件ツールバーには、次のボタンがあります。ツールバーで使用できるボタンは、要件ビューに応じて変わります。



**[フォルダの新規作成]**：要件ツリーに新規フォルダを追加します。



**[要件の新規作成]**：要件ツリーに新規要件を追加します。



**[削除]**：選択した要件またはフォルダを削除します。要件を削除すると、その子要件、テスト・カバレッジ、不具合のリンク、および添付ファイルも削除されます。



**[すべて更新]**：最新の要件が表示されるように、要件ツリーまたは要件グリッドを更新します。



[**フィルタ / 並べ替えの設定**] : 次のオプションがあります。

- ▶ [**フィルタ / 並べ替えの設定**] : [フィルタ] ダイアログ・ボックスが開き、要件ツリーまたは要件グリッドの要件のフィルタ処理と並べ替えを実行できます。
- ▶ [**フィルタ / 並べ替えのクリア**] : 要件ツリーまたは要件グリッドに適用されているフィルタや並べ替えをクリアします。



[**カラムの選択**] : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、要件ツリーまたは要件グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、52 ページ「カラムの配置」を参照してください。



[**要件詳細**] : [要件詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択した要件の詳細を表示できます。詳細については、186 ページ「要件の更新」を参照してください。



[**添付ファイル**] : [要件の詳細] ダイアログ・ボックスの添付ファイル・ビューが開き、選択した要件に添付ファイルを追加できます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。



[**要件ツリーで要件に移動**] : 要件グリッド・ビューから要件ツリー・ビューに移動し、選択された要件を強調表示します。



[**拡大表示**] : 要件ツリーでの詳細レベルを変更します。詳細については、193 ページ「ツリーの表示倍率」を参照してください。



[**電子メールで送信**] : [電子メールの送信] ダイアログ・ボックスが開き、リストから選択した宛先、または要件の作成者宛てに電子メールで要件を送信できます。詳細については、196 ページ「電子メールでの要件の送信」を参照してください。



[**テキスト検索**] : ウィンドウの下部にテキスト検索の表示枠が開き、キーワードを入力して定義済みフィールドを検索できます。詳細については、73 ページ「レコードの検索」を参照してください。

[**お気に入り**] : [**お気に入り**] の矢印をクリックすると、お気に入りのビューのリストが表示されます。お気に入りのビューでは、ユーザの設定を適用した Quality Center ウィンドウを再ロードできます (これは要件グリッド・ビューでのみ使用できます。[お気に入り] バーを表示するには、[表示] > [**お気に入りバー**] を選択します)。お気に入りビューの詳細については、第 6 章「お気に入りビューを使用した作業」を参照してください。

[バージョン管理]：要件ツールバーには、バージョン管理のための次のような追加ボタンがあります。



▶ [チェックアウト]：[チェックアウト] ダイアログ・ボックスが開き、選択された要件をチェックアウトできます。



▶ [チェックイン]：[チェックイン] ダイアログ・ボックスが開き、選択された要件をチェックインできます。

バージョン管理の詳細については、第7章「バージョン・コントロールを使った作業」を参照してください。

## 要件フィールド







要件モジュールには、次のフィールドが表示されます。

フィールド	説明
[作成者]	要件を作成したユーザの名前。標準設定では、ログイン・ユーザ名が表示されます。
[コメント]	要件に関するコメントが表示されます。
[作成日]	要件が作成された日付。標準設定では、データベース・サーバの現在の日付に設定されます。下矢印をクリックしてカレンダーを表示し、別の作成日を選択できます。
[作成時間]	要件が作成された時刻。標準設定では、データベース・サーバの現在の時刻に設定されます。
[詳細]	要件の説明。
[直接カバレッジステータス]	<p>要件の現在のステータス。標準設定のステータスは、「<b>Not Covered</b>」(カバーなし)です。</p> <p>要件ステータスは、次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「<b>Not Covered</b>」(カバーなし)：要件がテストにリンクされていません。</li> <li>▶ 「<b>Failed</b>」(失敗)：要件がカバーする1つ以上のテストの実行ステータスが「失敗」になっています。</li> <li>▶ 「<b>Not Completed</b>」(未完了)：要件がカバーする1つ以上のテストの実行ステータスが「未完了」になっています。</li> <li>▶ 「<b>Passed</b>」(成功)：要件がカバーするすべてのテストの実行ステータスが「成功」になっています。</li> <li>▶ 「<b>No Run</b>」(実行しない)：要件がカバーするすべてのテストの実行ステータスが「実行しない」になっています。</li> <li>▶ 「<b>N/A</b>」(該当なし)：要件の現在のステータスは不明です。</li> <li>▶ 「<b>-----</b>」：カバレッジをサポートしない要件タイプに属しているため、この要件には直接カバレッジ・ステータスがありません。</li> </ul>
[更新日時]	要件が最後に変更された日時。
[名前]	要件の名前。

フィールド	説明
[古いタイプ (旧型)] (前のバージョンでは [タイプ])	要件の種類 (旧型)。以前のバージョンの Quality Center では、プロジェクトに設定されている値ならどれでも (通常値は「Change」, 「Functional」, 「Guideline」, 「Quality」, 「Standard」, 「System」), タイプとして指定できました。 このフィールドは、未定義タイプの要件にのみ使用できます。
[優先度]	1- 低い (レベル 1) から 5- 緊急 (レベル 5) までの要件の優先度。
[製品]	要件の対象となるアプリケーション・コンポーネント。
[RBQM のビジネスへの影響]	計算された、要件のビジネス致命度。有効な値は「A」 (高), 「B」 (中), 「C」 (低) です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のカスタムのビジネスへの影響]	要件のユーザ定義のビジネス致命度。有効な値は「A」 (高), 「B」 (中), 「C」 (低) です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のカスタムの失敗の確率]	要件のユーザ定義の失敗の確率。有効な値は「1」 (高), 「2」 (中), 「3」 (低) です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のカスタムの機能の複雑性]	要件のユーザ定義の機能の複雑性。有効な値は「1」 (高), 「2」 (中), 「3」 (低) です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のカスタムリスク]	要件のユーザ定義のリスク。有効な値は「A」 (高), 「B」 (中), 「C」 (低) です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のカスタムのテスト時間]	要件のテストに必要なユーザ定義の効果。プロジェクトのカスタマイズで定義した単位で測定されます。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のカスタムのテストレベル]	ユーザ定義の、要件のテストのレベル。有効な値は [1- 完全], [2- 部分], [3- 正常], [4- なし] です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM の最終分析日]	要件に対してリスク・ベースの品質管理分析が最後に行われた日付。このフィールドは、アナリシス要件にのみ使用されます。

フィールド	説明
[RBQM の有効なビジネスへの影響]	要件の有効なビジネス致命度。有効な値は「A」(高), 「B」(中), 「C」(低) です。このフィールドは, 評価要件にのみ使用されます。
[RBQM の有効な失敗の確率]	要件の有効な失敗の確率。有効な値は「1」(高), 「2」(中), 「3」(低) です。このフィールドは, 評価要件にのみ使用されます。
[RBQM の有効な機能の複雑性]	要件の有効な機能の複雑性。有効な値は「1」(高), 「2」(中), 「3」(低) です。このフィールドは, 評価要件にのみ使用されます。
[RBQM の有効なリスク]	要件の有効なリスク。有効な値は「A」(高), 「B」(中), 「C」(低) です。このフィールドは, 評価要件にのみ使用されます。
[RBQM の予想 RnD 作用]	要件の開発に必要な作用のユーザ定義の予想。このフィールドは, 評価要件にのみ使用されます。
[RBQM の分析なし]	リスク・アナリシスから要件を除外するかどうかを示します。リスク評価を使用できないタイプに要件が属している場合, また, 要件を分析から明示的に除外する場合, 要件をリスク・アナリシスから除外できます。
[RBQM の失敗の確率]	計算された, 要件の失敗の確率。有効な値は「1」(高), 「2」(中), 「3」(低) です。このフィールドは, 評価要件にのみ使用されます。
[RBQM の機能の複雑性]	計算された, 要件の機能の複雑性。有効な値は「1」(高), 「2」(中), 「3」(低) です。このフィールドは, 評価要件にのみ使用されます。
[RBQM リスク]	計算された要件のリスク。有効な値は「A」(高), 「B」(中), 「C」(低) です。このフィールドは, 評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のテスト時間]	要件のテストに必要な計算された効果。プロジェクトのカスタマイズで定義した単位で測定されます。このフィールドは, 評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のテストレベル]	計算された, 要件のテストのレベル。有効な値は [1- 完全], [2- 部分], [3- 正常], [4- なし] です。このフィールドは, 評価要件にのみ使用されます。

フィールド	説明
[RBQM のカスタムのビジネスへの影響を使用]	Quality Center で計算されたビジネス致命度ではなく、ユーザ定義のビジネス致命度を使用するかどうかを示します。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のカスタムの失敗の確率を使用]	Quality Center で計算された失敗の確率ではなく、ユーザ定義の失敗の確率を使用するかどうかを示します。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のカスタムの機能の複雑性を使用]	Quality Center で計算された機能の複雑性ではなく、ユーザ定義の機能の複雑性を使用するかどうかを示します。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のカスタムの結果を使用]	Quality Center で計算された値ではなく、ユーザ定義のテスト効果とテスト・レベルを使用するかどうかを示します。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のカスタム リスクを使用]	Quality Center で計算されたリスクではなく、ユーザ定義のリスクを使用するかどうかを示します。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[要件 ID]	自動的に要件に割り当てられる一意の英数字の ID。要件 ID フィールドは変更できません。
[親要件]	親要件の名前。

フィールド	説明
[要件タイプ]	<p>要件のタイプを示します。標準設定値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  「<b>ビジネス</b>」: ビジネス・プロセス要件。標準設定では、この要件にカバレッジを追加することはできません。</li> <li>▶  「<b>フォルダ</b>」: 要件を整理するためのフォルダ。標準設定では、この要件にカバレッジを追加することはできません。</li> <li>▶  「<b>機能</b>」: システムの動作要件。</li> <li>▶  「<b>グループ</b>」: 関連する要件の集合。</li> <li>▶  「<b>テスト</b>」: システムのパフォーマンス要件。</li> <li>▶  「<b>未定義</b>」: 未定義の要件。</li> </ul> <p>標準設定のタイプをカスタマイズして、独自の要件タイプを作成することも可能です。要件タイプのカスタマイズの詳細については、『<b>HP Quality Center Administrator Guide</b>』（英語版）を参照してください。</p>
[確認ステータス]	<p>要件が責任者によってレビューされ、承認されたかどうかを示します。</p>
[ターゲットサイクル]	<p>要件が割り当てられたサイクルを示します。別のサイクルを選択するには、下矢印をクリックします。</p>
[ターゲットリリース]	<p>要件が割り当てられたリリースを示します。別のリリースを選択するには、下矢印をクリックします。</p>



**バージョン管理**：要件モジュールには、次の追加フィールドが表示されます。

フィールド	説明
[バージョンのチェックアウトの日付]	バージョンがチェックアウトされた日付。
[バージョンのチェックアウト時間]	バージョンがチェックアウトされた時刻。
[バージョンのチェックアウト実行者]	バージョンをチェックアウトしたユーザの名前。
[バージョン番号]	バージョンの番号。
[バージョンのステータス]	バージョンのステータス（「 <b>チェックアウト</b> 」または「 <b>チェックイン</b> 」）。

**注：**

- ▶ 要件モジュールでは、ユーザ定義フィールドの追加や、フィールドのラベルの変更ができます。また、プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
  - ▶ スクリプト・エディタを使用して、要件モジュールに表示されるフィールドと値を制限したり、動的に変更したりすることができます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
  - ▶ ユーザ名の値を含む要件カラムを選択する場合（ユーザ定義フィールドを含む）、各ユーザのユーザ名および氏名を記載したリストが表示されます。ユーザの検索、ユーザの並べ替え、ユーザ・グループに基づいたユーザのグループ分け、およびユーザ・リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については、55 ページ「ユーザの選択」を参照してください。
  - ▶ **Quality Center Starter Edition** : Starter Edition を使用している場合は、利用できないフィールドもあります。
-

# 第 13 章

---

## 要件ツリーの構築

要件ツリーとは、要件を階層構造に編成し、表示するものです。

### 本章の内容

- ▶ 要件ツリーの構築について（180 ページ）
- ▶ 要件ツリーの作成（181 ページ）
- ▶ リリースまたはサイクルへの要件の割り当て（184 ページ）
- ▶ 要件へのリッチ・テキストの追加（185 ページ）
- ▶ 要件の更新（186 ページ）
- ▶ 要件の検索（189 ページ）
- ▶ フィールド値の置換（190 ページ）
- ▶ 要件ツリーの表示（193 ページ）
- ▶ 要件の履歴の表示（194 ページ）
- ▶ 電子メールでの要件の送信（196 ページ）
- ▶ 要件の変更（198 ページ）
- ▶ 要件からのテストの作成（202 ページ）

## 要件ツリーの構築について

要件モジュールを使用して、要件の定義および管理ができます。要件ツリーを作成することによって、Quality Center に要件を記録します。要件ツリーとは、要件の定義を視覚的に表現したもので、要件が階層構造で表示されます。

要件を定義したら、2つ以上の要件間にトレーサビリティを確立できます。要件トレーサビリティによって要件間の関係が決まります。特定の要件に対して提案されている変更の影響を分析する際、トレーサビリティのリンクを使用すれば、変更の影響を受ける可能性がある要件がわかります。要件が変更されると、直接影響を受ける追跡済み要件に警告が発せられます。要件間のトレーサビリティの確立に関する詳細については、第14章「要件の追跡」を参照してください。

要件定義段階では、リリース・ツリーのリリースまたはサイクルに要件を割り当てます。要件は、1つ以上のリリースまたはサイクルに割り当てることができます。詳細については、184 ページ「リリースまたはサイクルへの要件の割り当て」を参照してください。

割り当てられた要件は、テストおよび不具合に関連付けることができます。こうすることで、ソフトウェア開発ライフサイクルのすべての段階で追跡を行うことが可能になります。要件が変更された場合に、影響を受けるテストと不具合、および担当責任者を直ちに特定できます。要件とテストの関連付けの詳細については、第19章「要件とテスト・カバレッジ」を参照してください。要件と不具合の関連付けの詳細については、第36章「不具合のリンク」を参照してください。

---

**注：**本章では、要件モジュールの**要件ツリー**を使用して要件ツリーを作成することを前提としています。**要件グリッド**・ビューの詳細については、164 ページ「要件グリッド」を参照してください。**要件の詳細**ビューおよび**カバレッジ・アナリシス**・ビューの詳細については、第19章「要件とテスト・カバレッジ」を参照してください。

---

## 要件ツリーの作成

要件ツリーを開始するには、まず要件を**要件**ルート・フォルダに追加します。要件トピックはフォルダに整理できます。ルート・フォルダは、名前を変更したり、削除したりすることはできません。

**Quality Center Starter Edition** : 要件タイプは使用できません。

---

**注** : 要件を Quality Center で直接作成するという方法のほかに、Microsoft Word または Microsoft Excel から Quality Center プロジェクトに要件データをインポートするという方法も可能です。Word からインポートするには、


**HP Quality Center Microsoft Word Add-in** および **HP Quality Center**

**Connectivity Add-in** がインストールされている必要があります。Excel からインポートするには、**HP Quality Center Microsoft Excel Add-in** および

**HP Quality Center Connectivity Add-in** がインストールされている必要があります。これらのアドインは、HP Quality Center アドイン・ページからインストールできます。詳細については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

---

要件ツリーを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 要件モジュールで **[表示]** > **[要件ツリー]** を選択し、要件ツリー・ビューを表示します。
- 2 メイン・レベルで要件を追加するには、**要件**ルート・フォルダを選択します。子要件を作成するには、要件を選択します。
- 3  フォルダを追加するには、**[フォルダの新規作成]** ボタンをクリックするか、**[要件]** > **[フォルダの新規作成]** を選択します。[新規要件フォルダを作成] ダイアログ・ボックスに**フォルダ名**を入力し、**[OK]** をクリックします。フォルダの名前には、「¥」、「^」、「\*」は使用できません。



- 4 要件を追加するには、[要件の新規作成] ボタンをクリックします。あるいは、[要件] > [要件の新規作成] を選択します。[新規要件を作成] ダイアログ・ボックスが開きます。

- 5 [要件タイプ] リストから要件タイプを選択します。要件タイプの詳細については、172 ページ「要件フィールド」を参照してください。
- 6 [要件の名前] ボックスに、新しい要件の名前を入力します。要件の名前には、「¥」、「^」、「\*」は使用できません。
- 7 [OK] をクリックします。[要件の新規作成] ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 8 要件の詳細を入力します。必須フィールドは赤で表示されます。要件モジュールで使用できるフィールドの詳細については、172 ページ「要件フィールド」を参照してください。
- 9 [要件の新規作成] ダイアログ・ボックスのデータをクリアするには、[クリア] ボタンをクリックします。
- 10 要件には、添付ファイルを追加することができます。



- ▶ テキスト・ファイルを添付するには、[ファイルの添付] ボタンをクリックします。



- ▶ URL を添付するには、[URL の添付] ボタンをクリックします。



- ▶ 画像をキャプチャして添付するには、[スナップショットの添付] ボタンをクリックします。



- ▶ マシンに関する情報を添付するには、[システム情報の添付] ボタンをクリックします。



- ▶ クリップボードのテキストまたは画像を添付するには、[クリップボードの添付] ボタンをクリックします。

添付ファイルの追加の詳細については、第5章「添付ファイルの追加」を参照してください。

- 11 [要件の新規作成] ダイアログ・ボックスでは、次の操作を行うことで、スペルをチェックできます。



- ▶ [スペル チェック] ボタンをクリックすると、選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルがチェックされます。



- ▶ [スペル オプション] ボタンをクリックすると、[スペル オプション] ダイアログ・ボックスが開き、Quality Center によるスペルのチェック方法を設定できます。



- ▶ [類語辞典] ボタンをクリックすると、[類語辞典：英語] ダイアログ・ボックスが開き、選択した語の類義語、反意語、関連する語が表示されます。

- 12 [送信] をクリックし、ツリーに新しい要件を追加します。

- 13 [閉じる] をクリックして、[要件の新規作成] ダイアログ・ボックスを閉じます。

**バージョン管理**：新しい要件は自動的にチェックアウトされます。詳細については、106 ページ「エンティティのチェックアウト」を参照してください。

- 14 要件のテスト・カバレッジを追加するには、[表示] > [要件の詳細] を選択します。[表示] > [カバレッジアナリシス] を選択して、テスト・カバレッジのステータスに応じて子要件の詳細を表示することもできます。詳細については、第19章「要件とテスト・カバレッジ」を参照してください。
- 15 要件の要件トレーサビリティのリンクを追加するには、[表示] > [要件の詳細] を選択し、[要件のトレーサビリティ] タブをクリックします。詳細については、第14章「要件の追跡」を参照してください。
- 16 要件の不具合のリンクを追加するには、[表示] > [要件の詳細] を選択し、[リンクされている不具合] タブをクリックします。詳細については、第36章「不具合のリンク」を参照してください。

## リリースまたはサイクルへの要件の割り当て

要件ツリーに要件を定義したら、リリース・モジュールでその要件をリリースまたはサイクルに割り当てます。要件は、リリース・ツリーの1つ以上のリリースまたはサイクルに割り当てることができます。詳細については、第10章「リリース・ツリーの開発」を参照してください。

テスト計画段階では、割り当てられた要件にテスト計画モジュールのテストを関連付けて、カバレッジを作成します。カバレッジを定義することで、テスト計画のテストと要件との関係を追跡できるようになります。カバレッジの詳細については、第19章「要件とテスト・カバレッジ」を参照してください。

テストの実行段階では、テスト・ラボ・モジュールで、割り当てられた要件を対象とするテストをテスト・セットに追加し、次にそのテスト・セット・フォルダをサイクルに割り当てます。詳細については、395 ページ「サイクルへのテスト・セット・フォルダの割り当て」を参照してください。

**Quality Center Starter Edition** : リリースまたはサイクルへの要件の割り当ては利用できません。

---

**注** : 親要件をサイクルに割り当てると、その子要件も同じサイクルに割り当てられます。すでに子要件がサイクルに割り当てられている場合は、新しく割り当てられたサイクルに上書きされます。

---



リリースまたはサイクルに要件を割り当てるには、次の手順を実行します。

- 1 要件ツリーで、リリースまたはサイクルに割り当てたい要件を選択します。複数の要件を選択するには、**Ctrl** キーを使用します。
- 2 リリースに割り当てるには、[要件] > [リリースに割り当て] を選択します。あるいは、右クリックして [リリースに割り当て] を選択します。[リリースに割り当て] ダイアログ・ボックスが開きます。ツリーを展開し、リリースを選択します。[OK] をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。  
  
サイクルに割り当てるには、[要件] > [サイクルに割り当て] を選択します。あるいは、右クリックして [サイクルに割り当て] を選択します。[サイクルに割り当て] ダイアログ・ボックスが開きます。ツリーを展開し、サイクルを選択します。[OK] をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 3 選択した要件に子要件が含まれている場合は、確認ボックスが開きます。要件とその子要件を割り当てるには、[はい] をクリックします。子要件なしで要件を割り当てるには、[いいえ] をクリックします。

## 要件へのリッチ・テキストの追加

Microsoft Word でテキストを編集することなく、Quality Center 内から Microsoft Word リッチ・テキストの追加、表示、編集ができます。要件のリッチ・テキストに加えた変更は、別の要件または別のモジュールに移動するときに自動的に保存されます。

---

### 注：

- ▶ サポートされている Microsoft Word のバージョンを確認するには、『HP Quality Center インストール・ガイド』を参照してください。
- ▶ リッチ・テキストを追加または編集する際には、Microsoft Word を閉じておく必要があります。

---

要件にリッチ・テキストを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 要件を選択し、[リッチ テキスト] タブをクリックします。Microsoft Word エディタが表示されます。

2 Word で自由にリッチ・テキストを編集します。Word でのリッチ・テキストの編集に関する詳細については、Microsoft Word のドキュメントを参照してください。



3 別ウィンドウでリッチ・テキストを編集するには、[**Maximize Content**] ボタンをクリックします。

4 既存のリッチ・テキストを保存されている Word ファイルのコンテンツと置き換えるには、[**リッチ テキスト**] タブで [**ファイル**] > [**インポート**] を選択します。

5 既存のリッチ・テキストを空のページと置き換えるには、[**リッチ テキスト**] タブで [**ファイル**] > [**新規作成**] を選択します。

6 リッチ・テキストを Word ドキュメントとして保存するには、[**ファイル**] > [**保存**] を選択します。

## 要件の更新

要件の更新は、要件ツリーまたは要件グリッドで直接行うことも、[要件の詳細] ダイアログ・ボックスで行うこともできます。[要件の詳細] ダイアログ・ボックスを使用すると、要件の詳細、添付ファイル、テスト・カバレッジ、要件トレーサビリティのリンク、リスク・ベースの品質管理設定、不具合のリンクを更新できます。任意の要件に加えた変更のリストを表示することもできます。

**Quality Center Starter Edition** : Starter Edition を使用している場合、[要件の詳細] のフィールドおよび機能の中には使用できないものもあります。

要件を更新するには、次の手順を実行します。



- 1 更新する要件をダブルクリックします。あるいは要件を選択し、[要件の詳細] ボタンをクリックします。[要件の詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。

要件詳細

ReqID: 3 \* Name: Mercury Tours Application \* Requirement Type: フォルダ

詳細

Author: alex\_gc Creation Date: 2005/01/08  
 Creation Time: 9:07:29 Modified: 2009/01/19 11:05:08  
 Priority: 5-Urgent Product: Mercury Tours  
 Reviewed: Not Reviewed Target Cycle: Cycle 1 - New Featur...  
 Target Release: Release 10.5 Version Number: 2

Description Comments RichContent

Web-based application (site) for travelers.

OK キャンセル ヘルプ





- 2 [最初] ボタンをクリックするとツリーまたはグリッドの最初の要件が、[前へ] ボタンをクリックすると 1 つ前の要件がそれぞれ表示されます。



- 3 [次へ] ボタンをクリックするとツリーまたはグリッドの次の要件が、[最終] ボタンをクリックするとツリーまたはグリッドの最後の要件がそれぞれ表示されます。



- 4 要件の詳細に関する電子メールを送信するには、[電子メールで送信] ボタンをクリックします。電子メールでの要件送信の詳細については、196 ページ「電子メールでの要件の送信」を参照してください。

- 5 **[詳細]** ビューでは、選択している要件の情報を追加または変更できます。  
**[詳細]** ビューで使用可能なフィールドの詳細については、172 ページ「要件フィールド」を参照してください。
- 6 要件の要件トレーサビリティのリンクを追加するには、サイドバーの**[要件のトレーサビリティ]** をクリックします。トレーサビリティの詳細については、第14章「要件の追跡」を参照してください。
- 7 要件のテスト・カバレッジを追加するには、サイドバーの**[テスト カバレッジ]** をクリックします。テストのカバレッジの詳細については、第19章「要件とテスト・カバレッジ」を参照してください。
- 8 要件の不具合のリンクを追加するには、サイドバーの**[リンクされている不具合]** をクリックします。要件グリッドに表示されている要件の横に、クリック可能なアイコン  が表示されます。不具合のリンクに関する詳細については、513 ページ「不具合のリンク」を参照してください。
- 9 要件のテスト方法を決定するためにリスク・ベースの品質管理を利用する場合は、サイドバーの**[リスク]** をクリックします。リスク・ベースのテストの詳細については、第15章「要件のリスクの計算」を参照してください。
- 10 要件に添付ファイルを追加するには、サイドバーの**[添付ファイル]** をクリックします。ファイル、URL、アプリケーションのスナップショット、システム情報、またはクリップボードの中身を添付できます。要件グリッドに表示されている要件の横に、クリック可能な添付ファイル・アイコン  が表示されます。添付ファイルの詳細については、第5章「添付ファイルの追加」を参照してください。
- 11 要件に加えられた変更の履歴を表示するには、サイドバーの**[履歴]** をクリックします。詳細については、194 ページ「要件の履歴の表示」を参照してください。
- 12 **[OK]** をクリックし、変更を保存して**[要件の詳細]** ダイアログ・ボックスを閉じます。

## 要件の検索

検索コマンドを使用して特定の要件を検索できます。



**ヒント**：[テキスト検索] が使用可能な場合は、この機能を使用して要件を検索することをお勧めします。テキスト検索では、キーワードやキーワードが変化したものを検索することにより、より強力な検索が行えます。テキスト検索の使用の詳細については、73 ページ「レコードの検索」を参照してください。

### 要件ツリーでの要件の検索

要件ツリーで要件を検索できます。ツリーにフィルタが適用されている場合、検索は現在表示されている要件に制限されます。

要件ツリーで要件を検索するには、次の手順を実行します。

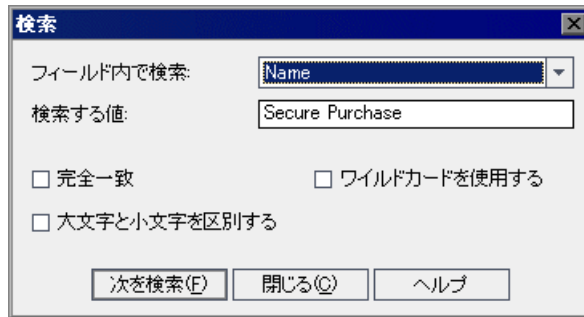
- 1 [編集] > [検索] を選択します。[要件の検索] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [フィールド内で検索] ボックスで、検索条件を選択します。
- 3 [検索する値] ボックスで、検索するフィールドの値を入力または選択します。検索では大文字と小文字は区別されません。
- 4 [検索] ボタンをクリックします。指定した値を持つ要件が検索されます。検索に成功すると、[検索結果] ダイアログ・ボックスが表示され、一致する要件のリストが表示されます。リストで結果を選択し、[移動] ボタンをクリックすると、要件ツリー内で要件が強調表示されます。検索が失敗すると、メッセージ・ボックスが開きます。

### 要件グリッドでの要件の検索

特定のフィールドの値に基づいて、要件グリッドで要件を検索できます。グリッドにフィルタが適用されている場合、検索は現在表示されている要件に制限されます。

要件グリッドで要件を検索するには、次の手順を実行します。

- 1 **[編集]** > **[検索]** を選択します。[検索] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 **[フィールド内で検索]** ボックスで、グリッドのフィールドを選択します。
- 3 **[検索する値]** ボックスで、検索するフィールド値を入力または選択します。
- 4 **[検索する値]** の文字列に完全に一致するフィールド値で要件を検索する場合は、**[完全一致]** を選択します。
- 5 大文字と小文字を区別して検索する場合は、**[大文字と小文字を区別する]** を選択します。
- 6 文字列を一部入力するだけで済むように、検索文字列にアスタリスク (\*) を使用する場合は、**[ワイルドカードを使用する]** を選択します。
- 7 **[次を検索]** をクリックします。検索が成功すると、一致した要件がグリッドの中で強調表示されます。検索が失敗すると、メッセージ・ボックスが開きます。
- 8 条件に一致する次の要件を検索するには、再度 **[次を検索]** をクリックします。

## フィールド値の置換

要件ツリーおよび要件グリッドでは、**置換** コマンドを使用してフィールド値を置き換えることができます。

### 要件ツリーでのフィールド値の置換

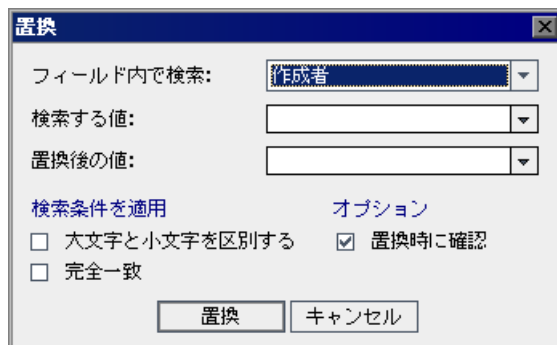
選択した要件とその子要件のフィールド値、または要件ツリーに含まれるすべての要件の値を置換できます。

要件ツリーでフィールド値を置換するには、次の手順を実行します。

- 1 選択した要件とその子要件のフィールド値を置換するには、ツリーで要件を選択し、**[編集]** > **[置換]** > **[選択範囲の置換]** を選択します。

すべての値を置換するには、**[編集]** > **[置換]** > **[すべて置換]** を選択します。

**[置換]** ダイアログ・ボックスが開きます。



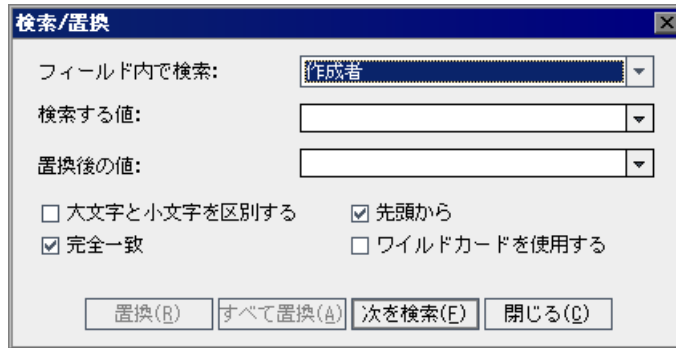
- 2 **[フィールド内で検索]** ボックスで、値を置換するフィールドを選択します。
  - 3 **[検索する値]** ボックスで、検索する値を入力または選択します。
  - 4 **[置換後の値]** ボックスで、置換する値を入力または選択します。
  - 5 大文字と小文字を区別するには、**[大文字と小文字を区別する]** チェック・ボックスを選択します。
  - 6 完全に一致する値を検索するには **[完全一致]** チェック・ボックスを選択します。
  - 7 各値の置換前に確認のプロンプトを表示するには、**[置換時に確認]** チェック・ボックスを選択します。
  - 8 **[置換]** をクリックします。手順7で **[置換時に確認]** を選択している場合は、**[確認]** ダイアログ・ボックスが開きます。
    - ▶ 対象となっている値を置換する場合は **[はい]** を選択します。
    - ▶ 手順1で選択した内容に応じて、選択されている要件とその子要件の値あるいは要件内の値をすべて置換する場合は **[すべて置換]** を選択します。
- [情報]** ダイアログ・ボックスが開き、値が置換された数と置換されなかった数が表示されます。**[OK]** をクリックします。

## 要件グリッドでのフィールド値の置換

要件グリッドでは、置換コマンドを使用してフィールド値を置き換えることができます。

要件グリッドでフィールド値を置換するには、次の手順を実行します。

- 1 **[編集]** > **[置換]** を選択します。**[検索 / 置換]** ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 **[フィールド内で検索]** ボックスで、特定の値を検索するカラムを選択します。
- 3 **[検索する値]** ボックスで、検索する値を入力または選択します。
- 4 **[置換後の値]** ボックスで、置換後のフィールド値を入力または選択します。
- 5 大文字と小文字を区別するには、**[大文字と小文字を区別する]** チェック・ボックスを選択します。
- 6 完全に一致する値を検索するには、**[完全一致]** チェック・ボックスを選択します。
- 7 グリッドの先頭から検索を開始するには、**[先頭から]** チェック・ボックスを選択します。
- 8 文字列を一部入力するだけで済むように、検索文字列にアスタリスク (\*) を使用する場合は、**[ワイルドカードを使用する]** チェック・ボックスを選択します。
- 9 見つかった項目を置換して次を検索するには、**[置換]** をクリックします。
- 10 グリッドで値に一致する項目をすべて置換するには、**[すべて置換]** をクリックします。



## 要件ツリーの表示

要件モジュールにおける要件ツリーの表示形式は変更できます。たとえば、ツリーの拡大表示と縮小表示、ツリーの更新、ツリーのフィルタ処理、ツリーの方岐の展開と折りたたみなどの変更が可能です。

### ツリーの表示倍率



要件ツリーの見出しを拡大表示または縮小表示できます。これにより、ツリーに表示される詳細レベルを変更できます。

拡大表示するには、次の手順を実行します。

- 1 要件ツリーで、要件トピックを選択します。
- 2 ツールバーの **[拡大表示]** ボタンをクリックします。あるいは、要件を右クリックし、**[拡大表示]** を選択します。

要件ツリーには選択した要件トピックのみが表示され、要件トピックの階層パスを示す見出しが付きます。

縮小表示するには、次の手順を実行します。

拡大表示の状態から逆に縮小する場合は、1 レベル分縮小表示することも、一番高い階層レベルに縮小表示することもできます。

- ▶ 直前に行った拡大表示コマンドを元に戻すには、**[拡大表示]** ボタンの矢印をクリックし、**[1 レベル縮小表示]** を選択します。
- ▶ 一番高い階層レベルまで縮小表示して要件ツリー全体を表示するには、**[拡大表示]** ボタンの矢印をクリックし、**[ルートまで縮小表示]** を選択します。

### ツリーの更新



最新の要件が表示されるように、ツリーのデータを更新できます。ツリーを更新するには、**[すべて更新]** ボタンをクリックします。

### 要件のフィルタ処理



要件モジュールで、要件のフィルタ処理や並べ替えができます。**[フィルタ / 並べ替えの設定]** ボタンの矢印をクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。



- ▶ **[フィルタ / 並べ替えの設定]** : [フィルタ] ダイアログ・ボックスが開き、要件モジュールの要件のフィルタ処理と並べ替えを実行できます。
- ▶ **[フィルタ / 並べ替えのクリア]** : 要件ツリーまたは要件グリッドに適用されているフィルタや並べ替えをクリアします。

詳細については、第3章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。

### ツリーの展開と折りたたみ

要件ツリーの分岐を展開または折りたたむことができます。これにより、ツリーに表示される詳細レベルを変更できます。

ツリーの展開と折りたたみは、次の手順を実行します。

- ▶ ツリーの分岐を展開するには、分岐名の左にある展開記号  をクリックします。ツリーのすべての分岐を展開するには、ツリーの実体要件を右クリックし、**[すべて展開]** を選択します。
- ▶ ツリーの分岐を折りたたむには、分岐名の左にある折りたたみ記号  をクリックします。ツリーのすべての分岐を折りたたむには、ツリーの実体要件を右クリックし、**[折りたたみ]** を選択します。

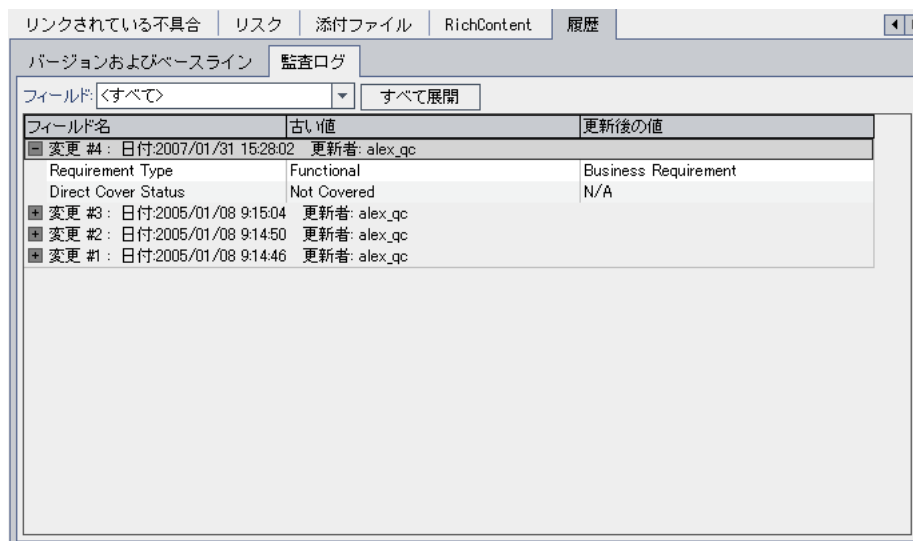
## 要件の履歴の表示

要件ツリーの任意の実体要件に加えた変更のリストを表示できます。

また、特定のベースラインに格納されている以前のバージョンの実体要件を表示することもできます。詳細については、539 ページ「ベースラインの履歴の表示」を参照してください。

要件の履歴を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 要件ツリーで要件を選択します。「履歴」タブをクリックし、次に「監査ログ」タブをクリックします。要件に加えられた変更の履歴がグリッドに表示されます。



このグリッドには、要件に対する変更ごとに更新日時および更新者の名前が表示されます。

- 2 変更時に修正されたフィールドのリストを表示するには、変更を展開します。フィールドごとに元の値と新しい値が表示されます。すべての変更を展開するには、「すべて展開」ボタンをクリックします。
- 3 このグリッドに表示する変更を指定できます。「フィールド」リストで、フィールド名を選択すると、そのフィールドに加えられた変更のみが表示されます。すべてのフィールドに加えられた変更を表示するには、「<すべて>」を選択します。

フィールドに加えられた変更の履歴の保存方法については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

## 電子メールでの要件の送信

要件に関する電子メールを、Quality Center プロジェクトのほかのユーザに送信できます。これにより、要件のステータスを定期的に通知できます。電子メールのメッセージにはリンクが含まれており、電子メールの受信者はそのリンクによって直接要件にアクセスできます。

---

**注：**標準では、HTML 形式で電子メールが送信されます。電子メールを普通のテキストで送信するには、サイト管理の [サイト設定] タブで **MAIL\_FORMAT** パラメータを編集します。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

---

要件に関するメールを送信するには、次の手順を実行します。



- 1 つ以上の要件を選択し、[電子メールで送信] ボタンをクリックします。[電子メール送信] ダイアログ・ボックスが開きます。




**ヒント**：電子メールが特定のユーザ・タイプに自動的に送信されるよう設定できます。ユーザ・タイプの条件には、ユーザ定義のフィールドを含め、ユーザ名の値を含むカラムを指定できます。[電子メールで送信] ボタンの矢印をクリックし、オプションを選択します。たとえば、[作成者に電子メールで送信] を選択すると、その要件を作成したユーザ宛に電子メールが送信されます。

- 2 有効な電子メール・アドレスまたはユーザ名を入力します。あるいは、[宛先] ボタンまたは [CC] ボタンをクリックし、送信先のユーザを選択します。[受信者の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。



ユーザ・リストの並べ替え、ユーザの検索、ユーザ・グループによるユーザのグループ分け、およびリストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については、55 ページ「ユーザの選択」を参照してください。

電子メールの送信先のユーザまたはユーザ・グループを選択し、[OK] をクリックします。

- 3 **[サブジェクト]** ボックスに、電子メールの件名を入力します。
- 4 必要に応じて、**添付ファイル**や**履歴**、**テストのカバレッジ**、**追跡済み要件**を追加します。要件の**添付ファイル**を追加する場合は、要件のリッチ・テキストが個別の添付ファイルとして追加されます。
- 5 コメントがある場合は、**[追記]** ボックスに入力します。
- 6 ダイアログ・ボックス内のスペルをチェックするには、次のようにします。
  -  ▶ **[スペル チェック]** ボタンをクリックすると、選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルがチェックされます。誤りがなければ、確認メッセージ・ボックスが開きます。誤りが見つかった場合は、**[スペル]** ダイアログ・ボックスに該当する単語と修正候補が表示されます。
  -  ▶ **[スペル オプション]** ボタンをクリックすると、**[スペル オプション]** ダイアログ・ボックスが開き、スペルのチェック方法を設定できます。
  -  ▶ **[類語辞典]** ボタンをクリックすると、**[類語辞典 : 英語]** ダイアログ・ボックスが開き、選択した語の類義語、反意語、関連する語が表示されます。選択した単語を置換したり、新しい単語を調べたりすることができます。
- 7 **[ユーザ定義]** をクリックして、電子メールで送信する内容をカスタマイズします。**[フィールドの選択]** ダイアログ・ボックスで、電子メールに含めるフィールドを指定できます。
- 8 **[送信]** をクリックすると、電子メールが送信されます。

## 要件の変更

要件の修正に関する本項は、次の項目について説明します。

- ▶ 要件名の変更
- ▶ 要件のコピー
- ▶ 要件の URL のコピー
- ▶ 複数の要件の更新
- ▶ 要件の移動
- ▶ 要件の削除

## 要件名の変更

要件モジュールでは、要件名を変更できます。名前には、「¥」、「^」、「\*」は使用できません。

---

**注：**ルート・フォルダ名は変更できません。

---

要件名を変更するには、次の手順を実行します。

- ▶ ツリーで要件名を変更するには、要件を選択し、**[編集]** > **[名前の変更]** を選択します。あるいは、要件を右クリックし、**[名前の変更]** を選択します。要件の名前を編集し、ENTER キーを押します。
- ▶ グリッドの中で要件名を変更するには、要件名をクリックして新しい名前を入力します。

## 要件のコピー

要件は、同じプロジェクト内で、あるいは、プロジェクト間でコピーできます。要件トピックをコピーすると、要件トピックの子もコピーされます。

---

**注：**

- ▶ 要件のテスト・カバレッジ、不具合のリンク、リスク・ベースの品質管理データはコピーされません。
  - ▶ トレーサビリティのある要件をコピーするには、関連付けられている追跡済み要件もコピーする必要があります。
  - ▶ ルート・フォルダは、同じプロジェクト内にコピーできません。
- 

要件をコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 要件ツリーまたは要件グリッドで、要件を選択します。複数の要件をコピーするには、CTRL キーを押しながらコピーする要件を選択します。
- 2 **[編集]** > **[コピー]** を選択します。あるいは、右クリックして **[コピー]** を選択します。

- 3 要件を要件グリッドから要件ツリーにコピーする場合は、**[表示]** > **[要件ツリー]** を選択します。要件ツリー・ビューが表示されます。
- 4 要件ツリーで要件を選択します。
- 5 **[編集]** > **[貼り付け]** を選択します。あるいは、右クリックして **[貼り付け]** を選択します。

既存の要件と同じ名前の要件を貼り付けると、**\_Copy** という接尾語が要件名の末尾に自動的に追加されます。

### 要件の URL のコピー

要件をコピーし、その URL をリンクとして貼り付けることができます。要件自体はコピーされません。その代わりに、アドレスを別の場所（電子メールやドキュメントなど）に貼り付けることができます。リンクをクリックすると Quality Center が開き、その要件に移動します。ログインしていない場合は、最初にログイン情報の入力を求められます。

**要件の URL をコピーするには、次の手順を実行します。**

- 1 要件ツリーまたは要件グリッドで、要件を選択します。
- 2 **[編集]** > **[URL をコピー]** を選択します。あるいは、右クリックして **[URL をコピー]** を選択します。
- 3 URL を貼り付けます。

### 複数の要件の更新

要件ツリーまたはグリッドの複数レコードのフィールド値を更新できます。更新するには、グリッドのレコードを選択するか、要件ツリーの要件を選択します。**[編集]** > **[選択済みの更新]** を選択します。**[Update Selected]** ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、71 ページ「複数のレコードの更新」を参照してください。



## 要件の移動

要件を要件ツリーの別の場所に移動できます。要件トピックを移動すると、その子要件、テスト・カバレッジ、要件トレーサビリティのリンク、および不具合のリンクも移動します。ルート・フォルダは移動できません。

---

**ヒント：**ドラッグ操作により、要件を要件ツリー内の別の場所に移動することもできます。

---

要件を移動するには、次の手順を実行します。

- 1 要件ツリーで、要件を選択します。複数の要件を移動するには、CTRL キーを押しながら移動する要件を選択します。
- 2 **[編集]** > **[切り取り]** を選択するか、要件を右クリックして **[切り取り]** を選択します。
- 3 要件ツリーで要件を選択します。
- 4 **[編集]** > **[貼り付け]** を選択します。あるいは、右クリックして **[貼り付け]** を選択します。

## 要件の削除

要件は、要件モジュールから削除できます。要件を削除すると、その子要件、テスト・カバレッジ、要件トレーサビリティのリンク、および不具合のリンクも削除されます。ルート・フォルダは削除できません。

**バージョン管理：**要件を削除すると、以前のバージョンの要件がすべて削除されます。

要件を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 要件を選択します。複数の要件を削除するには、CTRL キーを押しながら削除する要件を選択します。
- 2 **[削除]** ボタンをクリックするか、右クリックして **[削除]** を選択します。
- 3 **[はい]** ボタンをクリックして、確定します。



## 要件からのテストの作成

要件ツリーを作成したら、テスト計画ツリーのテストの定義およびテスト・セットのテストを実行するための基盤としてその要件を使用します。テストを作成するには、必要な権限を持っていないければなりません。

要件に基づいてテストを作成する方法は2つあります。

- ▶ **要件のテストへの変換**：要件を、テスト計画ツリーで指定したサブジェクトのテストに変換します。要件ツリーで選択した要件またはすべての要件を変換できます。この方法では、テストの変換ウィザードを使用し、指示に従って簡単にテスト計画ツリーを設計することができます。詳細については、202 ページ「要件のテストへの変換」を参照してください。
- ▶ **要件からのテストの作成**：要件を、テスト計画ツリーで指定したサブジェクトおよびテスト・ラボ・モジュールで指定したテスト・セットのテストに変換します。この方法では「テストの作成」ダイアログ・ボックスを使用し、要件の分析時にテストを迅速に実行することができます。詳細については、207 ページ「要件からのテストの作成」を参照してください。

### 要件のテストへの変換

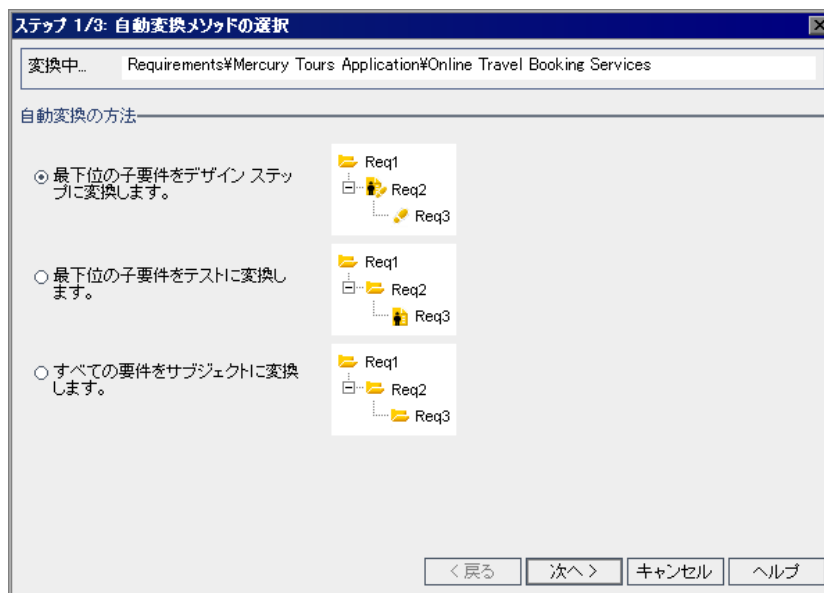
テストの変換ウィザードを使用して、要件をテスト計画ツリーで指定したサブジェクトのテストに変換します。カバレッジは、要件とその対応するテストの間に自動的に作成されます。

要件をテストへ変換するには、次の手順を実行します。

- 1 特定の要件を変換するには、要件ツリーで要件を選択します。すべての要件を変換するには、要件ツリーでルート要件フォルダを選択します。

2 [要件] > [テストへ変換] を選択します。

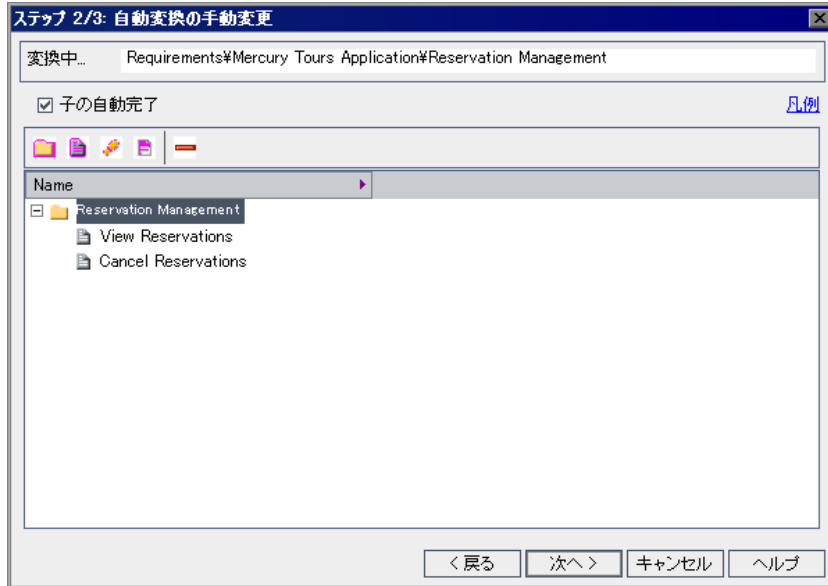
[ステップ 1/3: 自動変換メソッドの選択] ダイアログ・ボックスが表示されます。



3 自動変換の方法を選択します。

- ▶ 最下位のすべての子要件をデザイン・ステップ、つまりテストの1つ上のレベルに変換し、子要件より上のレベルをサブジェクトに変換するには、**[最下位の子要件をデザイン ステップに変換します。]** を選択します。
- ▶ 最下位のすべての子要件をテストに変換し、それよりも上位の階層レベルをサブジェクトに変換するには、**[最下位の子要件をテストに変換します。]** を選択します。
- ▶ 選択したすべての要件をサブジェクトに変換するには、**[すべての要件をサブジェクトに変換します。]** を選択します。

- 4 要件の変換を開始するには、**[次へ]** をクリックします。変換プロセスをキャンセルし、**[ステップ 1/3]** ダイアログ・ボックスに戻るには、進行状況バーの**[停止]** ボタンをクリックします。変換プロセスが完了すると、結果が**[ステップ 2/3: 自動変換の手動変更]** ダイアログ・ボックスに表示されます。



---

**注：**要件を1つだけ変換する場合、このダイアログ・ボックスはスキップされます。

---

- 5 ウィザードの凡例を表示するには、**[凡例]** リンクをクリックします。
- 6 変換される各項目に対し、次の操作を行えます。



- ▶ 項目をテスト計画ツリーのサブジェクトに変換するには、項目を選択して**[Subjectに変換]** ボタンをクリックするか、項目を右クリックして**[サブジェクト]** を選択します。項目をサブジェクトに変換すると、子をサブジェクトまたはテストにできます。サブジェクトの名前は一意でなければなりません。



- ▶ 項目をテスト計画ツリーのテストに変換するには、項目を選択して [**テストに変換**] ボタンをクリックするか、項目を右クリックして [**テスト**] を選択します。項目をテストに変換すると、子はステップに変換されます。テストの名前は一意でなければなりません。



- ▶ 項目をテスト計画ツリーのステップに変換するには、項目を選択して [**ステップに変換**] ボタンをクリックするか、項目を右クリックして [**ステップ**] を選択します。項目をステップに変換すると、子はステップの説明に変換されます。



- ▶ 項目をテスト計画ツリーのステップの説明に変換するには、項目を選択して [**説明に変換**] ボタンをクリックするか、項目を右クリックして [**説明**] を選択します。項目をステップの説明に変換すると、子はインデントされた説明テキストに変換されます。



- ▶ テスト計画ツリーから項目を除外するには、項目を選択して [**変換結果の除外**] ボタンをクリックするか、項目を右クリックして [**除外**] を選択します。

- 7 変換を行うときにウィザードが不要な場合は、[子の自動完了] チェック・ボックスをクリアします。このオプションが選択されている状態で、親のレベルをたとえばサブジェクトからテストに変換すると、ウィザードによってすべての子のレベルが、たとえばテストからテスト・ステップに変換されます。

- 8 [次へ] をクリックします。[ステップ 3/3 : 保存先サブジェクトパスの選択] ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 9 [ステップ 3/3: 保存先サブジェクトパスの選択] ダイアログ・ボックスの [サブジェクトの選択] ボタンをクリックし、[サブジェクトの宛先を選択] ダイアログ・ボックスのテスト計画ツリーからサブジェクトを選択し、[OK] をクリックします。あるいは、[保存先サブジェクトパス] ボックスに新しいサブジェクト名を入力します。標準設定では、サブジェクト・フォルダとテストは、テスト計画モジュールの **Subject** フォルダに格納されます。
- 10 [完了] をクリックします。
- 11 変換プロセスを停止し、[ステップ] ダイアログ・ボックスに戻るには、進行状況バーの [停止] ボタンをクリックします。

---

**注：** 変換プロセスを停止した場合、それまでに変換された要件はテスト計画ツリーからは削除されません。これらの要件は、手作業で削除する必要があります。

---

- 12 **[OK]** をクリックし、テストの変換ウィザードを閉じるか、変換中に作成されたエラー・メッセージを表示します。

## 要件からのテストの作成

[テストの作成] ダイアログ・ボックスを使用して、要件をテスト計画ツリーの指定サブジェクト内のテスト、およびテスト・ラボ・モジュール内の指定テスト・セットに変換します。カバレッジは、要件とその対応するテストの間に自動的に作成されます。標準設定では、カバレッジが無効になっている要件タイプ（ビジネス、フォルダ、グループ）のテストは生成できません。

要件からテストを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 要件を選択し **[要件]** > **[テストの作成]** を選択します。あるいは、要件ツリーで要件を右クリックし、**[テストの作成]** を選択します。[テストの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 **[サブジェクト]** ボックスで、テスト計画ツリーのサブジェクトを選択するか、新しいサブジェクト名を入力します。標準設定では、テストはテスト計画モジュールの「**一時テスト**」フォルダに格納されます。
- 3 **[テスト名]** ボックスに、新しいテストの名前を入力します。標準設定では、新しいテストに要件と同じ名前が割り当てられます。
- 4 **[テストのステータス]** ボックスでテストのステータスを選択します。
- 5 デザイン・ステップを作成しない場合は、**[デザイン ステップを作成]** チェック・ボックスをクリアします。このオプションを選択すると、子要件ごとにテストにステップが追加されます。

6 **[テストセットへテストを追加]** を選択し、テストをテスト・ラボ・モジュールのテスト・セットに追加します。**[テストセット]** リストで、テスト・セットを選択するか、新しいテスト・セット名を入力します。

7 **[OK]** をクリックします。



# 第 14 章

---

## 要件の追跡

要件トレーサビリティによって要件間の関係が決まります。要件またはそのリンク先の要件を変更する際に、その変更が及ぼす影響を追跡および監視できます。

---

**Quality Center のエディション**：要件トレーサビリティが使用できるのは、Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition です。

---

### 本章の内容

- ▶ 要件の追跡について (210 ページ)
- ▶ トレーサビリティ関係の定義 (212 ページ)
- ▶ トレーサビリティ関係の表示 (214 ページ)
- ▶ トレーサビリティの影響の表示 (216 ページ)
- ▶ トレーサビリティ関係のリンクの削除 (218 ページ)

## 要件の追跡について

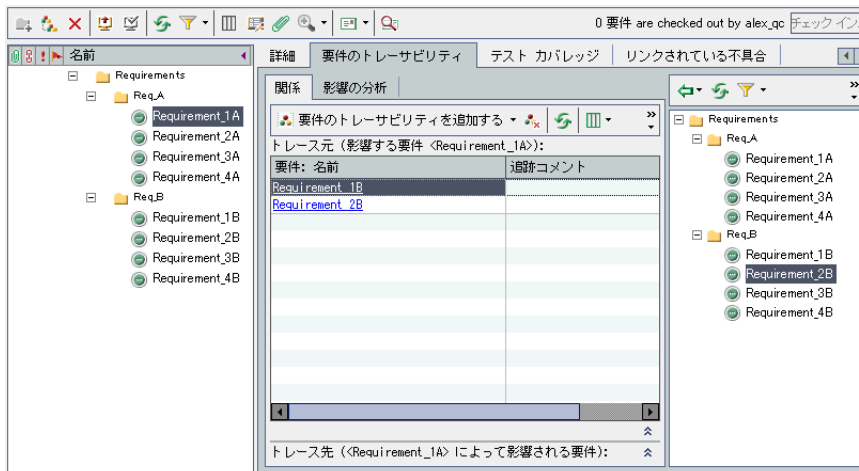
要件トレーサビリティによって、2 つ以上の要件間の関係が決まります。特定の要件に対して提案されている変更の影響を分析する際、トレーサビリティのリンクを使用すれば、変更の影響を受ける可能性がある要件がわかります。

要件ツリーに要件を定義した後に（第 13 章「要件ツリーの構築」を参照）、要件間にトレーサビリティを確立できます。要件の詳細ビューの「[要件のトレーサビリティ]」タブを使用することで、選択した要件との間にトレーサビリティのリンクを追加できます。[トレース元] リンクは、選択した要件に影響を与える要件を示します。[トレース先] リンクは、選択した要件の影響を受ける要件を示します。

要件が変更されると、その影響を受ける要件に警告が発せられます。警告は、すべてのユーザが見ることができます。影響を受ける要件の作成者には、電子メールによる通知も送信されます。警告の詳細については、第 4 章「変更発生時の警告」を参照してください。

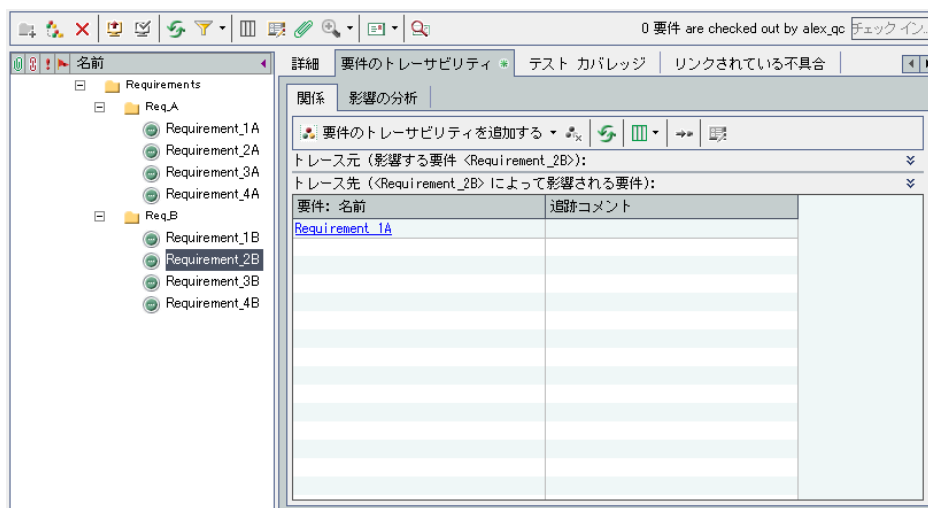
### 要件トレーサビリティの例

この関係を要件間に実装するために、Requirement\_1B および Requirement\_2B が Requirement\_1A に影響を与えるものとします。要件ツリーで Requirement\_1A を選択します。[関係] タブで Requirement\_1B および Requirement\_2B を [トレース開始] グリッドに追加します。

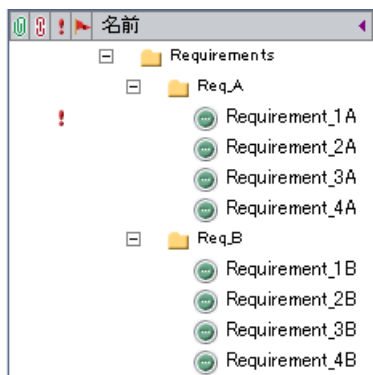


要件ツリーで Requirement\_1B を選択すると、[トレース終了] グリッドには、Requirement\_1B が Requirement\_1A まで追跡されると表示されます。

要件ツリーで Requirement\_2B を選択すると、[トレース終了] グリッドには、Requirement\_2B が Requirement\_1A まで追跡されると表示されます。



要件が変更されると、追跡を終了する要件にフラグが立てられ、要件に対する影響を評価するために作成者に電子メールが送信されます。たとえば、Requirement\_1B または Requirement\_2B が変更された場合、Requirement\_1A とその作成者に警告が発せられます。この警告は、すべてのユーザーが見ることができます。




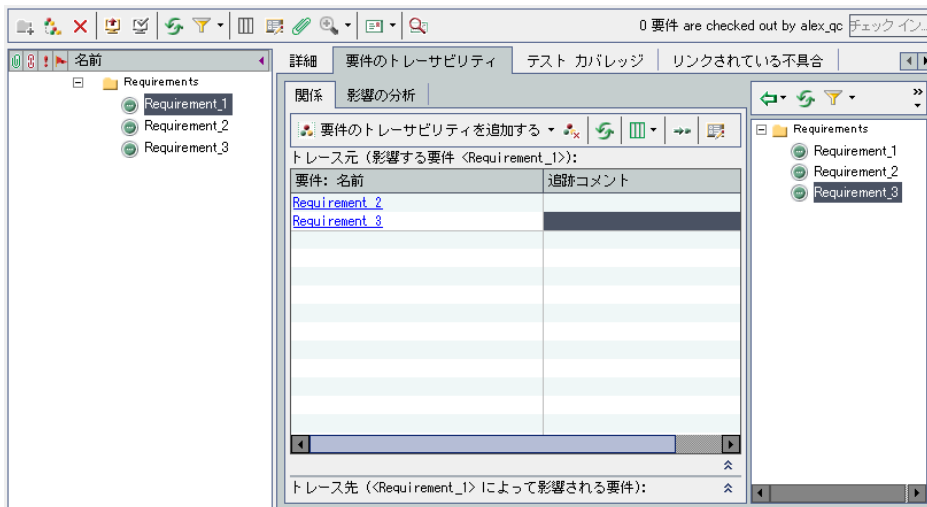
## トレーサビリティ関係の定義

[関係] タブで要件間のトレーサビリティ関係を定義できます。このタブには [トレース開始] グリッドおよび [トレース終了] グリッドがあります。[トレース開始] グリッドには、選択した要件に影響を与える要件が表示されます。[トレース終了] グリッドには、選択した要件の影響を受ける要件が表示されます。

関係を定義するには、要件ツリーから要件を選択するか、要件 ID を入力します。

要件ツリーを使用して関係を定義するには、次の手順を実行します。

- 1 要件の詳細ビューで、要件ツリーから要件を選択し、[要件のトレーサビリティ] タブをクリックします。標準設定では、[関係] タブが表示されます。
- 2  表示 / 非表示矢印ボタンをクリックして、[トレース開始] グリッドまたは [トレース終了] グリッドを表示します。
- 3 [関係] タブで [要件トレーサビリティの追加] ボタンをクリックして、右側の表示枠に要件ツリーを開きます。



- 4 ツリー内の特定の要件を検索するには、[検索] ボックスに要件名の全体（または一部）を入力し、[検索] ボタンをクリックします。検索が成功すると、ツリーの中で要件が強調表示されます。



- 5 ツリーに表示されている要件にフィルタを適用したり、並べ替えたりするには、[**フィルタ / 並べ替えの設定**] ボタンをクリックします。レコードのフィルタ処理と並べ替えの詳細については、第 3 章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。



- 6 ツリーを更新するには、[**すべて更新**] ボタンをクリックします。



- 7 グリッドに追加する要件を選択します。

- ▶ [トレース終了] グリッドに要件を追加するには、[**トレーサビリティに追加**] ボタンの矢印をクリックし、[**トレーサビリティに追加 (トレース終了)**] を選択します。
- ▶ [トレース開始] グリッドに要件を追加するには、[**トレーサビリティに追加**] ボタンの矢印をクリックし、[**トレーサビリティに追加 (トレース開始)**] を選択します。

要件がグリッドに追加されます。

---

**ヒント：**要件を要件ツリーから適切なグリッドにドラッグするという方法でも、要件トレーサビリティのリンクを追加できます。

---



- 8 右側の表示枠の要件ツリーを非表示にするには、[**閉じる**] ボタンをクリックします。

**要件 ID を入力して関係を定義するには、次の手順を実行します。**



- 1 要件の詳細ビューで、要件ツリーから要件を選択し、[**要件のトレーサビリティ**] タブをクリックします。標準設定では、[**関係**] タブが表示されます。

- 2 **表示 / 非表示** 矢印ボタンをクリックして、[トレース開始] グリッドまたは [トレース終了] グリッドを表示します。

- 3 [**要件トレーサビリティの追加**] ボタンをクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。

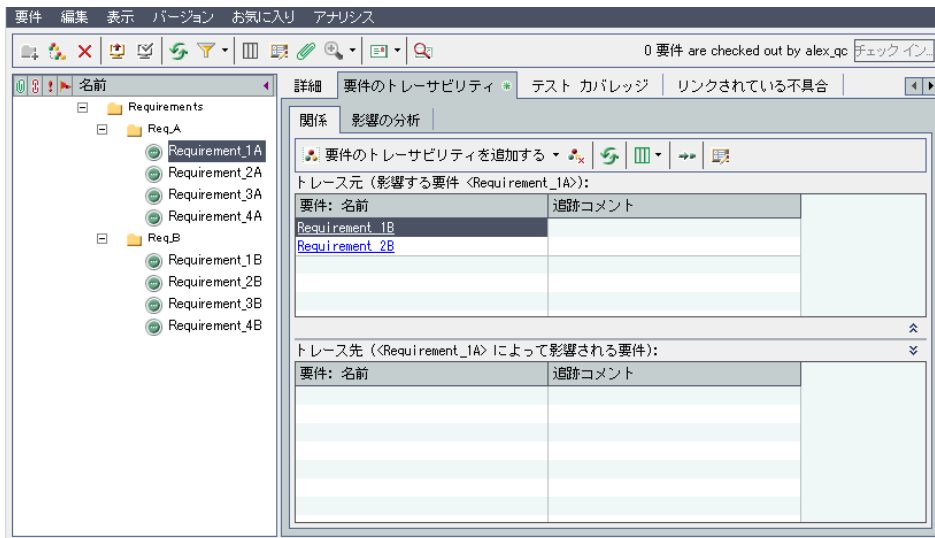
- ▶ [**ID 順 (トレース開始)**]：要件 ID を入力して、[トレース開始] グリッドにトレーサビリティのリンクを追加します。
- ▶ [**ID 順 (トレース終了)**]：要件 ID を入力して、[トレース終了] グリッドにトレーサビリティのリンクを追加します。

[既存の要件をトレース] ダイアログ・ボックスが開きます。

- 追加する要件の要件 ID を入力し、[トレース] をクリックします。指定したグリッドに要件が追加されます。

## トレーサビリティ関係の表示

要件間に存在するトレーサビリティ関係を [関係] タブに表示できます。このタブには [トレース開始] グリッドおよび [トレース終了] グリッドがあります。[トレース開始] グリッドには、選択した要件に影響を与える要件が表示されます。[トレース終了] グリッドには、選択した要件の影響を受ける要件が表示されます。







[関係] タブには、172 ページ「要件フィールド」で説明したカラムのほかに次のカラムも表示できます。

カラム	説明
[作成者]	要件リンクを作成したユーザの名前。標準設定では、ログイン・ユーザ名が表示されます。
[作成日]	要件リンクが作成された日付。標準設定では、データベース・サーバの現在の日付に設定されます。

カラム	説明
[修正済み]	要件リンクが修正された日時。標準設定では、データベース・サーバの現在の日時に設定されます。
[要件追跡 ID]	自動的に要件リンクに割り当てられる一意の英数字の ID。
[追跡コメント]	要件リンクに関するコメントが表示されます。

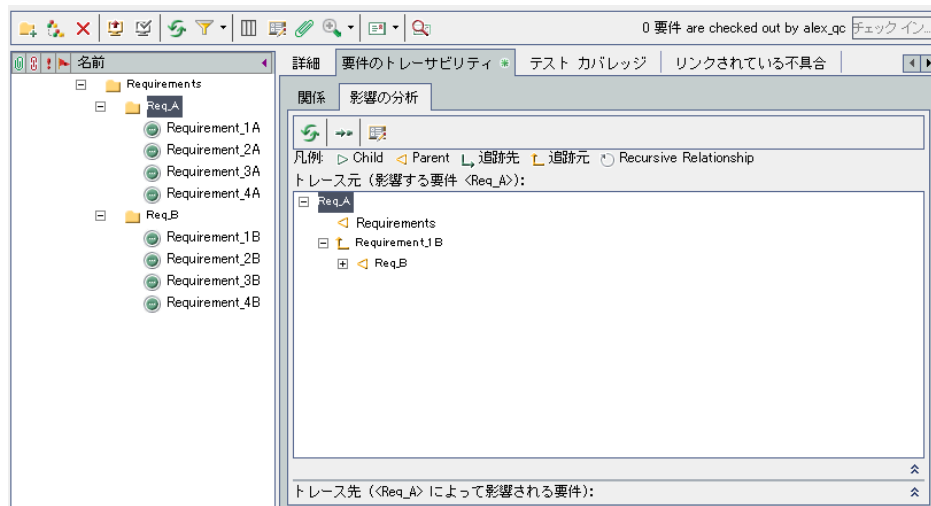
トレーサビリティ関係を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 要件の詳細ビューで、要件ツリーから要件を選択し、[要件のトレーサビリティ] タブをクリックします。標準設定では、[関係] タブが表示されます。
- 2  グリッドを更新するには、[すべて更新] ボタンをクリックします。
- 3  カラムの表示形式と順序を設定するには、[カラムの選択] ボタンの矢印をクリックし、[カラムの選択 (トレース開始)] または [カラムの選択 (トレース終了)] を選択します。[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、52 ページ「カラムの配置」を参照してください。
- 4  追跡済み要件を要件ツリーに表示するには、要件を選択し、[要件へ移動] ボタンをクリックします。
- 5  追跡済み要件の詳細を表示するには、追跡済み要件を選択し、[要件の詳細] ボタンをクリックします。[要件の詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、186 ページ「要件の更新」を参照してください。

## トレーサビリティの影響の表示

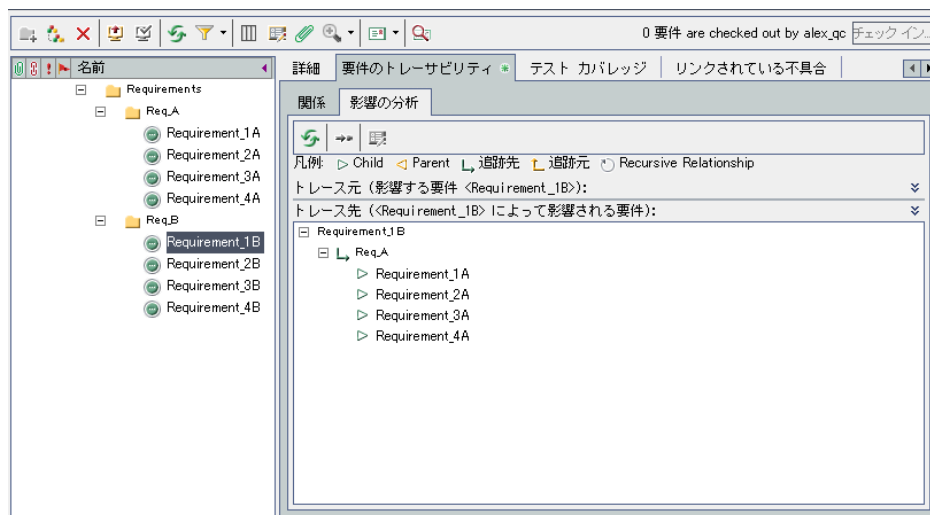
トレーサビリティ関係を確立した後に、その関係を確認して要件変更の影響を分析できます。[影響の分析] タブには、要件間に存在する多くの関連付けおよび依存関係が階層ツリー構造で表示され、関連付けと依存関係を理解するのに役立ちます。[関係] タブとは異なり、[影響分析] タブには、影響を受ける要件がその親要件および子要件とともに表示されます。

[トレース開始] ツリーには、選択した要件に影響を与える要件が表示されます。たとえば、次の [トレース開始] ツリーは、Req\_A が Requirement\_1B から追跡されることを示しています。Requirements は Req\_A の親要件です。また、Req\_B は Requirement\_1B の親要件です。










[トレース終了] ツリーには、選択した要件の影響を受ける要件が表示されま  
す。たとえば、次の [トレース終了] ツリーは、Requirement\_1B が Req\_A ま  
で追跡されることを示しています。Requirement\_1A ~ Requirement\_4A は  
Req\_A の子要件であり、Req\_A の影響を受けます。



[影響分析] タブには次のアイコンがあります。

アイコン	説明
	選択された要件に加えられた変更の影響を受ける子要件。
	選択された要件に影響を与える親要件。
	トレースを終了する要件。
	トレースを開始する要件。
	要件間の再帰的關係。

トレーサビリティの影響を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 要件の詳細ビューで、要件ツリーから要件を選択し、[要件のトレーサビリティ] タブをクリックします。標準設定では、[関係] タブが表示されます。
- 2 [影響分析] タブをクリックします。
- 3 ツリーを更新するには、[すべて更新] ボタンをクリックします。





4 追跡済み要件を要件ツリーに表示するには、要件を選択し、[要件へ移動] ボタンをクリックします。



5 追跡済み要件の詳細を表示するには、追跡済み要件を選択し、[要件の詳細] ボタンをクリックします。[要件の詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、186 ページ「要件の更新」を参照してください。

## トレーサビリティ関係のリンクの削除

[関係] タブからトレーサビリティ関係のリンクを削除できます。

トレーサビリティ関係のリンクを削除するには、次の手順を実行します。

1 要件の詳細ビューで、要件ツリーから要件を選択し、[要件のトレーサビリティ] タブをクリックします。標準設定では、[関係] タブが表示されます。



2 **表示 / 非表示** 矢印ボタンをクリックして、[トレース開始] グリッドまたは [トレース終了] グリッドを表示します。

3 適切なグリッドで、トレーサビリティ関係のリンクを選択します。複数のリンクを選択するには、CTRL キーを押しながら削除するリンクを選択します。



4 [トレーサビリティから削除] ボタンをクリックするか、右クリックして [トレーサビリティから削除] を選択します。

5 [はい] ボタンをクリックして、確定します。

# 第 15 章

---

## 要件のリスクの計算

リスク・ベース品質管理は、要件のテスト戦略を決定する際に役立ちます。

---

**Quality Center のエディション**：リスク・ベース品質管理が使用できるのは、Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition です。

---

### 本章の内容

- ▶ 要件のリスクの計算について (220 ページ)
- ▶ リスク・ベース品質管理プロセス (221 ページ)
- ▶ 要件の評価 (222 ページ)
- ▶ テスト・ポリシー設定の定義 (228 ページ)
- ▶ テスト・ポリシーの仕上げ (230 ページ)
- ▶ テスト戦略の分析 (233 ページ)
- ▶ リスク・ベース品質管理の例 (237 ページ)

## 要件のリスクの計算について

要件のテスト方法を計画する場合、通常は、利用できるリソースが無限に存在することはなく、すべての要件に対して完全なテストを行うこともできません。必要なのは折り合いをつけることであり、ビジネス致命度が低い要件、または、実装に関連するリスクが低いものしかない要件については、部分的なテストで済ませる必要があります。リスク・ベース品質管理機能では、要件の性質および利用可能なリソースに基づいて、各要件のテスト・レベルを計算できます。そして、この推奨事項を基にテスト・プロセスを計画できます。

各要件タイプは、リスク・ベース品質管理を有効にすることが可能です。リスク・ベース品質管理が有効になっている各要件タイプでは、「**アナリシス要件**」と呼ばれるリスク・アナリシス、または、「**評価要件**」と呼ばれる個々のリスク評価をサポートできます。

- ▶ **アナリシス要件**は、たとえば**フォルダ**・タイプのように、要件のツリー階層で高いレベルを表すタイプに属する要件です。要件ツリーでアナリシス要件の下にある評価要件に基づいて、アナリシス要件に関するリスク・アナリシスを行います。

複数の評価要件のリスク結果が集計され、テスト効果およびテスト戦略を決定する際に利用できる全体的なリスク・アナリシスが行われます。

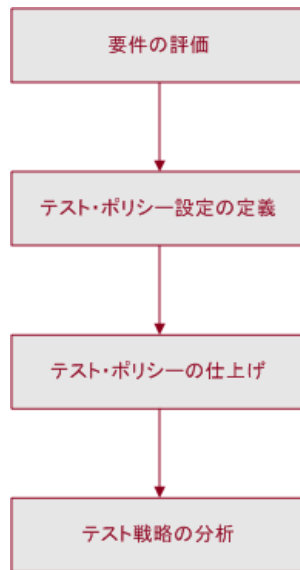
- ▶ **評価要件**は、アナリシス要件の子であり、要件のツリー階層で低いレベルにある要件を表すタイプに属する要件です。特定のアナリシス要件の下にある評価要件は、そのアナリシス要件に関するリスク・アナリシスを行う際の基礎となります。

リスク・ベース品質管理は、要件モジュールの要件の詳細ビューで使用します。また、[要件の詳細] ダイアログ・ボックスのリスク・ビューで使用することもできます。

リスク・ベース品質管理の標準設定はカスタマイズ可能です。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

## リスク・ベース品質管理プロセス

アナリシス要件に関するリスク・ベース品質管理分析の手順は次のとおりです。



### 要件の評価

アナリシス要件の下の評価要件ごとに、リスク・カテゴリおよび機能の複雑性カテゴリを決定します。

- ▶ **リスク・カテゴリ**は、ビジネス致命度と失敗の確率という2つの要素で構成されます。**ビジネス上の危険性**では、ビジネスにおけるその要件の重要度を測定します。**失敗の確率**は、その要件に基づいたテストが失敗する可能性を表します。
- ▶ **機能の複雑性カテゴリ**は、その要件の実装の複雑さを示します。

詳細については、222 ページ「要件の評価」を参照してください。

### テスト・ポリシー設定の定義

アナリシス要件の下にある評価要件のリスク・カテゴリおよび機能の複雑性カテゴリを決定したら、アナリシス要件とその下の評価要件をテストするための初期設定を定義します。この設定には、要件を完全にテストするために特定の機能の複雑性の要件に割り当てる時間、および、要件に関する部分テストまたは基本テストを行うのに要する時間が含まれます。また、リスクと機能の複雑性のそれぞれについて、要件に対して実行するテストのレベルも決定します。詳細については、228 ページ「テスト・ポリシー設定の定義」を参照してください。

### テスト・ポリシーの仕上げ

テスト・ポリシー設定を決定すると、Quality Center によって、アナリシス要件とその下の評価要件の推定合計テスト時間が計算されます。これらの要件のテストに割り当てるべき時間を決定したら、すべてのテストを実行するのに十分な時間が確保され、リソースが無駄にならないように、テスト・ポリシーを調整します。詳細については、230 ページ「テスト・ポリシーの仕上げ」を参照してください。

### テスト戦略の分析

各要件に割り当てるリソースの数が確定したら、到達したその結論を分析するためのレポートを表示できます。詳細については、233 ページ「テスト戦略の分析」を参照してください。

リスク・ベース品質管理を利用して要件のテスト戦略を決定する例については、237 ページ「リスク・ベース品質管理の例」を参照してください。

## 要件の評価

アナリシス要件の下の評価要件ごとに、リスクおよび機能の複雑性の割り当てまたは計算を行うことができます。リスク・カテゴリは、ビジネス致命度と失敗の確率で構成されます。機能の複雑性カテゴリは、その要件の実装の複雑さを示します。

要件のビジネス致命度、失敗の確率、機能の複雑性を決定するには、値を直接割り当てるか、条件セットに値を割り当てます。要件のこれらの要素を決定しないと、その要件がリスク・アナリシスに含まれなくなります。

これらの条件、その指定可能な値、そして、それらの値がビジネス致命度、失敗の確率、および機能の複雑性を決定する方法についてはカスタマイズ可能です。また、リスクを計算する上でビジネス致命度と失敗の確率をどのように使用するかについてもカスタマイズできます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

要件を評価するには、次の手順を実行します。

- 1 要件モジュールの要件の詳細ビューで、評価要件を選択し、**[リスク]** タブをクリックします。
- 2 **[リスク評価]** タブをクリックします。
- 3 選択した要件のリスク・カテゴリを決定します。詳細については、223 ページ「**リスク・カテゴリの決定**」を参照してください。
- 4 選択した要件の機能の複雑性カテゴリを決定します。詳細については、226 ページ「**機能の複雑性カテゴリの決定**」を参照してください。
- 5 **[リスク]** タブの下部にある **[予測開発時間]** ボックスには、要件の開発に要すると推定される時間を入力できます。Quality Center は、アナリシス要件とその子要件の合計予測開発時間を、子要件の予測開発時間の合計として計算します。予測開発時間の割り当ては任意であり、リスク・アナリシスには影響しません。
- 6 リスク・アナリシスを行う際に評価要件を無視するには、**[リスク]** タブの上部にある **[分析から除外]** を選択します。

## リスク・カテゴリの決定

評価要件のリスク・カテゴリは、割り当ておよび計算が可能です。リスク・カテゴリは、ビジネス致命度と失敗の確率で構成されます。

要件の**ビジネス致命度**では、ビジネスにとってその要件がどれほど重要であるかを示す指標です。使用可能な値は、**A - 致命的**、**B - 重要**、**C - 推奨**の3つです。たとえば、めったに使用しないと考えられる重要でない機能に影響する要件では、ビジネス致命度に**推奨**を割り当てます。これに対し、アプリケーションの機能に不可欠な要件では、ビジネス致命度におそらく**致命的**を割り当てることになるでしょう。

要件の**失敗の確率**は、その要件に対するテストが失敗する可能性を示す指標です。使用可能な値は、**1 - 高い**、**2 - 中**、**3 - 低い**の3つです。たとえば、実装する上でアプリケーションの大部分の領域にわたる大幅な変更を伴う要件では、失敗の確率に**高い**を割り当てることになるでしょう。これに対し、アプリケーションのアイコンの変更を要する要件の場合、おそらく関連リスクは多くないため、失敗の確率には**低い**を割り当てることになるでしょう。

要件の**リスク・カテゴリ**を決定するには、次の手順を実行します。

- 1 要件のビジネス致命度の値を決定するには、次の手順を実行します。
  - a **[リスク評価]** タブの **[ビジネス致命度]** タブをクリックします。[ビジネス致命度] タブには、ビジネス致命度を決定するために使用する条件のリストが表示されています。

**リスク評価**

分析から除外  
\* 分析口は完全な評価のみが含まれます。

評価ステータス: **開始されていません**  
 全体的なリスク: -  
 全体的な機能の複雑性: -

リスク評価 | 機能の複雑性 | 分析結果

計算されたリスク:   カスタムのリスクを使用

ビジネス上の危険性 | 失敗の確率

次の条件に値を割り当てて、この要件のビジネス上の危険性を評価します。

条件	値
処理のタイプ	
障害の影響	
使用頻度	
影響を受けるユーザの数/重大性	

条件の詳細: "処理のタイプ"  
 The type of process represented by the req  
 This criterion has the following possible val  
 Calculation/ Validation - The feature repres  
 Data Change - The feature represented by  
 Display - The feature represented by the re

計算されたビジネス上の危険性:   カスタムのビジネスの危険性

予想開発時間(オプション):  時間

- b 各条件に値を割り当てます。条件に値を割り当てるには、**[条件]** カラムの条件名をクリックし、**[値]** カラムから値を選択します。**[条件の詳細]** ボックスには条件の説明が表示されます。

各条件に値が割り当てられると、条件に割り当てられた値に基づいて **[計算されたビジネス上の危険性]** が更新されます。



- c リスク・アナリシスを実行する際、条件の値に基づいて計算されたビジネス致命度の値を無視し、その代わりにユーザ定義の値を使用するには、**[カスタムのビジネスの危険性を使用]**を選択します。**[カスタムのビジネスの危険性を使用]**ボックスには、リスク・アナリシスを実行する際に使用する値を指定します。

2 要件の失敗の確率の値を決定するには、次の手順を実行します。

- a **[失敗の確率]** タブをクリックします。

**リスク評価**

分析から除外  
\* 分析には完全な評価のみが含まれます。

評価ステータス: **開始されていません**  
全体的なリスク: -  
全体的な機能の複雑性: -

リスク評価 | 機能の複雑性 | 分析結果

計算されたリスク:   カスタムのリスクを使用

ビジネス上の危険性 | **失敗の確率**

次の条件に値を割り当てて、この要件の失敗の確率を評価:

条件	値
変更のタイプ	
ソフトウェアの成熟度	
不具合の割合	
影響を受ける画面/エンティティの数	

条件の詳細: "変更のタイプ"  
Whether the feature the requirement is new.  
This criterion has the following possible val  
New feature - The requirement represents  
Changed feature - The requirement represe  
Unchanged feature - The requirement repre:

計算された失敗の確率:   カスタムの失敗の確率を使用

予想開発時間(オプション):  時間

- b 各条件に値を割り当てます。条件に値を割り当てるには、**[条件]** カラムの条件名をクリックし、**[値]** カラムから値を選択します。**[条件の詳細]** ボックスには条件の説明が表示されます。

各条件に値が割り当てられると、条件に割り当てられた値に基づいて **[計算された失敗の確率]** が更新されます。

- c リスク・アナリシスを実行する際、条件の値に基づいて計算された失敗の確率の値を無視し、その代わりにユーザ定義の値を使用するには、**[カスタムの失敗の確率を使用]**を選択します。**[カスタムの失敗の確率を使用]**ボックスには、リスク・アナリシスを実行する際に使用する値を指定します。

- 3 リスク・アナリシスを実行する際、ビジネス致命度および失敗の確率の値に基づいて計算された [計算されたリスク] の値を無視し、その代わりにユーザ定義の値を使用するには、**[カスタムのリスクを使用]** を選択します。**[カスタムのリスクを使用]** ボックスには、リスク・アナリシスを実行する際に使用する値を指定します。

### 機能の複雑性カテゴリの決定

評価要件の機能の複雑性カテゴリは、割り当ておよび計算が可能です。要件の**機能の複雑性**は、その要件の実装の複雑さを示します。使用可能な値は、**1 - 高い**、**2 - 中**、**3 - 低い**の3つです。たとえば、実装する上で、ほかのシステムと通信できるようにするためにアプリケーションに大幅な変更を加える必要がある要件では、おそらく複雑度が高くなり、機能の複雑性に**高い**を割り当てることになるでしょう。これに対し、アプリケーションがほかのシステムと通信できるようにするために大幅な変更を加える必要がない要件の場合、おそらく関連リスクは多くないため、機能の複雑性には**低い**を割り当てることになるでしょう。

要件の機能の複雑性カテゴリを決定するには、次の手順を実行します。

- 1 [リスク] タブの [機能の複雑性] タブをクリックします。[機能の複雑性] タブには、機能の複雑性を決定する際に使用する条件のリストが表示されています。

**リスク評価**

分析から除外  
\* 分析には完全な評価のみが含まれます。

評価ステータス: **開始されていません**  
全体的なリスク: -  
全体的な機能の複雑性: -

リスク評価    **機能の複雑性**    分析結果

次の条件に値を割り当てて、この要件の機能の複雑性を評価します。

条件	値
画面もしくはプロセスステップの数	
関連するエンティティの数	
書き込まれるデータ項目の数	
データ項目の組み合わせの数	

条件の詳細: "画面もしくはプロセスステップの数"  
The number of windows, dialogs or steps used to

計算された機能の複雑性:      カスタムの機能の複雑性を使用

予想開発時間(オプション):  時間

- 2 各条件に値を割り当てます。条件に値を割り当てるには、[条件] カラムの条件名をクリックし、[値] カラムから値を選択します。[条件の詳細] ボックスには条件の説明が表示されます。

各条件に値が割り当てられると、条件に割り当てられた値に基づいて [計算された機能の複雑性] が更新されます。

- 3 リスク・アナリシスを実行する際、条件の値に基づいて計算された機能の複雑性の値を無視し、その代わりにユーザ定義の値を使用するには、[カスタムの機能の複雑性を使用] を選択します。[カスタムの機能の複雑性を使用] ボックスには、リスク・アナリシスを実行する際に使用する値を指定します。

## テスト・ポリシー設定の定義

各要件のリスクおよび機能の複雑性を定義したら、どのくらいの時間、各要件をテストする必要があるかを決定します。要件のテストに必要な時間は、要件の機能の複雑性によって決まります。一般に、機能の複雑性が高い要件は、要件の実装に不具合が含まれている可能性が高いため、長いテスト時間を必要とします。機能の複雑性ごとに、その機能の複雑性が指定された要件を完全にテストするのに必要な**テスト時間**を定義します。

Quality Centerには、4つの**テスト・レベル（完全、部分、基本、なし）**が定義されています。部分テストおよび基本テストの場合は、完全テストに対するパーセンテージで、要件に必要なテスト時間を定義します。たとえば、要件の完全テストを実行するのに20時間必要で、部分テストは完全テストの**75%**と定義した場合、Quality Centerは、要件の部分テストを実行するのに**15時間**必要と計算します。テスト・レベルが**なし**に設定された要件は、まったくテストされず、テスト効果は0になります。

テスト・レベルおよび機能の複雑性のそれぞれに必要なテスト時間を定義したら、要件をテストするテスト・レベルを見積もることができます。リスク・カテゴリおよび機能の複雑性カテゴリごとに、テスト・レベルを割り当てます。

標準設定で使用されるテスト・ポリシーはカスタマイズできます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

要件のテスト・ポリシー設定を定義するには、次の手順を実行します。

- 1 要件モジュールの要件の詳細ビューでアナリシス要件を選択し、[リスク] タブをクリックします。[表示] ボタンをクリックして、[アナリシス定数の変更] セクションを表示します。

4 要件 are checked out by alex.gq

リスク アナリシス  
最終保存日: 2009/01/19

リスク アナリシスを実行

結果  
4 件の要件を処理 (Q評価 4, 欠落している評価 0) にアクセスできません。

テスト 必要な合計テスト時間: 55 時間 (必須の 55) 割り当て済み (60)  
合計割り当てテスト時間: 60 時間 (100%)  
開発 必要な合計開発時間: 0 時間

リスク カテゴリあたりの要求数

リスク	要求数
高	3
中	0
低	1

リスク カテゴリあたりの合計テスト時間

リスク	合計テスト時間 (時間)
高	51
中	0
低	4

分析定数を変更

テスト時間とテストレベル  
機能の複雑性ごとのテスト時間 (完全):

レベル	テスト時間 (時間)
1 - 高い	18
2 - 中	15
3 - 低い	12

テストレベル (完全 = 100% なし = 0%)

レベル	割合 (%)
部分	57
基本	34

テストポリシー (Hours)

リスク	機能の複雑性		
	1 - 高い	2 - 中	3 - 低い
A - 高い	完全 (18)	完全 (15)	完全 (12)
B - 普通	部分 (12)	部分 (10)	部分 (8)
C - 低い	基本 (6)	基本 (5)	基本 (4)

標準設定を表示

保存して子に適用 | レポートの作成

- 2 [機能の複雑性ごとのテスト時間 (完全)] の下にある機能の複雑性のそれぞれの値に、要件の完全テストに必要な予測テスト時間を入力します。
- 3 [テストレベル] の下にある [部分] ボックスおよび [基本] ボックスに、要件の部分テストおよび基本テストに必要な標準設定のテスト時間を入力します。この値は、完全テストに求められる効果に対するパーセンテージで表します。
- 4 [テストポリシー] グリッドで、リスク・カテゴリおよび機能の複雑性カテゴリごとに要件のテスト・レベルを定義します。

レベルを定義するには、グリッドのセルの横にある矢印をクリックします。使用可能なテスト・レベルの中からテスト・レベルを選択します。使用可能なテスト・レベルは、**完全**、**部分**、**基本**、**なし**です。各テスト・レベルの横に、そのレベルで要件をテストするのに必要な予測時間 (定義されたテスト効果およびテスト・レベルに基づいたもの) が表示されます。

- 5 標準設定の定数を表示するには、[標準設定を表示] ボタンをクリックします。  
[リスク ベース品質管理の定数標準] ダイアログ・ボックスが開きます。  
[リスク ベース品質管理の定数標準] ダイアログ・ボックスの [標準設定に戻す] ボタンをクリックすれば、現在の要件に使用する定数としてこの標準設定値を割り当てることができます。  
[閉じる] をクリックして [リスク ベース品質管理の定数標準] ダイアログ・ボックスを閉じます。

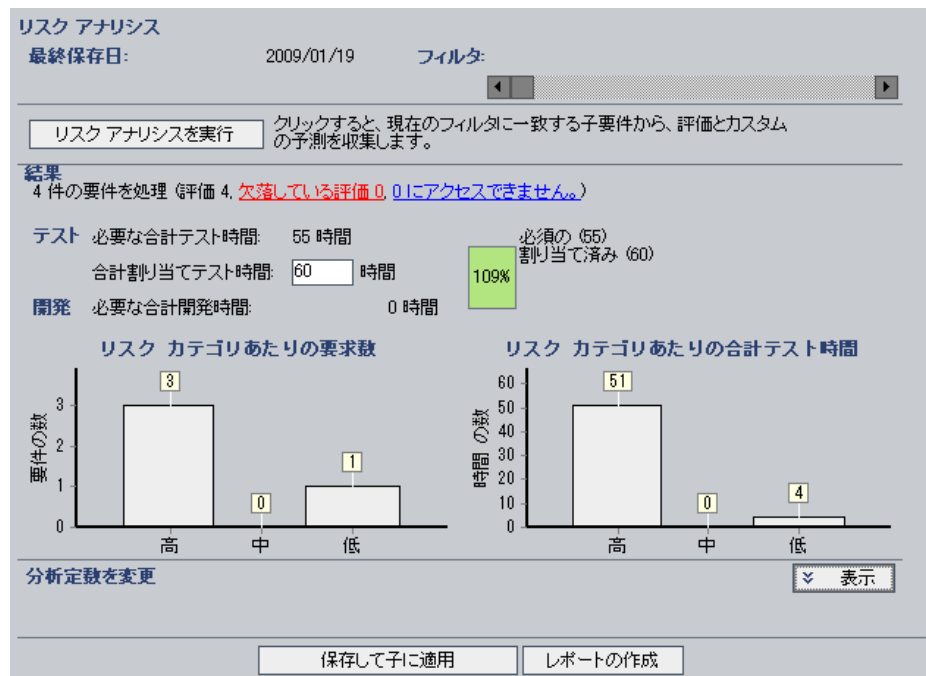
## テスト・ポリシーの仕上げ

Quality Center は、定義されたテスト・ポリシーに基づいて、アナリシス要件とその下の評価要件の合計予測テスト時間を計算します。これらの要件のテストに使用できる時間を予測し、必要なテスト時間が利用可能なテスト・リソースを超えないように、テスト・ポリシーを調整します。

たとえば、要件のテストに使える時間が 100 時間あるとします。Quality Center は、現在のテスト・レベルで要件をテストするには 120 時間必要であると予測しました。そこで、リスクが低いになっていて、機能の複雑性が普通の要件のテスト・レベルを部分から基本に下げることになりました。テスト・レベルの調整およびテスト時間の再計算後、Quality Center は、テストの実行には 98 時間あれば十分だと予測しました。これなら使用可能な時間内に収まります。これで、Quality Center の推奨に基づいて要件のテストを計画できます。

テスト・ポリシーを仕上げるには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・ポリシーを仕上げたいアナリシス要件、および、リスク・アナリシスに含めたいアナリシス要件の下にあるすべての評価要件のリスク・カテゴリおよび機能の複雑性カテゴリが決定していることを確認します。詳細については、222 ページ「要件の評価」を参照してください。
- 2 リスク・アナリシスに含めたい評価要件のみ含まれるように、要件ツリーをフィルタ処理できます。フィルタ処理の詳細については、56 ページ「レコードのフィルタ処理」を参照してください。
- 3 標準設定のテスト効果値およびテスト・レベル値を使用したくない場合は、ユーザ定義値が設定されていることを確認します。詳細については、228 ページ「テスト・ポリシー設定の定義」を参照してください。
- 4 要件モジュールの要件の詳細ビューでアナリシス要件を選択し、[リスク] タブをクリックします。



- 5 [合計割り当てテスト時間] ボックスに、アナリシス要件とその下の評価要件のテストに使用できる時間を入力します。

- 6 **[リスク アナリシスを実行]** ボタンをクリックします。現在のフィルタに一致する、アナリシス要件の下にある評価要件ごとに、Quality Center がテスト・レベルおよびテスト時間を計算します。この計算は、評価要件のリスク カテゴリ、および、アナリシス要件で定義したテスト・レベルおよびテスト時間の値に基づいて行われます。この計算の結果は次のように表示されます。
- ▶ **[必要な合計テスト時間]**：現在のフィルタに一致し、リスク・アナリシスに含まれる、アナリシス要件の下にあるすべての評価要件をテストするのに必要な合計計算時間が表示されます。
  - ▶ **[必要な合計開発時間]**：評価要件ごとに任意に予測した必要な開発時間に基づいた、アナリシス要件の下にあるすべての評価要件を開発するのに必要な合計時間が表示されます。
  - ▶ **[リスク カテゴリあたりの要求数] グラフ**：各リスク・カテゴリのアナリシス要件のサブ要件の数が表示されます。
  - ▶ **[リスク カテゴリあたりの合計テスト時間] グラフ**：各リスク・カテゴリのすべての要件をテストするのに必要な合計計算テスト時間が表示されます。
- 7 分析にどの要件が含まれていて、どの要件が含まれていないかを表示するには、リスク・カテゴリごとの要件数グラフの一部をクリックするか、**[欠落している評価]** リンクまたは**[評価不可]** リンクをクリックします。**[結果のドリルダウン]** ダイアログ・ボックスが開き、グリッドにカテゴリの要件のリストが表示されます。カラムの順序と表示形式を指定して、個々の要件の詳細を表示できます。グリッドの内容は、テキスト・ファイル、Microsoft Excel スプレッドシート、Microsoft Word ドキュメント、または HTML ドキュメントとしてエクスポートすることもできます。詳細については、75 ページ「ファイルへのデータのエクスポート」を参照してください。

---

**ヒント**：**[不明な評価です]** リンクには、カテゴリを決定しなかった要件、または、分析から明示的に除外した要件が表示されます。カテゴリを割り当てるべき要件がないように、表示されている要件を調べることをお勧めします。本当に要件を分析に含めたくない場合は、分析から明示的に除外することをお勧めします。

---



- 8 合計計算テスト時間と使用可能なリソースを比較します。使用可能なリソースでは、現在の設定に従って要件をテストするのに不十分な場合は、リスク・カテゴリのテスト・レベルを下げるか、各テスト・レベルに割り当てられているテスト時間を短くして、再計算することをお勧めします。テスト・レベルおよびテスト時間の変更の詳細については、228 ページ「テスト・ポリシー設定の定義」を参照してください。
- 9 テスト・ポリシーに問題がなければ、[保存して子に適用] ボタンをクリックして、現在のフィルタに一致する、アナリシス要件の下にあるすべての評価要件にこのテスト・ポリシーを適用します。
- 10 これで、アナリシス要件に対して作成したテスト・ポリシーがその下の評価要件にどのように影響するかを分析し、テスト戦略を詳述したレポートを作成できます。詳細については、233 ページ「テスト戦略の分析」を参照してください。

## テスト戦略の分析

アナリシス要件のテスト・ポリシーを仕上げたら、アナリシス要件のテスト戦略、および、アナリシス要件の下にある評価要件のテスト戦略を分析します。分析結果は、最後に分析が行われたときの要件にのみ有効です。引き続き、要件のリスク・カテゴリまたは機能の複雑性カテゴリ、あるいはテスト・ポリシーを変更する場合は、再度分析を行う必要があります。

本項では、次の項目について説明します。

- ▶ アナリシス要件のテスト戦略の分析
- ▶ 評価要件のテスト戦略の分析

### アナリシス要件のテスト戦略の分析

アナリシス要件のテスト・ポリシーを仕上げたら、テスト戦略を詳述したレポートを生成します。このレポートは、Microsoft Word ドキュメントとして所定のファイル・ディレクトリに保存されます。また、アナリシス要件の添付ファイルとして保存することもできます。

---

**注：** レポートを生成するには、お使いのマシンに Microsoft Word および Microsoft Excel がインストールされている必要があります。

---

アナリシス要件のテスト戦略を分析するには、次の手順を実行します。

- 1 要件モジュールの要件の詳細ビューでアナリシス要件を選択し、[リスク] タブをクリックします。
- 2 分析情報を保存し、アナリシス要件の下のすべての評価要件に適用します。  
[保存して子に適用] ボタンをクリックします。[OK] をクリックします。
- 3 [レポートの作成] ボタンをクリックします。[レポートの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 4 [標準設定の場所] ボックスに、データのエクスポート先となる Word ファイルの場所と名前を入力します。参照ボタンをクリックすれば、[名前を付けて保存] ダイアログ・ボックスから場所を選択できます。
- 5 また、レポートをアナリシス要件の添付ファイルとして追加するには、[レポートを添付ファイルとして追加] を選択します。
- 6 要件のリストを含めるには、[レポートに要件のリストを含める] を選択します。
- 7 [作成] をクリックします。レポートが生成され、指定の場所に保存されます。  
レポートには次の見出しが含まれています ([レポートの作成] ダイアログ・ボックスでの選択によって異なります)。

見出し	説明
最終保存日	リスク・アナリシスが最後に実行された日付。
フィルタ	リスク・アナリシスに含まれている要件を特定するのに使用したフィルタ。

見出し	説明
<b>処理済み</b>	リスク・アナリシスに含まれている要件の数。その詳細（評価された要件，評価が不明な要件，評価できない要件）も示します。
<b>必要なテスト時間の合計</b>	指定したテスト・ポリシーに従って，リスク・アナリシスに含まれている要件をテストするのに必要な時間の合計。
<b>割り当てテスト時間の合計</b>	リスク・アナリシスに含まれている要件をテストするために割り当てられた時間の合計。
<b>必要な開発時間の合計</b>	要件で定義された機能を開発するのに必要な時間の合計。
<b>リスク・カテゴリごとの要件数</b>	リスク・カテゴリごとに要件数の詳細が示されたグラフ。
<b>リスク・カテゴリごとの合計テスト時間</b>	各リスク・カテゴリのすべての要件をテストするのに必要な合計時間が示されたグラフ。
<b>実装済みテスト・ポリシー</b>	リスク・アナリシスで使用されたテスト・ポリシーに従って，各リスク・カテゴリに属する要件をテストするのに必要な時間。
<b>Analyzed requirements</b>	リスク・アナリシスに含まれている，評価がなされた要件のリスト。リスク・カテゴリ，テスト・レベル，テスト時間も示されます。
<b>Requirements with missing assessments</b>	リスク・アナリシスに含まれている，評価がなされなかった要件のリスト。
<b>Not assessable requirements</b>	評価できない要件のリスト。この要件は，分析から明示的に除外されている要件，あるいは，リスク・ベース品質管理をサポートしないタイプに属する要件である場合があります。

## 評価要件のテスト戦略の分析

アナリシス要件のテスト・ポリシーを仕上げたら、そのアナリシス要件の下の評価要件に対する効果を分析します。

評価要件のテスト戦略を分析するには、次の手順を実行します。

- 1 要件モジュールの要件の詳細ビューで評価要件を選択し、**[リスク]** タブをクリックします。**[分析結果]** タブをクリックします。

リスク評価	機能の複雑性	分析結果
次の分析要件に基づく:		<a href="#">[3] Mercury Tours Application</a>
最終分析日:		2009/01/08
全体的なリスク評価:		C
計算されたテスト レベル:		3-Basic
計算されたテスト時間:		4 時間
<input type="checkbox"/> 次の計算に使用		
テストレベル	<input type="text"/>	
テスト時間	<input type="text"/>	時間

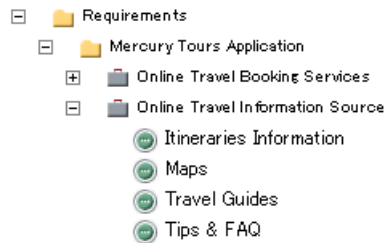
[分析結果] タブには、評価要件の親のアナリシス要件に対して行った最後の分析の結論が表示されます。

- ▶ **[次の分析要件に基づく]**：現在の要件が含まれる最後の分析が行われたアナリシス要件が表示されます。アナリシス要件の名前をクリックすると、要件ツリーのアナリシス要件に移動できます。
- ▶ **[最終分析日]**：現在の要件が含まれる最後の分析が行われた日付。
- ▶ **[全体的なリスク評価]**：要件のビジネス致命度および失敗の確率に基づいてリスクを計算します。
- ▶ **[計算されたテスト レベル]**：現在の要件が含まれる最後の分析で計算された、要件をテストするレベル。
- ▶ **[計算されたテスト時間]**：現在の要件が含まれる最後の分析で計算された、要件のテストに割り当てられた時間。

- 2 次の計算で算出された値を無効にし、その代わりにユーザ定義値を使用するには、**[次の計算に使用]** チェック・ボックスを選択します。**[テストレベル]** ボックスには、次の計算で使用するテスト・レベルを指定します。**[テスト時間]** ボックスには、次の計算で使用するテスト効果を入力します。次回、現在の要件が含まれる分析を行うときには、計算された値ではなくこれらの値が使用されます。

## リスク・ベース品質管理の例

ここでは、フライトと休暇を予約するアプリケーションに基づいたプロジェクトを使用していると仮定します。あなたは、**Mercury Tours Application** の下にある **Online Travel Information Source** というアナリシス要件のテストを計画したいと思っています。



まず、子の **Itineraries Information** という評価要件のビジネス致命度条件に値を割り当てます。旅行日程に関する情報は、表示するためのものであって計算や検証を伴わないため、**プロセスのタイプ**という条件には**表示**という値を割り当てます。また、旅行日程に関する情報が間違っていると、訴訟につながる可能性があるため、**失敗の影響**という条件には**法的影響**という値を割り当てます。

さらに、**使用頻度**には非常に頻繁を、**影響を受けるユーザの数 / 重要性**には多数 / 高を割り当てます。現在、Quality Center は要件のビジネス致命度を **A** と計算しています。

リスク評価 | 機能の複雑性 | 分析結果

計算されたリスク:   カスタムのリスクを使用

ビジネス上の危険性 | 失敗の確率

次の条件に値を割り当てて、この要件のビジネス上の危険性を評価します。

条件	値
処理のタイプ	表示
障害の影響	リーガル
使用頻度	頻繁に使われる
影響を受けるユーザの数/重大性	多数/重大

条件の詳細: "影響を受けるユ  
How many users are affected b  
This criterion has the following  
**Many/High** - The requiremen  
**Some/Medium** - The requirem  
**Few/Low** - The requirement a

計算されたビジネス上の危険性:   カスタムのビジネスの危険性

同様に、条件に値を割り当てて失敗の確率を決定します。Quality Center は、失敗の確率を **2** と計算します。次に、条件に値を割り当てて機能の複雑性を決定します。Quality Center は、機能の複雑性を **1** と計算します。全体的なリスク・カテゴリは **A** となり、全体的な機能の複雑性は **1** となります。

引き続き、**Maps, Travel Guides, Tips & FAQ** という各評価要件について、リスクおよび機能の複雑性を決定します。

これで、**Online Travel Information Source** という要件に対してリスク・アナリシスを実行する準備が整いました。Quality Center の標準設定のテスト・ポリシーを使用し、そのポリシーに基づいてリスク・アナリシスを実行するように指定します。Quality Center は、要件をテストするのに 60 時間必要であると割り出します。しかし、使用できる時間は、必要なリソースの 83% の 50 時間しかありません。そこで、テスト・ポリシーを変更する必要があります。

リスク アナリシス  
最終保存日: 2009/01/19      フィルタ:

リスク アナリシスを実行      クリックすると、現在のフィルタに一致する子要件から、評価とカスタムの子測を収集します。

**結果**  
4 件の要件を処理 (評価 4, 欠落している評価 0, 0 にアクセスできません)

**テスト**    必要な合計テスト時間: 60 時間      必須の (60)  
合計割り当てテスト時間: 50 時間      83%      割り当て済み (50)

**開発**    必要な合計開発時間: 0 時間

**リスク カテゴリあたりの要求数**

リスク カテゴリ	要件の数
高	3
中	1
低	0

**リスク カテゴリあたりの合計テスト時間**

リスク カテゴリ	時間の数
高	51
中	9
低	0

分析定義を変更      表示

保存して子に適用      レポートの作成

リスク・カテゴリが **A3** の要件のテスト・レベルを**完全**から**基本**に変更します。再計算により、要件のテストに必要な時間は 52 時間となりましたが、やはり使用できる時間を超えています。そこで、基本テストの定義を変更することにし、完全テストの 34% ではなく 20% と定義します。今度は、要件のテストに必要な時間は 50 時間と算出されました。これは使用できる時間と同じです。したがって、この変更されたテスト・ポリシーを受け入れることにします。

これで、要件をテストするのに十分なリソースが確保されました。  
Quality Center で推奨されたテスト戦略がまとめられたリスク・アナリシス・レポートを作成し、組織に提出してテスト計画の基礎として使用します。



### アナリシス要件の予測エフォート契約 Online Travel Information Source

最終保存日 : 2009/01/19

フィルタ : [Filter]

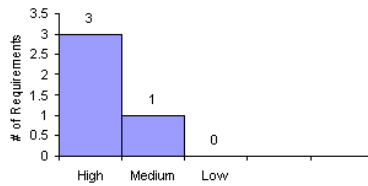
処理済み 4 要件 (4 評価, 0 不明な評価です, 0 評価できません)

必要テスト時間の合計 : 60 Hours

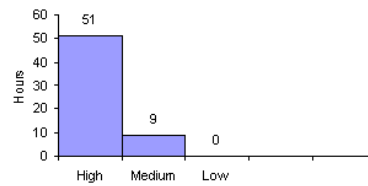
割り当てテスト時間の合計 : 60 Hours

必要な開発時間の合計 : 0 Hours

リスクカテゴリ毎の要件数



リスク カテゴリ毎の合計テスト時間





# 第 IV 部

---

テストの計画

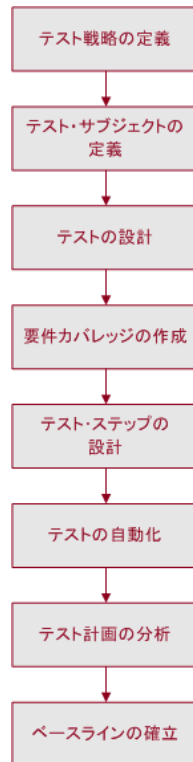


# 第 16 章

## テスト計画のワークフロー

明確で簡潔なテスト計画の作成は、アプリケーションのテストを成功させるために不可欠です。適切なテスト計画があれば、アプリケーション管理プロセスのどの時点でもアプリケーションの品質を評価できます。

本章では、テスト計画モジュールを使用してテスト計画を開発する方法について説明します。テスト計画の開発は、次の段階から構成されています。



## テスト戦略の定義

要件モジュールで定義した要件を達成するための戦略の枠組みを設定します。そのためには、次の2つの基本的な問題について検討してみてください。

### アプリケーションをどのようにテストすればよいか

- ▶ 使用するテスト手法（ストレス・テスト、セキュリティ・テスト、パフォーマンスおよび負荷テストなど）
- ▶ 不具合の処理方法（重要度の分類、不具合の開始または終了の承認など）

### どのようなリソースが必要か

- ▶ テストを行うために必要なリソース（人員、ハードウェアなど）
- ▶ さまざまな作業の完了時期

たとえば、フライトのスケジューリング、搭乗予約、および航空券販売を管理する航空券予約アプリケーション（デモ・アプリケーションは英語）の場合を考えてみます。テストにあたっては、手動テストと自動テストの両方を設計することが必要となります。自動テストの設計作業にはプログラミング経験のあるテスト担当者を、手動テストの設計にはプログラマ以外の担当者を割り当てることができます。

## テスト・サブジェクトの定義

アプリケーションの機能の階層関係について検討します。機能をサブジェクトに分割し、アプリケーションの機能を表すテスト計画ツリーを作成します。

3テスト計画ツリーとは、テスト計画を視覚的に表現したもので、トピックに従って編成されたテストの階層リストであり、品質上の要件を満たすために実施する一連のテストを記述するものです。たとえば、航空券予約アプリケーションでは、テスト・サブジェクトとして **Flight Finder**, **Book Flight**, **Flight Confirmation**, **Flight Cost** を組み入れる必要があると定義することができます。

テスト計画ツリーの作成方法に関する詳細と解説については、第18章「テスト計画ツリーの開発」を参照してください。

## テストの設計

テスト計画ツリーの各サブジェクトに対するテストを計画します。有効性レベル・テストや回帰テストなど、各サブジェクトに対して作成するテストのタイプを決定します（テストのタイプの詳細については、第28章「テスト・セットの作成」を参照してください）。次に、テストを作成し、そのテストをテスト計画ツリーの分岐に割り当てます。たとえば、航空券予約アプリケーションでは、「**Flight Finder**」というサブジェクトに対して、「**Airline Preference**」、「**Departing and Arriving Locations**」、「**Departing Date**」、「**Find Flight**」、「**Flight Time Preference**」、および「**Number of Passengers**」というテストを追加できます。

テストを特定の不具合にリンクすることができます。これは既知の不具合を対象にした新しいテストを作成した場合などに便利です。リンクを作成することで、不具合のステータスに基づいて、テストを実行するかどうかを判断できます。

テスト計画の詳細については、第18章「テスト計画ツリーの開発」を参照してください。

手動テストにパラメータを含めることができます。これにより、同じテストを繰り返し実行したり、パラメータに異なる値を割り当てたりできます。詳細については、323 ページ「手動テストでのパラメータを使った作業」を参照してください。

また、Quality Center リポジトリにアップロードした一連のリソースにテストを関連付けることができます。その後、これらの依存関係を表示し、使用中のリソースを特定できます。これはたとえば、プロジェクト間でテストをコピーする場合などに役立ちます。テストは関係するリソースと一緒に新しいプロジェクトにコピーされます。リソースの詳細については、第24章「テスト・リソースの管理」および第25章「依存関係の表示」を参照してください。

## 要件カバレッジの作成

テスト計画ツリーの各テストを要件ツリーの要件にリンクします。テストの要件カバレッジを定義することによって、テスト計画のテストと元の要件の関係を追跡することができます。たとえば、航空券予約アプリケーションで、「**Registration**」というサブジェクトのテストが、「**Customer Personal Information**」という要件トピックをカバーすることが考えられます。

要件カバレッジの詳細については、第19章「要件とテスト・カバレッジ」を参照してください。

## テスト・ステップの設計

テスト計画ツリーのテストを設計します。実行する操作と期待結果を記述するテスト・ステップを作成します。テスト・ステップを定義したら、テストを手作業で実行するか、自動化するかを決定します。

手動テストの場合、ステップを定義し、これらのステップをアプリケーションで実行し、それぞれのステップの結果を記録します。手動テストは、テスト担当者の応答が必要な場合に使用します。手動テストには、ユーザビリティ・テスト、1回限りのテスト、すぐに実行する必要のあるテスト、アプリケーションの知識が必要なテスト、および結果が予測できないテストがあります。

たとえば、航空券予約アプリケーションの場合、ダイアログ・ボックスがユーザにとって使いやすいものであるかどうかを確認するテストでは、ユーザの意見が必要です。したがって、これらのテストは手作業で行う必要があります。

別の手動テストを呼び出すステップを含めることができます。これは、別のテストの一環として実行する共通のステップがある場合に役立ちます。

テスト・ステップの設計の詳細については、第20章「テストの作成」を参照してください。

## テストの自動実行

テストを自動化すると、テストを短時間かつ無人で実行できます。また、テストを再利用したり、繰り返し実行したりすることができます。たとえば、機能テストやベンチマーク・テスト、単体テスト、ストレス・テスト、負荷テストを自動実行できるほか、アプリケーションに関する詳細情報が要求されるテストも自動実行できます。

テスト・ステップを設計したら、どのテストを自動化するかを決定します。テストの自動化の決定に影響する要因には、実行頻度、データの入力量、実行時間の長さ、および複雑さがあります。

自動テストを行う場合、まずテスト・ステップを設計し、テスト・スクリプトを作成して自動化します。テスト・スクリプトとしては WinRunner、QuickTest Professional、LoadRunner、または Visual API-XP を使用できます。

たとえば、航空券予約アプリケーションの場合、ログインの仕組みが機能するかどうかを確認するテストを自動化できます。テスト・ステップを追加した後、テスト・スクリプトを作成します。次に、QuickTest Professional を使用して、自動テスト・スクリプトを完成します。

自動テストの作成の詳細については、第22章「自動テストの作成」を参照してください。

自動システム・テストを作成して、マシンのシステム情報の取得、デスクトップの画像のキャプチャ、マシンの再起動といった処理を行うこともできます。詳細については、第23章「システム・テストの活用」を参照してください。

## テスト計画の分析

テスト計画を検討して、アプリケーション管理プロセスの最初に定義した目標との適合性を判断します。次に、レポートおよびグラフを作成してテスト計画を分析します。詳細については、第 40 章「ダッシュボード・モジュール」を参照してください。

たとえば、テスト計画ツリーの各テストの設計ステップ・データを表示するレポートを作成できます。このレポートは、テスト設計仕様の優先順位を判断する場合に役立ちます。

アプリケーション管理プロセスを確実に成功させるため、プロセス全体を通じてテスト計画を分析することをお勧めします。テスト計画を検討して、テスト目標に適合しているかどうかを判断し、必要に応じてテスト計画を調整します。

## ベースラインの作成

テスト計画がレビューされ、承認されたら、ベースラインを作成できます。ベースラインでは、特定の時点のテスト計画のスナップショットを参照できます。ベースラインを使用して、アプリケーションのライフサイクル内で任意の重要なポイントをマークできます。さらにベースラインは、変更を比較できる参照ポイントとして機能します。

ベースラインの詳細については、第 38 章「ライブラリとベースライン」を参照してください。



# 第 17 章

---

## テスト計画モジュールの概要

本章では、テスト計画モジュールの主な要素について説明します。

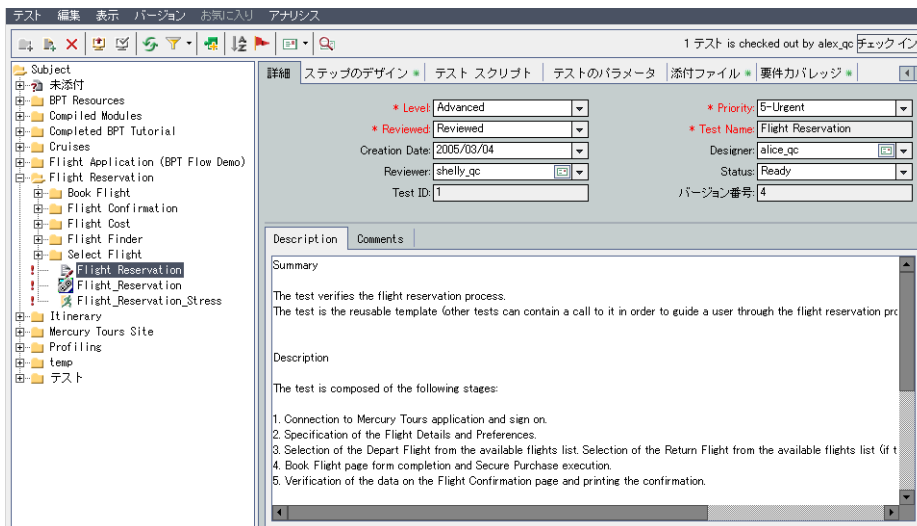
### 本章の内容

- ▶ テスト計画ツリー (250 ページ)
- ▶ テスト計画メニュー・バー (252 ページ)
- ▶ テスト計画ツールバー (254 ページ)
- ▶ テスト・グリッド (256 ページ)

## テスト計画ツリー








Quality Center では、テスト計画モジュールでテストを設計します。テスト計画モジュールを表示するには、サイドバーの **[テスト計画]** ボタンをクリックします。テスト計画ツリーを表示するには、**[表示]** > **[テスト計画ツリー]** を選択します。



テスト計画ツリーの主要要素は、次のとおりです。

- ▶ **テスト計画メニュー・バー**：テスト計画モジュールのコマンドのドロップダウン・メニューが表示されます。詳細については、252 ページ「テスト計画メニュー・バー」を参照してください。
- ▶ **テスト計画ツールバー**：テスト計画ツリーの作成および変更によく使用するコマンドのボタンが含まれます。詳細については、254 ページ「テスト計画ツールバー」を参照してください。
- ▶ **テスト計画ツリー**：テスト計画を視覚的に表したものです。詳細については、第18章「テスト計画ツリーの開発」を参照してください。
- ▶ **[詳細] タブ**：テスト計画ツリーで現在選択されているサブジェクト・フォルダまたはテストの説明が表示されます。詳細については、第18章「テスト計画ツリーの開発」を参照してください。

- ▶ **[ステップのデザイン]** タブ：テスト計画ツリーで現在選択されているテストの実行方法を説明するテスト・ステップのリストです。選択されているテストにデザイン・ステップがある場合、このタブにアイコンが表示されます。詳細については、第 20 章「テストの作成」を参照してください。
- ▶ **[テストスクリプト]** タブ：テスト計画ツリー上で現在選択しているテスト用のテスト・スクリプトです。選択されているテストにテスト・スクリプトがある場合、このタブにアイコンが表示されます。詳細については、第 22 章「自動テストの作成」を参照してください。Business Process Testing の [テストスクリプト] タブの使用方法の詳細については、『HP Business Process Testing User Guide』（英語版）を参照してください
- ▶ **[テストのパラメータ]** タブ：テスト計画ツリーで現在選択されているテストに関連付けられているパラメータのリストです。パラメータはテストのデザイン・ステップに組み込むことができます。選択されているテストにパラメータがある場合、このタブにアイコンが表示されます。詳細については、第 21 章「手動テストでのパラメータを使った作業」を参照してください。
- ▶ **[添付ファイル]** タブ：テスト計画ツリーで現在選択されているテストに関する追加情報が含まれる添付ファイルのリストです。選択されているテストに添付ファイルがある場合、このタブにアイコンが表示されます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。
- ▶ **[要件カバレッジ]** タブ：テスト計画ツリーで現在選択されているテストが満たす要件のリストです。選択されているテストに要件カバレッジがある場合、このタブにアイコンが表示されます。詳細については、第 19 章「要件とテスト・カバレッジ」を参照してください。
- ▶ **[リンクされている不具合]** タブ：テスト計画ツリーで現在選択されているテストにリンクされている不具合のリストです。詳細については、第 36 章「不具合のリンク」を参照してください。
- ▶ **[依存関係]** タブ：テスト計画ツリーで現在選択されているテストに関連付けられている依存関係のリストです。詳細については、第 25 章「依存関係の表示」を参照してください。
- ▶ **[ライブアナリシス]** タブ：テスト計画ツリーで選択されているサブジェクト・フォルダに関連するテスト・データを視覚的に表したものです。詳細については、第 44 章「ライブ・アナリシス・グラフの作成」を参照してください。

- ▶ **[履歴] タブ**：現在選択されているテストに加えられた変更のリストです。詳細については、275 ページ「テストの履歴の表示」を参照してください。また、テストが含まれているベースラインの履歴も表示されます。詳細については、539 ページ「ベースラインの履歴の表示」を参照してください。

---

**ヒント**：テスト計画ツリーで**テスト ID** を指定して特定のテストを検索するには、**[テスト] > [テストへ移動]** を選択して、テスト ID を入力します。テスト ID を表示するには、**[カラムの選択]** ダイアログ・ボックスを使用して **[テスト ID]** カラムを選択します。現在のフィルタに含まれるテストにのみ移動できます。

---

## テスト計画メニュー・バー

テスト計画メニュー・バーには、次のメニューがあります。

- ▶ **[テスト]** メニューには、ツリーのフォルダとテストを管理するためのコマンド、テスト・セットのテストに移動するためのコマンド、およびテストをメールで送信するためのコマンドが表示されます。詳細については、第 18 章「テスト計画ツリーの開発」を参照してください。
- ▶ **[編集]** メニューには、テストの切り取り、コピー、貼り付け、名前の変更、削除、置換、検索を行うためのコマンドがあります。テストの警告の表示やクリアをしたり、テストにフォローアップ・フラグを設定したりすることもできます。警告とフォローアップの詳細については、第 4 章「変更発生時の警告」を参照してください。
- ▶ **[バージョン]** メニューは、バージョン・コントロールが有効なプロジェクトで使用できます。このメニューには、テストのチェックインおよびチェックアウト、チェックアウトの取り消し、チェックアウト済みのすべてのテストの表示を行うためのコマンドがあります。詳細については、第 7 章「バージョン・コントロールを使った作業」を参照してください。
- ▶ **[表示]** メニューには、テスト計画ツリーまたはテスト・グリッド内でのテストの表示の設定、テストのフィルタ処理と並べ替え、および表示されているカラムの設定を行うためのコマンドがあります。

- ▶ **[お気に入り]** メニューには、お気に入りのビューの追加および整理を行うためのコマンドがあります。これはテスト・グリッドのみで使用できます。お気に入りビューの詳細については、第 6 章「お気に入りビューを使用した作業」を参照してください。
- ▶ **[アナリシス]** メニューには、計画レポートおよびグラフを作成するためのコマンドがあります。計画レポートの詳細については、第 42 章「標準レポートの作成」を、計画グラフの詳細については、第 41 章「グラフの作成」および第 44 章「ライブ・アナリシス・グラフの作成」を参照してください。

---

**ヒント：**テスト計画メニュー・バーには、テスト計画モジュールからショートカットキー、F9 を押してアクセスできます。さらに、ショートカット・キーを使用して、ほかの多くの Quality Center 操作を実行できます。ショートカット・キーの一覧は、付録 B「Quality Center キーボード・ショートカット」を参照してください。

---

## テスト計画ツールバー

テスト計画ツールバーには、次のボタンがあります。



**[フォルダの新規作成]**：新しいサブジェクト・フォルダをテスト計画ツリーに追加します。詳細については、265 ページ「テスト計画ツリーの作成」を参照してください。



**[テストの新規作成]**：テスト計画ツリーに新しいテストを追加します。詳細については、267 ページ「テスト計画ツリーへのテストの追加」を参照してください。



**[削除]**：選択したフォルダまたはテストをツリーから削除します。詳細については、287 ページ「フォルダまたはテストの削除」を参照してください。



**[全て更新]**：テスト計画ツリーを更新し、最新のテストを表示します。



**[フィルタ/ソートの設定]**：次のオプションがあります。

- ▶ **[フィルタ/ソートの設定]**：[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト計画ツリーのテストのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。
- ▶ **[フィルタ/ソートをクリア]**：テスト計画ツリーに適用したフィルタや並べ替えをクリアします。

テストのフィルタ処理と並べ替えの詳細については、第3章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。



**[フォルダの並べ替え]**：[テスト計画ツリーでフォルダを並べ替え] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト計画ツリーのフォルダの並び順を指定して、並べ替えを実行できます。標準設定では、フォルダの名前順に並べられます。詳細については、285 ページ「テスト計画ツリーの並べ替え」を参照してください。



**[フォローアップ フラグ]**：[フォローアップ フラグ] ダイアログ・ボックスが開きます。テストのフォローアップ・フラグの追加または変更を行うことができます。詳細については、84 ページ「フォローアップ・フラグの設定」を参照してください。



**[電子メールで送信]** : [電子メールで送信] ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先, またはほかの任意の電子メール・アドレス宛に, 選択したテストを含んだ電子メールを送信できます。詳細については, 276 ページ「テストのメール送信」を参照してください。



**[テキスト検索]** : ウィンドウの下部にテキスト検索の表示枠が開き, キーワードを入力して定義済みフィールドを検索できます。詳細については, 73 ページ「レコードの検索」を参照してください。

**[バージョンコントロール]** : テスト計画ツールバーには, 次のバージョン・コントロール用の追加のボタンが表示されます。



▶ **[チェックアウト]** : [チェックアウト] ダイアログ・ボックスが開きます。選択したテストをチェックアウトできます。



▶ **[チェックイン]** : [チェックイン] ダイアログ・ボックスが開きます。選択したテストをチェックインできます。

バージョン・コントロールの詳細については, 第7章「バージョン・コントロールを使った作業」を参照してください。

## テスト・グリッド

テスト・グリッドには、Quality Centerプロジェクトのテストがすべて表示されます。各行に別々のテスト・レコードが表示され、各カラムは別々のデータ項目を表します。

テスト・グリッドを表示するには、[表示] > [テストグリッド] を選択します。

Test Name	Creation Date	Description	Designer	Estimate	Execution Status	Level	Modified	Path
Flight Reservation	2005/03/04	Summary	Thalice_qc		Passed	Advanced	2009/01/19	1
Itinerary Page	2005/03/04	Summary	Thimichael_qc		Passed	Advanced	2007/03/28	
Profiling	2005/03/04	Summary	Thimichael_qc		Failed	Advanced	2007/03/28	
Welcome Page	2005/03/04	Summary	Thimichael_qc		Passed	Advanced	2007/03/28	
Book Flight	2005/03/04	Summary	Thalice_qc		No Run	Advanced	2008/11/25	5
Flight Confirmation	2005/03/04	Summary	Thalice_qc		No Run	Advanced	2007/03/13	
Find Flight	2005/03/04	Summary	Thalice_qc		No Run	Advanced	2007/03/13	
Select Flight	2005/03/04	Summary	Thalice_qc		No Run	Advanced	2007/03/13	
Review Reservations	2005/03/04	Summary	Thcecil_qc		Passed	Advanced	2007/03/28	
Registration	2005/03/04	Summary	Thcecil_qc		No Run	Medium	2007/03/13	
Sign-On	2005/03/04	Summary	Thcecil_qc		No Run	Basic	2007/03/13	
Sign-Off	2005/03/04	Summary	Thshelly_qc		No Run	Medium	2007/03/13	
Connect And Sign-On	2005/03/05	Summary	Thalice_qc		No Run	Basic	2007/03/13	
Connect	2005/03/05	Summary	Thalice_qc		No Run	Basic	2006/06/22	
Departing Date	2005/03/06	Summary	Thalice_qc		Passed	Basic	2007/03/28	
Returning Date	2005/03/06	Summary	Thalice_qc		Passed	Basic	2007/03/28	
View Calendar	2005/03/06	Summary	Thalice_qc		Passed	Basic	2007/03/28	
Service Class Preference	2005/03/06	Summary	Thalice_qc		Failed	Basic	2008/11/25	21
Airline Preference	2005/03/06	Summary	Thalice_qc		Failed	Basic	2008/11/25	airline
Flight Time Preference	2005/03/06	Summary	Thalice_qc		Not Com	Basic	2007/03/28	

Description: 添付ファイル | 履歴

Summary





The test verifies the flight reservation process.

テスト・グリッドのテスト情報の表示、変更ができます。たとえば、数個の自動テストをコピーし、別のプロジェクトに貼り付けたり、一度に複数のテストを削除したりすることができます。また、グリッド情報をテキスト・ファイル、Wordドキュメント、HTMLドキュメント、XMLドキュメント、およびExcelスプレッドシートなど、いくつかの形式で保存できます。



テスト・グリッドの主な要素は、次のとおりです。

- ▶ **テスト・グリッド・ツールバー**：テスト・グリッドの作成および変更によく使用するコマンドのボタンが含まれます。詳細については、258 ページ「テスト・グリッド・ツールバー」を参照してください。
- ▶ **インジケータ・カラム**：特定のテストに添付ファイル、リンクされている不具合、警告、およびフォローアップ・フラグがあることを示します。これらのカラムを表示するには、**[表示]** > **[インジケータ カラム]** を選択します。

カラム	説明
添付ファイル	 アイコンをクリックすると、テストの添付ファイルが表示されます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。
リンクされているエンティティ	 アイコンをクリックすると、テストにリンクされているエンティティが表示されます。詳細については、第 36 章「不具合のリンク」を参照してください。
警告	 アイコンをクリックすると、テストに対する警告が表示されます。詳細については、82 ページ「警告の表示」を参照してください。
フォローアップ・フラグ	 アイコンをクリックすると、テストのフォローアップ警告が表示されます。詳細については、84 ページ「フォローアップ・フラグの設定」を参照してください。

- ▶ **グリッドのフィルタ**：カラムに現在適用されているフィルタが表示されます。詳細については、56 ページ「レコードのフィルタ処理」を参照してください。
- ▶ **[説明] タブ**：テスト・グリッドで選択されているテストの説明が表示されます。
- ▶ **[添付ファイル] タブ**：選択したテストの添付ファイルが表示されます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。
- ▶ **[履歴] タブ**：現在選択されているテストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、275 ページ「テストの履歴の表示」を参照してください。また、テストが含まれているベースラインの履歴も表示されます。詳細については、539 ページ「ベースラインの履歴の表示」を参照してください。

---

**ヒント**：テスト・グリッドで**テスト ID** を指定して特定のテストを検索するには、[**テスト**] > [**テストへ移動**] を選択して、テスト ID を入力します。テスト ID を表示するには、[**カラムの選択**] ダイアログ・ボックスを使用して [**テスト ID**] カラムを選択します。

---

## テスト・グリッド・ツールバー

テスト・グリッド・ツールバーには、次のボタンがあります。



[**選択したテストの削除**]：選択したテストをテスト・グリッドから削除します。



[**全て更新**]：テスト・グリッドを更新し、最新のテストを表示します。



[**フィルタ / ソートの設定**]：次のオプションがあります。

- ▶ [**フィルタ / ソートの設定**]：[**フィルタ**] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・グリッドのテストのフィルタ処理、並べ替え、およびグループ分けを実行できます。
- ▶ [**フィルタ / ソートをクリア**]：テスト・グリッドに適用されているフィルタ、並べ替え、またはグループ分けをクリアします。

テストのフィルタ処理と並べ替えの詳細については、第 3 章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。



[**カラムの選択**]：[**カラムの選択**] ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドに表示するカラムとその順序を指定できます。詳細については、52 ページ「カラムの配置」を参照してください。



[**テスト計画ツリーのテストへ移動**]：テスト・グリッドが閉じ、選択したテストがテスト計画ツリーに表示されます。



[**添付ファイル**]：[**添付ファイル**] ダイアログ・ボックスが開きます。選択したテストに添付ファイルを追加できます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。



**[フォローアップフラグ]**：[フォローアップフラグ] ダイアログ・ボックスが開きます。テストのフォローアップ・フラグの追加または変更を行うことができます。詳細については、84 ページ「フォローアップ・フラグの設定」を参照してください。



**[電子メールで送信]**：[電子メールで送信] ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先、またはほかの任意の電子メール・アドレス宛に、選択したテストを含んだ電子メールを送信できます。詳細については、276 ページ「テストのメール送信」を参照してください。



**[テキスト検索]**：ウィンドウの下部にテキスト検索の表示枠が開き、キーワードを入力して定義済みフィールドを検索できます。詳細については、73 ページ「レコードの検索」を参照してください。

**[バージョンコントロール]**：テスト・グリッド・ツールバーには、次の追加のボタンが表示されます。



▶ **[チェックアウト]**：[チェックアウト] ダイアログ・ボックスが開きます。選択したテストをチェックアウトできます。



▶ **[チェックイン]**：[チェックイン] ダイアログ・ボックスが開きます。選択したテストをチェックインできます。

バージョン・コントロールの詳細については、第7章「バージョン・コントロールを使った作業」を参照してください。

## テスト・グリッドのカラム

テスト・グリッドには、次に示すテスト計画のデータ・カラムが表示されます。

カラム	説明
<b>[コメント]</b>	テストに関するコメント。
<b>[作成日]</b>	テストが作成された日付。標準設定では、サーバの現在の日付に設定されます。下矢印をクリックしてカレンダーを表示し、別の作成日を選択できます。
<b>[説明]</b>	テストの説明。
<b>[設計者]</b>	テストを設計したユーザの名前。
<b>[開発予想時間]</b>	テストの設計と開発に要すると推定される時間。

カラム	説明
[実行ステータス]	最後のテスト・インスタンスの実行のステータス。実行ステータスは、「Failed」、「N/A」、「No Run」、「Not Completed」、「Passed」のいずれかになります。
[更新日時]	テストに加えられた最新の変更日時。
[パス]	プロジェクト・リポジトリ内でのこのテストのテスト・ディレクトリからの相対パス。
[ステータス]	テスト計画ステータス。標準設定のステータスは、「Design」です。
[サブジェクト]	テスト計画ツリーでテストが含まれているサブジェクト・フォルダ。
[テンプレート]	手動テストまたは QuickTest Professional テストがテスト・テンプレートかどうかを示します。このカラムの値は、テストがテスト・テンプレートなら「Y」、そうでなければ「N」または空白です。手動テンプレート・テストの詳細については、274 ページ「テストのインスタンスの表示」を参照してください。QuickTest Professional テンプレート・テストの詳細については、267 ページ「テスト計画ツリーへのテストの追加」を参照してください。
[テスト ID]	Quality Center によってテストに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。このフィールドは読み取り専用です。
[テスト名]	テストの名前。
[タイプ]	テストのタイプ。たとえば、手動テストや WinRunner テストがあります。このフィールドは読み取り専用です。

[バージョンコントロール] : テスト・グリッドには、次の追加のフィールドが表示されます。

フィールド	説明
バージョンの所有者	最後のアクション（チェックインまたはチェックアウト）を実行したユーザの名前。
バージョンの日付	バージョンに対して最後のアクション（チェックインまたはチェックアウト）が実行された日付。
バージョン番号	バージョン番号。
バージョンのステータス	バージョン（ <b>チェックアウト</b> または <b>チェックイン</b> ）のステータス。
バージョン時間	バージョンに対して最後のアクション（チェックインまたはチェックアウト）が実行された時間。

---

**注 :**

- ▶ テスト・グリッドでは、ユーザ定義フィールドの追加や、フィールドのラベルの変更ができます。また、プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
  - ▶ スクリプト・エディタを使用して、[テスト グリッド] に表示されるフィールドと値を制限し、動的に変更することができます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
  - ▶ ユーザ名の値を含むテスト・グリッド・カラムを選択する場合、各ユーザのユーザ名および氏名を記載したリストが表示されます。ユーザの検索、ユーザの並べ替え、ユーザ・グループに基づいたユーザのグループ分け、およびユーザ・リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については、55 ページ「ユーザの選択」を参照してください。
-



# 第 18 章

---

## テスト計画ツリーの開発

テスト計画ツリーでは、テストがテスト・サブジェクトに従って階層構造に編成された状態で表示されます。

### 本章の内容

- ▶ テスト計画ツリーについて (264 ページ)
- ▶ テスト計画ツリーの作成 (265 ページ)
- ▶ テスト計画ツリーへのテストの追加 (267 ページ)
- ▶ テスト計画ツリーの表示 (271 ページ)
- ▶ テストのインスタンスの表示 (274 ページ)
- ▶ テストの履歴の表示 (275 ページ)
- ▶ テストのメール送信 (276 ページ)
- ▶ ツリーまたはテスト・グリッド内でのテストの検索 (279 ページ)
- ▶ テスト・グリッド内でのフィールド値の置換 (281 ページ)
- ▶ テスト・グリッド内での複数のレコードの更新 (282 ページ)
- ▶ テストのコピー (282 ページ)
- ▶ テストの URL のコピー (285 ページ)
- ▶ テスト計画ツリーの並べ替え (285 ページ)
- ▶ テスト計画ツリーの変更 (287 ページ)

## テスト計画ツリーについて

一般にアプリケーションは、一度に全体をテストするには大きすぎます。テスト計画モジュールでは、アプリケーションを機能ごとに分割できます。テスト計画ツリーを作成して、アプリケーションを特定の単位、つまり「**サブジェクト**」に分割します。テスト計画ツリーは、テスト計画を視覚的に表したもので、アプリケーションの機能の階層関係に従ってテストが表示されます。

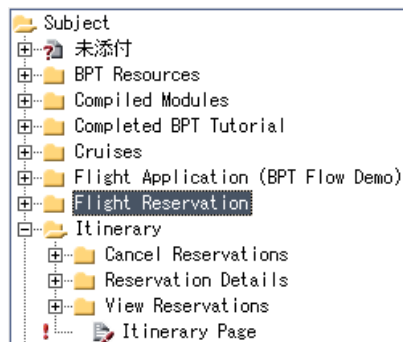
ツリーのサブジェクトを定義したら、各サブジェクトに対して作成するテストを決定し、ツリーに追加します。この段階では、テスト名、ステータス、および設計者などのテストの基本的な情報を定義します。また、テストにファイル、URL、アプリケーションのスナップショット、またはシステム情報を添付できます。その後で「テスト・ステップ」を定義します。**テスト・ステップ**には、テストの実行方法および結果の評価方法に関する詳細な手順が指定されています。

アプリケーション管理プロセスの過程で、テスト計画の変更が必要になることがあります。テスト計画ツリーは、いつでも更新できます。

テスト計画をサブジェクトごとに編成する方法はいくつかあります。たとえば、次の分類に従ってサブジェクトを定義できます。

- ▶ **アプリケーションの機能**：編集、ファイル操作、およびレポート機能など
- ▶ **テストのタイプ**：機能、ユーザ・インタフェース、パフォーマンス、および負荷など

たとえば、フライトのスケジューリング、搭乗予約、および航空券販売を管理する航空券予約アプリケーションの場合を考えてみます（詳細な例については、**QualityCenter\_Demo** プロジェクトを参照してください）。テスト計画ツリーに次のサブジェクトを定義することが考えられます。

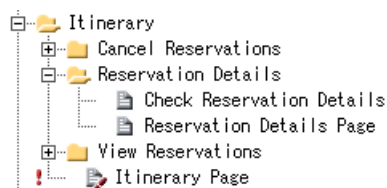




**Itinerary** というサブジェクトには、追加のサブジェクト・フォルダが含まれています。これらのフォルダでサブジェクトのレベルをいくつか追加して作成することによって、テスト計画ツリーのテストをさらに細かく分類できます。

計画の基本構造を組み立てたら、テストを作成し、各サブジェクトに割り当てます。たとえば、前に示したテスト計画ツリーでは、テストを次のように

**Reservation Details** というサブジェクトに割り当てることができます。




---

**注：** テスト計画ツリーを開発および編集するには、適切なユーザ権限が必要です。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

---

## テスト計画ツリーの作成

フォルダおよびサブフォルダで構成されるテスト計画ツリーを作成することによって、テスト計画の階層形式の枠組みを定義します。

---

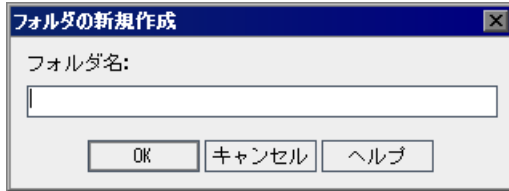
**注：** Quality Center でテスト計画ツリーを直接作成することに加え、テスト計画のデータを Microsoft Word または Microsoft Excel から Quality Center プロジェクトにインポートできます。Word からインポートするには、**HP Quality Center Microsoft Word Add-in** および **HP Quality Center Connectivity Add-in** がインストールされている必要があります。Excel からインポートするには、**HP Quality Center Microsoft Excel Add-in** および **HP Quality Center Connectivity Add-in** がインストールされている必要があります。アドインは、HP Quality Center Add-in ページからインストールできます。詳細については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

---

テスト計画ツリーを作成するには、次の手順を実行します。



- 1 テスト計画ツリーで、サブジェクト・フォルダを選択して「**フォルダの新規作成**」ボタンをクリックするか、「**テスト**」 > 「**フォルダの新規作成**」を選択します。「フォルダの新規作成」ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 「**フォルダ名**」ボックスにサブジェクトを入力し、「**OK**」をクリックします。フォルダの名前には、「¥」、「^」、「\*」は使用できません。  
新しいサブジェクト・フォルダが、テスト計画ツリーの **Subject** の下に表示されます。
- 3 「**説明**」タブに、サブジェクトの説明を入力します。
- 4 「**添付ファイル**」タブをクリックし、必要に応じて新しいフォルダに添付ファイルを追加します。ファイル、URL、アプリケーションのスナップショット、クリップボードからの項目、またはシステム情報を添付できます。詳細については、第5章「添付ファイルの追加」を参照してください。
- 5 メイン・レベルでさらにサブジェクトを追加するには、手順1から手順4を繰り返し実行します。
- 6 サブフォルダを作成するには、サブジェクト・フォルダを選択し、手順1から手順4を繰り返し実行します。

## テスト計画ツリーへのテストの追加

主要なテスト・サブジェクトが含まれるテスト計画ツリーを作成したら、テストを作成します。それぞれのテストには、特定の機能やシステム要件の確認などの明確な目的が必要です。テストは、アプリケーション管理プロセスで最初に設定した目標に基づいて定義する必要があります。

たとえば、航空券予約アプリケーションの場合、正しいパスワードを入力したユーザだけがサインオンできることを検査する **Password Verification** というテストを定義し、**Sign-On/Sign-Off** というサブジェクトの下に配置できます。

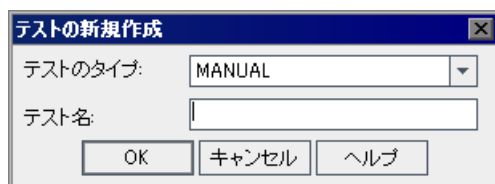
---

**ヒント：**要件モジュールの要件を直接ベースにしてテストを自動作成できます。詳細については、202 ページ「要件からのテストの作成」を参照してください。

---

新しいテストを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでサブジェクト・フォルダを選択します。
- 2 **[テストの新規作成]** ボタンをクリックするか、**[テスト]** > **[テストの新規作成]** を選択します。**[テストの新規作成]** ダイアログ・ボックスが開きます。



---

**注：**QuickTest Professional Add-in がマシンにインストールされている場合、**[テストの新規作成]** ダイアログ・ボックスには **[テンプレート]** ボックスが表示されます。

---

- 3 [テストのタイプ] リストからテスト・タイプを選択します。次のテスト・タイプを選択できます。

テストのタイプ	説明
<b>MANUAL</b>	Quality Center 手動テスト。
<b>WR-AUTOMATED</b>	HP の Microsoft Windows アプリケーション用機能テスト・ツールである WinRunner で実行されるテスト。
<b>LR-SCENARIO</b>	HP の負荷テスト・ツールである LoadRunner で実行されるシナリオ。
<b>QUICKTEST-TEST</b>	HP のエンタープライズ機能テスト・ツールである QuickTest Professional で実行されるテスト。  このテスト・タイプは、[HP Quality Center Add-in] ページから該当するアドインがインストールされている場合にのみ使用できます。アドインのインストールの詳細については、『HP Quality Center インストール・ガイド』を参照してください。
<b>VAPI-XP-TEST</b>	Quality Center のオープン・テスト・アーキテクチャ API テスト・ツールである Visual API-XP を使用して作成したテスト。詳細については、付録 A 「VAPI-XP を使った作業」を参照してください。
<b>SYSTEM-TEST</b>	Quality Center に、システム情報の取得、デスクトップの画像のキャプチャ、またはマシンの再起動を行うよう指定するテスト。詳細については、第 23 章「システム・テストの活用」を参照してください。
<b>BUSINESS-PROCESS</b>	ビジネス・プロセス・テスト。詳細については、『HP Business Process Testing User Guide』（英語版）を参照してください。
<b>FLOW</b>	特定のタスクを実行する固定シーケンスのビジネス・コンポーネントのコレクションで構成されるテスト。詳細については、『HP Business Process Testing User Guide』（英語版）を参照してください。

- 4 [テスト名] ボックスにテストの名前を入力します。テストの名前には、「¥」, 「/」, 「:」, 「"」, 「?」, 「<」, 「>」, 「|」, 「\*」, 「%」, 「'」は使用できません。

- 5 [テストのタイプ] リストから **QUICKTEST-TEST** を選択した場合、[テンプレート] ボックスを使用できます。テンプレート・テストとして定義された別の QuickTest テストを元にして、新規のテストを作成します。テンプレート・テストが新規のテストにコピーされますが、テスト結果は含まれません。

---

**注：** Quality Center が新しい QuickTest テストに関連付ける QuickTest アドインを設定するには、該当するアドインを一覧表示しているテンプレート・テストを選択します。あるいは、Quality Center クライアントに用意されている標準設定のテンプレート・テストを使用します。このテストは、標準設定で、Web アドインおよび ActiveX アドインを読み込みます。詳細については、QuickTest ドキュメント、および関連する QuickTest アドインのドキュメントを参照してください。

---

テンプレート・テストを選択するには、参照ボタンをクリックします。[テストの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。標準設定では、QuickTest のテンプレート・テストのみが表示されます。



テンプレート・テストを選択し、[テストの追加] ボタンをクリックします。[テストの選択] ダイアログ・ボックスが閉じ、[テンプレート] ボックスにテンプレート・テストが表示されます。

---

**注：** QuickTest Professional のテストをテンプレート・テストとして設定するには、テスト計画ツリーでテストを右クリックし、[テンプレート テストとしてマーク] を選択します。

---

## 6 バージョン・コントロール

- ▶ 作成後もテストをチェックアウトしたままにするには、[**いまずぐチェックアウト**] を選択します。これにより、テストを作成した後も、デザイン・ステップの定義やパラメータの追加などによって定義を続行できます。標準設定では、このオプションは選択されています。
- ▶ [コメント] ボックスに、チェックアウトの理由について簡単な説明を入力します。[コメント] ボックスは、[**いまずぐチェックアウト**] チェック・ボックスが選択されている場合にのみ使用できます。

7 [OK] をクリックして、[テストの新規作成] ダイアログ・ボックスを閉じます。

[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウで必須テスト・フィールドを定義した場合は、[Required Test Fields] ダイアログ・ボックスが表示されます。必須フィールドの値を選択し、[OK] をクリックします。

新しいテストが、テスト計画ツリーで選択したサブジェクト・フォルダの下に表示されます。また、作成したテストの名前が [詳細] タブの [テスト名] ボックスに追加されます。

8 [詳細] タブに、次のテストの詳細を入力します。

オプション	説明
[設計者]	テストを設計したユーザの名前。標準設定では、Quality Center に現在ログインしているユーザの名前が表示されます。別のユーザ名を選択するには、下矢印をクリックします。
[作成日]	テストが作成された日付。標準設定では、データベース・サーバの現在の日付に設定されます。下矢印をクリックしてカレンダーを表示し、別の作成日を選択できます。
[ステータス]	テストの現在のステータス。標準設定のステータスは、「Design」です。リストから別のステータスを選択するには、下矢印をクリックします。

---

**注：** テストの任意の詳細フィールドのラベルを変更できます。また、テストの詳細にユーザ定義フィールドを追加することもできます。詳細については、『HP Quality Center Administrator Guide』（英語版）を参照してください。

---

9 [詳細] タブで [説明] タブをクリックし、テストの説明を入力します。

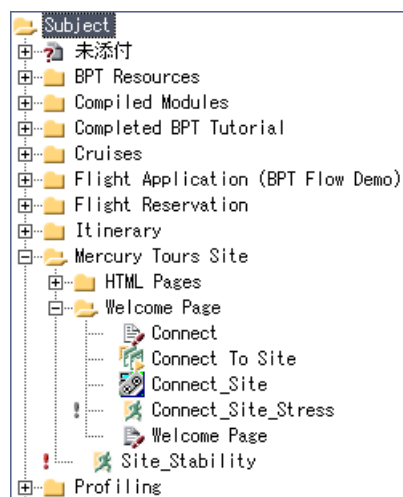
10 [詳細] タブで [コメント] タブをクリックし、テストにコメントを追加します。[コメント] タブで、[コメントを追加] ボタンをクリックします。[コメント] タブに新しいセクションが追加され、ユーザ名とデータベースの現在の日付が表示されます。

11 [テスト パラメータ] タブをクリックし、必要に応じて新しいテストにパラメータを追加します。[パラメータ] タブで、[パラメータの新規作成] ボタンをクリックします。詳細については、第 21 章「手動テストでのパラメータを使った作業」を参照してください。

- 12 [添付ファイル] タブをクリックし、必要に応じて新しいテストに添付ファイルを追加します。ファイル、URL、アプリケーションのスナップショット、クリップボードからの項目、またはシステム情報を添付できます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。
- 13 [要件カバレッジ] タブをクリックして、要件カバレッジを定義します。詳細については、第 19 章「要件とテスト・カバレッジ」を参照してください。
- 14 [リンクされている不具合] タブをクリックして、不具合をテストにリンクします。詳細については、第 36 章「不具合のリンク」を参照してください。
- 15 [ステップのデザイン] タブをクリックして、テストのステップを定義します。詳細については、第 20 章「テストの作成」を参照してください。

## テスト計画ツリーの表示



テスト計画ツリーを使用して、テスト計画の全体構造を見直したり、各サブジェクトに割り当てられたテストを表示したりすることができます。



テスト計画ツリーには、次のテスト・アイコンがあります。

	手動テスト。
	テスト・ステップがある手動テスト。
	手動テンプレート・テスト。
	テスト・ステップがある手動テンプレート・テスト。
	ビジネス・プロセス・テスト。
	ビジネス・コンポーネントのフロー。
	WinRunner テスト。
	WinRunner バッチ・テスト。 WinRunner バッチ・テストの作成と実行の詳細については、『 <b>HP WinRunner ユーザーズ・ガイド</b> 』を参照してください。
	LoadRunner シナリオ。
	QuickTest Professional テスト。
	QuickTest Professional テンプレート・テスト。
	テスト・ステップがある QuickTest Professional テスト。
	テスト・ステップがある QuickTest Professional テンプレート・テスト。
	Visual API-XP テスト。
	システム・テスト。
	Vuser スクリプト・テスト。




**バージョン・コントロール**：テスト計画ツリーに次の追加のアイコンを含めることができます。

	現在のユーザによってチェックアウトされたテスト。
	別のユーザによってチェックアウトされたテスト。



テスト計画ツリーのテストを表示するには、次の手順を実行します。

標準設定では、テスト計画ツリーには、サブジェクト階層の最上位のサブジェクトのみ表示されます。

- ▶ ツリーの分岐を展開するには、分岐名の左にある展開記号  をクリックします。ツリーのすべての分岐を展開するには、[Subject] フォルダを右クリックし、[全て展開] を選択します。
- ▶ ツリーの分岐を折りたたむには、分岐名の左にある折りたたみ記号  をクリックします。ツリーのすべての分岐を折りたたむには、[Subject] フォルダを右クリックし、[折りたたみ] を選択します。
- ▶ 特定のサブジェクトに関連付けられているテストを表示するには、サブジェクト・フォルダ  をダブルクリックします。



- ▶ テスト計画ツリーですべてのテストを更新するには、[全て更新] ボタンをクリックします。



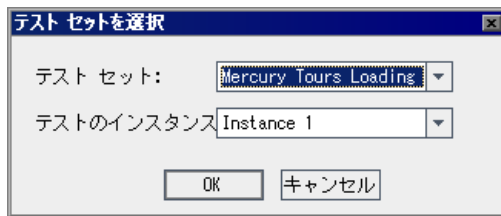
- ▶ [フィルタ / 並べ替えの設定] ボタンをクリックし、テスト計画ツリー内のテストにフィルタを設定したり、テストを並べ替えたりできます。詳細については、第 3 章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。現在適用されているすべてのフィルタと並べ替え順がテスト計画ツリー・ツールバーの下に表示されます。
- ▶ Quality Center プロジェクトのすべてのテストを同時に表示するには、[表示] > [テスト グリッド] を選択します。

## テストのインスタンスの表示

テスト・ラボ・モジュールで、テスト・セット内に作成したテストのインスタンスを表示できます。テストのインスタンスを含むテスト・セットを表示し、テスト・ラボ・モジュール内でそのようなテスト・インスタンスに移動できます。

テストのインスタンスを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでテストを選択し、**[テスト]** > **[テストセットのテストへ移動]** を選択します。または、テストを右クリックし、**[テストセットのテストへ移動]** を選択します。選択したテストにインスタンスが1つしかない場合、テスト・ラボ・モジュールが開き、インスタンスが強調表示されます。インスタンスが複数ある場合、**[テストセットを選択]** ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 **[テストセット]** ボックスで、テストを含むすべてのテスト・インスタンスのリストから、移動するテスト・インスタンスを含むテスト・セットを選択します。
- 3 **[テストのインスタンス]** ボックスで、選択したテスト・セット内のテスト・インスタンスから、テストのインスタンスを選択します。
- 4 **[OK]** をクリックします。テスト・ラボ・モジュールが開き、選択したテスト・インスタンスが強調表示されます。

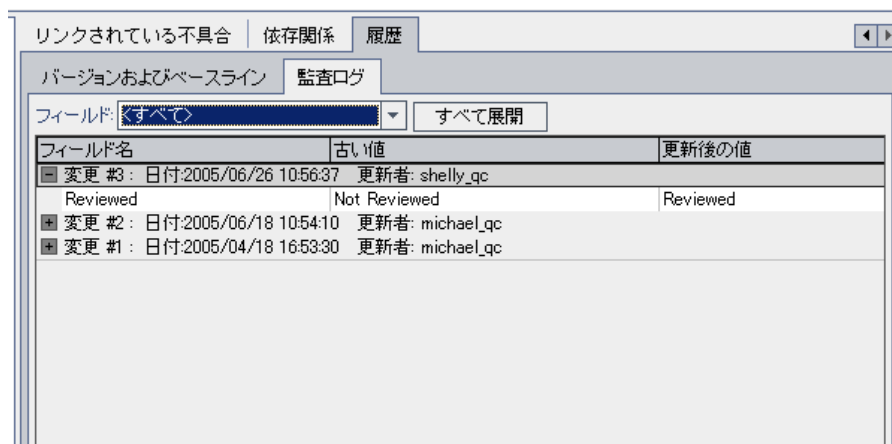
## テストの履歴の表示

テスト計画ツリーの任意のテストに加えた変更のリストを表示できます。

また、特定のベースラインに格納されている以前のバージョンのテストを表示できます。詳細については、539 ページ「ベースラインの履歴の表示」を参照してください。

テストの履歴を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーで、テストを選択します。[履歴] タブをクリックし、[監視ログ] タブをクリックします。テストに加えた変更の履歴がグリッド内に表示されます。



このグリッドには、テストに対する変更ごとに、更新日時および更新者のユーザ名が表示されます。

- 2 変更を展開すると、変更の過程で変更されたフィールドの一覧が表示されます。フィールドごとに、グリッドには更新前の値と更新後の値が表示されます。すべての変更を展開するには、[すべて展開] ボタンをクリックします。
- 3 このグリッドに表示する変更を指定できます。[フィールド] リストで、フィールド名を選択すると、そのフィールドに加えられた変更のみが表示されます。[<すべて>] を選択すると、すべてのフィールドに加えられた変更が表示されます。

フィールドに加えられた変更の履歴の保存方法については、『HP Quality Center Administrator Guide』（英語版）を参照してください。

## テストのメール送信

テストに関する電子メールを、プロジェクトの別のユーザに送信できます。これにより、開発や品質保証の担当者へテストのステータスを定期的に通知できます。電子メールには [テストへ移動] リンクが含まれており、電子メールの受信者はそのリンクによって直接テストにアクセスできます。

---

**注：**標準では、HTML 形式で電子メールが送信されます。電子メールを普通のテキストで送信するには、サイト管理の [サイト設定] タブで **MAIL\_FORMAT** パラメータを編集します。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

---

テストをメールで送信するには、次の手順を実行します。



- 1 テスト計画ツリーまたはテスト・グリッドで 1 つ以上のテストを選択し、[電子メールで送信] ボタンをクリックします。[電子メールを送信] ダイアログ・ボックスが開きます。

電子メールを送信

REC 目録 1

宛先 (T)

CC (C)

サブジェクト: DEFAULT.QualityCenter\_Demo1 - テスト #80 - Connect To Site

項目:  
80 - Connect To Site

次を含める:  添付ファイル  履歴  ステップのデザイン

追記:

送信 (S) ユーザ定義 キャンセル ヘルプ

**ヒント**：電子メールが特定のユーザ・タイプに自動的に送信されるよう設定できます。ユーザ・タイプの条件には、ユーザ定義のフィールドを含め、ユーザ名の値を含む任意のテスト・カラムを指定できます。[電子メールで送信] ボタンの矢印をクリックし、オプションを選択します。たとえば、[設計者にメールを送信] を選択すると、そのテストを設計したユーザ宛に電子メールが送信されます。

- 2 有効な電子メールアドレスまたはユーザ名を入力します。あるいは、[宛先] ボタンまたは [CC] ボタンをクリックし、送信先のユーザを選択します。[受信者の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。



ユーザ・リストの並べ替え、ユーザの検索、ユーザ・グループによるユーザのグループ分け、およびリストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については、55 ページ「ユーザの選択」を参照してください。

電子メールの送信先のユーザまたはユーザ・グループを選択し、[OK] をクリックします。

- 3 **[サブジェクト]** ボックスに、電子メールの件名を入力します。標準設定では、テストを1つだけ選択すると、**[サブジェクト]** ボックスには、ドメイン、プロジェクト、テストID、およびテストの名前が表示されます。
- 4 テストを複数選択すると、**[項目]** ボックス内にテストが一覧表示されます。電子メールに含めないテストはクリアできます。
- 5 必要に応じて、テストに**添付ファイル**、**履歴**、**ステップのデザイン**を追加します。
- 6 コメントがある場合は、**[追記]** ボックスに入力します。
- 7 ダイアログ・ボックス内のスペルをチェックするには、次のようにします。



- ▶ **[スペル チェック]** ボタンをクリックすると、選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルがチェックされます。誤りがなければ、確認メッセージ・ボックスが開きます。誤りが見つかった場合は、**[スペル]** ダイアログ・ボックスに該当する単語と修正候補が表示されます。



- ▶ **[スペル オプション]** ボタンをクリックすると、**[スペル オプション]** ダイアログ・ボックスが開き、スペルのチェック方法を設定できます。



- ▶ **[類語辞典]** ボタンをクリックすると、**[類語辞典：英語]** ダイアログ・ボックスが開き、選択した語の類義語、反意語、関連する語が表示されます。選択した単語を置換したり、新しい単語を調べたりすることができます。

- 8 **[カスタム]** をクリックして、電子メールで送信する内容をカスタマイズします。**[フィールドの選択]** ダイアログ・ボックスで、電子メールに含めるフィールドを指定できます。
- 9 **[送信]** をクリックすると、電子メールが送信されます。

## ツリーまたはテスト・グリッド内でのテストの検索

検索コマンドを使用して、テスト計画ツリーまたはテスト・グリッド内で特定のテストを検索できます。



**ヒント：**「テキスト検索」が使用可能な場合は、この機能を使用してテスト計画ツリーまたはテスト・グリッド内でテストを検索できます。テキスト検索では、キーワードやキーワードが変化したものを検索することにより、より強力な検索が行えます。テキスト検索の使用の詳細については、73 ページ「レコードの検索」を参照してください。

### テスト計画ツリー内でのテストの検索

テスト計画ツリーでフォルダまたはテストを検索できます。テスト計画ツリーにフィルタを適用している場合、検索の対象範囲は現在表示されているテストに制限されます。

テスト計画ツリー内でフォルダまたはテストを検索するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでサブジェクト・フォルダを選択し、**[編集]** > **[検索]** を選択します。

[フォルダ/テストの検索] ダイアログ・ボックスが表示され、**[検索先]** ボックスにフォルダ名が表示されます。ツリー全体を検索する場合、フォルダ名は「**Subject**」です。

- 2 **[検索する値]** ボックスに、フォルダ名またはテスト名の全部（または一部）を入力します。検索では大文字と小文字は区別されません。
- 3 フォルダとテストの両方を検索するには、**[テストを含める]** を選択します。
- 4 **[検索]** をクリックします。

フォルダまたはテストが検索されます。検索に成功すると、**[検索結果]** ダイアログ・ボックスが表示され、一致する要件のリストが表示されます。リストで結果を選択し、**[移動]** ボタンをクリックすると、テスト計画ツリー内でフォルダまたはテストが強調表示されます。

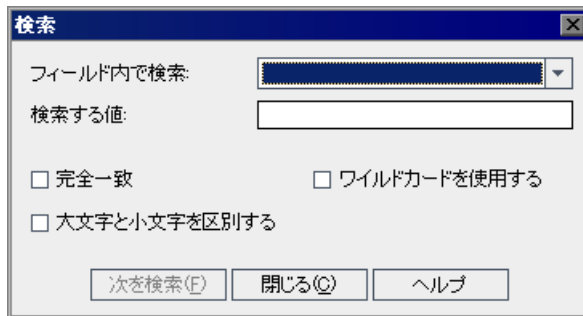
検索が失敗すると、メッセージ・ボックスが開きます。

## テスト・グリッド内でのテストの検索

特定のフィールドの値に基づいて、テスト・グリッド内でテストを検索できます。テスト・グリッドにフィルタを適用している場合、検索の対象範囲は現在表示されているテストに制限されます。

テスト・グリッド内でテストを検索するには、次の手順を実行します。

- 1 **[表示]** > **[テストグリッド]** を選択します。
- 2 **[編集]** > **[検索]** を選択します。[検索] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 **[フィールド内で検索]** ボックスで、グリッド内のフィールドを選択します。
- 4 **[検索する値]** ボックスで、検索するフィールドの値を入力または選択します。
- 5 **[検索する値]** の文字列に正確に一致するフィールド値を含むテストを検索するには、**[完全一致]** を選択します。
- 6 大文字と小文字を区別して検索する場合は、**[大文字と小文字を区別する]** を選択します。
- 7 項目の一部だけを入力するために検索文字列にアスタリスク (\*) 文字を使用する場合は、**[ワイルドカードを使用する]** を選択します。
- 8 **[次を検索]** をクリックします。検索が成功すると、一致したテストがグリッド内で強調表示されます。検索が失敗すると、メッセージ・ボックスが開きます。
- 9 **[次を検索]** を再度クリックして、条件に一致する次のテストを検索します。

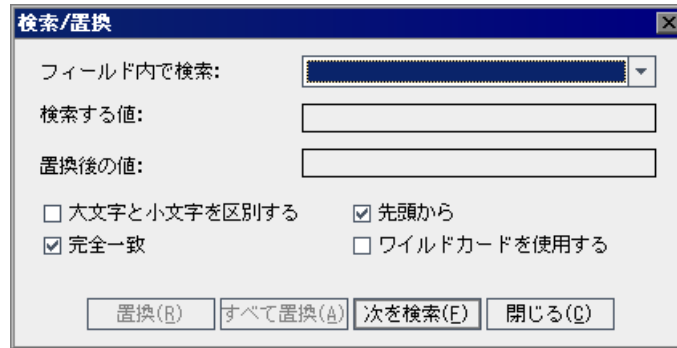


## テスト・グリッド内でのフィールド値の置換

置換コマンドを使用して、テスト・グリッド内でフィールド値を置換できます。

テスト・グリッドでフィールド値を置換するには、次の手順を実行します。

- 1 **[編集]** > **[置換]** を選択します。**[検索 / 置換]** ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 **[フィールド内で検索]** ボックスで、特定の値を検索するカラムを選択します。
- 3 **[検索する値]** ボックスで、検索する値を入力または選択します。
- 4 **[置換後の値]** ボックスで、置換後のフィールド値を入力または選択します。
- 5 大文字と小文字を区別するには、**[大文字と小文字を区別する]** チェック・ボックスを選択します。
- 6 完全に一致する値を検索するには、**[完全一致]** チェック・ボックスを選択します。
- 7 グリッドの先頭から検索を開始するには、**[先頭から]** チェック・ボックスを選択します。
- 8 項目の一部だけを入力するために検索文字列にアスタリスク (\*) 文字を使用するには、**[ワイルドカードを使用する]** チェック・ボックスを選択します。
- 9 見つかった項目を置換して次を検索するには、**[置換]** をクリックします。
- 10 グリッド内で値に一致する項目をすべて置換するには、**[すべて置換]** をクリックします。

## テスト・グリッド内での複数のレコードの更新

テスト・グリッドで複数のレコードのフィールド値を更新できます。更新するには、テスト・グリッド内でレコードを選択し、**[編集] > [選択済みの更新]** を選択します。**[Update Selected]** ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、71 ページ「複数のレコードの更新」を参照してください。

## テストのコピー

同じプロジェクト内、またはプロジェクト間で、テストをコピーできます。

### プロジェクト内でのテストのコピー

同じプロジェクト内でテストおよびサブジェクト・フォルダをコピーできます。

プロジェクト内でテストをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでコピーするテストまたはサブジェクト・フォルダを選択します。テストまたはサブジェクト・フォルダを複数コピーするには、**Ctrl** キーを使用します。
- 2 **[編集] > [コピー]** を選択します。あるいは、右クリックして **[コピー]** を選択します。
- 3 テストまたはサブジェクト・フォルダのコピー先となるフォルダを選択します。
- 4 **[編集] > [貼り付け]** を選択します。あるいは、右クリックして **[貼り付け]** を選択します。

### プロジェクト間でのテストのコピー

テストをプロジェクト間でコピーできます。テストにほかのテストの呼び出しが含まれている場合、またはテストがテスト・リソースに依存している場合、次のいずれかの方法を使用してそれらをコピーするよう Quality Center に指定できます。

- ▶ テストをコピーし、ターゲット・プロジェクト内の既存の呼び出し先のテストおよび関連テスト・リソースにリンクします。呼び出し先のテストまたはテスト・リソースがターゲット・プロジェクトに存在しない場合、Quality Center によってターゲット・プロジェクトにコピーされます。
- ▶ 呼び出し先のテストおよび関連するテスト・リソースとともに、テストをターゲット・プロジェクト内にコピーします。
- ▶ 呼び出し先のテストおよび関連するテスト・リソースをコピーせずに、テストをターゲット・プロジェクト内にコピーします。

---

**注：**プロジェクト間でテストをコピーするには、使用している Quality Center のバージョンとパッチ・レベルが両方のプロジェクトで同じである必要があります。

---

関連エンティティの詳細については、365 ページ「依存関係の表示」を参照してください。

プロジェクト間でテストをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでコピーするテストまたはサブジェクト・フォルダを選択します。テストまたはサブジェクト・フォルダを複数コピーするには、**Ctrl** キーを使用します。
- 2 **[編集]** > **[コピー]** を選択します。あるいは、右クリックして **[コピー]** を選択します。
- 3 Quality Center インスタンスをもう 1 つ開き、テストを貼り付けるプロジェクトにログインします。
- 4 テストまたはサブジェクト・フォルダのコピー先となるフォルダを選択します。
- 5 **[編集]** > **[貼り付け]** を選択します。あるいは、右クリックして **[貼り付け]** を選択します。[テスト/サブジェクトフォルダをターゲットプロジェクトに貼り付け] ダイアログ・ボックスが開きます。

6 次のいずれかのオプションを選択します。

- ▶ **[テストまたはサブジェクト・フォルダをコピーして、既存の関連エンティティへリンク]** : テストまたはサブジェクト・フォルダをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。コピーしたテストまたはサブジェクト・フォルダは、既存のテスト・リソースおよび呼び出し先テストに同じ名前でもリンクされます。関連するテスト・リソースまたはテストがターゲット・プロジェクトに存在しない場合、Quality Center によってターゲット・プロジェクトにコピーされます。
- ▶ **[テストまたはサブジェクト・フォルダと関連エンティティをコピー]** : 関連するテスト・リソースおよび呼び出し先テストをテストまたはサブジェクト・フォルダと一緒にコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。関連するテスト・リソースまたは呼び出し先テストがターゲット・プロジェクトにすでに存在する場合、名前の重複の解決のため、コピーされた関連するテスト・リソースまたは呼び出し先テストの名前が変更されます。
- ▶ **[関連エンティティをコピーせずにテストまたはサブジェクト・フォルダをコピー]** : 関連するテスト・リソースまたは呼び出し先テストをコピーすることなく、テストまたはサブジェクト・フォルダをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。コピーされた項目は関連エンティティにリンクされません。

7 **[OK]** をクリックします。

## テストの URL のコピー

テストをコピーして、その URL をリンクとして貼り付けることができます。テスト自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると Quality Center が起動し、テストが表示されます。ログインしていない場合、最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。

テストの URL をコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーまたはテスト・グリッドからテストを選択します。
- 2 **[編集]** > **[URL をコピー]** を選択します。あるいは、右クリックして **[URL をコピー]** を選択します。
- 3 URL を貼り付けます。

## テスト計画ツリーの並べ替え

標準設定では、テスト計画ツリーのサブジェクトは、アルファベット順に表示されます。テスト計画ツリーのフォルダを並べ替えたり、必要に応じてユーザ定義の並べ替えを作成したりすることができます。

---

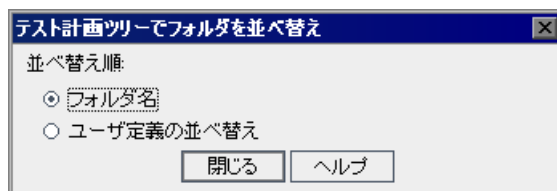
**注：**ユーザ定義の並べ替えを作成するには、プロジェクトの管理者権限が必要です。ユーザ・グループ権限の割り当ての詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

---

テスト計画ツリーを並べ替えるには、次の手順を実行します。



- 1 ツールバーの **[フォルダの並べ替え]** ボタンをクリックします。[テスト計画ツリーでフォルダを並べ替え] ダイアログ・ボックスが表示されます。



標準設定では、[フォルダ名] が選択されています。

- 2 ユーザ定義の並べ替えを作成するには、[ユーザ定義の並べ替え] を選択します。



- 3 ダイアログ・ボックスの左側にあるサブジェクト・フォルダをクリックします。サブフォルダが右側に表示されます。



- 4 ダイアログ・ボックスの右側のサブフォルダを選択し、**上矢印**ボタンまたは**下矢印**ボタンをクリックして、テスト計画ツリーにおける並べ替えの優先順位を設定します。サブフォルダをドラッグして上下に移動することもできます。
- 5 [閉じる] をクリックすると、設定した並べ替え順序がテスト計画ツリーに適用されます。

## テスト計画ツリーの変更

テスト計画ツリーのサブジェクト・フォルダおよびテストの名前の変更または削除を行うことができます。

### フォルダまたはテストの名前の変更

フォルダまたはテストの名前を変更できます。

フォルダまたはテストの名前を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーから項目を選択します。
- 2 項目をクリックします。あるいは、項目を右クリックし、[名前の変更] を選択します。
- 3 項目名を編集してから ENTER キーを押すか、別の場所をクリックします。

### フォルダまたはテストの削除

テスト計画ツリーからフォルダまたはテストを削除できます。フォルダを削除する場合、フォルダのみを削除することも、フォルダ、そのサブフォルダ、およびテストを削除することもできます。

フォルダまたはテストを削除する前に、次の点を考慮してください。

- ▶ フォルダのみを削除すると、すべてのテストがテスト計画ツリーの**未添付**フォルダに移動します。
- ▶ フォルダとテストを削除すると、選択したフォルダのすべてのサブフォルダおよびテストが完全に削除されます。
- ▶ テストを削除すると、テストとテスト・スクリプトが恒久的に削除されます。
- ▶ テストに対して依存関係が定義されている場合、テストを削除するとこれらの依存関係に影響を与える可能性があります。関連エンティティの詳細については、365 ページ「依存関係の表示」を参照してください。
- ▶ **バージョン・コントロール**：テストを削除すると、以前のバージョンのテストがすべて削除されます。

フォルダを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーからフォルダを選択します。複数のフォルダを削除するには、CTRL キーを押しながら削除するフォルダを選択します。



- 2 **[削除]** ボタンをクリックします。あるいはフォルダを右クリックし、**[削除]** を選択します。**[フォルダの削除]** ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 3 フォルダを削除し、関連するすべてのテストを未添付フォルダに移動するには、**[フォルダのみ削除する]** を選択します。**[はい]** をクリックします。

- 4 フォルダ、テスト、およびテスト・スクリプトを削除するには、**[フォルダとテストを削除する]** を選択します。**[はい]** をクリックします。

フォルダ内の一部のテストに対して依存関係が定義されている場合、追加のダイアログ・ボックスが開きます。テストを削除するには **[はい]** をクリックします。依存関係に影響を与える可能性があります。

取り消すには **[いいえ]** をクリックします。削除する前に依存関係を表示するには、**[依存関係]** タブをクリックします。詳細については、365 ページ「依存関係の表示」を参照してください。

テストを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーからテストを選択します。複数のテストを削除するには、CTRL キーを押しながら削除するテストを選択します。



- 2 **[削除]** ボタンをクリックするか、**[編集]** > **[削除]** を選択します。あるいは、テストを右クリックし、**[削除]** を選択します。

- 3 テストに依存しているエンティティがなければ、確認のボックスが開きます。**[はい]** をクリックします。

- 4 テストに対して依存関係が定義されている場合、**[テストの削除]** ダイアログ・ボックスが開きます。関連エンティティを表示するには、**[詳細]** をクリックします。**[はい]** をクリックして、テストと関連エンティティの削除を確認します。



# 第 19 章

---

## 要件とテスト・カバレッジ

テスト計画のテストは、当初の要件を満たしていることが重要です。その後、要件とテストとの関係を追跡できるように、要件とテストを結ぶリンクを設定します。

### 本章の内容

- ▶ 要件とテスト・カバレッジについて (290 ページ)
- ▶ 要件のテストへのリンク (293 ページ)
- ▶ テストの要件へのリンク (297 ページ)
- ▶ カバレッジの分析 (301 ページ)

## 要件とテスト・カバレッジについて

要件ツリーで要件を定義するところから始まり、次にそれらの要件をリリース・ツリーのリリースまたはサイクルに割り当てます（詳細については、第13章「要件ツリーの構築」を参照してください）。計画段階においては、この割り当てられた要件に基づいてテスト計画ツリーを構築します（詳細については、第18章「テスト計画ツリーの開発」を参照してください）。その後、割り当てられた要件とテストとの関係を追跡できるように、要件とテストを結ぶリンクを設定します。

テスト計画モジュールで、テストへリンクする要件を選択して、**要件カバレッジ**を作成します。あるいは、要件モジュールで要件へリンクするテストを選択して、「**テストのカバレッジ**」を作成します。1つのテストで複数の要件カバレッジを指定することも、複数のテストで1つの要件カバレッジを指定することも可能です。

---

**注：**また、テスト・インスタンスと要件間でカバレッジを作成することもできます。この機能を有効にするには、「サイト管理」で **ALLOW\_REQ\_COVERAGE\_BY\_TEST\_INSTANCE** パラメータを使用します。このパラメータの詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

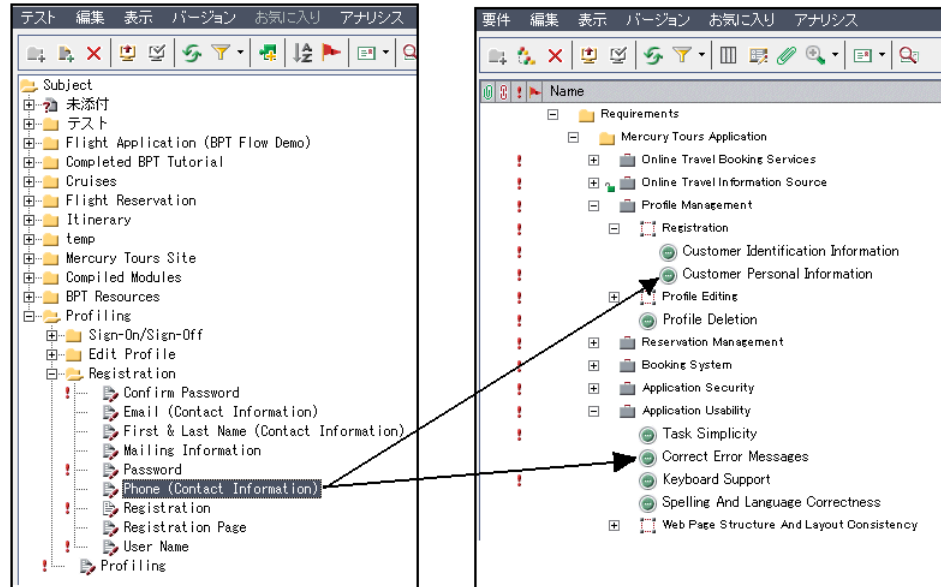
---

要件およびテストを不具合にリンクすることができます。これは、アプリケーション管理プロセスの全体を通じてテストのニーズとの整合性を確保するのに役立ちます（詳細については、第36章「不具合のリンク」を参照してください）。要件が変更された場合には、影響を受けるテストと不具合、および担当責任者を直ちに特定できます。

## 要件カバレッジの例



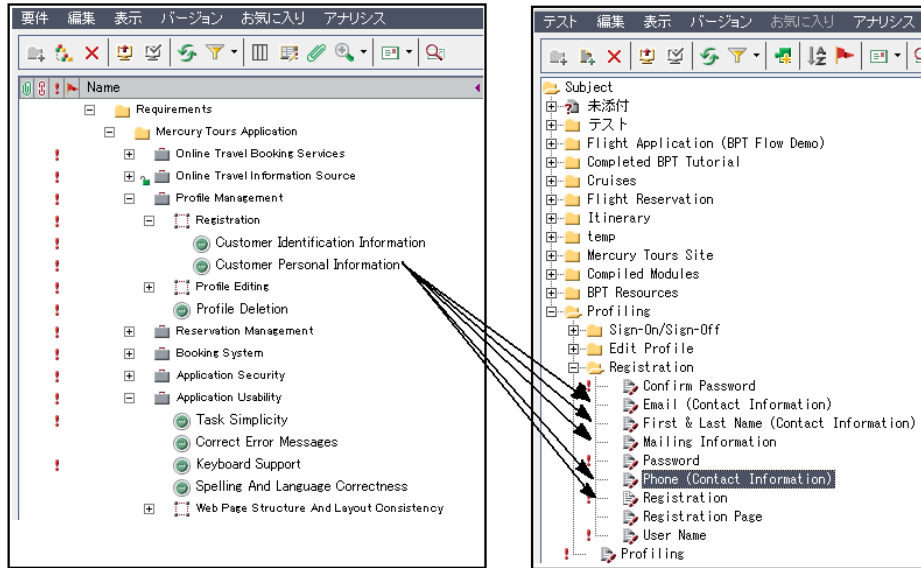
ここでは、Mercury Tours アプリケーションに基づいた **QualityCenter\_Demo** プロジェクトを使用していると仮定します。サイドバーの **[テスト計画]** ボタンをクリックします。テスト計画ツリーで、**Profiling** フォルダの下にある **Registration** フォルダを展開し、**Phone(Contact Information)** テストを選択します。



**Phone(Contact Information)** テストでは、[Registration] ページの顧客の電話番号を確認します。[要件カバレッジ] タブをクリックすると、このテストが **Customer Personal Information** および **Correct Error Messages** の要件を対象としていることがわかります。

## テスト・カバレッジの例

要件カバレッジの例に続き，**QualityCenter\_Demo** プロジェクトで，別の方向からカバレッジを表示することもできます。サイドバーの「要件」ボタンをクリックします。要件ツリーで，**Requirements** の下にある要件トピック，**Mercury Tours Application, Profile Management, および Registration** を展開し，**Customer Personal Information** 要件を選択します。

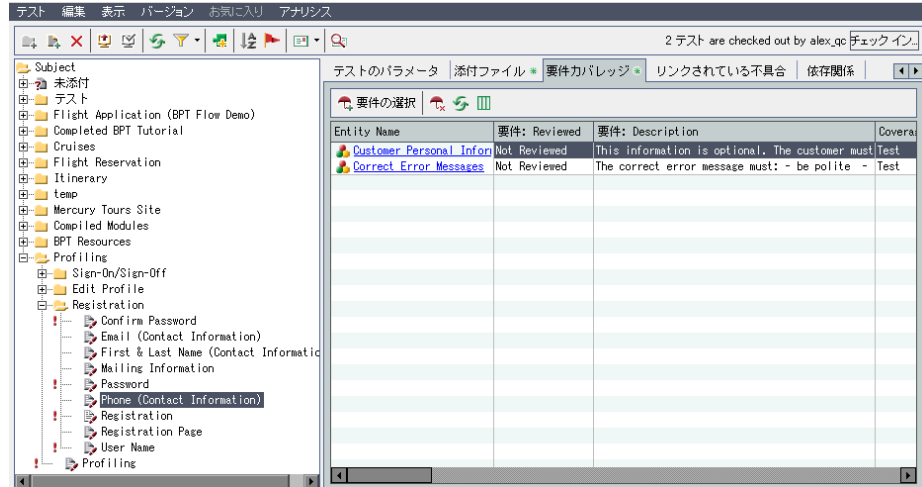


**Customer Personal Information** 要件では，航空券予約システムに顧客の個人情報記録されていることが確認されます。[テストカバレッジ] タブで，**Email(Contact Information), First & Last Name(Contact Information), Mailing Information, Phone(Contact Information)**，および **Registration** のテストがこの要件を対象にしていることがわかります。

## 要件のテストへのリンク

テスト計画時にテスト計画ツリーでテストを選択すると、[要件カバレッジ] タブにテストの要件カバレッジが表示されます。

カバレッジ・グリッドには、選択したテストによってカバーされている要件が表示されます。カバレッジ・グリッドでは、要件の表示、追加、および削除を行うことができます。





[要件カバレッジ] タブのカラムには、カバーされている要件のデータが表示されます。172 ページ「要件フィールド」で説明したカラムに加え、カバレッジ・グリッドには次のカラムを表示できます。

カラム	説明
カバレッジタイプ	カバレッジのタイプ。このカラムの値は、「Test」または「Test Instance」のいずれかです。
エンティティ名	エンティティ名。
エンティティステータス	エンティティの現在の実行ステータス。

## 要件カバレッジ・グリッドの表示

カバレッジ・グリッドのカラムの表示形式と順序を設定できます。カバレッジ・グリッドでは、要件をフル・パス付きで表示できます。また、要件ツリーの要件に移動することもできます。

要件カバレッジ・グリッドを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーで、テストを選択します。
- 2 **[要件カバレッジ]** タブをクリックします。
- 3  カバレッジ・グリッドを更新して最新の要件が表示されるようにするには、**[全て更新]** ボタンをクリックします。
- 4  カバレッジ・グリッドのカラムの表示形式と順序を設定するには、**[カラムを選択]** ボタンをクリックします。詳細については、52 ページ「カラムの配置」を参照してください。
- 5 要件ツリーにおける要件の位置を表示するには、カバレッジ・グリッドを右クリックし、**[完全パスを表示]** を選択します。
- 6 要件ツリー内の要件に移動するには、カバレッジ・グリッドで要件をクリックします。または、要件を右クリックし、**[要件ツリーで要件に移動]** を選択します。

## 要件カバレッジの追加

テストに要件カバレッジを追加するには、要件ツリーで1つまたは複数の要件を選択します。標準設定では、ビジネス、フォルダ、およびグループの要件タイプのカバレッジは追加できません。

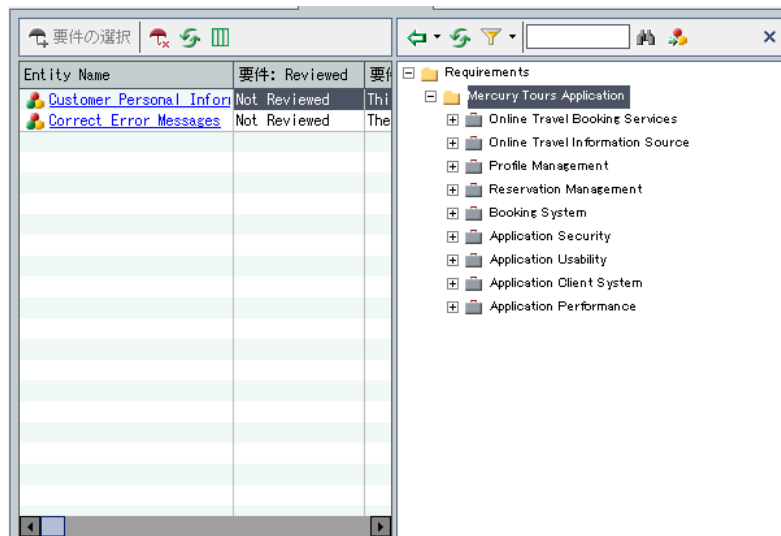
---

**注：**要件カバレッジは、要件をテストに変換した場合には、自動的に作成されます。したがって要件カバレッジを追加しなくても、すでに存在していることがあります。詳細については、202 ページ「要件からのテストの作成」を参照してください。

---

要件カバレッジを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーで、テストを選択します。
- 2 **[要件カバレッジ]** タブをクリックします。
- 3 **[要件の選択]** ボタンをクリックすると、右側の表示枠に要件ツリーが表示されます。



- 4 ツリーで特定の要件を検索するには、**[検索]** ボックスに要件名の全体（または一部）を入力し、**[検索]** ボタンをクリックします。検索が成功すると、ツリーの中で要件が強調表示されます。



- 5 特定の要件を **ReqID** で検索するには、**[要件へ移動]** ボタンをクリックします。**[要件へ移動]** ダイアログ・ボックスが開きます。要件 ID を入力し、**[OK]** をクリックします。検索が成功すると、ツリーの中で要件が強調表示されます。



- 6 ツリーに表示されている要件にフィルタを適用したり、並べ替えたりするには、**[フィルタ/ソートの設定]** ボタンをクリックします。詳細については、第3章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。



- 7 要件ツリーまたはカバレッジ・グリッドを更新するには、該当の **[全て更新]** ボタンをクリックします。



8 カバレッジに追加する要件または要件トピックを選択します。

- ▶ **[カバレッジに追加 (子を除く)]** ボタンをクリックすると、要件のみ（子要件は含みません）が追加されます。あるいは、要件をダブルクリックします。
- ▶ **[カバレッジに追加]** ボタンの矢印をクリックし、**[カバレッジに追加 (子を含む)]** をクリックすると、要件（子要件も含みます）が追加されます。現在のフィルタに一致し、テスト・カバレッジをサポートするタイプに属する子要件のみがカバレッジに追加されます。

要件がカバレッジ・グリッドに追加されます。

---

**ヒント：**要件ツリー内の要件をカバレッジ・グリッドにドラッグすることで、要件カバレッジを定義することもできます。子要件を除く要件がカバレッジ・グリッドに追加されます。

---



9 要件ツリーを非表示にするには、**[閉じる]** ボタンをクリックします。

### 要件カバレッジの削除

要件は、テストの要件カバレッジから削除できます。

要件カバレッジを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーで、テストを選択します。
- 2 **[要件カバレッジ]** タブをクリックします。
- 3 カバレッジ・グリッドで、削除する要件を選択します。
- 4 **[選択項目の削除]** ボタンをクリックし、**[はい]** をクリックして、確定します。

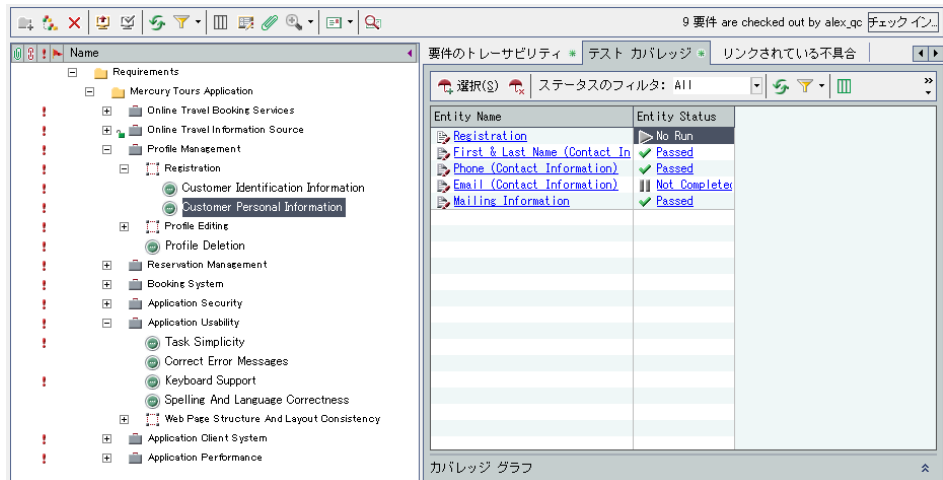




## テストの要件へのリンク

要件モジュールを使用して、テストを要件にリンクできます。

要件ツリーで要件を選択すると、[テストカバレッジ] タブに要件のテスト・カバレッジが表示されます。カバレッジ・グリッドには、選択した要件をカバーするテストのリストが表示されます。カバレッジ・グリッドでは、テストの表示、追加、および削除を行うことができます。







テスト・カバレッジ・グリッドのカラムには、要件をカバーするテストのデータが表示されます。259 ページ「テスト・グリッドのカラム」で説明したカラムに加え、カバレッジ・グリッドには次のカラムを表示できます。

カラム	説明
カバレッジタイプ	カバレッジのタイプ。このカラムの値は、「Test」または「Test Instance」のいずれかです。
エンティティ名	エンティティ名。
エンティティステータス	エンティティの現在の実行ステータス。

## テスト・カバレッジ・グリッドの表示

カバレッジ・グリッドにフィルタを適用したり、カバレッジ全体の表示と非表示を切り替えたりすることができます。テスト計画ツリーのテストに移動することもできます。

テスト・カバレッジ・グリッドを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 要件詳細ビューで要件を選択します。
- 2 **[テスト カバレッジ]** タブをクリックします。
- 3 ステータス・タイプに基づくフィルタをカバレッジ・グリッドに適用するには、**[ステータス フィルタ]** リストで、ステータスを選択します。たとえば、成功したテストだけを表示することができます。フィルタをクリアするには、**[全て]** を選択します。
- 4  カバレッジ・グリッドのデータを更新するには、**[全て更新]** ボタンをクリックします。
- 5  カバレッジ・グリッド内のレコードのフィルタ処理、並べ替え、またはグループ分けを行うには、**[フィルタ/ソートの設定]** ボタンをクリックします。フィルタ処理、並べ替え、グループ分けの設定をクリアするには、**[フィルタ/ソートの設定]** ボタンの矢印をクリックして、**[フィルタ/ソートをクリア]** を選択します。
- 6  グリッドのカラムの表示形式と順序を設定するには、**[カラムを選択]** ボタンをクリックします。**[カラムを選択]** ダイアログ・ボックスの詳細については、52 ページ「カラムの配置」を参照してください。
- 7 要件の子のテスト・カバレッジをすべて表示するには、**[完全カバレッジ]** チェック・ボックスを選択します。標準設定では、カバレッジ全体は表示されません。
- 8 テスト計画ツリー内のテストに移動するには、カバレッジ・グリッドでテストをクリックします。または、カバレッジ・グリッドでテストを右クリックし、**[テスト計画ツリーのテストへ移動]** を選択します。
- 9 テスト・ラボ・モジュールのテストに移動するには、カバレッジ・グリッドのテストを右クリックし、**[テストセットのテストへ移動]** を選択します。
- 10  カバレッジ・チャートを表示するには、ウィンドウの右下の**[表示]** をクリックします。この円グラフは、カバレッジ・グリッドのテストの実行ステータスを視覚的に表示します。

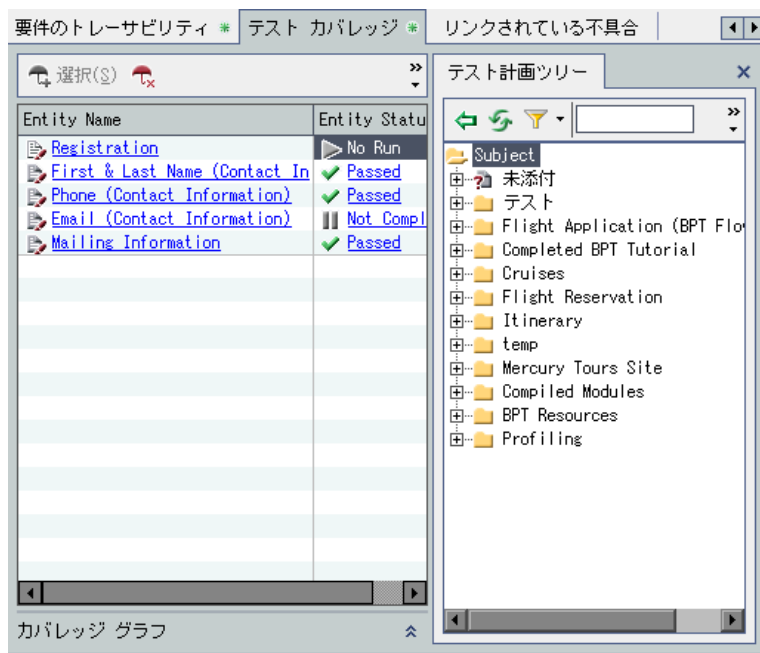
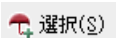
## テスト・カバレッジの追加

要件にテスト・カバレッジを追加するには、テスト計画ツリーからテストを選択します。標準設定では、Business, Folder, および Group の要件タイプのカバレッジは追加できません。

**注：**テスト・カバレッジは、要件からテストを生成した場合には、自動的に作成されます。したがってテスト・カバレッジを追加しなくても、すでに存在していることがあります。詳細については、202 ページ「要件からのテストの作成」を参照してください。

要件にテスト・カバレッジを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 要件ツリーで要件を選択します。[テストカバレッジ] タブに、選択した要件のカバレッジ・グリッドが表示されます。
- 2 [テストカバレッジ] タブで、[テストを選択] ボタンをクリックし、右側の表示枠にテスト計画ツリーを表示します。





3 ツリー内の特定のテストを検索するには、**[検索]** ボックスにテスト名の全体（または一部）を入力し、**[検索]** ボタンをクリックします。検索が成功すると、ツリーの中でテストが強調表示されます。



4 特定のテストを **テスト ID** で検索するには、**[テストへ移動]** ボタンをクリックします。**[テストへ移動]** ダイアログ・ボックスが開きます。テスト ID を入力し、**[OK]** をクリックします。検索が成功すると、ツリーの中でテストが強調表示されます。



5 ツリーに表示されているテストにフィルタを適用したり、並べ替えたりするには、**[フィルタ/ソートの設定]** ボタンをクリックします。レコードのフィルタ処理と並べ替えの詳細については、第3章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。



6 ツリーを更新するには、**[全て更新]** ボタンをクリックします。

7 テストを要件のテスト・カバレッジに追加するには、**[テスト計画ツリー]** タブでテストまたはテスト・フォルダを選択し、**[カバレッジに追加]** ボタンをクリックします。テストがカバレッジ・グリッドに追加されます。フォルダを選択すると、現在のフィルタ条件に一致するテストのみがテスト・カバレッジに追加されます。

---

**ヒント：**テストまたはテスト・フォルダを **[テスト計画ツリー]** タブからカバレッジ・グリッドにドラッグすることで、テスト・カバレッジを定義することもできます。

---



8 右側の表示枠でテスト計画ツリーを非表示にするには、**[閉じる]** ボタンをクリックします。

### テスト・カバレッジの削除

テストは、要件のテスト・カバレッジから削除できます。

テスト・カバレッジから削除するには、次の手順を実行します。

- 1 要件詳細ビューで要件を選択します。**[テストカバレッジ]** タブに、選択した要件のカバレッジ・グリッドが表示されます。
- 2 削除するテストをカバレッジ・グリッドから選択します。



- 3 [カバレッジから削除] ボタンをクリックし、[はい] をクリックして確定します。

## カバレッジの分析

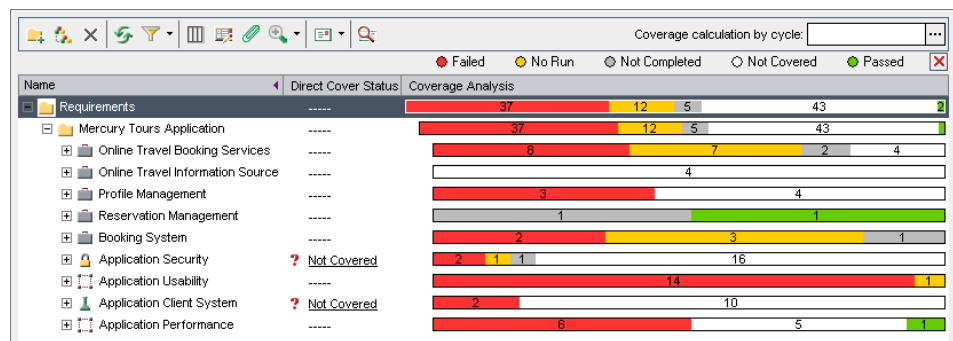
要件モジュールでは、**カバレッジ・アナリシス・ビュー**を使用して、要件のステータスを調べることができます。これにより、テスト・カバレッジごとに子要件の詳細を把握できます。カバレッジ・アナリシスをサイクル単位で設定できます。これにより、特定のサイクルに割り当てられた実行のカバレッジのみを分析に表示できます。

たとえば、**QualityCenter\_Demo** プロジェクトで、**Mercury Tours Application** 要件の下にある **Application Client System** という要件を選択します。この要件には、この要件自体も含め、子が 12 個あります。カバレッジ・アナリシスには、ステータスが [Failed] (失敗した要件がカバーするテストが少なくとも 1 つ存在する) の子が 2 つあることがわかります。これを分析すると、この要件に関連付けられているテストのうち、3 個 (27%) が失敗していることがわかります。

**注**：標準設定では、カバレッジは Functional, Testing, および Undefined の要件タイプでのみ使用できます。

カバレッジを分析するには、次の手順を実行します。

- 1 [表示] > [カバレッジ アナリシス] を選択します。

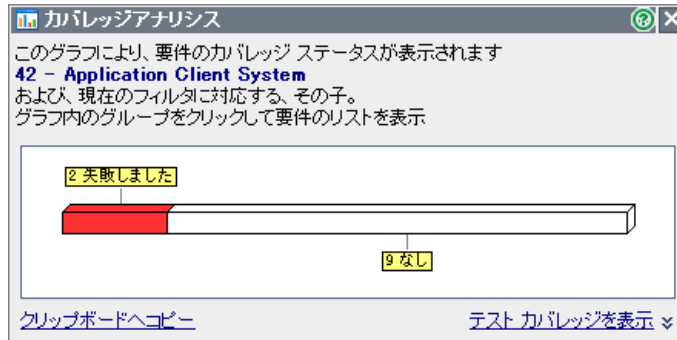


カバレッジ・アナリシス・ビューには次のカラムが表示されます。

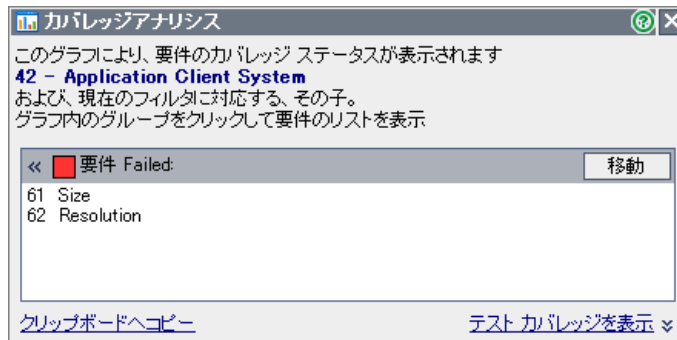
カラム	説明
名前	要件をグループ分けして階層構造として表示する要件ツリーです。
直接カバレッジ・ステータス	要件の現在のステータスです。要件に関連付けられているテストのステータスに基づいて判断されます。たとえば、直接カバレッジ・ステータスが [Not Complete] (未完了) の場合、その要件がカバーするテストのうち少なくとも 1 つが完了していません。詳細については、172 ページ「[直接カバレッジステータス]」を参照してください。
カバレッジ・アナリシス	<p>このカラムには、要件および子要件の直接カバレッジ・ステータスが視覚的に表示されます。現在のフィルタに一致しない要件、つまり直接カバレッジ・ステータスが「N/A」の要件は、分析に含まれません。</p> <p>カバレッジをサイクル単位で設定した場合、Quality Center は算出に [直接カバレッジステータス] フィールドを使用しません。その代わりに、フィルタに含まれるサイクルに割り当てられたテスト・セット・フォルダに属するインスタンスを持つテストに基づいて算出された直接カバレッジ・ステータス値を使用します。この場合、フィルタに含まれるサイクル向けのテスト・カバレッジを持たない要件は分析に含まれません。</p> <p>上の例では、最初の要件である「<b>Mercury Tours Application</b>」の [カバレッジアナリシス] カラムから、[Failed] (失敗) の最も下の階層の子要件が 3 個、[Not Covered] (カバーなし) の最も下の階層の子要件が 10 個あることがわかります。</p>

- 2 **Quality Center Enterprise Edition および Premier Edition** : 分析に特定のサイクルに割り当てられた実行を持つテストのみを含めるには、[**サイクルごとのカバレッジ計算**] ボックスで参照ボタンをクリックします。リリース・ツリーが開きます。ツリーを展開し、カバレッジの分析対象にするサイクルを選択します。[OK] をクリックしてリリース・ツリーを閉じます。
- 3 分析する要件の [**カバレッジアナリシス**] カラムをクリックします。あるいは、要件を右クリックし、[**カバレッジアナリシス**] を選択します。[カバレッジアナリシス] ダイアログ・ボックスが表示されます。

たとえば、**Application Client System** 要件の [カバレッジ アナリシス] カラムをクリックします。グラフが表示され、この要件には [Failed] (失敗) の子要件が 2 個、[Not Covered] (カバーなし) の子要件が 10 個あることがわかります。

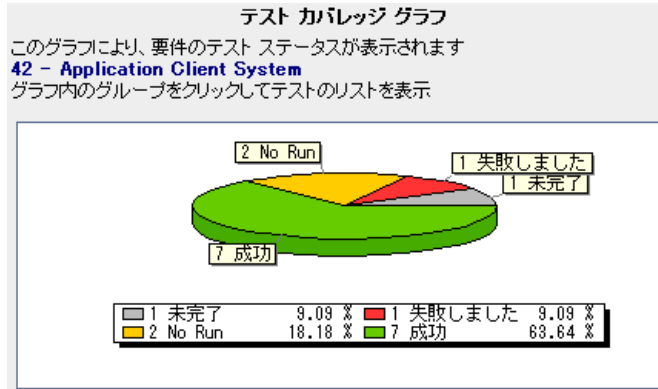


- 4 グラフ内の各部分をクリックすると、クリックした部分のステータスに対応する子要件のリストが表示されます。この例では、グラフの中の [Failed] の部分をクリックすると、ステータスが [Failed] の子要件が表示されます。ステータスが [Failed] になっている 2 個の要件の名前が表示されます。



要件を選択し、[移動] をクリックすると、要件ツリー内でその要件を強調表示できます。

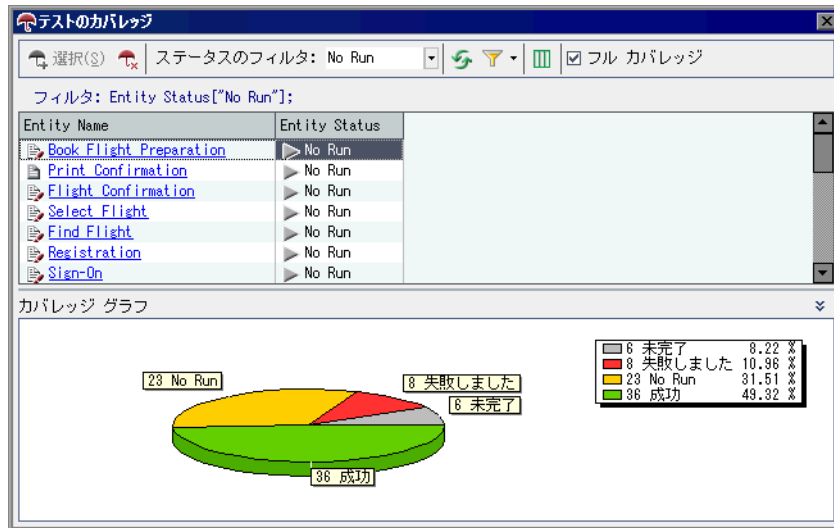
- 5 [テスト カバレッジを表示] リンクをクリックして [カバレッジ アナリシス] を拡張すると, [テストカバレッジグラフ] が表示されます。



この円グラフには、要件のテスト・カバレッジ全体がテストのステータスに従ってグループ分けされて表示されます。この例では、Application Client System 要件とその子要件は、1 個の [失敗], 1 個の [未完了], 2 個の [実行しない], そして 7 個の [成功] のテストに関連付けられています。親要件に複数の子があり、すべての子が同じテストを対象とする場合、そのテストは親要件のテスト・カバレッジ・チャートに一度だけ含まれます。



- 6 グラフ内の各部分をクリックすると、その部分のステータスに対応する要件と子要件がカバーするテストの一覧が表示されます。[ステータス フィルタ] に、グラフの中で選択した領域のステータスが設定された状態で [テスト カバレッジ] ダイアログ・ボックスが開きます。



親要件に複数の子があり、すべての子が同じテストを対象とする場合、そのテストは親要件のテスト・カバレッジ・チャートに子要件ごとに一度含まれます。[ステータス フィルタ] の値や、要件のテスト・カバレッジの指定を変更できます。詳細については、297 ページ「テストの要件へのリンク」を参照してください。



- 7 テスト・カバレッジ・チャートを表示するには、[表示] ボタンをクリックします。
- 8 右上の [閉じる] ボタンをクリックし、[テスト カバレッジ] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 9 [閉じる] ボタンをクリックし、[カバレッジ アナリシス] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 10 カバレッジ・アナリシス・ビューを Word のドキュメントとして保存するには、[要件] > [エクスポート] > [Word ドキュメント] を選択します。要件ツリー内の各親要件の棒グラフが表示される Word ドキュメントが作成されます。



# 第 20 章

---

## テストの作成

テスト計画ツリーの作成が終わると、デザイン・ステップを定義してテストの開発を行うことができます。

### 本章の内容

- ▶ テストの作成について (307 ページ)
- ▶ デザイン・ステップの定義 (309 ページ)
- ▶ 手動テストの呼び出し (311 ページ)
- ▶ デザイン・ステップの管理 (313 ページ)

## テストの作成について

デザイン・ステップ、つまりテストの詳細な実施手順を定義することによって、テスト計画モジュールにテストを作成します。ステップには、アプリケーションで実行するアクション、入力内容、およびアクションや入力に対して期待される結果を指定します。テスト計画ツリーにテストを追加し、テストの基礎情報を定義してから、テストのステップを定義します。

手動テストと自動テストの両方のデザイン・ステップを作成できます。手動テストの場合、ステップの作成が終われば、テスト計画とテスト設計が完了します。計画に基づいて、直ちにテストの実行を開始できます。自動テストの場合、HP のテスト・ツール、またはユーザ定義のテスト・ツールやサードパーティ製のテスト・ツールを使用して、自動テスト・スクリプトを作成する必要があります。

テストを自動化する場合、定義してあるステップのデザインに基づいてテスト・スクリプトを作成できます。テストの設計を評価した後に、テストを自動化するかどうかを決定します。詳細については、第 22 章「自動テストの作成」を参照してください。

別の手動テストを呼び出すデザイン・ステップを作成できます。これは、別のテストの一環として実行することが多い共通のステップがある場合に役立ちます。手動テストの呼び出しの詳細については、311 ページ「手動テストの呼び出し」を参照してください。

テスト計画ツリーの [ステップのデザイン] タブで、テスト・ステップをデザインします。

詳細			
ステップのデザイン *			
テスト スクリプト			
テストのパラメータ			
添付ファイル *			
	Step Name	Description	Expected Result
	Step 1: Ticketless, Empty Billing Address	1. Skip the Billing Address and Delivery Address sections. Select the Ticketless Travel check box. 2. Click the Secure Purchase button. 3. Check the results on the next page.	The itinerary should not be booked. An error message should indicate that the Billing Address must be specified. You must be able to go back and fill needed data.
	Step 2: Ticketless, Empty Delivery Address	1. Complete the Billing Address section with valid values. 2. Select the Ticketless Travel check box. 3. Skip the Delivery Address section. 4. Click the Secure Purchase button. 5. Check the results on the next page.	The itinerary should be booked. The Flight Confirmation page opens. The itinerary properties should be correct. The "N/A for ticketless travel" message should appear next to the Delivery Address section.
	Step 3: Ticketless, Delivery Address Specified	1. Complete the Billing Address section with valid values. 2. Select the Ticketless Travel check box. 3. Complete the Delivery Address section with valid values. 4. Click the Secure Purchase button. 5. Check the results on the next page.	The itinerary should be booked. The Flight Confirmation page opens. The itinerary properties should be correct. The "N/A for ticketless travel" message should appear next to the Delivery Address section. The Delivery Address section should be empty.
	Step 4: Same As Billing Address, Addresses Match	1. Complete the Billing Address section with valid values. 2. Do not select the Ticketless Travel check box. 3. Copy the Billing Address section contents to Delivery Address section. (Billing Address and Delivery Address sections must be	The itinerary should be booked. The Flight Confirmation page opens. The itinerary properties should be correct. In the Delivery Address section you should see the same address as in the Billing Address section.

## デザイン・ステップの定義


ステップのデザイン・エディタを使用して、テストにデザイン・ステップを追加します。

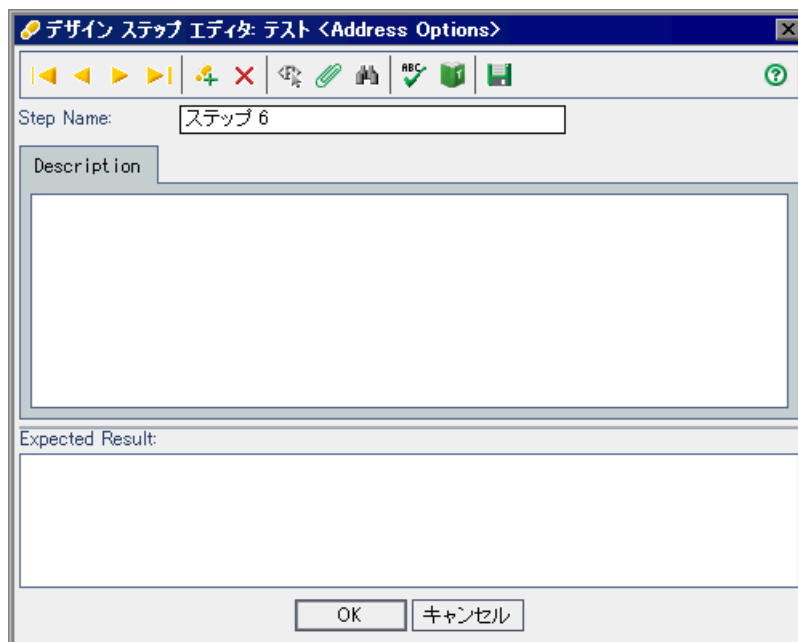
---

**注：**別の手動テストを呼び出すデザイン・ステップを含めることができます。詳細については、311 ページ「手動テストの呼び出し」を参照してください。

---

デザイン・ステップを定義するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでテストを選択し、[ステップのデザイン] タブをクリックします。
- 2  [ステップの新規作成] ボタンをクリックするか、[ステップのデザイン] タブで右クリックして [ステップの新規作成] を選択します。ステップのデザイン・エディタが起動し、標準設定のステップ名が [ステップ名] ボックスに表示されます。



標準設定のステップ名は、デザイン・ステップの順序の番号です（初めてテストにステップを追加する場合は、「ステップ1」となります）。ボックスに別の名前を入力して、名前を変更できます。

3 デザイン・ステップの説明を **[詳細]** に、期待結果を **[期待]** に入力します。



4 パラメータを挿入するには、**[パラメータの挿入]** ボタンをクリックします。詳細については、327 ページ「デザイン・ステップへのテスト・パラメータの挿入」を参照してください。




5 現在のステップを手作業で保存するには、**[ステップの保存]** ボタンをクリックします。



6 さらにステップを追加するには、**[ステップの新規作成]** ボタンをクリックします。次の順序番号が、**[ステップ名]** ボックスに表示されます。

7 **[OK]** をクリックしてステップのデザイン・エディタを終了すると、ステップが追加されます。

デザイン・ステップは、**[ステップのデザイン]** タブに表示されます。テスト計画ツリーでは、テスト・アイコンの横に足跡  が表示され、テストに対してステップが定義されたことが示されます。



8 添付ファイルをデザイン・ステップに添付することができます。ファイル、URL、スナップショット、クリップボードからの項目、またはシステム情報を添付できます。デザイン・ステップに添付ファイルを追加するには、ステップを選択し、**[添付ファイル]** ボタンをクリックします。詳細については、第5章「添付ファイルの追加」を参照してください。

---

### 注：

- ▶ 既存のテストからステップをコピーすることができます。詳細については、313 ページ「デザイン・ステップの管理」を参照してください。
  - ▶ 添付ファイルをデザイン・ステップに追加すると、テストが実行されるたびに添付ファイルのコピーが作成されます。テストの実行の詳細については、434 ページ「手作業によるテストの実行」を参照してください。
-

## 手動テストの呼び出し

テストには、手動テストを呼び出すデザイン・ステップを含めることができます。呼び出し元のテストを実行すると、呼び出し元のテストには呼び出し先のテストのステップおよびパラメータが組み込まれます。これは、別のテストの一環として実行することが多い共通のステップがある場合に役立ちます。

たとえば、多くの異なるテストにログイン・ステップを含めるとします。アプリケーションの起動時にユーザとしてログインを行うテスト「**Login\_Template**」を作成できます。このテストは、各テストの開始時に呼び出すことができます。

ほかのテストから呼び出すテストを識別しやすいように、呼び出し先テストにテンプレート・テストの印を付けることができます。

多くの場合、テンプレート・テストにはテスト・パラメータが含まれていません。呼び出し元のテストのタイプに基づいたさまざまなデータでテンプレート・テストを実行する場合、パラメータが役立ちます。手動テストでのパラメータの使用の詳細については、第21章「手動テストでのパラメータを使った作業」を参照してください。

手動テストの呼び出しに関する本項は、次の項目で構成されています。

- ▶ テンプレート・テストとしての手動テストの作成
- ▶ 手動テストの呼び出し

### テンプレート・テストとしての手動テストの作成

テスト計画ツリーの任意の手動テストに「テンプレート・テスト」の印を付けることができます。テストを呼び出せるようにするために、テストにテンプレート・テストの印を付ける必要はありません。テストにテンプレート・テストの印を付けると、別のテストからテンプレート・テストを呼び出す場合、テンプレート・テストを簡単に選択できるようになります。

手動テストにテンプレート・テストの印を付けるには、次の手順を実行します。

テスト計画ツリーで手動テストを右クリックし、[**テンプレート テストとしてマーク**]を選択します。手動テスト・アイコンがグレーから白に変わり、テンプレート・テストになったことを示します。



## 手動テストの呼び出し

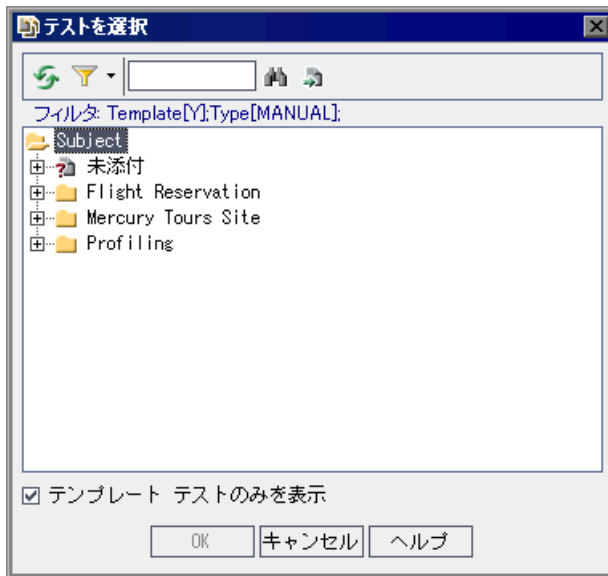
テストには、別の手動テストを呼び出すステップを含めることができます。呼び出し元のテストを実行すると、呼び出し元のデザイン・ステップには呼び出し先のテストのステップが組み込まれます。

手動テストを呼び出すには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでテストを選択し、[ステップのデザイン] タブをクリックします。



- 2 別のテストへの呼び出しを組み込む位置の直前のステップを選択し、[テスト対象呼び出し] ボタンをクリックします。[テストを選択] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 標準設定では、テンプレート・テストのみが表示されます。テンプレート・テスト以外のテストを選択する場合は、[テンプレート テストのみを表示] チェック・ボックスをクリアします。



- 4 [テストを選択] ダイアログ・ボックスに表示されているテストにフィルタを適用したり、並べ替えたりするには、[フィルタ/ソートの設定] ボタンをクリックします。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。フィルタ処理と並べ替えの詳細については、第 3 章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。





5 特定のテストを検索するには、**[検索]** ボックスにテスト名の全体（または一部）を入力し、**[検索]** ボタンをクリックします。検索が成功すると、ツリーの中でテストが強調表示されます。



6 ツリーですべてのテストを更新するには、**[全て更新]** ボタンをクリックします。

7 呼び出し先となる手動テストを選択します。

8 **[OK]** をクリックします。呼び出し先テストにパラメータが含まれている場合は、**[テストのパラメータ]** ダイアログ・ボックスが開き、呼び出し先のテストのパラメータが表示されます。パラメータに実際の値を割り当てます。割り当てた値は、このテストから作成されるすべてのテスト・インスタンスで使用されます。詳細については、328 ページ「実際の値の割り当て」を参照してください。

9 **[OK]** をクリックします。呼び出しは、デザイン・ステップにリンクとして挿入され、呼び出し先のテストのパラメータに割り当てた値が表示されます。

10 呼び出し先のテストのパラメータに割り当てた値を編集するには、テスト呼び出しを右クリックし、**[呼び出しテストのパラメータ]** を選択します。**[呼び出しテストのパラメータ]** ダイアログ・ボックスで、パラメータの新しい値を入力し、**[OK]** をクリックします。

## デザイン・ステップの管理

デザイン・ステップの管理に関する本項は、次の項目で構成されています。

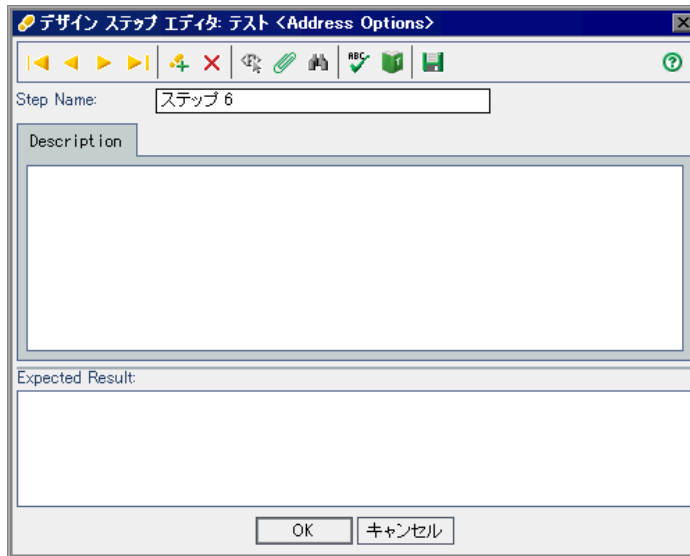
- ▶ デザイン・ステップの編集
- ▶ デザイン・ステップの順序変更
- ▶ デザイン・ステップの番号変更
- ▶ デザイン・ステップのサイズ変更
- ▶ [ステップのデザイン] タブのカラムの表示設定
- ▶ デザイン・ステップの削除
- ▶ プロジェクト内でのデザイン・ステップのコピー
- ▶ プロジェクト間でのデザイン・ステップのコピー
- ▶ ステップのテキストの検索と置換

## デザイン・ステップの編集

既存のデザイン・ステップの編集および新しいデザイン・ステップの追加を行うことができます。

デザイン・ステップを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでテストを選択し、[ステップのデザイン] タブをクリックします。
- 2 ステップをダブルクリックするか、ステップを選択して [ステップの編集] ボタンをクリックします。ステップのデザイン・エディタが起動します。



ナビゲーション・ボタンを使用して、テストのステップ間を移動できます。



- ▶ テストの最初のステップを表示するには [最初のステップ] ボタンを、前のステップを表示するには [前のステップ] ボタンをクリックします。



- ▶ テストの次のステップを表示するには [次のステップ] ボタンを、最後のステップを表示するには [最後のステップ] ボタンをクリックします。

---

**ヒント:** ショートカット・キーを使用することで、ステップのデザイン・エディタに表示されるステップ間を移動できます。Alt キーを押しながら HOME キーを押すと、最初のステップに移動します。Alt キーを押しながら左矢印キーを押すと、1つ前のステップに移動します。Alt キーを押しながら右矢印キーを押すと、次のステップに移動します。Alt キーを押しながら END キーを押すと、最後のステップに移動します。

---

- 3 それぞれのステップの説明と期待結果を編集するには、**[詳細]**と**[期待]**の欄に入力します。



- 4 **[ステップの新規作成]** ボタンをクリックし、現在選択されているステップの後にステップを追加します。
- 5 **[OK]** をクリックするとステップのデザイン・エディタが終了し、変更が保存されます。

### デザイン・ステップの順序変更

テスト・ステップの順序を変更できます。

デザイン・ステップの順序を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでテストを選択し、**[ステップのデザイン]** タブをクリックします。
- 2 移動するステップの左側にあるグレーのサイドバー上にマウス・ポインタを置きます。マウス・ポインタが **➡** に変わります。
- 3 ステップをクリックして、目的の位置までドラッグします。

### デザイン・ステップの番号変更

テスト・ステップの追加、削除、または順序変更後に、ステップの番号を変更できます。

デザイン・ステップの番号を変更するには、次の手順を実行します。


- 1 テスト計画ツリーでテストを選択し、**[ステップのデザイン]** タブをクリックします。
- 2 **[ステップの番号変更]** ボタンをクリックします。




## デザイン・ステップのサイズ変更

テスト・ステップの行のサイズを調整できます。これにより、テキストが長い場合でも [詳細] カラムや [期待] カラムですべてのテキストを表示できるようになります。

デザイン・ステップのサイズを変更するには、次の手順を実行します。


- 1 テスト計画ツリーでテストを選択し、[ステップのデザイン] タブをクリックします。
- 2 サイズを変更するステップの灰色のサイドバーの下端にマウス・ポインタを合わせます。
- 3  [行の高さを調整] ボタンをクリックします。

あるいは、サイズを変更するステップの灰色のサイドバーの下端にマウス・ポインタを合わせます。マウス・ポインタが  に変わります。ステップをクリックしてドラッグし、行のサイズを調整します。

## [ステップのデザイン] タブのカラムの表示設定

[ステップのデザイン] タブに表示するカラム、およびカラムを表示する順番を指定できます。

デザイン・ステップ・カラムの表示を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでテストを選択し、[ステップのデザイン] タブをクリックします。
- 2  [カラムの選択] ボタンをクリックします。[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、52 ページ「カラムの配置」を参照してください。

## デザイン・ステップの削除

テストからステップを削除できます。

デザイン・ステップを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでテストを選択し、[ステップのデザイン] タブをクリックします。

- 削除するステップを選択します。複数のステップを削除するには、削除するステップの左側にあるグレーのサイドバー上にマウス・ポインタを置きます。マウス・ポインタが **→** に変わります。クリックしてステップを選択します。続いて、CTRL キーまたは SHIFT キーを押しながら、ほかのステップを選択します。



- [選択範囲の削除]** ボタンをクリックします。あるいは、右クリックして **[選択を削除]** を選択します。
- [はい]** ボタンをクリックして、確定します。

### プロジェクト内でのデザイン・ステップのコピー

同じプロジェクトの別のテストから、デザイン・ステップをコピーできます。デザイン・ステップ・テストで使用されているパラメータは、ターゲット・テストにコピーされます。

プロジェクト内でデザイン・ステップをコピーするには、次の手順を実行します。

- テスト計画ツリーで、ステップのコピー元のテストを選択し、**[ステップのデザイン]** タブをクリックします。
- コピーするステップを選択します。複数のステップをコピーするには、コピーするステップの左側にあるグレーのサイドバー上にマウス・ポインタを置きます。マウス・ポインタが **→** に変わります。クリックしてステップを選択します。続いて、CTRL キーまたは SHIFT キーを押しながら、ほかのステップを選択します。



- [ステップのコピー]** ボタンをクリックするか、右クリックして **[コピー]** を選択します。
- ステップのコピー先のテストを選択し、**[ステップのデザイン]** タブをクリックします。



- [ステップの貼り付け]** ボタンをクリックするか、右クリックして **[貼り付け]** を選択します。

### プロジェクト間でのデザイン・ステップのコピー

テストのデザイン・ステップをプロジェクト間でコピーできます。デザイン・ステップにほかのテストの呼び出しが含まれている場合、次のいずれかの方法を使用してそれらをコピーするよう Quality Center に指定できます。

- ▶ デザイン・ステップをコピーし、ターゲット・プロジェクト内の既存のテストにリンクします。呼び出し先のテストがターゲット・プロジェクトに存在しない場合、Quality Center によってターゲット・プロジェクトにコピーされます。
- ▶ デザイン・ステップおよび呼び出し先テストをターゲット・プロジェクト内にコピーします。
- ▶ 呼び出し先テストをコピーせずに、デザイン・ステップをターゲット・プロジェクト内にコピーします。

デザイン・ステップ・テストで使用されているパラメータは、ターゲット・テストにコピーされます。

---

**注：**プロジェクト間でデザイン・ステップをコピーするには、使用している Quality Center のバージョンとパッチ・レベルが両方のプロジェクトで同じである必要があります。

---

プロジェクト間でデザイン・ステップをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーで、ステップのコピー元のテストを選択し、**[ステップのデザイン]** タブをクリックします。
- 2 コピーするステップを選択します。複数のステップをコピーするには、コピーするステップの左側にあるグレーのサイドバー上にマウス・ポインタを置きます。マウス・ポインタが **➡** に変わります。クリックしてステップを選択します。続いて、CTRL キーまたは SHIFT キーを押しながら、ほかのステップを選択します。



- 3 **[ステップのコピー]** ボタンをクリックするか、右クリックして **[コピー]** を選択します。
- 4 Quality Center インスタンスをもう 1 つ開き、ステップを貼り付けるプロジェクトにログインします。
- 5 ステップのコピー先のテストを選択し、**[ステップのデザイン]** タブをクリックします。



- 6 **[ステップの貼り付け]** ボタンをクリックするか、右クリックして **[貼り付け]** を選択します。**[デザイン ステップをターゲット プロジェクトに貼り付け]** ダイアログ・ボックスが開きます。

7 次のいずれかのオプションを選択します。

- ▶ **[デザイン・ステップをコピーして、既存の関連エンティティへリンク]** : デザイン・ステップをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。コピーしたデザイン・ステップは、既存のテストに同じ名前でリンクされます。呼び出し先のテストがターゲット・プロジェクトに存在しない場合、Quality Center によってターゲット・プロジェクトにコピーされます。
- ▶ **[デザイン・ステップと関連エンティティをコピー]** : デザイン・ステップおよび呼び出し先テストをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。呼び出し先テスト名がターゲット・プロジェクトにすでに存在する場合、テスト名の重複の解決のため、コピーされた呼び出し先テストの名前が変更されます。
- ▶ **[関連エンティティをコピーせずにデザイン・ステップをコピー]** : 呼び出し先テストをコピーすることなく、デザイン・ステップをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。コピーされたデザイン・ステップは呼び出し先テストにリンクされません。

[OK] をクリックします。

### ステップのテキストの検索と置換

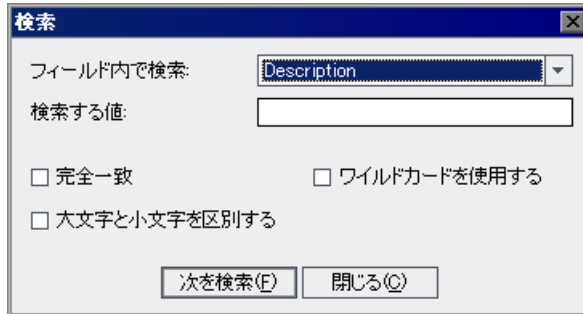
[ステップのデザイン] タブで、デザイン・ステップの特定のテキストを検索できます。単一ステップの場合、ステップのデザイン・エディタでも特定のテキストを検索および置換できます。

[ステップのデザイン] タブでテキストを検索するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでテストを選択し、**[ステップのデザイン]** タブをクリックします。



- 2 **[テキスト検索]** ボタンをクリックします。**[検索]** ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 **[フィールド内で検索]** ボックスで、検索条件を選択します。
- 4 **[検索する値]** ボックスで、選択したフィールドの値を選択します。
- 5 大文字と小文字を区別するには、**[大文字と小文字を区別する]** チェック・ボックスを選択します。
- 6 完全に一致する値を検索するには、**[完全一致]** チェック・ボックスを選択します。
- 7 項目の一部だけを入力するために検索文字列にアスタリスク (\*) 文字を使用するには、**[ワイルドカードを使用する]** チェック・ボックスを選択します。
- 8 **[次を検索]** をクリックします。検索が成功すると、ステップが強調表示されます。検索が失敗すると、メッセージ・ボックスが開きます。
- 9 **[閉じる]** をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

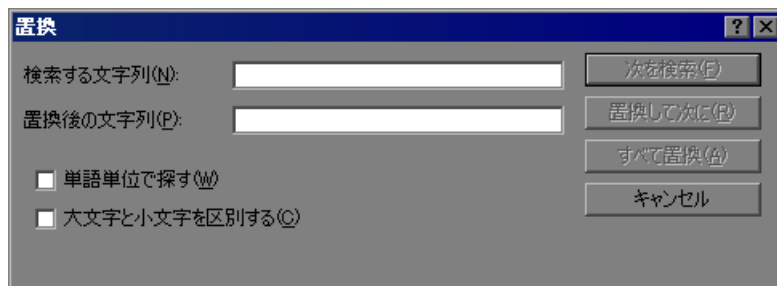
ステップのデザイン・エディタでテキストの検索と置換を行うには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでテストを選択し、**[ステップのデザイン]** タブをクリックします。
- 2 新しいステップを追加するには **[ステップの新規作成]** ボタンをクリックし、既存のステップを変更するには **[ステップの編集]** ボタンをクリックします。**[ステップのデザインエディタ]** が開きます。





- 3 **[テキストの検索 / 置換]** ボタンをクリックします。**[置換]** ダイアログ・ボックスが開きます。



- 4 **[検索する文字列]** ボックスに、検索するテキストを入力します。
- 5 指定したテキストを置換するには、**[置換後の文字列]** ボックスに、置換に使用するテキストを入力します。
- 6 単語単位で検索するには、**[単語単位で探す]** チェック・ボックスを選択します。
- 7 大文字と小文字を区別するには、**[大文字と小文字を区別する]** チェック・ボックスを選択します。
- 8 **[次を検索]** をクリックします。検索が失敗すると、メッセージ・ボックスが開きます。
- 9 テキストの最初の一致を置換するには **[置換して次に]** を、テキストの一致をすべて置換するには **[すべて置換]** をクリックします。



# 第 21 章

---

## 手動テストでのパラメータを使った作業

手動テストにパラメータを追加し、デザイン・ステップで使用できます。

### 本章の内容

- ▶ 手動テストでのパラメータを使った作業について (323 ページ)
- ▶ テスト・パラメータの定義 (325 ページ)
- ▶ テスト・パラメータの更新 (326 ページ)
- ▶ デザイン・ステップへのテスト・パラメータの挿入 (327 ページ)
- ▶ 実際の値の割り当て (328 ページ)
- ▶ テスト・パラメータの管理 (330 ページ)

### 手動テストでのパラメータを使った作業について

手動テストの柔軟性を高めるために、デザイン・ステップにパラメータを追加できます。これにより、毎回異なるデータで同じテストを繰り返し実行できます。

**テスト・パラメータ**は、パラメータが定義されているテストの外側から値を割り当てることができます。

パラメータを使った手動テストはほかのテストから呼び出すことができます。これは、別のテストの一環として実行することが多い共通のステップがある場合に役立ちます。たとえば、アプリケーションの起動時にユーザとしてログインを行うテンプレート・テスト「**Login\_Template**」を作成できます。このテストは、各テストの開始時に呼び出す必要があります。また、通常のユーザとしてアプリケーションにログインする場合と、プロジェクト管理者としてログインする場合があります。

そのためには、<<<user name>>> および <<<password>>> という 2 つのパラメータを作成し、「Login\_Template」を呼び出すテストのタイプに応じて値を変更できます。通常のユーザとしてログインすることが多い場合には、通常のユーザ名とパスワードをこのパラメータの標準設定の値として設定しておきます。手動テストの呼び出しの詳細については、311 ページ「手動テストの呼び出し」を参照してください。

**手動テストでパラメータを使って作業するには、次の手順を実行します。**

- 1 手動テストにパラメータを定義します。詳細については、325 ページ「テスト・パラメータの定義」を参照してください。
- 2 パラメータをデザイン・ステップに追加します。詳細については、327 ページ「デザイン・ステップへのテスト・パラメータの挿入」を参照してください。
- 3 テスト設計のさまざまな段階で、テストの実行時に使用するパラメータ値を割り当てます。詳細については、328 ページ「実際の値の割り当て」を参照してください。

## テスト・パラメータの定義

デザイン・ステップでパラメータを使用するには、テストにパラメータを定義する必要があります。

テスト・パラメータを定義するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでテストを選択し、[テストパラメータ] タブをクリックします。
- 2 [パラメータの新規作成] ボタンをクリックします。[パラメータの新規作成] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 新規パラメータに付ける名前を入力します。パラメータの名前には、「~」、「?」、「|」、「<」、「>」、「%」は使用できません。
- 4 [標準設定値] タブをクリックし、パラメータの標準設定値を入力します。標準設定値は、ユーザがテストの実行前に実際の値を割り当ての役に立ちます。
- 5 [詳細] タブをクリックし、パラメータの説明を入力します。
- 6 [OK] をクリックします。

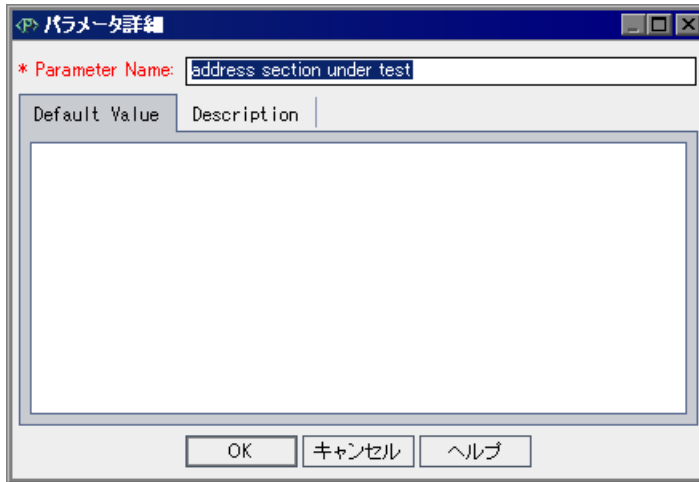
## テスト・パラメータの更新

既存のテスト・パラメータの詳細を追加または変更できます。

テスト・パラメータを更新するには、次の手順を実行します。



- 1 [テスト パラメータ] グリッドで、編集するパラメータをダブルクリックします。あるいはパラメータを選択し、[パラメータの詳細] ボタンをクリックします。[パラメータの詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 次のフィールドの値を更新または入力します。

- ▶ [パラメータ名] : パラメータの名前には、「~」、「?」、「!」、「<」、「>」、「%」は使用できません。

パラメータ名を変更すると、元のパラメータのほかに、新しいパラメータが新しい名前で作成されます。

- ▶ [標準設定値]
- ▶ [詳細]

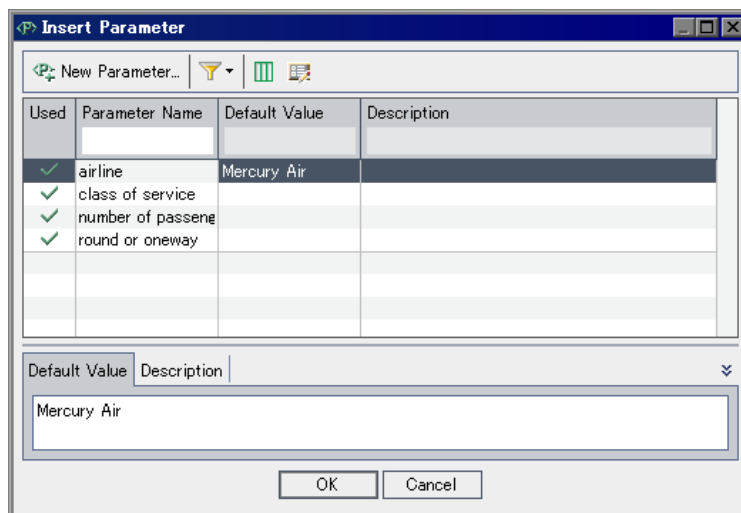
- 3 [OK] ボタンをクリックし、変更を保存します。

## デザイン・ステップへのテスト・パラメータの挿入

手動デザイン・ステップの詳細または期待結果にパラメータを追加できます。既存のパラメータを使用したり、新しいパラメータを定義したりできます。

デザイン・ステップにテスト・パラメータを挿入するには、次の手順を実行します。

- 1 **[デザインステップ]** タブで、デザイン・ステップをダブルクリックします。**[詳細]** ボックスまたは**[期待結果]** ボックスにカーソルを合わせます。
- 2 **[パラメータの挿入]** ボタンをクリックします。**[パラメータの挿入]** ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 既存のパラメータを挿入するには、パラメータを選択して**[OK]** をクリックします。

ステップの現在のカーソル位置に、パラメータが <<< パラメータ名 >>> 形式で追加されます。

---

**注：**デザイン・ステップでパラメータ名に書式を適用する場合、同一の書式をパラメータ名全体、および <<< と >>> にも適用する必要があります。たとえば、<<<password>>> パラメータをイタリック体にする場合、password という語だけでなく、<<<password>>> の文字列全体をイタリック体にする必要があります。

---

- 4 新しいパラメータを挿入するには、[パラメータの新規作成] ボタンをクリックします。詳細については、325 ページ「テスト・パラメータの定義」を参照してください。新しいパラメータがステップに追加されます。

あるいは、デザイン・ステップの詳細で、新しいパラメータを <<<パラメータ名>>> 形式で入力します。デザイン・ステップを保存すると、新しいパラメータが [テスト パラメータ] タブに追加されます。

## 実際の値の割り当て

テストを実行する前に、テストに含まれるパラメータに実際の値を割り当てるよう求められます。**実際の値**は、テストの実行中に使用されるデータです。パラメータの標準設定値を実際の値として使用できます。

テストの設計では、3つの段階で実際の値を割り当てるよう求められます。テスト・ポリシーに応じて、次の3つの段階のいつでも実際の値を割り当てることができます。

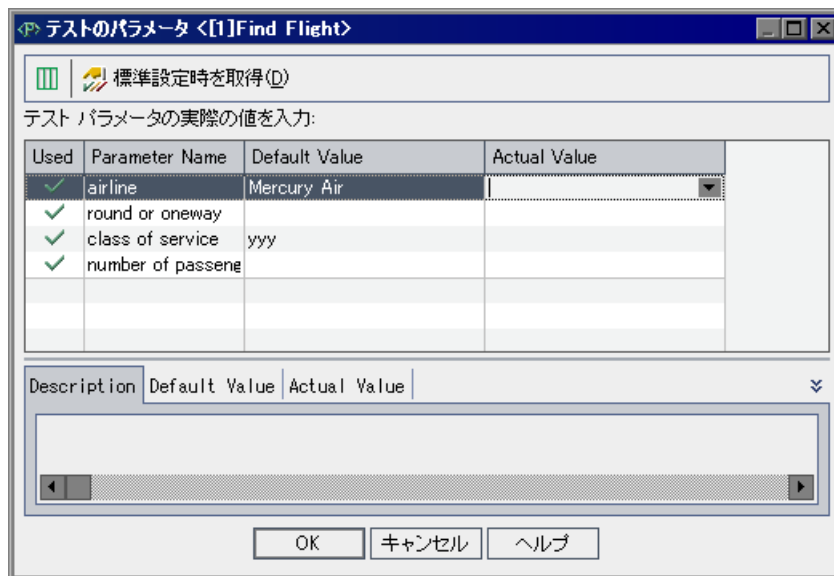
- ▶ **パラメータを使ったテストの呼び出し時：**テストの呼び出し時にパラメータに実際の値を割り当てると、呼び出し元テストから作成した各テスト・インスタンスに値が自動的に適用されます。
- ▶ **テスト・インスタンスの作成時：**テスト・インスタンスの作成時にパラメータに実際の値を割り当てると、テスト・インスタンスの各実行に値が自動的に適用されます。テスト・インスタンスの設定中にテスト・インスタンスに実際の値を割り当てることができます。詳細については、465 ページ「手動テスト・インスタンスのパラメータ値の設定」を参照してください。
- ▶ **テストの実行時：**テスト実行に対してパラメータに実際の値を割り当てると、値はテスト実行にのみ適用されます。この段階で実際の値を割り当てないと、テストは Null 値を使って実行されます。



3つの各段階では、まだ値が割り当てられていないパラメータにのみ値を割り当てることができます。

実際の値を割り当てるには、次の手順を実行します。

- 1 パラメータを使った手動テストの呼び出し時、パラメータを使ったテスト・インスタンスの作成時、またはパラメータを使ったテストの実行時に、パラメータに実際の値を割り当てるよう求められます。[テストのパラメータ] ダイアログ・ボックスが開きます。



実際の値がまだ設定されていないパラメータのみが表示されます。

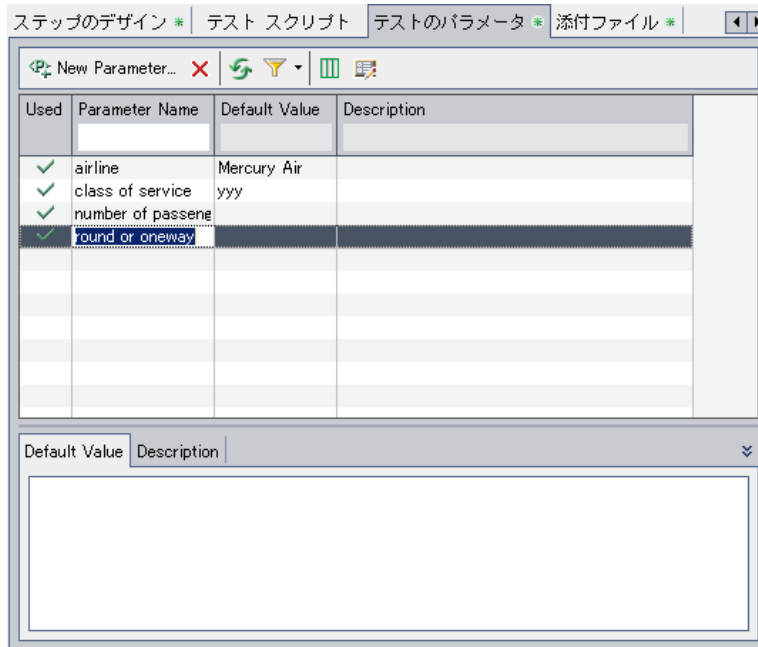
- 2 実際の値を割り当てるパラメータを選択します。複数のパラメータを選択するには、CTRL キーまたは SHIFT キーを使用します。
- 3 **[実際の値]** カラムに、テスト実行中にパラメータが使用する値を入力します。入力を始めると、テキスト・ボックスが開きます。[OK] をクリックして値を保存します。
- 4 パラメータの標準設定値を実際の値として使用するには、**[標準設定値を取得]** ボタンをクリックします。現在の [実際の値] が [標準設定値] で置き換えられます。
- 5 [OK] をクリックします。

## テスト・パラメータの管理

テストのパラメータの表示や管理は [テストのパラメータ] タブで行います。

テスト・パラメータを管理するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでテストを選択し、[テストのパラメータ] タブをクリックします。



[Used] カラムのチェック・マークは、パラメータがデザイン・ステップに含まれていることを示します。

- 2 新しいテスト・パラメータを追加するには、[パラメータの新規作成] ボタンをクリックします。詳細については、325 ページ「テスト・パラメータの定義」を参照してください。



- 3 テスト・パラメータを削除するには、パラメータを選択して [削除] ボタンをクリックします。デザイン・ステップに含まれているパラメータを削除すると、デザイン・ステップ内のパラメータは <パラメータ名> 形式の通常のテキストに置き換えられます。



- 4 テスト・パラメータ・グリッドを更新するには、**[全て更新]** ボタンをクリックします。



- 5 グリッド内に表示されるテスト・パラメータをフィルタリングするには、**[フィルタ/ソートの設定]** ボタンの次のいずれかのオプションを使用します。
- ▶**[フィルタ/ソートの設定]** : [フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・パラメータ・グリッドのパラメータのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。
  - ▶**[フィルタ/ソートをクリア]** : テスト・パラメータ・グリッドに適用されているフィルタや並べ替えをクリアします。

フィルタ処理と並べ替えの詳細については、第 3 章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。



- 6 テスト・パラメータ・グリッド内に表示するカラムを選択し、順序を設定するには、**[カラムを選択]** ボタンをクリックします。詳細については、52 ページ「カラムの配置」を参照してください。



- 7 テスト・パラメータの詳細を編集するには、パラメータを選択して**[パラメータの詳細]** ボタンをクリックします。詳細については、326 ページ「テスト・パラメータの更新」を参照してください。



# 第 22 章

---

## 自動テストの作成

テスト・ステップのデザインが完了したら、テスト・ステップを自動テスト・スクリプト作成用のフレームワークとして使用することができます。

### 本章の内容

- ▶ 自動テストの作成について (333 ページ)
- ▶ 自動テスト・スクリプトの生成 (334 ページ)

## 自動テストの作成について

テスト計画の作成時には、自動化するテストを決めます。テストを自動化すると、WinRunner、QuickTest Professional、LoadRunner、または Visual API-XP を使用してテスト・スクリプトを作成し、そのテストを実行できます。

テストを自動化するかどうかを決めるときには、次の事項を考慮してください。

### 実行の頻度

自動化に適しているのは、アプリケーションの新しいバージョンが出るごとに実行するテストです。こうしたテストには、アプリケーション全体の基本的な機能の動作を確認する動作確認テストが含まれます。アプリケーションの新しいバージョンが出るたびに、動作確認テストを実行して新しいバージョンの安定性を確認してから、詳細なテストに進みます。

1つの操作に対して複数のデータ値を使用するテスト（データ駆動テスト）も自動化に適しています。入力するデータ・セットを毎回更新しながら同じテストを手作業で実行すると、時間がかかり非効率的です。自動のデータ駆動テストを作成することによって、複数のデータ・セットを使用したテストを1回で実行することができます。

### ストレス / 負荷テスト

何回も実行するテスト（ストレス・テスト）やマルチユーザのクライアント / サーバ・システムを確認するテスト（負荷テスト）も自動化することをお勧めします。たとえば、テストを 1,000 回繰り返すとします。このテストを手作業で実行するのは、実に非現実的です。この場合には、1,000 回反復実行されるテストを作成できます。

### 自動化するべきでないテスト

一般に、ユーザによる操作の必要が多ければ多いほど、テストは自動化に適していません。次に示すテスト・ケースは、自動化するべきではありません。


- ▶ ユーザビリティ・テスト—アプリケーションの使いやすさを検査するための使用方法モデルを提供するテスト。
- ▶ 1 回だけ実行するテスト。
- ▶ 直ちに実行する必要のあるテスト。
- ▶ ユーザの直感およびアプリケーションの知識に基づいたテスト。
- ▶ 結果を予測できないテスト。

## 自動テスト・スクリプトの生成





手動テストにステップを作成すると、自動テストとしてテストを実行するスクリプトの生成に使用可能な、テスト・スクリプト・スケルトンを生成できます。

手動テストのステップに表示される任意のテキストは、生成されたテスト・スクリプトではコメントとして表示されます。手動テストにパラメータが設定されている場合、パラメータもコメントのテキストとして表示されます。

自動テスト・スクリプトを生成するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーで、自動化する手動テストを選択します。
- 2  [ステップのデザイン] タブをクリックし、[スクリプトの作成] ボタンをクリックします。


3 変換後の自動テストのタイプを選択します。

テスト・アイコン	テストのタイプ	説明
	<b>WR-AUTOMATED</b>	HP の Microsoft Windows アプリケーション用機能テスト・ツールである WinRunner で実行されるテスト。
	<b>VAPI-XP-TEST</b>	Quality Center のオープン・テスト・アーキテクチャ API テスト・ツールである Visual API-XP を使用して作成したテスト。VAPI-XP テストの詳細については、付録 A 「VAPI-XP を使った作業」を参照してください。
	<b>LR-SCENARIO</b>	HP の負荷テスト・ツールである LoadRunner で実行されるシナリオ。
	<b>QUICKTEST-TEST</b>	HP のエンタープライズ機能テスト・ツールである QuickTest Professional で実行されるテスト。

---

**注：** **QUICKTEST\_TEST** のテスト・タイプは、[HP Quality Center Add-in] ページから該当するアドインがインストールされている場合のみ使用できます。アドインのインストールの詳細については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

---

テスト計画モジュールでは、選択したテストのステップを使用して、自動テスト・スクリプトを作成できます。テスト計画ツリーで、自動化したテストの横にある手動テストのアイコン  が、自動テストのアイコンと置き換わっていることを確認してください。

- 4 [テストスクリプト] タブをクリックし、テスト・スクリプトを表示します。
- 5 WinRunner テストの場合、[次からコピー] ボタンをクリックして、テストに別のテスト・スクリプトを添付できます。[Select Test] ダイアログ・ボックスが開き、ファイル・システムから WinRunner テストを選択できます。

- 6 WinRunner, LoadRunner, および QuickTest Professional テストの場合, テスト・スクリプト作成対象のテスト・ツールでテスト・スクリプトを表示するには, **[起動]** ボタンをクリックします。これによって, 必要に応じてテストを変更できます。



# 第 23 章

---

## システム・テストの活用

システム・テストを使用して、マシンのシステム情報の取得、デスクトップの画像のキャプチャ、マシンの再起動を行うよう指定できます。

### 本章の内容

- ▶ システム・テストでの作業について (338 ページ)
- ▶ テスト計画ツリーへのシステム・テストの追加 (338 ページ)
- ▶ システム・テストの定義 (340 ページ)
- ▶ システム・テストの実行 (341 ページ)
- ▶ システム・テスト結果の表示 (342 ページ)

## システム・テストでの作業について

システム・テストでは、マシンのシステム情報の取得、マシンにおけるテスト実行状態のデスクトップ画像の表示、およびマシンの再起動を実行できます。たとえば、自動テストが失敗したときにマシンを再起動する、システム・クリーンアップ・テストを実行できます。また、システム・テストを作成し、テスト実行の前後にマシンのリソース使用率に関する情報を取得できます。

システム・テストを作成するには、システム・テストをテスト計画ツリーに追加してテストを定義し、そのテストをテスト・セットに追加します。

---

**注：**システム・テストを実行するには、テストを実行するマシンに **System Test Remote Agent Add-in** と **HP Quality Center Connectivity Add-in** がインストールされている必要があります。HP Quality Center アドインの詳細については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

---

システム・テストの実行時に、次のステップを作成できます。

- ▶ **SysInfo** : システム情報の集合
- ▶ **Snapshot** : デスクトップ画像のキャプチャ
- ▶ **Reboot Start** と **Reboot Finish** : マシンの再起動

システム・テストの実行後、上記の各ステップの詳細を表示できます。また、CPU、メモリ、マシンで実行中のプロセスなど、取得されたシステム情報やシステム・テストを実行したときのマシンの画像も表示できます。

## テスト計画ツリーへのシステム・テストの追加

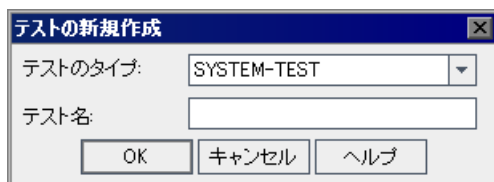
システム・テストの作成は、テスト計画ツリーにシステム・テストを追加することから始めます。

テスト計画ツリーにシステム・テストを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーでサブジェクト・フォルダを選択します。



- 2 **[テストの新規作成]** ボタンをクリックするか、**[テスト]** > **[テストの新規作成]** を選択します。**[テストの新規作成]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 **[テストのタイプ]** ボックスで、**[SYSTEM-TEST]** を選択します。



---

**注：** QuickTest Professional Add-in がマシンにインストールされている場合、**[テストの新規作成]** ダイアログ・ボックスには **[テンプレート]** ボックスが表示されます。


---

- 4 **[テスト名]** ボックスにテストの名前を入力します。
- 5 **[OK]** をクリックします。

---

**注：** [プロジェクトのカスタマイズ] で必須テスト・フィールドを定義した場合は、**[必要なテストフィールド]** ダイアログ・ボックスが表示されます。必須フィールドの値を選択し、**[OK]** をクリックします。

---

新しいシステム・テストが、システム・テスト・アイコンとともに、テスト計画ツリーの選択したサブジェクト・フォルダの下に表示されます。

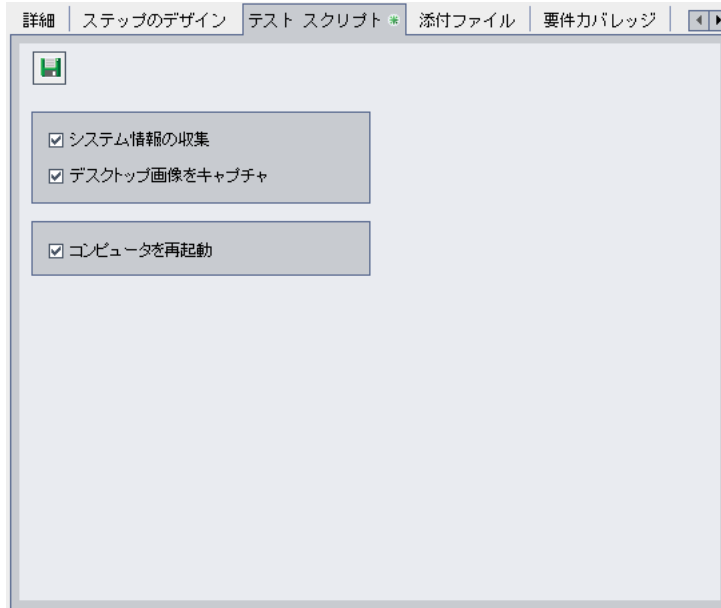
- 6 詳細と添付ファイルをテストに追加したり、要件カバレッジを定義したりできます。詳細については、第 18 章「テスト計画ツリーの開発」を参照してください。

## システム・テストの定義

システム・テストをテスト計画ツリーに追加したら、テストのテスト・スクリプトを定義できます。

システム・テストを定義するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーで作成したシステム・テストを選択し、[**テスト スクリプト**] タブをクリックします。



- 2 システム・テストの実行時に CPU、メモリ、マシンで実行中のプロセスなど、情報を収集するには、[**システム情報の収集**] を選択します。
- 3 システム・テスト実行時のマシンのデスクトップのスナップショットを表示する添付ファイルを追加するには、[**デスクトップ画像をキャプチャ**] を選択します。
- 4 システム・テストの実行時にマシンを再起動するには、[**コンピュータを再起動**] を選択します。

---

**注：**

- ▶ **〔コンピュータを再起動〕** オプションを使用するには、そのマシンで自動ログインを有効にする必要があります。**〔スタート〕** > **〔プログラム〕** > **〔HP Quality Center SystemTest Agent〕** > **〔SystemTest Agent (configuration)〕** を選択します。**〔自動再起動設定〕** ダイアログ・ボックスが開きます。標準設定では、**〔ユーザ名〕** および **〔ドメイン〕** は読み取り専用です。パスワードを入力し、**〔OK〕** をクリックします。
  - ▶ 別のユーザ名を選択するには、**〔自動再起動設定〕** ダイアログ・ボックスを開き直します。**〔ユーザ名〕** および **〔ドメイン〕** は読み取り専用ではありません。値を変更し、**〔OK〕** をクリックします。
- 



- 5 **〔上書き保存〕** ボタンをクリックし、システム・テスト設定を保存します。

テスト計画モジュールにシステム・テストを定義したら、テストをテスト・ラボ・モジュールのテスト・セットに追加できます。テスト・セットの作成の詳細については、第 28 章「テスト・セットの作成」を参照してください。

## システム・テストの実行

システム・テストを定義し、そのテストをテスト・ラボ・モジュールのテスト・セットに追加したら、これを実行できます。システム・テストは、自分のマシンやネットワークに接続されている複数のリモート・ホスト・マシンで実行できます。

テストの実行の詳細については、第 31 章「テストの自動実行」を参照してください。

## システム・テスト結果の表示

テスト・ラボ・モジュールでシステム・テストの結果を表示できます。

システム・テスト結果を表示するには、次の手順を実行します。



- 1 [実行グリッド] で、システム・テストをダブルクリックするか、テストを選択して [テストインスタンスのプロパティ] ボタンをクリックします。または [実行フロー] タブで、システム・テストを右クリックし、[テストインスタンスのプロパティ] を選択します。

[テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開き、[すべての実行] ビューが表示されます。

テスト インスタンスのプロパティ

テスト名: [client]      サイクル:      テストの種類: [SYSTEM-TEST]

実行の表示: すべて

実行名	ステータス	変更のステータス	ホスト	経過時間	実行日	実行時間
Run_1-19_15-5	Passed		BERT	7	2009/01/19	15:52:56

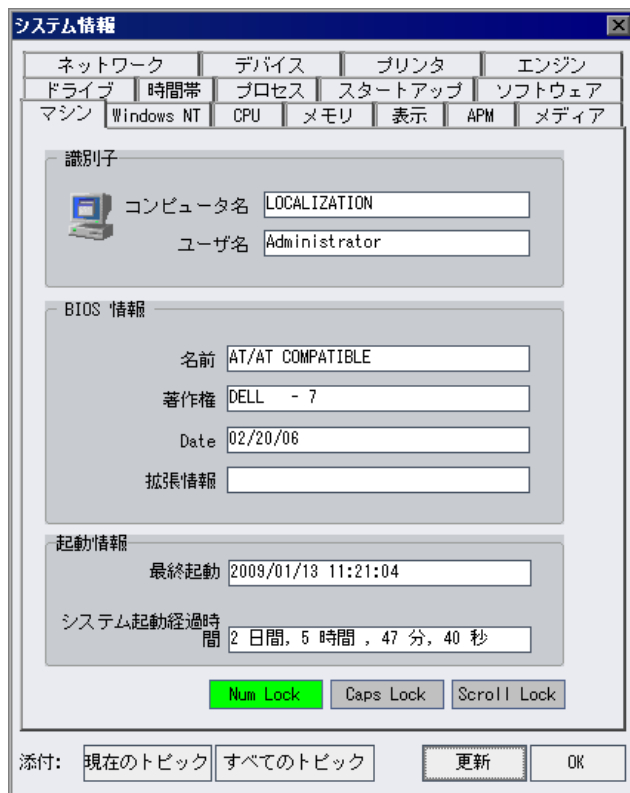
ステップ名	ステータス	実行日	実行時間	条件
SysInfo	Passed	2009/01/19	15:52:54	ホス BERT ユー *al*ex_qc
Snapshot	Passed	2009/01/19	15:52:56	<a href="#">収集されたシステム情報キャプチャしたデスク</a>

閉じる

システム・テスト実行中に作成される次の各ステップのステータス、実行日、実行時間が表示されます。

- ▶ **SysInfo** : システム情報の集合の詳細
- ▶ **Snapshot** : デスクトップ画面のキャプチャの詳細
- ▶ **Reboot Start** と **Reboot Finish** : マシンの再起動の詳細

- 2 [収集されたシステム情報] リンクをクリックすると、マシンの CPU、メモリ、実行中のプロセスなど、収集されたシステム情報が表示されます。



- 3 [キャプチャしたデスクトップ画像] リンクをクリックすると、システム・テストを実行しているマシンのデスクトップ・イメージが表示されます。





# 第 24 章

---

## テスト・リソースの管理

テスト・リソース・モジュールでリソースのセットを管理してテストで使用できます。テスト・リソース・ツリーを定義することで、リソースを整理できます。

### 本章の内容

- ▶ テスト・リソースの管理について (346 ページ)
- ▶ テスト・リソース・モジュール (347 ページ)
- ▶ テスト・リソース・ツリーの作成 (348 ページ)
- ▶ リソースおよびフォルダの詳細の更新 (351 ページ)
- ▶ リソースを使った作業 (353 ページ)
- ▶ テスト・リソースの依存関係の表示 (355 ページ)
- ▶ テスト・リソース・ツリーの管理 (355 ページ)
- ▶ リソースの履歴の表示 (364 ページ)

## テスト・リソースの管理について

テスト・リソース・モジュールを使用して、テストで使用するリソースを管理できます。リソース・フォルダやリソースを含む階層構造の**テスト・リソース・ツリー**を定義することで、リソースを整理できます。ツリーのリソースごとに、リソース・ファイルのセットを選択して **Quality Center** リポジトリにアップロードできます。これらのファイルは 1 つ以上のテストで使用できます。

たとえば、**Quality Center** にテストを格納する外部のテスト・ツールを使用するとします。多くのテストに共通の共有構成ファイルをそれぞれのテストで使用します。したがって、構成ファイルは、テストごとにこのファイルの個別のコピーを保存するのではなく、1 か所でメンテナンスします。

テスト・ツールでは、構成ファイルをリソースとして定義し、構成ファイルを使用する各テストをこのリソースに依存すると定義します。**Quality Center** に存在するリソースのコピーは 1 つだけなので、構成ファイルに依存するすべてのテストに対して構成ファイルの置き換えが行われます。

**QuickTest Professional** を使用して、リソースとテストの間に依存関係を定義できます。詳細については、『**HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

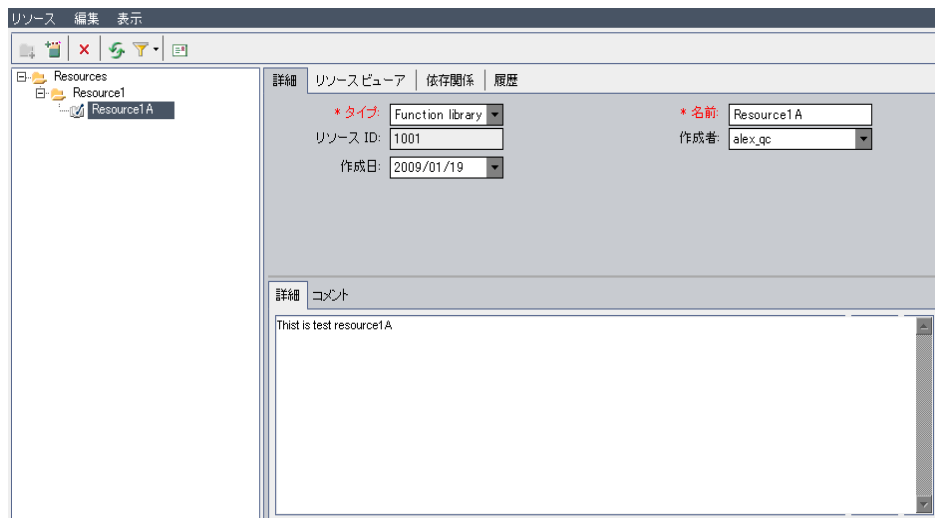
独自のアプリケーションまたはスクリプトを作成して、リソースとテストの間の依存関係を定義することもできます。詳細については、『**HP Quality Center Entity Dependencies API Reference**』（英語版）を参照してください。

依存関係を定義すると、リソースの削除を試みた場合、**Quality Center** により、該当のリソースに依存するテストに影響を与える可能性があることが警告されます。リソースに依存するテストのいずれかをプロジェクト間でコピーする場合、テストと一緒にリソースもコピーするかどうかを選択できます。

## テスト・リソース・モジュール



Quality Center では、テスト・リソース・モジュールでリソース・フォルダおよびリソースを定義します。テスト・リソース・モジュールを表示するには、サイドバーの [テストリソース] ボタンをクリックします。



テスト・リソース・モジュールの主な要素は、次のとおりです。

- ▶ **テスト・リソース・ツリー**：テスト・リソースを視覚的に表したものです。
- ▶ **[詳細] タブ**：現在選択されているリソース・フォルダまたはリソースの詳細が表示されます。詳細については、351 ページ「リソースおよびフォルダの詳細の更新」を参照してください。
- ▶ **[リソース ビューア] タブ**：Quality Center リポジトリに対して、テスト・リソース・ファイルのアップロードおよびダウンロードができます。詳細については、353 ページ「リソースを使った作業」を参照してください。
- ▶ **[依存関係] タブ**：テスト・リソースやテストなどのエンティティ間に存在する依存関係が表示されます。詳細については、355 ページ「テスト・リソースの依存関係の表示」を参照してください。
- ▶ **[履歴] タブ**：リソースが含まれているベースラインの履歴が表示されます。詳細については、364 ページ「リソースの履歴の表示」を参照してください。

## テスト・リソース・ツリーの作成

テスト・リソース・ツリーを作成することによって、リソースの階層形式の枠組みを定義します。ツリーのリソース・フォルダごとにリソースを定義します。

---


**注：** Business Process Testing を使用した Quality Center プロジェクトが QuickTest Professional に接続されている場合、ツリーに BPT Resources フォルダが自動的に作成されます。BPT Resources フォルダには、プロジェクトのビジネス・コンポーネントで使用可能なすべての QuickTest リソースが含まれます。

---

### テスト・リソース・ツリーへのフォルダの追加

テスト・リソース・ツリーの作成は、**Resources** ルート・フォルダにフォルダを追加することから始めます。

リソース・フォルダをテスト・リソース・ツリーに追加するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・リソース・ツリーで、**Resources** フォルダを選択します。
- 2  **[新規リソース フォルダ]** ボタンをクリックするか、または **[リソース]** > **[新規リソース フォルダ]** を選択します。**[新規リソース フォルダ]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 **[リソース フォルダ名]** にフォルダの名前を入力し、**[OK]** をクリックします。テスト・リソース・ツリーの **Resources** フォルダの下に新しいフォルダが追加されます。
- 4 **[詳細]** タブに、リソース・フォルダの説明を入力します。**[詳細]** タブの詳細については、351 ページ「リソースおよびフォルダの詳細の更新」を参照してください。
- 5 さらにフォルダを追加するには、ツリーからフォルダを選択し、手順 2～4 を繰り返します。

## リソース・フォルダへのリソースの追加

リソースをリソース・フォルダに追加できます。

**バージョン・コントロール**：新しいリソースは自動的にチェックアウトされません。詳細については、106 ページ「エンティティのチェックアウト」を参照してください。

リソースをリソース・フォルダに追加するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・リソース・ツリーでリソース・フォルダを選択します。
- 2 **[新規リソース]** ボタンをクリックするか、**[リソース]** > **[新規リソース]** を選択します。**[新規リソース]** ダイアログ・ボックスが開きます。



The screenshot shows a dialog box titled "新規の リソース" (New Resource). It has a standard Windows-style title bar with a close button. Below the title bar is a "クリア" (Clear) button. The main area contains a "名前:" (Name) field, a "タイプ:" (Type) dropdown menu, and a "作成者:" (Author) dropdown menu showing "alex\_qc". There is also a "コメント:" (Comment) text area. At the bottom, there are three buttons: "送信" (Send), "閉じる" (Close), and "ヘルプ" (Help).

- 3 **[名前]** フィールドに、リソース名を入力します。
- 4 **[タイプ]** ボックスで、リソース・タイプを選択します。
- 5 **[作成者]** ボックスで、リソースを作成したユーザ名を選択します。標準設定では、Quality Center に現在ログインしているユーザの名前が表示されます。
- 6 **[詳細]** ボックスに、リソースの説明を入力します。

7 コメントを追加するには、[コメント] タブをクリックします。[コメントを追加] ボタンをクリックします。[コメント] ボックスに新しいセクションが追加され、ユーザ名とデータベースの現在の日付が表示されます。

8 [送信] をクリックします。選択したリソース・フォルダに空のリソースが追加されます。

[詳細] タブにリソースの詳細が表示されます。[詳細] タブの詳細については、351 ページ「リソースおよびフォルダの詳細の更新」を参照してください。

[リソース ビューア] タブを使用してリソースにコメントを追加できます。[リソース ビューア] タブの詳細については、353 ページ「リソースを使った作業」を参照してください。

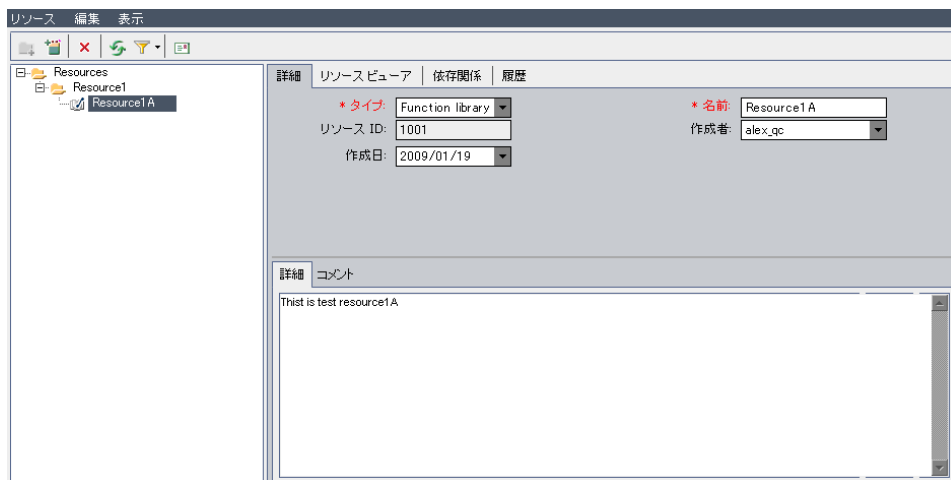
QuickTest リソースの使用方法の詳細については、『**HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド**』の Quality Center の使用方法の項を参照してください。

## リソースおよびフォルダの詳細の更新

[詳細] タブで、テスト・リソース・ツリーのリソースとフォルダの詳細を、表示および更新できます。

リソースまたはフォルダの詳細を更新するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・リソース・ツリーでリソースまたはフォルダを選択します。
- 2 [詳細] タブをクリックします。



- ▶ フォルダを選択すると、[詳細] タブには次のフィールドが表示されます。

フィールド	説明
[名前]	リソース・フォルダの名前。
[フォルダ ID]	Quality Center によってフォルダに割り当てられる一意の ID 番号。このフィールドは変更できません。
[説明]	リソース・フォルダの説明。

- ▶ リソースを選択すると、[詳細] タブには次のフィールドが表示されます。

フィールド	説明
[名前]	リソースの名前。
[タイプ]	リソースのタイプ。リストから別のタイプを選択するには、下矢印をクリックします。
[作成者]	ファイルを作成したユーザ。別のユーザ名を選択するには、下矢印をクリックします。
[作成日]	ファイルが作成された日付。カレンダーを表示して作成日を選択するには、下矢印をクリックします。標準設定では、データベース・サーバの現在の日付に設定されます。
[リソース ID]	Quality Center によってファイルに割り当てられる一意の ID 番号。このフィールドは変更できません。
[詳細]	リソースの詳細。
[コメント]	リソースに関するコメント。新しいコメントを追加するには、[コメントを追加] ボタンをクリックします。[コメント] ボックスに新しいセクションが追加され、ユーザ名とデータベースの現在の日付が表示されます。
[バージョン番号]	リソースのバージョン番号。このフィールドは、プロジェクトでバージョン・コントロールが有効な場合に表示されます。

テスト・リソース・モジュールでは、ユーザ定義フィールドの追加や、任意のフィールドのラベルの変更ができます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

スクリプト・エディタを使用して、テスト・リソース・モジュールに表示されるフィールドと値を制限し、動的に変更することができます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。



## リソースを使った作業

[リソース ビューア] タブを使用して、テスト・リソース・ツリーの各リソースのファイルまたはフォルダを、Quality Center リポジトリにアップロードできます。ファイルをローカル・ディレクトリにダウンロードすることもできます。

ファイルをアップロードしたら、たとえば QuickTest Professional などのテスト・ツールで、リソースとテスト間の依存関係を定義します。詳細については、『**HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

独自のアプリケーションを作成して、リソースとテストの間の依存関係を定義することもできます。詳細については、『**HP Quality Center Entity Dependencies API Reference**』（英語版）を参照してください。

---

**注：**リソースのコンテンツを表示するには、関連するアドインまたは拡張機能をインストールしなければなりません。QuickTest Professional アドインの詳細については、『**HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

---

本項の内容

- ▶ テスト・リソース・ファイルのアップロード
- ▶ テスト・リソース・ファイルのダウンロード

### テスト・リソース・ファイルのアップロード

テスト・リソース・ツリーの各リソースのファイルを Quality Center リポジトリにアップロードできます。

テスト・リソース・ファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・リソース・ツリーでリソースを選択します。
- 2 **[リソース ビューア]** タブをクリックします。



- 3 ファイルをアップロードするには、**[ファイルをアップロード]** ボタンをクリックします。**[ファイルをアップロード]** ダイアログ・ボックスが開きます。ファイルを選択し、**[開く]** をクリックします。ファイルが Quality Center リポジトリにアップロードされます。
- 4 フォルダをアップロードするには、**[ファイルをアップロード]** の矢印をクリックして **[フォルダをアップロード]** を選択します。**[フォルダの参照]** ダイアログ・ボックスが開きます。フォルダを選択して **[OK]** をクリックします。フォルダが Quality Center リポジトリにアップロードされます。
- 5 アップロード・ファイルを置き換えるには、手順 3 を繰り返します。
- 6 アップロード・フォルダを置き換えるには、手順 4 を繰り返します。

### テスト・リソース・ファイルのダウンロード

テスト・リソースをマシンにダウンロードすると、それらの表示や編集ができます。

テスト・リソース・ファイルをダウンロードするには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・リソース・ツリーでリソースを選択します。
- 2 **[リソース ビューア]** タブをクリックします。

- 3 [ダウンロード] ボタンをクリックします。[フォルダの参照] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4 フォルダを選択して [OK] をクリックします。リソースが指定したフォルダにダウンロードされます。

## テスト・リソースの依存関係の表示

テスト・リソースとテストの間の関連付けを定義したら、[依存関係] タブでそれらの間に存在する依存関係を表示できます。詳細については、365 ページ「依存関係の表示」を参照してください。

## テスト・リソース・ツリーの管理

テスト・リソース・ツリーの管理に関する本項は、次の項目で構成されています。

- ▶ プロジェクト内でのテスト・リソースのコピー
- ▶ プロジェクト間でのテスト・リソースのコピー
- ▶ テスト・リソースの URL のコピー
- ▶ テスト・リソースの検索
- ▶ テスト・リソースのフィルタ処理
- ▶ テスト・リソースのメール送信
- ▶ テスト・リソースの移動
- ▶ テスト・リソースの名前の変更
- ▶ テスト・リソースの削除

### プロジェクト内でのテスト・リソースのコピー

同じプロジェクト内でリソースをコピーできます。

プロジェクト内でテスト・リソースをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・リソース・ツリーでコピーするリソースまたはフォルダを選択します。複数の項目をコピーするには、**Ctrl** キーを使用します。

- 2 [編集] > [コピー] を選択します。あるいは、右クリックして [コピー] を選択します。
- 3 リソースまたはフォルダのコピー先となるフォルダを選択します。
- 4 [編集] > [貼り付け] を選択します。あるいは、右クリックして [貼り付け] を選択します。

### プロジェクト間でのテスト・リソースのコピー

リソースをプロジェクト間でコピーできます。テスト・リソースがほかのテスト・リソースに依存している場合、またはテスト・リソースにほかのテストの呼び出しが含まれている場合、次のいずれかの方法を使用してそれらをコピーするよう Quality Center に指定できます。

- ▶ テスト・リソースをコピーし、ターゲット・プロジェクト内の既存の関連テスト・リソースおよび呼び出し先のテストにリンクします。関連するテスト・リソースまたは呼び出し先テストがターゲット・プロジェクトに存在しない場合、Quality Center によってターゲット・プロジェクトにコピーされます。
- ▶ 関連するテスト・リソースおよび呼び出し先テストとともに、テスト・リソースをターゲット・プロジェクト内にコピーします。
- ▶ 関連するテスト・リソースおよび呼び出し先テストをコピーせずに、テスト・リソースをターゲット・プロジェクト内にコピーします。

---

**注：**プロジェクト間でテスト・リソースをコピーするには、使用している Quality Center のバージョンとパッチ・レベルが両方のプロジェクトで同じである必要があります。

---

関連エンティティの詳細については、365 ページ「依存関係の表示」を参照してください。

プロジェクト間でテスト・リソースをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・リソース・ツリーでコピーするリソースまたはフォルダを選択します。複数の項目をコピーするには、**Ctrl** キーを使用します。
- 2 [編集] > [コピー] を選択します。あるいは、右クリックして [コピー] を選択します。

- 3 Quality Center インスタンスをもう 1 つ開き、リソースまたはフォルダを貼り付けるプロジェクトにログインします。
- 4 リソースまたはフォルダのコピー先となるフォルダを選択します。
- 5 **[編集]** > **[貼り付け]** を選択します。あるいは、右クリックして **[貼り付け]** を選択します。**[ターゲットプロジェクトにリソースを貼り付け]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 6 次のいずれかのオプションを選択します。
  - ▶ **[リソースをコピーして、既存の関連エンティティへリンク]** : テスト・リソースまたはフォルダをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。コピーしたテスト・リソースまたはフォルダは、既存のテスト・リソースおよび呼び出し先テストに同じ名前でリンクされます。関連するテスト・リソースまたはテストがターゲット・プロジェクトに存在しない場合、Quality Center によってターゲット・プロジェクトにコピーされます。
  - ▶ **[リソースと関連エンティティをコピー]** : 関連するテスト・リソースおよび呼び出し先テストをテスト・リソースまたはフォルダと一緒にコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。関連するテスト・リソースまたは呼び出し先テストがターゲット・プロジェクトにすでに存在する場合、名前の重複の解決のため、コピーされた関連するテスト・リソースまたは呼び出し先テストの名前が変更されます。
  - ▶ **[関連エンティティをコピーせずにリソースをコピー]** : 関連するテスト・リソースまたは呼び出し先テストをコピーすることなく、テスト・リソースをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付めます。コピーされた項目は関連エンティティにリンクされません。

**[OK]** をクリックします。

### テスト・リソースの URL のコピー

テスト・リソース・ツリーでリソースをコピーして、その URL をリンクとして貼り付けることができます。リソース自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると Quality Center が起動し、リソース・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合、最初にログインの詳細情報の入力が必要です。

テスト・リソースの URL をコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・リソース・ツリーで、リソースまたはフォルダを選択します。
- 2 **[編集]** > **[URL をコピー]** を選択します。あるいは、右クリックして **[URL をコピー]** を選択します。
- 3 URL を貼り付けます。

### テスト・リソースの検索

テスト・リソース・ツリー内のリソースを検索できます。ツリーにフィルタを適用している場合、検索の対象範囲は現在表示されているリソースに制限されます。

テスト・リソースを検索するには、次の手順を実行します。

- 1 **[編集]** > **[検索]** を選択します。**[検索]** ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 **[検索するフィールド]** ボックスで、検索条件を選択します。
- 3 **[検索する値]** ボックスで、検索するフィールドの値を入力または選択します。検索では大文字と小文字は区別されません。

- 4 [検索] をクリックします。テスト・リソース・モジュールで、指定された値を持つリソースが検索されます。検索に成功すると、[検索結果] ダイアログ・ボックスが表示され、一致するリソースのリストが表示されます。リストで結果を選択し、[移動] ボタンをクリックすると、テスト・リソース・ツリー内でリソースが強調表示されます。検索が失敗すると、メッセージ・ボックスが開きます。

### テスト・リソースのフィルタ処理



[フィルタ / 並べ替えの設定] ボタンをクリックし、テスト・リソース・ツリー内のリソースにフィルタを設定したり、テストを並べ替えたりできます。詳細については、第 3 章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。現在適用されているすべてのフィルタと並べ替え順がテスト・リソース・ツリー・ツールバーの下に表示されます。

### テスト・リソースのメール送信

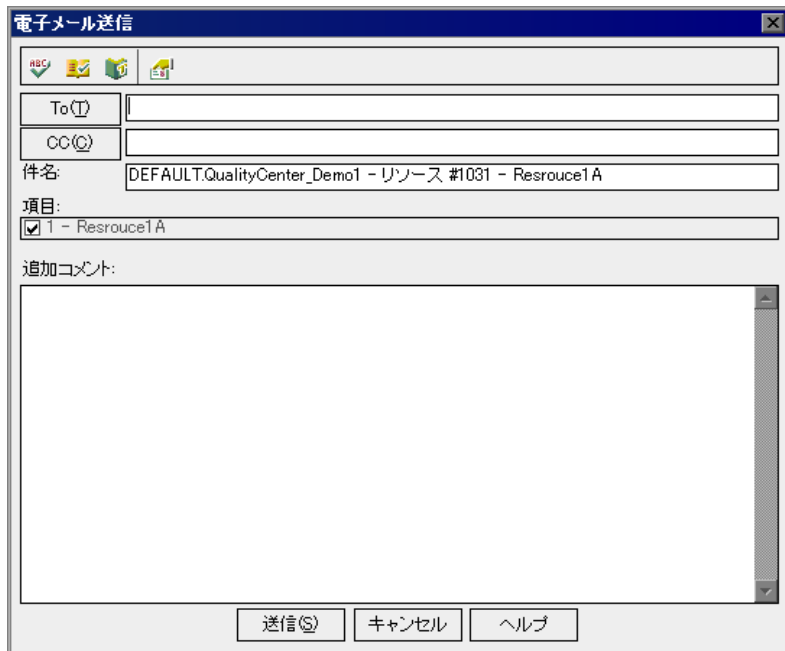
リソースに関する電子メールをほかのユーザに送信できます。これにより、開発や品質保証の担当者へリソースのステータスを定期的に通知できます。電子メールにはリンクが含まれており、電子メールの受信者はそのリンクによって直接リソースにアクセスできます。

標準では、HTML 形式で電子メールが送信されます。電子メールを普通のテキストで送信するには、サイト管理の [サイト設定] タブで **MAIL\_FORMAT** パラメータを編集します。詳細については、『HP Quality Center Administrator Guide』（英語版）を参照してください。

テスト・リソースをメールで送信するには、次の手順を実行します。



- 1 テスト・リソース・ツリーで1つ以上のリソースを選択し、**[電子メールで送信]** ボタンをクリックします。**[電子メール送信]** ダイアログ・ボックスが開きます。



電子メール送信

ABC [Mail] [Folder] [Document]

To (T):

CC (C):

件名: DEFAULT.QualityCenter\_Demo1 - リソース #1031 - Resrouce1A

項目:  
 1 - Resrouce1A

追加コメント:

送信 (S)    キャンセル    ヘルプ



- 有効な電子メールアドレスまたはユーザ名を入力します。あるいは、**[宛先]** ボタンまたは **[CC]** ボタンをクリックし、送信先のユーザを選択します。**[受信者の選択]** ダイアログ・ボックスが開きます。



ユーザ・リストの並べ替え、ユーザの検索、ユーザ・グループによるユーザのグループ分け、およびリストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については、55 ページ「ユーザの選択」を参照してください。

電子メールの送信先のユーザまたはユーザ・グループを選択し、**[OK]** をクリックします。

- [サブジェクト]** ボックスに、電子メールの件名を入力します。標準設定では、**[サブジェクト]** ボックスには、ドメイン、プロジェクト、リソース ID、およびリソースの名前が表示されます。
- コメントがある場合は、**[追記]** ボックスに入力します。
- ダイアログ・ボックス内のスペルをチェックするには、次のようにします。



- ▶ **[スペル チェック]** ボタンをクリックすると、選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルがチェックされます。誤りがなければ、確認メッセージ・ボックスが開きます。誤りが見つかった場合は、**[スペル]** ダイアログ・ボックスに該当する単語と修正候補が表示されます。



- ▶ **[スペル オプション]** ボタンをクリックすると、**[スペル オプション]** ダイアログ・ボックスが開き、スペルのチェック方法を設定できます。



- ▶ **[類語辞典]** ボタンをクリックすると、**[類語辞典：英語]** ダイアログ・ボックスが開き、選択した語の類義語、反意語、関連する語が表示されます。選択した単語を置換したり、新しい単語を調べたりすることができます。



- ▶ 電子メールに含めるフィールドを指定するには、**[カスタム]** ボタンをクリックします。**[フィールドの選択]** ダイアログ・ボックスで、フィールド名を選択し、矢印ボタン（**[<]** と **[>]**）をクリックして、**[使用可能なフィールド]** と **[表示フィールド]** 間で名前を移動します。二重矢印ボタン（**[>>]** または **[<<]**）をクリックすると、リスト間ですべてのフィールドを一度に移動できます。**[OK]** をクリックし、**[フィールドの選択]** ダイアログ・ボックスを閉じます。

- 6 **[送信]** をクリックすると、電子メールが送信されます。

### テスト・リソースの移動

リソースをテスト・リソース・ツリーの別の場所に移動できます。ルート・フォルダは移動できません。

---

**ヒント：**ドラッグ操作により、リソースをテスト・リソース・ツリー内の別の場所に移動することもできます。

---

テスト・リソースを移動するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・リソース・ツリーで移動するリソースまたはフォルダを選択します。複数の項目を移動するには、**Ctrl** キーを使用します。
- 2 **[編集]** > **[切り取り]** を選択するか、リソースを右クリックして **[切り取り]** を選択します。
- 3 リソースまたはフォルダの移動先となるフォルダを選択します。
- 4 **[編集]** > **[貼り付け]** を選択します。あるいは、右クリックして **[貼り付け]** を選択します。

## テスト・リソースの名前の変更

テスト・リソース・ツリーでリソース名を変更できます。

テスト・リソースの名前を変更するには、次の手順を実行します。


- 1 テスト・リソース・ツリーで、リソースまたはフォルダを選択します。
- 2 項目をクリックします。あるいは、項目を右クリックし、**[名前の変更]** を選択します。
- 3 項目の名前を編集し、ENTER キーを押します。

## テスト・リソースの削除


テスト・リソース・ツリーからリソースやフォルダを削除できます。リソースにはほかのエンティティが依存している場合、リソースを削除するとこれらの関連エンティティに影響を与える可能性があります。関連エンティティの詳細については、365 ページ「依存関係の表示」を参照してください。

**バージョン・コントロール**：リソースを削除すると、以前のバージョンのリソースがすべて削除されます。

テスト・リソースを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・リソース・ツリーで、リソースを選択します。
- 2  **[削除]** ボタンをクリックするか、**[編集]** > **[削除]** を選択します。
- 3 リソースがほかのエンティティに共有されていない場合、確認ボックスが開きます。**[はい]** をクリックします。
- 4 リソースにほかのエンティティが依存している場合、**[リソースの削除]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 5 関連エンティティを表示するには、**[詳細]** をクリックします。**[はい]** をクリックし、リソースの削除を確定します。

フォルダを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・リソース・ツリーで、フォルダを選択します。
- 2  **[削除]** ボタンをクリックするか、**[編集]** > **[削除]** を選択します。確認ボックスが開きます。
- 3 フォルダがほかのエンティティに共有されていない場合、**[はい]** をクリックします。

- 4 フォルダ内の一部のリソースにほかのエンティティが依存している場合、次のいずれかを選択します。
- ▶ **「はい」** をクリックしてフォルダを削除します。ほかの関連エンティティに影響を与える可能性があります。
  - ▶ **「いいえ」** をクリックして、フォルダを削除する前に関連エンティティを表示します。関連エンティティは「依存関係」タブで表示できます。詳細については、365 ページ「依存関係の表示」を参照してください。

## リソースの履歴の表示

テスト・リソースが含まれているベースラインの履歴を表示できます。また、2つのベースラインのバージョンの比較もできます。詳細については、539 ページ「ベースラインの履歴の表示」を参照してください。

**バージョン・コントロール**：テスト・リソースの以前のバージョンをすべて表示することができます。詳細については、111 ページ「バージョン履歴の表示」を参照してください。

# 第 25 章

---

## 依存関係の表示

依存関係では、テスト、コンポーネント、テスト・リソースなどのエンティティ間の関係を定義します。選択したエンティティを使用するエンティティ、および選択したエンティティが使用するエンティティを表示できます。

### 本章の内容

- ▶ 依存関係の表示について (365 ページ)
- ▶ 依存関係の表示 (366 ページ)

## 依存関係の表示について

テスト、コンポーネント、テスト・リソースなどのエンティティ間に存在する依存関係を表示できます。特定のエンティティに予定されている変更の影響を分析すると、変更が影響する可能性のあるほかのエンティティが依存関係によって示されます。

依存関係は [依存関係] タブに表示されます。このタブはテスト計画モジュールおよびテスト・リソース・モジュールから使用できます。お使いの Quality Center ライセンスによっては、ビジネス・コンポーネント・モジュールから [依存関係] タブを表示できます。詳細については、『**HP Business Process Testing User Guide**』（英語版）を参照してください。

たとえば QuickTest Professional などのほかの HP テスト・ツールを使用して、エンティティ間の依存関係を定義できます。詳細については、『**HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

独自のアプリケーションを作成して、エンティティ間の依存関係を定義することもできます。詳細については、『**HP Quality Center Entity Dependencies API Reference**』（英語版）を参照してください。

## 依存関係の表示

[依存関係] タブで依存関係を表示できます。このタブには、使用者グリッドおよび使用グリッドが含まれています。**使用者**グリッドには、選択したエンティティに依存するエンティティが表示されます。**使用**グリッドには、選択したエンティティが依存するエンティティが表示されます。



**バージョン・コントロール**：以前のバージョンのエンティティをチェックアウトしても、[依存関係] タブには存在しないエンティティを対象とした依存関係は表示されません。

使用者グリッドにあるカラムは、次のとおりです。

カラム	説明
所有者 ID	関連付けられているエンティティに対する一意の ID 番号。ID は Quality Center によって自動的に割り当てられます。
所有者タイプ	<p>選択されたエンティティを使用する関連付けられているエンティティのタイプ。タイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>リソース</b>：テスト・リソース・ツリーに一覧表示されているリソース。</li> <li>▶ <b>テスト</b>：テスト計画ツリーに一覧表示されているテスト。</li> <li>▶ <b>コンポーネント</b>：お使いの Quality Center ライセンスによっては、ビジネス・コンポーネント・ツリーに一覧表示されているコンポーネント・リストを表示できます。詳細については、『<b>HP Business Process Testing User Guide</b>』（英語版）を参照してください。</li> <li>▶ <b>&lt; ユーザ定義エンティティ &gt;</b>：ユーザ定義エンティティ。</li> </ul>
所有者名	選択されたエンティティを使用する関連付けられているエンティティの名前。
所有者詳細	選択されたエンティティを使用する関連付けられているエンティティの詳細。

使用グリッドにあるカラムは、次のとおりです。

カラム	説明
関連 ID	関連付けられているエンティティに対する一意の ID 番号。ID は Quality Center によって自動的に割り当てられます。
関連タイプ	<p>選択されたエンティティが使用する関連付けられているエンティティのタイプ。タイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>リソース</b>：テスト・リソース・ツリーに一覧表示されているリソース。</li> <li>▶ <b>テスト</b>：テスト計画ツリーに一覧表示されているテスト。</li> <li>▶ <b>コンポーネント</b>：お使いの Quality Center ライセンスによっては、ビジネス・コンポーネント・ツリーに一覧表示されているコンポーネント・リストを表示できます。詳細については、『<b>HP Business Process Testing User Guide</b>』（英語版）を参照してください。</li> <li>▶ <b>&lt;ユーザ定義エンティティ&gt;</b>：ユーザ定義エンティティ。</li> </ul>
関連名	選択されたエンティティが使用する関連付けられているエンティティの名前。
関連詳細	選択されたエンティティが使用する関連付けられているエンティティの詳細。

依存関係を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [依存関係] タブを表示するには、次のいずれかの手順を実行します。
  - ▶ テスト計画モジュールから、テスト計画ツリーのテストを選択します。[**依存関係**] タブをクリックします。
  - ▶ テスト・リソース・モジュールから、テスト・リソース・ツリーのリソースを選択します。[**依存関係**] タブをクリックします。

お使いの Quality Center ライセンスによっては、ビジネス・コンポーネント・モジュールから [依存関係] タブを表示できます。
- 2 使用者グリッドまたは使用グリッドを表示するには、[**表示 / 非表示**] の矢印をクリックします。
- 3 グリッドを更新するには、[**更新**] ボタンをクリックします。







- 4 エンティティの追加情報を表示するには、使用者グリッドまたは使用グリッドでエンティティを選択し、**[移動]** ボタンをクリックします。次のエンティティが表示されます。
- ▶ **リソース**：テスト・リソース・ツリーに移動し、テスト・リソースを表示します。
  - ▶ **テスト**：テスト計画ツリーに移動し、テストを表示します。
  - ▶ **<ユーザ定義エンティティ>**：テスト計画ツリーに移動し、このユーザ定義エンティティに関連付けられているテストを表示します。
  - ▶ **コンポーネント**：お使いの Quality Center ライセンスによっては、ビジネス・コンポーネント・モジュールのコンポーネントを表示できます。



# 第 V 部

---

テストの実行



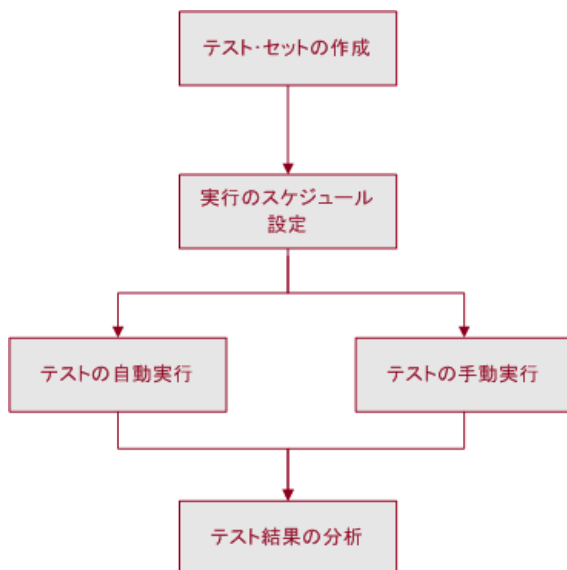
# 第 26 章

## テスト・ラボにおけるワークフロー

アプリケーションに変更を加えながら、プロジェクトの手動テストと自動テストを実行し、不具合を見つけ、品質を評価します。

**Quality Center Starter Edition** : Starter Edition を使って作業している場合、リリース管理およびベースライン設定に関するフィールドおよび機能は、テスト・ラボ・モジュールで利用できません。

本章では、Quality Center テスト・ラボ・モジュールを使用したテストの実行方法について説明します。テストの実行は、次の段階から構成されます。



## テスト・セットの作成

まず、テスト・セットを作成し、各セットに含めるテストを選択します。テスト・セットとは、Quality Center プロジェクト内のテストのグループで、特定のテスト目標を達成するように設計されています。たとえば、サンプルの Mercury Tours アプリケーションでは、アプリケーションの基本的な機能を確認する一連の動作確認テストを作成できます。ログインの仕組みを検査するテストや航空券予約システムを検査するテストを追加することもできます。

テスト・セットを作成したら、リリース・モジュールのリリース・ツリーで定義したサイクルにテスト・セット・フォルダを割り当てます。サイクルは、プロジェクト・スケジュールに基づいた開発と QA のサイクルを示します。

詳細については、第 28 章「テスト・セットの作成」を参照してください。

## テスト実行のスケジュール設定

Quality Center では、テスト・セットにおけるテストの実行を制御できます。テストを実行するために、条件を設定したり、日付や時刻のスケジュールを作成したりすることができます。また、テストの実行順序を指定することもできます。たとえば、**test2** は **test1** が完了した後のみ実行し、**test3** は **test1** が成功した場合のみに実行するというように指定できます。

詳細については、第 29 章「テスト実行のスケジュール」を参照してください。

## 手動テストの実行

テスト・セットを定義したら、テストの実行を開始できます。テストを手作業で実行するには、テスト計画で定義したテスト・ステップを実行します。実際のアプリケーションの結果が期待結果と一致しているかどうかによって、各ステップの成功または失敗を判定します。

たとえば、サンプルの Mercury Tours アプリケーションで航空券予約のプロセスをテストする場合を考えます。テスト・ステップに記述された指示に従ってアプリケーションの起動、新規注文の作成、航空券の予約を行います。

詳細については、第 30 章「テストの手動実行」を参照してください。

## テストの自動実行

テスト・セットを定義したら、テストの実行を開始できます。テスト・セットのすべてのテストを選択することも、特定のテストを選択することもできます。自動テストと手動テストの両方を選択に含めることができます。

自動テストを実行すると、対応するテスト・ツールが自動的に起動され、テストが実行された後に、テストの結果が **Quality Center** にエクスポートされます。手動テストを実行すると、手動テストを実行するよう求める電子メールが指定のテスト責任者に送信されます。

詳細については、第 31 章「テストの自動実行」を参照してください。

また、システム情報の取得、デスクトップ画像のキャプチャ、またはマシンの再起動を行う自動システム・テストも実行できます。システム・テストの実行の詳細については、第 23 章「システム・テストの活用」を参照してください。

## テスト結果の分析

テスト実行に続いて、テスト結果を分析します。分析の目的は、失敗したステップを特定し、アプリケーションで不具合が検出されたか、テストの期待結果を更新する必要があるかどうかを判断することです。不具合が検出された場合、新しい不具合を作成してテスト実行にリンクするか、または既存の不具合をテスト実行にリンクできます。詳細については、第 36 章「不具合のリンク」を参照してください。

実行データを表示し、レポートおよびグラフを生成することで、定期的にテスト結果を検証できます。詳細については、第 40 章「ダッシュボード・モジュール」および第 44 章「ライブ・アナリシス・グラフの作成」を参照してください。

テスト実行後に **Quality Center** に表示されるデータの詳細については、第 32 章「テスト結果の表示」を参照してください。





# 第 27 章

---

## テスト・ラボ・モジュールの概要

本章では、テスト・ラボ・モジュールの主な要素について説明します。

### 本章の内容

- ▶ テスト・ラボ・モジュール (378 ページ)
- ▶ テスト・ラボのメニュー・バー (380 ページ)
- ▶ テスト・ラボのツールバー (381 ページ)
- ▶ 実行グリッド (383 ページ)
- ▶ 実行フロー (388 ページ)

## テスト・ラボ・モジュール




Quality Center のテスト・ラボ・モジュールでは、テスト・セットを作成してテストを実施します。このモジュールを開くには、サイドバー上の [テスト ラボ] ボタンをクリックします。



テスト・ラボ・モジュールの主な要素は、次のとおりです。

- ▶ **テスト・ラボ・メニュー・バー**：テスト・ラボ・モジュールのコマンドのドロップダウン・メニューが表示されます。詳細については、380 ページ「テスト・ラボのメニュー・バー」を参照してください。
- ▶ **テスト・セット・ツールバー**：テスト・セット・ツリー内のテスト・セットの作成および変更によく使用するコマンドのボタンが並んでいます。詳細については、381 ページ「テスト・セット・ツールバー」を参照してください。
- ▶ **テスト・セット・ウィンドウ**：テスト・セットの階層がツリー形式で表示されます。標準設定では、テストはフォルダにグループ化されます。また、[表示] > [テストセットグリッド] を選択して、テスト・セットをリスト形式で表示することもできます。テスト・セット・ツリーの作成の詳細については、394 ページ「テスト・セット・ツリーの作成」を参照してください。
- ▶ **[詳細] タブ**：テスト・セット・ツリーで現在選択されているテスト・セットの説明です。詳細については、396 ページ「テスト・セットの追加」を参照してください。

- ▶ **[実行グリッド] タブ** : テスト・データがグリッドに表示されます。詳細については、383 ページ「実行グリッド」を参照してください。
- ▶ **[実行フロー] タブ** : テスト・データが図として表示されます。詳細については、388 ページ「実行フロー」を参照してください。
- ▶ **[添付ファイル] タブ** : テスト・セット・ツリーで現在選択されているテスト・セットに関する追加情報が含まれる添付ファイルのリストです。選択されているテストに添付ファイルがある場合、このタブにアイコン  が表示されます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。
- ▶ **[自動化] タブ** : テスト・セット・ツリーで現在選択されているテスト・セットの電子メール通知ルールおよび失敗時の指示が表示されます。詳細については、第 28 章「テスト・セットの作成」を参照してください。
- ▶ **[リンクされている不具合] タブ** : 現在のテスト・セットにリンクされているエンティティのリストが表示されます。詳細については、第 36 章「不具合のリンク」を参照してください。
- ▶ **テストの選択ウィンドウ** : 右側の表示枠にテストが表示され、テスト・セットにテストを追加できます。このウィンドウを表示するには、**[テストの選択]** ボタンをクリックします。**[テストの選択]** ウィンドウにはタブが 2 つあります。**[テスト計画ツリー]** タブにはテスト計画ツリーが表示されます。**[要件ツリー]** タブには、関連付けられている要件に基づいてテストが表示されます。
- ▶ **[ライブアナリシス] タブ** : テスト・セット・ツリーで選択されているテスト・セット・フォルダに関連するテスト・データを視覚的に表したものです。詳細については、第 44 章「ライブ・アナリシス・グラフの作成」を参照してください。

---

**ヒント** : 実行グリッドまたは実行フロー内のテストを右クリックし、**[テスト計画ツリー内のテストへジャンプ]** を選択すると、テスト計画モジュールが表示され、テスト計画ツリーで選択したテストが強調表示されます。

---

**Quality Center Starter Edition** : Starter Edition を使って作業している場合、リリース管理に関するフィールドおよび機能は、テスト・ラボ・モジュールで利用できません。

---

## テスト・ラボのメニュー・バー

テスト・ラボのメニュー・バーには、次のメニューがあります。

- ▶ **[テスト セット]** メニューには、テスト・セットを作成、管理、および実行するためのコマンドがあります。実行の削除、テスト・セットの通知と失敗時のルールの設定、ホストの追加とホスト・グループの設定、および実行グリッドの内容のファイルへのエクスポートを行えます。詳細については、第 28 章「テスト・セットの作成」を参照してください。
- ▶ **[編集]** メニューには、テスト・セットの切り取り、コピー、貼り付け、名前の変更、削除、または、フォルダまたはテスト・セットの検索を行うためのコマンドがあります。[実行フロー] タブでは、フロー内のテストの検索もできます。
- ▶ **[表示]** メニューには、テスト・セットのフィルタ処理および並べ替えを行い、テスト・セット・ツリーおよびテスト・セット・グリッドの表示を設定するためのコマンドがあります。
- ▶ **[テスト]** メニューには、テストの実行、テスト・セットからのテストの削除、実行グリッドでの表示の設定、テスト・インスタンスのプロパティの表示、テストの実行順序の変更、テストの検索、テストの選択、および最後の実行結果の表示を行うためのコマンドがあります。詳細については、第 28 章「テスト・セットの作成」を参照してください。

テストの警告を表示および追加したり、テストにフォローアップ・フラグを設定したりすることもできます。詳細については、第 4 章「変更発生時の警告」を参照してください。

- ▶ **[アナリシス]** メニューには、実行レポートおよびグラフを作成するためのコマンドがあります。実行レポートの詳細については、第 42 章「標準レポートの作成」を、実行グラフの詳細については、第 41 章「グラフの作成」および第 44 章「ライブ・アナリシス・グラフの作成」を参照してください。

---

**ヒント：**テスト・ラボ・モジュールから [テスト ラボ] メニュー・バーにアクセスするには、ショートカット キーの **F9** キーを押します。さらに、ショートカット・キーを使用してほかの多くの操作を実行できます。ショートカット・キーの一覧については、付録 B「Quality Center キーボード・ショートカット」を参照してください。

---

## テスト・ラボのツールバー

テスト・ラボ・モジュールには、「テスト・セット」および「テストの選択」という 2 種類のツールバーがあります。

また、[実行グリッド] タブおよび [実行フロー] タブのツールバーも使用できます。詳細については、384 ページ「実行グリッド・ツールバー」および 389 ページ「実行フロー・ツールバー」を参照してください。

### テスト・セット・ツールバー

テスト・セット・ツールバーには、次のボタンがあります。



**[フォルダの新規作成]**：[フォルダの新規作成] ダイアログ・ボックスが開きます。新しいテスト・セット・フォルダを作成できます。作成したフォルダは、左側の表示枠のテスト・セット・ツリーに追加されます。詳細については、394 ページ「テスト・セット・ツリーの作成」を参照してください。



**[テスト・セットの新規作成]**：[テスト・セットの新規作成] ダイアログ・ボックスが開きます。既存のフォルダに新しいテスト・セットを作成できます。詳細については、396 ページ「テスト・セットの追加」を参照してください。



**[削除]**：テスト・セット・ツリーからフォルダまたはテスト・セットを削除します。テスト・セット・グリッドの場合は、テスト・セットを削除します。詳細については、417 ページ「テスト・セットの削除」を参照してください。



**[サイクルに割り当て]**：テスト・セット・フォルダをサイクルに割り当てることができます。詳細については、395 ページ「サイクルへのテスト・セット・フォルダの割り当て」を参照してください。



**[全て更新]**：テスト・セット・ツリーまたはテスト・セット・グリッドが更新され、最新のテスト・セットが表示されます。



**[フィルタ / 並べ替えの設定]**：次のオプションがあります。

- ▶ **[フィルタ / 並べ替えの設定]**：[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セットのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。
- ▶ **[フィルタ / 並べ替えのクリア]**：適用したフィルタまたは並べ替えが解除されます。

詳細については、56 ページ「レコードのフィルタ処理」を参照してください。

## テストの選択ツールバー

右側の表示枠にテスト計画ツリーを表示するには、[**テストの選択**] ボタンをクリックします。[テスト計画ツリー] タブが表示されます。[要件ツリー] タブをクリックした場合には、関連付けられている要件に基づいてテストが表示されます。

テストの選択ツールバーには、次のボタンがあります。



[**テスト セットへのテストの追加**] : テスト・セットにテストが追加されます。



[**全て更新**] : ツリーを更新します。



[**フィルタ / 並べ替えの設定**] : 次のオプションがあります。

- ▶ [**フィルタ / 並べ替えの設定**] : [フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。テストのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。
- ▶ [**フィルタ / 並べ替えのクリア**] : 適用されているフィルタや並べ替えが解除されます。



[**検索**] : ツリーで特定のテストが検索されます。検索が成功すると、ツリーの中でテストが強調表示されます。



[**テストへ移動**] : テスト ID を使ってツリー内で特定のテストが検索されます。検索が成功すると、ツリーの中でテストが強調表示されます。



[**要件へ移動**] : ReqID を使ってツリー内で特定の要件を検索します。検索が成功すると、ツリーの中で要件が強調表示されます。

## 実行グリッド

実行グリッドでは、テスト・データがグリッドに整理された状態で表示されません。グリッドの各行には、個別のテスト・レコードが表示されます。

The screenshot shows a software interface with a tabbed menu at the top: 詳細 (Details), 実行グリッド (Execution Grid), 実行フロー (Execution Flow), 添付ファイル (Attachments), 自動化 (Automation), and リンクされている不具合 (Linked Issues). The '実行グリッド' tab is active, displaying a table of test results.

計画: Test Name	計画: Type	Status	計画: Change Status	Change Det
Flight Reservation	MANUAL	✓ Passed		
[1]Departing Date	MANUAL	✗ Failed		
[1]Returning Date	MANUAL	✓ Passed		
[1]View Calendar	MANUAL	▶ No Run		
[1]Service Class Preferen	MANUAL	Not Complet		
[1]Airline Preference	WR-AUTOMATED	✗ Failed		
[1]Flight Time Preference	MANUAL	✓ Passed		
[1]Range of Dates	MANUAL	✓ Passed		
[1]Passenger Name	MANUAL	✓ Passed		
[1]Credit Card Number	MANUAL	✗ Failed		

Below the grid is a section titled '最後の実行結果' (Last Execution Results) with a sub-table:

Step Name	Status	Exec Date
Connect to Mercury	✓ Passed	2006/06/05
Sign-On to Mercury	✓ Passed	2006/06/05
Find Flight	✓ Passed	2006/06/05
Select Flight	✓ Passed	2006/06/05
Book Flight	✓ Passed	2006/06/05

To the right of this table is a 'ステップ詳細' (Step Details) pane showing:

**Description:**  
Open your Web browser and type the <<<Mercury Tour:

**Expected:**  
The Mercury Tours site opens.

実行グリッドの主な要素は、次のとおりです。

- ▶ **実行グリッド・ツールバー**：テストの実行と表示によく使用するコマンドのボタンが並んでいます。詳細については、384 ページ「実行グリッド・ツールバー」を参照してください。
- ▶ **インジケータ・カラム**：指定したテスト・インスタンスには、添付ファイル、リンクされている不具合、警告、およびフォロー・アップ・フラグがあること

を示します。これらのカラムを表示するには、[テスト] > [インジケータ カラム] を選択します。

カラム	説明
添付ファイル	テスト・インスタンスの添付ファイルを表示するには、📎 アイコンをクリックします。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。
リンクされているエンティティ	テスト・インスタンスのリンクされているエンティティを表示するには、🔗 アイコンをクリックします。詳細については、第 36 章「不具合のリンク」を参照してください。
警告	テスト・インスタンスの警告を表示するには、! アイコンをクリックします。詳細については、82 ページ「警告の表示」を参照してください。
フォローアップ・フラグ	テスト・インスタンスのフォロー・アップ警告を表示するには、🚩 アイコンをクリックします。詳細については、84 ページ「フォローアップ・フラグの設定」を参照してください。

- ▶ **グリッドのフィルタ**：カラムに現在適用されているフィルタが表示されます。グリッド・フィルタを表示するには、[テスト] > [グリッドのフィルタ] を選択します。
- ▶ **[最後の実行結果] ウィンドウ**：最後のテスト実行の結果が表示されます。[最後の実行結果] ウィンドウを表示するには、[テスト] > [最後の実行結果] を選択するか、[表示] の矢印ボタンをクリックします。

## 実行グリッド・ツールバー

実行グリッド・ツールバーには、次のボタンがあります。

**[テストの選択]**：右側の表示枠にテスト計画ツリーが表示されます。テスト計画ツリーは、テスト・セットに追加するテストを選択する場合に使用します。**[要件ツリー]** タブをクリックすると、関連付けられている要件に基づいてテストを表示することもできます。詳細については、399 ページ「テスト・セットへのテストの追加」を参照してください。



**[実行]**：手動テストを選択すると、テストを実行するための [マニュアルランナー] ダイアログ・ボックスが開きます。自動テストを選択すると、テストを実行するための [自動ランナー] ダイアログ・ボックスが開きます。このボタンには次のオプションもあります。

- ▶ **[手作業で実行]**：自動テストを手動で実行します。
- ▶ **[手作業実行の続行]**：手動テストの実行を再開します。

手動テストの実行の詳細については、第 30 章「テストの手動実行」を参照してください。自動テストの実行の詳細については、第 31 章「テストの自動実行」を参照してください。

**[テストセットの実行]**：テスト・セットを実行するための [自動ランナー] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セットには、手動テストと自動テストの両方を含めることができます。詳細については、444 ページ「テストの自動実行」を参照してください。



**[テストセットからテストを削除する]**：選択したテストをテスト・セットから削除します。詳細については、412 ページ「テスト・セットからのテストの削除」を参照してください。



**[全て更新]**：[実行グリッド] が更新され、選択したフィルタに基づいて最新のテストが表示されます。



**[フィルタ / 並べ替えの設定]**：[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。[実行グリッド] のテストのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。次のオプションがあります。

- ▶ **[フィルタ / 並べ替えの設定]**：[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。テストのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。
- ▶ **[フィルタ / 並べ替えのクリア]**：[実行グリッド] に適用されているフィルタや並べ替えがクリアされます。

詳細については、56 ページ「レコードのフィルタ処理」を参照してください。



**[カラムの選択]**：[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、[実行グリッド] に表示するカラムとその順序を指定できます。詳細については、52 ページ「カラムの配置」を参照してください。



**[テスト インスタンスのプロパティ]** : [テスト インスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開き、選択したテスト・インスタンスのプロパティが表示されます。詳細については、455 ページ「テスト結果の表示」を参照してください。



**[添付ファイル]** : [テスト インスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト実行インスタンスに添付ファイルを追加できます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。



**[フォローアップ フラグ]** : [フォローアップ フラグ] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・インスタンスのフォローアップ・フラグの追加または変更を行うことができます。詳細については、84 ページ「フォローアップ・フラグの設定」を参照してください。

### [実行グリッド] のカラム

[実行グリッド] には、テスト計画とテスト実行データのカラムが表示されます。テスト計画データのカラムの詳細については、259 ページ「テスト・グリッドのカラム」を参照してください。

カラム	説明
実行日	テストが最後に実行された日付。
修正済み	[実行グリッド] のテストに最後に変更を加えた日時。
実行予定日	テストの実行予定日。
実行予定時間	テストの実行予定時刻。
予定ホスト名	テストを実行するマシンの名前または IP アドレス。
テスト責任者	テスト実行担当者のユーザ名。
ステータス	最後のテスト実行のステータス。実行ステータスは、「失敗」、「N/A」、「実行なし」、「未完了」、「成功」のいずれかになります。
ターゲット サイクル	テストが割り当てられたサイクルを示します。別のサイクルを選択するには、下矢印をクリックします。
テスト担当者	テストを最後に実行したユーザの名前。
時間	テストを最後に実行した時刻。

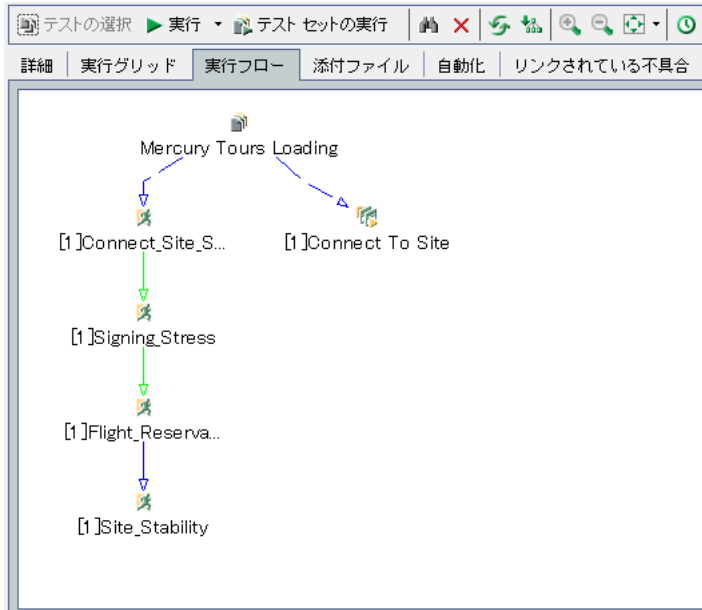
**注：**

- ▶ 実行グリッドでは、ユーザ定義フィールドの追加や、フィールドのラベルの変更ができます。また、プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
  - ▶ スクリプト・エディタを使用して、[実行グリッド] に表示されるフィールドと値を制限し、動的に変更することができます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
  - ▶ ユーザ名の値を含む実行グリッド・カラムを選択する場合、各ユーザのユーザ名および氏名を記載したリストが表示されます。ユーザの検索、ユーザの並べ替え、ユーザ・グループに基づいたユーザのグループ分け、およびユーザ・リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については、55 ページ「ユーザの選択」を参照してください。
-

## 実行フロー

実行フローでは、テスト・データが図に整理された状態で表示されます。[実行フロー] タブでは、テストの実行方法を制御できます。テストを実行する時期と条件を指定できます。

[実行フロー] タブの詳細については、第 29 章「テスト実行のスケジュール」を参照してください。



[実行フロー] タブの主要な要素は、次のとおりです。

- ▶ **実行フロー・ツールバー**：テスト実行のスケジュールによく使用するコマンドのボタンが並んでいます。詳細については、389 ページ「実行フロー・ツールバー」を参照してください。
- ▶ **実行フロー図**：テストが条件とともに図に表示されます。詳細については、第 29 章「テスト実行のスケジュール」を参照してください。

## 実行フロー・ツールバー

実行フロー・ツールバーには、次のボタンがあります。

**[テストの選択]**：右側の表示枠にテスト計画ツリーが表示されます。テスト計画ツリーは、テスト・セットに追加するテストを選択する場合に使用します。

**[要件ツリー]** タブをクリックすると、関連付けられている要件に基づいてテストを表示することもできます。詳細については、399 ページ「テスト・セットへのテストの追加」を参照してください。

**[実行]**：手動テストを選択すると、テストを実行するための [マニュアルランナー] ダイアログ・ボックスが開きます。自動テストを選択すると、テストを実行するための [自動ランナー] ダイアログ・ボックスが開きます。このボタンには次のオプションもあります。

▶ **[手作業で実行]**：自動テストを手動で実行します。

▶ **[手作業実行の続行]**：手動テストの実行を再開します。

手動テストの実行の詳細については、第 30 章「テストの手動実行」を参照してください。自動テストの実行の詳細については、第 31 章「テストの自動実行」を参照してください。

**[テストセットの実行]**：テスト・セットを実行するための [自動ランナー] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セットには、手動テストと自動テストの両方を含めることができます。詳細については、444 ページ「テストの自動実行」を参照してください。



**[フロー内のテストの検索]**：[テストの検索] ダイアログ・ボックスが開き、[実行フロー] でテストを検索できます。詳細については、430 ページ「テストの検索」を参照してください。



**[テストセットからテストを削除する]**：選択したテストをテスト・セットから削除します。



**[フローを更新]**：[実行フロー] の図を更新して最新のテストを表示します。



**[レイアウトの並べ替え]**：テスト間の依存関係がわかりやすいように、テストが階層レイアウトで並べ替えられて表示されます。



**[拡大表示]**：表示倍率が上がり、実行フローが拡大表示されます。



**[縮小表示]**：表示倍率が下がり、[実行フロー] の広い範囲が表示されます。



**[画像をウィンドウに合わせる]**：図がウィンドウに収まるように再表示されます。表示倍率オプションを選択するには、**[ウィンドウに合わせる]**の矢印ボタンをクリックします。詳細については、430 ページ「実行フロー図の表示」を参照してください。



**[フローに時間の依存関係を追加]**：時刻の依存アイコンを図に追加します。テストの時刻の依存を作成するには、実行フロー内でアイコンからテストへ矢印をつなげます。標準設定の時刻の基準は、Quality Center サーバの現在の日付と時刻です。詳細については、423 ページ「テスト実行のスケジュール設定」を参照してください。

# 第 28 章

---

## テスト・セットの作成

テスト・セットを作成することによって、テスト実行を整理できます。プロジェクトの**テスト・セット**には、テストのサブセットが含まれます。テスト・セット・ツリーとは、テスト・セットを階層構造に編成し、表示するものです。

---

**Quality Center Starter Edition** : Starter Edition を使ってテスト・セットを作成する場合、リリース管理およびベースライン設定に関するフィールドおよび機能は利用できません。

---

### 本章の内容

- ▶ テスト・セットの作成について (392 ページ)
- ▶ テスト・セット・ツリーの作成 (394 ページ)
- ▶ サイクルへのテスト・セット・フォルダの割り当て (395 ページ)
- ▶ テスト・セットの追加 (396 ページ)
- ▶ テスト・セットへのテストの追加 (399 ページ)
- ▶ テスト・セット通知の設定 (402 ページ)
- ▶ 失敗時のルールに関するテスト・セットの設定 (404 ページ)
- ▶ テスト・セットの管理 (408 ページ)

## テスト・セットの作成について

テスト計画モジュールでテストを設計した後は、テスト・セット・ツリーを作成します。**テスト・セット・ツリー**では、テスト・ラボ・モジュールにおいてテスト・セットをフォルダ単位でグループ化し、階層レベルに分けてテスト・セットを整理することで、アプリケーション管理プロセスを組織化できます。

**テスト・セット**とは、Quality Center プロジェクト内のテストのグループで、特定のテスト目標を達成するように設計されています。テスト・セットには、手動テストと自動テストの両方を含めることができます。テスト・セット・ツリーを作成したら、リリース・モジュールのリリース・ツリーで定義したサイクルにテスト・セット・フォルダを割り当てます。

作成するテスト・セットを決定するには、アプリケーション管理プロセスの開始時に定義した目標を検討します。また、アプリケーションの現在の状態、新しい機能の追加や変更などを考慮します。

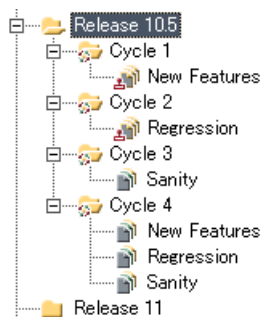
作成できるテスト・セットの一般的なカテゴリの例を次に示します。

テスト・セット	説明
<b>動作確認</b>	アプリケーションの機能性と安定性を確認するために、アプリケーション全体を詳細に検査するのではなく、基礎レベルで幅広く検査します。このセットには、アプリケーションが適切に機能するかどうかを検証する正常系の検査を含む基礎的なテストが含まれています。たとえば、Mercury Tours アプリケーションであれば、アプリケーションが開くかどうか、ユーザによるログインが可能かどうかをテストできます。
<b>回帰</b>	動作確認セットより詳細にシステムをテストします。このセットには、正常系と異常系の両方の検査を含めることができます。異常系テストは、アプリケーションで失敗が生じるようにして、アプリケーションが不適切な動作をするように行うテストです。
<b>詳細</b>	幅広くかつ詳細にテストを行います。このセットは、アプリケーション全体を対象とし、アプリケーションの詳細オプションもテストします。テストに十分な時間をかけることができる場合には、このセットを実行します。
<b>機能</b>	アプリケーションのサブシステムをテストします。テストの対象は、単一の機能でも複数の機能でもかまいません。たとえば、Mercury Tours アプリケーションの場合、機能セットは航空券予約に関するすべての作業をテストできます。



Mercury Tours アプリケーションの Release 10.5 に追加された新しい機能をテストすると仮定します。Release 10.5 は 4 つのサイクルから構成されていて、サイクル 1、サイクル 2、およびサイクル 4 でリリースの新しい機能をテストします。新しい機能をテストするのに必要なテストは各サイクルで同じなので、各サイクルの新しい機能をテストする基礎として同じテスト・セットを使用します。

テスト・セット・ツリーで、リリースに対して **Release 10.5** フォルダを作成できます。このフォルダで、リリースの最初のサイクルに対して **Cycle 1** フォルダを作成します。**Cycle 1** フォルダで、リリースの新しい機能をテストするのに必要なテストを含むテスト・セット **New Features** を作成します。このテスト・セットを作成してテストを追加したら、**Cycle 1** フォルダをコピーして貼り付け、新しい機能をテストするほかのサイクルの基礎として使用できます。



標準設定では、テスト・セット・ツリーの最上位レベルが **Root** フォルダです。**Root** フォルダは削除できません。また、このフォルダに直接テスト・セットを追加することはできません。**Root** フォルダの下の**未添付**フォルダには、フォルダとの関連付けがなくなったすべてのテスト・セットが格納されます。未添付フォルダにテスト・セットを追加することはできません。フォルダを削除する場合は、そのフォルダ内のテスト・セットを未添付フォルダに移動するか、テスト・セットをディスクから完全に削除するかのいずれかを指定できます。

## テスト・セット・ツリーの作成

テスト・セット・ツリーを作成することによって、テスト・セットの階層フレームワークを定義します。テスト・セット・ツリーでは、メイン・レベルにフォルダを作成でき、その下にサブフォルダを作成できます。テスト・セット・ツリーのフォルダごとにテスト・セットを定義し、そのテスト・セットにテスト・インスタンスを追加します。テスト・セット・ツリーの作成は、**Root** フォルダにフォルダを追加することから始めます。

テスト・セット・ツリーを作成したら、リリース・モジュールのリリース・ツリーで定義したサイクルにテスト・セット・フォルダを割り当てます。詳細については、395 ページ「サイクルへのテスト・セット・フォルダの割り当て」を参照してください。

テスト・セット・ツリーを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 **[表示]** > **[テストセット ツリー]** を選択し、**[テストセット]** 表示枠にテスト・セット・ツリー・ビューを表示します。
- 2 テスト・セット・ツリーの **Root** フォルダを選択します。



- 3 **[フォルダの新規作成]** ボタンをクリックするか、または **[テストセット]** > **[フォルダの新規作成]** を選択します。**[フォルダの新規作成]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4 **[フォルダ名]** を入力し、**[OK]** をクリックします。フォルダの名前には、「¥」、「^」、「\*」は使用できません。

新しいフォルダがテスト・セット・ツリーの **Root** の下に表示されます。




- 5 **[詳細]** タブで、テスト・セット・フォルダをサイクルに割り当てることによって、テスト・セット・フォルダの詳細を完成させます。詳細については、395 ページ「サイクルへのテスト・セット・フォルダの割り当て」を参照してください。
- 6 **[説明]** タブに、テスト・セット・フォルダの説明を入力します。
- 7 **[添付ファイル]** タブをクリックし、必要に応じて新しいテスト・セット・フォルダに添付ファイルを追加します。ファイル、URL、アプリケーションのスナップショット、クリップボードからのアイテム、またはシステム情報を添付できます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。
- 8 追加のフォルダを作成するには、フォルダを選択してステップ 3 および 7 を繰り返します。

## サイクルへのテスト・セット・フォルダの割り当て

テスト・セット・ツリーを作成したら、リリース・モジュールのリリース・ツリーで定義したサイクルにテスト・セット・フォルダを割り当てます。詳細については、第 10 章「リリース・ツリーの開発」を参照してください。

**Quality Center Starter Edition** : サイクルにテスト・セット・フォルダを割り当てることはできません。

サイクルにテスト・セット・フォルダを割り当てるには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・セット・ツリーで、サイクルに割り当てるテスト・セット・フォルダを選択します。
- 2  [サイクルに割り当て] ボタンをクリックするか、[テストセット] > [サイクルに割り当て] を選択します。あるいは、[詳細] タブで [Assigned to cycle] ボックスの横にある参照ボタンをクリックします。[サイクルに割り当て] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 ツリーを展開してサイクルを選択します。
- 4 [OK] をクリックして、[サイクルに割り当て] ダイアログ・ボックスを閉じます。テスト・セット・ツリーで、テスト・セット・フォルダ・アイコン  は、割り当てたテスト・セット・フォルダ・アイコン  に置き換えられます。  
[詳細] タブには、次のテスト・セット・フォルダの詳細が表示されます。

フィールド	説明
Assigned to cycle	選択したテスト・セット・フォルダが割り当てられるサイクルを示します。
サイクル開始日	サイクルが開始される日付です。
サイクル終了日	サイクルが終了する日付です。
サイクルの残り日数	サイクルの残り合計日数です。

[表示] ボタンをクリックすると、次の詳細を表示できます。

フィールド	説明
テスト インスタンス 総数	選択したテスト・セット・フォルダのテスト・インスタンスの合計数です。
未実行テスト インスタンス	選択したテスト・セット・フォルダの未実行のテスト・インスタンスの合計数です。



- 5 割り当てられているテスト・セット・フォルダをクリアするには、該当するフォルダを選択して [サイクルに割り当て] の矢印ボタンをクリックし、[割り当てられたサイクルをクリア] を選択します。あるいは、割り当てられているテスト・セット・フォルダを選択し、[テストセット] > [割り当てられたサイクルをクリア] を選択します。

## テスト・セットの追加

テスト・セット・ツリーのフォルダまたはテスト・セット・グリッドにテスト・セットを追加できます。

テスト・セットを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 次のいずれかの方法で、テスト・セット・ツリーまたはテスト・セット・グリッドにテスト・セットを追加できます。

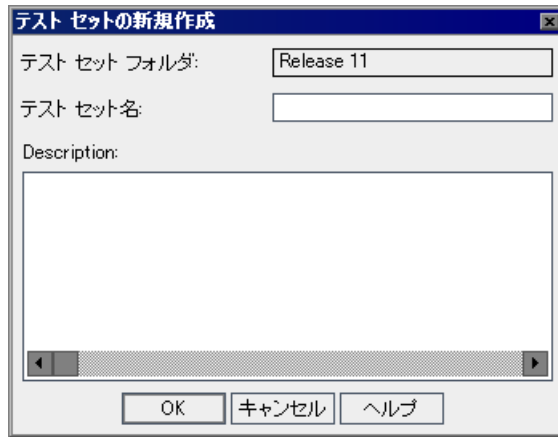


- ▶ [表示] > [テストセット ツリー] を選択し、テスト・セット・ツリーを表示します。テスト・セット・ツリーでフォルダを選択し、[テストセットの新規作成] ボタンをクリックするか、[テストセット] > [テストセットの新規作成] を選択します。



- ▶ [表示] > [テストセット グリッド] を選択し、テスト・セット・グリッドを表示します。[テストセットの新規作成] ボタンをクリックするか、[テストセット] > [テストセットの新規作成] を選択します。

[テストセットの新規作成] ダイアログ・ボックスが開きます。



テスト・セット・ツリーから [テストセットの新規作成] ダイアログ・ボックスを開いた場合には、[**テストセットフォルダ**] ボックスに、選択してあったフォルダ名が表示されます。

- 2 テスト・セット・グリッドから [テストセットの新規作成] ダイアログ・ボックスを開いた場合には、[**テストセットフォルダ**] ボックスの [参照] ボタンをクリックしてフォルダを選択します。
- 3 [**テストセット名**] ボックスに、テスト・セットに付ける名前を入力します。テスト・セットの名前には、「¥」、「^」、「,」、「"」、「\*」は使用できません。
- 4 [**説明**] ボックスに、テスト・セットの説明を入力します。
- 5 [**OK**] をクリックします。テスト・セット名がテスト・セット・ツリーに追加されます。

6 [詳細] タブをクリックします。

詳細 | 実行グリッド | 実行フロー | 添付ファイル | 自動化 | リンクされている不具合

Baseline:  ...

Cycle ID:

Open Date:  ▼

Target Cycle:

Close Date:  ▼

ITG Request Id:

Status:  ▼

Description

次の情報を入力します。

- ▶ **Quality Center Enterprise および Premier Editions の場合**, [ベースライン] で、テスト・セットを関連付けるベースラインを選択します。詳細については、540 ページ「テスト・セットをベースラインに固定」を参照してください。
- ▶ [終了日] で、テスト・セットの終了予定日を選択します。
- ▶ [開始日] で、カレンダーから日付を選択します。標準設定では、データベース・サーバの現在の日付に設定されます。
- ▶ [ITG 要求 ID] で IT ガバナンス・リクエスト ID を追加します。これは、IT ガバナンス・ツールと統合する場合にのみ必要となります。
- ▶ [ステータス] で、テスト・セットのステータスを [修正中] または [修正済み] に設定します。

7 [添付ファイル] タブをクリックし、テスト・セットに添付ファイルを追加します。ファイル、URL、アプリケーションのスナップショット、クリップボードからのアイテム、またはシステム情報を添付できます。添付ファイルの詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。


8 [自動化] タブをクリックし、次の手順を実行します。

- ▶ [通知] リンクをクリックし、特定のイベントが発生した場合に、指定したユーザーに電子メールを送信するように指定します。詳細については、402 ページ「テスト・セット通知の設定」を参照してください。
- ▶ [失敗時] リンクをクリックし、テスト・セットの自動テストが失敗した場合のルールを設定します。詳細については、404 ページ「失敗時のルールに関するテスト・セットの設定」を参照してください。

## テスト・セットへのテストの追加

テスト・セットを定義したら、テスト計画ツリーから手動テストまたは自動テストを、または要件ツリーから要件をカバーしているテストを、テスト・セットに追加できます。別のテスト・セットに同じテストのインスタンスを含めたり、同じテスト・セットに複数のインスタンスを加えたりすることもできます。

テスト計画ツリーからテスト・セットにテストを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・セット・ツリーまたはテスト・セット・グリッドからテスト・セットを選択します。
- 2 [実行グリッド] タブまたは [実行フロー] タブで、[テストの選択] ボタンをクリックします。標準設定では、右側の表示枠の [テスト計画ツリー] タブにテスト計画ツリーが表示されます。
- 3  テストまたはフォルダを選択して、[テストセットへのテストの追加] ボタンをクリックします。

---

**ヒント：**テスト計画ツリーのフォルダまたはテストをダブルクリックしたり、[実行グリッド] または [実行フロー] にドラッグすることでテストを追加することもできます。

---

- 4 フォルダを追加する場合は、メッセージ・ボックスが表示されます。[はい] ボタンをクリックして、確定します。


---

**注：**[テスト計画ツリー] タブで現在のフィルタに一致するテストだけが追加されます。

---

- 5 追加しようとするテストのいずれかがすでにテスト・セットの中にある場合には、[テストインスタンスの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セットにすでに存在するテスト、および存在するインスタンスの数が表示されます。テスト・セットに追加するテストを選択し、[作成] をクリックします。
- 6 追加しているテストに実際の値が割り当てられていないパラメータがある場合は、[Parameters of Test] ダイアログ・ボックスが表示されます。パラメータの実際の値を割り当てます。この値はテストのすべてのテスト実行に使用されます。詳細については、328 ページ「実際の値の割り当て」を参照してください。
- 7 [閉じる] ボタンをクリックして、右側の表示枠を閉じます。

要件をカバーしているテストを要件ツリーからテスト・セットに追加するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・セット・ツリーまたはテスト・セット・グリッドからテスト・セットを選択します。
- 2 [実行グリッド] タブまたは [実行フロー] タブで、[テストの選択] ボタンをクリックします。
- 3 右側の表示枠で、[要件ツリー] タブをクリックすると、関連付けられている要件に基づいてテストが表示されます。
- 4  テストを追加するには、テストを選択し、[テスト処理対象の要件を追加] ボタンをクリックします。

---

**ヒント：**[要件ツリー] タブでテストまたは要件をダブルクリックしたり、[実行グリッド] または [実行フロー] にドラッグすることでテストを追加することもできます。

---





- 5 選択した要件をカバーするすべてのテストを追加するには、要件を選択し、**[テスト処理対象の要件を追加]** ボタンをクリックします。

選択した要件およびその子をかばるすべてのテストを追加するには、要件を選択します。**[テスト処理対象の要件を追加]** の矢印ボタンをクリックして**[テスト処理対象の要件と子を追加]** を選択します。

メッセージ・ボックスが表示されます。**[はい]** ボタンをクリックして、確定します。

---

**注：** [要件ツリー] タブで現在のフィルタに一致するテストだけが追加されます。

---

- 6 追加しようとするテストのいずれかがすでにテスト・セットの中にある場合には、**[テストインスタンスの作成]** ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セットにすでに存在するテスト、および存在するインスタンスの数が表示されます。テスト・セットに追加するテストを選択し、**[作成]** をクリックします。
- 7 追加しているテストに実際の値が割り当てられていないパラメータがある場合は、**[Parameters of Test]** ダイアログ・ボックスが表示されます。パラメータの実際の値を割り当てます。この値はテストのすべてのテスト実行に使用されます。詳細については、328 ページ「実際の値の割り当て」を参照してください。
- 8 **[閉じる]** ボタンをクリックして、右側の表示枠を閉じます。

## テスト・セット通知の設定

テスト・セットで次のいずれかのイベントが発生した場合に、指定ユーザに電子メールを送信するよう指定できます。

- ▶ テスト・セットのあらゆるテストの失敗。
- ▶ テスト・ロジック以外の理由によるテスト・セットのテストの失敗。環境に係る失敗としては、関数呼び出しが戻らない、アクセス違反、アプリケーション・コンポーネント間のバージョンの不一致、DLL の不足、権限不足など、さまざまな理由があります。
- ▶ 実行されたテスト・セット内のすべてのテストが実行を終了した場合。実行されなかったテストは含まれません。

テスト・セットの通知を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・セット・ツリーまたはテスト・セット・グリッドからテスト・セットを選択します。
- 2 [自動化] タブをクリックし、[通知] リンクを選択します。

The screenshot shows a software interface with a top navigation bar containing tabs: 詳細, 実行グリッド, 実行フロー, 添付ファイル, 自動化, and リンクされている不具合. Below the tabs are two buttons: 通知 and 失敗時. The main area is titled '次の場合電子メールを送信します:' and contains three checkboxes with labels:  Automatic Runner 内いずれかのテストが 'Failed' ステータスで終了する,  環境上の問題 (ネットワーク障害、ハードウェア障害など) が発生する, and  Automatic Runner で実行対象に選択されたテストすべてが終了している. Below these is a '送信先...' label and an empty text input field. At the bottom is a 'メッセージ' label and a large empty text area with a scrollbar.

- 3 テスト・セットに対して 1 つ以上のイベントを選択します。

- 4 電子メールを受信するユーザを指定するには、有効な電子メール・アドレスを入力します。

あるいは、**[送信先]** ボタンをクリックします。**[受信者の選択]** ダイアログ・ボックスが開きます。個々のユーザまたはユーザ・グループ全体を選択します。**[OK]** をクリックします。ユーザに電子メールを送信するには、ユーザがユーザ・プロパティに有効な電子メール・アドレスを設定している必要があります。ユーザ・プロパティの定義の詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

- 5 **[メッセージ]** ボックスに電子メールのメッセージを入力します。

## 失敗時のルールに関するテスト・セットの設定

テスト・セットに失敗時のルールを設定し、テスト・セットの自動テストが失敗した場合に実行する処理を指定できます。これには、テストを再実行する回数や、テストを再実行する前に行うクリーンアップ・テストに関する指示があります。失敗時のルールの標準設定は、テスト・セットのどの自動テストでも変更できます。

テスト・セットの失敗時のルールを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・セット・ツリーまたはテスト・セット・グリッドからテスト・セットを選択します。
- 2 [自動化] タブをクリックし、[失敗時] リンクを選択します。

The screenshot shows the 'Automation' tab with the 'Failure' link selected. The interface is divided into two main sections: 'Automatic Test Failure' and 'Final Test Failure'.

**自動テスト失敗時**

- 自動テストが失敗した場合、次の回数までテストセットを再実行する: [1] 回
- 次のクリーンアップテスト: <なし> ... を各テスト再実行前に行う
- テストごとに設定...

**最終テスト失敗時**

テスト・セット内のテストのいずれかが最終的に失敗した時:

- 許可しない
- テスト・セットを中止する
- テスト・セットの再実行
  - テスト・セットの再実行可能回数: [1] 回

- 3 テスト・セットの失敗時のルールを設定するには、1 番目のチェック・ボックスを選択し、自動テストを再実行する回数を指定します。
- 4 各テスト実行の前にクリーンアップ・テストを含めるには、2 番目のチェック・ボックスを選択して参照ボタンをクリックし、[クリーンアップテストの選択] ダイアログ・ボックスでテスト計画ツリーからクリーンアップ・テストを選択します。

- 5 テスト・セットの特定のテストに対して設定されている標準設定の失敗時のルールを変更できます。詳細については、405 ページ「特定のテストに対して設定されている標準設定の失敗時のルールの変更」を参照してください。
- 6 テスト・セット内の任意のテストにおける最後の失敗に対して、次の内容を指示することができます。
  - ▶ 何もしない。
  - ▶ テスト・セットを中止する。
  - ▶ 指定した回数まで、テスト・セットを再度実行する。

### 特定のテストに対して設定されている標準設定の失敗時のルールの変更

テスト・セット内の特定のテストに対して設定されている標準設定の失敗時のルールを変更することができます。これらのルールは、テストが失敗した場合の動作を Quality Center に指示します。指示される動作には、テストの再実行回数やテストの再実行前に実行すべきクリーンアップ・テストなどが含まれます。

---

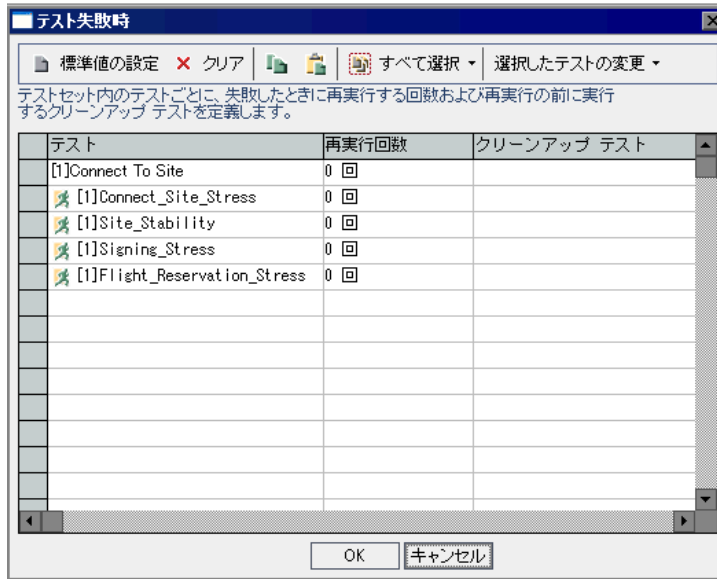
**注：** [テスト インスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスの [実行イベント] タブを使用して、テスト・セット内のテストに対する、失敗時のルールを設定することもできます。詳細については、468 ページ「テスト実行イベントの表示」を参照してください。

---

特定のテストに対して設定されている標準設定の失敗時のルールを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 標準設定の失敗時のルールを設定します。詳細については、404 ページ「失敗時のルールに関するテスト・セットの設定」を参照してください。

- 2 特定のテストに対して設定されている標準の失敗時のルールを変更するには、**[テストごとに設定]** ボタンをクリックします。**[テスト失敗時]** ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 自動テストが再実行される回数を指定するには、次のオプションを使用します。
- ▶ 選択したテストに対して指定するには、**[再実行回数]** カラム内の該当するセルをダブルクリックします。**[再実行回数]** ダイアログ・ボックスが開きます。再実行回数を指定して、**[適用]** をクリックします。
  - ▶ 選択したテストに対して指定するには、テストを選択するか **[すべて選択]** ボタンをクリックします。CTRL キーを押しながら、**[再実行回数]** カラム内の任意のセルをダブルクリックします。あるいは、**[選択したテストの変更]** をクリックし、**[再実行回数の変更]** を選択します。**[再実行回数]** ダイアログ・ボックスが開きます。**[選択したすべてのテストに適用]** オプションが選択されていることに注意してください。再実行回数を指定して、**[適用]** をクリックします。

4 クリーンアップ・テストを指定するには、次のオプションを使用できます。

- ▶ 選択したテストに対して指定するには、[**クリーンアップ テスト**] カラム内の該当するセルをダブルクリックします。[クリーンアップ テストの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト計画ツリーからクリーンアップ・テストを指定し、[**適用**] をクリックします。
- ▶ 選択したテストに対してクリーンアップ・テストを指定するには、テストを選択するか [**すべて選択**] ボタンをクリックします。CTRL キーを押しながら [クリーンアップ テスト] カラム内の任意のセルをダブルクリックします。あるいは、[**選択したテストの変更**] の矢印ボタンをクリックし、[**クリーンアップ テストの変更**] を選択します。[クリーンアップ テストの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。[**選択したすべてのテストに適用**] オプションが選択されていることに注意してください。テスト計画ツリーからクリーンアップ・テストを指定し、[**適用**] をクリックします。

5 失敗時の標準のルールをリセットするには、テストを選択し、[**標準値の設定**] ボタンをクリックします。[**はい**] ボタンをクリックして、確定します。

6 テストの設定をクリアするには、テストを選択し、[**クリア**] ボタンをクリックします。[**はい**] ボタンをクリックして、確定します。



7 あるテストから別のテストに設定をコピーするには、コピー元のテストを選択し、[**テスト設定のコピー**] ボタンをクリックします。



コピー先のテストを選択し、[**テスト設定の貼り付け**] ボタンをクリックします。

8 [OK] をクリックして変更を保存し、[テスト失敗時] ダイアログ・ボックスを閉じます。

## テスト・セットの管理

テスト・セットの管理に関する本項は、次の項目で構成されています。

- ▶ ツリー内のテスト・セットの検索
- ▶ 実行グリッドでのテストの検索
- ▶ 実行グリッド内のフィールド値の置換
- ▶ テスト・セットからのテストの削除
- ▶ プロジェクト内でのテスト・セットのコピー
- ▶ プロジェクト間でのテスト・セットのコピー
- ▶ テスト・セットの URL のコピー
- ▶ テスト・セットの名前変更
- ▶ テスト・セット・フォルダの削除
- ▶ テスト・セットの削除
- ▶ テスト・セットのリセット
- ▶ テスト・セットからのテスト実行の削除

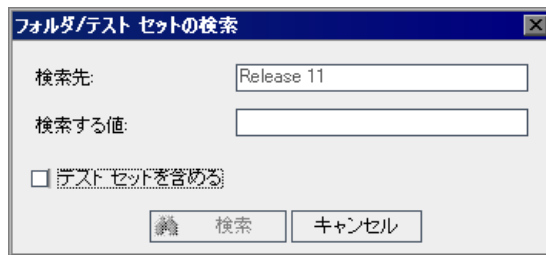


## ツリー内のテスト・セットの検索

テスト・セット・ツリーでフォルダまたはテスト・セットを検索できます。テスト・セット・ツリーにフィルタを適用している場合、テスト・ラボ・モジュールでは、検索は現在表示されているテスト・セットに制限されます。

ツリー内でテスト・セットを検索するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・セット・ツリーのフォルダを選択します。
- 2 **[編集]** > **[フォルダ/テストセットの検索]** を選択します。[フォルダ/テストセットの検索] ダイアログ・ボックスが開き、[検索先] ボックスにフォルダ名が表示されます。ツリー全体で検索を行うには、フォルダ名は **Root** となります。



- 3 **[検索する値]** ボックスにフォルダまたはテスト・セットの名前（あるいは名前の一部）を入力します。アスタリスク (\*) ワイルドカード文字は使用できません。検索では大文字と小文字は区別されません。
- 4 検索対象にテスト・セットを含めるには、**[テストセットを含める]** をチェックします。
- 5 **[検索]** をクリックします。

テスト・ラボ・モジュールでフォルダまたはテスト・セットが検索されます。検索が正しく行われた場合は**[検索結果]** ダイアログ・ボックスが開き、一致したフォルダまたはテスト・セットのリストが表示されます。リストから結果を選択し**[移動]** ボタンをクリックすると、テスト・セット・ツリーでそのフォルダまたはテスト・セットが強調表示されます。

検索が正しく行われなかった場合は、情報ボックスが開きます。

## 実行グリッドでのテストの検索

特定のフィールドの値に基づいて、[実行グリッド] でテストを検索できます。グリッドにフィルタが適用されている場合、検索は現在表示されているテストに制限されます。

[実行グリッド] でテストを検索するには、次の手順を実行します。

- 1 [テスト] > [検索] を選択します。[検索] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 [フィールド内で検索] ボックスで、グリッドのフィールドを選択します。
- 3 [検索する値] ボックスで、検索するフィールドの値を入力または選択します。
- 4 [検索する値] の文字列に完全に一致するフィールド値を持つテストを検索するには、[完全一致] を選択します。
- 5 大文字と小文字を区別して検索するには、[大文字と小文字を区別] を選択します。
- 6 項目の一部のみを入力するために、検索文字列にアスタリスク (\*) 文字を使用する場合は、[ワイルドカードを使用する] を選択します。
- 7 [次を検索] をクリックします。検索が成功すると、グリッドの中で一致するテストが強調表示されます。検索が正しく行われなかった場合は、情報ボックスが開きます。
- 8 条件に一致する次のテストを検索するには、もう一度 [次を検索] をクリックします。

## 実行グリッド内のフィールド値の置換

「置換」コマンドを使用すると、[実行グリッド] 内のフィールド値を置換できます。

[実行グリッド] 内のフィールド値を置換するには、次の手順を実行します。

- 1 [テスト] > [置換] を選択します。[検索 / 置換] ダイアログ・ボックスが開きます。




- 2 [フィールド内で検索] ボックスで、特定の値を検索するカラムを選択します。
- 3 [検索する値] ボックスで、検索する値を入力または選択します。
- 4 [置換後の値] ボックスで、置換後のフィールド値を入力または選択します。
- 5 大文字と小文字を区別するには、[大文字と小文字を区別] チェック・ボックスを選択します。
- 6 完全に一致する値を検索するには、[完全一致] チェック・ボックスを選択します。
- 7 グリッドの先頭から検索を開始するには、[先頭から] チェック・ボックスを選択します。
- 8 項目の一部のみを入力するために検索文字列にアスタリスク (\*) 文字を使用するには、[ワイルドカードを使用する] チェック・ボックスを選択します。
- 9 見つかった項目を置換して次を検索するには、[置換] をクリックします。
- 10 グリッド内で値に一致する項目をすべて置換するには、[すべて置換] をクリックします。

### テスト・セットからのテストの削除

テスト・セットからテストを削除できます。

テスト・セットからテストを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・セット・ツリーまたはテスト・セット・グリッドからテスト・セットを選択します。テストが、[実行グリッド] または [実行フロー] に表示されます。
- 2 削除するテストを選択します。[実行グリッド] または [実行フロー] から複数のテストを削除するには、CTRL キーを押しながら削除するテストを選択していきます。
- 3  [テスト セットからテストを削除する] ボタンをクリックします。
- 4 [はい] ボタンをクリックして、確定します。

### プロジェクト内でのテスト・セットのコピー

テスト・セットは、同じプロジェクト内でコピーできます。テスト実行の情報はコピーされません。

プロジェクト内でテスト・セットをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・セット・ツリーからテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダを選択します。複数のテスト・セットまたはフォルダをコピーするには、CTRL キーを使用します。
- 2 [編集] > [コピー] を選択します。あるいは、右クリックして [コピー] を選択します。
- 3 テスト・セットまたはサブジェクト・フォルダのコピー先フォルダを選択します。
- 4 [編集] > [貼り付け] を選択します。あるいは、右クリックして [貼り付け] を選択します。

### プロジェクト間でのテスト・セットのコピー

テスト・セットは、あるプロジェクトから別のプロジェクトへとコピーできます。テスト・セットにほかのテストへの呼び出しが含まれている場合、またはテスト・セットがテスト・リソースに依存している場合は、次の方法のいずれかを使用してコピーするように Quality Center に指示できます。

- ▶ テスト・セットをコピーして、ターゲット・プロジェクト内の既存の呼び出し先のテストおよび関連するテスト・リソースにリンクします。呼び出し先のテストまたは関連するテスト・リソースがターゲット・プロジェクトに存在しない場合は、Quality Center によってターゲット・プロジェクトにコピーされます。
- ▶ テスト・セットを呼び出し先のテストおよび関連するテスト・リソースとともにターゲット・プロジェクトにコピーします。
- ▶ 呼び出し先のテストおよび関連するテスト・リソースをコピーせずに、テスト・セットをターゲット・プロジェクトにコピーします。

---

**注：**

- ▶ プロジェクト間でテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダをコピーするには、両方のプロジェクトで同じ Quality Center のバージョンとパッチ・レベルを使用している必要があります。
- ▶ テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダをコピーする場合、テスト実行の情報はコピーされません。

---

関連するエンティティの詳細については、365 ページ「依存関係の表示」を参照してください。

プロジェクト間でテスト・セットをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・セット・ツリーでコピーするテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダを選択します。複数のテスト・セットまたはフォルダをコピーするには、CTRL キーを使用します。
- 2 **[編集]** > **[コピー]** を選択します。あるいは、右クリックして **[コピー]** を選択します。
- 3 Quality Center の別のインスタンスを開き、テストを貼り付けるプロジェクトにログインします。
- 4 テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダのコピー先フォルダを選択します。
- 5 **[編集]** > **[貼り付け]** を選択します。あるいは、右クリックして **[貼り付け]** を選択します。[テストセット/テストセットフォルダをターゲットプロジェクトに貼り付け] ダイアログ・ボックスが表示されます。

6 次のいずれかのオプションを選択します。

- ▶ **[テストセット/テストセットフォルダ及び既存の関連エンティティをコピーする]** : Quality Center によりテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダがコピーされ、ターゲット・プロジェクトに貼り付けられます。コピーされたテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダは、同じ名前とパスを持つ既存のテスト・リソースおよび呼び出し先のテストにリンクされます。関連するテスト・リソースまたはテストがターゲット・プロジェクトに存在しない場合、Quality Center によってターゲット・プロジェクトにコピーされます。
- ▶ **[テストセット/テストセットフォルダ及び関連エンティティをコピーする]** : Quality Center により、テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダが、関連するテスト・リソースおよび呼び出し先のテストとともにコピーされ、ターゲット・プロジェクトに貼り付けられます。関連するテスト・リソースまたは呼び出し先のテストがターゲット・プロジェクトにすでに存在する場合は、コピーされた関連するテスト・リソースまたは呼び出し先のテストは、名前が重複する問題を解決するために名前が変更されます。
- ▶ **[関連エンティティをコピーせずにテストセット/フォルダをコピーする]** : Quality Center により、テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダが、関連するテスト・リソースまたは呼び出し先のテストをコピーすることなく、ターゲット・プロジェクトに貼り付けられます。コピーされた項目は、いずれの関連するエンティティにもリンクされません。

[OK] をクリックします。

### テスト・セットの URL のコピー

テスト・セットはコピーして、その URL をリンクとして貼り付けることができます。テスト・セット自体はコピーされません。その代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。このリンクをクリックすると Quality Center が開き、該当するテスト・セットが表示されます。

テスト・セットの URL をコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・セット・ツリーまたはグリッドからテスト・セットを選択します。
- 2 **[編集]** > **[URL をコピー]** を選択します。あるいは、右クリックして **[URL をコピー]** を選択します。
- 3 URL を貼り付けます。

### テスト・セットの名前変更

テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダの名前を変更できます。ただし、標準設定のテスト・セット名は変更できません。

テスト・セット名を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・セット・ツリーまたはテスト・セット・グリッドからテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダを選択します。
- 2 テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダを右クリックし、**[名前の変更]** を選択します。
- 3 テスト・セット名を編集し、ENTER キーを押します。

## テスト・セット・フォルダの削除

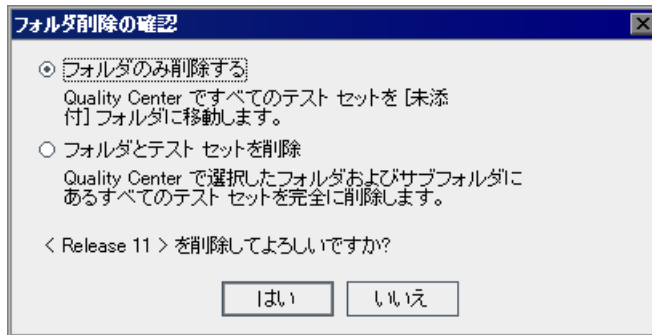
フォルダのみを削除してフォルダのすべてのテスト・セットを**未添付**フォルダに移動するか、フォルダとそのすべてのテスト・セットを完全に削除することができます。

テスト・セット・フォルダを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・セット・ツリーからフォルダを選択します。複数のフォルダを削除するには、CTRL キーを押しながら削除するフォルダを選択します。



- 2 **[削除]** ボタンをクリックするか、**[編集]** > **[削除]** を選択します。[フォルダ削除の確認] ダイアログ・ボックスが開きます。




- 3 削除するには、次のいずれかを実行します。
  - ▶ **[フォルダのみ削除する]** を選択してフォルダを削除し、そのフォルダ内のすべてのテスト・セットを未添付フォルダに移動します。未添付フォルダには、フォルダとの関連付けがなくなったすべてのテスト・セットが格納されます。
  - ▶ **[フォルダとテスト セットを削除]** を選択すると、フォルダとそのフォルダ内のすべてのテスト・セットが完全に削除されます。
- 4 **[はい]** ボタンをクリックして、確定します。



## テスト・セットの削除

プロジェクトからテストを削除できます。ただし、標準設定のテスト・セットは削除できません。

テスト・セットを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・セット・ツリーまたはテスト・セット・グリッドからテスト・セットを選択します。複数のテスト・セットを削除するには、CTRL キーを押しながら削除するテスト・セットを選択します。
- 2  **[削除]** ボタンをクリックするか、**[編集]** > **[削除]** を選択します。
- 3 **[はい]** ボタンをクリックして、確定します。

## テスト・セットのリセット

テスト・セットをリセットすると、テスト・セットのテストのステータスがすべて「**実行なし**」に設定されます。テスト・セットのリセットにあたっては、テスト実行結果を削除するかどうかも指定できます。

テスト・セットをリセットするには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・セット・ツリーまたはテスト・セット・グリッドからテスト・セットを選択します。
- 2 **[テストセット]** > **[テストセットのリセット]** を選択します。[テストセット更新の確認] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 テスト・セットのテスト実行結果を削除しないように指定するには、**[テストセットで全テスト実行結果を削除します。]** チェック・ボックスをクリアします。
- 4 **[はい]** ボタンをクリックして、確定します。

## テスト・セットからのテスト実行の削除

[実行の削除] ウィザードを使用して、プロジェクトの古いテスト実行結果を削除できます。

テスト・セットからテスト実行を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [テスト・セット] > [実行の削除] を選択します。削除するテスト・セットを選択するダイアログ・ボックスが開きます。このダイアログ・ボックスで削除するテスト・セットを選択します。



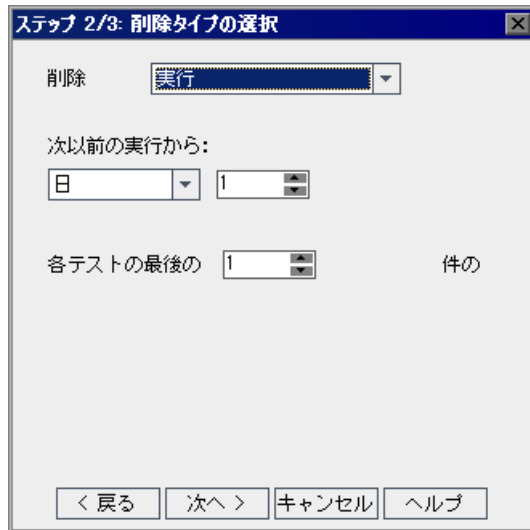
矢印を使用して、[利用可能なテスト・セット] ボックスから [選択したテスト・セット] ボックスに削除するテスト・セット名を移動します。

---

**ヒント:** また、テスト・セットをドラッグしてリスト間を移動させることもできます。

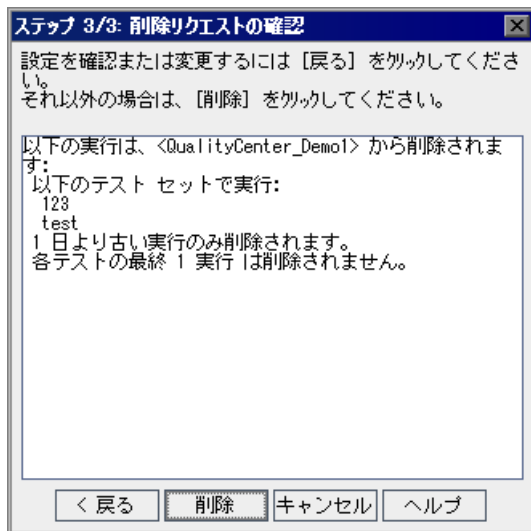
---

- 2 [次へ] をクリックします。[削除タイプの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。このダイアログ・ボックスでは、削除する内容の選択、および削除の条件の定義が行えます。



- 3 実行ステップを削除して、実行の詳細全体を残すには、次の手順を実行します。
  - ▶ [削除] ボックスで [実行ステップのみ] を選択します。
  - ▶ [次以前の実行から] で、どの時点までの実行ステップを削除するかを選択します。
- 4 テスト実行結果を削除するには、次の手順を実行します。
  - ▶ [削除] ボックスで [実行] を選択します。
  - ▶ [次以前の実行から] で、どの時点までのテスト実行結果を削除するかを選択します。
  - ▶ [各テストで保存する過去の実行結果数] で、各テストについて保存しておくテスト実行結果の数を選択します。

- 5 [次へ] をクリックします。[削除リクエストの確認] ダイアログ・ボックスが開きます。このダイアログ・ボックスには削除の実行内容が表示されます。



- 6 [削除] ボタンをクリックして、確定します。

# 第 29 章

---

## テスト実行のスケジュール

テスト・ラボ・モジュールでは、テスト・セットに含まれるテストの実行を制御できます。

### 本章の内容

- ▶ テスト実行のスケジュール設定について (421 ページ)
- ▶ テスト実行のスケジュール設定 (423 ページ)
- ▶ テスト実行のスケジュール変更 (426 ページ)
- ▶ テストの順序の設定 (429 ページ)
- ▶ テストの検索 (430 ページ)
- ▶ 実行フロー図の表示 (430 ページ)


## テスト実行のスケジュール設定について


[実行フロー] で、テストを実行する日付と時刻、および条件を指定できます。**条件**は、[実行フロー] で指定した別のテストの結果に基づくものです。条件を設定することにより、指定した別のテストの実行が終了するか失敗するまで、現在のテストの実行を保留することができます。また、テストの実行順序を指定することもできます。


たとえば、テスト・セットでは **test1** が成功した場合のみ **test2** を実行し、**test2** が成功した場合のみ **test3** を実行するように決定できます。


テスト実行の情報だけが表示される [実行グリッド] とは異なり, [実行フロー] では, テストと条件が図として表示されます。



[実行フロー] では, テスト・セットは「テストセット」アイコン  で表されます。図の各テストは, テスト・アイコンで表されます。

破線の  矢印は, テストが前のテストの後に条件なしで実行されることを示します。

実線の矢印  は, 条件を示し, 青または緑で表示されます。実線が青の場合, 前のテストのステータスが「**Finished**」の場合にのみテストが実行されることを示します。実線が緑の場合, 前のテストのステータスが「**成功**」の場合にのみテストが実行されることを示します。

テストが日付または時刻に依存している場合, [時刻の依存]  アイコンが表示されます。

## テスト実行のスケジュール設定

[実行フロー] タブでは、実行プロセスの進行状況を監視し、テストの実行状況を制御できます。また、テストを実行する条件（**実行の条件**）とタイミング（**時刻の依存**）を指定できます。

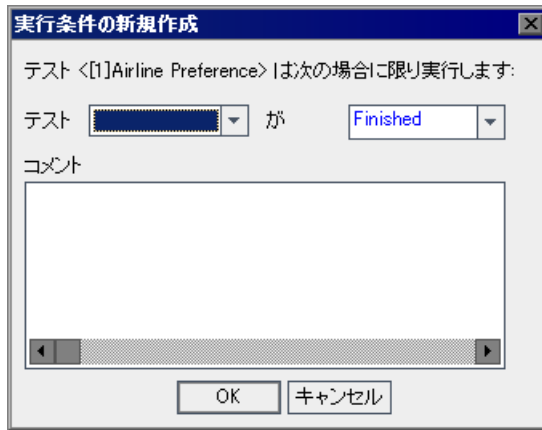
テストの実行の詳細については、433 ページ「テストの手動実行」および 443 ページ「テストの自動実行」を参照してください。

テスト実行のスケジュールを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [実行フロー] タブで、テストをダブルクリックします。あるいは、テストを右クリックし、[**テスト実行のスケジュール**] を選択します。[実行スケジュール] ダイアログ・ボックスが開き、[実行の条件] タブが表示されます。



- 2 条件を追加するには、**新規** をクリックします。[実行条件の新規作成] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 **テスト** ボックスで、現在のテストの依存先になるテストを選択します。
  - ▶ 指定したテストの実行が完了した場合にのみ、現在のテストを実行するには、**Finished** (標準設定) を選択します。
  - ▶ 指定したテストの実行が完了して成功した場合にのみ、現在のテストを実行するには、**成功** を選択します。
- 4 **コメント** ボックスに、条件に関する情報を入力します。
- 5 **OK** をクリックします。条件がリストに追加されます。

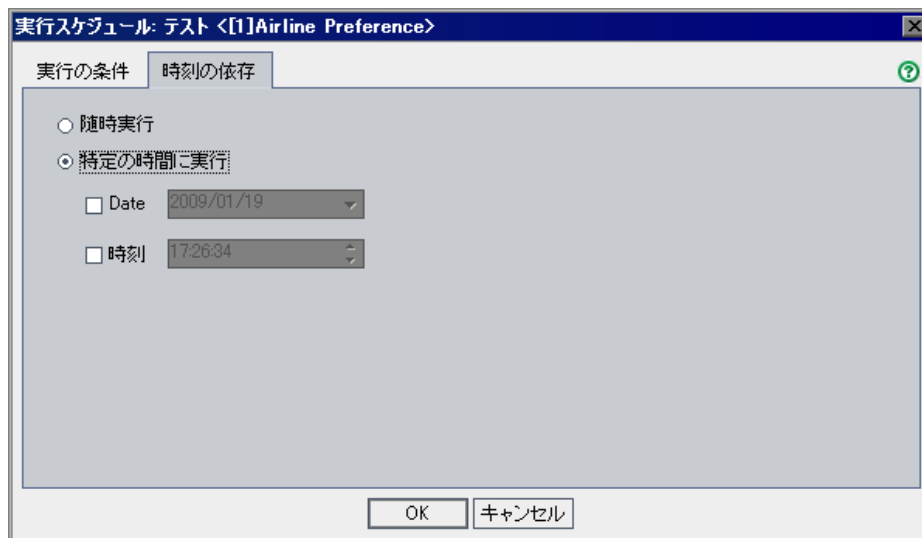
---

**ヒント** : [実行フロー] で条件を直接追加することもできます。テスト名ではなくテスト・アイコンをクリックし、その矢印を別のテストへドラッグします。標準設定では、条件は **Finished** に設定されています。条件を変更するには、条件の矢印をダブルクリックし、**成功** を選択します。

---




- 6 [時刻の依存] タブをクリックし、テストを実行する日時を指定します。



- 7 [特定の時間に実行] を選択し、[日付] または [時刻]、あるいはその両方を選択します。

---

**ヒント:** テスト実行の日付と時刻のスケジュールを設定するには、[フローに時間の依存関係を追加] ボタン  をクリックし、テストにリンクを設定します。[時刻の依存] ダイアログ・ボックスで時刻を設定するには、アイコンをダブルクリックします。

---

- 8 [OK] をクリックして [実行スケジュール] ダイアログ・ボックスを閉じます。[実行フロー] の図にテストと条件が表示されます。

## テスト実行のスケジュール変更

テスト実行スケジュールの条件や時刻の依存情報を変更または削除できます。

本項の内容

- ▶ 実行条件の編集
- ▶ 実行条件の削除
- ▶ 時刻の依存の編集
- ▶ 時刻の依存の削除
- ▶ すべての条件と依存の削除

### 実行条件の編集

テストの実行に設定されている条件を編集することができます。

実行条件を編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [実行フロー] で、条件を示す矢印をダブルクリックします。あるいは、条件を示す矢印を右クリックし、[実行の条件] を選択します。[実行の条件] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 条件に関する情報を変更し、[OK] をクリックします。

## 実行条件の削除

テストの特定の条件またはテストのすべての条件を削除することができます。

テストの実行条件を 1 つ削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [実行フロー] で、条件を示す矢印を右クリックし、[**実行条件の削除**] を選択します。
- 2 [**はい**] ボタンをクリックして、確定します。条件の矢印が削除されます。


テストの実行条件をすべて削除するには、次の手順を実行します。

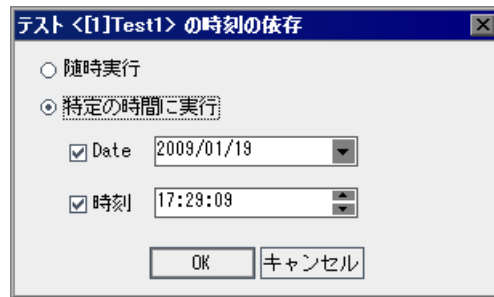
- 1 [実行フロー] で、テストを右クリックし、[**テストの実行条件の削除**] を選択します。
- 2 [**はい**] ボタンをクリックして、確定します。設定されている条件の矢印がすべて削除されます。

## 時刻の依存の編集

スケジュール設定されたテスト実行の日付と時刻を変更できます。

時刻の依存を編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [実行フロー] で、テストに設定されている [**時刻の依存**] アイコン  をダブルクリックします。[テストの時刻の依存] ダイアログ・ボックスが開きます。




- 2 日付または時刻、あるいはその両方を変更し、[**OK**] をクリックします。

### 時刻の依存の削除

指定した時刻の依存を削除できます。

時刻の依存を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [実行フロー] で、テストに設定されている**時刻の依存**アイコンを右クリックし、[**時間依存の削除**] を選択します。
- 2 [**はい**] ボタンをクリックして、確定します。時刻の依存アイコンが [実行フロー] から削除されます。

### すべての条件と依存の削除

テスト・セット内の実行条件と時刻の依存すべてをまとめて削除できます。

テスト・セットの実行条件をすべて削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [実行フロー] で右クリックし、[**すべての実行条件を削除**] を選択します。
- 2 テスト・セットに実行条件と時刻の依存の両方が含まれている場合は、[すべての実行条件を削除] ダイアログ・ボックスが開きます。

次のいずれかのオプションを選択します。

- ▶ [**実行条件と時間の依存関係**] : テスト・セットから実行条件と時刻の依存の両方を削除します。
- ▶ [**条件のみ実行**] : テスト・セットから実行条件を削除します。
- ▶ [**時間依存のみ**] : テスト・セットから時刻の依存を削除します。

[**OK**] をクリックします。実行条件と時刻の依存の両方、またはいずれかが削除されます。

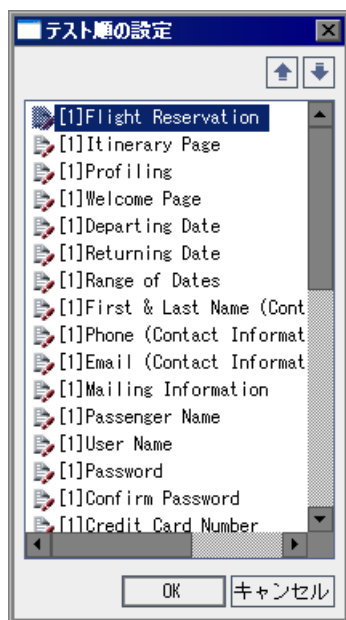
- 3 テスト・セットに実行条件のみ、または時間の依存のみが含まれている場合は、確認のダイアログ・ボックスが開きます。[**はい**] ボタンをクリックして、確定します。実行条件または時刻の依存が削除されます。

## テストの順序の設定

[実行フロー] で、図に表示されているテストの実行順序を変更することができます。

テストの順序を並べ替えるには、次の手順を実行します。

- 1 [実行フロー] で、CTRL キーを押しながら、2 つ以上のテストを選択します。
- 2 テストを右クリックし、[テスト順の設定] を選択します。[テスト順の設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 リストからテストを選択し、上矢印または下矢印をクリックしてリスト中のテストの位置を変更します。
- 4 [OK] をクリックします。

## テストの検索

[実行フロー] でテストを検索できます。

テストを検索するには、次の手順を実行します。



- 1 ツールバーの [**フロー内のテストの検索**] ボタンをクリックするか、[編集] > [**フロー内のテストの検索**] を選択します。[テストの検索] ダイアログ・ボックスが開きます。

[**検索する値**] ボックスに、テスト名の全体（または一部）を入力します。検索では大文字と小文字は区別されません。

- 2 [**検索**] をクリックします。テストが検索されます。
- 3 検索に成功すると、[検索結果] ダイアログ・ボックスが表示され、一致する要件のリストが表示されます。リストで結果を選択し、[移動] ボタンをクリックすると、実行フロー内でテストが強調表示されます。



開いているすべてのウィンドウの上に [検索結果] ダイアログ・ボックスを表示するには、[常に手前に表示] ボタンをクリックします。



[検索結果] ダイアログ・ボックスの上に選択したウィンドウを表示するには、[手前に表示しない] ボタンをクリックします。

- 4 検索が正しく行われなかった場合は、情報ボックスが開きます。

## 実行フロー図の表示

実行フローの表示方法は変更できます。これには、拡大表示と縮小表示、階層レイアウトでのテストの並べ替え、図の更新、図での完全なテスト名の表示などがあります。また、図をクリップボードにコピーすることもできます。

### レイアウト

階層レイアウトでテストを並べ替えるには、[レイアウトの並べ替え] ボタンをクリックします。これで、テスト間の依存関係が表示されます。



### 拡大表示

倍率を上げて図を拡大表示するには、[拡大表示] ボタンをクリックします。



### 縮小表示



倍率を下げて図を縮小表示するには、**[縮小表示]** ボタンをクリックします。

### 画像をウィンドウに合わせる



ウィンドウの大きさに合わせて図を再表示するには、**[画像をウィンドウに合わせる]** ボタンをクリックします。また、ボタンの下矢印をクリックして、次の倍率オプションを選択することもできます。

- ▶ **25%**、**50%**、**150%**、または **200%** など、特定の倍率を選択します。
- ▶ 図を 100% の倍率で表示するには、**[標準]** を選択します。
- ▶ 図全体をウィンドウ・サイズいっぱいに表示するには、**[ウィンドウに合わせる]** を選択します。
- ▶ ズーム・レベルを指定するには、**[ユーザ定義のズーム]** を選択します。  
[ユーザ定義のズーム] ダイアログ・ボックスで倍率を入力し、**[ズーム]** をクリックします。

### フローを更新



最新のテストが表示されるように実行フロー図を更新するには、**[Refresh Flow]** ボタンをクリックします。

### テスト完全名の表示

実行フロー図に完全なテスト名を表示するには、**[テスト] > [フロー] > [テスト完全名の表示]** を選択します。標準設定では、長い名前は切り捨てられます。

### クリップボードへコピー

[実行フロー] の図をビットマップ形式でクリップボードにコピーするには、**[テスト] > [フロー] > [クリップボードへコピー]** を選択します。





# 第 30 章

---

## テストの手動実行

手作業でテストを実行する場合、テスト・ステップに従って、テスト対象のアプリケーションを操作します。実際アプリケーションの結果が期待結果と一致しているかどうかによって、各ステップの成功または失敗を判定します。手動テストと自動テストは両方とも手作業で実行できます。

### 本章の内容

- ▶ 手作業によるテストの実行について (433 ページ)
- ▶ 手作業によるテストの実行 (434 ページ)
- ▶ テスト・ステップの編集 (440 ページ)
- ▶ 手動テストの実行の再開 (441 ページ)

## 手作業によるテストの実行について

手作業でテストを実行するには、テスト計画時に定義したテスト・ステップを実行します。

- 1 テスト対象のアプリケーションを操作します。テスト・ステップの説明に詳述されている指示に従います。
- 2 実際の結果を期待結果と比較します。ステップの実行時に、期待結果に従ってアプリケーションが応答しているかどうかを確認します。
- 3 期待結果と実際の結果との一致、不一致によって、成功または失敗というステータスを各ステップに割り当てます。

- 4 ステップが失敗した場合は、アプリケーションから実際にどのような応答があったかを記述しておいてください。1つ以上のステップが失敗すると、テストは失敗となります。

同じセットのテストを何回も実行できます。それぞれの実行が、新しいテスト実行と見なされます。

テストの実行が完了したら、テスト・ラボ・モジュールにテスト結果のサマリを表示できます。それぞれのテスト実行に関する最新のステータスが [実行グリッド] に表示されます。各テスト・ステップの結果は、[最後の実行結果] ウィンドウに表示されます。[テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスでは、さらに詳細な結果を確認できます。テスト結果の表示の詳細については、第32章「テスト結果の表示」を参照してください。

## 手作業によるテストの実行

手作業でテストを実行する場合、テスト・ステップに従って、テスト対象のアプリケーションを操作します。期待結果を実際の結果と比較し、結果を記録します。テストは何回でも実行できます。テスト結果は実行別に保存されます。手動テストと自動テストは両方とも手作業で実行できます。

テストを手作業で実行している間もテスト・ステップを変更できます。変更はテスト計画モジュールで元のテストに、テスト・ラボ・モジュールでテスト・インスタンスに保存するように選択できます。あるいは、現在のテスト実行に対してのみ保存することもできます。詳細については、440 ページ「テスト・ステップの編集」を参照してください。

また、実行中に停止された手動テストの実行を再開することもできます。詳細については、441 ページ「手動テストの実行の再開」を参照してください。

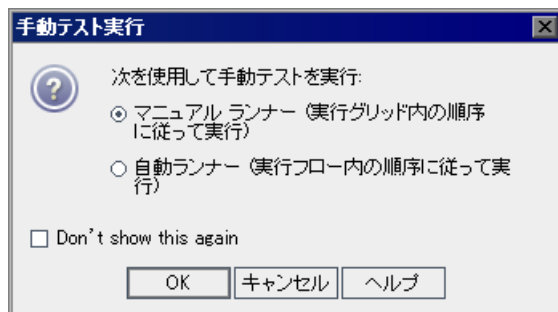
---

**注：** ビジネス・プロセス・テストを実行している場合は、『**HP Business Process Testing User Guide**』（英語版）を参照してください。

---

手作業でテストを実行するには、次の手順を実行します。

- 1 [実行グリッド] タブまたは [実行フロー] タブで、手作業で実行するテストを選択します。
  - ▶ 特定の1つの手動テストを実行するには、対象のテストを選択して [実行] ボタンをクリックします。
  - ▶ 2つ以上の手動テストを実行するには、テストを選択し、[実行] ボタンをクリックします。[手動テスト実行] ダイアログ・ボックスが開きます。



標準設定では、[**マニュアルランナー (実行グリッド内の順序に従って実行)**] オプションが選択されています。このオプションを選択すると、実行グリッドに表示されている順序に従ってテストが実行されます。

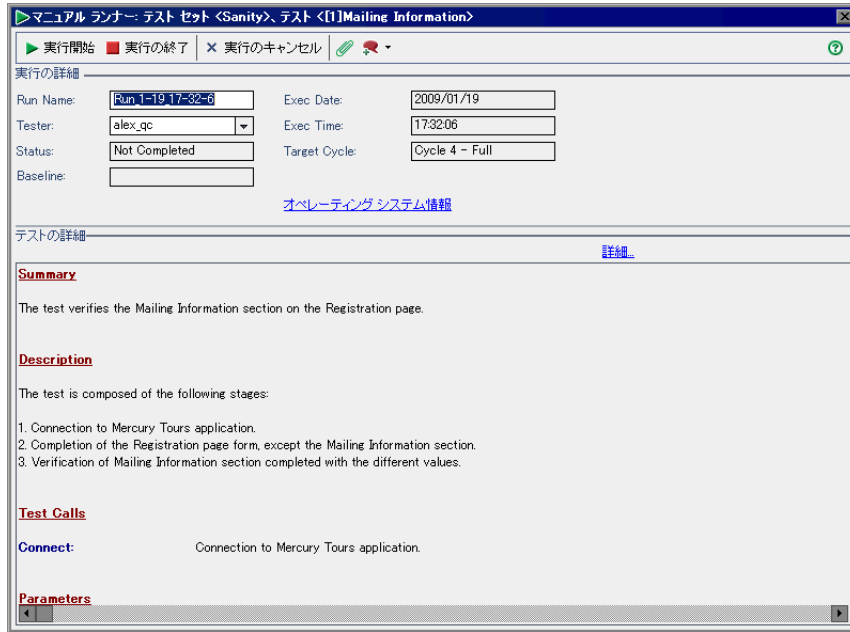
手動テストを自動的に実行するには、[**自動ランナー (実行フルオー内の順序に従って実行)**] を選択します。このオプションを選択すると、実行フローに表示されている順序に従ってテストが実行されます。自動テストの実行の詳細については、444 ページ「テストの自動実行」を参照してください。

次回手動テストを実行するときに [手動テスト実行] ダイアログ・ボックスを表示したくない場合は、[次回から表示しない] を選択します。ダイアログ・ボックスを表示するには、[テスト] > [マニュアル テスト実行の通知を有効にする] を選択します。

[OK] をクリックします。

- ▶ 自動テストを手作業で実行するには、テストを選択してから、[実行] ボタンの矢印をクリックし、[手作業で実行] を選択します。

[マニュアル ランナー] ダイアログ・ボックスが開きます。



2 [実行の詳細] では、次の実行情報を編集できます。

- ▶ [実行名] : テスト実行の名前です。
- ▶ [テスト担当者] : テストを実行したユーザの名前です。

3 オペレーティング・システム情報を表示するには [オペレーティング システム情報] リンクをクリックします。[オペレーティング システム情報] ダイアログ・ボックスが開きます。

次のオペレーティング・システム情報を編集できます。

- ▶ [オペレーティング システム] : テスト・ステップを実行するマシンのオペレーティング・システムです。標準設定では、Quality Center クライアント・マシンのオペレーティング・システムが表示されます。
- ▶ [OS サービス パック] : オペレーティング・システムのサービス・パックです。
- ▶ [OS ビルド番号] : オペレーティング・システムのビルド番号です。

4 [テストの詳細] では、テストに関する詳細を確認できます。[詳細] をクリックすると [テストのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開き、テストの詳細と添付ファイルが表示されます。テストのプロパティの詳細については、第18章「テスト計画ツリーの開発」を参照してください。



5 テストの実行に添付ファイルを追加するには、[実行に添付] ボタンをクリックします。ファイル、URL、アプリケーションのスナップショット、クリップボードからのアイテム、またはシステム情報を添付できます。添付ファイルの詳細については、第5章「添付ファイルの追加」を参照してください。



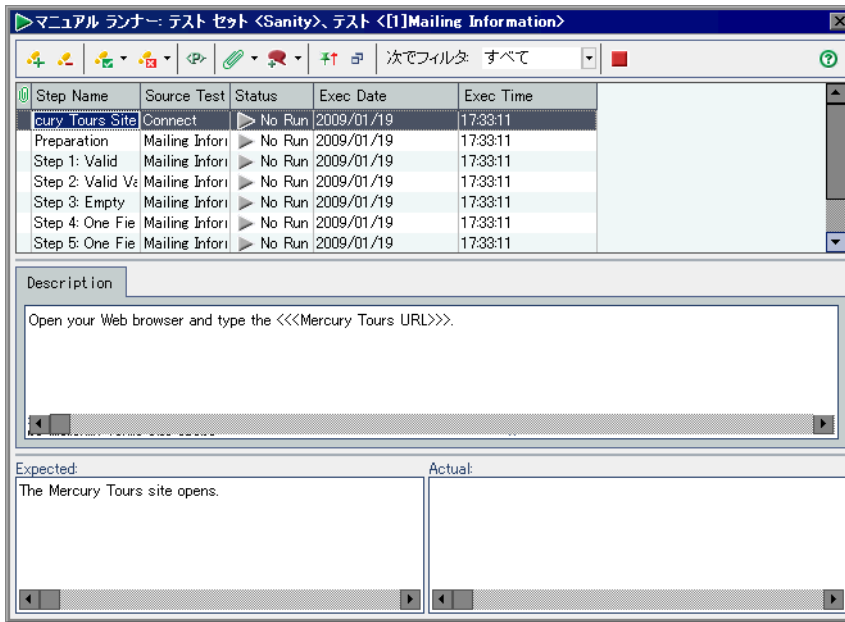
6 テスト実行に不具合を追加するには、[新規不具合] ボタンをクリックします。[新規不具合] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト実行と新しい不具合に自動的にリンクが設定されます。詳細については、第35章「不具合の追加と追跡」および第36章「不具合のリンク」を参照してください。

7 実行をここで終了するには、[実行の終了] ボタン Quality Center をクリックします。テスト実行が保存されます。実行を完全にキャンセルするには、[キャンセル] ボタンをクリックし、[いいえ] ボタンをクリックして確定します。

8 テストの実行を開始するには、[実行開始] ボタンをクリックします。

実行しているテストに実際の値が割り当てられていないパラメータがある場合は、[Parameters of Test Run] ダイアログ・ボックスが表示されます。パラメータの実際の値を割り当てます。詳細については、328 ページ「実際の値の割り当て」を参照してください。

[マニュアルランナー] ダイアログ・ボックスでステップの詳細が表示されます。



[次でフィルタ] では、[ステータス] カラムの値に応じたフィルタを、テスト・ステップに適用できます。



**ヒント**：このダイアログ・ボックスを簡易表示にして、各ステップを確認しながら結果を記録することができます。簡易表示にするには、[コンパクトビュー] ボタンをクリックします。ステップ・グリッドに戻るには、[ステップグリッドへ戻る] ボタンをクリックします。

- 9 テスト・ステップがない場合またはステップを変更する場合は、テストの実行を開始する前にテスト・ステップを編集できます。詳細については、440 ページ「テスト・ステップの編集」を参照してください。



- 10 テスト・パラメータの値を表示するには、[パラメータを表示] ボタンをクリックします。[実行のパラメータ値] ダイアログ・ボックスが開きます。

- 11 テスト対象のアプリケーションを起動し、テストの最初のステップを実行します。



- ▶ 実際の結果が期待結果と同じになった場合は、**[成功を選択]** ボタンをクリックします。ステップに緑色のチェックが付けられ、このステップのステータスが**[成功]**に変わります。(すべてのテスト・ステップをまとめて成功にするには、**[成功を選択]** ボタンの矢印をクリックし、**[すべて成功]**を選択します)。



- ▶ 実際の結果が期待結果と異なる場合は、**[実際]** ボックスに実際の結果を入力し、**[失敗を選択]** ボタンをクリックします。ステップに赤い X 記号が付けられ、このステップのステータスが**[失敗]**に変わります (すべてのテスト・ステップをまとめて失敗にするには、**[失敗を選択]** ボタンの矢印をクリックし、**[すべて失敗]**を選択します)。



- 12 テスト・ステップに添付ファイルを追加するには、**[添付ファイル]** ボタンをクリックします。テスト実行全体に添付ファイルを追加するには、**[添付ファイル]** ボタンの矢印をクリックし、**[実行に添付]**を選択します。添付ファイルの詳細については、第5章「添付ファイルの追加」を参照してください。



- 13 テストの実行中にアプリケーションの不具合を検出した場合は、**[新しい不具合]** ボタンをクリックします。**[新規不具合]** ダイアログ・ボックスが開き、不具合を追加できるようになります。テスト実行と新しい不具合が自動的に関連付けられます。詳細については、493 ページ「新しい不具合の追加」および513 ページ「不具合のリンク」を参照してください。



- 14 開いているすべてのウィンドウの上に**[マニュアルランナー]** ダイアログ・ボックスを表示するには、**[常に手前に表示]** ボタンをクリックします。**[マニュアルランナー]** ダイアログ・ボックスの上に選択したウィンドウを表示するには、**[手前に表示しない]** ボタンをクリックします。



- 15 残りのステップを実行します。






- 16 テスト実行を完了する場合、またはテスト実行を停止するには、**[実行の終了]** ボタンをクリックします。実行中に停止した手動テストの実行を再開するには、441 ページ「手動テストの実行の再開」を参照してください。

## テスト・ステップの編集

[マニユアルランナー]でのテスト実行中に、[マニユアルランナー]ダイアログ・ボックスでは、テスト・ステップの追加、削除、変更を行うことができます。テスト実行が終了したら、デザイン・ステップを保存して、変更内容を反映させることができます。

テスト・ステップを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 [マニユアルランナー]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、434 ページ「手作業によるテストの実行」を参照してください。
- 2  テスト・ステップを追加するには、[**ステップの追加**] ボタンをクリックします。標準設定のステップ名の付いた新しいステップが追加されます。[**詳細**] ボックスに、新しいステップに関する詳細を入力できます。
- 3  選択した1つ以上のステップを削除するには、[**選択範囲の削除**] ボタンをクリックし、[**はい**] をクリックして確定します。
- 4  ダイアログ・ボックスを閉じるには、[**実行の終了**] ボタンをクリックします。メッセージ・ボックスが表示されます。
- 5 [**はい**] をクリックすると、変更が保存され、テスト計画およびテスト・ラボ・モジュールのテストが更新されます。[**いいえ**] をクリックすると、現在のテスト実行に対してのみ変更が保存されます。

テスト・ラボ・モジュールでは、呼び出し先のテストに加えられた変更を現在のテストにおいてのみ更新できます。呼び出し先のテストは、何の影響も受けません。呼び出し先のテストの詳細については、313 ページ「デザイン・ステップの管理」を参照してください。



## 手動テストの実行の再開

実行中の手動テストを一時停止した場合、後で実行を再開することができます。

---

**注：** [手作業実行の続行] コマンドを使用すると、最後に実行していたテストを再開できます。前回の実行を再開するには、[**テストインスタンスのプロパティ**] ボタンをクリックし、サイドバーの [**すべての実行**] を選択し、再開するテストを選択します。[**続行**] ボタンをクリックします。

---

手動テストの実行を再開するには、次の手順を実行します。

- 1 [実行グリッド] タブまたは [実行フロー] タブで、実行を再開するテストを選択します。
- 2 [テスト] > [**手作業実行の続行**] を選択します。または、[実行] ボタンの矢印をクリックし、[**手作業実行の続行**] を選択します。選択したテストの [マニユアルランナー] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 テストの実行を続行します。



# 第 31 章

---

## テストの自動実行

テストを直接 Quality Center から自動的に実行できます。テストは、自分のマシンでもリモート・ホストでも実行できます。

### 本章の内容

- ▶ テストの自動実行について (443 ページ)
- ▶ テストの自動実行 (444 ページ)
- ▶ 実行ログの表示 (448 ページ)
- ▶ テストのリモート実行のためのホストの設定 (449 ページ)
- ▶ 実行グリッドのテストの順序の設定 (452 ページ)
- ▶ 実行グリッドでの値の検索と置換 (453 ページ)

## テストの自動実行について

テストは、自分のマシンやリモート・ホストで自動的に実行できます。「**ホスト**」とは、テスト・ツールがすでにインストールされ、ネットワークに接続されているマシンのことです。

実行するテストは、[実行グリッド] タブまたは [実行フロー] タブから選択できます。テスト・セット内のすべてのテストを実行することも、特定のテストを実行することもできます。また、自動テストと手動テストの両方を含めることもできます。選択したテストは、[自動ランナー] ダイアログ・ボックスに表示されます。

自動テストを実行すると、選択されているテスト・ツールが Quality Center によって自動的に起動され、ローカル・マシンまたはリモート・ホストでこのテストが実行され、結果が Quality Center にエクスポートされます。

[自動ランナー] ダイアログ・ボックスから手動テストを実行すると、指定したホストでテストを実行するよう、指定したテスト責任者宛に電子メールで通知が送られます。

また、システム情報の取得、デスクトップ画像のキャプチャ、またはマシンの再起動を行う自動システム・テストも実行できます。システム・テストの詳細については、第23章「システム・テストの活用」を参照してください。

## テストの自動実行

自動テストを実行すると、対応するテスト・ツールが自動的に起動され、テストが実行され、テストの結果が **Quality Center** にエクスポートされます。手動テストを実行すると、手動テストを実行するよう求める電子メールが指定のテスト責任者に送信されます。

テスト・セット全体を実行することも、自動か手動かを問わず特定のテストを実行することもできます。選択したテストは、[自動ランナー] ダイアログ・ボックスに表示されます。

テストを自動実行するときは、次の点を考慮します。

- ▶ リモート・ホストでテストを実行する前に、まず [ホスト マネージャ] ダイアログ・ボックスでホストのセット・アップを行います。詳細については、449 ページ「テストのリモート実行のためのホストの設定」を参照してください。
- ▶ 同一内容のテストを複数のリモート・ホストで実行するには、テスト・セットにテストの複数のインスタンスを追加します。詳細については、399 ページ「テスト・セットへのテストの追加」を参照してください。
- ▶ いくつかのテスト・セットを複数のリモート・ホストで同時に実行するには、テスト・セットの数だけ [自動ランナー] ダイアログ・ボックスを開きます。
- ▶ **Quality Center** を使用してリモート・ホストで **QuickTest Professional** テストまたは **WinRunner** テストを実行するには、対応するアプリケーションをリモート・ホスト上で起動し、必要なオプションを選択します。詳細については、『**HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド**』または『**HP WinRunner ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

- ▶ バッチ・モードで WinRunner テストを実行する場合、バッチ・テストから呼び出される各テストは、バッチ・テストの一部ではなく、個別のテストとみなされます。テスト・セットに含まれていないバッチ・テストから呼び出されたテストは、テスト実行の最後にテスト・セットに追加されます。

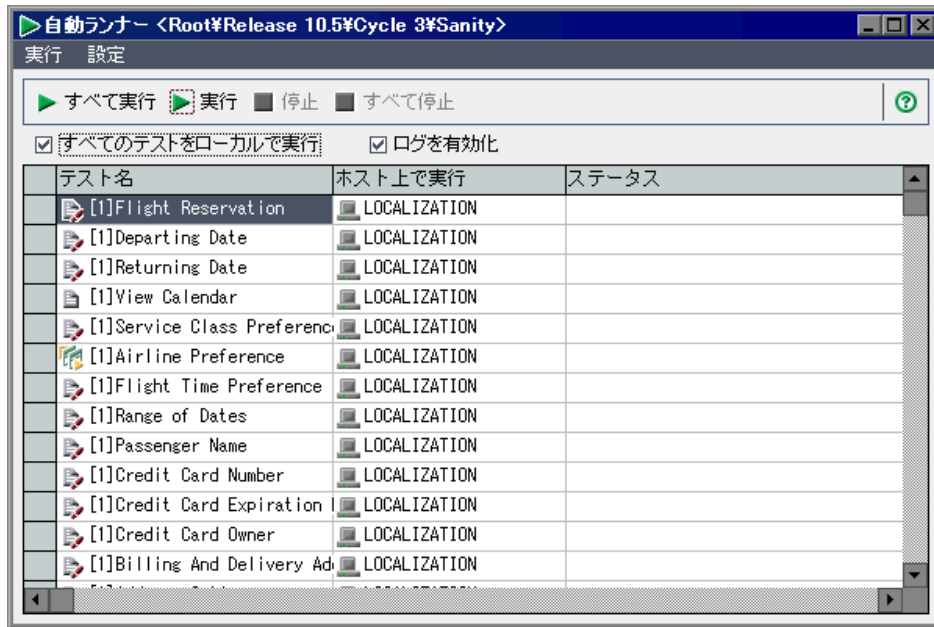
QuickTest Professional のユーザは、次の点を考慮します。

- ▶ QuickTest テストを実行する前に、Quality Center は選択されたテストに関連付けられている QuickTest アドインを読み込みます。テストは、必要な QuickTest アドインがインストールされているマシンで実行する必要があります。アドインを使用した作業および QuickTest の関連アドイン・リストの詳細については、QuickTest Professional のドキュメント、および関連する QuickTest アドインのドキュメントを参照してください。
- ▶ テスト・ラボ・モジュールから QuickTest Professional テストを実行する場合、テストは自動的に **Fast** モードで実行されます。**Normal** モードで実行することはできません。

テストを自動で実行するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・セット・ツリーまたはテスト・セット・グリッドからテスト・セットを選択します。
- 2 テストを実行するための条件の設定や、実行の日付や時刻のスケジュール設定が行えます。また、テストの実行順序を設定することもできます。詳細については、第29章「テスト実行のスケジュール」を参照してください。
- 3 テスト・セットのテストをすべて実行することも、特定のテストを選択して実行することもできます。
  - ▶ テスト・セットを実行するには、[実行グリッド] タブまたは [実行フロー] タブで [テストセットの実行] ボタンをクリックします。または、[テストセット] > [テストセットの実行] を選択します。
  - ▶ 選択したテストを実行するには、[実行グリッド] タブまたは [実行フロー] タブで1つ以上のテストを選択し、[実行] ボタンをクリックします。または、[テスト] > [実行] を選択します。

[自動ランナー] ダイアログ・ボックスが開き、テストが表示されます。



4 テストはローカルでもリモートでも実行できます。

- ▶ テストをローカルで実行するには、[すべてのテストをローカルで実行] チェック・ボックスを選択します。
- ▶ テストをリモートで実行するには、[すべてのテストをローカルで実行] チェック・ボックスをクリアします。この場合、実行するテストごとにホスト・マシンを選択する必要があります。[ホスト上で実行] グリッド・ボックスをクリックし、参照ボタンをクリックします。[ホストの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。<任意のホスト>で、テストを実行するホストを選択できます。

あるいは、ホスト・グループを選択することもできます。ホスト・グループを選択した場合、グループの中で最初の利用可能なホストでテストが実行されます。グループのすべてのホストで実行されるわけではありません。

5 テストの実行中に実行ログ・ファイルが作成されるように Quality Center を設定するには、[ログを有効化] チェック・ボックスを選択します。詳細については、448 ページ「実行ログの表示」を参照してください。

- 6 **[実行]** をクリックすると、選択したテストが実行されます。**[すべて実行]** をクリックすると、**[自動ランナー]** ダイアログ・ボックスのすべてのテストが実行されます。

自動テストの場合には、選択されているテスト・ツールが Quality Center によって自動的に起動され、テストが実行されます。テストの実行は、選択したホストでのテストの実行が可能な状態になった場合にのみ開始されます。

手動テストの場合、指定されているテスト責任者にテストの実行を求める電子メールが送信されます。この通知は、そのテストに対して、有効な電子メール・アドレスを持つテスト責任者が指定されている場合にのみ送信できます。テスト責任者を指定するには、**[実行グリッド]** タブでテストを指定し、**[テスト責任者]** カラムにマウス・ポインタを置き、矢印ボタンをクリックします。リストから名前を選択します。

**[ステータス]** カラムには、テスト実行の進行状況が表示されます。

- 7 完了する前にテストの実行を終了する場合は、**[停止]** をクリックします。
- 8 テスト実行を開始する前に **[ログを有効化]** を選択してある場合 (5 を参照)、**[実行]** > **[実行ログの表示]** を選択することで、実行ログを閲覧できます。詳細については、448 ページ「実行ログの表示」を参照してください。
- 9 **[実行]** > **[終了]** ボタンを選択し、**[自動ランナー]** ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 10 テストの実行が完了すると、Quality Center でテスト結果のサマリを表示できます。それぞれのテスト実行に関する最新のステータスが **[実行グリッド]** タブに表示されます。各テスト・ステップの結果は、**[最後の実行結果]** ウィンドウに表示されます。**[テストインスタンスのプロパティ]** ダイアログ・ボックスでは、さらに詳細な結果を確認できます。テスト結果の詳細については、第32章「テスト結果の表示」を参照してください。

## 実行ログの表示

実行ログには、プロジェクト名、ユーザ名、テスト・セット名などの、実行済みのテストに関する詳細が含まれます。このログには、各テストの実行の日付と時刻および実行ホストと説明が含まれます。

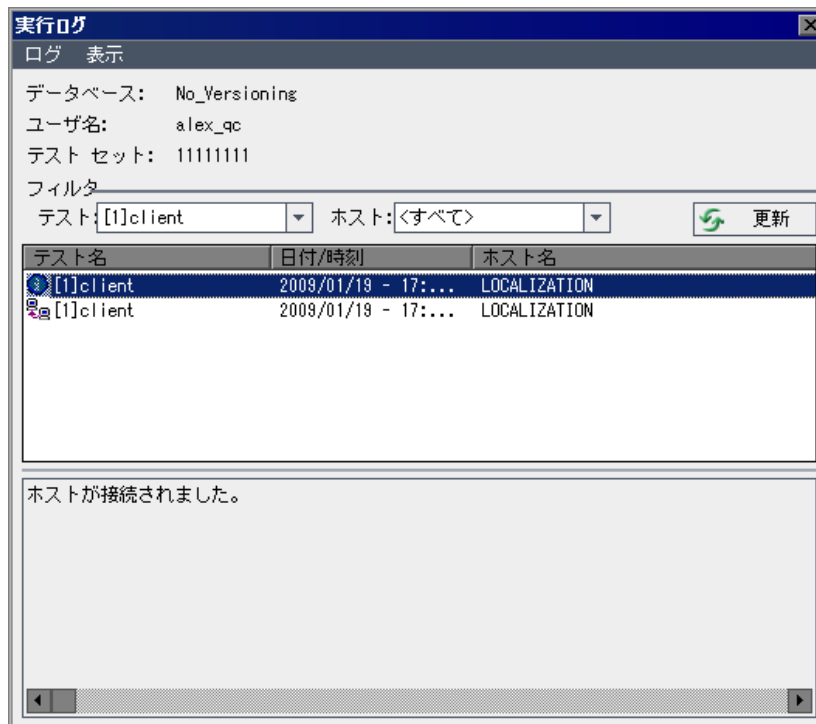
---

**注：**実行ログは、テストを実行する前に、[自動ランナー] ダイアログ・ボックスの [ログを有効化] チェック・ボックスを選択した場合にのみ表示できます。詳細については、446 ページの手順 5 を参照してください。

---

実行ログを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 テストの実行が完了したら、[自動ランナー] ダイアログ・ボックスで [実行] > [実行ログの表示] を選択します。[実行ログ] ダイアログ・ボックスが開きます。





- 2 実行ログをフィルタ処理するには、次の手順を実行します。
  - ▶ **[テスト]** リスト・ボックスでテストを選択し、**[更新]** ボタンをクリックします。
  - ▶ **[ホスト]** リスト・ボックスでホストを選択し、**[更新]** ボタンをクリックします。
- 3 **[ログ]** > **[開く]** を選択し、別の実行ログ・ファイルを表示します。
- 4 **[ログ]** > **[削除]** ボタンをクリックし、実行ログを削除します。**[はい]** ボタンをクリックして、確定します。
- 5 **[ログ]** > **[終了]** ボタンをクリックし、**[実行ログ]** を閉じます。

## テストのリモート実行のためのホストの設定

ネットワークに接続されている任意のホストでテストを実行できます。**[ホストマネージャ]** ダイアログ・ボックスでは、テスト実行に使用できるホストのリストを作成できます。また、特定のプロジェクト用にホストをグループ化することもできます。

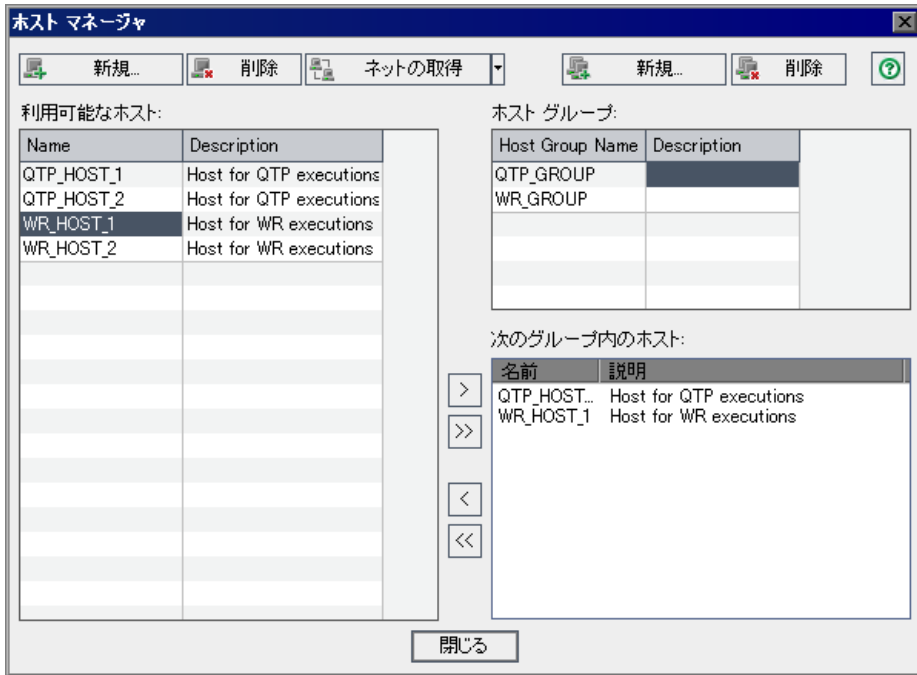
---

**注：**リモート・テスト実行用にホスト・グループを指定した場合、ホスト・グループのすべてのホストではなく、最初に利用可能なホストでテストが実行されます。

---

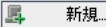

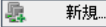



リモート・テスト実行用にホストを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [テストセット] > [ホストマネージャ] を選択します。[ホストマネージャ] ダイアログ・ボックスが開きます。



**ネットの取得** [利用可能なホスト] リストにホストが表示されていない場合には、[ネットの取得] ボタンをクリックします。[ネットワーク コンピュータ] フォルダが検索され、検出された各ホストが [利用可能なホスト] リストに挿入されます。

[利用可能なホスト] リスト内のホストを [ネットワーク コンピュータ] フォルダ内のホストと同期させるには、[ネットの取得] の矢印ボタンをクリックし、[プロジェクト ホストをネットワーク ホストと同期化] を選択します。[ネットワーク コンピュータ] フォルダの中に見つかったホストが追加され、[ネットワーク コンピュータ] フォルダに存在しないホストは削除されます。

-  2 **[利用可能なホスト]** リストにホストを追加する場合は、**[新規ホスト]** ボタンをクリックします。**[ホストの新規作成]** ダイアログ・ボックスが開きます。**[ホスト名]** ボックスに、ホスト・マシンの名前を入力します。**[説明]** ボックスに、ホストの説明を入力します。**[OK]** をクリックします。
-  3 **[利用可能なホスト]** からホストを削除する場合は、ホストを選択して **[ホストの削除]** ボタンをクリックします。**[はい]** ボタンをクリックして、確定します。
-  4 ホスト・グループを作成するには、**[ホストグループの新規作成]** ボタンをクリックします。**[ホストグループの新規作成]** ダイアログ・ボックスが開きます。**[グループ名]** ボックスに、ホスト・グループの名前を入力します。**[説明]** ボックスに、ホスト・グループの説明を入力します。**[OK]** をクリックします。
-  5 ホスト・グループにホストを追加するには、**[ホストグループ]** リストからグループを選択します。**[利用可能なホスト]** リストからホストを選択し、**[ホストグループへホストの追加]** ボタンをクリックします。あるいは、グループをダブルクリックします。
-  6 ホスト・グループからホストを削除するには、**[ホストグループ]** リストからグループを選択します。**[次のグループ内のホスト]** リストからホストを選択します。**[ホストグループからホストの削除]** ボタンをクリックします。
-  7 ホスト・グループを削除するには、**[ホストグループ]** リストからグループを選択します。**[ホストグループの削除]** ボタンをクリックします。**[はい]** ボタンをクリックして、確定します。
- 8 **[閉じる]** をクリックして **[ホストマネージャ]** ダイアログ・ボックスを閉じます。

## 実行グリッドのテストの順序の設定

実行グリッドのテストの順序を変更することができます。Quality Center では、ホストのタイプ別にテストがグループ分けされ、指定した順序に従って実行されます。たとえば、テストの順序が **test1**、**test2**、**test3** となっている場合、**test1** と **test3** が同一ホストで実行するよう設定される場合はこれらを先に実行し、その後で、別のホストで **test2** が実行されます。

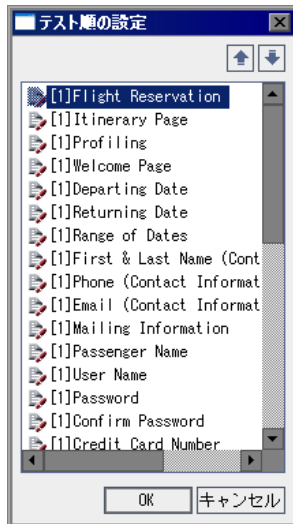
---

**注：**テストの実行順を指定すると、Quality Center による実行フローの確認がま  
ず行われます。実行グリッドで指定した順序は、実行フローで何の条件も設定  
されていない場合にのみ使用されます。[実行フロー] でのテストのスケ  
ジュールの詳細については、第 29 章「テスト実行のスケジュール」を参照し  
てください。

---

[実行グリッド] でテスト順を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [テスト] > [テスト順の設定] を選択します。[テスト順の設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 リストからテストを選択し、上矢印または下矢印をクリックしてリスト中のテストの位置を変更します。

---

ヒント：テストをドラッグして上下に移動することもできます。

---

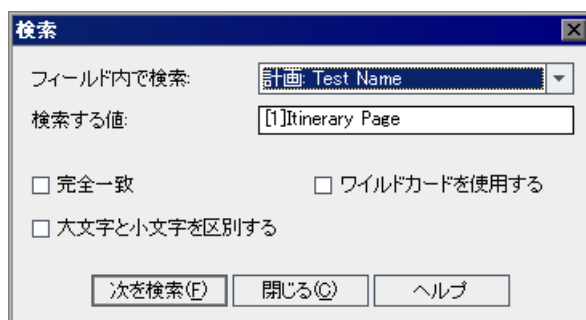
- 3 [OK] をクリックします。

## 実行グリッドでの値の検索と置換

[実行グリッド] で、フィールド値を検索および置換することができます。

値を検索するには、次の手順を実行します。

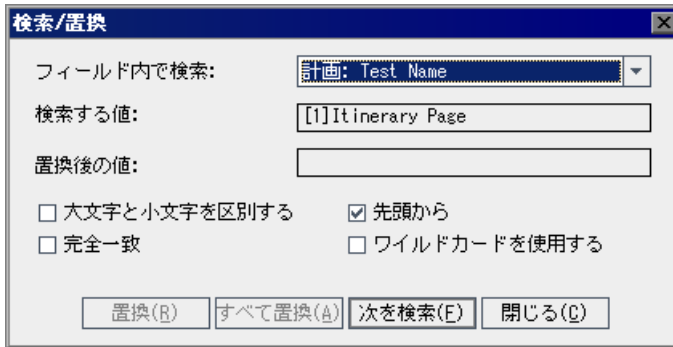
- 1 [テスト] > [検索] を選択します。[検索] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 [フィールド内で検索] ボックスで、特定の値を検索するカラムを選択します。
- 3 [検索する値] ボックスで、検索する値を入力または選択します。
- 4 [正確な一致] を選択すると、完全に一致する値を検索できます。
- 5 [大文字と小文字を区別する] を選択すると、大文字と小文字を区別して検索を実行できます。
- 6 項目の一部のみを入力するために、検索文字列にアスタリスク (\*) 文字を使用する場合は、[ワイルドカードを使用する] を選択できます。
- 7 [次を検索] をクリックします。指定した値を持つテストがないか検索されます。検索が成功すると、[実行グリッド] にテストが強調表示されます。検索が正しく行われなかった場合は、情報ボックスが開きます。

値を置換するには、次の手順を実行します。

- 1 **[テスト]** > **[置換]** を選択します。**[検索 / 置換]** ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 **[フィールド内で検索]** ボックスで、特定の値を検索するカラムを選択します。
- 3 **[検索する値]** ボックスで、検索する値を入力または選択します。
- 4 **[置換後の値]** ボックスで、置換後のフィールド値を入力または選択します。
- 5 **[大文字と小文字を区別する]** を選択すると、大文字と小文字を区別して検索を実行できます。
- 6 **[正確な一致]** を選択すると、完全に一致する値を検索できます。
- 7 **[先頭から]** を選択すると、**[実行グリッド]** の先頭から検索できます。
- 8 項目の一部のみを入力するために、検索文字列にアスタリスク (\*) 文字を使用する場合は、**[ワイルドカードを使用する]** を選択できます。
- 9 置換するには、次の操作を行います。
  - ▶ 見つかった項目を置換して次を検索するには、**[置換]** をクリックします。
  - ▶ 実行グリッドで一致する項目をすべて置換するには、**[すべて置換]** をクリックします。

# 第 32 章

---

## テスト結果の表示

テスト・インスタンスの実行後、テスト結果を分析して、失敗したテスト・インスタンスおよび失敗の原因となったステップを特定します。

### 本章の内容

- ▶ テスト結果の表示について (456 ページ)
- ▶ テスト結果の表示 (457 ページ)
- ▶ テスト実行の詳細の表示 (460 ページ)
- ▶ すべての実行結果の比較 (462 ページ)
- ▶ テスト実行の設定の表示 (465 ページ)
- ▶ リンクされている不具合の表示 (470 ページ)
- ▶ テスト実行の履歴の表示 (472 ページ)

## テスト結果の表示について

テスト・インスタンスの実行後、Quality Center で結果を表示できます。テスト結果は、テスト・インスタンス全体の成功または失敗ステータスとテスト・インスタンスの各ステップの成功または失敗ステータスで構成されます。これらの結果は、アプリケーションで不具合が検出されたかどうかを判断するときに役立ちます。場合によっては、ステップが失敗したのは期待結果がもはや無効で、更新の必要があるためと結論することも考えられます。

手動テストおよび自動テストの実行後、結果とテストの一般的な情報を [実行グリッド] に表示できます。[テスト インスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスを使って、テスト実行の詳細の表示、最新のテスト実行結果と前回の実行結果との比較、添付ファイルの管理、テスト実行の設定情報の表示、リンクが設定されている不具合の表示、およびテスト実行の変更履歴の表示を行います。

---

**注：**システム・テスト結果の表示の詳細については、第 23 章「システム・テストの活用」を参照してください。

---

また、定期的に行う実行レポートとグラフを生成することによって、テスト・セットの進行状況を分析できます。詳細については、第 42 章「標準レポートの作成」、第 41 章「グラフの作成」、および第 44 章「ライブ・アナリシス・グラフの作成」を参照してください。



## テスト結果の表示

[テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスでは、テスト結果を確認できます。

テスト結果を表示するには、次の手順を実行します。



- 1 実行グリッドで、テストをダブルクリックするか、テスト・インスタンスを選択して **[テストインスタンスのプロパティ]** ボタンをクリックします。[テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。標準設定では、[すべての実行] ビューが表示されます。

実行フローの場合は、テスト・インスタンスを右クリックし、**[テストインスタンスのプロパティ]** を選択します。[テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。標準設定では、[詳細] ビューが表示されます。

テスト名: [1]Flight Reservation      サイクル: Cycle 4 - Full      テストの種類: MANU

実行の表示: すべて

Run Name	Status	Change Status	Host	Duration	Exec Date
3-13 14-54-3	Passed		ADVM-LSV-XI02		2006/07/20

Step Name	Status	E
Connect to Mercury	Passed	2
Sign-On to Mercury	Passed	2
Find Flight	Passed	2
Select Flight	Passed	2

ステップ詳細  
**Description:**  
 Open your Web browser and type the <<<Mercury  
**Expected:**  
 The Mercury Tours site opens

閉じる

- 2 サイドバーのビューをクリックします。[テスト インスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスには次のビューが表示されます。

ビュー	説明
詳細	テスト・インスタンスの実行の詳細が表示されます。詳細については、460 ページ「テスト実行の詳細の表示」を参照してください。
すべての実行	すべてのテスト実行の結果が表示されます。詳細については、462 ページ「すべての実行結果の比較」を参照してください。
添付ファイル	テスト・インスタンスの添付ファイルが表示されます。テスト計画中にテストに追加された添付ファイルも表示されません。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。
設定	テスト・インスタンス実行の設定が表示されます。詳細については、465 ページ「テスト実行の設定の表示」を参照してください。
リンクされている不具合	<p>テスト・インスタンスに対してリンクが設定されている不具合および要件カバレッジが表示されます。詳細については、470 ページ「リンクされている不具合の表示」を参照してください。</p> <p><b>注：</b>テスト・インスタンスと要件の間のカバレッジが、<b>ALLOW_REQ_COVERAGE_BY_TEST_INSTANCE</b> パラメータで有効の場合、[リンクされている不具合] ビューの代わりに [リンク関係とカバレッジ] ビューを利用できます。[リンク関係とカバレッジ] ビューには、テスト・インスタンスに対するリンクされている不具合と要件カバレッジが表示されます。このパラメータの詳細については、『<b>HP Quality Center Administrator Guide</b>』（英語版）を参照してください。要件カバレッジの詳細については、293 ページ「要件のテストへのリンク」を参照してください。</p>
履歴	テスト・インスタンスの変更履歴が表示されます。詳細については、472 ページ「テスト実行の履歴の表示」を参照してください。



3 **[最初のテスト]** ボタンをクリックすると、現在の実行グリッドの最初のテスト・インスタンスが表示されます。**[前のテスト]** ボタンをクリックすると、現在の実行グリッドの前のテスト・インスタンスが表示されます。



4 **[次のテスト]** ボタンをクリックすると、現在の実行グリッドの次のテスト・インスタンスが表示されます。**[最後のテスト]** ボタンをクリックすると、現在の実行グリッドの最後のテスト・インスタンスが表示されます。



5 **[フォローアップフラグ]** ボタンをクリックすると、テスト・インスタンスのフォローアップ・フラグを追加または変更できます。詳細については、第4章「変更発生時の警告」を参照してください。



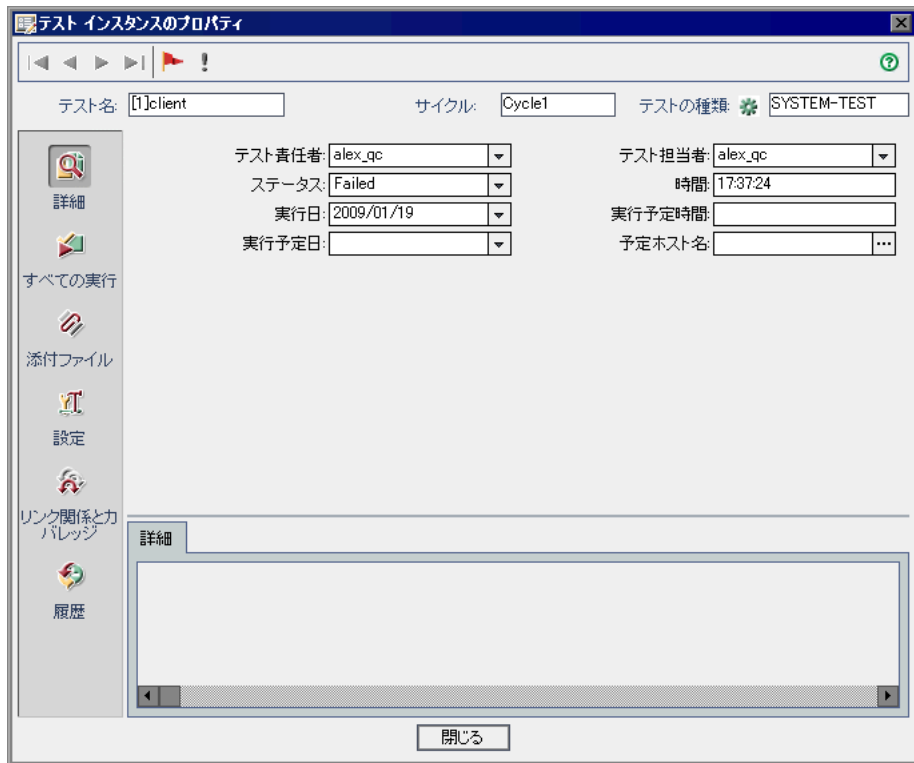
6 テスト・インスタンスに警告がある場合、**[警告]** ボタンをクリックして**[警告]** ダイアログ・ボックスを開くことができます。詳細については、82ページ「警告の表示」を参照してください。

## テスト実行の詳細の表示

【詳細】ビューで、テスト・インスタンスの実行の詳細を表示できます。

テスト実行の詳細を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [テスト インスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、457 ページ「テスト結果の表示」を参照してください。
- 2 [テスト インスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスで、サイドバーの【詳細】をクリックします。



## 3 [詳細] ビューでは、次のテスト情報を確認できます。

オプション	説明
詳細	テストの説明。
実行日	テストが最後に実行された日付。
実行予定時間	テストの実行が予定されていた時刻。
テスト責任者	テストを最後に実行したユーザの名前。
実行予定日	テストの実行が予定されていた日付。
予定ホスト名	テストの実行が予定されていたマシンの名前または IP アドレス。
ステータス	<p>テストの現在のステータス。テストのステータスは、次のいずれかになります。</p> <p><b>失敗</b>：テスト実行が失敗しました。</p> <p><b>N/A</b>：テストの現在のステータスは不明です。</p> <p><b>実行なし</b>：テストが実行されていません。</p> <p><b>未完了</b>：テスト実行は完了しませんでした。</p> <p><b>成功</b>：テスト実行が成功しました。</p>
テスト担当者	テストを実際に実行しているユーザの名前。
時間	テストを最後に実行した時刻。

テスト情報を変更すると、変更した内容が [実行グリッド] に反映されます。

---

**注**：[詳細] タブの任意のフィールドのラベルを変更できます。また、[詳細] ビューにユーザ定義フィールドを追加することもできます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

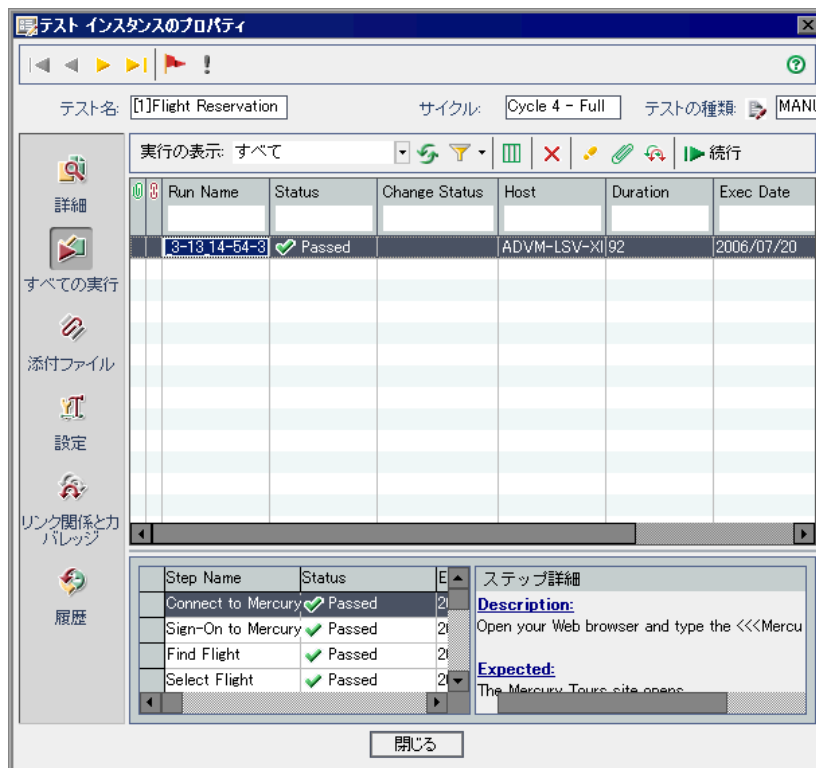
---

## すべての実行結果の比較

Quality Center では、テスト実行の結果を前回の実行の結果と比較できます。  
 [すべての実行] ビューでは、選択したテスト・インスタンスのすべての実行に対して、実行の詳細とステップの結果を表示できます。

テストのすべての実行結果を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、457 ページ「テスト結果の表示」を参照してください。
- 2 [テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスで、サイドバーの [すべての実行] をクリックします。



- 3 特定のステータスの実行レコードを表示するには、[実行の表示] リストからステータスを選択します。



4 実行レコードのフィルタ処理、並べ替え、またはグループ分けを行うには、**[フィルタ / 並べ替えの設定]** ボタンをクリックします。レコードのフィルタ処理、並べ替え、およびグループ分けの詳細については、第3章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。フィルタを設定すると、グリッドの上に説明が表示されます。



5 実行レコードに適用されているフィルタまたは並べ替えをクリアするには、**[フィルタ / 並べ替えの設定]** 矢印をクリックして、**[フィルタ / 並べ替えのクリア]** を選択します。



6 グリッドを更新し、選択したフィルタに基づいて最新の実行を表示するには、**[更新]** ボタンをクリックします。



7 グリッドのカラムの表示形式と順序を設定するには、**[カラムの選択]** ボタンをクリックします。**[カラムの選択]** ダイアログ・ボックスの詳細については、52 ページ「カラムの配置」を参照してください。



8 グリッドから実行を削除するには、実行を選択し、**[選択範囲の削除]** ボタンをクリックします。**[はい]** ボタンをクリックして、確定します。



9 実行のテスト・ステップを表示するには、実行を選択し、**[実行ステップを表示]** ボタンをクリックします。**[実行ステップ]** ダイアログ・ボックスに、ステップの説明、期待結果、および実際の結果が表示されます。テスト・ステップの詳細については、第20章「テストの作成」を参照してください。



10 テスト実行に添付ファイルを追加するには、実行を選択し、**[添付ファイル]** ボタンをクリックします。**[添付ファイル]** ダイアログ・ボックスが表示されます。添付ファイルの詳細については、第5章「添付ファイルの追加」を参照してください。



11 実行に不具合のリンクを追加するには、実行を選択し、**[リンクされている不具合]** をクリックします。**[リンクされている不具合]** ダイアログ・ボックスが開きます。不具合のリンクに関する詳細については、第36章「不具合のリンク」を参照してください。

12 前の実行を再開するには、実行を選択し、**[続行]** ボタンをクリックします。

- 13 自動テスト・インスタンスの場合、次のボタンまたはリンクのいずれかをクリックできます。

ボタン/リンク	テストのタイプ	説明
 LR Analysis	<b>LR-SCENARIO</b>	結果が LoadRunner Analysis に表示されます。
 Launch Report	<b>QUICKTEST-TEST</b>	QuickTest Professional でレポートが開き、表示されます。  HP Quality Center アドイン・ページから QuickTest Professional アドインをインストールしている場合のみ、[レポートの起動] ボタンが有効になります。アドインのインストールの詳細については、『 <b>HP Quality Center インストール・ガイド</b> 』を参照してください。
収集されたシステム情報 キャプチャしたデスクトップ画像	<b>SYSTEM-TEST</b>	[ <b>収集されたシステム情報</b> ] リンクでは [システム情報] ダイアログ・ボックスが表示されます。  [ <b>キャプチャしたデスクトップ画像</b> ] リンクではキャプチャされた画像が開きます。  システム/テストの表示に関する詳細については、342 ページ「システム・テスト結果の表示」を参照してください。
 View Report	<b>WR-AUTOMATED</b> または <b>WR-BATCH</b>	WinRunner でレポートが開き、表示されます。



## テスト実行の設定の表示

手動テスト・インスタンスまたは自動テスト・インスタンスのテスト・パラメータ値の表示および設定は、**[設定]** ビューで行います。このビューでは、自動テスト・インスタンスの失敗時のルールの表示および編集もできます。

本項の内容

- ▶ 手動テスト・インスタンスのパラメータ値の設定
- ▶ 自動テストのパラメータの設定
- ▶ テスト実行イベントの表示

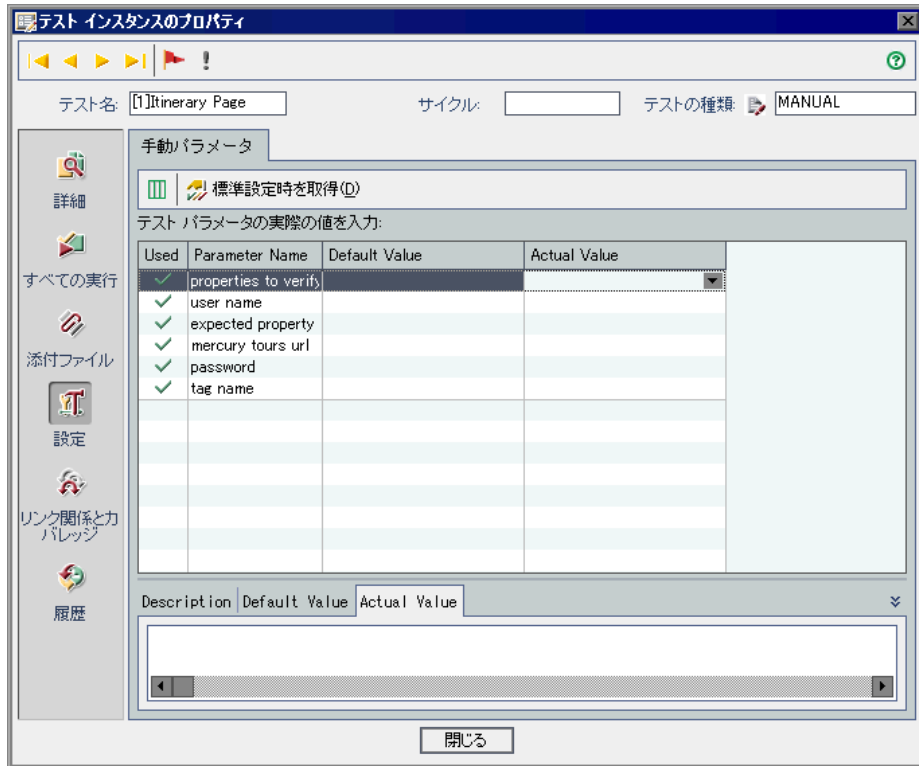
### 手動テスト・インスタンスのパラメータ値の設定

手動テスト・インスタンスに対して実際のパラメータ値を設定できます。テスト・インスタンスでパラメータに対して割り当てる実際の値は、テスト・インスタンスのすべてのテスト実行に使用されます。

手動テスト・インスタンスに対するパラメータ値を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、457 ページ「テスト結果の表示」を参照してください。

- 2 [テスト インスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスで、サイドバーの [設定] をクリックします。[手動パラメータ] タブが開きます。タブには、実際の値をまだ割り当てられていない呼び出し先のテストのパラメータなど、テスト・ステップで使用されるすべてのテスト・パラメータが表示されます。



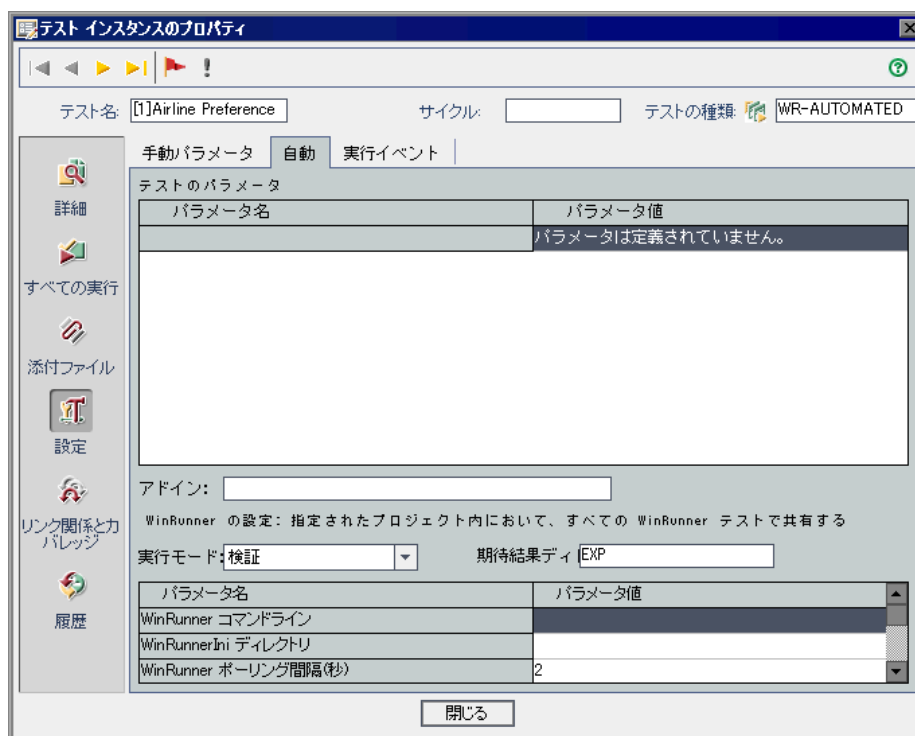
- 3 [実際の値] カラムで、テスト実行中にパラメータに使用される値を入力します。入力を開始すると、テキスト・ボックスが開きます。[OK] をクリックして値を保存します。
- 4 パラメータの標準設定値を実際の値として使用するには、パラメータを選択して [標準設定時を取得] ボタンをクリックします。現在の「実際の値」が「標準設定値」に置き換えられます。

## 自動テストのパラメータの設定

設定ビューでは、自動テスト・インスタンスのパラメータ値やその他の設定オプションを設定できます。

自動テストのパラメータおよびその他の設定オプションを設定するには、次の手順を実行します

- 1 [テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、457 ページ「テスト結果の表示」を参照してください。
- 2 [テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスで、サイドバーの**[設定]** をクリックし、**[自動]** タブをクリックします。



- 3 **[パラメータ値]** カラムでは、各パラメータの値を確認したり、編集したりできます。パラメータを変更した場合、その変更は次のテスト実行時に反映されます。

---

**注：** [WinRunner コマンドライン] パラメータを指定する場合、パスを二重引用符で囲んで指定する必要があります。例を次に示します。

-ini "C:¥program files¥wrun.ini"

---

- 4 実行する自動テストのタイプによっては、その他の設定オプションを使用できる場合があります。詳細については、該当する自動テストのユーザ・ガイドを参照してください。

### テスト実行イベントの表示

[**実行イベント**] タブを使用して自動テスト・インスタンスの失敗時のルールを表示および変更できます。これらのルールに基づいて、テスト・インスタンスが失敗した場合の動作が Quality Center に指示されます。指示される動作には、テスト・インスタンスの再実行回数やテスト・インスタンスの再実行前に実行すべきクリーンアップ・テストなどが含まれます。

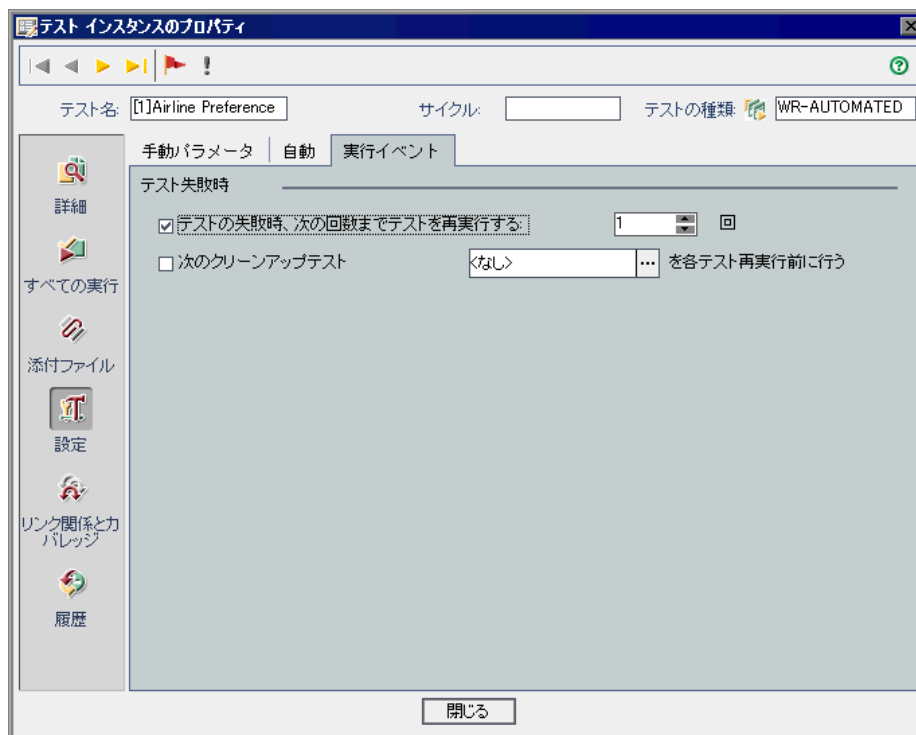
---


#### 注：

- ▶ [**実行イベント**] ビューで失敗時のルールを変更した場合、変更内容は次のテスト実行時に反映されます。
  - ▶ また、テストに対する失敗時のルールは、[**テストセット**] > [**オートメーション**] > [**失敗時**] を選択し、[**テストごとに設定**] ボタンをクリックして設定することもできます。詳細については、404 ページ「失敗時のルールに関するテスト・セットの設定」を参照してください。
-

テスト実行イベントを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、457 ページ「テスト結果の表示」を参照してください。
- 2 [テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスで、サイドバーの **[設定]** をクリックし、**[実行イベント]** タブをクリックします。



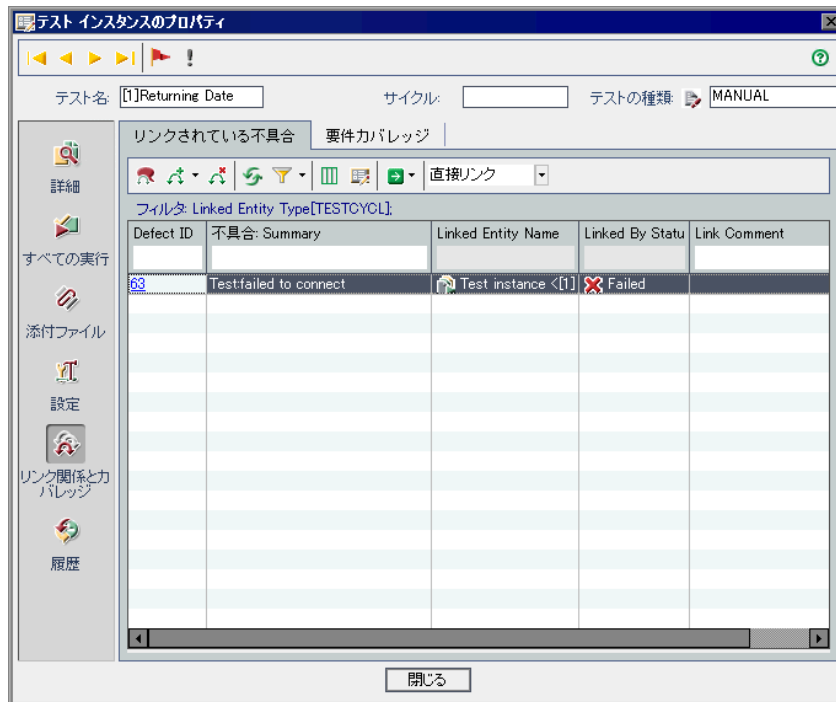
- 3 テストの失敗時のルールを設定するには、[テストの失敗時、次の回数までテストを再実行する] チェック・ボックスを選択し、テスト・インスタンスが再実行されるべき回数を指定します。
- 4  クリーンアップ・テストを含めるには、**[次のクリーンアップテスト]** チェック・ボックスを選択し、参照ボタンをクリックします。[クリーンアップテストの選択] ダイアログ・ボックスで、テスト計画ツリーからテストを選択し、**[テストの追加]** アイコンをクリックします。

## リンクされている不具合の表示

ほかの Quality Center エンティティに対して設定された不具合のリンクの表示や管理を行うことができます。

不具合のリンクを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [テスト インスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、457 ページ「テスト結果の表示」を参照してください。
- 2 [テスト インスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスで、サイドバーの **リンクされている不具合** をクリックします。



---

**注：**テスト・インスタンスと要件の間のカバレッジが

**ALLOW\_REQ\_COVERAGE\_BY\_TEST\_INSTANCE** パラメータで有効の場合、サイドバーで **[リンク関係とカバレッジ]** をクリックします。このパラメータの詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

---

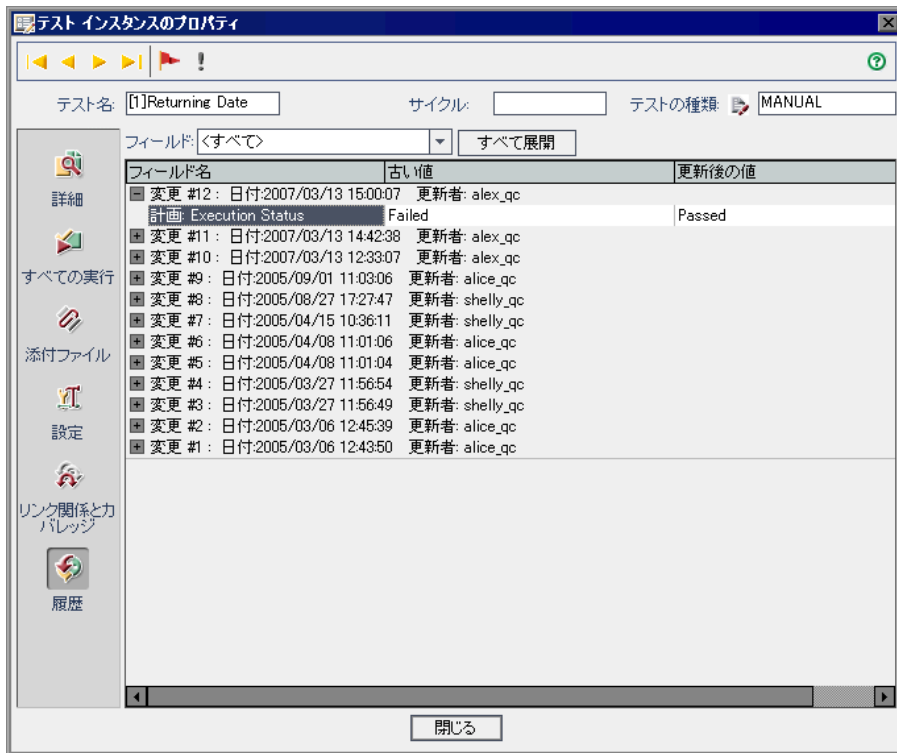
- 3 **[リンクされている不具合]** タブでは、不具合のリンクの表示、追加、および削除を実行できます。詳細については、第 36 章「不具合のリンク」を参照してください。

## テスト実行の履歴の表示

【履歴】ビューでは、テスト・インスタンスに加えられた変更のリストを表示できます。

テスト実行の変更履歴を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [テスト インスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、457 ページ「テスト結果の表示」を参照してください。
- 2 [テスト インスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックスで、サイドバーの【履歴】をクリックします。



このグリッドでは、テスト・インスタンスに加えられた更新ごとに、更新の日時および更新者の名前が表示されます。

- 3 更新中に変更されたフィールドのリストを表示するには、更新を展開します。フィールドごとに、グリッドに古い値と新しい値が表示されます。更新をすべて展開するには、【**全て展開**】ボタンをクリックします。



- 4 このグリッドに表示する更新は指定できます。[フィールド] リストで、フィールド名を選択すると、そのフィールドに加えられた変更のみが表示されます。すべてのフィールドに加えられた更新を表示するには、[<すべて>] を選択します。

フィールドに加えられた変更の履歴の保存方法については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。



# 第 VI 部

---

不具合の追跡



# 第 33 章

---

## 不具合追跡のワークフロー

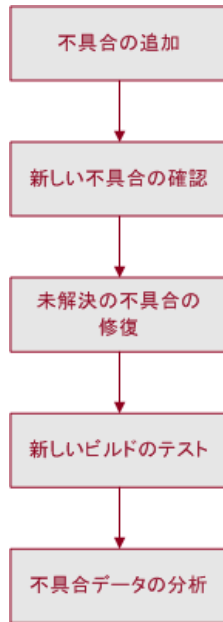
アプリケーションの不具合を効率よく探し出し修正することは、開発プロセスにとって非常に重要です。アプリケーション管理プロセスのどの段階でも、ユーザは不具合を検出し、Quality Center プロジェクトに追加できます。Quality Center の不具合モジュールを使用して、アプリケーションの設計上の問題点を報告し、不具合レコードから得られるデータを追跡できます。

---

**Quality Center Starter Edition** : Starter Edition を使って作業している場合、リリース管理に関するフィールドは、不具合モジュールで利用できません。

---

本章では、不具合の追跡方法を説明しています。不具合追跡のワークフローは、次のステップを含みます：



### 不具合の追加

アプリケーションで不具合を検出したら、不具合レポートを Quality Center プロジェクトに送信します。不具合情報はプロジェクトに格納されます。この情報は、開発、品質保証、およびサポートの各チームのメンバなど、承認されたユーザがアクセスできます。この新しい不具合は、検出されたサイクルおよびリリースに関連付けることができます。

Mercury Tours アプリケーションのテストを行っていることを想定します。

**Release 10.5** テスト・セット・フォルダの **Cycle 1** テスト・セットを実行したところ、クレジット・カード番号の有効期限を入力するときに、テスト実行の1つで不具合が見つかりました。不具合が最初にプロジェクトに送信されたとき、[検出リリース] フィールドは **Release 10.5** リリースに割り当てられ、[検出サイクル] フィールドは **Cycle 1 - New Features** サイクルに割り当てられます。リリースとサイクルの詳細については、第8章「リリース管理のワークフロー」を参照してください。

実行したテストにこの新しい不具合をリンクすると、今後の参考として使用できます。また、不具合は、要件、テスト、その他の不具合など、Quality Center のほかのエンティティにリンクできます。詳細については、第 36 章「不具合のリンク」を参照してください。

また、プロジェクトの不具合の表示、更新、分析を行うこともできます。詳細については、第 35 章「不具合の追加と追跡」を参照してください。

## 新しい不具合の確認

プロジェクトの新しい不具合をすべて確認し、修正する不具合を決定します。通常この作業は、プロジェクト・マネージャが行います。新しい不具合のステータスを **[修正中]** に変更し、この不具合を開発チームのメンバに割り当てます。

**[ターゲット リリース]** フィールドで、未解決の不具合を修正対象のリリースに割り当てます。**[ターゲット サイクル]** フィールドで、不具合を終了対象のサイクルに割り当てます。たとえば、クレジット・カード番号の有効期限を入力するときに検出された不具合を、次のサイクルで修正する計画と仮定します。**[ターゲット リリース]** フィールドを **Release 10.5** に割り当て、**[ターゲット サイクル]** フィールドを **Cycle 2 - New Features + Regression** に割り当てます。

新しい不具合を確認しているときに、プロジェクトに重複する不具合が見つかった場合は、そのステータスを **「終了」** または **「却下」** に変更するか、プロジェクトから削除します。

## 未解決の不具合の修正

**未解決** の不具合を修正します。修正作業には、不具合の原因の特定とアプリケーションの変更および再ビルドが含まれます。この作業はアプリケーション開発者が行います。不具合を修正したら、そのステータスを **「修正済み」** にします。たとえば、クレジット・カード番号の有効期限の入力時に検出された不具合が、アプリケーションの新しいビルドで修正されたとします。この場合、不具合のステータスを **「修正中」** から **「修正済み」** に更新します。

## アプリケーションの新しいビルドのテスト

アプリケーションの新しいビルドを対象にテストを実行します。不具合が検出されなかった場合は、**[終了]** というステータスを割り当てます。不具合が再度検出された場合は、**[要再修正]** というステータスを割り当て、前の段階 (479 ページ「未解決の不具合の修正」を参照) に戻ります。通常この作業は、品質保証マネージャまたはプロジェクト・マネージャが行います。テストの実行の詳細については、第 30 章「テストの手動実行」および第 31 章「テストの自動実行」を参照してください。

## 不具合データの分析

解決された不具合の数や未解決の不具合の数を確認するには、不具合レポートのデータを表示します。作業中は、不具合追跡のプロセスに役立つ設定を保存したり、必要に応じてこの設定を再ロードしたりすることができます。詳細については、第 6 章「お気に入りビューを使用した作業」を参照してください。

レポートとグラフを使用して、不具合修正の進行状況を分析したり、不具合がプロジェクトに残っている期間を表示できます。これは、アプリケーションのリリース時期を判断するのに役立ちます。詳細については、第 40 章「ダッシュボード・モジュール」を参照してください。



# 第 34 章

---

## 不具合モジュールの概要

本章では、不具合モジュールの主な要素について説明しています。

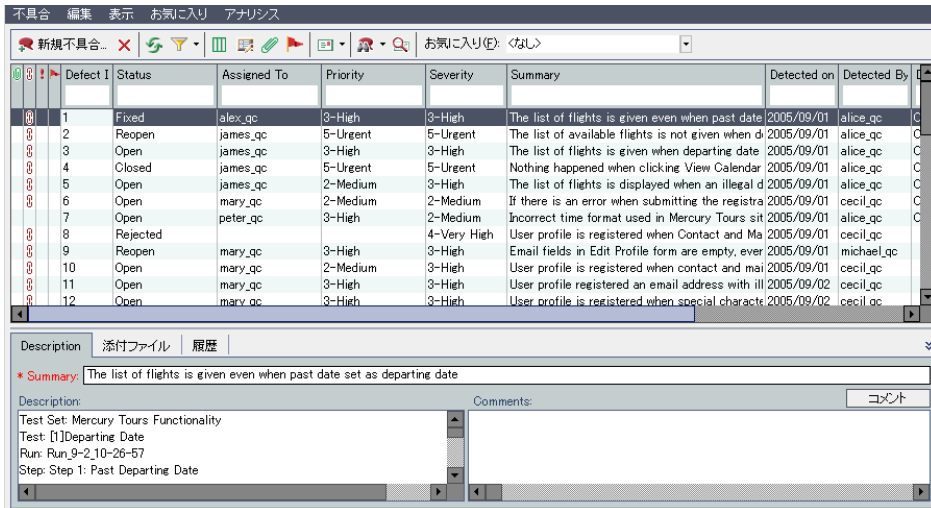
### 本章の内容

- ▶ 不具合モジュール (482 ページ)
- ▶ 不具合メニュー・バー (484 ページ)
- ▶ 不具合ツールバー (485 ページ)
- ▶ 不具合グリッド (487 ページ)

## 不具合モジュール







Quality Center 不具合モジュールでは不具合を追跡します。このモジュールは、サイドバーの **[不具合]** ボタンをクリックして開きます。




不具合モジュールの主な要素は、次のとおりです。

- ▶ **不具合メニュー・バー**：不具合モジュールのコマンドのドロップダウン・メニューが開きます。詳細については、484 ページ「不具合メニュー・バー」を参照してください。
- ▶ **不具合ツールバー**：不具合の追加、管理、および追跡によく使用するコマンドのボタンが並んでいます。詳細については、485 ページ「不具合ツールバー」を参照してください。
- ▶ **インジケータ・カラム**：指定した不具合には、添付ファイル、リンクされているエンティティ、警告、およびフォロー・アップ・フラグがあることを示します。これらのカラムを表示するには **[表示] > [インジケータ カラム]** を選択します。

カラム	説明
添付ファイル	不具合の添付ファイルを表示するには  アイコンをクリックします。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。

カラム	説明
リンクされている エンティティ	不具合のリンクされているエンティティを表示するには、  アイコンをクリックします。詳細については、第 36 章「不具合のリンク」を参照してください。
警告	不具合の警告を表示するには、  アイコンをクリックします。詳細については、82 ページ「警告の表示」を参照してください。
フォローアップ・フラグ	不具合のフォロー・アップ警告を表示するには、  アイコンをクリックします。詳細については、84 ページ「フォローアップ・フラグの設定」を参照してください。

- ▶ **グリッドのフィルタ**：カラムに現在適用されているフィルタが表示されます。グリッド・フィルタ・ボックスを表示するには、[表示] > [グリッド フィルタ] を選択します。
- ▶ **不具合のグリッド**：不具合データをグリッドに表示します。詳細については、487 ページ「不具合グリッド」を参照してください。
- ▶ **情報パネル**：[詳細]、[添付ファイル]、および [履歴] タブが表示されます。[表示] > [情報パネル] > [表示] を選択するか、[表示] の矢印ボタンを  クリックしてこれらのタブを表示します。

タブ	説明
詳細	<p>現在選択されている不具合の説明が表示されます。次のオプションを表示することもできます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[サマリ]</b>：不具合のサマリを表示するには、[表示] &gt; [情報パネル] &gt; [サマリ] を選択します。</li> <li>▶ <b>[コメント]</b>：不具合に対するコメントを表示および追加するには、[表示] &gt; [情報パネル] &gt; [コメント] を選択します。</li> </ul> <p>詳細については、500 ページ「不具合の更新」を参照してください。</p>

タブ	説明
添付ファイル	選択した不具合の添付ファイルが表示されます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。
履歴	不具合の履歴が表示されます。詳細については、505 ページ「不具合の履歴の表示」を参照してください。

---

**ヒント** : [不具合グリッド] で [不具合 ID] を指定して特定の不具合を検索するには、[不具合] > [不具合に移動] を選択します。

---

## 不具合メニュー・バー

不具合メニュー・バーには、次のメニューがあります。

- ▶ [不具合] メニューには、不具合の追加、表示、メール送信、印刷、エクスポート、および不具合の詳細の表示を行うためのコマンドがあります。
- ▶ [編集] メニューには、不具合のコピー、貼り付け、または削除、フィールド値の検索および置換、不具合の検索、グリッドの特定の不具合への移動、および類似の不具合またはテキストの検索を行うためのコマンドがあります。不具合の警告を表示およびクリアしたり、不具合にフォローアップ・フラグを設定したりすることもできます。警告とフォローアップの詳細については、第 4 章「変更発生時の警告」を参照してください。
- ▶ [表示] メニューには、不具合のグリッドでの表示の設定を行うためのコマンドがあります。
- ▶ [お気に入り] メニューには、[お気に入り] リストから選択した項目の表示、[お気に入り] リストへの [不具合グリッド] ビューの追加、[お気に入り] リストの整理を実行するためのコマンドがあります。お気に入りビューの詳細については、第 6 章「お気に入りビューを使用した作業」を参照してください。

- ▶ **[アナリシス]** メニューには、不具合レポートおよびグラフを作成するためのコマンドがあります。不具合レポートの詳細については、第 42 章「標準レポートの作成」を参照してください。不具合グラフの詳細については、第 41 章「グラフの作成」を参照してください。

---

**ヒント：**不具合モジュールの [不具合] メニュー・バーにアクセスするには、ショートカット・キーの F9 キーを押します。さらに、ショートカット・キーを使用してほかの多くの操作を実行できます。ショートカット・キーの一覧については、付録 B「Quality Center キーボード・ショートカット」を参照してください。

---

## 不具合ツールバー

不具合ツールバーには、次のボタンがあります。

**[新規不具合]：**[新しい不具合] ダイアログ・ボックスが開き、不具合のグリッドに新しい不具合を追加できるようになります。詳細については、493 ページ「新しい不具合の追加」を参照してください。



**[削除]：**選択した不具合を不具合のグリッドから削除します。詳細については、511 ページ「不具合の削除」を参照してください。



**[全て更新]：**[不具合のグリッド] が更新され、選択したフィルタに基づいて最新の不具合が表示されます。



**[フィルタ / 並べ替えの設定]：**次のオプションがあります。

- ▶ **[フィルタ / 並べ替えの設定]：**[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。不具合グリッドの不具合のフィルタ処理、並べ替え、グループ化を実行できます。
- ▶ **[フィルタ / 並べ替えのクリア]：**不具合グリッドに適用されているフィルタ、並べ替え、グループ分けがクリアされます。

不具合のフィルタ処理と並べ替えの詳細については、第 3 章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。



**[カラムの選択]** : [不具合のグリッド] に表示するカラムと表示の順序を定義するための [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、52 ページ「カラムの配置」を参照してください。



**[不具合の詳細]** : 選択した不具合の詳細を表示できる [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、500 ページ「不具合の更新」を参照してください。



**[添付ファイル]** : 不具合に添付ファイルを追加できる [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。



**[フォローアップ フラグ]** : [フォローアップ フラグ] ダイアログ・ボックスが開きます。不具合のフォローアップ・フラグの追加または変更を行えます。詳細については、84 ページ「フォローアップ・フラグの設定」を参照してください。



**[電子メールで送信]** : [メールの送信] ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先やその他の任意の電子メール・アドレス宛に不具合レポートを電子メールで送信できます。詳細については、506 ページ「不具合のメールでの送信」を参照してください。



**[類似した不具合の検索]** : 次のオプションがあります。

- ▶ **[類似した不具合を検索]** : 類似の不具合が検索され、見つかった場合は [類似した不具合] ダイアログ・ボックスに表示されます。
- ▶ **[類似したテキストの検索]** : テキスト文字列を指定して類似した不具合を検索するための [類似したテキストの検索] ダイアログ・ボックスが開きます。見つかった場合は、[類似した不具合] ダイアログ・ボックスに表示されます。

類似した不具合の検索の詳細については、496 ページ「不具合の検索」を参照してください。



**[テキスト検索]** : ウィンドウの下部にテキスト検索の表示枠が開き、キーワードを入力して定義済みフィールドを検索できます。詳細については、73 ページ「レコードの検索」を参照してください。

[お気に入り] : [お気に入り] の矢印ボタンをクリックすると、お気に入りのビューのリストが表示されます。お気に入りのビューでは、ユーザの設定を使用した Quality Center ウィンドウを再ロードできます。[お気に入り] バーが表示されていない場合は、[表示] > [お気に入りバー] を選択して表示します。お気に入りビューの詳細については、第 6 章「お気に入りビューを使用した作業」を参照してください。

## 不具合グリッド

Quality Center では、グリッドに不具合データが整理された状態で表示されます。不具合のグリッドでは、1 行で 1 件の不具合レコードを示します。不具合のグリッドには、次のカラムが表示されます。

カラム	説明
実際の修正時間	不具合の修正に実際に要した日数。このフィールドが空の場合は、「終了日 - 検出日」という計算式を使用して実際の修正所要時間が自動的に計算されます。
責任者	不具合の修正を担当するユーザの名前。各ユーザのユーザ名および氏名のリストを表示するには、下向き矢印をクリックします。
終了バージョン	不具合が解決されたアプリケーションのバージョン。バージョンのリストを表示するには、下矢印をクリックします。
終了日	不具合が解決された日付。カレンダーを表示して終了日を選択するには、下矢印をクリックします。
コメント	不具合に関するコメント。
不具合 ID	Quality Center によって不具合に自動的に割り当てられる一意の ID 番号。不具合 ID は読み取り専用です。
詳細	不具合の詳細。
検出者	不具合を検出したユーザの名前。標準設定では、ログイン・ユーザ名がこのフィールドに挿入されます。

カラム	説明
検出サイクル	不具合が検出されたサイクル。別のサイクルを選択するには、下矢印をクリックします。 [検出サイクル] フィールドで不具合をサイクルに割り当てる場合、Quality Center によって、リリースが [検出リリース] フィールドに自動的に割り当てられます。
検出リリース	不具合が検出されたリリース。別のリリースを選択するには、下矢印をクリックします。
検出されたバージョン	不具合が検出されたアプリケーションのバージョン。バージョンのリストを表示するには、下矢印をクリックします。
検出日	不具合が検出された日付。標準設定では、現在のデータベース・サーバの日付が表示されます。別の検出日を選択するには、下矢印をクリックします。
予定修正時間	不具合の修正に要する推定日数。
修正済み	不具合が最後に変更された日付と時刻。
予定終了バージョン	不具合の修正予定バージョン。バージョンのリストを表示するには、下矢印をクリックします。
優先度	低い（レベル 1）から緊急（レベル 5）までの不具合の優先度。
プロジェクト	不具合が発生したプロジェクトの名前。プロジェクトのリストを表示するには、下矢印をクリックします。
再現可能	不具合が検出されたときと同じ条件で不具合を再現できるかどうか。[Y] または [N] を選択するには、下矢印をクリックします。
重要度	低い（レベル 1）から緊急（レベル 5）までの不具合の重要度。
ステータス	不具合の現在のステータス。標準設定では、ステータスは「新規」です。不具合ステータスは、次のいずれかになります。「終了」、「修正済み」、「新規」、「修正中」、「却下」、「要再修正」。
サブジェクト	サブジェクト・フォルダ。サブジェクトのリストを表示するには、下矢印をクリックします。
サマリ	不具合の簡単な要約。



カラム	説明
ターゲット サイクル	不具合の修正が予定されているサイクル。別のサイクルを選択するには、下矢印をクリックします。 [ターゲット サイクル] フィールドで不具合をサイクルに割り当てる場合、Quality Center によって、リリースが [ターゲット リリース] フィールドに自動的に割り当てられます。
ターゲット・ リリース	不具合の終了が予定されているリリース。別のリリースを選択するには、下矢印をクリックします。

**注：**

- ▶ 不具合グリッドでは、ユーザ定義フィールドの追加や、フィールドのラベルの変更ができます。また、プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
- ▶ スクリプト・エディタを使用して、不具合のグリッドに表示されるフィールドと値を制限し、動的に変更することができます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
- ▶ ユーザ名の値を含む不具合カラムを選択する場合、各ユーザのユーザ名および氏名を記載したリストが表示されます。ユーザの検索、ユーザの並べ替え、ユーザ・グループに基づいたユーザのグループ分け、およびユーザ・リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については、55 ページ「ユーザの選択」を参照してください。
- ▶ **Quality Center Starter Edition** : Starter Edition を使って作業している場合、リリース管理に関するフィールドは、不具合モジュールで利用できません。



# 第 35 章

---

## 不具合の追加と追跡

不具合モジュールを使用して、アプリケーションの不具合を直接 Quality Center プロジェクトに追加できます。また、追加した不具合についてアプリケーションの開発者とアプリケーションのテスト担当者が解決したと判断するまで、状況を追跡することもできます。

### 本章の内容

- ▶ 不具合の追加と追跡について (492 ページ)
- ▶ 新しい不具合の追加 (493 ページ)
- ▶ 不具合の検索 (496 ページ)
- ▶ 不具合の更新 (500 ページ)
- ▶ 値の検索と置換 (503 ページ)
- ▶ 複数のレコードの更新 (505 ページ)
- ▶ 不具合の履歴の表示 (505 ページ)
- ▶ 不具合のメールでの送信 (506 ページ)
- ▶ 不具合のコピー (509 ページ)
- ▶ 不具合の URL のコピー (510 ページ)
- ▶ 不具合の印刷 (510 ページ)
- ▶ 不具合の削除 (511 ページ)

## 不具合の追加と追跡について

不具合レコードは、チームのほかのメンバによって検出された新しい不具合の存在を、アプリケーション開発チームと品質保証チームのメンバに伝えます。不具合情報を共有することにより、アプリケーションの開発プロセスと不具合の修正プロセスを迅速に、効率よく、包括的に実施できるようになります。不具合の修正の進行状況を監視しながら、Quality Center プロジェクトの情報を更新します。

たとえば、Mercury Tours アプリケーションで不具合を検出したとします。Quality Center で最初に不具合を報告すると、標準設定では、「**新規**」というステータスが割り当てられます。品質保証マネージャまたはプロジェクト・マネージャはこの不具合を検討し、修正の優先順位を決定して、そのステータスを「**修正中**」に変更し、開発チームのメンバに割り当てます。開発者はその不具合を修正し、「**修正済み**」というステータスを割り当てます。アプリケーションを再テストして、不具合が再発生しないことを確認します。品質保証マネージャまたはプロジェクト・マネージャは、不具合が実際に修正されたことを確認し、「**終了**」というステータスを割り当てます。

---

### 注：

- ▶ 不具合は、要件、テスト、その他の不具合など、Quality Center のその他のエンティティにリンクできます。詳細については、第 36 章「不具合のリンク」を参照してください。
  - ▶ ワークフロー・スクリプト・エディタを使用して、不具合モジュールに表示されるフィールドと値を制限し、動的に変更することができます。また、特定のユーザ・グループのフィールドをカスタマイズすることもできます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
  - ▶ **Quality Center Premier Edition**：不具合は、複数の Quality Center プロジェクト間で共有できます。不具合を共有および同期させるには、**HP Quality Center Synchronizer** を使用します。詳細については、Quality Center アドイン・ページで入手できる『**HP Quality Center Synchronizer User Guide**』（英語版）を参照してください。
-

## 新しい不具合の追加

新しい不具合は、アプリケーション管理プロセスの任意の段階のどのモジュールからでも Quality Center プロジェクトに追加できます。

---

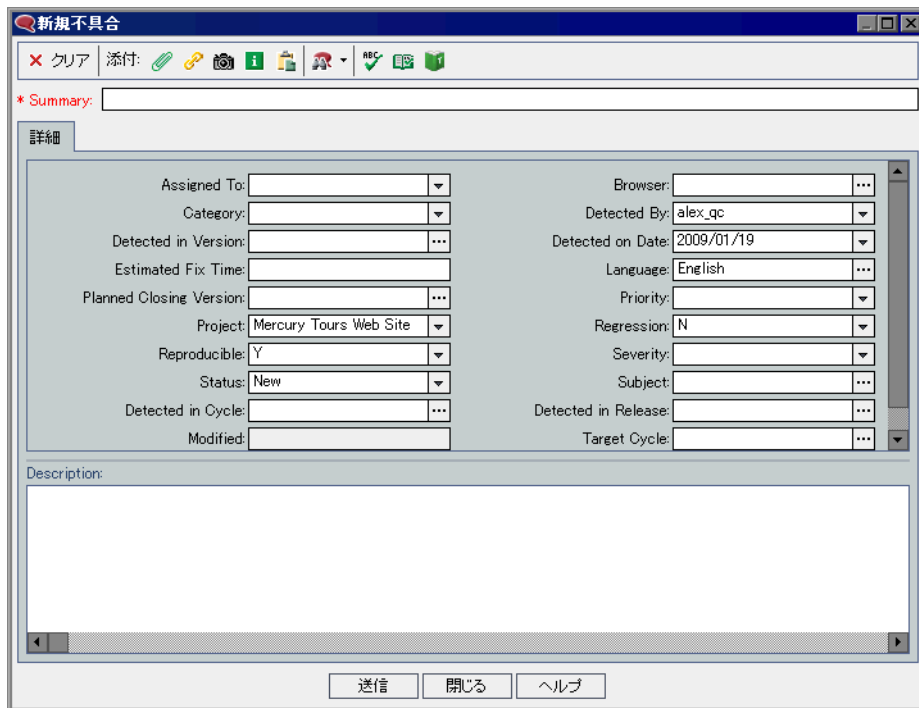
**注：** Quality Center に不具合を直接追加するだけでなく、Microsoft Excel から Quality Center プロジェクトに不具合データをインポートできます。Excel からインポートするには、**Microsoft Excel Add-in** および **HP Quality Center Connectivity Add-in** がインストールされている必要があります。これらのアドインは、HP Quality Center アドイン・ページからインストールできます。詳細については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

---

新しい不具合を追加するには、次の手順を実行します。

- 1 任意のモジュールから新しい不具合を追加するには、左上角の **[ツール]** ボタンをクリックします。**[新規不具合]** を選択します。

不具合モジュールから新しい不具合を追加するには、[新規不具合] ボタンをクリックします。[新規不具合] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 関連する不具合の詳細を入力します。必要なフィールドは赤で表示され、一部のフィールドは Quality Center によって標準設定で入力されています。[新規不具合] ダイアログ・ボックスで利用可能なフィールドの詳細については、第 34 章「不具合モジュールの概要」を参照してください。
- 3 [新規不具合] ダイアログ・ボックスのデータをクリアするには、[クリア] ボタンをクリックします。
- 4 不具合レポートに添付ファイルを追加することができます。



- ▶ ファイルを添付するには、[ファイルの添付] ボタンをクリックします。
- ▶ URL を添付するには、[URL の添付] ボタンをクリックします。
- ▶ 画像をキャプチャして添付するには、[スナップショットの添付] ボタンをクリックします。



- ▶ マシンに関する情報を添付するには、**[システム情報の添付]** ボタンをクリックします。



- ▶ クリップボードのアイテムを添付するには、**[クリップボードの内容を添付]** ボタンをクリックします。

添付ファイルの追加の詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。

- 5 重複する不具合または類似した不具合を削除するには、次の方法があります。



- ▶ **[類似した不具合の検索]** ボタンをクリックし、**[サマリ]** フィールドおよび**[詳細]** フィールドを対象にキーワードを指定して類似の不具合を検索します。
- ▶ **[類似した不具合を検索]** ボタンの矢印をクリックして**[類似したテキストの検索]** を選択し、テキスト文字列を指定して類似の不具合を検索します。

詳細については、496 ページ「不具合の検索」を参照してください。

- 6 ダイアログ・ボックスで次の操作を行って、スペルをチェックできます。



- ▶ **[スペル チェック]** ボタンをクリックすると、選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルがチェックされます。誤りがなければ、確認メッセージ・ボックスが開きます。誤りが見つかった場合は、**[スペル]** ダイアログ・ボックスに誤りのある単語と修正候補が表示されます。



- ▶ **[スペル オプション]** ボタンをクリックすると、**[スペル オプション]** ダイアログ・ボックスが開き、Quality Center によるスペルのチェック方法を設定できます。



- ▶ **[類語辞典]** ボタンをクリックすると、**[類語辞典：英語]** ダイアログ・ボックスが開き、選択した語の類義語、反意語、関連する語が表示されます。選択した単語を置換したり、新しい単語を調べたりすることができます。

- 7 プロジェクトに不具合を追加するには、**[送信]** ボタンをクリックします。Quality Center によって、新しい不具合に不具合 ID が割り当てられます。

- 8 **[閉じる]** をクリックします。

## 不具合の検索

不具合の照合を行うことで、重複する不具合または類似の不具合がプロジェクトに追加されることを回避できます。新しい不具合を追加するたびに、[サマ  
リ] および [詳細] フィールドの値に基づくキーワードのリストが格納されま  
す。類似の不具合を検索すると、これらのフィールドのキーワードがほかの不  
具合と照合されます。

キーワードは 3 文字以上で、大文字と小文字は区別されません。冠詞 (a, an, the), 等位接続詞 (and, but, for, nor, or), ブール演算子 (and, or, not, if, then), およびワイルドカード (?, \*, []) は無視されます。

類似した不具合は、次の 2 つの方法で検索できます。

- ▶ **[類似した不具合の検索]** : 選択した不具合が、プロジェクトに存在するほかのすべての不具合と比較されます。類似不具合の検索は、不具合のグリッドか、[新規不具合] ダイアログ・ボックスで新しい不具合を送信する前に実行できます。詳細については、497 ページ「類似した不具合の検索」を参照してください。
- ▶ **[類似したテキストの検索]** : 特定のテキスト文字列が、プロジェクトに存在するほかのすべての不具合と比較されます。類似不具合の検索は、不具合のグリッドか、[新規不具合] ダイアログ・ボックスで新しい不具合を送信する前に実行できます。検出された類似性のパーセンテージを指定することによって、結果を限定できます。詳細については、498 ページ「類似したテキストの検索」を参照してください。



**ヒント** : [テキスト検索] が使用可能な場合は、この機能を使用して類似した不具合を検索することをお勧めします。テキスト検索では、キーワードやキーワードが変化したものを検索することにより、より強力な検索が行えます。テキスト検索の使用方法の詳細については、73 ページ「レコードの検索」を参照してください。

---



## 類似した不具合の検索

選択した不具合とプロジェクトに存在するほかのすべての不具合を比較することによって、不具合を照合することができます。類似した不具合が検出されると、検出された類似性のパーセンテージに従って不具合が表示されます。

類似した不具合を検索するには、次の手順を実行します。



- 1 [不具合グリッド] で不具合を選択し、[類似した不具合を検索] ボタンをクリックします。あるいは、[新規不具合] ダイアログ・ボックスで、不具合を送信する前に [類似した不具合の検索] ボタンをクリックします。

結果は、[類似した不具合] ダイアログ・ボックスで、検出された類似性のパーセンテージに従って [類似] カラムに表示されます。類似した不具合が見つからない場合は、メッセージが表示されます。

不具合 ID	ステータス	類似	サマリ
3	Open	72%	The list of flights is given when departing
2	Reopen	62%	The list of available flights is not given w
5	Open	60%	The list of flights is displayed when an ill
14	Closed	59%	All flight are shown when time preference is
34	Closed	50%	Clicking on Back to Home button opens Find F
38	Closed	48%	Cancel All Reservation button is available w
30	Open	45%	Same As Billing Address option is not functi
4	Closed	44%	Nothing happened when clicking View Calendar
18	Closed	43%	The itinerary is booked when Credit Card Num
29	Open	43%	The Itinerary is booked when Billing Address
19	Closed	42%	The itinerary is booked when Credit Card Num
8	Rejected	42%	User profile is registered when Contact and I
37	Open	42%	The flight cost should depend on the service
15	Closed	41%	The itinerary is booked when First Name or L
42	New	40%	User profile is registered when Password is
26	Open	40%	The itinerary is booked when Credit Card Own

説明:  
 Test Set: Mercury Tours Functionality  
 Test: [1]Returning Date  
 Run: Run\_9-2\_10-51-7  
 Step: Step 3: Departing Date After Returni




コメント:

閉じる      ヘルプ

- 2 [類似した不具合] ダイアログ・ボックスに不具合の詳細を表示するには、不具合をダブルクリックします。
- 3 [閉じる] をクリックして、[類似した不具合] ダイアログ・ボックスを閉じます。

### 類似したテキストの検索

特定のテキスト文字列とプロジェクトに存在するほかのすべての不具合を比較することによって、不具合を照合することができます。検出される不具合の結果を、特定の類似性のパーセンテージに合わせて限定できます。たとえば、「Help」という単語が含まれる不具合を検索するとします。結果を 25 パーセント以上の類似性に限定すると、検索によって次のような結果が返されます。

			Defect ID	Status	類似	Summary
			64	New	100%	help
			65	New	57%	Help contents not implemented
			66	New	37%	Help About doesn't show the version number of the

結果を 100 パーセント以上の類似性に限定すると、検索によって次のような結果が返されます。

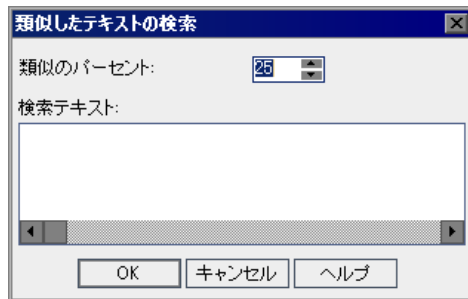
			Defect ID	Status	類似	Summary
			64	New	100%	help

類似したテキストを検索するには、次の手順を実行します。



- 1 [不具合グリッド] で、[類似した不具合を検索] ボタンの矢印をクリックし、[類似したテキストを検索] を選択します。または、[新規不具合] ダイアログ・ボックスで、不具合を送信する前に [類似した不具合の検索] ボタンの矢印をクリックし、[類似したテキストの検索] を選択します。

[類似したテキストの検索] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 類似性の下限を指定して検出される不具合を限定するには、[**類似のパーセント**] ボックスにパーセンテージを入力します。標準設定では、類似性が 25 パーセント以上の不具合が返されます。
- 3 [**検索テキスト**] ボックスに、テキスト文字列を入力します。
- 4 [**OK**] をクリックします。結果は、[類似した不具合] ダイアログ・ボックスで、検出された類似性のパーセンテージに従って [**類似**] カラムに表示されます。類似した不具合が見つからない場合は、メッセージが表示されます。
- 5 [類似した不具合] ダイアログ・ボックスに不具合の詳細を表示するには、不具合をダブルクリックします。
- 6 [**閉じる**] をクリックして、[類似した不具合] ダイアログ・ボックスを閉じます。

## 不具合の更新

プロジェクトで不具合の修正状況を追跡するには、不具合を定期的に更新する必要があります。不具合の更新は、[不具合のグリッド] で直接行うことも、[不具合の詳細] ダイアログ・ボックスで行うこともできます。

不具合を更新するには、次の手順を実行します。



- 1 [不具合のグリッド] で、更新する不具合をダブルクリックします。あるいは、不具合を選択し、[**不具合の詳細**] ボタンをクリックします。[不具合の詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 [最初] ボタンをクリックするとグリッドの最初の不具合が、[前へ] ボタンをクリックすると前の不具合がそれぞれ表示されます。



- 3 [次へ] ボタンをクリックするとグリッドの次の不具合が、[最終] ボタンをクリックするとグリッドの最後の不具合がそれぞれ表示されます。



4 [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスに特定の不具合を表示するには、[**不具合に移動**] ボタンをクリックします。[不具合に移動] ダイアログ・ボックスが開きます。[**不具合 ID**] を入力し、[**OK**] をクリックします。



5 [**フォローアップフラグ**] ボタンをクリックすると、不具合のフォローアップ・フラグを追加または修正できます。詳細については、第 4 章「変更発生時の警告」を参照してください。



6 不具合に警告がある場合、[**警告**] ボタンをクリックして [警告] ダイアログ・ボックスを開くことができます。詳細については、82 ページ「警告の表示」を参照してください。



7 不具合の詳細に関する電子メールを送信するには、[**電子メールで送信**] ボタンをクリックします。電子メールでの不具合送信の詳細については、506 ページ「不具合のメールでの送信」を参照してください。




8 [**指定不具合のレポートを作成**] ボタンをクリックすると、選択している不具合に関する詳細情報を記載したレポートが生成されます。

9 不具合がテスト実行にリンクされている場合は、[不具合の詳細] ダイアログ・ボックスの下部にある [**実行レポート**] リンクをクリックして実行レポートを生成できます。実行レポートには、リンクが設定されているテスト実行の詳細情報が表示されます。

10 [**詳細**] ビューでは、選択している不具合の情報を追加または変更できます。[**詳細**] ビューで使用可能なフィールドの詳細については、第 34 章「不具合モジュールの概要」を参照してください。

新しいコメントを追加するには、[**コメントの追加**] ボタンをクリックします。[コメント] ボックスに新しいセクションが追加され、ユーザ名とデータベースの現在の日付が表示されます。

11 不具合に添付ファイルを追加するには、サイドバーの [**添付ファイル**] をクリックします。ファイル、URL、アプリケーションのスナップショット、システム情報、またはクリップボードからのアイテムを添付できます。[不具合のグリッド] に表示されている不具合の横にクリック可能な添付ファイル・アイコン  が表示されます。添付ファイルの詳細については、第 5 章「添付ファイルの追加」を参照してください。

- 12 サイドバーの [**リンクされているエンティティ**] をクリックします。次のタブを使用できます。
  - ▶ [**不具合**]：リンクを表示して既存の不具合に追加できます。たとえば、不具合を、重複する不具合にリンクできます。
  - ▶ [**その他**]：リンクを表示して、その他のエンティティからリンクを削除できます。新しいリンクを追加することはできません。不具合のリンクに関する詳細については、第 36 章「不具合のリンク」を参照してください。
- 13 不具合に加えられた変更の履歴を表示するには、サイドバーの [**履歴**] をクリックします。詳細については、505 ページ「不具合の履歴の表示」を参照してください。
- 14 [**OK**] をクリックし、変更を保存して [不具合グリッド] に戻ります。

## 値の検索と置換

検索 / 置換コマンドを使用して、不具合のグリッドのフィールド値を対象に検索と置換を行えます。



**ヒント：**テキスト検索が使用可能な場合は、この機能を使用して不具合グリッド内で不具合を検索できます。テキスト検索では、キーワードやキーワードが変化したものを検索することにより、より強力な検索が行えます。テキスト検索の使用の詳細については、73 ページ「レコードの検索」を参照してください。

値を検索するには、次の手順を実行します。

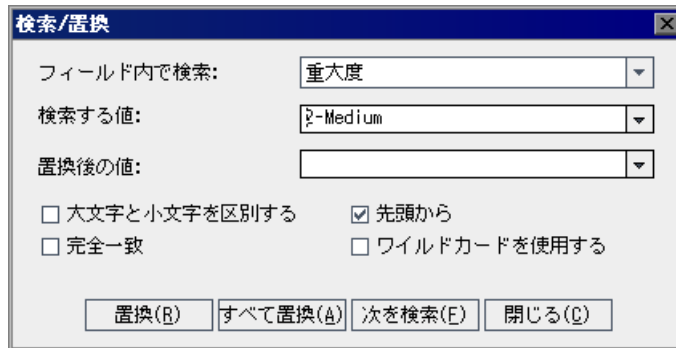
- 1 [不具合のグリッド] で [編集] > [検索] を選択します。[検索] ダイアログ・ボックスが開きます。

- 2 [フィールド内で検索] ボックスで、特定の値を検索するカラムを選択します。
- 3 [検索する値] ボックスで、検索する値を入力または選択します。
- 4 完全に一致する値を検索するには、[完全一致] チェック・ボックスを選択します。
- 5 大文字と小文字を区別するには、[大文字と小文字を区別する] チェック・ボックスを選択します。
- 6 項目の一部のみを入力するために検索文字列にアスタリスク (\*) 文字を使用するには、[ワイルドカードを使用する] チェック・ボックスを選択します。

- 7 [次を検索] をクリックします。指定した値を持つ不具合が検索されます。検索が成功すると、[不具合のグリッド] の中で不具合が強調表示されます。検索が正しく行われなかった場合は、情報ボックスが開きます。

値を置換するには、次の手順を実行します。

- 1 [不具合のグリッド] で [編集] > [置換] を選択します。[検索 / 置換] ダイアログ・ボックスが開きます。



検索/置換

フィールド内で検索: 重大度

検索する値: ?-Medium

置換後の値:

大文字と小文字を区別する     先頭から

完全一致     ワイルドカードを使用する

置換(B)    すべて置換(A)    次を検索(E)    閉じる(C)

- 2 [フィールド内で検索] ボックスで、特定の値を検索するカラムを選択します。
- 3 [検索する値] ボックスで、検索する値を入力または選択します。
- 4 [置換後の値] ボックスで、置換後のフィールド値を入力または選択します。
- 5 大文字と小文字を区別するには、[大文字と小文字を区別] チェック・ボックスを選択します。
- 6 完全に一致する値を検索するには、[完全一致] チェック・ボックスを選択します。
- 7 [不具合のグリッド] の先頭から検索を開始するには、[先頭から] チェック・ボックスを選択します。
- 8 項目の一部のみを入力するために検索文字列にアスタリスク (\*) 文字を使用するには、[ワイルドカードを使用する] チェック・ボックスを選択します。
- 9 見つかった項目を置換して次を検索するには、[置換] をクリックします。
- 10 [不具合のグリッド] で値に一致する項目をすべて置換するには、[すべて置換] をクリックします。



## 複数のレコードの更新

[不具合のグリッド] では複数のレコードに対するフィールド値を更新できます。更新するには、グリッドでレコードを選択して [編集] > [選択済みの更新] を選択します。[Update Selected] ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細については、71 ページ「複数のレコードの更新」を参照してください。

## 不具合の履歴の表示

不具合に加えた変更のリストを表示できます。加えられた変更を確認できるのは、[プロジェクトのカスタマイズ] でプロジェクト管理者によって事前選択されたフィールドのみです。フィールドの履歴オプションを有効にする方法については、『HP Quality Center Administrator Guide』（英語版）を参照してください。

不具合に加えられた変更の履歴を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [不具合のグリッド] に履歴を表示するには、不具合を選択し、[表示] > [情報パネル] > [表示] を選択します。[履歴] タブをクリックします。

または、[不具合のグリッド] で不具合をダブルクリックして [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスを開き、サイドバーの [履歴] をクリックします。

不具合に加えられた変更の履歴がグリッドに表示されます。

フィールド名	古い値	更新後の値
変更 #7: 日付:2007/08/22 9:36:14	更新者: alex_qc	
Target Cycle	Cycle 1 - New Features + Regression	
変更 #6: 日付:2007/03/22 9:34:53	更新者: alex_qc	
変更 #5: 日付:2007/01/31 13:55:13	更新者: alex_qc	
変更 #4: 日付:2005/09/25 11:08:21	更新者: alice_qc	
変更 #3: 日付:2005/09/23 17:03:56	更新者: robert_qc	

このグリッドでは、不具合に加えられた更新ごとに、更新の日時および更新者の名前が表示されます。

- 2 更新中に変更されたフィールドのリストを表示するには、更新を展開します。フィールドごとに、グリッドに古い値と新しい値が表示されます。更新をすべて展開するには、[すべて展開] ボタンをクリックします。

- 3 このグリッドに表示する更新は指定できます。[フィールド] リストで、フィールド名を選択すると、そのフィールドに加えられた変更のみが表示されます。すべてのフィールドに加えられた更新を表示するには、[<すべて>] を選択します。

## 不具合のメールでの送信

不具合に関する電子メールを別のユーザに送信できます。これにより、開発や品質保証の担当者へ不具合の修正状況を通知できます。電子メールには [不具合に移動] リンクが追加され、電子メールの受信者は直接不具合にアクセスできます。

---

**注：**標準設定では、HTML 形式で電子メールが送信されます。電子メールを普通のテキストで送信するには、サイト管理の [サイト設定] タブで **MAIL\_FORMAT** パラメータを編集します。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

---

不具合をメールで送信するには、次の手順を実行します。



- 1 [不具合] グリッドで、1つ以上の不具合を選択し、[電子メールで送信] ボタンをクリックします。[電子メールを送信] ダイアログ・ボックスが開きます。

---

**ヒント：**電子メールが特定のユーザ・タイプに自動的に送信されるよう設定できます。ユーザ・タイプの条件には、ユーザ定義のフィールドを含め、ユーザ名の値を含むカラムを指定できます。[電子メールで送信] ボタンの矢印をクリックし、オプションを選択します。たとえば、[メールで検出者に送信] を選択すると、その不具合を検出したユーザ宛に電子メールが送信されます。

---

- 有効な電子メール・アドレスまたはユーザ名を入力します。あるいは、**[宛先]** ボタンまたは **[CC]** ボタンをクリックし、送信先のユーザを選択します。[受信者の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。



ユーザ・リストの並べ替え、ユーザの検索、ユーザ・グループによるユーザのグループ分け、およびリストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については、55 ページ「ユーザの選択」を参照してください。

電子メールの送信先のユーザまたはユーザ・グループを選択し、**[OK]** をクリックします。

- [サブジェクト]** ボックスに、電子メールの件名を入力します。標準設定では、不具合を 1 つだけ選択すると、[サブジェクト] ボックスには、ドメイン、プロジェクト、不具合 ID、および不具合のサマリが表示されます。
- [アイテム]** ボックスで、電子メールに含めない項目をクリアできます。
- 不具合の**添付ファイル**または**履歴**を含めるかどうかを選択します。
- コメントがある場合は、**[追記]** ボックスに入力します。

7 ダイアログ・ボックスで次の操作を行って、スペルをチェックできます。



▶ **[スペル チェック]** ボタンをクリックすると、選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルがチェックされます。誤りがなければ、確認メッセージ・ボックスが開きます。誤りが見つかった場合は、[スペル] ダイアログ・ボックスに誤りのある単語と修正候補が表示されます。



▶ **[スペル オプション]** ボタンをクリックすると、[スペル オプション] ダイアログ・ボックスが開き、Quality Center によるスペルのチェック方法を設定できます。



▶ **[類語辞典]** ボタンをクリックすると、[類語辞典: 英語] ダイアログ・ボックスが開き、選択した語の類義語、反意語、関連する語が表示されます。選択した単語を置換したり、新しい単語を調べたりすることができます。

8 **[カスタム]** をクリックして、電子メールで送信する内容をカスタマイズします。[フィールドの選択] ダイアログ・ボックスで、電子メールに含めるフィールドを指定できます。

9 **[送信]** をクリックして電子メールを送信します。

## 不具合のコピー

不具合は任意の Quality Center プロジェクトにコピーできます。

不具合をコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 [不具合] のグリッドで、コピーする不具合を選択します。複数の不具合をコピーするには、CTRL キーを押しながらコピーする不具合を選択します。
- 2 **[編集]** > **[コピー]** を選択します。あるいは、右クリックして **[コピー]** を選択します。
- 3 不具合のコピー先プロジェクトの [不具合] のグリッドで、**[編集]** > **[貼り付け]** を選択します。あるいは、右クリックして **[貼り付け]** を選択します。

## 不具合の URL のコピー

不具合はコピーして、その URL をリンクとして貼り付けることができます。不具合自体はコピーされません。その代わりに、アドレスを電子メールやドキュメントなど、別の場所に貼り付けることができます。このリンクをクリックすると Quality Center が開き、該当する不具合が表示されます。ログインしていない場合は、Quality Center によって最初にログインの詳細が要求されます。

不具合の URL をコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 [不具合のグリッド] で、不具合を選択します。
- 2 [編集] > [URL をコピー] を選択します。あるいは、右クリックして [URL をコピー] を選択します。
- 3 URL を貼り付けます。

## 不具合の印刷

不具合のグリッドのすべての不具合または選択した不具合を印刷できます。

不具合を印刷するには、次の手順を実行します。

- 1 次の方法で、すべての不具合または選択した不具合を印刷できます。
  - ▶ すべての不具合を印刷するには、[不具合] > [印刷] > [すべて] を選択します。
  - ▶ 選択した不具合を印刷するには、CTRL キーまたは SHIFT キーを押しながら不具合を選択し、[不具合] > [印刷] > [選択] を選択します。

[印刷プレビュー] ダイアログ・ボックスが開きます。

- 2 印刷する前に、ツールバーのボタンを使用して、ページの調整と設定を行います。
- 3 [印刷] ボタンをクリックするか、[ファイル] > [印刷] を選択します。



## 不具合の削除

古い不具合または重複する不具合をプロジェクトから削除できます。削除した不具合の不具合 ID は再使用されません。

不具合を削除するには、次の手順を実行します。

1 [不具合のグリッド] で、削除する不具合を選択します。



2 [削除] ボタンをクリックするか、[編集] > [削除] を選択します。あるいは、不具合を右クリックし、[削除] を選択します。

3 [はい] ボタンをクリックして、確定します。





# 第 36 章

---

## 不具合のリンク

不具合は、Quality Center のほかのエンティティにリンクできます。

### 本章の内容

- ▶ 不具合のリンクについて (513 ページ)
- ▶ 不具合のリンクの表示 (516 ページ)
- ▶ 不具合のリンクの追加 (517 ページ)
- ▶ 不具合リンクの削除 (518 ページ)

## 不具合のリンクについて

不具合は、要件、テスト、テスト・セット、テスト・インスタンス、実行、実行ステップ、およびほかの不具合の各エンティティにリンクできます。不具合のリンクは、不具合を対象にした新しいテストを作成した場合などに便利です。このリンクを作成することで、不具合のステータスに基づいて、テストを実行するかどうかを判断できます。

不具合はエンティティに直接または間接的にリンクすることができます。エンティティに対し不具合のリンクを追加すると、Quality Center によってこのエンティティに直接リンクが追加され、関連エンティティに間接リンクが追加されます。また、手動テストの実行時に不具合を追加すると、テスト実行と新しい不具合の間に自動的にリンクが作成されます。

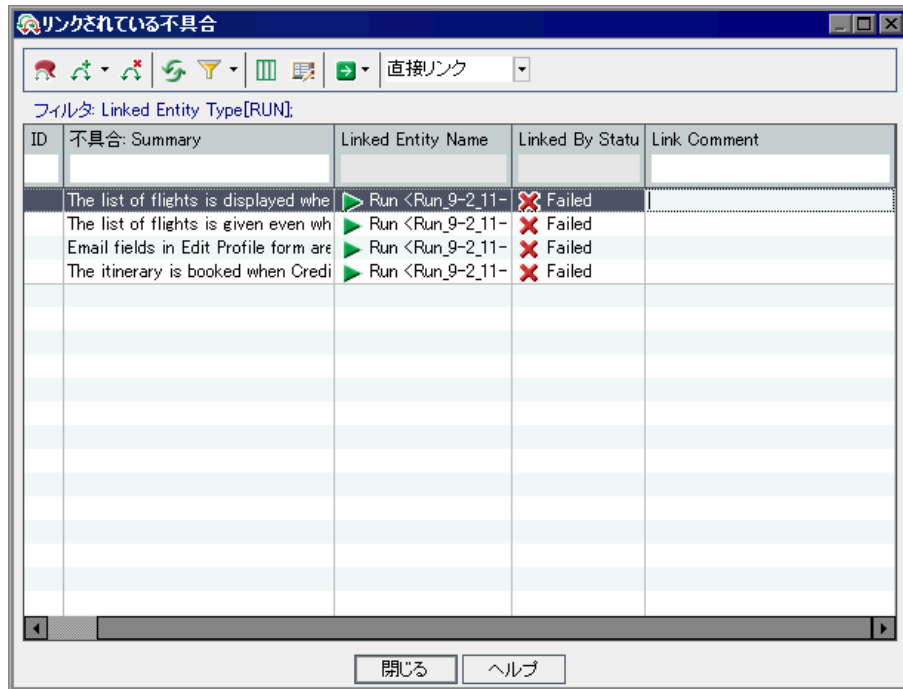
## 第 36 章・不具合のリンク

次の図は、間接リンクのフローを示します。



たとえば、不具合を実行ステップにリンクすると、実行、テスト・インスタンス、テスト・セット、およびテストに不具合の間接リンクが追加されます。このテストが要件によってカバーされている場合、要件にも間接リンクが追加されます。間接リンクは単方向のフローです。たとえば、不具合を実行にリンクしても、実行ステップに間接的にリンクされません。

[リンクされている不具合] ダイアログ・ボックスまたはタブを使用して、不具合のリンクの表示および管理ができます。



[リンクされている不具合] グリッドにあるカラムは、次のとおりです。

カラム	説明
[作成者]	リンクを作成したユーザの名前。
[作成日]	リンクが作成された日付。
[不具合 ID]	Quality Center によって不具合に自動的に割り当てられる一意の ID 番号。不具合 ID は読み取り専用です。
[リンクのコメント]	リンクに関するコメントを追加できます。
リンク ID	Quality Center によってリンクに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。リンク ID は読み取り専用です。
リンク・タイプ	リンク・タイプをカスタマイズしたリストの値。リストの詳細については、『 <b>HP Quality Center Administrator Guide</b> 』（英語版）を参照してください。
被リンク・ステータス	リンクされているエンティティの現在のステータス。
リンクされているエンティティ ID	Quality Center によってリンクされているエンティティに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。リンクされているエンティティ ID は読み取り専用です。
リンクされているエンティティ名	リンクされているエンティティの名前。たとえば、要件の名前です。
リンクされているエンティティ・タイプ	リンクされているエンティティのタイプ (例：ステップ、テスト、テスト・セット)。

不具合フィールドの詳細については、487 ページ「不具合グリッド」を参照してください。

## 不具合のリンクの表示

リンクへのフィルタの適用，グリッドのカラムの表示形式と順序の設定，およびグリッドの更新ができます。また，不具合の詳細の表示や，モジュールに移動してリンク先のエンティティを強調表示することもできます。



- ▶ グリッドを更新するには，[**すべて更新**] ボタンをクリックします。



- ▶ 不具合のリンクにフィルタを適用したり並べ替えたりするには，[**フィルタ / 並べ替えの設定**] ボタンをクリックします。フィルタ処理と並べ替えの詳細については，56 ページ「レコードのフィルタ処理」を参照してください。フィルタを設定すると，グリッドの上にフィルタの説明が表示されます。



- ▶ グリッドのカラムの表示形式と順序を設定するには，[**カラムの選択**] ボタンをクリックします。詳細については，52 ページ「カラムの配置」を参照してください。



- ▶ 不具合の詳細を表示するには，不具合のリンクを選択して，[**不具合の詳細**] ボタンをクリックします。[不具合の詳細] ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細については，500 ページ「不具合の更新」を参照してください。



- ▶ 不具合モジュールを開いてリンクされている不具合を強調表示するには，不具合リンクを選択します。[**移動**] の矢印ボタンをクリックして [**不具合に移動**] を選択します。

あるいは，[**不具合 ID**] リンクをクリックして不具合モジュールを開き，リンクされた不具合を強調表示できます。




- ▶ 関連モジュールを開いてリンクされているエンティティを強調表示するには，不具合リンクを選択します。[**移動**] の矢印ボタンをクリックして [**「リンク元」エンティティへ移動**] を選択します。

あるいは，[**リンクされているエンティティ名**] リンクをクリックして関連モジュールを開き，リンクされているエンティティを強調表示します。

- ▶ 直接のリンクを表示するには，[リンクのタイプ] リストから [**直接リンク**] を選択します。直接リンクおよび間接リンクを表示するには，[**すべてのリンク**] を選択します。これは不具合モジュールでは使用できません。
- ▶ 親要件に追加された不具合のリンクを表示するには，[**次に対するリンクを表示**] リストから [**現在の要件リンク**] を選択します。親要件および子要件に追加された不具合のリンクを表示するには，[**子のリンクを含む**] を選択します。これは要件モジュールでのみ使用できます。

## 不具合のリンクの追加

新しい不具合を送信するか、または既存の不具合を選択することにより、不具合のリンクを追加できます。エンティティを不具合にリンクする場合、Quality Center によってエンティティおよびリンクされている不具合に  アイコンが追加されます。

### 新しい不具合の送信によるリンクの追加

新しい不具合を送信して不具合のリンクを追加できます。

新しい不具合を送信してリンクを追加するには、次の手順を実行します。



- 1 [リンクされている不具合] タブまたは [リンクされている不具合] ダイアログ・ボックスで、**[不具合の追加とリンク]** ボタンをクリックするか、またはグリッドを右クリックして **[不具合の追加とリンク]** を選択します。[新規不具合] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 関連する不具合の詳細を入力します。不具合の追加に関する詳細については、493 ページ「新しい不具合の追加」を参照してください。
- 3 [新規不具合] ダイアログ・ボックスの **[送信]** ボタンをクリックします。プロジェクトに不具合が追加され、[リンクされている不具合] グリッドに不具合のリンクが表示されます。

### 既存の不具合の選択によるリンクの追加

既存の不具合を選択して不具合のリンクを追加できます。

既存の不具合を選択してリンクを追加するには、次の手順を実行します。



- 1 [リンクされている不具合] タブまたは [リンクされている不具合] ダイアログ・ボックスで、**[既存の不具合をリンク]** ボタンの矢印をクリックするか、グリッドを右クリックして **[既存の不具合をリンク]** を選択します。
- 2 次のように、**[ID で]** または **[選択]** を選択します。
  - ▶ 不具合 ID を入力してリンクを追加するには、**[ID で]** を選択します。[既存の不具合をリンク] ダイアログ・ボックスに不具合 ID を入力し、**[リンク]** をクリックします。グリッドに不具合のリンクが表示されます。

- ▶ 不具合を選択してリンクを追加するには、**[選択]** を選択します。[リンクする不具合] ダイアログ・ボックスで、不具合を選択します。複数の不具合を選択するには、CTRL キーを押しながらリンクする不具合を選択します。**[リンク]** をクリックします。グリッドに不具合のリンクが表示されます。

## 不具合リンクの削除


[リンクされている不具合] グリッドから不具合のリンクを削除できます。

---

**注：**削除できるのは直接リンクのみです。間接リンクは、直接リンクが削除されると自動的に削除されます。

---

不具合のリンクを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [リンクされている不具合] タブまたは [リンクされている不具合] ダイアログ・ボックスで、グリッド内のリンクを選択します。複数の不具合を選択するには、CTRL キーを押しながら削除する不具合を選択します。
- 2  **[リンクの削除]** ボタンをクリックするか、または右クリックして **[リンクの削除]** を選択します。
- 3 **[はい]** ボタンをクリックして、確定します。

# 第 VII 部

---

ライブラリの管理





# 第 37 章

---

## ライブラリ・モジュールの概要

本章では、ライブラリ・モジュールの主要な要素について説明しています。

---

**Quality Center のエディション**：Quality Center Premier Edition には、すべてのライブラリ・モジュール機能が含まれています。Quality Center Enterprise Edition には、一部の機能が含まれています。このモジュールは、Quality Center Starter Edition では使用できません。

---

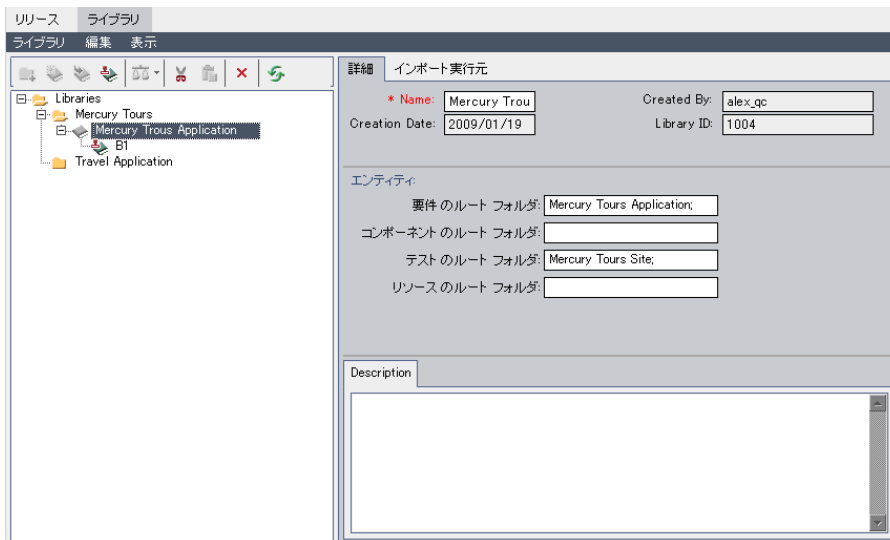
### 本章の内容

- ▶ ライブラリ・モジュール (522 ページ)
- ▶ ライブラリ・メニュー・バー (523 ページ)
- ▶ ライブラリ・ツールバー (523 ページ)
- ▶ ライブラリ・フィールドとベースライン・フィールド (524 ページ)

## ライブラリ・モジュール



ライブラリ・モジュールを使用して Quality Center にライブラリを定義します。このモジュールを表示するには、サイドバーの **[管理]** ボタンをクリックし、**[ライブラリ]** タブをクリックします。



ライブラリ・モジュールの主な要素は、次のとおりです。

- ▶ **ライブラリ・メニュー・バー**：ライブラリ・モジュールのコマンドのドロップダウン・メニューが表示されます。詳細については、523 ページ「ライブラリ・メニュー・バー」を参照してください。
- ▶ **ライブラリ・ツールバー**：ライブラリ・モジュールのコマンドのボタンが含まれます。詳細については、523 ページ「ライブラリ・ツールバー」を参照してください。
- ▶ **ライブラリ・ツリー**：ライブラリが階層ツリー構造で表示されます。詳細については、第 38 章「ライブラリとベースライン」を参照してください。
- ▶ **[詳細] タブ**：ライブラリ・ツリーで現在選択されているライブラリ・フォルダ、ライブラリ、またはベースラインが表示されます。ライブラリ・モジュール・フィールドの詳細については、524 ページ「ライブラリ・フィールドとベースライン・フィールド」を参照してください。

[エンティティ] 表示枠には、ライブラリに関連付けられているルート・フォルダが一覧表示されます。詳細については、第 38 章「ライブラリとベースライン」を参照してください。

- ▶ **Quality Center Premier Edition** : ライブラリをインポートするための次の追加タブを使用できます。
  - ▶ **[インポート実行元] タブ** : 選択したライブラリをインポートしたプロジェクトが一覧表示されます。詳細については、554 ページ「関連ライブラリの表示」を参照してください。このタブは、現在のプロジェクトまたはほかのプロジェクトが、選択したライブラリをインポートしている場合にのみ表示されます。
  - ▶ **[インポート元]** : 現在選択されているライブラリのインポート元のライブラリに関する詳細が表示されます。詳細については、554 ページ「関連ライブラリの表示」を参照してください。このタブは、選択されたライブラリがインポートされている場合にのみ表示されます。

## ライブラリ・メニュー・バー

ライブラリ・メニュー・バーには、次のメニューがあります。

- ▶ **[ライブラリ]** メニューには、ライブラリ・フォルダ、ライブラリ、およびベースラインを追加するためのコマンドがあります。また、ライブラリやベースラインを比較できるコマンドもあります。詳細については、第 38 章「ライブラリとベースライン」を参照してください。
- ▶ **[編集]** メニューには、ライブラリ・フォルダ、ライブラリ、およびベースラインの切り取り、貼り付け、削除、および名前の変更を行うためのコマンドがあります。
- ▶ **[表示]** メニューには、ライブラリ・ツリーを更新できるコマンドがあります。

## ライブラリ・ツールバー

ライブラリ・ツールバーには、次のボタンがあります。



**[新規フォルダ]** : 新しいフォルダをライブラリ・ツリーに追加します。



**[ライブラリの作成]** : 新しいライブラリをライブラリ・ツリーに追加します。



**[ライブラリのインポート]** (Quality Center Premier Edition) : 新しいライブラリをインポートし、ライブラリ・ツリーに追加します。詳細については、第 39 章「ライブラリのインポート」を参照してください。



**[ベースラインの作成]** : ベースラインを作成し、ライブラリ・ツリーに追加します。



**[次と比較]** : 現在選択されているライブラリまたはベースラインを、ほかのライブラリまたはベースラインと比較します。詳細については、534 ページ「ベースライン比較ツール」および 558 ページ「ライブラリ比較ツール」を参照してください。



**[切り取り]** : ライブラリ・ツリーからライブラリ・フォルダまたはライブラリを切り取り、ツリー内の別の場所に移動します。



**[貼り付け]** : 切り取ったライブラリ・フォルダまたはライブラリを、ツリー内の指定された場所に貼り付けます。



**[削除]** : 選択した項目を削除します。ライブラリ・フォルダを削除すると、そのライブラリおよびベースラインも削除されます。ライブラリを削除すると、そのベースラインも削除されます。



**[更新]** : ライブラリ・ツリーとタブを更新し、最新のデータを表示します。

## ライブラリ・フィールドとベースライン・フィールド

ライブラリ・モジュールの [詳細] タブには、次のフィールドが表示されます。

フィールド	説明
[名前]	ライブラリ・フォルダ、ライブラリ、またはベースラインの名前。
[作成者]	ライブラリまたはベースラインを作成したユーザの名前。
[作成日]	ライブラリまたはベースラインが作成された日付。

フィールド	説明
[ライブラリ ID]	Quality Center によってライブラリに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
[ベースライン ID]	Quality Center によってベースラインに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
[更新日時]	ベースラインの名前が最後に変更された日時、または説明が変更された日時。
[詳細]	ライブラリ・フォルダ、ライブラリ、またはベースラインの説明。

---

**注：**

- ▶ [詳細] タブでは、ユーザ定義フィールドの追加や、フィールドのラベルの変更ができます。また、プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
  - ▶ スクリプト・エディタを使用して、ライブラリ・モジュールに表示されるフィールドと値を制限し、動的に変更することができます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
-



# 第 38 章

---

## ライブラリとベースライン

ライブラリはライブラリ・モジュールに作成します。ライブラリを作成したら、ライブラリに対するベースラインの作成や比較を行い、一定時間内のプロジェクトでの変更を追跡できます。

---

**Quality Center のエディション**：本章で説明されているライブラリ・モジュール機能は、Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition でのみ使用できます。

---

### 本章の内容

- ▶ ライブラリとベースラインについて (528 ページ)
- ▶ ライブラリ・ツリーの作成 (529 ページ)
- ▶ ライブラリの作成 (529 ページ)
- ▶ ベースラインの作成 (531 ページ)
- ▶ ベースライン比較ツール (534 ページ)
- ▶ 比較の設定 (537 ページ)
- ▶ ベースラインの履歴の表示 (539 ページ)
- ▶ テスト・セットをベースラインに固定 (540 ページ)
- ▶ ライブラリ・ツリーの変更 (541 ページ)
- ▶ エンティティの比較 (543 ページ)

## ライブラリとベースラインについて

ライブラリ・モジュールでは、階層形式のライブラリ・ツリーを定義し、ライブラリの作成や管理を行います。**ライブラリ**とは、プロジェクト内のエンティティのセットや、それらのエンティティ間の関係を表現したものです。ライブラリのエンティティには、要件、テスト、テスト・リソース、およびビジネス・コンポーネントを含めることができます。詳細については、529 ページ「ライブラリ・ツリーの作成」を参照してください。

ライブラリを作成したら、ベースラインを作成できます。ライブラリに対して**ベースライン**を作成する場合、特定の時間のライブラリのスナップショットを含めることができます。ベースラインを使って、一定時間内にプロジェクトに加えられた変更を追跡できます。ベースラインの詳細については、531 ページ「ベースラインの作成」を参照してください。

ベースラインは、アプリケーション開発ライフサイクルのあらゆる段階で比較できます。たとえば、ライブラリ内の 2 つのベースラインを比較して、一定時間内にライブラリの要件に加えられた変更を確認できます。また、ベースラインをライブラリの現在のエンティティと比較することもできます。詳細については、534 ページ「ベースライン比較ツール」を参照してください。

**Quality Center Premier Edition** : ライブラリをインポートすることもできます。ライブラリをインポートすることにより、既存のエンティティのセットを再利用できます。詳細については、第 39 章「ライブラリのインポート」を参照してください。

ライブラリとベースラインの作成および管理には、適切なユーザ権限が必要です。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。



## ライブラリ・ツリーの作成

フォルダおよびサブフォルダで構成されるライブラリ・ツリーを作成することによって、ライブラリの階層形式の枠組みを定義します。

ライブラリ・ツリーを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 ライブラリ・モジュールで、**Libraries** フォルダを選択します。



- 2 **[新規フォルダ]** ボタンをクリックするか、**[ライブラリ]** > **[新規フォルダ]** を選択します。**[新規のライブラリ フォルダ]** ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 **[ライブラリ フォルダの名前]** ボックスにフォルダ名を入力し、**[OK]** をクリックします。ライブラリ・ツリーに新規フォルダが追加されます。
- 4 **[詳細]** タブで **[詳細]** 表示枠をクリックし、ライブラリ・フォルダの説明を入力します。
- 5 続けてほかのフォルダを作成するには、フォルダを選択し、手順 2 ~ 4 を繰り返します。

## ライブラリの作成

ライブラリ・ツリーを作成したら、ライブラリ・フォルダにライブラリを追加します。新しいライブラリを作成するか、またはライブラリをインポートできます。ライブラリのインポートの詳細については、第 39 章「ライブラリのインポート」を参照してください。

ライブラリをライブラリ・フォルダに追加するには、次の手順を実行します。

- 1 ライブラリ・ツリーで、ライブラリ・フォルダを選択します。



- 2 [ライブラリの作成] ボタンをクリックするか, [ライブラリ] > [ライブラリの作成] を選択します。[ライブラリの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。

ライブラリの作成

\* Name:

エンティティの選択

要件のルート フォルダ:  ...

コンポーネントのルート フォルダ:  ...

テストのルート フォルダ:  ...

リソースのルート フォルダ:  ...

Description:

OK キャンセル ヘルプ

- 3 [名前] ボックスに, ライブラリの名前を入力します。ライブラリの名前には, 「¥」, 「/」, 「:」, 「\*」, 「?」, 「"」, 「<」, 「>」, 「|」は使用できません。
- 4 [エンティティの選択] で, ライブラリに含めるフォルダを選択します。要件モジュール, ビジネス・コンポーネント・モジュール, テスト計画モジュール, リソース・モジュールごとに, 1 つ以上のルート・フォルダを選択できます。ビジネス・コンポーネントの詳細については, 『HP Business Process Testing User Guide』(英語版)を参照してください。
- 5 [詳細] ボックスに, ライブラリの説明を入力します。
- 6 [OK] をクリックします。ライブラリ・ツリーに新規ライブラリが追加されます。

## ベースラインの作成

ライブラリを作成したら、ベースラインを作成できます。ベースラインは特定の時点のライブラリのスナップショットです。ベースラインを使用して、アプリケーション開発ライフサイクル内で任意の重要なポイントをマークできます。ベースラインには、要件、テスト、テスト・リソースなど、ライブラリ内で定義されたすべてのエンティティが含まれます。またベースラインには、トレーサビリティやカバレッジなどの、ライブラリ内のエンティティ間の関係も含まれます。ベースラインを使って、一定時間内にプロジェクトに加えられた変更を追跡できます。

ベースラインを作成すると、**Quality Center** によって最初にライブラリが検証されます。リンク検証プロセスで、ライブラリ内に、ライブラリ外のエンティティに関連付けられているエンティティがあるかどうか調べます。

ベースラインは、次のいずれかの方法で使用できます。

- ▶ 開発の異なる段階の 2 つのベースラインを比較して、ライブラリ内の変更を表示します。詳細については、534 ページ「ベースライン比較ツール」を参照してください。
- ▶ テスト・セットをベースラインに固定します。これにより、テスト・セットを実行すると、指定したベースラインに格納されたテストのバージョンが実行されるようになります。詳細については、540 ページ「テスト・セットをベースラインに固定」を参照してください。
- ▶ **Quality Center Premier Edition** : ベースラインを使用してライブラリ内のエンティティを共有します。これにより、ライブラリのエンティティを特定のプロジェクトで再利用できます。ライブラリをインポートするには、ライブラリにベースラインが含まれている必要があります。詳細については、第 39 章「ライブラリのインポート」を参照してください。

### ベースラインの例

次の例は、ベースラインの使用方法を示します。

#### ▶ リリース内容の設定と関係者の承認

組織でアプリケーションの新しいバージョンの開発を開始します。ビジネス・アナリストは、確認のために関係者に一連の要件を紹介します。要件が確認され、承認されたら、ベースラインを作成します。その後、関係者は合意したリリース内容を承認できます。

▶ **変更の監視**

製品マネージャは、製品開発が期待と異なる方法で行われていることに気がきます。製品マネージャは製品の要件を確認し、一部が変更されていることを発見します。現在の要件と、リリースの開始時に作成、承認されたベースラインの要件とを比較します。

▶ **変更の影響を評価**

テスト担当者は、最新のアプリケーションのリリースの一部である大規模なテストを受け持ちます。テスト担当者は、リリースの要件に従ってテストの一部を更新します。最新の要件確認の打ち合わせに従って、一部の要件の変更を通知されます。テスト担当者は、現在の要件と、リリースの開始時に作成されたベースラインの要件とを比較します。自分の担当分のテストに影響がある変更を特定し、テストを更新して変更を反映させます。

**ベースラインの作成**

ライブラリに対してベースラインを作成できます。

ベースラインを作成するには、次の手順を実行します。

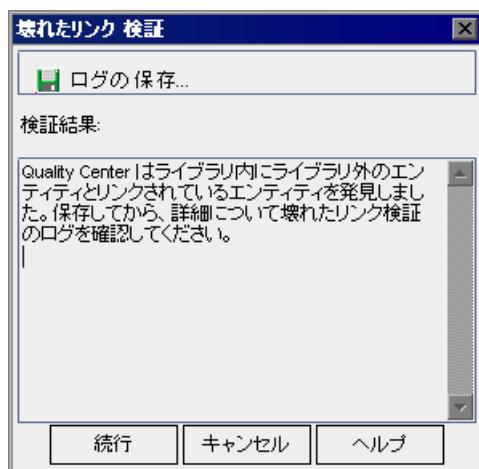
- 1 ライブラリ・ツリーで、ライブラリを選択します。



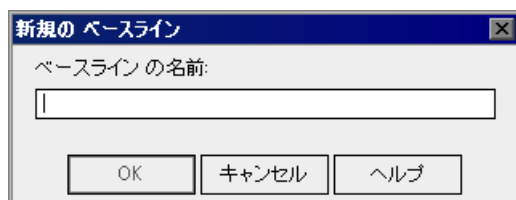
- 2 [ベースラインの作成] ボタンをクリックするか、[ライブラリ] > [ベースラインの作成] を選択します。検証プロセスが始まります。

ライブラリ内の各エンティティがプロジェクトの別のエンティティに関連付けられていたら、関連付けられているエンティティもライブラリ内にあるかどうかを検証されます。たとえば、要件カバレッジを持つテストごとに、関連付けられた要件がライブラリ内にあるかどうかを検査されます。

ライブラリ内に、ライブラリ外のエンティティに関連付けられているエンティティがある場合、それらのエンティティの一覧が作成され、[壊れたリンク検証] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 検証結果をテキスト・ファイルで保存するには、[**ログの保存**] をクリックします。[ログの保存] ダイアログ・ボックスでファイル名を入力し、[**保存**] をクリックします。壊れたリンク検証のログがダウンロードされ、指定した位置に保存されます。
- 4 ベースラインの作成を続けるには、[**続行**] をクリックします。[新規のベースライン] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 5 [**ベースラインの名前**] ボックスに、新しいベースラインの名前を入力します。
- 6 [**OK**] をクリックします。ベースラインがライブラリ・ツリーに追加され、作成プロセスが始まります。

ベースラインの作成はバックグラウンド・プロセスとして実行され、時間がかかる可能性があります。ベースラインの作成プロセス中も引き続き Quality Center を使用できます。

- 7 [詳細] タブの [ログの表示] ボタンをクリックします。[Log: Create Baseline] ダイアログ・ボックスが開き、進行状況が表示されます。[閉じる] をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

---

**注：**プロセスが完了したら、ログを確認してから表示を更新します。ベースラインの作成後に表示を更新すると、[ログの表示] ボタンは表示されず、ログを表示できません。

---



- 8 モジュール・ツールバーの [更新] ボタンをクリックして、表示を更新します。[詳細] タブにベースラインの詳細が表示されます。[詳細] タブで使用できるフィールドの詳細については、524 ページ「ライブラリ・フィールドとベースライン・フィールド」を参照してください。
- 9 [詳細] タブで [詳細] 表示枠をクリックし、ベースラインに説明を追加します。

## ベースライン比較ツール

ライブラリ内の 2 つのベースラインを比較できます。たとえば、開発の異なる段階のベースラインを比較して、プロジェクトの要件に加えられた変更の影響を評価できます。その後、評価に応じて、プロジェクト内の関連するテストを更新できます。

また、ベースラインをライブラリの現在のエンティティと比較することもできます。たとえば、新しいリリースの開始時にベースラインを作成するとします。後で、ライブラリ内の要件に変更が加えられます。製品開発が計画どおりに進んでいるかどうかを判断するには、ライブラリで最初のベースラインの要件と現在の要件を比較します。

---

**注：**Quality Center は、エンティティが変更されたかどうかを判断するときに、[ターゲット リリース] フィールドおよび [ターゲット サイクル] フィールドに加えられた変更は検討対象にしません。

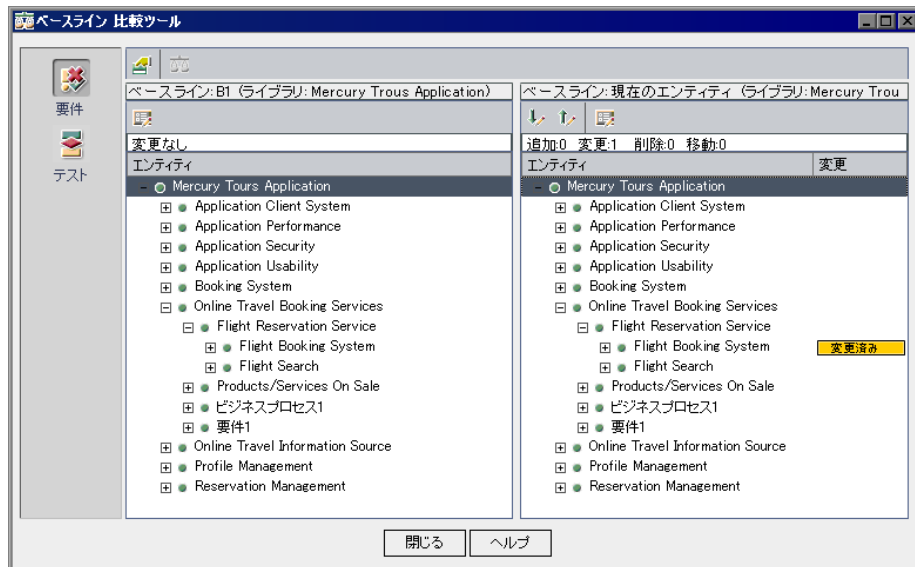
---

ベースラインを比較するには、次の手順を実行します。



- ライブラリ・ツリーで、ライブラリを展開してベースラインを選択します。**[次と比較]** ボタンをクリックするか、**[ライブラリ] > [次と比較]** を選択し、比較するベースラインを選択します。
  - [ベースラインの選択]** を選択すると、選択したベースラインとライブラリ内の別のベースラインを比較します。**[ベースラインの選択]** ダイアログ・ボックスが開きます。参照ボタンをクリックし、一覧からベースラインを選択します。**[OK]** をクリックします。
 

**[OK]** をクリックして、**[ベースラインの選択]** ダイアログ・ボックスを閉じます。
  - [現在のエンティティ]** を選択すると、選択したベースラインとライブラリ内の現在のエンティティを比較します。
- [ベースライン比較ツール]** ダイアログ・ボックスが開きます。



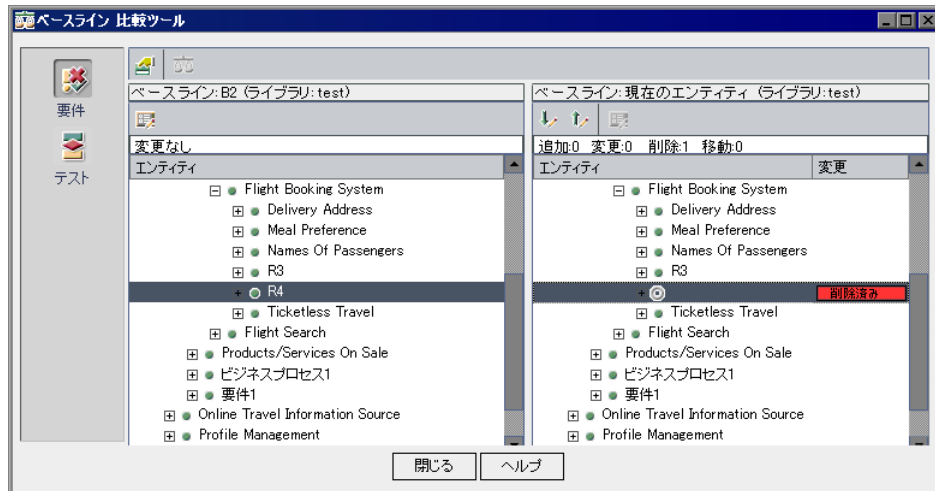
ベースラインが別々の表示枠に表示されます。右側の表示枠には、最近作成されたベースラインまたは現在のエンティティが表示されます。それぞれの表示枠で、ライブラリのエンティティが、特定のモジュールで定義された同じ階層ツリー構造で表示されます。

[変更] カラムに 2 つのベースラインの相違点が表示されます。[ベースライン比較ツール] で示される変更のタイプは次のとおりです。

変更	説明
追加済み	エンティティが古いベースラインに存在しません。
削除済み	エンティティが新しいベースラインに存在しません。
変更済み	2 つのベースラインの間でエンティティに相違点があります。
移動済み	エンティティは新しいベースラインのツリー構造の別の場所にあります。

追加、変更、削除、または移動されたエンティティの数が、各表示枠の上部カウンタに示されます。

削除または移動されたエンティティは、ツリー内での元の場所がプレースホルダで表示されます。これにより階層構造が維持され、ベースライン間の変更を比較できます。





- 3 サイドバーのボタンをクリックし、特定のモジュールのエンティティの比較結果を表示します。たとえば、[テスト] ボタンをクリックすると、テスト計画モジュールの比較結果が表示されます。サイドバーには、ライブラリに含まれるモジュールのみが表示されます。



- 4 右の表示枠の [**次の変更に移動**] ボタンをクリックすると次の変更に移動し、[**1つ前の変更に移動**] ボタンをクリックすると1つ前の変更に移動に移動します。



- 5 エンティティの追加情報を表示するには、エンティティを選択して、ツールバーの [**詳細**] ボタンをクリックします。エンティティの [**詳細**] ダイアログ・ボックスが開きます。たとえば、要件を選択して [**詳細**] ボタンをクリックします。この場合 [**要件詳細**] ダイアログ・ボックスが開き、選択したベースライン内の選択した要件の詳細が表示されます。



- 6 ベースライン間で変更されたエンティティを比較するには、エンティティを選択して、ツールバーの [**エンティティの比較**] ボタンをクリックします。[**エンティティの比較**] ダイアログ・ボックスが開き、ベースラインごとにエンティティの詳細が表示されます。詳細については、543 ページ「エンティティの比較」を参照してください。



- 7 ベースライン比較ツールのオプションを設定するには、ツールバーの [**比較の設定**] ボタンをクリックします。詳細については、537 ページ「比較の設定」を参照してください。

## 比較の設定

ライブラリまたはベースラインの比較の設定を定義できます。[比較の設定] ダイアログ・ボックスでは、エンティティが変更されたかどうか判断するときに Quality Center が検討対象にするフィールドを選択できます。

---

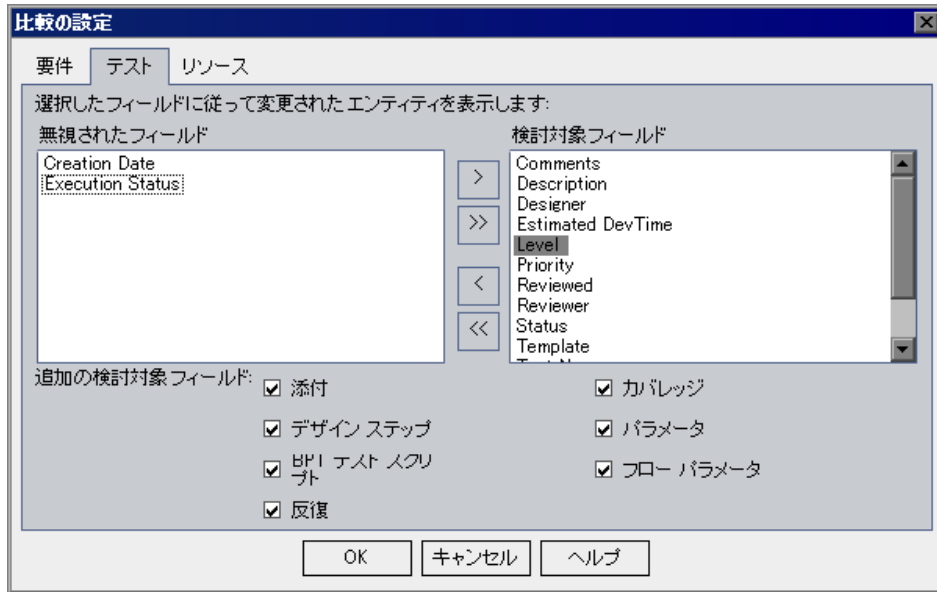
**注：** Quality Center は、エンティティが変更されたかどうかを判断するときに、[ターゲット リリース] フィールドおよび [ターゲット サイクル] フィールドに加えられた変更は検討対象にしません。

---

比較の設定を行うには、次の手順を実行します。



- 1 [ベースライン比較ツール] または [ライブラリ比較ツール] で、[比較の設定] ボタンをクリックします。[比較の設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 設定するエンティティ・タイプのタブをクリックします。たとえば、[テスト] タブをクリックします。現在の設定が次のように表示されます。
  - ▶ **[検討対象フィールド]** : Quality Center は、このボックス内のフィールドに変更が加えられたら、エンティティを変更されたものとして表示します。
  - ▶ **[無視されたフィールド]** : Quality Center は、このボックス内のフィールドに変更が加えられても、エンティティを変更されたものとして表示しません。
- 3 フィールド名を選択し、矢印ボタン ([>] または [<]) をクリックして、**[無視されたフィールド]** ボックスと **[検討対象フィールド]** ボックスとの間でフィールド名を移動します。二重矢印ボタン ([>>] または [<<]) をクリックすると、リスト間ですべてのフィールドを一度に移動できます。また、フィールド名をダブルクリックすると、リスト間でフィールドを移動できます。
- 4 **[追加の検討対象フィールド]** で追加するフィールドを選択します。カバレッジを無視するよう Quality Center を設定するには、[要件] タブと [テスト] タブの両方で **[カバレッジ]** チェック・ボックスをクリアする必要があります。

## ベースラインの履歴の表示

ベースラインに格納されているエンティティのすべてのバージョンを表示できます。これには、要件モジュール、ビジネス・コンポーネント・モジュール、テスト計画モジュール、およびテスト・リソース・モジュールのエンティティが含まれます。また、2つのバージョンのベースラインの比較もできます。ビジネス・コンポーネントの詳細については、『**HP Business Process Testing User Guide**』（英語版）を参照してください。

**バージョン・コントロール**：エンティティの以前のバージョンをすべて表示することができます。詳細については、111 ページ「バージョン履歴の表示」を参照してください。

ベースラインの履歴を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 ツリーまたはグリッドでエンティティを選択します。[履歴] タブをクリックしてから [ベースライン] タブをクリックします。

**バージョン・コントロール**：[履歴] タブで、[バージョンおよびベースライン] タブをクリックします。[表示方法] ボックスで、[ベースライン] を選択します。

グリッドでベースラインの履歴が次のように表示されます。

カラム	説明
[ベースライン]	対象となるエンティティが表示されるベースラインの名前。
[ライブラリ]	ベースラインが作成されたライブラリ。
[日付]	ベースラインが作成された日付。
[作成者]	ベースラインを作成したユーザの名前。

- 2 [選択されたベースラインの詳細] に、ベースラインの作成時にユーザが入力した説明が表示されます。
- 3 ベースラインに格納されたエンティティのバージョンを表示するには、ベースラインを選択して [表示] をクリックします。[詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したベースラインに格納されているエンティティのバージョンの詳細が読み取り専用で表示されます。

[閉じる] をクリックして [詳細] ダイアログ・ボックスを閉じます。

- 4 2つのバージョンのベースラインを比較するには、CTRL キーを押しながら各バージョンを選択します。ベースラインが同じライブラリに属していれば、2つのバージョンのベースラインを比較できます。

[比較] をクリックします。ベースラインのバージョンの比較の詳細については、543 ページ「エンティティの比較」を参照してください。

## テスト・セットをベースラインに固定

テスト・セットをベースラインに固定できます。これにより、テスト・セットを指定したベースラインに格納されているテストに関連付けます。ベースラインに固定されたテスト・セットを実行すると、指定したベースラインに格納されたテストのバージョンが実行されます。

ベースラインに固定されたテスト・セットには、該当のベースラインに含まれたテストのみを含めることができます。テスト・セットをベースラインに固定すると、ベースラインに含まれていないテストはテスト・セットから削除されます。また、テスト・セットからすべてのテスト実行が削除されます。

ベースラインの詳細については、531 ページ「ベースラインの作成」を参照してください。

テスト・セットをベースラインに固定するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト・ラボ・モジュールのテスト・セット・ツリーで、テスト・セットを選択します。
- 2 [テストセット] > [ベースラインに固定] を選択するか、右クリックして [ベースラインに固定] を選択します。[ベースラインに固定] ダイアログ・ボックスが開き、ライブラリ・ツリーが表示されます。
- 3 ベースラインを選択して [OK] をクリックします。確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックして確定します。

- 4 固定されたテスト・セットをクリアするには、テスト・セットを選択し、**[テストセット]** > **[固定されたベースラインのクリア]** を選択します。確認メッセージが表示されます。テスト計画モジュールに存在しないテストがテスト・セットに含まれている場合、テスト・セットからテストが削除されます。また、テスト・セットのすべてのテスト実行が削除されます。**[OK]** をクリックして確定します。テスト・セットのテストが、テスト計画モジュールの現在のテストに関連付けられます。

## ライブラリ・ツリーの変更

本項では、次の項目について説明しています。

- ▶ ライブラリ・フォルダ名、ライブラリ名、ベースライン名の変更
- ▶ ライブラリ・フォルダおよびライブラリの移動
- ▶ ライブラリ・フォルダ、ライブラリ、ベースラインの削除

### ライブラリ・フォルダ名、ライブラリ名、ベースライン名の変更

ライブラリ・フォルダ名、ライブラリ名、またはベースライン名を変更できます。

ライブラリ・フォルダ名、ライブラリ名、またはベースライン名を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 ライブラリ・ツリーから項目を選択します。
- 2 **[編集]** > **[名前の変更]** を選択します。あるいは、項目を右クリックし、**[名前の変更]** を選択します。
- 3 名前を編集し、ENTER キーを押します。

## ライブラリ・フォルダおよびライブラリの移動

ライブラリ・フォルダまたはライブラリをライブラリ・ツリー内の別の場所に移動できます。ライブラリ・フォルダを移動すると、そのライブラリおよびベースラインも移動します。ライブラリを移動すると、そのベースラインも移動します。ベースラインやルート・ライブラリ・フォルダは移動できません。

---

**ヒント：**ドラッグ操作により、ライブラリ・フォルダまたはライブラリをライブラリ・ツリー内の別の場所に移動することもできます。

---

ライブラリ・フォルダまたはライブラリを移動するには、次の手順を実行します。

- 1 ライブラリ・ツリーでライブラリ・フォルダまたはライブラリを選択します。複数の項目を移動するには、Ctrl キーを押しながら移動する項目を選択します。



- 2 [切り取り] ボタンをクリックします。あるいは、[編集] > [切り取り] を選択します。

- 3 ライブラリ・ツリーのフォルダを選択します。



- 4 [貼り付け] ボタンをクリックします。あるいは、[編集] > [貼り付け] を選択します。

## ライブラリ・フォルダ、ライブラリ、ベースラインの削除

ライブラリ・フォルダ、ライブラリ、またはベースラインを削除できます。ライブラリを含むライブラリ・フォルダ、またはベースラインを含むライブラリは削除できません。ライブラリまたはベースラインを削除しても、ライブラリのエンティティはプロジェクトから削除されません。

ベースラインを削除する前に、次の点を考慮してください。

- ▶ ベースラインのライブラリと、このベースラインからインポートされた、あるいは同期化された別のライブラリは比較できません。
- ▶ ベースラインを削除すると、固定されたテスト・セットからベースラインがクリアされます。詳細については、540 ページ「テスト・セットをベースラインに固定」を参照してください。

ライブラリ・フォルダ、ライブラリ、またはベースラインを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 ライブラリ・ツリーから項目を選択します。複数の項目を削除するには、CTRL キーを押しながら削除する項目を選択します。



- 2 **[削除]** ボタンをクリックします。あるいは、**[編集]** > **[削除]** を選択します。確認メッセージが表示されます。
- 3 **[はい]** ボタンをクリックして、確定します。項目が削除されます。

## エンティティの比較

エンティティの比較は [エンティティの比較] ダイアログ・ボックスで行います。

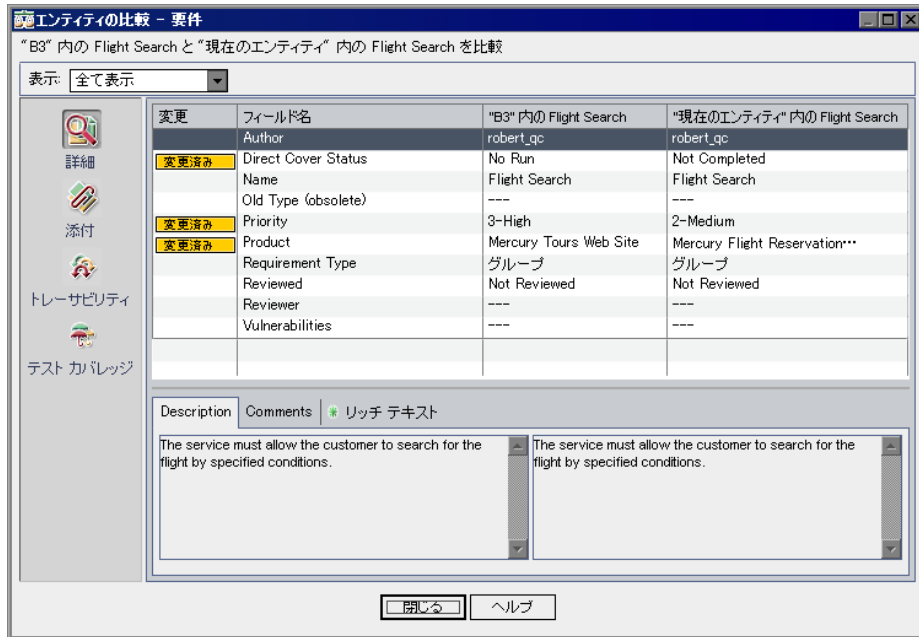
---

### 注：

- ▶ **[ターゲット リリース]** フィールドや **[ターゲット サイクル]** フィールドに変更が加えられても、これらのフィールドは、変更されたものとしてマークされる対象にはなりません。
  - ▶ **バージョン・コントロール**：2つのバージョンのエンティティを比較した場合、表示されないサイドバー・ボタンがあります。バージョン・コントロールに格納されている情報によって使用できるボタンが異なります。詳細については、102 ページ「バージョン・コントロールの概要」を参照してください。
-

エンティティを比較するには、次の手順を実行します。

- 1 [エンティティの比較] ダイアログ・ボックスで、サイドバーの「詳細」をクリックします。



[フィールド名] カラムに、エンティティのフィールドが表示されます。エンティティの複数のバージョン間でフィールド値を比較できます。変更されたフィールドは、[変更] カラムに [変更済み] とマークされます。

**バージョン・コントロール**：複数のフィールドに対する変更はバージョン・コントロールに格納されません。詳細については、105 ページ「バージョン管理されないフィールド」を参照してください。

- 2 [表示] ボックスで、次のオプションの 1 つを選択します。
  - ▶ [全て表示]：すべてのエンティティ・フィールドを表示します。
  - ▶ [変更のみを表示]：値が変更されたフィールドを表示します。
  - ▶ [未変更のみを表示]：値が同じフィールドを表示します。



- 3 [リッチ テキスト] タブをクリックして、エンティティのリッチ・テキストを比較します。[リッチ テキスト] タブの各表示枠には、該当のエンティティのバージョンのリッチ・テキストが追加、削除、変更されているかどうかを示されます。



- 4 リッチ・テキストを開くかファイルとして保存して、変更の表示や比較ができます。
- ▶ リッチ・テキストを表示するには、どちらかのバージョンのエンティティの [開く] ボタンをクリックします。
  - ▶ リッチ・テキストをファイルに保存するには、どちらかのバージョンのエンティティの [名前を付けて保存] ボタンをクリックします。[名前を付けて保存] ダイアログ・ボックスでファイル名を入力し、[保存] をクリックします。リッチ・テキストがダウンロードされ、指定した位置に保存されます。
- 5 サイドバーのボタンをクリックし、トレーサビリティやカバレッジなどのその他の比較結果を表示します。比較しているエンティティのタイプに応じて表示されるボタンが異なります。
- 6 サイドバーの [添付] をクリックすると、エンティティの添付ファイルが比較されます。[変更] カラムには、添付ファイルが追加、削除、変更されているかどうかを示されます。

7 添付ファイルを開くか保存して、変更の表示や比較ができます。



- ▶ 添付ファイルを表示するには、添付ファイルをダブルクリックするか、添付ファイルを選択して [**添付を開く**] ボタンをクリックします。
- ▶ 添付ファイルを保存するには、添付ファイルを選択して [**名前を付けて保存**] ボタンをクリックします。[名前を付けて保存] ダイアログ・ボックスでファイル名を入力し、[**保存**] をクリックします。添付ファイルがダウンロードされ、指定した位置に保存されます。

# 第 39 章

---

## ライブラリのインポート

ライブラリをインポートして、1つのプロジェクト内、または社内全体のさまざまなプロジェクトで、ライブラリのエンティティを再利用できます。

---

**Quality Center Premier Edition** : 本章のライブラリ・モジュール機能は、Quality Center Premier Edition でのみ使用できます。

---

### 本章の内容

- ▶ ライブラリのインポートについて (548 ページ)
- ▶ ライブラリのインポート (550 ページ)
- ▶ 関連ライブラリの表示 (554 ページ)
- ▶ ライブラリ比較ツール (558 ページ)
- ▶ ライブラリの同期化 (561 ページ)
- ▶ ライブラリのメール送信 (564 ページ)

## ライブラリのインポートについて

ライブラリをインポートすることにより、既存のエンティティのセットの共有や再利用ができます。ライブラリをインポートするには、インポートする別のライブラリからベースラインを選択します。同じプロジェクトから、または別のプロジェクトから、ライブラリをインポートできます。ライブラリおよびベースラインの作成の詳細については、第 38 章「ライブラリとベースライン」を参照してください。

関連付けられているライブラリは、アプリケーション開発ライフサイクルのあらゆる段階で比較できます。たとえば、インポートしたライブラリをインポート元のソース・ライブラリと比較できます。詳細については、558 ページ「ライブラリ比較ツール」を参照してください。

ライブラリ内のエンティティに変更が加えられた場合、ライブラリを同期化して関連付けられているライブラリのエンティティを更新できます。詳細については、561 ページ「ライブラリの同期化」を参照してください。

ライブラリのインポートと同期化には、適切なユーザ権限が必要です。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

---

**注：**複数の Quality Center プロジェクトの間で不具合を共有することもできます。不具合の共有や同期化には **HP Quality Center Synchronizer** を使用します。詳細については、[Quality Center アドイン] ページから利用できる『**HP Quality Center Synchronizer User Guide**』（英語版）を参照してください。

---

### ライブラリの例

次の例は、ライブラリの使用方法を示します。

#### ▶ 要件とテストを新しいリリースで再利用

新しいアプリケーションの開発中に、アプリケーションに関係するすべてのエンティティを含むライブラリをプロジェクトに作成します。作業が完了したら、新しいアプリケーションをリリースします。次のバージョンの作業の開始時に、ライブラリをインポートして、要件とテストを新しいバージョンのニーズに合わせて調整し始めることができます。

▶ **複数のアプリケーションが使用する要件、テスト、およびリソースのセットの作成**

プロジェクトの要件モジュールには、開発中のアプリケーションに関する要件が含まれています。またプロジェクトのテスト計画モジュールには、要件をテストするために開発したテストが含まれています。さらに、トレーサビリティやカバレッジなど、要件とテストの間には関係を作成しました。アプリケーションを表すライブラリを作成できます。その後、ほかのアプリケーションの自己完結型のコンポーネントとしてこのライブラリをインポートします。


▶ **ソース・ライブラリに加えられた変更を使用したインポート・ライブラリの更新**

プロジェクト内のライブラリには、計算アプリケーション向けの要件とテストが含まれています。ほかの複数のプロジェクトがこのライブラリをインポートし、計算アプリケーションの要件とテストを開発した別のアプリケーションで使用しています。ビジネス・アナリストが、計算アプリケーション向けの要件の一部を変更しました。これらの変更を使用してインポート・ライブラリを更新するには、インポート・ライブラリをソース・ライブラリと同期化します。

▶ **インポート・ライブラリの開発を使用したソース・ライブラリの更新**

テスト担当者は、現在開発中の銀行アプリケーション向けの一連の回帰テストを含むインポート・ライブラリを使用しています。テスト実行中、銀行アプリケーションの新しいバージョンの追加機能をテストするために、新しいテストを開発します。テストが完了したら、テスト担当者はソース・ライブラリの回帰テストを更新します。ソース・ライブラリをインポート・ライブラリと同期化して、将来のテストのニーズのためにテストを更新できます。

## ライブラリのインポート

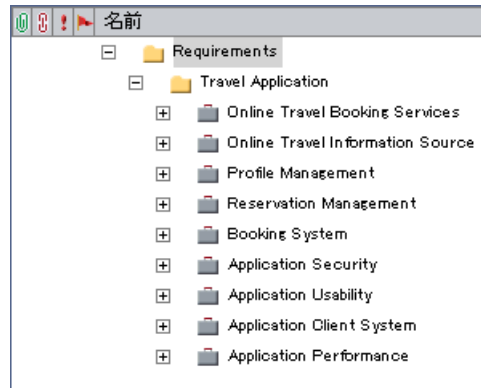
同じプロジェクトから、または別のプロジェクトから、ライブラリをライブラリ・ツリーにインポートできます。ライブラリをインポートすると、ライブラリはライブラリ・ツリーに追加され、ライブラリのエンティティはプロジェクトの対応するモジュールにコピーされます。テスト・カバレッジを持つ要件など、関連付けられているエンティティがライブラリに含まれている場合、この関係もコピーされます。インポートされたライブラリは、ライブラリ・ツリーにインポート・ライブラリ・アイコン  付で表示されます。

ライブラリをインポートするには、インポートする別のライブラリからベースラインを選択します。ライブラリをインポートしたら、プロジェクト内に新しいライブラリ用のベースラインが自動的に作成されます。このベースラインはいつの時点でもライブラリの比較の基礎となるので、削除しないようにします。ベースラインの詳細については、第 38 章「ライブラリとベースライン」を参照してください。

ライブラリをインポートすると、Quality Center は最初にライブラリが正常にインポートされたことを検証します。検証プロセスでは次のチェックを行います。

- ▶ **要件タイプ・チェック**：プロジェクトに必要な要件タイプがあるかどうかを検査します。ソース・ライブラリにカスタマイズされた要件タイプが含まれている場合、ユーザのプロジェクトにも同じ要件タイプが含まれている必要があります。カスタマイズされた要件タイプの詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
- ▶ **エンティティ互換性チェック**：プロジェクトで必要な拡張機能が有効になっているかどうかを検査します。ソース・プロジェクトで Quality Center 拡張機能が有効で、ソース・ライブラリに該当の拡張機能のエンティティが含まれている場合、ユーザのプロジェクトでも拡張機能が有効になっている必要があります。拡張機能の詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

要件ツリー、テスト計画ツリー、またはテスト・リソース・ツリーで、以前にライブラリをインポートしたのと同じ場所にライブラリをインポートできません。たとえば、要件ツリーで、Travel Application フォルダはインポート・ライブラリです。Travel Application ライブラリを再度インポートする場合、Travel Application フォルダまたはその子フォルダをライブラリ内で要件のルート・フォルダとして定義できません。



### ライブラリのインポート

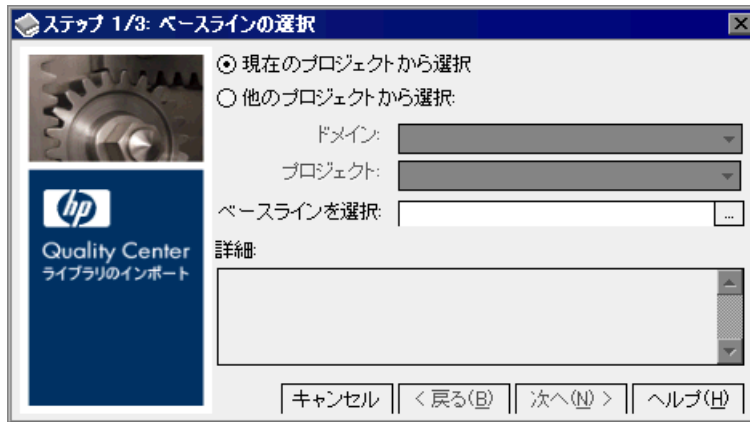
同じプロジェクトから、または別のプロジェクトからベースラインを選択して、ライブラリをインポートできます。インポートされたライブラリはインポートできません。

ライブラリをインポートするには、次の手順を実行します。

- 1 ライブラリ・ツリーで、ライブラリ・フォルダを選択します。



- 2 [ライブラリのインポート] ボタンをクリックするか、[ライブラリ] > [ライブラリのインポート] を選択します。[ステップ 1/3: ベースラインの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。



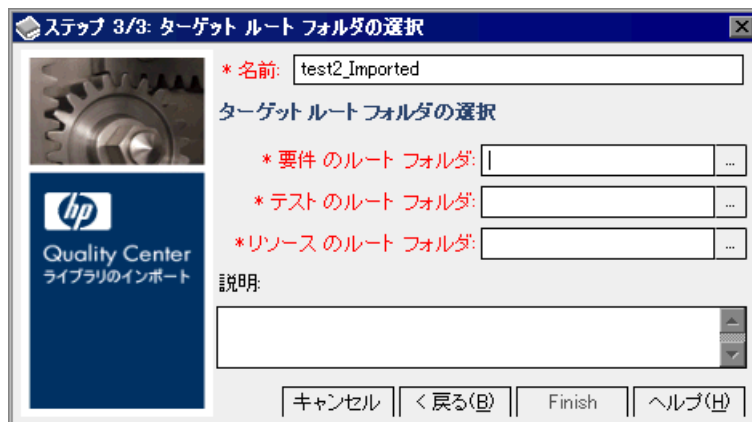
- 3 次のいずれかのオプションを選択します。
- ▶ [現在のプロジェクトから選択] : 作業中のプロジェクトからライブラリをインポートできます。
  - ▶ [他のプロジェクトから選択] : ライブラリのインポート元のドメインとプロジェクトを選択できます。  
[ドメイン] リストからドメインを選択します。  
[プロジェクト] リストからプロジェクトを選択します。
- 4 [ベースラインを選択] ボックスで、参照ボタンをクリックします。選択したプロジェクトのライブラリ・ツリーが開き、インポート可能なライブラリが表示されます。ライブラリを展開し、ライブラリのインポート元のベースラインを選択して、[OK] をクリックします。[詳細] ボックスに、ライブラリとベースラインの説明が表示されます。
- 5 [次へ] をクリックします。[ステップ 2/3: ライブラリ検証] ダイアログ・ボックスが開き、検証結果とインポートするフィールドの一覧が表示されます。

検証チェックのいずれかのステータスが [失敗] の場合、インポート・プロセスを続けることはできません。[キャンセル] をクリックします。

検証チェックのすべてのステータスが [成功] の場合、[次へ] をクリックして続行します。



- 6 [ステップ 3/3: ターゲット ルート フォルダの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 7 [名前] ボックスにライブラリ名を入力するか、標準設定の名前を受け入れます。標準設定では、インポートするライブラリの名前に接尾辞「\_Imported」が付いた名前が表示されます。
- 8 [ターゲット ルート フォルダの選択] で、各ルート・フォルダをインポートするプロジェクト内の場所を選択します。たとえば、[要件のルート フォルダ] ボックスには、要件をインポートする場所を指定します。ライブラリ内で定義されたすべての要件フォルダは、指定した要件フォルダの下にインポートされます。参照ボタンをクリックして、プロジェクトの要件ツリーを表示します。要件をインポートする場所を選択します。
- 9 [説明] ボックスに、ライブラリの説明を入力するか、標準設定の説明を受け入れます。標準設定では、ソース・ライブラリとベースラインに説明が含まれていれば、その説明が表示されます。
- 10 [完了] をクリックしてライブラリをインポートします。インポート・ライブラリがライブラリ・ツリーに追加され、インポート・プロセスが始まります。ライブラリのインポートはバックグラウンド・プロセスとして実行され、時間がかかる可能性があります。インポート・プロセス中も引き続き Quality Center を使用できます。
- 11 [詳細] タブの [ログの表示] ボタンをクリックします。[Log: Import Library] ダイアログ・ボックスが開き、進行状況が表示されます。[閉じる] をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

---

**注：**プロセスが完了したら、ログを確認してから表示を更新します。ライブラリのインポート後に表示を更新すると、**[ログの表示]** ボタンは表示されず、ログを表示できません。

---



- 12 モジュール・ツールバーの **[更新]** ボタンをクリックして、表示を更新します。**[詳細]** タブにライブラリの詳細が表示されます。**[詳細]** タブで使用できるフィールドの詳細については、524 ページ「ライブラリ・フィールドとベースライン・フィールド」を参照してください。
- 13 **[詳細]** タブで **[説明]** 表示枠をクリックし、ライブラリに説明を追加するか、既存の説明を変更します。

## 関連ライブラリの表示

関連ライブラリに関する情報を表示できます。**[インポート実行元]** タブで、選択したライブラリをインポートしたプロジェクトの詳細を表示できます。また、**[インポート元]** タブで、ライブラリのインポート元のソース・プロジェクトの詳細を表示できます。

本項の内容

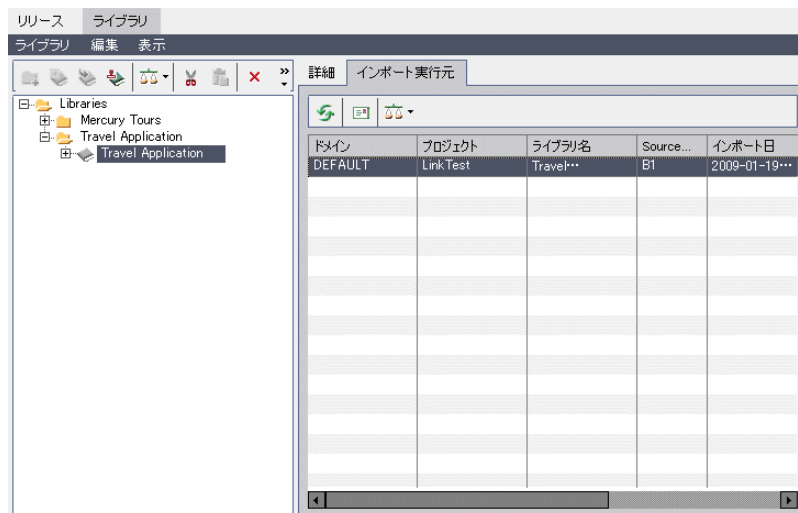
- ▶ **[インポート実行元]** タブの表示
- ▶ **[インポート元]** タブの表示

### **[インポート実行元]** タブの表示

選択したライブラリについて、このライブラリをインポートしたプロジェクトのリストを表示できます。

[インポート実行元] タブを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 ライブラリ・ツリーでライブラリを選択し、[インポート実行元] タブをクリックします。選択したライブラリをインポートしたプロジェクトがグリッド内に一覧表示されます。



[インポート実行元] タブには、選択したライブラリをインポートしたライブラリごとに、次のカラムが表示されます。

カラム	説明
[ドメイン]	インポート・ライブラリが存在するドメイン。
[プロジェクト]	ライブラリをインポートしたプロジェクトの名前。
[ライブラリ名]	インポート・ライブラリの名前
[Source Baseline Name]	初期値は、ライブラリのインポート元のソース・プロジェクトでのベースライン名を示します。同期化すると、ライブラリを同期化したソース・プロジェクトでのベースライン名を示します。
[インポート日]	ライブラリがインポートされた日付。

カラム	説明
【最後の同期】	インポート・ライブラリとソース・ライブラリが最後に同期化された日付。
【ライブラリ所有者】	ライブラリをインポートしたユーザの名前。

カラム・ヘッダをドラッグしてカラムを並べ替えることができます。



2 **【更新】** ボタンをクリックして表示を更新します。



3 ライブラリ所有者にメールを送信するには、グリッド内でエンティティを選択し、**【メールの送信】** ボタンをクリックします。詳細については、564 ページ「ライブラリのメール送信」を参照してください。



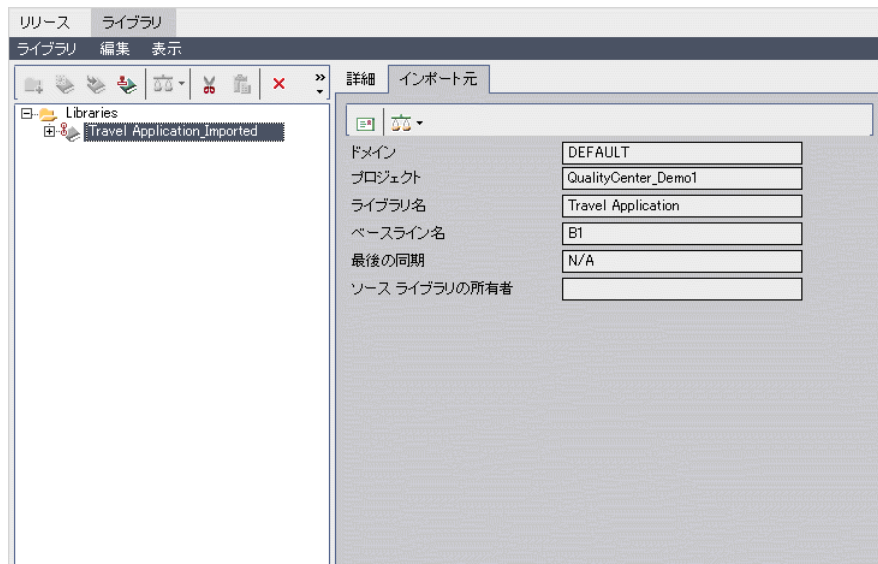
4 ソース・ライブラリとインポート・ライブラリを比較するには、**【次と比較】** ボタンをクリックします。詳細については、558 ページ「ライブラリ比較ツール」を参照してください。

## 【インポート元】タブの表示

選択したライブラリのインポート元のソース・ライブラリの詳細を表示できます。

【インポート元】タブを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 ライブラリ・ツリーでインポート・ライブラリを選択し、【インポート元】タブをクリックします。



【インポート元】タブには、次のフィールドが表示されます。

カラム	説明
【ドメイン】	ソース・プロジェクトが存在するドメイン。
【プロジェクト】	ソース・プロジェクトの名前。
【ライブラリ名】	ソース・プロジェクトでのライブラリの名前。
【ベースライン名】	ライブラリのインポート元ソース・プロジェクトでのベースラインの名前。

カラム	説明
[最後の同期]	インポート・ライブラリとソース・ライブラリが最後に同期化された日付。ライブラリを初めてインポートすると、このフィールドの値はインポート日付になります。
[ソース ライブラリの所有者]	ソース・プロジェクトのライブラリを作成したユーザの名前。



- 2 ソース・ライブラリの所有者にメールを送信するには、[所有者にメールを送信] ボタンをクリックします。詳細については、564 ページ「ライブラリのメール送信」を参照してください。



- 3 インポート・ライブラリとソース・ライブラリを比較するには、[ソースと比較] ボタンをクリックします。詳細については、558 ページ「ライブラリ比較ツール」を参照してください。

## ライブラリ比較ツール

2 つの関連ライブラリを比較できます。ライブラリ比較ツールを使用して、インポートしたライブラリをインポート元のソース・ライブラリと比較できます。

---

**注：**Quality Center は、エンティティが変更されたかどうかを判断するときに、[ターゲット リリース] フィールドおよび [ターゲット サイクル] フィールドに加えられた変更は検討対象にしません。

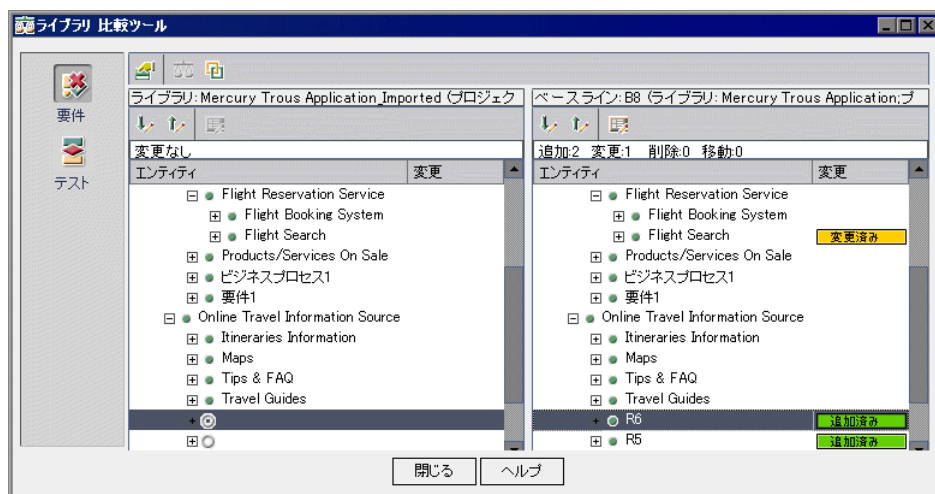
---

また、2 つの関連ライブラリを同期化できます。詳細については、561 ページ「ライブラリの同期化」を参照してください。

ライブラリを比較するには、次の手順を実行します。



- 1 ライブラリ・ツリーで、ライブラリを選択します。[次と比較] ボタンをクリックするか、[ライブラリ] > [次と比較] を選択します。
  - 2 ライブラリと比較するベースラインを選択します。
    - ▶ ライブラリをほかのライブラリで作成された最新のベースラインと比較するには、[最後に作成したベースライン] を選択します。
    - ▶ 比較するほかのライブラリのベースラインを選択するには、[ベースラインの選択] を選択します。[ベースラインの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。参照ボタンをクリックし、一覧からベースラインを選択します。[OK] をクリックします。
- [OK] をクリックして、[ベースラインの選択] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 3 [ライブラリ比較ツール] ダイアログ・ボックスが開きます。



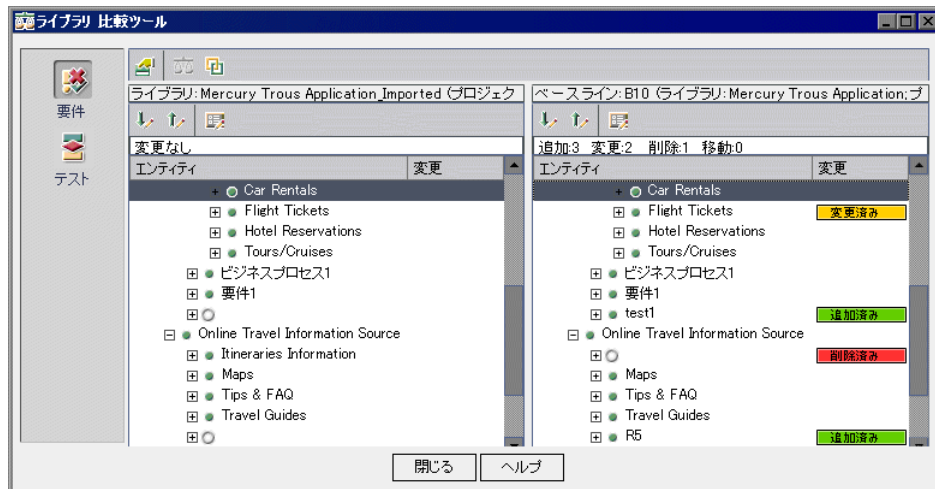
ライブラリが別々の表示枠に表示されます。左側の表示枠には、ライブラリ・ツリーで選択したライブラリが表示されます。右側の表示枠には、比較対象のライブラリのベースラインが表示されます。それぞれのライブラリのエンティティが、特定のモジュールで定義された同じ階層ツリー構造で表示されます。

各表示枠の [変更] カラムに、2つのライブラリの相違点が表示されます。[ライブラリ比較ツール] で示される変更のタイプは次のとおりです。

変更	説明
追加済み	エンティティがほかのライブラリに存在しません。
削除済み	エンティティはライブラリから削除されています。
変更済み	エンティティがライブラリで変更されています。
移動済み	エンティティはライブラリのツリー構造の別の場所にあります。

追加、変更、削除、または移動されたエンティティの数が、各表示枠の上部カウンタに示されます。

削除または移動されたエンティティは、ツリー内での元の場所がプレースホルダで表示されます。また、ツリーでは、ほかのライブラリでエンティティが追加された場所にもプレースホルダが表示されます。これにより階層構造が維持され、ライブラリ間の変更を簡単に比較できます。



- 4 サイドバーのボタンをクリックし、特定のモジュールのエンティティの比較結果を表示します。たとえば、[テスト] ボタンをクリックすると、テスト計画モジュールの比較結果が表示されます。サイドバーには、ライブラリに含まれるモジュールのみが表示されます。





5 ライブラリ・ツールバーの [**次の変更に移動**] ボタンをクリックすると次の変更に移動し、[**1 つ前の変更に移動**] ボタンをクリックすると 1 つ前の変更に移動に移動します。



6 エンティティの追加情報を表示するには、エンティティを選択して、ライブラリ・ツールバーの [**詳細**] ボタンをクリックします。エンティティの [**詳細**] ダイアログ・ボックスが開きます。たとえば、要件を選択して [**詳細**] ボタンをクリックします。この場合 [**要件詳細**] ダイアログ・ボックスが開き、選択した要件の詳細が表示されます。



7 ライブラリ間で変更されたエンティティを比較するには、エンティティを選択して、ツールバーの [**エンティティの比較**] ボタンをクリックします。[**エンティティの比較**] ダイアログ・ボックスが開き、ライブラリごとにエンティティの詳細が表示されます。詳細については、543 ページ「エンティティの比較」を参照してください。



8 ライブラリ比較ツールのオプションを設定するには、ツールバーの [**比較の設定**] ボタンをクリックします。詳細については、537 ページ「比較の設定」を参照してください。



9 ライブラリを同期化するには、[**同期**] ボタンをクリックします。ライブラリにほかのライブラリのデータがコピーされます。詳細については、561 ページ「ライブラリの同期化」を参照してください。

## ライブラリの同期化

2 つの関連ライブラリを同期化し、一方のライブラリに加えられた変更を使用して他方のライブラリを更新できます。ソース・ライブラリに加えられた変更を使用して、インポート・ライブラリを更新できます。また、インポート・ライブラリに加えられた変更を使用して、ソース・ライブラリを更新することもできます。

ライブラリを同期化すると、Quality Center は最初にライブラリが正常に同期化されたことを検証します。検証プロセスでは次のチェックを行います。

- ▶ **要件タイプ・チェック**：プロジェクトに必要な要件タイプがあるかどうかを検査します。ほかのライブラリにカスタマイズされた要件タイプが含まれている場合、ユーザのプロジェクトにも同じ要件タイプが含まれている必要があります。カスタマイズされた要件タイプの詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

- ▶ **エンティティ互換性チェック**：プロジェクトで必要な拡張機能が有効になっているかどうかを検査します。ほかのライブラリのプロジェクトで **Quality Center** 拡張機能が有効で、ライブラリに該当の拡張機能のエンティティが含まれている場合、ユーザのプロジェクトでも拡張機能が有効になっている必要があります。拡張機能の詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

同期化中、ほかのライブラリのベースラインのデータがライブラリにコピーされます。次の表に、ライブラリ内のエンティティの更新方法を示します。

ソース・ライブラリのイベント	ユーザのライブラリのイベント
エンティティが追加された。	エンティティが追加される。
エンティティが変更された。	エンティティが更新される。 両方のライブラリでエンティティが変更された場合、ユーザのライブラリのエンティティが上書きされます。 <b>バージョン・コントロール</b> ：新しいバージョンが作成されます。
エンティティが削除された。	新しいフォルダが作成され、削除されたエンティティが新しいフォルダに移動します。新しいフォルダには「SYNC_OBSOLETE_<ライブラリ ID>_<現在の日付>」という名前が付けられ、モジュールのルート・フォルダの下に置かれます。
エンティティが移動した。	エンティティとその子エンティティが移動する。

同期化プロセス中に別のユーザによってライブラリのエンティティが編集されている場合、同期化は正常に終了しません。エンティティの名前が **Quality Center** サーバのログ・ファイルに記録されます。その後ログを確認して、各エンティティに対するアクションを判断できます。たとえば、同期化の後にエンティティを手動で更新することもできます。

**バージョン・コントロール**：同期化の前に、ライブラリ内のすべてのエンティティをチェックする必要があります。チェックアウトされているエンティティがライブラリ内にあれば、同期化は正常に終了しません。エンティティの名前が Quality Center サーバのログ・ファイルに記録されます。

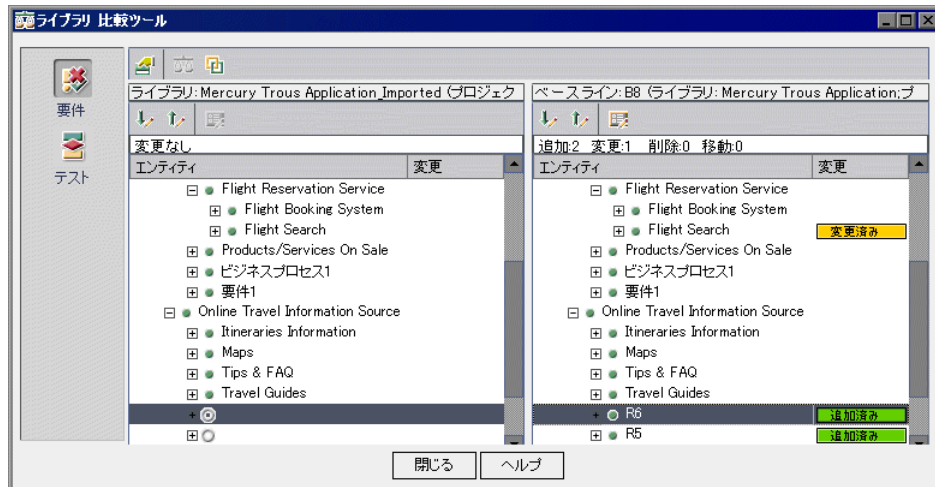
ライブラリを同期化したら、更新されたライブラリ用のベースラインが自動的に作成されます。このベースラインはいつの時点でもライブラリの比較の基礎となるので、削除しないようにします。ベースラインの詳細については、第 38 章「ライブラリとベースライン」を参照してください。

## ライブラリの同期化

2つのライブラリを同期化し、別のライブラリに加えられた変更を使用してライブラリを更新できます。ライブラリを同期化するには、同期化するライブラリのベースラインを選択します。

ライブラリを同期化するには、次の手順を実行します。

- 1 ライブラリ・ツリーで、更新するライブラリを選択します。ライブラリ比較ツールを使用し、ほかのライブラリのベースラインを選択してライブラリを比較します。詳細については、558 ページ「ライブラリ比較ツール」を参照してください。



ライブラリ比較ツールでは、左の表示枠にユーザのライブラリ、右の表示枠にほかのライブラリのベースラインが表示されます。ライブラリを同期化すると、右の表示枠のベースラインに示された変更を使用してユーザのライブラリが更新されます。



- 2 ライブラリ比較ツールで、**[同期]** ボタンをクリックします。**[ライブラリ検証]** ダイアログ・ボックスが開き、検証結果が表示されます。
- 3 **[続行]** をクリックして、同期化を開始します。ほかのライブラリのベースラインのデータがライブラリにコピーされます。
- 4 **[閉じる]** をクリックして **[ライブラリ比較ツール]** ダイアログ・ボックスを閉じます。



- 5 モジュール・ツールバーの **[更新]** ボタンをクリックして、表示を更新します。プロセスが完了すると、**[インポート実行元]** タブまたは **[インポート元]** タブの **[最後の同期]** データが更新されます。

## ライブラリのメール送信

ライブラリに関する電子メールをほかのユーザに送信できます。これにより、ほかのユーザにライブラリのステータスを通知できます。たとえば、ライブラリ内で要件を更新したら、インポート・ライブラリの所有者に変更を通知できます。電子メールにはリンクが含まれており、電子メールの受信者はそのリンクによって直接ライブラリにアクセスできます。

標準では、HTML 形式で電子メールが送信されます。電子メールを普通のテキストで送信するには、サイト管理の **[サイト設定]** タブで **MAIL\_FORMAT** パラメータを編集します。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

ライブラリをメールで送信するには、次の手順を実行します。

- 1 ライブラリ・ツリーで、ライブラリを選択します。**[インポート実行元]** タブまたは **[インポート元]** タブをクリックします。**[インポート実行元]** タブでライブラリを選択できます。複数のライブラリを選択するには、CTRL キーを押しながらライブラリを選択します。



- 2 [電子メール送信] ボタンをクリックします。[電子メール送信] ダイアログ・ボックスが開きます。

電子メール送信

To(T) alex\_qc

CC(C)

件名: DEFAULT.LinkTest - ライブラリ #1006 - Mercury Trous Application\_Imported

項目:  
 1 - Mercury Trous Application\_Imported

次を含める:  
 追加コメント:

送信(S) キャンセル ヘルプ

- 3 標準設定では、[宛先] ボックスにはライブラリ所有者が表示されます。ユーザを追加するには、有効な電子メールアドレス、またはユーザ名を入力します。あるいは、[宛先] ボタンまたは [CC] ボタンをクリックし、送信先のユーザを選択します。[受信者の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。

受信者の選択

グループごとに表示(O)

名前	名前
alex_qc	
alice_qc	Alice Jones
cecil_qc	Cecil Davis
james_qc	James Johnson
kelly_qc	Kelly White
mary_qc	Mary River
michael_qc	Michael Brown
paul_qc	Paul Winter
peter_qc	Peter Adams
robert_qc	Robert Phillips
shelly_qc	Shelly Lake
tim_qc	

メッセージ受信者

宛先(Q) ->

Cc(C) ->

OK キャンセル

ユーザ・リストの並べ替え、ユーザの検索、ユーザ・グループによるユーザのグループ分け、およびリストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については、55 ページ「ユーザの選択」を参照してください。

電子メールの送信先のユーザまたはユーザ・グループを選択し、[OK] をクリックします。

- 4 [サブジェクト] ボックスに、電子メールの件名を入力します。
- 5 [項目] ボックスで、電子メールに含まれているライブラリ名を表示できます。
- 6 コメントがある場合は、[追記] ボックスに入力します。
- 7 ダイアログ・ボックスで次の操作を行って、スペルをチェックできます。



- ▶ [スペル チェック] ボタンをクリックすると、選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルがチェックされます。誤りがなければ、確認メッセージ・ボックスが開きます。誤りが見つかった場合は、[スペル] ダイアログ・ボックスに誤りのある単語と修正候補が表示されます。



- ▶ [スペル オプション] ボタンをクリックすると、[スペル オプション] ダイアログ・ボックスが開き、Quality Center によるスペルのチェック方法を設定できます。



- ▶ [類語辞典] ボタンをクリックすると、[類語辞典: 英語] ダイアログ・ボックスが開き、選択した語の類義語、反意語、関連する語が表示されます。選択した単語を置換したり、新しい単語を調べたりすることができます。



- 8 電子メールをカスタマイズするには、[カスタム] ボタンをクリックします。[フィールドの選択] ダイアログ・ボックスで、電子メールに含めるフィールドを指定できます。

- 9 [送信] をクリックすると、電子メールが送信されます。

# 第 VIII 部

---

## Quality Center での分析





# 第 40 章

---

## ダッシュボード・モジュール

ダッシュボード・モジュールでは、Quality Center データを分析するためのグラフ、標準レポート、Excel レポートの作成、表示、管理を行います。また、複数のグラフが並んで表示されるダッシュボード・ページも作成します。

### 本章の内容

- ▶ ダッシュボード・モジュールについて (569 ページ)
- ▶ ダッシュボード・モジュールの概要 (570 ページ)
- ▶ アナリシス・ツリーとダッシュボード・ツリーの構築 (571 ページ)
- ▶ アナリシス項目の作成 (572 ページ)
- ▶ ダッシュボード・ページの作成 (573 ページ)
- ▶ アナリシス項目とダッシュボード・ページの管理 (577 ページ)

### ダッシュボード・モジュールについて

ダッシュボード・モジュールには、[アナリシス ビュー] タブと [ダッシュボード ビュー] タブという 2 つのタブがあります。

[**アナリシス ビュー**] タブには、すべてのアナリシス項目が編成されるツリーがあります。アナリシス項目は、グラフ、標準レポート、Excel レポートというアナリシス・タイプのいずれかとなります。

[**ダッシュボード ビュー**] タブには、ダッシュボード・ページが編成されるツリーがあります。**ダッシュボード・ページ**では、アナリシス・ツリーに作成した複数のグラフを配列し、それらのグラフを 1 つのビューで表示します。

本章では、アナリシス・ツリーとダッシュボード・ツリーの構築および管理方法、そして、ダッシュボード・ページの作成方法について説明します。

### その他のアナリシス・ツール

- ▶ **ライブ・アナリシス・グラフ**：テスト計画およびテスト・セットに関するデータを動的かつ視覚的に作成，表示できます。詳細については，第 44 章「ライブ・アナリシス・グラフの作成」を参照してください。
- ▶ **ドキュメント・ジェネレータ**：プロジェクトの要件，計画，テスト・リスト，テスト・セット・フォルダ，および不具合追跡に関するデータを含む Microsoft Word ドキュメントを作成できます。詳細については，第 45 章「プロジェクト・ドキュメントの作成」を参照してください。

## ダッシュボード・モジュールの概要



ダッシュボード・モジュールでは，アナリシス項目（グラフ，標準レポート，Excel レポート）およびダッシュボード・ページを定義します。ダッシュボード・モジュールを開くには，サイドバーの [**ダッシュボード**] ボタンをクリックします。

アナリシス ビュー    ダッシュボードビュー

アナリシス   編集   表示

詳細   設定   表示

期間: 過去 7 日間    日次情報を表示

表示オプション:  標準    一定期間で変更

Y 軸: カウント    不具合

グループ分け: Assigned To

-フィルタ-

-クロス プロジェクトの選択-

ドメイン	プロジェクト
DEFAULT	QualityCenter_Demo1

プロジェクトを選択

ダッシュボード・モジュールの主な要素は、次のとおりです。

- ▶ **アナリシス・ツリーおよびダッシュボード・ツリー**：アナリシス項目とダッシュボード・ページを収める固有フォルダおよび共有フォルダの構造。ツリーの構築の詳細については、571 ページ「アナリシス・ツリーとダッシュボード・ツリーの構築」を参照してください。
- ▶ **[アナリシス ビュー] タブ**：グラフ、標準レポート、Excel レポートの作成および管理を行うことができます。
  - ▶ グラフの詳細については、第41章「グラフの作成」を参照してください。
  - ▶ 標準レポートの詳細については、第42章「標準レポートの作成」を参照してください。
  - ▶ Excel レポートの詳細については、第43章「Excel レポートの作成」を参照してください。
- ▶ **[ダッシュボード ビュー] タブ**：複数のグラフが1つのページに表示されるダッシュボード・ページを作成および管理できます。ダッシュボード・ページの作成の詳細については、573 ページ「ダッシュボード・ページの作成」を参照してください。

## アナリシス・ツリーとダッシュボード・ツリーの構築

ダッシュボード・モジュールには、アナリシス項目とダッシュボード・ページのツリーがあります。それぞれのツリーは、**固有**ルート・フォルダおよび**共有**ルート・フォルダで構成されています。各ルート・フォルダの下に個別のツリーを構築します。共有フォルダに作成したアナリシス項目およびダッシュボード・ページは、すべてのユーザがアクセス可能です。固有フォルダに作成したアナリシス項目およびダッシュボード・ページは、それを作成したユーザしかアクセスできません。共有ダッシュボード・ページには、共有グラフのみ含めることができます。

共有フォルダ内のアナリシス項目およびダッシュボード・ページは、ユーザ・グループのデータ非表示定義に従い、ユーザごとに異なる結果が表示される場合があります。データ権限の詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

アナリシス・ツリーまたはダッシュボード・ツリーを構築するには、次の手順を実行します。

- 1 ダッシュボード・モジュールで、[アナリシス ビュー] タブまたは [ダッシュボード ビュー] タブをクリックします。
- 2 ツリーで、新しいフォルダを作成するフォルダを選択します。



- 3 [フォルダの新規作成] ボタンをクリックします。あるいは、右クリックして [フォルダの新規作成] を選択します。[フォルダの新規作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4 [フォルダ名] ボックスにフォルダの名前を入力し、[OK] をクリックします。フォルダ名には、「¥」、「^」、「\*」は使用できません。

選択したフォルダのサブフォルダとして新しいフォルダが表示されます。

- 5 [詳細] タブをクリックします。[詳細] タブには、次のフィールドが表示されます。

フィールド	説明
名前	フォルダの名前です。
所有者	フォルダを作成したユーザを示します。共有フォルダを変更する権限は所有者にしかない場合があります。
説明	フォルダの説明です。

## アナリシス項目の作成

ダッシュボード・モジュールの [アナリシス ビュー] タブでは、グラフ、標準レポート、Excel レポートを作成します。

- ▶ グラフを作成するには、582 ページ「グラフ・ウィザードによるグラフの作成」または 589 ページ「ダッシュボード・モジュールでのグラフの作成」を参照してください。
- ▶ 標準レポートを作成するには、628 ページ「ダッシュボード・モジュールでの標準レポートの作成」を参照してください。
- ▶ Excel レポートを作成するには、643 ページ「Excel レポートの作成」を参照してください。

## ダッシュボード・ページの作成

ダッシュボード・ページでは、1つのページに複数のグラフを配列および表示できます。ダッシュボード・ページに含めるグラフは、アナリシス・ツリーのグラフから選択します。グラフは、好きな順序でダッシュボード・ページに配列でき、サイズの拡大および縮小もできます。


本項の内容

- ▶ ダッシュボード・ページの作成
- ▶ ダッシュボード・ページの設定
- ▶ ダッシュボード・ページの表示

### ダッシュボード・ページの作成

ダッシュボード・ページの作成は、ダッシュボード・モジュールの [ダッシュボードビュー] タブで行います。

ダッシュボード・ページを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 ダッシュボード・モジュールの [**ダッシュボードビュー**] タブをクリックします。
- 2 ダッシュボード・ツリーで、共有フォルダまたは固有フォルダを選択します。ダッシュボード・ツリーのフォルダの詳細については、571 ページ「アナリシス・ツリーとダッシュボード・ツリーの構築」を参照してください。
- 3  [**新規ページ**] ボタンをクリックします。あるいは、[**ダッシュボード**] > [**新規ページ**] を選択します。

[新規のダッシュボードページ] ダイアログ・ボックスが開きます。ダッシュボード・ページ名を入力し、[OK] をクリックします。ダッシュボード・ページ名には、「¥」、「^」、「\*」は使用できません。

選択したフォルダの下のダッシュボード・ツリーにダッシュボード・ページが追加されます。

- 4 [詳細] タブをクリックします。

[詳細] タブには、次のフィールドが表示されます。

フィールド	説明
名前	ダッシュボード・ページの名前。
更新日時	ダッシュボード・ページが最後に更新された日時を示します。
更新者	ダッシュボード・ページを最後に更新したユーザを示します。
ページ所有者	ダッシュボード・ページを作成したユーザを示します。共有ページを変更する権限は所有者にしかない場合があります。
タイトル	ダッシュボード・ページ・ビューのヘッダに表示されるタイトル。
詳細	ダッシュボード・ページの詳細。

- 5 ダッシュボード・ページに含めるグラフを選択し、配列します。詳細については、574 ページ「ダッシュボード・ページの設定」を参照してください。
- 6 ダッシュボード・ページを表示します。詳細については、575 ページ「ダッシュボード・ページの表示」を参照してください。

### ダッシュボード・ページの設定

ダッシュボード・ページの設定は、ページのグラフを選択および配列することによって行います。ダッシュボード・ページの各行には、1 つまたは 2 つのグラフを含めることができます。共有ダッシュボード・ページに含めることができるのは、共有グラフのみです。

---

**注：** `DASHBOARD_PAGE_ITEM_LIMIT` サイト・パラメータを設定することによって、ダッシュボード・ページに含めることができるグラフの最大数を変更できます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

---

ダッシュボード・ページを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 ダッシュボード・モジュールの [**ダッシュボードビュー**] タブをクリックします。
- 2 ダッシュボード・ツリーで、設定するダッシュボード・ページを選択します。
- 3 [**設定**] タブをクリックします。[グラフの選択] 表示枠が開きます。
- 4 グラフ・ツリーを更新するには、[**更新**] ボタンをクリックします。
- 5 グラフを選択し、[**ダッシュボードページにグラフを追加**] ボタンをクリックします。また、既存のグラフの上または下にある新しい行に、あるいは、グラフの横にある空のボックスにグラフをドラッグすることもできます。



グラフのタイトルが表示されたグラフのプレースホルダが [設定] タブに作成されます。

---

**注：**共有ダッシュボード・ページには、固有アナリシス・フォルダのグラフを含めることはできません。

---

- 6 グラフを横向き、上向き、または下向きにするには、プレースホルダを選択し、新しい位置にドラッグします。グラフとグラフの間に空白行を残すことはできません。
- 7 行全体に及ぶようにグラフの幅を広げるには、グラフがそれ自体の行にあることを確認し、プレースホルダの左上角にある [**展開**] ボタンをクリックします。
- 8 行の半分になるようにグラフの幅を狭めるには、プレースホルダの左上角にある [**Contract**] ボタンをクリックします。
- 9 ダッシュボード・ページからグラフを削除するには、プレースホルダの右上角にある [**削除**] ボタンをクリックします。



### ダッシュボード・ページの表示

ダッシュボード・ページにグラフを配列したら、[表示] タブでグラフを表示します。

ダッシュボード・ページを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 ダッシュボード・モジュールの [**ダッシュボードビュー**] タブをクリックします。
- 2 ダッシュボード・ツリーで、表示するダッシュボード・ページを選択します。

- 3 [ダッシュボードビュー] ツールバーの [**生成**] ボタンをクリックします。あるいは、[**表示**] タブをクリックします。グラフが生成され、ダッシュボード・ページに表示されます。

ウィンドウには常に、グラフの2つの行が表示されます。ダッシュボード・ページを上下に移動するには、垂直スクロール・バーを使用します。

- 4 棒グラフおよび円グラフでは、グラフのセグメントからそのセグメントが表しているレコードにまでドリル・ダウンできます。詳細については、599 ページ「グラフ・レコードへのドリル・ダウン」を参照してください。



- 5 ダッシュボード・ページを全画面モードで表示するには、ページの右上角にある [**全画面でページを表示**] ボタンをクリックします。

標準ビューに戻るには、ページの右上角にある [**閉じる**] ボタンをクリックします。



- 6 1つのグラフを全画面モードで表示するには、グラフの右上角にある [**グラフを全画面で表示**] ボタンをクリックします。

ツールバー・ボタンでは、グラフの表示の調整、グラフの保存、グラフの印刷を行うことができます。グラフの表示に対して行った調整は、次にダッシュボード・ページを生成したときにリセットされます。グラフの表示の詳細については、596 ページ「グラフの表示」を参照してください。

ダッシュボード・ページ・ビューに戻るには、グラフの右上角にある [**閉じる**] ボタンをクリックします。



- 7 すべてのグラフのデータを更新するには、ページの右上角にある [**すべてのグラフをページに生成**] ボタンをクリックします。

1つのグラフのデータを更新するには、グラフの右上角にある [**グラフを生成**] ボタンをクリックします。

グラフが更新され、最終生成日の日時も更新されます。



- 8 アナリシス・ツリーのグラフに移動するには、グラフの右上角にある [**アナリシス ツリーのグラフへ移動**] ボタンをクリックします。あるいは、グラフをダブルクリックします。[アナリシスビュー] が開き、そのグラフがアナリシス・ツリーで選択されています。



## アナリシス項目とダッシュボード・ページの管理

本項では、アナリシス・ツリーおよびダッシュボード・ツリーでアナリシス項目とダッシュボード・ページを管理するための編集コマンドについて説明します。本項は、次の項目で構成されています。

- ▶ 項目とフォルダの移動
- ▶ アナリシス項目とフォルダのコピー
- ▶ 項目またはフォルダの URL のコピー
- ▶ 項目とフォルダの名前の変更
- ▶ 項目とフォルダの削除

### 項目とフォルダの移動

項目およびフォルダは、ツリー内の新しい位置に移動できます。項目またはフォルダを移動する前に、次の点を検討します。

- ▶ フォルダを移動すると、そのフォルダに含まれているすべてのアナリシス項目またはダッシュボード・ページも移動します。
- ▶ アナリシス項目を共有フォルダから固有フォルダに移動すると、そのアナリシス項目が含まれている共有ダッシュボード・ページからそのアナリシス項目が削除されます。
- ▶ ダッシュボード・ページを固有フォルダから共有フォルダに移動すると、そのダッシュボード・ページから固有グラフが削除されます。

項目またはフォルダを移動するには、次の手順を実行します。

- 1 ツリーで、項目またはフォルダを選択します。複数の項目またはフォルダを移動するには、CTRL キーを押しながら、移動する項目またはフォルダを選択します。



- 2 **[切り取り]** ボタンをクリックします。あるいは、右クリックして **[切り取り]** を選択します。

- 3 ツリーのフォルダを選択します。



- 4 **[貼り付け]** ボタンをクリックします。あるいは、右クリックして **[貼り付け]** を選択します。

---


**ヒント**：項目またはフォルダは、別のフォルダにドラッグすることによっても移動できます。

---

### アナリシス項目とフォルダのコピー

アナリシス項目およびフォルダは、同じプロジェクト内で、あるいは、別の Quality Center プロジェクトにコピーできます。

アナリシス項目またはフォルダをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 アナリシス・ツリーで、コピーする項目またはフォルダを選択します。複数の項目またはフォルダをコピーするには、CTRL キーを押しながら、項目またはフォルダを選択します。
- 2  **[コピー]** ボタンをクリックします。あるいは、右クリックして **[コピー]** を選択します。
- 3 別のプロジェクトにコピーするには、別のブラウザ・ウィンドウを開き、ターゲット・プロジェクトにログインします。
- 4 項目またはフォルダのコピー先となるフォルダを選択します。
- 5 **[編集]** > **[貼り付け]** を選択します。あるいは、右クリックして **[貼り付け]** を選択します。

### 項目またはフォルダの URL のコピー

項目またはフォルダをコピーし、その URL をリンクとして貼り付けることができます。項目はコピーされません。その代わりに、アドレスを別の場所（電子メールやドキュメントなど）に貼り付けることができます。リンクをクリックすると Quality Center が開き、その項目またはフォルダに移動します。ログインしていない場合は、最初にログイン情報の入力を求められます。

項目またはフォルダの URL をコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 ツリーで、項目またはフォルダを選択します。
- 2 **[編集]** > **[URL をコピー]** を選択します。あるいは、右クリックして **[URL をコピー]** を選択します。
- 3 URL を貼り付けます。

## 項目とフォルダの名前の変更

項目およびフォルダの名前は変更できます。

項目またはフォルダの名前を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 ツリーで、項目またはフォルダを選択します。
- 2 項目またはフォルダを右クリックし、[名前の変更] を選択します。
- 3 項目名またはフォルダ名を編集し、[Enter] をクリックします。

## 項目とフォルダの削除

ツリーから項目およびフォルダを削除できます。項目またはフォルダを削除する前に、次の点を検討します。

- ▶ フォルダを削除すると、そのフォルダに含まれているすべての項目が削除されます。
- ▶ グラフを削除すると、そのグラフが含まれているダッシュボード・ページからそのグラフが削除されます。

項目またはフォルダを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 ツリーで、項目またはフォルダを選択します。複数の項目またはフォルダを削除するには、CTRL キーを押しながら、削除する項目またはフォルダを選択します。
- 2 **[削除]** ボタンをクリックするか、右クリックして **[削除]** を選択します。
- 3 **[はい]** ボタンをクリックして、確定します。





# 第 41 章

---

## グラフの作成

Quality Center プロジェクトの情報を画像として表示するグラフを作成できます。また、複数のプロジェクトのデータを結合したグラフも設計できます。

### 本章の内容

- ▶ グラフの作成について (582 ページ)
- ▶ グラフ・ウィザードによるグラフの作成 (582 ページ)
- ▶ クイック・グラフの作成 (588 ページ)
- ▶ ダッシュボード・モジュールでのグラフの作成 (589 ページ)
- ▶ グラフの設定 (591 ページ)
- ▶ クロス・プロジェクト・グラフの作成 (594 ページ)
- ▶ グラフの表示 (596 ページ)
- ▶ Quality Center のグラフの種類 (604 ページ)

## グラフの作成について

Quality Center グラフは、各種データ間の関係を分析および表示するのに役立ちます。グラフでは、要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、不具合モジュールのデータを表すことができます。モジュールごとに、さまざまなグラフ・オプションがあります。グラフの種類の詳細については、604 ページ「Quality Center のグラフの種類」を参照してください。

**Quality Center Premier Edition** : 複数の Quality Center プロジェクトのデータが含まれたグラフを作成できます。

グラフは、ダッシュボード・モジュールで開始するか、要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、不具合モジュールでの作業中に開始します。どちらの場合も、後から参照できるようにダッシュボード・モジュールにグラフを保存できます。

Quality Center には、グラフの作成を支援するグラフ・ウィザードが用意されています。詳細については、582 ページ「グラフ・ウィザードによるグラフの作成」を参照してください。

グラフの表示中は、各セグメントが表しているレコードまでドリル・ダウンできます。詳細については、599 ページ「グラフ・レコードへのドリル・ダウン」を参照してください。

ダッシュボード・ページに複数のグラフを含めることによって、1つのビューに複数のグラフを表示できます。詳細については、573 ページ「ダッシュボード・ページの作成」を参照してください。

## グラフ・ウィザードによるグラフの作成

グラフは、グラフ・ウィザードを使用して作成できます。グラフ・ウィザードは、グラフの作成とその設定の手順を導いてくれます。

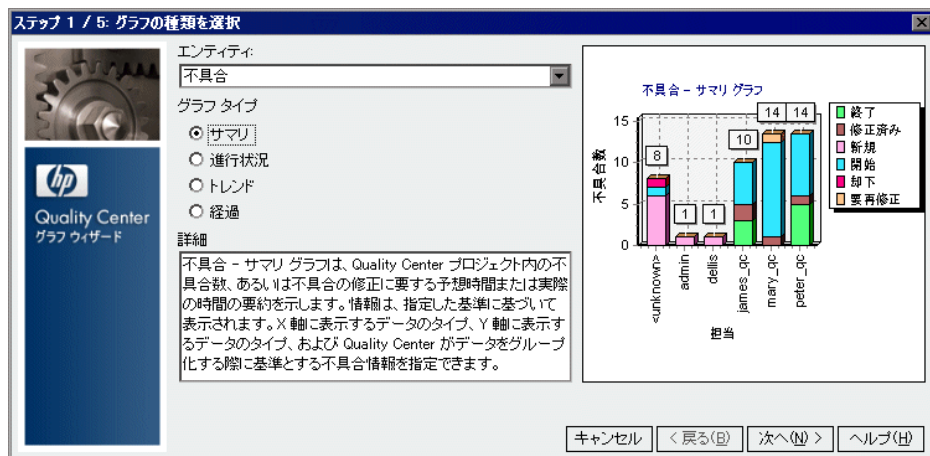
グラフ・ウィザードを使用してグラフを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 グラフ・ウィザードを起動します。
  - ▶ 要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、不具合モジュールのいずれかを開きます。[アナリシス] > [グラフ] > [グラフウィザード] を選択します。



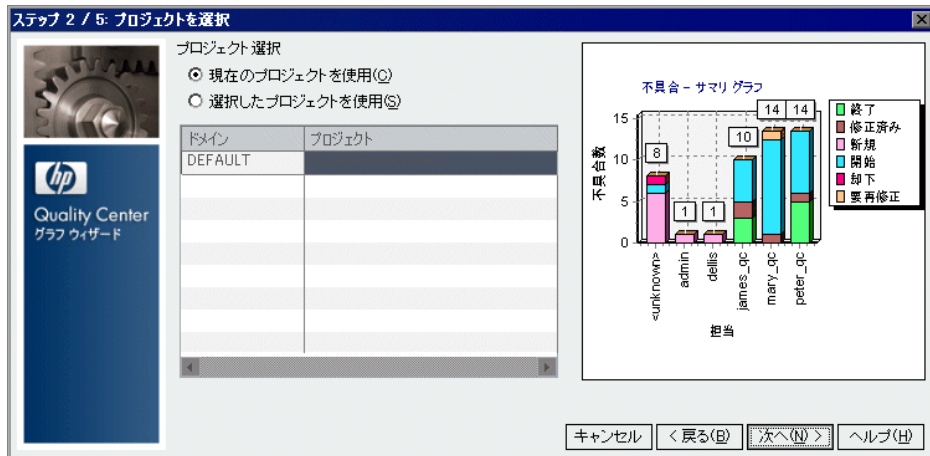
- ▶ ダッシュボード・モジュールを開き、[アナリシス ビュー] タブを選択します。[新規項目] ボタンをクリックし、[グラフ ウィザード] を選択します。

グラフ・ウィザードが開き、[グラフの種類を選択] ダイアログ・ボックスが表示されます。



- この手順は、ダッシュボード・モジュールからグラフ・ウィザードを起動した場合に実行します。[エンティティ] で、グラフを作成する Quality Center モジュールを選択します。
- [グラフタイプ] で、表示するグラフの種類を選択します。グラフの種類の詳細については、604 ページ「Quality Center のグラフの種類」を参照してください。[次へ] をクリックします。

4 Quality Center Premier Edition : [プロジェクトを選択] ダイアログ・ボックスが開きます。

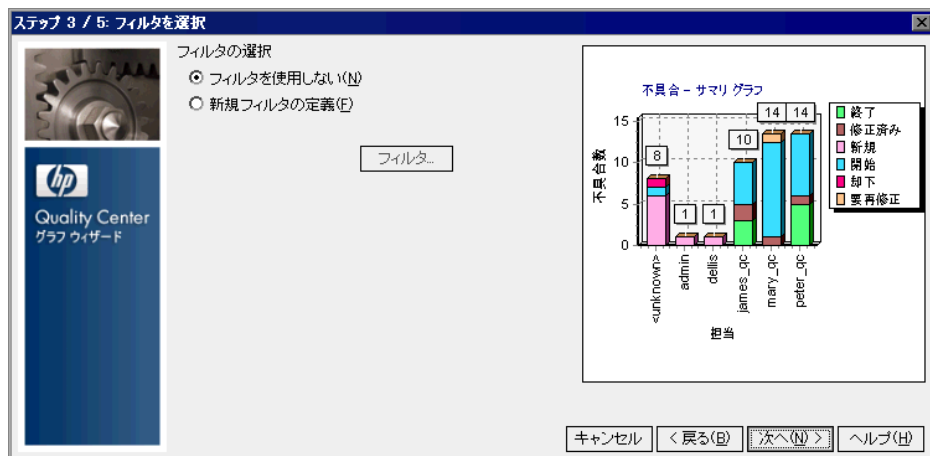


[プロジェクト選択] で、グラフに含めるプロジェクトを指定します。

- ▶ [現在のプロジェクトを使用] : 現在の Quality Center プロジェクトが使用されます。
  - ▶ [選択したプロジェクトを使用] : グリッドに表示されているプロジェクトが使用されます。選択されているプロジェクトを変更するには、[選択] をクリックします。クロス・プロジェクト・グラフの作成の詳細については、594 ページ「クロス・プロジェクト・グラフの作成」を参照してください。
- 5 この手順は、テスト・ラボ・モジュールからグラフ・ウィザードを起動した場合に実行します。[テストセット オプションを選択] ダイアログ・ボックスが開きます。選択したテスト・セットのみグラフに含めるか、それとも、すべてのテスト・セットを含めるかを選択します。[次へ] をクリックします。



## 6 [フィルタを選択] ダイアログ・ボックスが開きます。



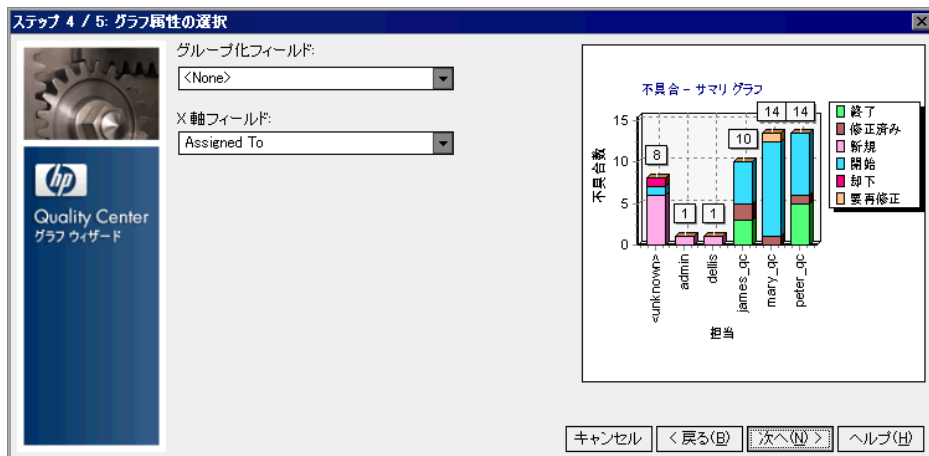
[フィルタの選択] で、グラフに含めるレコードを限定するのに使用するフィルタを指定します。

- ▶ [現在のフィルタを使用]：要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、または不具合モジュールからグラフ・ウィザードを起動した場合に使用可能です。データに適用されている現在のフィルタが使用されます。
- ▶ [フィルタを使用しない]：選択したモジュールのすべてのレコードが含まれます。
- ▶ [新規フィルタの定義]：新しいフィルタまたはクロス・フィルタを定義できます。[フィルタ] ボタンをクリックして [フィルタ] ダイアログ・ボックスを開き、フィルタを定義します。

フィルタ処理の詳細については、56 ページ「レコードのフィルタ処理」を参照してください。

**Quality Center Premier Edition**：グラフに複数のプロジェクトが含まれている場合、フィルタに使用できるのは、選択されたプロジェクトのすべてに存在するフィールドだけです。

- 7 [次へ] をクリックします。[グラフ属性の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。



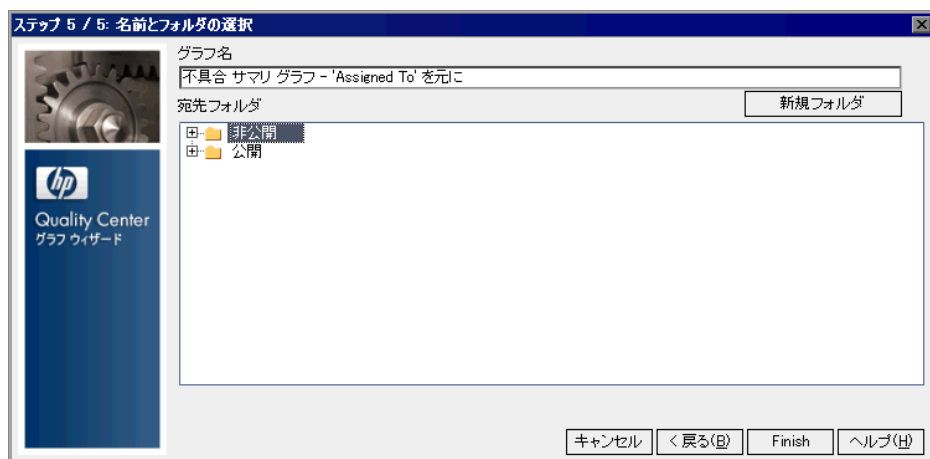
[グループ化フィールド] ボックスで、グラフ内でデータのグループ分けの基準にするフィールドを選択します。進行状況グラフの場合、履歴が有効になっているフィールドのみを選択できます。フィールドの履歴を有効にする方法については、『HP Quality Center Administrator Guide』（英語版）を参照してください。

**Quality Center Premier Edition** : グラフに複数のプロジェクトが含まれている場合、選択できるのは、選択されたプロジェクトのすべてに存在するフィールドだけです。データをプロジェクトごとにグループ分けするには、[QC プロジェクト] 値を選択します。

- 8 サマリ・グラフを作成する場合は、[X 軸フィールド] ボックスで、X 軸に使用するフィールドを選択します。

**Quality Center Premier Edition** : グラフに複数のプロジェクトが含まれている場合、選択できるのは、選択されたプロジェクトのすべてに存在するフィールドだけです。X 軸にプロジェクトを表示するには、[QC プロジェクト] 値を選択します。

- 9 この手順は、要件モジュールを使用している場合に実行します。[カバレッジの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。[カバレッジオプションの選択] で、グラフに含める要件を選択します。
- ▶ ['Not Covered' の親を表示しない] : ステータスが 'Not Covered' の親要件は含めません。
  - ▶ ['Not Covered' の親を表示する] : すべての要件を含めます。
- カバレッジの詳細については、第 19 章「要件とテスト・カバレッジ」を参照してください。
- 10 [次へ] をクリックします。[名前とフォルダの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。



[グラフ名] ボックスにグラフの名前を入力するか、標準設定名をそのまま使用します。

- 11 [宛先フォルダ] で、ダッシュボード・モジュールにある、グラフを格納するフォルダを選択します。新しいフォルダを作成するには、親フォルダを選択し、[新規フォルダ] ボタンをクリックします。アナリシス・ツリーのフォルダの詳細については、571 ページ「アナリシス・ツリーとダッシュボード・ツリーの構築」を参照してください。
- 12 [完了] をクリックします。ダッシュボード・モジュールの [表示] タブに、指定した設定でグラフが表示されます。

## クイック・グラフの作成

要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、不具合モジュールでの作業中に、クイック・グラフを作成できます。**クイック・グラフ**では、既存のモジュール・フィルタを使用して、各モジュールのさまざまなタイプのグラフを作成できます。クイック・グラフは一時的な参照に使用できます。また、ダッシュボード・モジュールに保存して、引き続きデータや表示形式を設定することもできます。

---

**注：**グラフ・ウィザードを使用して、要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、不具合モジュールからグラフを作成することもできます。詳細については、582 ページ「グラフ・ウィザードによるグラフの作成」を参照してください。

---

クイック・グラフを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 グラフの作成に使用する Quality Center モジュールを開きます。
- 2 **[アナリシス]** > **[グラフ]** を選択し、グラフの種類を選択します。グラフの種類の詳細については、604 ページ「Quality Center のグラフの種類」を参照してください。  
標準設定のデータと表示設定によるグラフが表示されます。
- 3 ツールバー・ボタンを使用してグラフを表示し、表示設定を調整して、結果を出力します。グラフの表示の詳細については、596 ページ「グラフの表示」を参照してください。
- 4 棒グラフおよび円グラフでは、セグメントをクリックすると、そのセグメントが表しているレコードまでドリル・ダウンできます。詳細については、599 ページ「グラフ・レコードへのドリル・ダウン」を参照してください。
- 5 ダッシュボード・モジュールにグラフを保存するには、**[保存]** をクリックします。**[新規グラフ]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 6 **[グラフ名]** に新しいグラフの名前を入力します。

- 7 **[フォルダの選択]** で、グラフの保存先となる、アナリシス・ツリー内のフォルダを選択するか、**[新規フォルダ]** をクリックして新しいフォルダを作成します。アナリシス・ツリーのフォルダの詳細については、571 ページ「アナリシス・ツリーとダッシュボード・ツリーの構築」を参照してください。
- 8 **[保存]** をクリックします。ダッシュボード・モジュールのアナリシス・ビューが開き、**[表示]** タブにグラフが表示されます。
- 9 グラフの内容は **[設定]** タブで指定できます。詳細については、591 ページ「グラフの設定」を参照してください。

## ダッシュボード・モジュールでのグラフの作成

要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、または不具合モジュールのデータを表示するグラフをダッシュボード・モジュールで作成できます。

---

**注：** グラフ・ウィザードを使用してグラフを作成することもできます。詳細については、582 ページ「グラフ・ウィザードによるグラフの作成」を参照してください。

---

ダッシュボード・モジュールでグラフを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 ダッシュボード・モジュールの **[アナリシス ビュー]** タブをクリックします。
- 2 アナリシス・ツリーで、グラフを追加するフォルダを選択します。アナリシス・ツリーへのフォルダの追加に関する詳細については、571 ページ「アナリシス・ツリーとダッシュボード・ツリーの構築」を参照してください。



- 3 [新規項目] ボタンをクリックし、[新規グラフ] を選択します。[新規グラフ] ダイアログ・ボックスが開きます。

- 4 [エンティティ] で、グラフを作成するモジュールを選択します。
- 5 [グラフのタイプ] で、作成するグラフの種類を選択します。グラフの種類の詳細については、604 ページ「Quality Center のグラフの種類」を参照してください。
- 6 [グラフ名] にグラフの名前を入力します。
- 7 [OK] をクリックします。グラフがアナリシス・ツリーに追加されます。
- 8 [詳細] タブをクリックします。[詳細] タブには、次のフィールドが表示されます。

フィールド	説明
エンティティ	グラフでサンプリングされたデータ・セットを示します。
タイプ	アナリシス項目タイプを示します。
サブタイプ	グラフの種類を示します。
名前	グラフの名前。
更新日時	グラフが最後に更新された日時を示します。
更新者	グラフを最後に更新したユーザを示します。
所有者	グラフを作成したユーザを示します。公開グラフを更新する権限は所有者にしかない場合があります。
詳細	グラフの詳細。

- 9 グラフの内容は [設定] タブで指定できます。詳細については、591 ページ「グラフの設定」を参照してください。

- 10 [表示] タブでグラフを表示します。詳細については、596 ページ「グラフの表示」を参照してください。

## グラフの設定

グラフに表示するデータ、および、データの分類方法を定義できます。

グラフを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 アナリシス・ツリーで、設定を行うグラフを選択します。
- 2 [設定] タブをクリックします。

詳細 設定 表示

X軸: Detected in Cycle

Y軸: カウント 不具合

グループ分け: Severity

-フィルタ-

フィルタ: Status[New Or Open Or Reopen ]

-クロス プロジェクトの選択-

ドメイン	プロジェクト
DEFAULT	QualityCenter_Demo1

プロジェクトを選択

## 3 グラフの種類に適用する次の設定を指定します。

設定	説明
経過グループ分け	<p>ある期間より前（たとえば、6 か月より前）のすべての不具合を 1 つのカラムにまとめ、その期間内のすべての不具合を別のカラムにまとめることができます。あるいは、有効なすべての期間で不具合をまとめることもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 不具合を 2 つのカラムにグループ分けするには、期間を選択します。</li> <li>▶ 有効な期間をすべて表示するには、[グループ化なし] を選択します。</li> </ul>
表示オプション	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [標準] を選択すると、選択した期間における要件、テスト、および不具合の数が表示されます。</li> <li>▶ [一定期間で変更] を選択すると、選択した期間における要件、テスト、および不具合の数の変化が表示されます。各レコードの値は 0 から始まります。</li> </ul>
グループ分け	<p>グラフ・データのグループ分けの基準にする情報を特定するフィールドを選択します。データのグループ分けは、文字列またはリスト・フィールドによってのみ行うことができます。</p> <p><b>ヒント</b>：クロス・プロジェクト・グラフの場合、データをプロジェクトごとにグループ分けするには [QC プロジェクト] を選択します。</p>
期間	グラフに表示する期間を選択します。
日次情報を表示	X 軸に沿って日ごとのデータを表示するには、このオプションを選択します。
'Not Covered' の親を表示する	要件グラフでは、ステータスが Not Covered の親要件をグラフに含めるように指定できます。



設定	説明
X 軸	<p>グラフの X 軸に表示する情報を特定するフィールドを選択します。</p> <p><b>ヒント</b>：クロス・プロジェクト・グラフの場合、データをプロジェクトごとに表示するには <b>[QC プロジェクト]</b> を選択します。</p>
Y 軸	<p>不具合グラフでは、Y 軸に表示するデータを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 項目の合計数（たとえば、修正中の不具合のカウント）を表示するには、<b>[カウント]</b> を選択します。</li> <li>▶ <b>[次の合計]</b> を選択し、数値フィールドを選択します。たとえば、不具合の修正に必要な推定時間を表示するには、<b>[予定修正時間]</b> を選択します。不具合の修正に実際に要した時間を表示するには、<b>[実際の修正時間]</b> を選択します（不具合グラフでのみ使用可能）。</li> </ul>



- 4 グラフの内容にフィルタまたはクロス・フィルタを適用するには、**[フィルタを設定]** ボタンをクリックします。フィルタ処理の詳細については、56 ページ「レコードのフィルタ処理」を参照してください。クロス・フィルタ処理の詳細については、61 ページ「レコードに対する詳細 / クロス・フィルタ処理」を参照してください。
- 5 **Quality Center Premier Edition** : データがグラフに含まれているプロジェクトを変更するには、**[クロス プロジェクトの選択]** の下の **[プロジェクトを選択]** ボタンをクリックします。クロス・プロジェクト・グラフの作成の詳細については、594 ページ「クロス・プロジェクト・グラフの作成」を参照してください。

## クロス・プロジェクト・グラフの作成

**Quality Center Premier Edition** : 複数のプロジェクトのデータを 1 つのグラフに結合するクロス・プロジェクト・グラフを作成できます。グラフ・ウィザードで、ウィザードの手順の一部として、グラフに含めるプロジェクトを選択します。選択したプロジェクトは、グラフの **[設定]** タブでいつでも変更できます。選択できるプロジェクトは、ユーザとしてリストされているプロジェクトのみです。

---

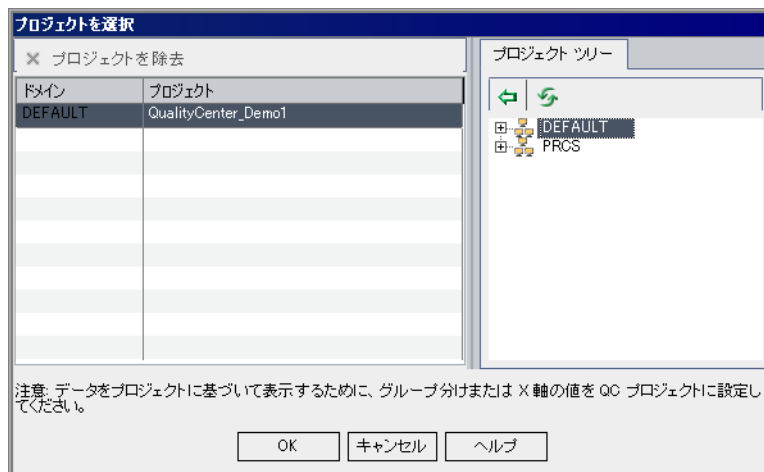
**注** : サイト・パラメータの **PROJECT\_SELECTION\_MAX\_PROJECTS** を設定すれば、グラフに含めることが可能な最大プロジェクト数を変更できます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

---

クロス・プロジェクト・グラフを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 次の選択肢から 1 つを選びます。
  - ▶ **グラフ・ウィザード** : [プロジェクトを選択] ダイアログ・ボックスに進み、**[選択]** ボタンをクリックします。
  - ▶ **アナリシス・ツリー** : グラフを選択し、**[設定]** タブをクリックして、**[プロジェクトを選択]** ボタンをクリックします。

[プロジェクトを選択] ダイアログ・ボックスが開きます。



プロジェクト・ツリーには、ユーザとしてリストされているプロジェクトのみ表示されます。



- 2 グリッドにプロジェクトを追加するには、プロジェクト・ツリーを展開し、プロジェクトを選択して、**[追加]** ボタンをクリックします。あるいは、プロジェクト・ツリーからグリッドにプロジェクトをドラッグするか、プロジェクトをダブルクリックします。

---

**ヒント:** ドメインのプロジェクトをすべてグラフに含めるには、プロジェクト・ツリーでドメインを選択し、グリッドに追加します。ドメインのすべてのプロジェクトがグリッドに個別に表示されます。

---

- 3 **[OK]** をクリックして、**[プロジェクトを選択]** ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 4 プロジェクト・データをグラフに別々に表示するには、**[X 軸]** フィールドまたは **[グループ分け]** フィールドで **[QC プロジェクト]** を選択します。次の選択肢から 1 つを選びます。
  - ▶ グラフ・ウィザードで **[グラフ属性の選択]** ダイアログ・ボックスに進みます。

- ▶ **〔設定〕** タブで、**〔X 軸〕** フィールドまたは **〔グループ分け〕** フィールドを設定します。詳細については、591 ページ「グラフの設定」を参照してください。

### クロス・プロジェクト・グラフ作成の注意事項

- ▶ グラフにプロジェクトを追加したり、グラフからプロジェクトを削除したりするたびに、**〔フィルタ条件〕** リストが更新され、**〔X 軸〕**、**〔Y 軸〕**、**〔グループ分け〕** の各ボックスのドロップダウン・リストが更新されます。リストには、選択されているすべてのプロジェクトで同一のフィールドしか表示されません。同一フィールドとは、ラベルが同じで、データ型も同じフィールドのことです。フィールドのカスタマイズの詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。
- ▶ 使用できなくなったフィールドを使ってフィルタ条件を定義していた場合、その条件は削除されます。
- ▶ **〔X 軸〕** ボックス、**〔Y 軸〕** ボックス、または **〔グループ分け〕** ボックスで、使用できなくなったフィールドを選択していた場合、ドロップダウン・リストの最初のフィールドが選択されます。

## グラフの表示

本項は、次の項目で構成されています。

- ▶ グラフの表示
- ▶ グラフ・レコードへのドリル・ダウン
- ▶ グラフの表示形式の設定
- ▶ グラフ・カテゴリの編集

### グラフの表示

グラフ形式の変更、グラフの表示、グラフの表示形式の設定、グラフ・カテゴリの変更、グラフの保存、グラフの印刷を行うことができます。

グラフを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 レポートを選択します。
  - ▶ アナリシス・ツリーでグラフを選択し、**〔表示〕** タブをクリックします。

- ▶ 要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、または不具合モジュールを選択し、[アナリシス] > [最近の使用] を選択して、グラフを選択します。
- 2 進行状況グラフおよびトレンド・グラフでは、グラフ上のカテゴリの表示と非表示を切り替えるには、凡例ボックスのカテゴリをクリックします。
- 3 グラフ表示ツールバーを使用してグラフを表示します。このツールバーには次のボタンがあります（グラフの種類によって異なります）。

[生成]：最新のデータでグラフを更新します。



[棒グラフ]：サマリ・グラフ、トレンド・グラフ、経過グラフで使用できます。



[円グラフ]：X軸のカテゴリが円セグメントで表示されます。Y軸の数量はセグメントの大きさを示されます。円グラフには[グループ分け]フィールドは表示されません。サマリ・グラフで使用できます。



[線グラフ]：進行状況グラフで使用できます。



[データグリッド]：グラフのX軸カテゴリおよびグループ分けカテゴリのマトリックスが作成されます。各グループ分けカテゴリの合計が表示される**合計行**が追加されています。すべてのグラフの種類で使用できます。



[合計値を表示 / 非表示]：進行状況グラフで使用できます。グループ分けカテゴリの合計を表すカテゴリの表示と非表示を切り替えます。



[左へスクロール]：グラフを左にスクロールします。このボタンは、[拡大表示] ボタンまたは[縮小表示] ボタンを使用している場合に有効になります。



[右へスクロール]：グラフを右にスクロールします。このボタンは、[拡大表示] ボタンまたは[縮小表示] ボタンを使用している場合に有効になります。



[すべて表示]：グラフを標準のサイズに戻します。このボタンは、[拡大表示] ボタンまたは[縮小表示] ボタンを使用している場合に有効になります。



[拡大表示]：グラフの表示倍率を上げます。



[縮小表示]：グラフの表示倍率を下げます。



[**グラフ データの保存**] : グラフの内容をファイルに保存します。グラフを棒グラフ、円グラフ、または線グラフで表示している場合は、さまざまなグラフィック形式のグラフィック・ファイルとして保存できます。データ・グリッドを表示している場合は、Excel スプレッドシート、Word ファイル、HTML ドキュメント、またはテキスト・ファイルとして保存できます。



[**グラフ表示形式の設定**] : グラフの表示形式を変更します。グラフのタイトル、色、および表示をカスタマイズできます。詳細については、600 ページ「グラフの表示形式の設定」を参照してください。



[**グラフをクリップボードへコピー**] : 次のオプションがあります。

- ▶ [**グラフのコピー (カラー)**] : グラフをカラーでクリップボードにコピーします。
- ▶ [**グラフのコピー (白黒)**] : グラフをモノクロでクリップボードにコピーします。
- ▶ [**全画面グラフをコピー (カラー)**] : グラフを全画面に合うように拡大して、カラーでクリップボードにコピーします。
- ▶ [**全画面グラフをコピー (モノクロ)**] : グラフを全画面に合うように拡大して、モノクロでクリップボードにコピーします。



[**グラフの印刷**] : 次のオプションがあります。

- ▶ [**グラフの印刷 (カラー)**] : グラフをカラーで印刷します。標準設定では、このボタンが選択されています。
- ▶ [**グラフの印刷 (白黒)**] : グラフをモノクロで印刷します。
- ▶ [**グラフと詳細の印刷 (カラー)**] : グラフとその説明をカラーで印刷します。
- ▶ [**グラフと詳細の印刷 (白黒)**] : グラフとその説明をモノクロで印刷します。



[**カテゴリの編集**] : [X 軸] フィールドと [**グループ分け**] フィールドの値をカテゴリにまとめることができます。詳細については、601 ページ「グラフ・カテゴリの編集」を参照してください。



[**全画面表示**] : 新しいウィンドウでグラフを開き、グラフの表示を最大化します。ダッシュボード・モジュールで使用できます。

## グラフ・レコードへのドリル・ダウン

グラフのセグメントをクリックすると、グラフのレコードまでドリル・ダウンできます。

グラフ・レコードまでドリル・ダウンするには、次の手順を実行します。

- 1 円グラフ形式または棒グラフ形式でグラフを表示します。
- 2 扇形または棒の部分をクリックします。
- 3 扇形または棒の部分が、現在使用しているプロジェクトのレコードのみ表している場合は、[結果のドリル・ダウン] ダイアログ・ボックスが開きます。この場合は手順6に進んでください。
- 4 **Quality Center Premier Edition** : 扇形または棒の部分がほかのプロジェクトのレコードのみ表している場合、レコードは別のブラウザ・ウィンドウに表示されます。
  - ▶ 別のブラウザ・ウィンドウですでにほかのプロジェクトにログインしている場合は、そのウィンドウで適切なモジュールが選択され、関連レコードが表示されます。
  - ▶ ほかのプロジェクトにログインしていない場合は、[OK] をクリックして確定します。新しいブラウザ・ウィンドウが開きます。ログインすると、適切なモジュールの関連レコードが表示されます。
- 5 **Quality Center Premier Edition** : 扇形または棒の部分が複数のプロジェクトのレコードを表している場合は、[プロジェクト選択] ダイアログ・ボックスが開きます。
  - a [プロジェクトの選択] でプロジェクトを選択し、[OK] をクリックします。
  - b 現在のプロジェクトを選択した場合は、[結果のドリル・ダウン] ダイアログ・ボックスが開きます。この場合は手順6に進んでください。
  - c ほかのプロジェクトを選択した場合は、別のブラウザ・ウィンドウにレコードが表示されます。
    - ▶ 別のブラウザ・ウィンドウですでにほかのプロジェクトにログインしている場合は、そのウィンドウで適切なモジュールが選択され、関連レコードが表示されます。
    - ▶ ほかのプロジェクトにログインしていない場合は、[OK] をクリックして確定します。新しいブラウザ・ウィンドウが開きます。ログインすると、適切なモジュールの関連レコードが表示されます。



- 6 [結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックスで、右上角にある [**カラムを選択**] ボタンをクリックし、グリッドに表示するカラムとその表示順を指定します。詳細については、52 ページ「カラムの配置」を参照してください。
- 7 レコードをダブルクリックして、レコードの詳細を開きます。
- 8 [< Module > Details] ダイアログ・ボックスが開きます。このダイアログ・ボックスでレコードの詳細を編集できます。
- 9 [**OK**] または [**キャンセル**] をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じ、[結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックスに戻ります。
- 10 [結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックスを閉じて [表示] タブに戻ります。

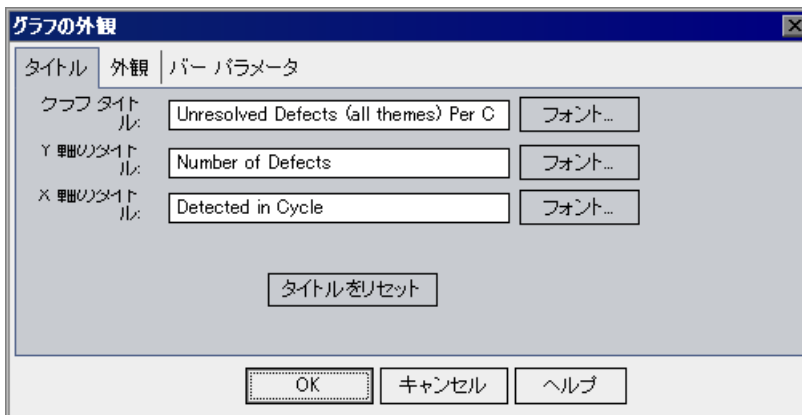
### グラフの表示形式の設定

グラフを作成したら、グラフのタイトルと表示形式を変更できます。棒グラフの場合、棒の表示パラメータを指定できます。線グラフの場合、線の表示パラメータを指定できます。

グラフの表示形式を設定するには、次の手順を実行します。



- 1 [**表示**] タブをクリックします。グラフ・ツールバーにある、[**グラフ表示形式の設定**] ボタンをクリックします。あるいは、グラフのタイトルをクリックします。[グラフの表示形式] ダイアログ・ボックスが開きます。





- 2 グラフ、Y軸、またはX軸のタイトルを変更するには、[タイトル] タブをクリックします。タイトルのフォントまたは色を変更するには、[フォント] ボタンをクリックします。元のタイトルに戻すには、[タイトルをリセット] ボタンをクリックします。円グラフの場合、変更できるのはグラフのタイトルのみです。
- 3 グラフの標準設定の指定、グラフの下部にあるラベルの向きの修正（棒グラフおよび線グラフのみ）、X軸に表示される日付の形式の指定、グラフの3Dでの表示、グラフ内のさまざまなコンポーネントの色の変更を行うには、[表示形式] タブをクリックします。
- 4 棒グラフの場合、[棒のパラメータ] タブをクリックして、それぞれの棒について値を表示するかどうかを指定します。棒の幅を調整することもできます。棒ごとの値を表示する場合、表示されるデータや、棒に対して表示される位置を変更できます。
- 5 線グラフの場合、[線パラメータ] タブをクリックして、線フレームを表示するかどうかを指定します。

## グラフ・カテゴリの編集

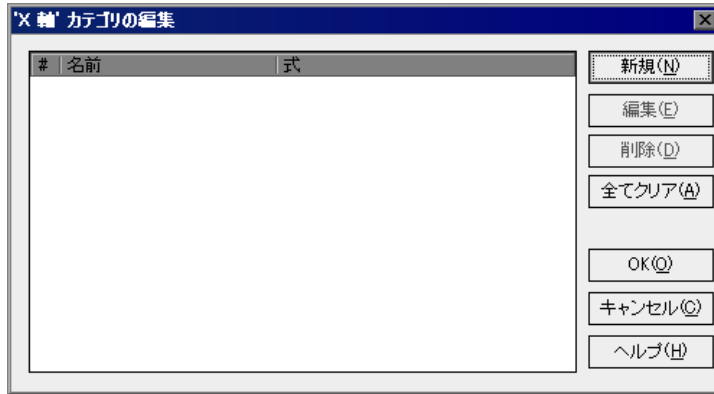
[X軸] フィールドと [グループ分け] フィールドの値はカテゴリにまとめることができます。これにより、異なるフィールドの値データをまとめ、その結合データを1つのカテゴリとして表示できるようになります。たとえば、[優先度] フィールドに「低い」、「普通」、「高い」、「非常に高い」、「緊急」という5つの値があるとします。「普通」と「高い」を「重要」というカテゴリにまとめ、「非常に高い」と「緊急」を「致命的」というカテゴリにまとめることができます。この場合、グラフには「低い」、「重要」、「致命的」という3つのカテゴリに分類されたデータが表示されます。

グラフのカテゴリを編集するには、次の手順を実行します。



- 1 [表示] タブをクリックします。グラフ・ツールバーにある [カテゴリの編集] ボタンをクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。
  - ▶ [X軸のカテゴリの編集]: [X軸] フィールドの値をグラフ表示用カテゴリにまとめることができます。このオプションは、サマリ・グラフおよび要件カバレッジ・グラフが対象の場合にのみ使用できます。標準設定では、このボタンが選択されています。
  - ▶ [グループ化カテゴリの編集]: [グループ分け] フィールドの値をグラフ表示用カテゴリにまとめることができます。

[X 軸のカテゴリの編集] ダイアログ・ボックスまたは [グループ化カテゴリの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 新しいカテゴリを作成するには、[新規作成] ボタンをクリックします。[新規カテゴリ] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 [カテゴリ名] ボックスに、カテゴリの名前を入力します。

- 4 カテゴリに含めるフィールド値を選択するには、フィールド値を選択し、矢印ボタン（[>] または [<]）をクリックして、[指定可能なグループ] と [新規カテゴリにグループ化] との間を移動させます。二重矢印ボタン（[>>] または [<<]）をクリックすると、リスト間ですべてのフィールド値を一度に移動できます。また、フィールド値をドラッグしてリスト間を移動させることもできます。1つのフィールド値を複数のカテゴリに含めることはできません。

[OK] をクリックして [新規カテゴリ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

- 5 カテゴリを編集するには、カテゴリを選択し、[新規作成] ボタンをクリックします。手順3と4を繰り返します。

- 6 カテゴリを削除するには、カテゴリを選択し、[削除] ボタンをクリックします。

- 7 カテゴリをすべて削除するには、[すべてクリア] ボタンをクリックします。[はい] ボタンをクリックして、確定します。

- 8 [OK] をクリックして [X軸のカテゴリの編集] ダイアログ・ボックスまたは [グループ化カテゴリの編集] ダイアログ・ボックスを閉じます。



- 9 [X軸] のカテゴリまたは [グループ分け] のカテゴリを標準設定にリセットするには、グラフ・ツールバーにある [カテゴリの編集] ボタンをクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。

▶ [X軸カテゴリをリセット] : [X軸] のカテゴリを元に戻します。このオプションは、サマリ・グラフおよび要件カバレッジ・グラフが対象の場合のみ使用できます。

▶ [グループ化カテゴリをリセット] : [グループ分け] のカテゴリを元に戻します。

[はい] ボタンをクリックして、確定します。[X軸] のカテゴリまたは [グループ分け] のカテゴリがリセットされます。

## Quality Center のグラフの種類

Quality Center では、要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、不具合モジュールのグラフを生成できます。使用できるグラフの種類は、モジュールごとに異なります。

### 要件モジュール・グラフ

要件モジュールでは次のグラフを作成できます。

グラフ	説明
<b>要件 - サマリ・グラフ</b>	Quality Center プロジェクトに現在存在する要件の数を示します。詳細については、607 ページ「要件 - サマリ・グラフ」を参照してください。
<b>要件 - 進行状況グラフ</b>	一定時間内のある時点において、それまでに Quality Center プロジェクトに蓄積された要件の数を示します。詳細については、608 ページ「要件 - 進行状況グラフ」を参照してください。
<b>要件 - トレンド・グラフ</b>	Quality Center プロジェクトの特定の要件フィールドに加えられた変更の表示期間ごとの履歴を表示します。詳細については、610 ページ「要件 - トレンド・グラフ」を参照してください。
<b>要件 - 要件カバレッジ・グラフ</b> (要件モジュールからのみ使用可能)	テスト・カバレッジのステータスごとに、現在 Quality Center プロジェクトに存在する要件の数を示します。詳細については、609 ページ「要件 - 要件カバレッジ・グラフ」を参照してください。

## テスト計画モジュール・グラフ

テスト計画モジュールでは次のグラフを作成できます。

グラフ	説明
テスト計画 - サマリ・グラフ	Quality Center プロジェクトに現在存在するテストの数を示します。詳細については、611 ページ「テスト計画 - サマリ・グラフ」を参照してください。
テスト計画 - 進行状況グラフ	一定時間内のある時点において、それまでに Quality Center プロジェクトに蓄積されたテストの数を示します。詳細については、612 ページ「テスト計画 - 進行状況グラフ」を参照してください。
テスト計画 - トレンド・グラフ	Quality Center プロジェクトの特定のテスト計画フィールドに加えられた変更の表示期間ごとの履歴を示します。詳細については、613 ページ「テスト計画 - トレンド・グラフ」を参照してください。

## テスト・ラボ・モジュールのグラフ

テスト・ラボ・モジュールでは次のグラフを作成できます。

グラフ	説明
テストの実行 - サマリ・グラフ	現在のテスト・セットまたはすべてのテスト・セットに属する Quality Center プロジェクト内のテストの数を示します。詳細については、614 ページ「テストの実行 - サマリ・グラフ」を参照してください。
テストの実行 - 進行状況グラフ	一定時間内のある時点において、それまでに現在のテスト・セットまたはすべてのテスト・セットに蓄積された要件の数を示します。詳細については、615 ページ「テストの実行 - 進行状況グラフ」を参照してください。

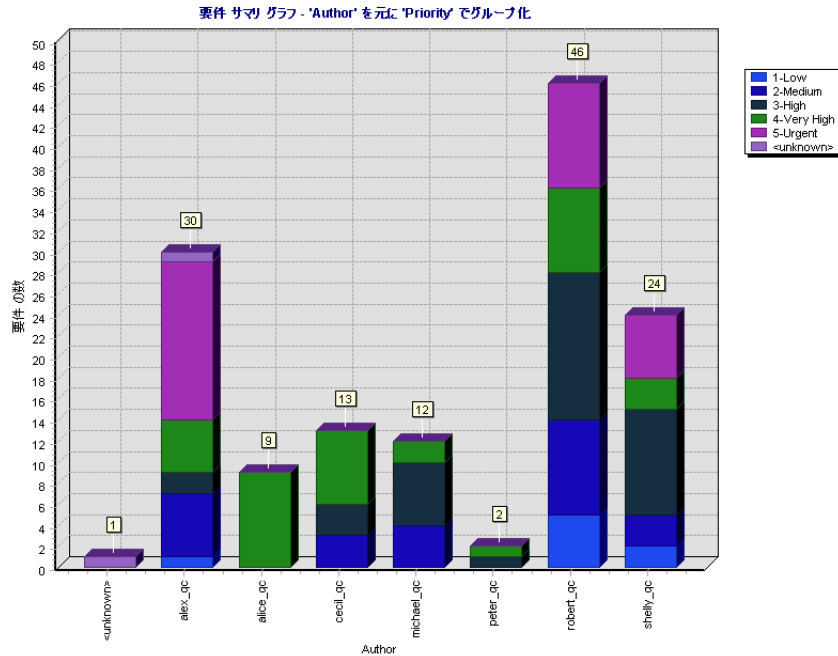
## 不具合モジュール・グラフ

不具合モジュールでは次のグラフを作成できます。

グラフ	説明
<b>不具合 - サマリ・グラフ</b>	Quality Center プロジェクト内の不具合の数、あるいは不具合の修正に要する予想時間または実際の時間の要約を示します。詳細については、616 ページ「不具合 - サマリ・グラフ」を参照してください。
<b>不具合 - 進行状況グラフ</b>	一定時間内のある時点において、それまでに Quality Center プロジェクトに蓄積された不具合の数、あるいはそれらの不具合を修正するために要する予想時間または実際の時間を示します。詳細については、617 ページ「不具合 - 進行状況グラフ」を参照してください。
<b>不具合 - 経過 (不具合期間) グラフ</b>	Quality Center プロジェクト内の不具合が検出されてから現在までの経過時間を示します。詳細については、619 ページ「不具合 - 経過 (不具合期間) グラフ」を参照してください。
<b>不具合 - トレンド・グラフ</b>	Quality Center プロジェクトの特定の不具合フィールドに加えられた変更の表示期間ごとの履歴を表示します。詳細については、620 ページ「不具合 - トレンド・グラフ」を参照してください。

## 要件 - サマリ・グラフ

要件 - サマリ・グラフは、Quality Center プロジェクトに現在存在する要件の数を示します。要件の数は、指定した基準に基づいて表示されます。X 軸に表示するデータのタイプ、および Quality Center がデータをグループ化する際に基準とする要件情報を指定できます。



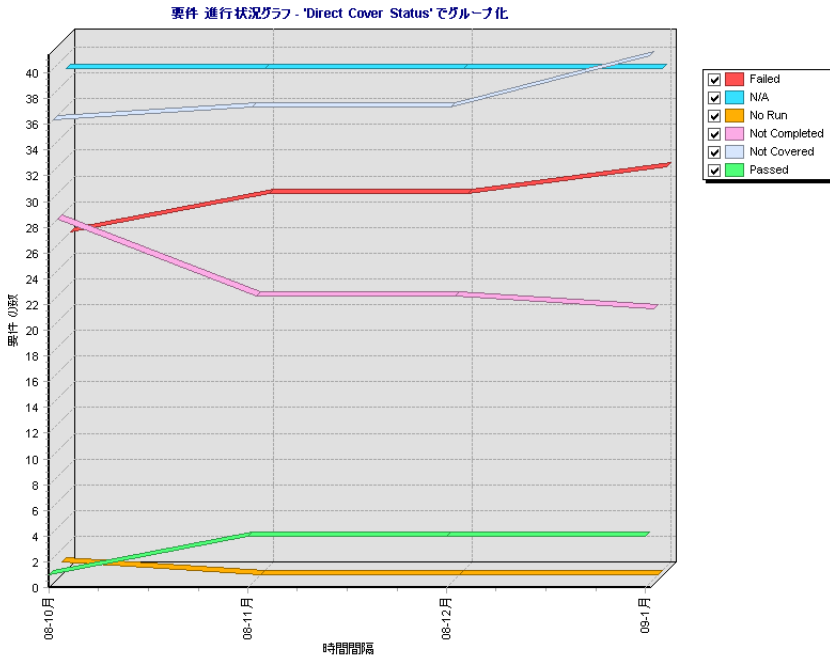
たとえば、[X 軸] リストから [Author] (作成者) を選択して、プロジェクトに存在している要件の数を作成者ごとに表示します。グラフの棒に表示される要件を優先順位に基づいてグループ分けするには、[グループ分け] リストから [優先度] を選択します。[**'Not Covered' の親を表示する**] チェック・ボックスを選択すると、ステータスが「Not Covered」(未処理) の親要件がグラフに追加されます。

グラフの設定の詳細については、591 ページ「グラフの設定」を参照してください。

標準設定では、グラフは棒グラフで表示されます。

## 要件 - 進行状況グラフ

要件 - 進行状況グラフは、一定時間内のある時点において、それまでに Quality Center プロジェクトに蓄積された要件の数を示します。要件の数は、指定した基準に基づいて表示されます。X 軸に表示する時間間隔、および Quality Center がデータをグループ化する際に基準とする要件情報を指定できます。また、要件数やその変化の表示の有無についても指定できます。



たとえば、[グループ分け] リストから [直接カバレッジ ステータス] を選択すると、表示されている要件がテスト・カバレッジのステータスに基づいてグループ化されます。[期間] で [過去 5 週間] を選択すると、X 軸がこの間隔となって表示されます。グラフに表示されるデータは、各週の最後の日に測定されたものとなります。[表示オプション] で [一定期間で変更] を選択すると、要件の数ではなく、一定期間の要件の数の変化が表示されます。

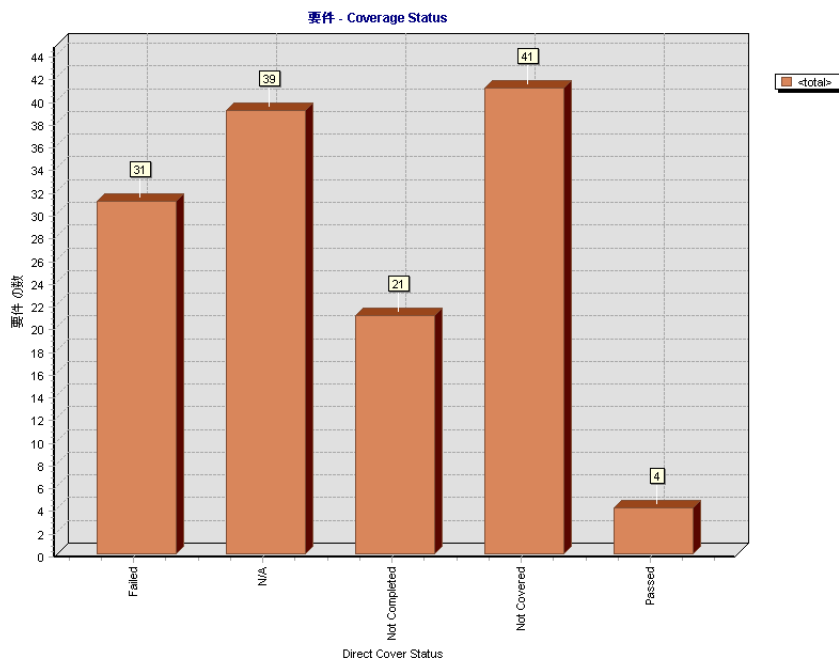
グラフの設定の詳細については、591 ページ「グラフの設定」を参照してください。

このグラフは線グラフでのみ表示できます。



## 要件 - 要件カバレッジ・グラフ

要件 - 要件カバレッジ・グラフは、テスト・カバレッジのステータスごとに、Quality Center プロジェクトに現在存在する要件の数を示します。



Quality Center がデータをグループ化する際の基準となる要件情報を指定できません。たとえば、優先順位に基づいてグラフの棒に表示される要件をグループ分けするには、[次でグループ分け] リストから [優先度] を選択します。[未処理] の親を表示] チェック・ボックスを選択すると、ステータスが「Not Covered」(未処理) の親要件がグラフに追加されます。

---

**注：** 要件 - 要件カバレッジ・グラフは、サマリ・グラフの 1 つの種類です。[X 軸] リストから別の要件フィールドを選択すると、要件 - サマリ・グラフが表示されます。

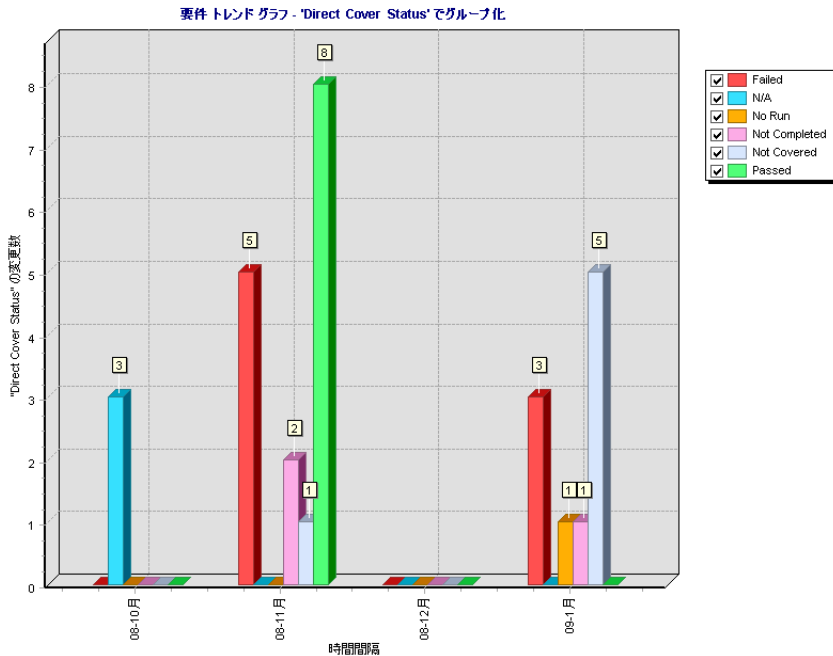
---

グラフの設定の詳細については、591 ページ「グラフの設定」を参照してください。

標準設定では、グラフは棒グラフで表示されます。円グラフで表示するには、**[円グラフ]** ボタンをクリックします。

### 要件 - トレンド・グラフ

要件 - トレンド・グラフは、Quality Center プロジェクトの特定の要件フィールドに加えられた変更の表示期間ごとの履歴を示します。変更の数を表示する対象となるフィールドおよびデータの表示対象期間を指定して表示します。



たとえば、**[フィールドでの変更数]** リストから「**直接カバレッジステータス**」を選択すると、直接カバレッジステータス要件フィールドに加えられた変更の数が表示されます。**[期間]** で **[過去 5 週間]** を選択すると、X 軸がこの間隔となって表示されます。グラフに表示されるデータは、各週で測定されたデータの合計となります。

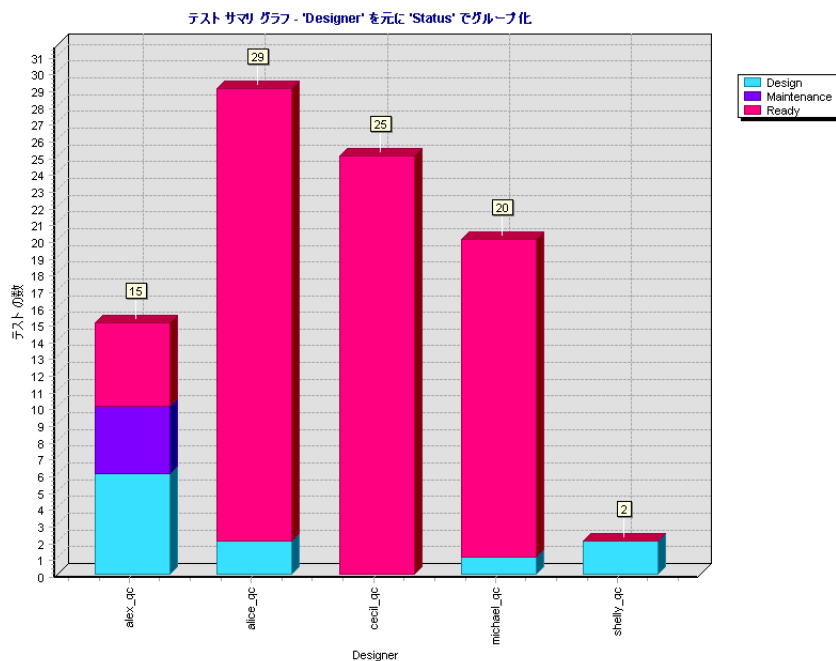
グラフの設定の詳細については、591 ページ「**グラフの設定**」を参照してください。

各ステータスの変化は、このグラフには 1 回だけ記録されます。たとえば、フィールドが [Not Completed] (未完了) から [Passed] (成功), そして [Not Completed] (未完了) へと変化した場合, [Not Completed] (未完了) への変化のみがこのグラフに記録されます。

要件 - トレンド・グラフは棒グラフでのみ表示できます。

## テスト計画 - サマリ・グラフ

テスト計画 - サマリ・グラフは、Quality Center プロジェクトに現在存在するテストの数を示します。テストの数は指定した基準に基づいて表示されます。X 軸に表示するデータのタイプ, および Quality Center がデータをグループ化する際に基準とするテスト計画情報を指定できます。



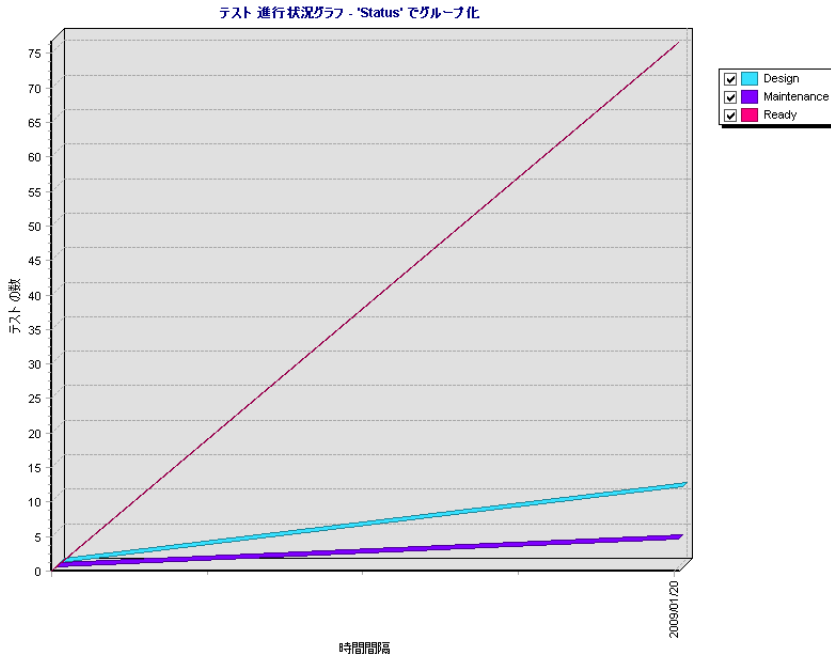
たとえば, [X 軸] リストから [設計者] を選択し, 設計者ごとにプロジェクトに存在しているテストの数を表示します。優先順位に基づいてグラフの棒に表示されるテストをグループ分けするには, [次でグループ分け] リストから [優先順位] を選択します。グラフ表示を更新するには, [生成] ボタンをクリックします。

グラフの設定の詳細については、591 ページ「グラフの設定」を参照してください。

標準設定では、グラフは棒グラフで表示されます。円グラフで表示するには、**[円グラフ]** ボタンをクリックします。

## テスト計画 - 進行状況グラフ

テスト計画 - 進行状況グラフは、一定時間内のある時点において、それまでに Quality Center プロジェクトに蓄積されたテストの数を示します。テストの数は指定した基準に基づいて表示されます。X 軸に表示する時間間隔、および Quality Center がデータをグループ化する際に基準とするテスト計画情報を指定できます。また、テスト数やその変化の表示の有無についても指定できます。



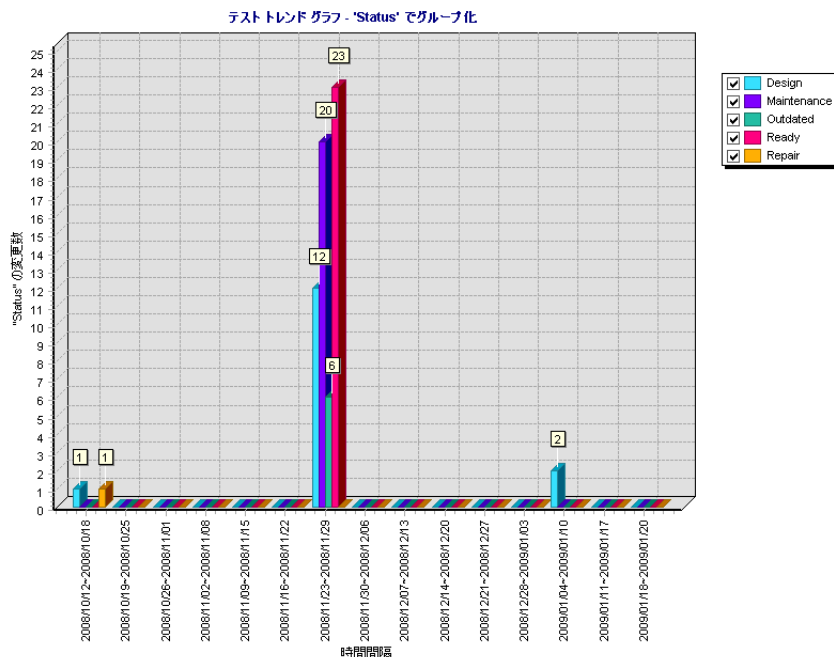
たとえば、**[グループ分け]** リストから「ステータス」を選択すると、表示されているテストが優先順位に基づいて、グループ化されます。**[期間]** で **[毎日]** > **[日ごとの情報を表示]** を選択すると、X 軸に沿って日ごとのデータが表示されます。**[表示オプション]** で **[一定期間で変更]** を選択すると、テストの数ではなく、一定期間のテストの数の変化が表示されます。

グラフの設定の詳細については、591 ページ「グラフの設定」を参照してください。

テスト計画 - 進行状況グラフは線グラフでのみ表示できます。

## テスト計画 - トレンド・グラフ

テスト計画 - トレンド・グラフは、Quality Center プロジェクトの特定のテスト計画フィールドに加えられた変更の表示期間ごとの履歴を示します。変更の数を表示する対象となるフィールドおよびデータの表示対象期間を指定して表示します。



たとえば、[フィールドでの変更数] リストから「ステータス」を選択すると、[テスト計画 ステータス] フィールドに加えられた変更の数が表示されます。[期間] で [過去 5 週間] を選択すると、X 軸がこの間隔となって表示されます。グラフに表示されるデータは、各週で測定されたデータの合計となります。

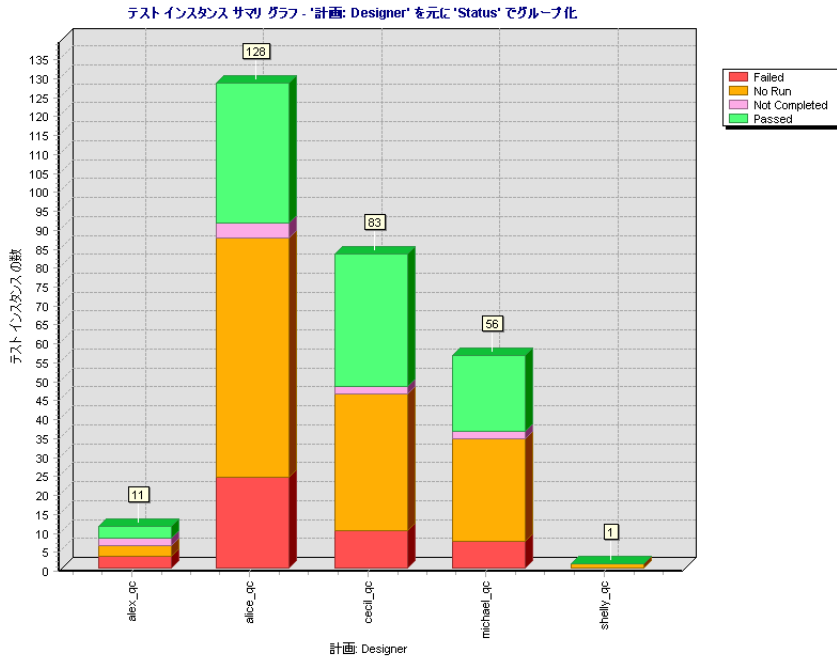
グラフの設定の詳細については、591 ページ「グラフの設定」を参照してください。

各ステータスの変化は、このグラフには 1 回だけ記録されます。たとえば、フィールドが「Ready」から「Repair」、そして「Ready」へと変化した場合、「Ready」への変化のみがこのグラフに記録されます。

テスト計画 - トレンド・グラフは棒グラフでのみ表示できます。

### テストの実行 - サマリ・グラフ

テストの実行 - サマリ・グラフは、テスト・セットに属する Quality Center プロジェクト内のテストの数を示します。グラフが現在のテスト・セットまたはすべてのテスト・セットを参照するかどうかを指定できます。テストの数は指定した基準に基づいて表示されます。X 軸に表示するデータのタイプ、および Quality Center がデータをグループ化する際に基準とするテスト計画とテスト・セット内のテストを指定できます。



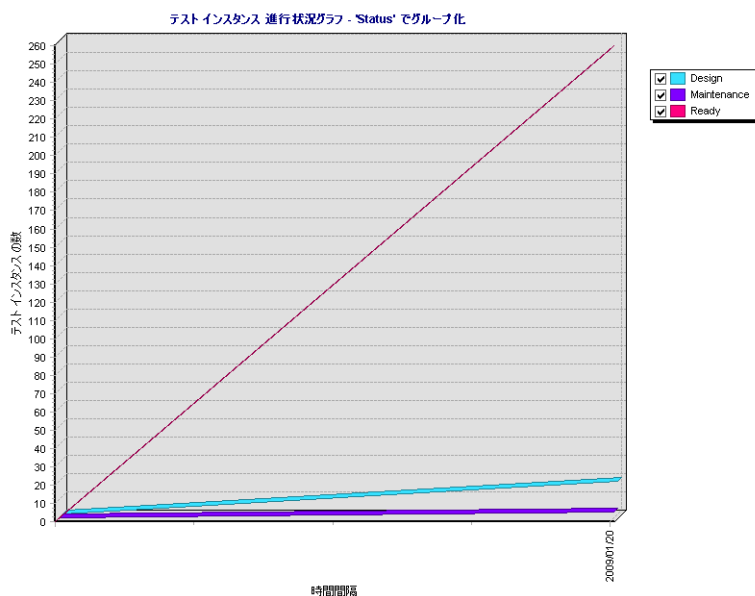
たとえば、[X 軸] リストから「**ステータス**」を選択し、テストのステータスごとにプロジェクトに存在しているテストの数を表示します。優先度に基づいてグラフの棒に表示されるテストをグループ分けするには、[次でグループ分け] リストから [計画：優先度] を選択します。グラフ表示を更新するには、[生成] ボタンをクリックします。

グラフの設定の詳細については、591 ページ「グラフの設定」を参照してください。

標準設定では、グラフは棒グラフで表示されます。円グラフで表示するには、[円グラフ] ボタンをクリックします。

## テストの実行 - 進行状況グラフ

テストの実行 - 進行状況グラフは、一定時間内のある時点において、それまでにテスト・セットに蓄積されたテストの数を示します。グラフが現在のテスト・セットまたはすべてのテスト・セットを参照するかどうかを指定できます。テストの数は指定した基準に基づいて表示されます。X 軸に表示する時間間隔、および Quality Center がデータをグループ化する際に基準とするテスト計画とテスト・セット内のテストを指定できます。また、テスト数やその変化の表示の有無についても指定できます。



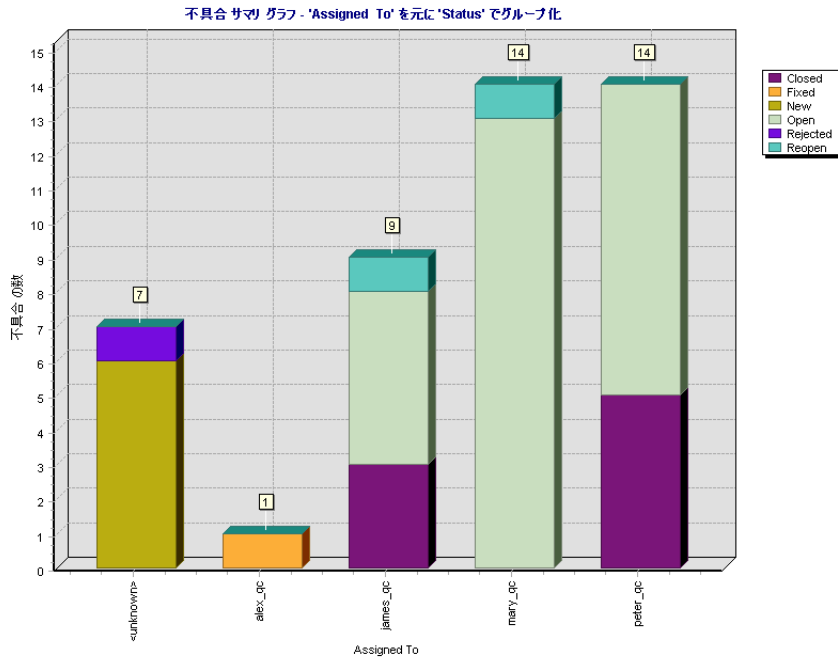
たとえば、[グループ分け] リストから [ステータス] を選択すると、表示されているテストがステータスに基づいてグループ化されます。[期間] で [過去 5 週間] を選択すると、X 軸がこの間隔となって表示されます。グラフに表示されるデータは、各週の最後の日に測定されたものとなります。[表示オプション] で [一定期間で変更] を選択すると、テストの数ではなく、一定期間のテストの数の変化が表示されます。

グラフの設定の詳細については、591 ページ「グラフの設定」を参照してください。

テストの実行 - 進行状況グラフは線グラフでのみ表示できます。

### 不具合 - サマリ・グラフ

不具合 - サマリ・グラフは、Quality Center プロジェクト内の不具合数、あるいは不具合の修正に要する予想時間または実際の時間の要約を示します。情報は、指定した基準に基づいて表示されます。X 軸に表示するデータのタイプ、Y 軸に表示するデータのタイプ、および Quality Center がデータをグループ化する際に基準とする不具合情報を指定できます。





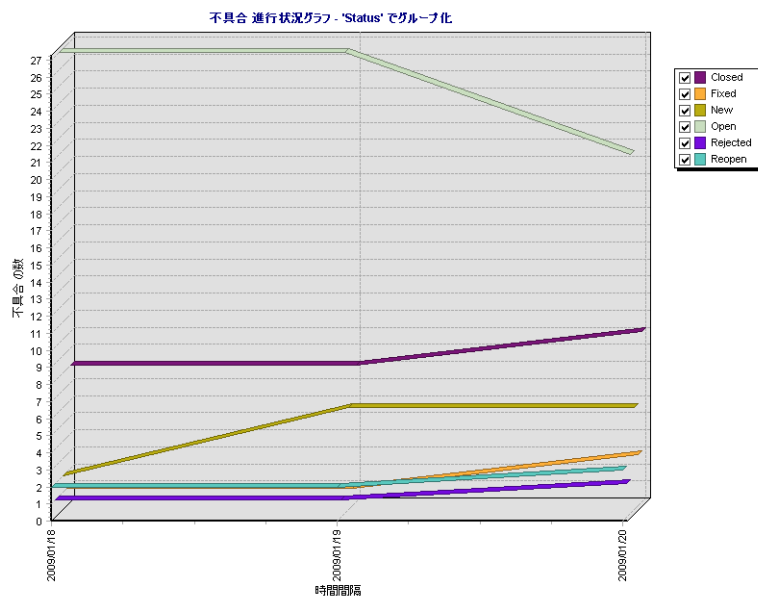
たとえば、[X 軸] リストから「責任者」を選択し、責任者ごとにプロジェクトに存在している不具合の数を表示します。ステータスに基づいてグラフの棒に表示される不具合をグループ化するには、[次でグループ分け] リストから [ステータス] を選択します。[データの種類] で [カウント] を選択すると、Y 軸に不具合の数が表示されます。グラフ表示を更新するには、[生成] ボタンをクリックします。

グラフの設定の詳細については、591 ページ「グラフの設定」を参照してください。

標準設定では、グラフは棒グラフで表示されます。円グラフで表示するには、[円グラフ] ボタンをクリックします。

## 不具合 - 進行状況グラフ

不具合 - 進行状況グラフは、一定時間内のある時点において、それまでに Quality Center プロジェクトに蓄積された不具合の数、および、それらの不具合の修正に要する時間の予測値と実績値を示します。情報は、指定した基準に基づいて表示されます。X 軸に表示する時間間隔、および Quality Center がデータをグループ化する際に基準とする不具合情報、および Y 軸に表示するデータを指定できます。また、不具合数やその変化の表示の有無についても指定できます。



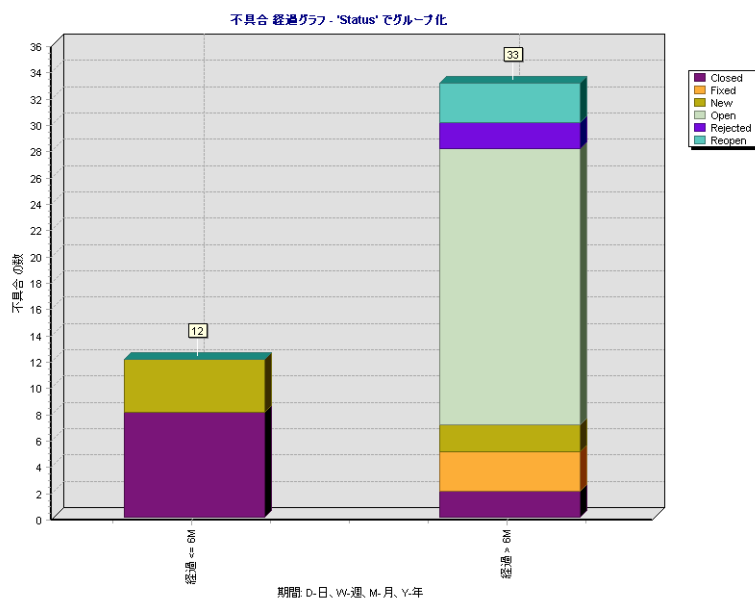
たとえば、[グループ分け] リストから [ステータス] を選択すると、表示されている不具合がステータスに基づいてグループ化されます。[データの種類] で [カウント] を選択すると、不具合の修正に要する推定時間と実際に要した時間ではなく、不具合の数が Y 軸に表示されます。[期間] で [過去 5 週間] を選択すると、X 軸がこの間隔となって表示されます。グラフに表示されるデータは、各週の最後の日に測定されたものとなります。[表示オプション] で [一定期間で変更] を選択すると、不具合の数ではなく、一定期間の不具合の数の変化が表示されます。

グラフの設定の詳細については、591 ページ「グラフの設定」を参照してください。

不具合 - 進行状況グラフは線グラフでのみ表示できます。

## 不具合 - 経過（不具合期間）グラフ

不具合 - 経過（不具合期間）グラフは、Quality Center プロジェクト内の不具合の経過時間を示します。不具合の経過時間は、不具合が報告された時点から開始し、解決して終了した時点で終わりとなります。このグラフの情報は、指定した基準に基づいて表示されます。Quality Center がデータをグループ化する際に基準とする不具合情報、および Y 軸に表示するデータを指定できます。また、グラフの内容を 2 つの棒で表したい場合は、データの分割に使用する時間間隔も指定できます。



たとえば、[グループ分け] リストから [ステータス] を選択すると、表示されている不具合がステータスに基づいてグループ化されます。[データの種類] で [カウント] を選択すると、不具合の修正に要する推定時間と実際に要した時間ではなく、不具合の数が Y 軸に表示されます。[期間でグループ化] で [グループ分けされていません] を選択すると、経過時間によるグループ分けによらずすべてが表示されます。グラフ表示を更新するには、[生成] ボタンをクリックします。

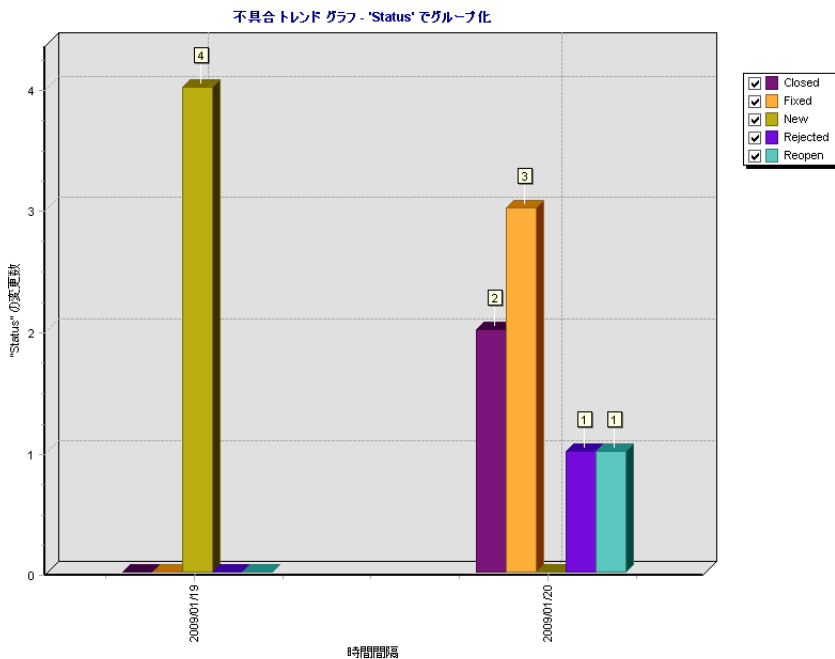
グラフの設定の詳細については、591 ページ「グラフの設定」を参照してください。

「終了」の状態となっている不具合の期間とは、不具合が報告された日付から解決して終了した日付までの日数です。不具合が解決して終了した時点で「期間」は固定され、変化しなくなります。

不具合 - 経過グラフは棒グラフでのみ表示できます。

## 不具合 - トレンド・グラフ

不具合 - トレンド・グラフは、Quality Center プロジェクトの特定の不具合フィールドに加えられた変更の表示期間ごとの履歴を示します。変更の数を表示する対象となるフィールドおよびデータの表示対象期間を指定して表示します。



たとえば、[フィールドでの変更数] リストから「優先度」を選択すると、[優先度] 不具合フィールドに加えられた変更の数が表示されます。[期間] で [過去 5 週間] を選択すると、X 軸がこの間隔となって表示されます。グラフに表示されるデータは、各週で測定されたデータの合計となります。グラフ表示を更新するには、[生成] ボタンをクリックします。

グラフの設定の詳細については、591 ページ「グラフの設定」を参照してください。

各優先度の変化は、このグラフで使用する目的で 1 回だけ記録されます。たとえば、フィールドが「緊急」から「非常に高い」、そして「緊急」へと変化した場合、「緊急」への変化のみがこのグラフに記録されます。

不具合 - トレンド グラフは棒グラフでのみ表示できます。



# 第 42 章

---

## 標準レポートの作成

標準レポートは、Quality Center モジュールのデータを表示するさまざまなレポート・タイプを提供します。

### 本章の内容

- ▶ 標準レポートの作成について (623 ページ)
- ▶ クイック標準レポートの作成 (624 ページ)
- ▶ ダッシュボード・モジュールでの標準レポートの作成 (628 ページ)
- ▶ 標準レポートの設定 (632 ページ)
- ▶ サブレポートの追加 (635 ページ)
- ▶ 標準レポートの表示 (638 ページ)

### 標準レポートの作成について

標準レポートは、要件カバレッジ、テスト・カバレッジ、テスト計画、テスト実行、不具合追跡を監視するのに役立ちます。

標準レポートは、ダッシュボード・モジュールで作成するか、要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、不具合モジュールでの作業中に作成します。どちらの場合も、後から参照できるようにダッシュボード・モジュールに標準レポートを保存できます。

要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、不具合モジュールで標準レポートを作成する場合は、さまざまな定義済みレポートから選択できます。また、即時に表示されるように、選択したレコードのレポートを作成することもできます。

ダッシュボード・モジュールで作成する標準レポートでは、レポートに含めるデータを定義できます。また、関連データの階層が付加されるサブレポートを追加することもできます。

---

### 注：

- ▶ SQL クエリを実行すれば、データが抽出された Excel レポートを作成できます。詳細については、第 43 章「Excel レポートの作成」を参照してください。
  - ▶ グリッド・データをテキスト・ファイル、Microsoft Excel スプレッドシート、Microsoft Word ドキュメント、または HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。要件グリッド、テスト・グリッド、実行グリッド、または不具合グリッドのデータをエクスポートできます。詳細については、75 ページ「ファイルへのデータのエクスポート」を参照してください。
- 

## クイック標準レポートの作成

クイック・レポートとは、要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、不具合モジュールのデータが表示されるレポートのことです。クイック・レポートは一時的な参照に使用できます。また、ダッシュボード・モジュールに保存して、引き続きデータや表示形式を設定することもできます。

クイック・レポートを作成するときは、定義済みレポートのリストから選択できます。また、選択したデータのレポートを作成することもできます。定義済みレポートのタイプの詳細については、626 ページ「使用可能な定義済みレポート」を参照してください。

クイック標準レポートを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 レポート作成に使用する Quality Center モジュールを選択します。
- 2 定義済みレポートを作成するには、[アナリシス] > [レポート] を選択し、作成するレポートのタイプを選択します。



- 3 選択したレコードのクイック・レポートを作成するには、次の手順を実行します。
  - a レポートに含める要件、テスト、または不具合を選択します。複数のレコードを含めるには、CTRL キーを押しながらレコードを選択します。
  - b [アナリシス] > [選択項目のレポート] を選択します。あるいは、レコードを右クリックして [選択項目のレポート] を選択します。レポートが開き、選択したレコードのデータが表示されます。

要件モジュールの場合、要件とその子のクイック・レポートを作成するには、[アナリシス] > [選択項目を子と一緒にレポートする] を選択します。あるいは、要件を右クリックして [選択項目を子と一緒にレポートする] を選択します。レポートが開き、選択した要件とその子のデータが表示されます。
- 4 レポート・ツールバーのボタンを使用して、レポート・ビューを調整します。詳細については、638 ページ「標準レポートの表示」を参照してください。
- 5 ダッシュボード・モジュールにレポートを保存するには、[保存] をクリックします。[新規標準レポート] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 6 [標準レポートの名前] に、新規レポートの名前を入力します。
- 7 [フォルダの選択] で、レポートの保存先となる、アナリシス・ツリー内のフォルダを選択するか、[新規フォルダ] をクリックして新しいフォルダを作成します。アナリシス・ツリーのフォルダの詳細については、571 ページ「アナリシス・ツリーとダッシュボード・ツリーの構築」を参照してください。
- 8 [保存] をクリックします。ダッシュボード・モジュールのアナリシス・ビューが開き、[表示] タブにレポートが表示されます。
- 9 レポートの保存後、レポートの内容の設定、および、表示設定の調整を行うことができます。詳細については、632 ページ「標準レポートの設定」を参照してください。

### 使用可能な定義済みレポート

要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、不具合モジュールでは、定義済みレポートを選択できます。

#### 要件モジュール・レポート

要件モジュールでは、次のレポートを使用できます。

レポート	説明
標準要件レポート	現在の要件ビューに表示される要件が一覧表示されます。
表レポート	現在の要件ビューに表示される要件がグリッド形式で表示されます。
要件とカバレッジ・テスト	現在の要件ビューに表示される要件がテスト・カバレッジ情報と一緒に一覧表示されます。
要件とカバレッジ・テスト/ステップ	現在の要件ビューに表示される要件がテスト・カバレッジ情報と一緒に一覧表示されます。また、各テスト・カバレッジのテスト・ステップも表示されます。
リンクされた不具合を持つ要件	現在の要件ビューに表示される要件が、リンクされている不具合と一緒に一覧表示されます。
トレーサビリティを持つ要件	現在の要件ビューに表示される要件が、関連付けられている、追跡を終了する要件および追跡を開始する要件と一緒に一覧表示されます。

#### テスト計画モジュール・レポート

テスト計画モジュールでは、次のレポートを使用できます。

レポート	説明
標準テスト計画レポート	現在のテスト計画ビューのテストが一覧表示されます。
サブジェクト・ツリー・レポート	現在のテスト計画ビューのテストがサブジェクトごとに一覧表示されます。
デザイン・ステップのあるテスト	デザイン・ステップも含め、現在のテスト計画ビューに表示されるテストが一覧表示されます。

レポート	説明
処理済み要件のあるテスト	現在のテスト計画ビューに表示されるテストが要件カバレッジ情報と一緒に一覧表示されます。
リンクされた不具合を持つテスト	現在のテスト計画ビューに表示されるテストがリンクされている不具合と一緒に一覧表示されます。

### テスト・ラボ・モジュール・レポート

テスト・ラボ・モジュールでは、次のレポートを使用できます。

レポート	説明
現在のテスト・セット	現在のテスト・セットに表示されるテストが一覧表示されます。
クロス・テスト・セット	[テストセット] リストに表示されるテストが、テストを含めずに一覧表示されます。
テストを含むテスト・セット階層	テスト・セットの階層と各テスト・セットのステータスが一覧表示されます。
テストを含むクロス・テスト・セット	[テストセット] リストに表示されるテスト・セットが、テストを含め一覧表示されます。
失敗したテスト実行のある現在のテスト・セット	現在のテスト・セットから、テスト実行ステータスが「失敗」になっているテストが一覧表示されます。
失敗したテスト実行のあるクロス・テスト・セット	すべてのテスト・セットから、テスト実行ステータスが「失敗」になっているテストが一覧表示されます。
実行通知	現在のテスト・セットに表示されているテストが、前回のテスト実行時の結果と一緒に一覧表示されます。

## 不具合モジュール・レポート

不具合モジュールでは、次のレポートを使用できます。

レポート	説明
標準不具合レポート	不具合グリッドに表示される不具合が一覧表示されます。
表レポート	不具合グリッドの不具合がグリッド形式で表示されます。
リンクされたテストと実行を持つ不具合	リンクされているテストおよびテスト実行結果と一緒に不具合が一覧表示されます。
修正済みまたは却下された不具合	「修正済み」または「却下」ステータスになっている不具合が一覧表示されます。
現在のユーザが検出した修正済みまたは却下された不具合	現在のユーザによって検出され、「修正済み」または「却下」ステータスになっている不具合が一覧表示されます。
現在のユーザに割り当てられた開始不具合	現在のユーザに割り当てられていて、「Open」（修正中）ステータスになっている不具合が一覧表示されます。

## ダッシュボード・モジュールでの標準レポートの作成

要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、不具合モジュールのデータを表示する標準レポートをダッシュボード・モジュールで作成します。

---

**注：**要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、不具合モジュールから標準レポートを作成することもできます。詳細については、624 ページ「クイック標準レポートの作成」を参照してください。

---

ダッシュボード・モジュールで標準レポートを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 ダッシュボード・モジュールの **[アナリシス ビュー]** タブをクリックします。
- 2 アナリシス・ツリーで、レポートを追加するフォルダを選択します。アナリシス・ツリーでのフォルダの作成に関する詳細については、571 ページ「アナリシス・ツリーとダッシュボード・ツリーの構築」を参照してください。
- 3 **[新規項目]** ボタンをクリックし、**[新規標準レポート]** を選択します。**[新規標準レポート]** ダイアログ・ボックスが開きます。

A screenshot of a Windows-style dialog box titled '新規 標準レポート' (New Standard Report). The dialog has a blue title bar with a close button (X) on the right. It contains three fields: 'エンティティ:' (Entity) with a dropdown menu showing 'テスト' (Test); '標準レポート のタイプ:' (Standard Report Type) with a dropdown menu showing 'サブジェクト テスト レポート' (Subject Test Report); and '標準レポート の名前:' (Standard Report Name) with an empty text input field. At the bottom, there are three buttons: 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ' (Help).

- 4 **[エンティティ]** で、レポートを作成するデータ・セットを選択します。
- 5 **[標準レポートのタイプ]** で、作成するレポートのタイプを選択します。使用可能なレポート・タイプの詳細については、630 ページ「使用可能なレポート・タイプ」を参照してください。
- 6 **[標準レポートの名前]** に、レポートの名前を入力します。
- 7 **[OK]** をクリックします。レポートがアナリシス・ツリーに追加されます。

- 8 [詳細] タブをクリックします。[詳細] タブには、次のフィールドが表示されます。

フィールド	説明
エンティティ	レポートでサンプリングされたデータ・セットを示します。
タイプ	アナリシス項目タイプを示します。
サブタイプ	レポートの種類を示します。
名前	レポートの名前。
更新日時	レポートが最後に更新された日時を示します。
更新者	レポートを最後に更新したユーザを示します。
所有者	レポートを作成したユーザを示します。共有レポートを変更する権限は所有者にしかない場合があります。
説明	レポートの説明。

- 9 レポートの内容の設定、および、表示設定の調整を行うことができます。詳細については、632 ページ「標準レポートの設定」を参照してください。
- 10 レポートを表示するには、[生成] ボタンをクリックするか、[表示] タブをクリックします。詳細については、638 ページ「標準レポートの表示」を参照してください。

### 使用可能なレポート・タイプ

ダッシュボード・モジュールで標準レポートを作成する場合は、使用可能なレポート・タイプのいずれかを選択します。使用可能なレポート・タイプは、データ・エンティティごとに異なります。

レポート	説明
要件レポート	要件モジュールの要件が一覧表示されます。
サブジェクト・テスト・レポート	テスト計画モジュールのテスト・サブジェクトの階層が一覧表示されます。
テスト計画レポート	テスト計画モジュールのテストが一覧表示されます。

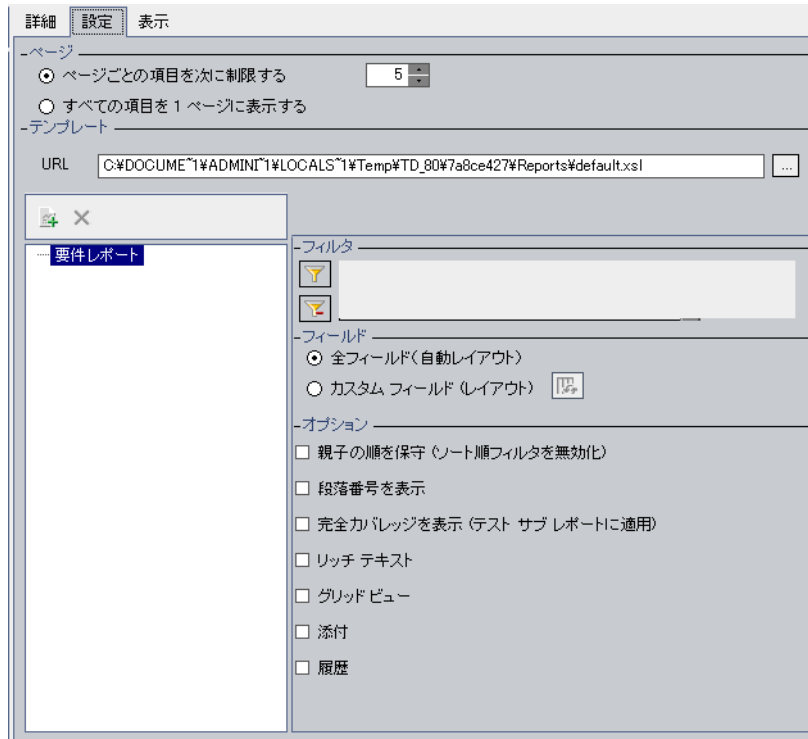
レポート	説明
クロス・テスト・セット・レポート	テスト・ラボ・モジュールに表示されるテスト・セットが、テストを含めずに一覧表示されます。
実行レポート	テスト・インスタンスがテストのステータスと一緒に一覧表示されます。
テスト・セットの履歴レポート	テスト・ラボ・モジュールのテスト・セット・フォルダの階層が一覧表示されます。
不具合レポート	不具合モジュールの不具合が一覧表示されます。

## 標準レポートの設定

Quality Center レポートの表示形式と内容を指定できます。メイン・レポートとその各サブレポートの設定を別々に行うことができます。

標準レポートを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 アナリシス・ツリーでレポートを選択します。
- 2 **[設定]** タブをクリックします。



- 3 **[ページ]** で、ページごとに表示する、メイン・レポートの項目数を設定できます。
  - ▶ 1 ページあたりの項目数を制限するには、**[ページごとの項目を次に制限する]** を選択し、1 ページあたりの項目数を指定します。
  - ▶ すべての項目を 1 ページで表示するには、**[すべての項目を 1 ページに表示する]** を選択します。



4 [テンプレート] で、Quality Center の標準レポート・テンプレートまたは自分のテンプレートを使用できます。



5 サブレポートを追加するには、[サブレポートの追加] ボタンをクリックします。サブレポートの詳細については、635 ページ「サブレポートの追加」を参照してください。

6 タブの左側で、設定するメイン・レポートまたはサブレポートを選択します。

7 [フィルタ] で、フィルタと並べ替え優先順位を定義またはクリアできます。



▶ 選択した条件に従ってデータのフィルタ処理または並べ替えを行うには、[フィルタ / 並べ替えの設定] ボタンをクリックします。



▶ フィルタと並べ替えの条件をすべてクリアするには、[フィルタ / 並べ替えのクリア] ボタンをクリックします。

詳細については、第 3 章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。

8 [フィールド] で、レポートに表示するフィールドとその順序を設定できます。

▶ すべてのフィールドをレポートに表示するには、[全フィールド (自動レイアウト)] を選択します。



▶ フィールドを選択し、その順序を設定するには、[カスタム フィールド (レイアウト)] を選択し、[フィールドの選択] ボタンをクリックします。詳細については、52 ページ「カラムの配置」を参照してください。

9 [オプション] で、レポート・タイプに応じて次のオプションを選択します。

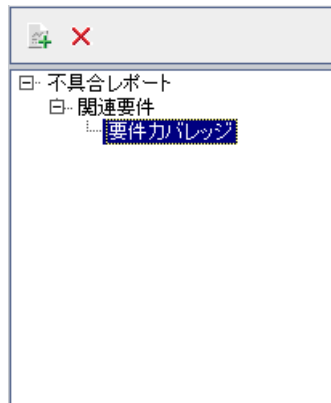
オプション	説明
添付ファイル	関連付けられている添付ファイルの一覧が表示されます。
グリッドビュー	レポートがグリッドとして表示されます。
履歴	要件、テスト、または不具合に加えられたすべての変更の一覧が表示されます。
親子の順を保守	要件トピックの下に子要件が表示されます。このオプションを選択すると、定義したフィルタと並べ替えの条件が無効になります。
リッチ・テキスト	要件のリッチ・テキストをレポートに含めます。
完全カバレッジを表示	ツリーの各要件のテスト・カバレッジが表示されます。
段落番号を表示	ツリーの各要件に割り当てられた階層番号が表示されます。この番号は、各要件に割り当てられている一意の要件 ID とは関係ありません。
" 失敗 " 実行ステップのみを表示	「実行ステップ」サブレポートを追加した場合に、「失敗」の実行ステップのみ表示されます。

10 [表示] タブをクリックし、更新された設定でレポートを作成します。レポートの表示の詳細については、638 ページ「標準レポートの表示」を参照してください。

## サブレポートの追加


レポートを作成したら、サブレポートを追加できます。サブレポートにより、親レポートに関連する情報の階層が追加されます。たとえば、不具合のレポートを作成した場合、リンクされている要件のサブレポートを追加できます。レポートには、各不具合にリンクされている要件が表示されます。使用可能なサブレポート・タイプの詳細については、636 ページ「使用可能なサブレポート」を参照してください。

各サブレポートには、さらにサブレポートを追加できます。各レベルに複数のサブレポートを含めることができます。



標準レポートの概要については、第 42 章「標準レポートの作成」を参照してください。

サブレポートを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 アナリシス・ツリーでレポートを選択し、**[設定]** タブをクリックします。
- 2 [レポート] 表示枠で、サブレポートを追加するレポートまたはサブレポートを選択します。
- 3  **[サブレポートの追加]** ボタンをクリックします。**[種類]** リストでサブレポートを選択し、**[OK]** をクリックします。あるいは、レポートを右クリックし、**[サブレポートの追加]** リストからサブレポートを選択します。サブレポートがレポートのリストに追加されます。



- 4 サブレポートを削除するには、サブレポートを選択し、[サブレポートの削除] ボタンをクリックします。あるいは、レポートを右クリックし、[サブレポートの削除] を選択します。親レポートを削除すると、すべてのサブレポートも削除されます。

### 使用可能なサブレポート

使用可能なサブレポートは、親レポートのタイプによって異なります。

使用可能なサブレポートは次のとおりです。

レポート	説明
含まれるテスト・セット	テスト・セット・フォルダ内のテスト・セットが一覧表示されます。
含まれるテスト	テスト・セット内のテスト・インスタンスが一覧表示されます。
カバレッジ要件	テストが対象としている要件の情報が一覧表示されます。
デザイン・ステップ	テストのデザイン・ステップが一覧表示されます。
リンクされている不具合	レコードにリンクされている不具合が一覧表示されます。
リンクされているエンティティ	不具合にリンクされているすべてのエンティティが一覧表示されます。
親テスト	テスト実行の親テスト・インスタンスが一覧表示されます。
関連要件	不具合にリンクされている要件が一覧表示されます。
要件カバレッジ	その要件を対象としているテストが一覧表示されます。
実行ステップ	テスト実行の実行ステップが一覧表示されます。
実行	テスト・インスタンスのすべての実行が一覧表示されます。
ソース実行テスト	不具合にリンクされている実行済みのテスト・インスタンスが一覧表示されます。
ソース実行	不具合にリンクされているテスト実行が一覧表示されます。
ソース・テスト	不具合にリンクされているテストが一覧表示されます。

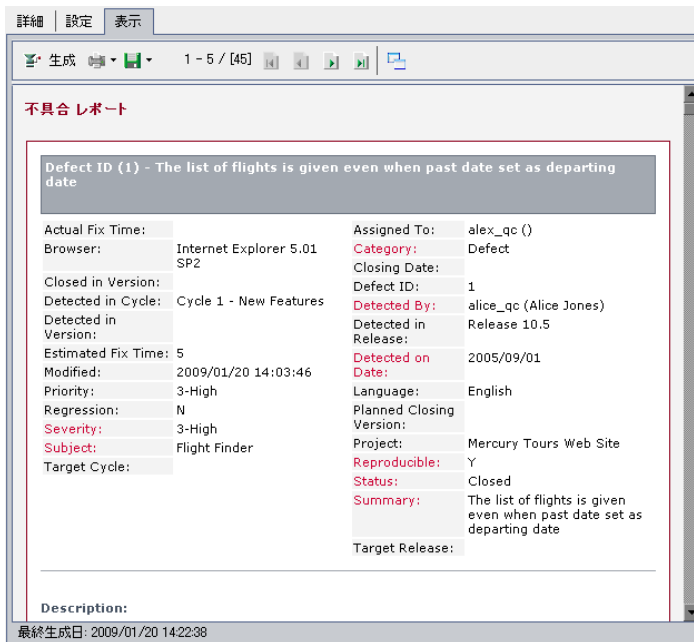
レポート	説明
トレース終了	その要件まで追跡される要件が一覧表示されます。
トレース開始	その要件から追跡される要件が一覧表示されます。

## 標準レポートの表示







Quality Center レポートは表示、印刷、および保存ができます。

標準レポートを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 レポートを選択します。
  - ▶ アナリシス・ツリーでレポートを選択し、**[表示]** タブをクリックします。
  - ▶ 要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、または不具合モジュールを選択し、**[アナリシス]** > **[Recently Used]** を選択して、レポートを選択します。



- 2 最新のデータが表示されるようにレポートを更新するには、**[生成]** ボタンをクリックします。
- 3 レポートを全画面モードで表示するには、**[全画面表示]** ボタンをクリックします。全画面モードでは、表示ツールバーが表示されたままになります。  
全画面モードを終了するには、**[閉じる]** ボタンをクリックします。

-   4 **[最初のページ]** ボタンをクリックするとレポートの最初のページが、**[前のページ]** ボタンをクリックすると前のページがそれぞれ表示されます。
-   5 **[次のページ]** ボタンをクリックするとレポートの次のページが、**[最終ページ]** ボタンをクリックするとレポートの最後のページがそれぞれ表示されます。
-  6 レポートを印刷するには、**[既存ページを印刷]** ボタンの矢印をクリックし、**[現在のページ]** または **[すべてのページ]** を選択します。**[印刷]** ダイアログ・ボックスが開きます。必要に応じてプリンタの設定を変更します。**[印刷]** をクリックします。
-  7 レポートを Web ページまたはテキスト・ファイルとして保存するには、**[保存]** ボタンの矢印をクリックし、**[現在のページ]** または **[すべてのページ]** を選択します。**[Web ページの保存]** ダイアログ・ボックスが表示されます。必要に応じてファイル名を変更します。元の形式でレポートを保存するには、**[ファイルの種類]** リストで **[Web ページ、完全]** を選択します。レポートをテキスト・ファイルとして保存するには、**[テキスト ファイル]** を選択し、**[保存]** をクリックします。





# 第 43 章

---

## Excel レポートの作成

Quality Center のデータを Microsoft Excel にエクスポートし、そのデータを Excel で分析することを可能にする Excel レポートを作成できます。

---

**注：** サポートされている Microsoft Excel のバージョンを確認するには、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

---

### 本章の内容

- ▶ Excel レポートの作成について (642 ページ)
- ▶ Excel レポートの作成 (643 ページ)
- ▶ SQL クエリの作成 (644 ページ)
- ▶ SQL クエリへのパラメータの追加 (648 ページ)
- ▶ 後処理スクリプトの作成 (652 ページ)
- ▶ Excel レポートの実行 (654 ページ)

## Excel レポートの作成について

Quality Center のデータは Microsoft Excel にエクスポートできます。これにより、Excel で利用可能な機能を使ってデータを分析できるようになります。Excel レポートは、プロジェクト・データベースに対する SQL クエリで定義されたデータ・セットで構成されます。また、抽出されたデータに対して Visual Basic スクリプトを実行して、データの処理および分析を行うこともできます。

たとえば、不具合モジュール・データを集計するピボット・テーブルを作成し、さまざまなユーザに割り当てられている不具合の数をステータス別に表形式で表示することができます。

Count of STATUS	STATUS ▼			
ASSIGNED TO ▼	Closed	Open	Reopen	Grand Total
james_qc	3	6	1	10
mary_qc		13	1	14
peter_qc	5	9		14
Grand Total	8	28	2	38

また、パラメータを使用してレポートを作成することもできます。これにより、1 度作成するだけで多様なコンテキストで使用できる柔軟性の高いレポートを作成できるようになります。

---

**ヒント：**Quality Center デモ・プロジェクトには、Excel レポートのサンプルがあります。このレポートの SQL クエリと Visual Basic スクリプトは、独自のクエリおよびスクリプト開発のたたき台として利用できます。

---



---


**注：**データ非表示フィルタが適用されているグループに属しているユーザは、Excel レポートで制限付きデータにアクセスできます。これに対処するには、Excel レポート・タスクの実行からユーザ・グループを除外します。ユーザ・グループおよび権限の詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

---

## Excel レポートの作成

Excel レポートはダッシュボード・モジュールで作成します。

Excel レポートを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 ダッシュボード・モジュールの [**アナリシス ビュー**] タブをクリックします。
- 2 アナリシス・ツリーで、Excel レポートを追加するフォルダを選択します。アナリシス・ツリーのフォルダの管理に関する詳細については、571 ページ「アナリシス・ツリーとダッシュボード・ツリーの構築」を参照してください。
- 3  **[新規項目]** ボタンをクリックし、**[新規 Excel レポート]** を選択します。[新規 Excel レポート] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4 **[Excel レポートの名前]** に、Excel レポートの名前を入力します。
- 5 **[OK]** をクリックします。Excel レポートがアナリシス・ツリーに追加されます。
- 6 **[詳細]** タブをクリックします。[詳細] タブには、次のフィールドが表示されます。

フィールド	説明
エンティティ	Excel レポートでは、このフィールドには <b>未指定のエンティティ</b> と表示されます。
タイプ	アナリシス項目タイプを示します。
サブタイプ	Excel レポートでは、 <b>タイプ</b> と同じです。
名前	Excel レポートの名前。
更新日時	Excel レポートが最後に更新された日時を示します。
更新者	Excel レポートを最後に更新したユーザを示します。
所有者	Excel レポートを作成したユーザを示します。共有 Excel レポートを変更する権限は所有者にしかない場合があります。
説明	Excel レポートの説明。

- 7 抽出するデータを定義する SQL クエリを 1 つ以上作成します。詳細については、次の「SQL クエリの作成」を参照してください。

- 8 必要に応じて、データのエクスポート後に Excel で実行する後処理スクリプトを作成します。詳細については、652 ページ「後処理スクリプトの作成」を参照してください。
- 9 データを Excel にエクスポートします。詳細については、654 ページ「Excel レポートの実行」を参照してください。

## SQL クエリの作成

ダッシュボード・モジュールで Excel レポートを追加したら、そのレポートに含めるプロジェクト・データを定義します。このデータは、SQL クエリを作成して定義します。Excel レポートでは、複数のクエリを作成できます。レポートを作成すると、各クエリの結果が別々の Excel ワークシートに表示されます。

本項では、次の項目について説明します。

- ▶ データベースの保護
- ▶ SQL クエリの作成

### データベースの保護

データベースの整合性が確保されるように、プロジェクト・データベースからデータを抽出するクエリだけを実行する必要があります。データベース・レコードの追加、修正、または削除を行ってプロジェクト・データベースを変更するクエリは実行しないでください。

標準設定では、クエリが有効でプロジェクト・データベースを変更しないように、次の条件が満たされているかどうか検査されます。

- ▶ クエリが **SELECT** コマンドで始まっています。
- ▶ クエリに SQL ステートメントが 1 つだけ含まれています。
- ▶ クエリに次のコマンドが含まれていません（コメントは除く）：**INSERT**, **DELETE**, **UPDATE**, **DROP**, **CREATE**, **COMMIT**, **ROLLBACK**, **ALTER**, **EXEC**, **EXECUTE**, **MERGE**, **GRANT**, **REVOKE**, **SET**, **INTO**, **TRUNCATE**。

「サイト管理」で **SQL\_QUERY\_VALIDATION\_ENABLED** パラメータと **SQL\_QUERY\_VALIDATION\_BLACK\_LIST** パラメータを使用することによって、この検証を実行するかどうか、そして、どのように実行するかをカスタマイズできます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

## SQL クエリの作成

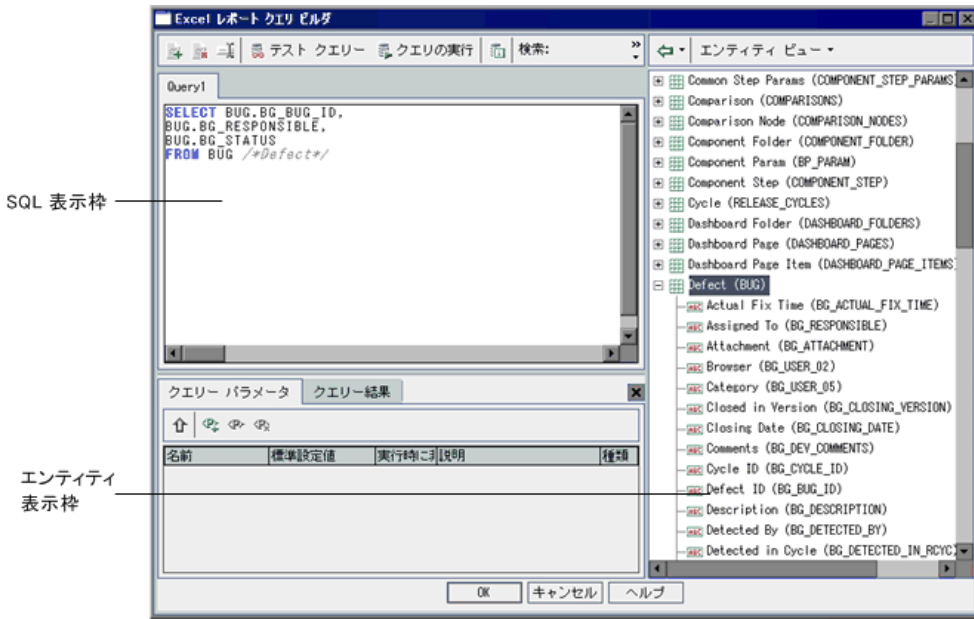
SQL クエリの作成は、[クエリー] タブまたはクエリ・ビルダで行います。[クエリー] タブでは、SQL クエリを手動で直接書くことができます。プロジェクト・エンティティをリストから取得する場合や、クエリにパラメータを定義または追加する場合は、クエリ・ビルダを使用します。

SQL クエリを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 アナリシス・ツリーで Excel レポートを選択します。
- 2 **[設定]** タブをクリックし、次に **[クエリー]** タブをクリックします。

[クエリー] タブに SQL クエリを書きます。または、次の手順を実行して、クエリ・ビルダで SQL クエリを書きます。

- 3 [クエリビルダ] ボタンをクリックします。[Excel レポート クエリビルダ] ダイアログ・ボックスが開きます。



クエリ・ビルダは、次の表示枠およびタブで構成されています。

- ▶ **[SQL] 表示枠**：レポートのクエリに使用する SQL ステートメントが含まれています。
- ▶ **[クエリパラメータ] タブ**：クエリに使用するパラメータのリストが含まれています。
- ▶ **[クエリ結果] タブ**：クエリのテスト結果が含まれています。
- ▶ **[エンティティ] 表示枠**：クエリに追加できる Quality Center データベース・フィールドおよびエンティティのリストが含まれています。フィールドとエンティティは、名前順、データベースのカラム名順、あるいはその両方の順序で表示できます。表示を変更するには、[エンティティビュー] ボタンをクリックし、表示を選択します。



4 SQL クエリは、プロジェクト・データベースで使用された SQL タイプを使って書く必要があります。プロジェクト・データベースで使用されたデータベースの種類を表示するには、[データベースの種類] ボタンをクリックします。



5 新しいクエリを追加するには、[クエリの追加] ボタンをクリックします。**Query<number>** という標準設定の名前の新しいタブがクエリ・ビルダに追加されます。

6 [SQL] 表示枠に、レポートに使用するデータ・セットを定義する SQL クエリを入力します。

---

**注：**「@」と「¥」には特別な意味があり、プロジェクト・データベースに対して SQL クエリを実行する際、文字どおりに解釈されません。これらが文字どおりに解釈されるようにするには、「@」を「¥@」に、「¥」を「¥¥」に置き換える必要があります。たとえば、Quality Center データベースに対して `SELECT * FROM BUG WHERE BUG.BG_SUMMARY = '@parameter@'` というステートメントを文字どおりに実行するには、`SELECT * FROM BUG WHERE BUG.BG_SUMMARY = '¥@parameter¥@'` と入力します。

---




7 SQL クエリにプロジェクト・エンティティを追加できます。次のオプションを使用できます。



- ▶ カラム・エイリアスなしでプロジェクト・エンティティを追加するには、[エンティティ] 表示枠のエンティティをダブルクリックするか、エンティティを選択して [エンティティをクエリに追加] ボタンをクリックします。
- ▶ エンティティ・タイトルで定義されたカラム・エイリアス付きでプロジェクト・エンティティを追加するには、追加するエンティティを選択します。[エンティティをクエリに追加] の矢印をクリックし、[エンティティをクエリに追加 (エンティティ タイトルをエイリアスとして使用)] を選択します。

SQL クエリの現在のカーソル位置にエンティティが追加されます。複数のプロジェクト・エンティティを入力する場合は、カンマで区切ります。

8 SQL クエリにパラメータを追加できます。詳細については、648 ページ「SQL クエリへのパラメータの追加」を参照してください。

- 9 クエリをテストし、テスト結果を [**クエリー結果**] タブに表示できます。クエリのすべての結果を表示するか、それとも、最初の 10 件のレコードのみ表示するかを選択できます。
- ▶ [**クエリの実行**] をクリックすると、クエリのすべての結果が [**クエリー結果**] タブに表示されます。クエリにパラメータが含まれている場合は、各パラメータの値を入力するか、標準設定値で確定するように求められます。
  - ▶ [**テストクエリー**] をクリックすると、クエリ結果の最初の 10 件のレコードのみ表示されます。クエリにパラメータが含まれている場合は、パラメータの標準設定値が使用されます。
-  10 クエリ内のテキストを検索できます。テキストを検索するには、検索する文字列を [**検索**] ボックスに入力し、[**検索**] ボタンをクリックします。
-  11 クエリの名前を変更できます。クエリの名前を変更するには、クエリを選択し、[**名前の変更**] ボタンをクリックします。[クエリ名の変更] ダイアログ・ボックスに新しい名前を入力し、[**OK**] をクリックします。クエリで抽出されたデータが含まれている Excel ワークシートは、クエリと同じ名前になります。
-  12 クエリを削除するには、クエリを選択し、[**削除**] ボタンをクリックします。あるいは、クエリを右クリックし、[**削除**] を選択します。[**はい**] ボタンをクリックして、確定します。

## SQL クエリへのパラメータの追加

Excel レポートの SQL クエリには、パラメータを含めることができます。各クエリ・パラメータに標準設定値を割り当てるのが可能です。レポートを作成するときに、パラメータの値を入力するか、標準設定値で確定するように求められます。また、レポートを作成するたびに確認メッセージが表示されないように、常に標準設定値が使用されるように選択することもできます。

たとえば、一定期間内にプロジェクトに追加された要件の数のグラフが表示されたレポートを作成するとします。その場合、期間を変えて数回レポートを実行する方がいいかもしれません。期間の開始日と終了日のクエリ・パラメータがあるレポートを 1 つ作成すれば、複数のレポートを作成する手間を省くことができます。レポートを作成するたびに、期間の開始日と終了日を入力するように求められます。



最初に、パラメータ・リストにクエリ・パラメータを追加します。レポートのすべてのクエリでアクセスできるグローバル・パラメータを追加できます。また、特定のクエリでのみ使用可能なパラメータを追加することもできます。パラメータ・リストにパラメータを追加したら、クエリにパラメータを挿入します。

---

**重要：**

- ▶ SQL の識別名（テーブル名やカラム名など）にパラメータを使用することはできません。
  - ▶ パラメータ値に SQL ステートメントを含めることはできません。
- 

**パラメータ・リストへのクエリ・パラメータの追加**

クエリにパラメータを追加する前に、そのパラメータをパラメータ・リストに追加しておく必要があります。

パラメータ・リストにパラメータを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 アナリシス・ツリーで Excel レポートを選択します。
- 2 [設定] タブにある [クエリー] タブをクリックし、[クエリ ビルダ] ボタンをクリックします。



- 3 [クエリー パラメータ] タブの [パラメータの新規作成] ボタンをクリックします。[新規クエリ パラメータ] ダイアログ・ボックスが開きます。

- 4 [パラメータ名] ボックスに、パラメータの名前を入力します。パラメータの名前には、「@」は使用できません。
- 5 [標準設定値] ボックスに、パラメータの標準設定値を入力します。  
レポートを作成するときは常に標準設定値を使用する場合は、[実行時に非表示] を選択します。レポートを作成するときに、標準設定値で確定するか、それとも標準設定値を変更するかの確認メッセージを表示する場合は、このオプションを選択しないでください。
- 6 レポートのすべてのクエリでパラメータを使用できるようにするには、[グローバル パラメータ] を選択します。このオプションを選択しなかった場合、パラメータは現在のクエリでのみ使用可能になります。
- 7 [説明] ボックスに、パラメータの説明を入力します。
- 8 [OK] をクリックします。パラメータ・リストにパラメータが追加され、ダイアログ・ボックスが閉じます。



- 9 パラメータ・リストからパラメータを削除するには、[クエリー パラメータ] タブでパラメータを選択し、[削除] をクリックします。[はい] ボタンをクリックして、確定します。

---

**重要：**レポートのクエリで使用されているパラメータを削除すると、そのパラメータが含まれているクエリが有効ではなくなります。

---



- 10 パラメータ・リストのパラメータを編集するには、パラメータを選択し、[パラメータの編集] をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ・ボックスでパラメータの設定を編集し、[OK] をクリックします。

### SQL クエリへのパラメータの追加

パラメータ・リストにパラメータを追加したら、そのパラメータを SQL クエリに追加できます。

**SQL クエリにパラメータを追加するには、次の手順を実行します。**

- 1 アナリシス・ツリーで Excel レポートを選択します。
- 2 [設定] タブにある [クエリー] タブをクリックし、[クエリ ビルダ] ボタンをクリックします。
- 3 [SQL] 表示枠で、パラメータを追加する位置にカーソルを置きます。
- 4 [クエリー パラメータ] タブで、パラメータ・リストからパラメータを選択し、[パラメータをクエリに追加] ボタンをクリックします。あるいは、クエリの表示枠までパラメータをドラッグします。パラメータがクエリに追加されます。



---

**注：**テキスト値を示すパラメータの場合は、[SQL] 表示枠で、パラメータを囲むように手動で一重引用符 (') を追加する必要があります。たとえば、[SQL] 表示枠に WHERE BUG.BG\_DETECTED\_BY = @name@ という句が含まれている場合、@name@ というテキストを '@name@' にする必要があります。

---

## 後処理スクリプトの作成

Excel へのデータのエクスポート後に実行する Visual Basic スクリプトを作成できます。このスクリプトを使用して、Excel のデータを操作します。たとえば、Excel の要件データをピボット・テーブルで表すことができます。また、不具合データに関する計算を行い、修正中の不具合の修復にかかる平均時間を割り出したり、エクスポートされたデータに基づいてグラフを作成したりできます。

### 後処理スクリプトの作成に関するガイドライン

後処理スクリプトを作成するときは、次のガイドラインに従ってください。

- ▶ 後処理スクリプトを実行する前に、Excel でスクリプトを実行できるように、Microsoft Excel のセキュリティ設定を構成しておく必要があります。Excel で [ツール] > [マクロ] > [セキュリティ] を選択します。[セキュリティ] ダイアログ・ボックスが開きます。[セキュリティ レベル] タブで [低] を選択します。[信頼できる発行元] タブで [Visual Basic プロジェクトへのアクセスを信頼する] を選択します。Excel を閉じます。
- ▶ 後処理スクリプトには、**QC\_PostProcessing** という名前のサブプロシージャを含める必要があります。このプロシージャは、スクリプトへのエントリ・ポイントとして機能します。このプロシージャは値を返すことはできません。また、引数を持つこともできません。
- ▶ Excel でレポート・データを使って作業する前に、まず、レポート・データが含まれている範囲を定義する必要があります。この範囲を定義するには、2 つの手順を実行します。
  - ▶ 最初に、データが含まれるワークシート・オブジェクトを作成して、レポート・データが含まれるワークシートを定義します。たとえば、ワークシートの名前が **Query1** の場合、**Set MainWorksheet = ActiveWorkbook.Worksheets("Query1")** というステートメントを使用できます。
  - ▶ レポート・データが含まれるワークシートを定義したら、データが含まれる範囲オブジェクトを作成して、データが含まれる範囲を定義します。たとえば、**MainWorksheet** という名前のワークシート・オブジェクトを定義した場合、**Set DataRange = MainWorksheet.UsedRange** というステートメントを使用できます。

この範囲を定義したら、Visual Basic コードを使用して、範囲に含まれるデータを操作できます。

## 後処理スクリプトの作成

後処理スクリプトの作成は [後処理] タブで行います。

後処理スクリプトを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 アナリシス・ツリーで Excel レポートを選択します。
- 2 [設定] タブにある [後処理] タブをクリックします。
- 3 スクリプト・エディタ・ボックスに、クエリで定義したデータが Excel にエクスポートされた後に実行される Visual Basic スクリプトを入力します。このスクリプトは、スクリプト・エディタ・ボックスにすでに表示されているテンプレート・スクリプトに基づいて作成する必要があります。後処理スクリプトの作成に関するその他のガイドラインについては、前述の「後処理スクリプトの作成に関するガイドライン」を参照してください。
- 4 Excel へのデータのエクスポート後に後処理スクリプトを実行するには、**[後処理の実行]** を選択します。このオプションを選択しないと、レポートの作成時にスクリプトが実行されません。
- 5 後処理スクリプト内のテキストを検索できます。テキストを検索するには、検索する文字列を **[検索]** ボックスに入力し、**[検索]** ボタンをクリックします。

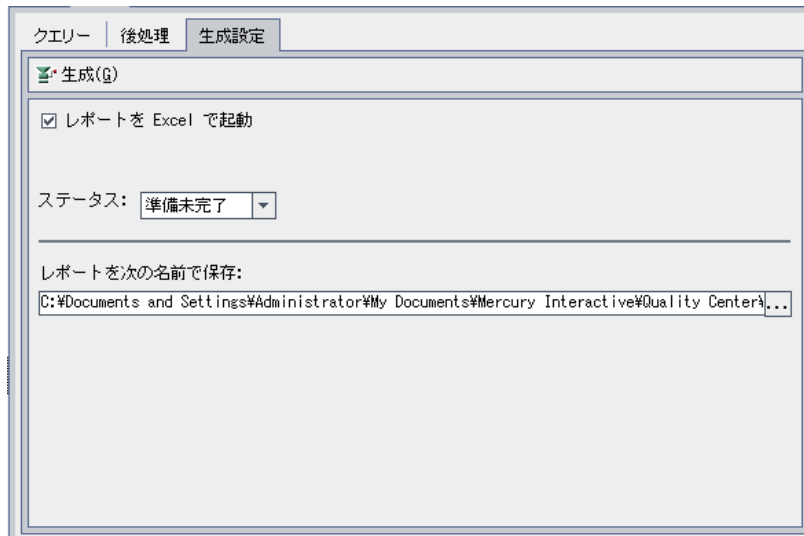


## Excel レポートの実行

レポートを設定したら、そのレポートを実行できます。レポートを実行すると、SQL クエリで指定したデータがプロジェクト・データベースから抽出され、そのデータが Excel ワークブックに保存され、後処理スクリプトが実行されます。

Excel レポートを実行するには、次の手順を実行します。

- 1 アナリシス・ツリーで Excel レポートを選択します。
- 2 [設定] タブにある [生成設定] タブをクリックします。



- 3 レポートの作成後に Excel でレポートを開くようにするには、[レポートを Excel で起動] を選択します。
- 4 [ステータス] ボックスで、レポートのステータスを選択します。レポートのステータスは、レポートを作成する準備ができているかどうかをほかのユーザに知らせるものです。レポートのステータスで使用できるオプションは次のとおりです。
  - ▶ **準備完了**：レポートを作成する準備ができていることを示します。
  - ▶ **準備未完了**：レポートを作成する準備ができていないことを示します。ユーザがこのステータスのレポートを作成しようとすると、警告メッセージが表示されます。

5 [レポートを次の名前で保存] ボックスに、データのエクスポート先となる Excel ファイルの場所と名前を入力します。参照ボタンをクリックして、[レポートの保存] ダイアログ・ボックスから場所を選択します。

6 [生成] ボタンをクリックして、レポートを生成します。

- ▶ レポートのステータスが**準備未完了**の場合は、警告メッセージが表示されず。警告を無視してレポートを作成する場合は、[はい] をクリックします。
- ▶ レポートのクエリにパラメータが含まれている場合は、[レポート パラメータ] ダイアログ・ボックスが開きます。[値] カラムにパラメータ値を入力し、[OK] をクリックします。

定義した場所にレポートが保存されます。[レポートを Excel で起動] を選択した場合は、Excel が開いてレポートが表示されます。選択しなかった場合は、確認メッセージが表示されます。





# 第 44 章

---

## ライブ・アナリシス・グラフの作成

ライブ・アナリシス・グラフでは、テスト計画およびテスト・セットに関するデータを動的かつ視覚的に作成、表示できます。ライブ・アナリシス・グラフを使用して、テスト・サブジェクト・フォルダまたはテスト・セット・フォルダに関連するデータを表示します。テスト・サブジェクト・フォルダまたはテスト・セット・フォルダをクリックするたびに、選択内容に関するデータに合わせてグラフが変化します。

### 本章の内容

- ▶ ライブ・アナリシス・グラフの作成について (658 ページ)
- ▶ ライブ・アナリシス・グラフの作成 (658 ページ)
- ▶ ライブ・アナリシス・グラフの削除 (665 ページ)
- ▶ グラフの表示形式の設定 (666 ページ)

## ライブ・アナリシス・グラフの作成について

ライブ・アナリシス・グラフを作成して、フォルダ内のすべてのテスト、またはテスト・セット・フォルダ内のすべてのテスト・セットの概要をすばやく視覚的に、なおかつ動的に知ることができます。グラフを作成したら、テスト計画モジュールまたはテスト・ラボ・モジュールのツリー・ビューで [ライブアナリシス] タブを選択することで、グラフにアクセスできます。

フォルダ内のレコードを更新すると、データの変更がグラフに反映されます。グラフを手動で作成し直す必要はありません。

ライブ・アナリシス・グラフは、第41章「グラフの作成」で説明しているグラフとは異なり、変更のあったデータを表示するためにグラフを作成し直す必要はありません。また、同じモジュール内の別のフォルダを選択しても、グラフのレイアウトや設定は保持されます。これにより、グラフを作成し直さずに、異なるフォルダで同じグラフによる分析を表示できます。

## ライブ・アナリシス・グラフの作成

ライブ・アナリシス・グラフは、テスト・サブジェクト・フォルダおよびテスト・セット・フォルダに対して作成できます。テスト・サブジェクト・フォルダ用のライブ・アナリシス・グラフの作成方法の詳細については、659ページ「テスト・サブジェクト・フォルダ・グラフの作成」を参照してください。テスト・セット・フォルダ用のライブ・アナリシス・グラフの作成方法の詳細については、662ページ「テスト・セット・フォルダ・グラフの作成」を参照してください。

---

**注：**ライブ・アナリシス・グラフは、作成したユーザのユーザ・ログインに対して一意です。プロジェクトの各ユーザは、自分だけが表示できてほかのユーザは表示できないライブ・アナリシス・グラフを作成できます。

---

## テスト・サブジェクト・フォルダ・グラフの作成

[ライブアナリシス] タブで、テスト・サブジェクト・フォルダ内のテストを対象としたライブ・アナリシス・グラフを作成できます。表示するデータを定義すると、以降は、グラフの作成対象であるテスト・サブジェクト・フォルダ内の1つ以上のテストでデータが変更されるたびにグラフが自動的に更新されます。

---

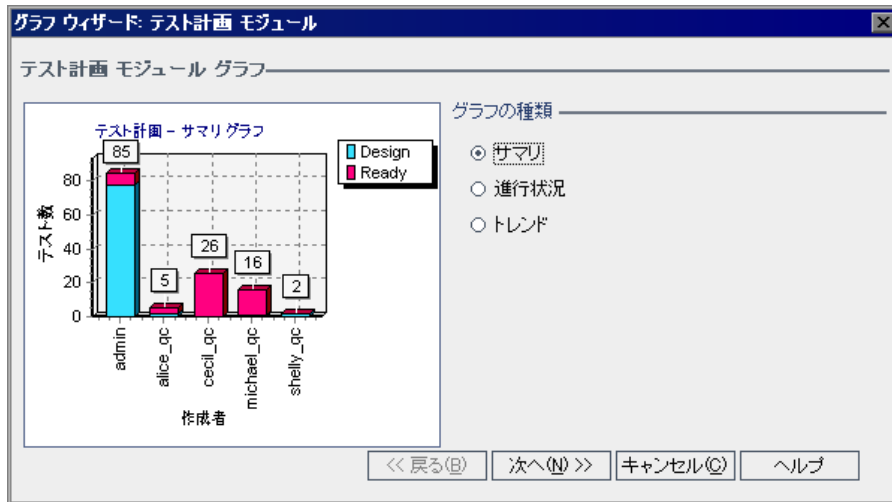
**注：**ライブ・アナリシス・グラフは、選択したテスト・サブジェクト・フォルダの直下にあるテストのみを表します。選択したテスト・サブジェクト・フォルダの子フォルダの下位階層にあるテストは含まれません。

---

テスト・サブジェクト・フォルダ・グラフを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 サイドバーの **[テスト計画]** ボタンをクリックして、テスト計画モジュールを表示します。
- 2 **[表示]** > **[テスト計画ツリー]** を選択します。テスト計画ツリー・ビューが表示されます。
- 3 テスト計画ツリーの中で、テスト・サブジェクト・フォルダを選択します。
- 4 **[ライブアナリシス]** タブをクリックします。[ライブアナリシス] タブは2つの表示枠に分かれています。それぞれグラフを表示できます。
- 5 すでに2つのグラフが表示されている場合、新しいグラフを作成するには既存のグラフのいずれかを削除します。詳細については、665 ページ「ライブ・アナリシス・グラフの削除」を参照してください。

- 6 グラフを表示する表示枠で **[グラフを追加]** リンクをクリックします。あるいは、**[アナリシス]** > **[ライブアナリシス]** > **[グラフの追加]** を選択します。**[グラフ ウィザード: テスト計画モジュール]** ダイアログ・ボックスが開きます。

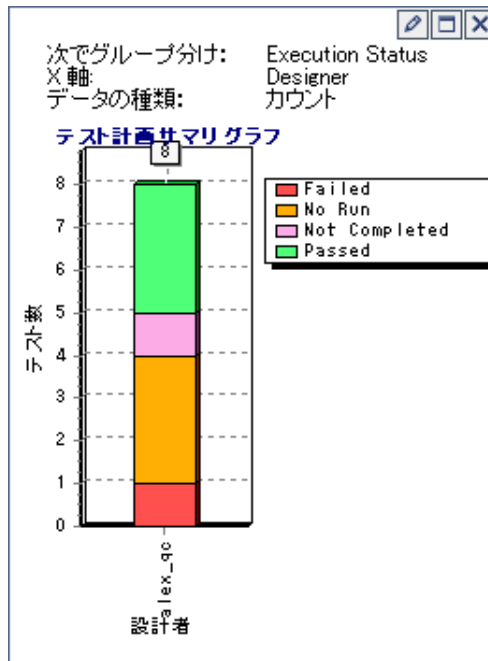


- 7 **[グラフの種類]** で、表示するグラフの種類を選択します。テスト計画モジュールから次のグラフを作成できます。

グラフ	説明
<b>サマリ・グラフ</b>	選択したテスト・サブジェクト・フォルダに現在存在するテストの数を示します。
<b>進行状況グラフ</b>	一定時間内のある時点において、選択したテスト・サブジェクト・フォルダにそれまでに蓄積されたテストの数を示します。
<b>トレンド・グラフ</b>	選択したテスト・サブジェクト・フォルダ内の、特定のテスト計画フィールドに加えられた変更の履歴を、表示期間ごとに示します。

- 8 **[次へ]** をクリックします。**[グループ分け]** ボックスで、グラフ内でテストのグループ分けの基準にするフィールドを選択します。進行状況グラフの場合、履歴が有効になっているフィールドのみを選択できます。フィールドの履歴を有効にする方法については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

- 9 サマリ・グラフの作成を選択した場合は、**[次へ]** をクリックします。**[X 軸]** ボックスで、X 軸に使用するフィールドを選択します。
- 10 **[完了]** をクリックします。選択した表示枠にライブ・アナリシス・グラフが表示されます。



グラフの最上部に、指定したグラフ・プロパティが表示されます。


---

**注：**グラフに表示されるデータには、テスト計画ツリーに対して設定されているフィルタが反映されます。フィルタ処理の詳細については、56 ページ「レコードのフィルタ処理」を参照してください。

---



- 11 グラフを最大化するには、**[全面面表示]** ボタンをクリックします。通常の表示に戻るには、**[閉じる]** ボタンをクリックします。

- 12 データを詳細に分析するには、グラフのデータ項目をクリックします。[結果のドリル ダウン] ダイアログ・ボックスが開き、詳細情報を示すグリッドが表示されます。カラムの表示形式とその順序を指定できます。グリッドの内容は、テキスト・ファイル、Microsoft Excel スプレッドシート、Microsoft Word ドキュメント、または HTML ドキュメントとしてエクスポートすることもできます。詳細については、75 ページ「ファイルへのデータのエクスポート」を参照してください。
- 13 棒グラフの棒または線グラフの線の色を変更するには、棒または線を右クリックするか、グラフの凡例の対応するエントリをクリックします。開いた [**色の設定**] ダイアログ・ボックスで、いずれかのカラー・パレットから新しい色を選択します。
-  14 グラフのタイトル、色、および表示をカスタマイズするには、[**グラフ表示形式の設定**] ボタンをクリックします。グラフの表示形式オプションの詳細については、666 ページ「グラフの表示形式の設定」を参照してください。

### テスト・セット・フォルダ・グラフの作成

[ライブアナリシス] タブで、テスト・セット・フォルダ内のテスト・セットを対象としたライブ・アナリシス・グラフを作成できます。表示するデータを定義すると、以降は、グラフの作成対象であるフォルダ内の 1 つ以上のテスト・セットにおいてデータが変更されるたびにグラフが自動的に更新されます。

---

**注：**ライブ・アナリシス・グラフは、選択したテスト・セット・フォルダの直下にあるテスト・セットのみを表します。選択したテスト・セット・フォルダの子フォルダの下位階層にあるテスト・セットは含まれません。

---

テスト・セット・フォルダ・グラフを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 サイドバーの [**テスト ラボ**] ボタンをクリックして、テスト・ラボ・モジュールを表示します。
- 2 [**表示**] > [**テスト セット ツリー**] を選択します。テスト・セット・ツリー・ビューが表示されます。
- 3 テスト・セット・ツリーで、テスト・セット・フォルダを選択します。
- 4 [**ライブ アナリシス**] タブをクリックします。[ライブ アナリシス] タブは 2 つの表示枠に分かれています。それぞれグラフを表示できます。

- 5 すでに 2 つのグラフが表示されている場合、新しいグラフを作成するには既存のグラフのいずれかを削除します。詳細については、665 ページ「ライブ・アナリシス・グラフの削除」を参照してください。
- 6 グラフを表示する表示枠で **[グラフを追加]** リンクをクリックします。あるいは、**[アナリシス]** > **[ライブアナリシス]** > **[グラフの追加]** を選択します。**[グラフウィザード: テストラボモジュール]** ダイアログ・ボックスが開きます。

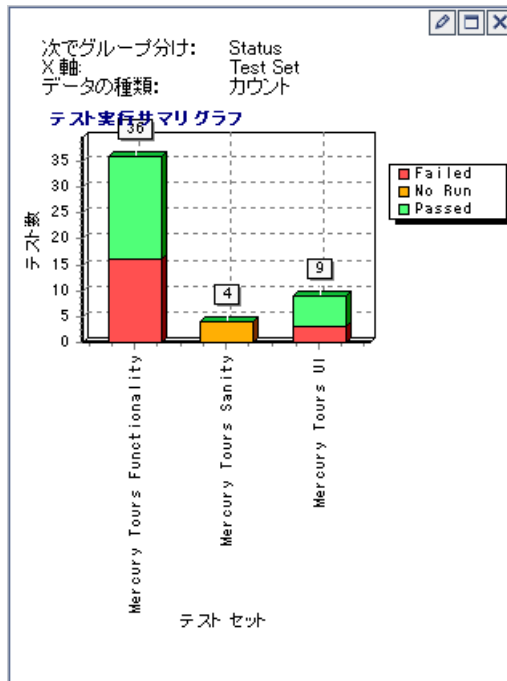


- 7 **[グラフの種類]** で、表示するグラフの種類を選択します。テスト・ラボ・モジュールから次のグラフを作成できます。

グラフ	説明
サマリ・グラフ	選択したフォルダのテスト・セットに属しているテストの数を示します。
進行状況グラフ	一定時間内のある時点において、選択したフォルダのテスト・セットにそれまでに蓄積されたテストの数を示します。

**[次へ]** をクリックします。

- 8 [グループ分け] ボックスで、グラフ内でテストのグループ分けの基準にするフィールドを選択します。進行状況グラフの場合、履歴が有効になっているフィールドのみを選択できます。フィールドの履歴を有効にする方法については、『HP Quality Center Administrator Guide』（英語版）を参照してください。
- 9 サマリ・グラフの作成を選択した場合は、[次へ] をクリックします。[X 軸] ボックスで、X 軸に使用するフィールドを選択します。
- 10 [完了] をクリックします。選択した表示枠にライブ・アナリシス・グラフが表示されます。



グラフの最上部に、指定したグラフ・プロパティが表示されます。

---

**注:** グラフに表示されるデータには、テスト・セット・ツリーに対して設定されているフィルタが反映されます。フィルタ処理の詳細については、56 ページ「レコードのフィルタ処理」を参照してください。

---





- 11 グラフを最大化するには、**[全面表示]** ボタンをクリックします。通常の表示に戻るには、**[閉じる]** ボタンをクリックします。
- 12 データを詳細に分析するには、グラフのデータ項目をクリックします。[結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックスが開き、詳細情報を示すグリッドが表示されます。カラムの表示形式とその順序を指定できます。グリッドの内容は、テキスト・ファイル、Microsoft Excel スプレッドシート、Microsoft Word ドキュメント、またはHTML ドキュメントとしてエクスポートすることもできます。詳細については、75 ページ「ファイルへのデータのエクスポート」を参照してください。
- 13 棒グラフの棒または線グラフの線の色を変更するには、棒または線を右クリックするか、グラフの凡例の対応するエントリをクリックします。開いた**[色の設定]** ダイアログ・ボックスで、いずれかのカラー・パレットから新しい色を選択します。



- 14 グラフのタイトル、色、および表示をカスタマイズするには、**[グラフ表示形式の設定]** ボタンをクリックします。グラフの表示形式オプションの詳細については、666 ページ「グラフの表示形式の設定」を参照してください。

## ライブ・アナリシス・グラフの削除

ライブ・アナリシス・グラフは削除することが可能です。フォルダに対して2つのライブ・アナリシス・グラフを表示している場合、新しいグラフを作成するには、まず既存のグラフのいずれかを削除する必要があります。

ライブ・アナリシス・グラフを削除するには、次の手順を実行します。



- 1 削除するグラフの上部にある**[グラフの削除]** ボタンをクリックします。あるいは、**[アナリシス]** > **[ライブ アナリシス]** > **[グラフの削除]** を選択します。
- 2 **[はい]** ボタンをクリックして、確定します。選択した表示枠からグラフが削除され、**[グラフの追加]** リンクが表示されます。

## グラフの表示形式の設定

グラフを作成したら、グラフのタイトルと表示形式を変更できます。棒グラフの場合、棒の表示パラメータを指定できます。線グラフの場合、線の表示パラメータを指定できます。

グラフの表示形式を設定するには、次の手順を実行します。



- 1 グラフの上部にある [グラフ表示形式の設定] ボタンをクリックします。あるいは、[アナリシス] > [ライブ アナリシス] > [グラフ表示形式の設定] を選択します。[グラフの表示形式] ダイアログ・ボックスが開き、[一般] タブが表示されます。



[一般] タブには、グラフに関する情報が読み取り専用で表示されます。

- 2 グラフ、Y 軸、または X 軸のタイトルを変更するには、[タイトル] タブをクリックします。タイトルのフォント、サイズ、書式、または色を変更するには、[フォント] ボタンをクリックします。元のタイトルに戻すには、[タイトルをリセット] ボタンをクリックします。
- 3 グラフ内のさまざまなコンポーネントの色の変更、グラフの下部にあるラベルの向きの修正、またはグラフの 3D での表示を行うには、[表示形式] タブをクリックします。

- 棒グラフの場合、**[棒のパラメータ]** タブをクリックして、それぞれの棒について値を表示するかどうかを指定します。棒の幅を変更することもできます。棒ごとの値を表示する場合、表示されるデータや、棒に対して表示される位置を変更できます。

線グラフの場合、**[線のパラメータ]** タブをクリックして、枠線の表示の有無、および X 軸での日付の表示に使用する形式を指定します。



# 第 45 章

---

## プロジェクト・ドキュメントの作成

Quality Center のドキュメント・ジェネレータを使用して、プロジェクトの要件、計画、テスト・リスト、テスト・セット・フォルダ、および不具合追跡に関するデータを含む Microsoft Word ドキュメントを作成することができます。

---

### 注：

- ▶ ドキュメント・ジェネレータは Microsoft Word でマクロの実行が有効になっている場合のみ実行できます。ドキュメント・ジェネレータの使用中にセキュリティに関するメッセージを受け取った場合は、Microsoft Word のセキュリティ・レベルを中または低に設定する必要があります。この設定は、Word のメニュー・バーで、[ツール] > [マクロ] > [セキュリティ] を選択して行います。[セキュリティ レベル] タブで、保護レベルを選択し ([中] または [低])、[OK] をクリックします。
- ▶ サポートされている Microsoft Word のバージョンを確認するには、『HP Quality Center インストール・ガイド』を参照してください。

---

### 本章の内容

- ▶ ドキュメント・ジェネレータの使用について (670 ページ)
- ▶ ドキュメント・ジェネレータの起動 (672 ページ)
- ▶ 書式の設定 (673 ページ)
- ▶ プロジェクト・データの指定 (679 ページ)
- ▶ プロジェクト・ドキュメントの生成 (705 ページ)

## ドキュメント・ジェネレータの使用について

ドキュメント・ジェネレータを使用して、Quality Center プロジェクトに含まれているデータのハード・コピーを作成できます。ドキュメントを作成するには、次の作業を行います。

- 1 ドキュメントの書式の設定
- 2 ドキュメントの内容の指定
- 3 ドキュメントの生成と編集

まず、プロジェクト・ドキュメントの体裁を決めるために、書式を設定します。たとえば、ドキュメントの各ページに会社のロゴを含めたり、目次や索引の作成、ドキュメント本文へのテスト・スクリプトや添付ファイルの配置などを行うことができます。

次に、ドキュメントに含めるプロジェクト・データを指定します。Quality Center の各モジュールから情報を選択します。たとえば、テスト計画モジュールでは、テスト計画ツリーからドキュメントに含めるフォルダとテストを選択し、アルファベット順や独自の順序でこのデータを並べ替え、リスト形式や表形式でデータの表示を行います。

書式を設定し、ドキュメントの内容を指定したら、その設定を今後使用してドキュメントを生成するためのお気に入りビューとして保存できます。ドキュメントの生成が完了したら、Microsoft Word でドキュメントの表示と編集を行います。各タブで選択した情報は、プロジェクト・ドキュメントの別々のセクションに印刷されます。

次の例は、ドキュメント・ジェネレータで生成した Microsoft Word によるプロジェクト・ドキュメントのサンプル・ページです。

	HP Software	
--	-------------	--

Chapter 1. 不具合の追跡

**1.1. Defect ID: 1**

Status: Closed  
Assigned To: alex\_qc  
Project: Mercury Tours Web Site  
Subject: Flight Finder  
Summary: The list of flights is given even when past date set as departing date  
Reproducible: Y  
Severity: 3-High  
Priority: 3-High  
Detected By: alice\_qc  
Detected on Date: 2005/09/01  
Estimated Fix Time: 5  
Detected in Cycle : Cycle 1 - New Features  
Detected in Release : Release 10.5  
Description: Test Set: Mercury Tours Functionality  
Test: [1]Departing Date  
Run: Run\_9-2\_10-26-57  
Step: Step 1: Past Departing Date

Description:  
1. Select the One Way option.  
2. For the departing flight, select any past date. Check each of the following possibilities:  
- Previous month, any date selected.  
- Past date, current month selected.  
3. Click the Continue button.

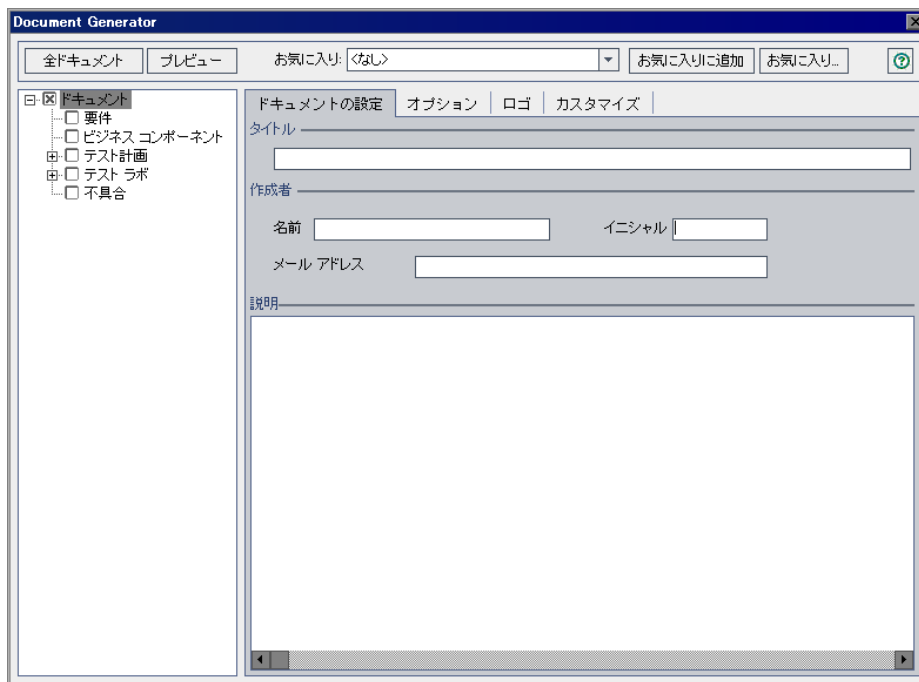
Expected Result:  
The list of flights should not be given.  
You should be requested to insert valid departing date.

Actual Result:  
The list of flights is given even when past date or today's date set as departing date.  
Browser: Internet Explorer 5.01 SP2  
Language: English  
Regression: N  
Category: Defect

	3	2009/01/20
--	---	------------

## ドキュメント・ジェネレータの起動

ドキュメント・ジェネレータを起動するには、Quality Center ウィンドウの左上にある [ツール] ボタンをクリックします。[ドキュメント ジェネレータ] を選択します。ドキュメント・ジェネレータが起動します。



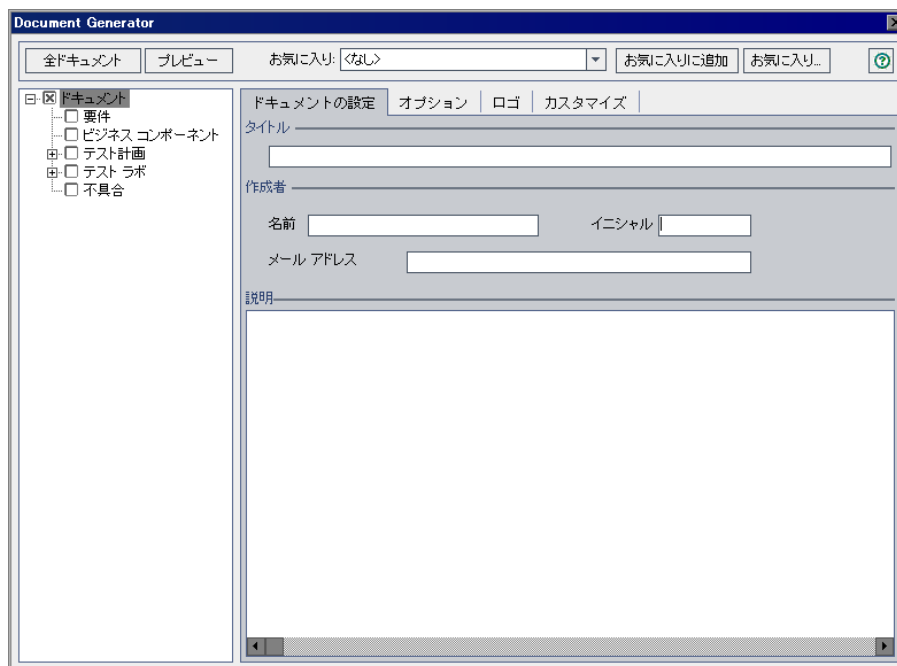


## 書式の設定

ドキュメントを生成する前に、ドキュメントの体裁と、表紙ページに載せる内容を決める書式を設定します。

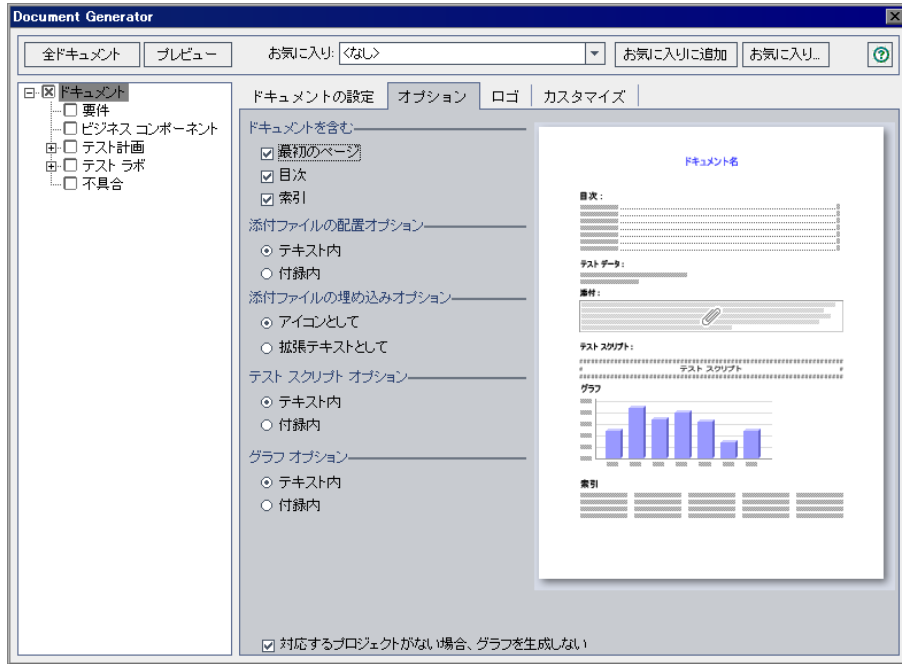
書式を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント・ジェネレータを起動します。標準設定では、ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで「**ドキュメント**」リンクが選択され、「ドキュメントの設定」タブが表示されます。



- 2 「**タイトル**」, 「**作成者**」, 「**説明**」 にドキュメントの情報を入力します。

3 [オプション] タブをクリックします。



4 [ドキュメントを含む] で、次のオプションからプロジェクト・ドキュメントに含めるものを選択します。

オプション	説明
最初のページ	プロジェクト・ドキュメントの表紙ページ。ドキュメントのタイトル、ドキュメントの作成日付、ドキュメントの作成者名が出力されます。この情報は、[ドキュメントの設定] タブで指定します。
目次	プロジェクト・ドキュメントのすべてのセクションのリスト。
索引	プロジェクト・ドキュメントのすべての情報をアルファベット順に並べたリスト。索引はドキュメントの最後に付きます。

- 5 [添付オプション] で、添付ファイルをドキュメント内のどこに含めるかを選択します。

オプション	説明
テキスト内	添付ファイルをドキュメントの本文の中に表示します。
付録内	添付ファイルを独立した付録に入れます。

- 6 [添付ファイルの埋め込みオプション] で、添付ファイルのデータをリンク・アイコンまたは埋め込みテキストのいずれの形式でプロジェクト・ドキュメントに含めるかを選択します。

オプション	説明
アイコンとして	添付ファイルへのリンクをアイコンとしてドキュメントに挿入します。
拡張テキストとして	添付ファイルを拡張テキストとしてドキュメントに追加します。

- 7 [テストスクリプトオプション] で、テスト・スクリプトをドキュメント内のどこに含めるかを選択します。

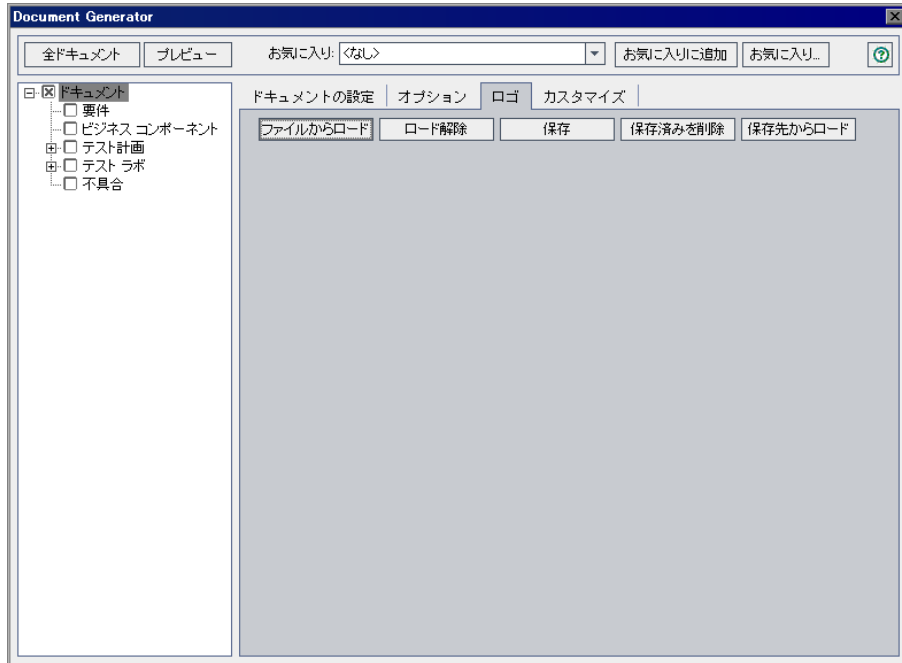
オプション	説明
テキスト内	テスト・スクリプトをドキュメントの本文の中に表示します。
付録内	テスト・スクリプトを独立した付録に入れます。

- 8 [グラフオプション] で、グラフをドキュメント内のどこに含めるかを選択します。

オプション	説明
テキスト内	グラフをドキュメントの本文の中に表示します。
付録内	グラフを独立した付録に入れます。

- 9 プロジェクト・ドキュメントに空のデータ・フィールドを含めるには、[対応するプロジェクトがない場合、グラフを生成しない] チェック・ボックスをクリアします。

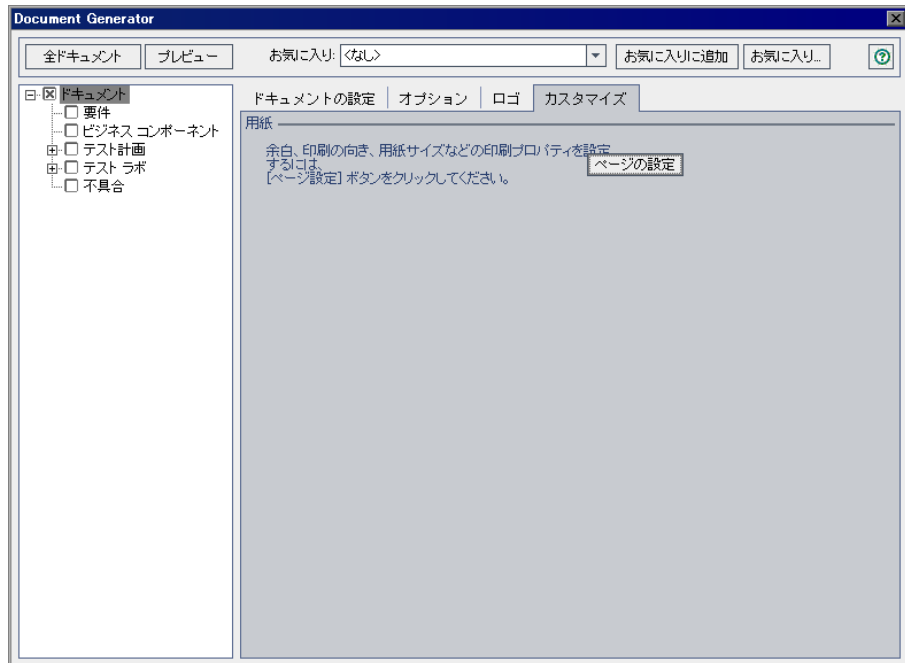
- 10 プロジェクト・ドキュメントの各ページの上部に配置する画像を設定するには、**[ロゴ]** タブをクリックします。



プロジェクト・ドキュメントのロゴを定義し、現在のプロジェクトに属する他のユーザも使用できるように、その画像を保存できます。画像を選択しない場合は、HP のロゴが各ページに表示されます。

- 11 **[ファイルからロード]** ボタンをクリックします。**[ファイルを開く]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 12 画像ファイルを指定し、**[開く]** をクリックします。画像が **[ロゴ]** タブに表示されます。画像をアンロードするには、**[ロード解除]** をクリックします。
- 13 現在のプロジェクトで表示されている画像を保存するには、**[上書き保存]** ボタンをクリックします。画像を削除するには、**[保存済み削除]** ボタンをクリックします。
- 14 (**[ロード解除]** ボタンを使用して) クリアされた保存画像を読み込むには、**[保存先からロード]** ボタンをクリックします。

- 15 用紙のプロパティを設定するには、[カスタマイズ] タブをクリックして [ページの設定] ボタンをクリックします。



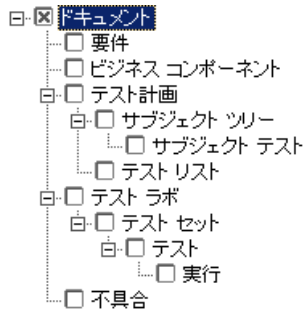
[ページの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 16 プロジェクト・ドキュメントに使用する測定の単位，余白，印刷の向き，および用紙サイズを設定します。[OK] をクリックして，[カスタマイズ] タブに戻ります。

## プロジェクト・データの指定

プロジェクト・ドキュメントに含めるプロジェクト・データを指定するには、ドキュメント・ジェネレータ・ツリーのチェック・ボックスを選択します。



チェック・ボックス	説明
ドキュメント	書式を設定するための、[ドキュメントの設定]、[オプション]、および [ロゴ] の各タブが表示されます。詳細については、673 ページ「書式の設定」を参照してください。このオプションは必ず選択されています。
要件	要件モジュールからドキュメントに含める要件、追跡済み要件、テスト・カバレッジ、リンクされている不具合を指定します。詳細については、681 ページ「要件モジュールのデータの指定」を参照してください。
ビジネス・コンポーネント	HP Business Process Testing を使用する場合は、『 <b>HP Business Process Testing User Guide</b> 』（英語版）を参照してください。

チェック・ボックス	説明
<p><b>テスト計画</b></p>	<p>展開して、テスト計画モジュールからドキュメントに含めるテスト・サブジェクト・フォルダおよびテストを指定します。詳細については、684 ページ「テスト計画ツリー・ビューのテスト計画モジュール・データの指定」および 689 ページ「テスト・グリッド・ビューのテスト計画モジュール・データの指定」を参照してください。</p> <p>テスト計画モジュールからドキュメントに含めるテスト・サブジェクト・フォルダを指定するには、[<b>サブジェクト ツリー</b>] を選択します。</p> <p>選択したフォルダからドキュメントに含めるテストを指定するには、[<b>サブジェクト テスト</b>] を選択します。</p> <p>テスト・グリッドからドキュメントに含めるテストを指定するには、[<b>テスト リスト</b>] を選択します。</p>
<p><b>テスト・ラボ</b></p>	<p>テスト・ラボ・モジュールからドキュメントに含めるテスト・セット・フォルダを指定します。展開して、ドキュメントに含めるテスト・セット、テスト、およびテスト実行を選択します。詳細については、693 ページ「テスト・ラボ・モジュールのデータの指定」を参照してください。</p> <p>ドキュメントに含めるテスト・セットを指定するには、[<b>テスト セット</b>] を選択します。</p> <p>選択したテスト・セットからドキュメントに含めるテストを指定するには、[<b>テスト</b>] を選択します。</p> <p>テスト・セットで選択したテストからドキュメントに含めるテスト実行を指定するには、[<b>実行</b>] を選択します。</p>
<p><b>不具合</b></p>	<p>[不具合] モジュールからドキュメントに含める不具合を指定します。詳細については、702 ページ「不具合モジュールのデータの指定」を参照してください。</p>



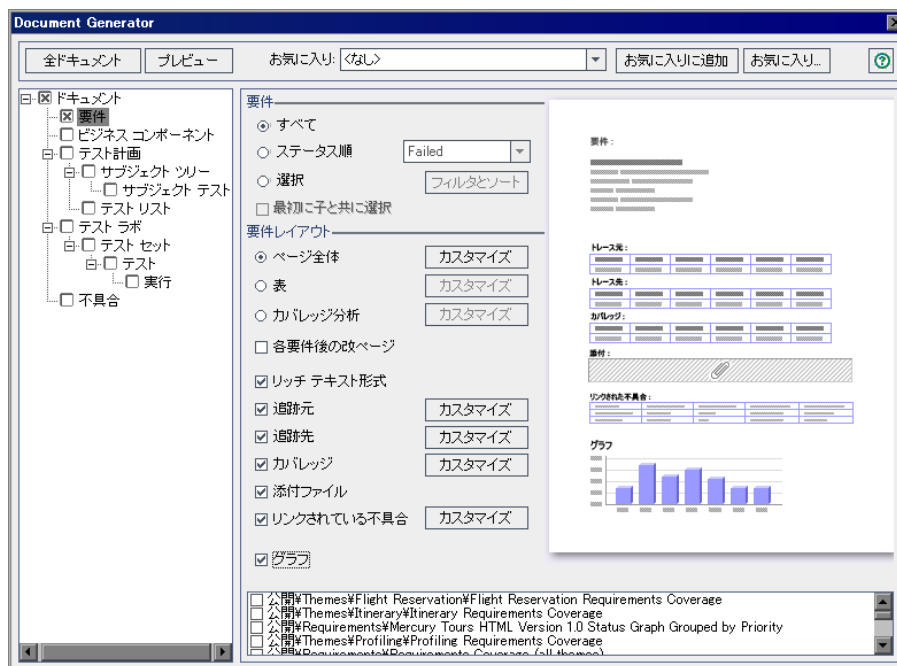
## 要件モジュールのデータの指定

プロジェクト・ドキュメントの「要件」のセクションに含める要件モジュールの要件情報を指定するには、[要件] ページを使用します。

**注：** Microsoft Word の目次では、ヘッダは 9 階層までに制限されています。要件ツリーの階層レベルが 9 階層を超える場合、生成されたプロジェクト・ドキュメントの目次に 10 階層目以下は表示されません。

要件モジュールのデータを指定するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで [要件] チェック・ボックスを選択し、[要件] リンクをクリックします。要件ページが表示されます。



2 [要件] セクションの中で、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
すべて	要件ツリーのすべての要件を含めます。
ステータス順	選択したステータスの要件だけを含めます。
選択	<p>選択した要件だけを含めます。子要件を含めるには、[最初に子と共に選択] をクリックします。</p> <p>要件の選択条件を指定するには、[フィルタとソート] ボタンをクリックします。[フィルタ] ダイアログ・ボックスの使い方については、第 3 章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。</p>

3 [要件のレイアウト] で、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
ページ全体	選択した要件のリストを出力します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。
表	要件が表形式で表示されます。表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。
カバレッジ・アナリシス	各要件の直接カバレッジ・ステータスの視覚的なブレイクダウンを表示します。[カバレッジアナリシス] ダイアログ・ボックスを開き、アナリシスをカラーと白黒のどちらで表示するか、表示する階層レベルの数、および凡例の表示の有無を選択するには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。

- 4 [要件のレイアウト] で [ページ全体] を選択した場合は、次のオプションを設定できます。

オプション	説明
各要件後の改ページ	プロジェクト・ドキュメントで各要件の後に改ページを挿入します。
リッチ・テキスト	各要件の Microsoft Word コンテンツを含めます。
トレース開始	トレース開始要件をドキュメントに含めます。トレーサビリティ・テーブルをカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。
トレース終了	トレース終了要件をドキュメントに含めます。トレーサビリティ・テーブルをカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。
カバレッジ	要件のテスト・カバレッジをドキュメントに含めます。カバレッジ・テーブルをカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。
添付ファイル	要件の添付ファイルをドキュメントに含めます。要件の添付ファイルとは、テキスト・ファイル、画像、URL など、要件に関連付けられたファイルのことです。
リンクされている不具合	リンクされている不具合をドキュメントに含めます。リンクされている不具合の表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。要件に直接リンクされている不具合のみを表示するか、間接的にリンクされている不具合も含めて表示するかを指定することもできます。

- 5 プロジェクト・ドキュメントにグラフを含めるには、[**グラフ**] を選択し、ページの下部にあるグラフ・リストからグラフを選択します。リストには、お気に入りとして保存したグラフだけが保存されます。お気に入りビューの詳細については、第 6 章「お気に入りビューを使用した作業」を参照してください。

### **テスト計画ツリー・ビューのテスト計画モジュール・データの指定**

サブジェクト・ツリー・ページおよびサブジェクト・テスト・ページを使用して、Quality Center ドキュメントの「サブジェクト・ツリー」のセクションに含める、テスト計画モジュールのテスト計画情報を指定します。

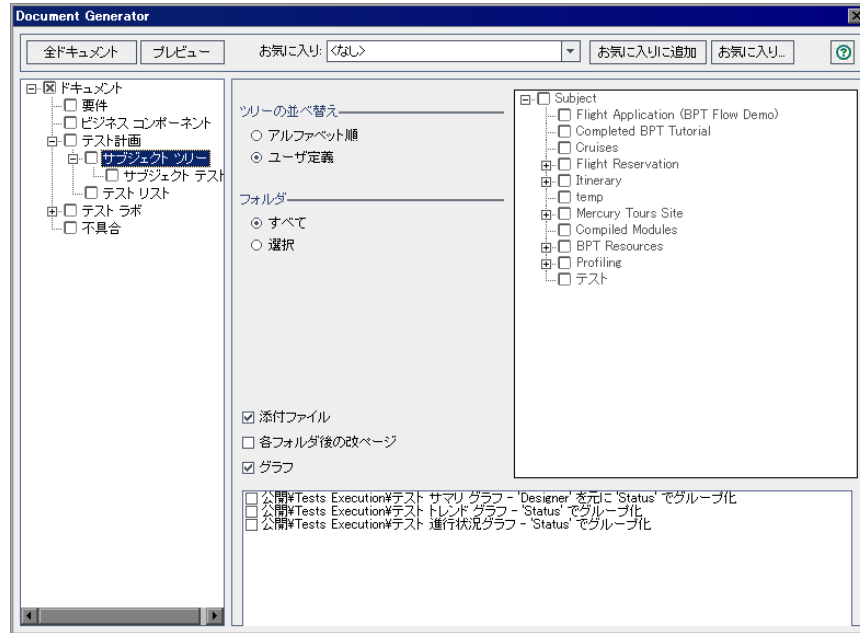
---

**注：**Microsoft Word の目次では、ヘッダは 9 階層までに制限されています。テスト計画ツリーの階層レベルが 9 階層を超える場合、生成されたプロジェクト・ドキュメントの目次に 10 階層目以下は表示されません。

---

テスト計画ツリー・ビューのテスト計画モジュール・データを指定するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで **[テスト計画]** ノードを展開します。**[サブジェクト ツリー]** チェック・ボックスを選択し、**[サブジェクト ツリー]** リンクをクリックします。**[件名ツリー]** ページが表示されます。



- 2 **[ツリーの並べ替え]** で、ドキュメントにおけるテスト計画ツリー情報の順序を決定します。

オプション	説明
アルファベット順	テスト計画ツリーのフォルダのアルファベット順にフォルダの内容が整理されます。たとえば、テスト計画ツリーに、Automated Tests と Manual Tests という 2 つのフォルダがあるとします。この場合、Automated Tests フォルダ内のテストが、Manual Tests フォルダ内のテストより先に出力されます。

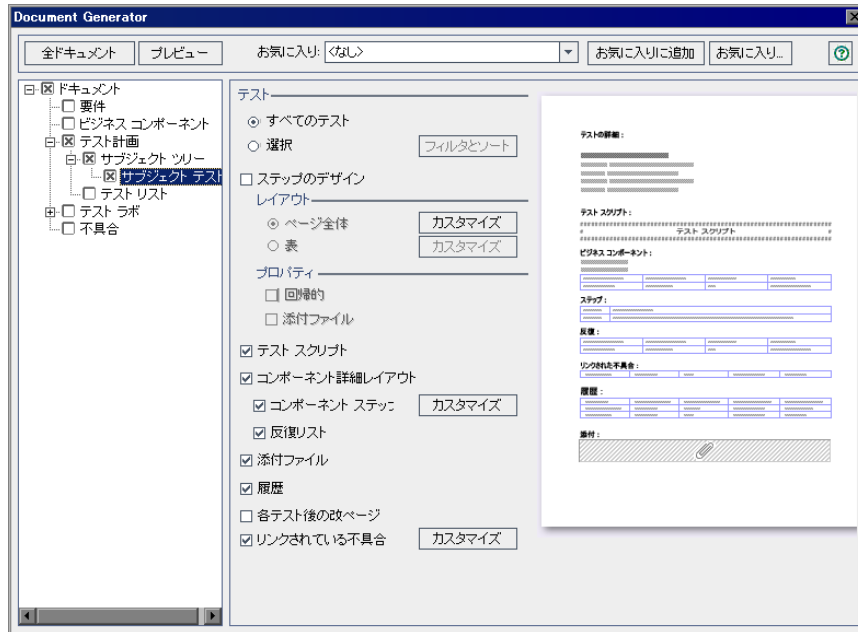
オプション	説明
<b>カスタム</b>	テスト計画ツリーのフォルダの出力用にカスタマイズした並べ替え順序にフォルダの内容が整理されます。標準設定では、テスト計画ツリーのサブジェクト・フォルダは、フォルダ名のアルファベット順に出力されます。たとえば、テスト計画ツリーに、Automated Tests と Manual Tests という 2 つのフォルダがあるとします。この場合、Automated Tests フォルダのテストより先に Manual Tests フォルダのテストを出力するように並べ替え順序を作成できます。テスト計画ツリーに対するユーザ定義の並べ替え順の作成については、第 18 章「テスト計画ツリーの開発」を参照してください。

- 3 **[フォルダ]** で、ドキュメントに含めるテスト計画ツリーのフォルダを選択します。

オプション	説明
<b>すべて</b>	テスト計画ツリーのすべてのフォルダを含めます。
<b>選択</b>	テスト計画ツリーで選択したフォルダだけを含めます。[サブジェクト ツリー] ページの右側に表示されるテスト計画ツリーで、フォルダを選択します。

- 4 フォルダの添付ファイルをドキュメントに含めるには、**[添付ファイル]** を選択します。フォルダの添付ファイルとは、テキスト・ファイル、画像、URL など、フォルダに関連付けられたファイルのことです。
- 5 プロジェクト・ドキュメント内の各テスト・サブジェクト・フォルダの後に改ページを挿入するには、**[各フォルダ後の改ページ]** を選択します。
- 6 ドキュメントにグラフを含めるには、**[グラフ]** を選択し、リストからグラフを選択します。リストには、お気に入りとして保存したグラフだけが保存されます。お気に入りビューの詳細については、第 6 章「お気に入りビューを使用した作業」を参照してください。

- 7 プロジェクト・ドキュメントにテスト・データを含めるには、ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで [サブジェクト ツリー] ノードを展開します。[サブジェクト テスト] チェック・ボックスを選択し、[サブジェクト テスト] リンクをクリックします。[サブジェクト テスト] ページが表示されます。



- 8 [テスト] で、ドキュメントに含めるテストを指定します。

オプション	説明
すべてのテスト	選択したテスト計画ツリー・フォルダのすべてのテストを含めます。
選択	選択したテストだけを含めます。テストの選択条件を指定するには、[フィルタとソート] ボタンをクリックします。[フィルタ] ダイアログ・ボックスの使い方については、第 3 章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。

- 9 テストのデザイン・ステップを含めるには、[ステップのデザイン] を選択します。

[**レイアウト**] で、デザイン・ステップの編成方法を指定します。

オプション	説明
ページ全体	テストのすべてのデザイン・ステップをリスト形式で出力します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、[ <b>カスタマイズ</b> ] ボタンをクリックします。
表	テストのすべてのデザイン・ステップを表形式で出力します。表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[ <b>カスタマイズ</b> ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。

[**プロパティ**] で、デザイン・ステップからドキュメントに含める項目を指定します。

オプション	説明
回帰的	デザイン・ステップの呼び出し先のテストを含めます。
添付ファイル	すべてのデザイン・ステップの添付ファイルを含めます。

- 10 テスト・スクリプトをドキュメントに含めるには、[**テスト スクリプト**] を選択します。
- 11 Business Process Testing を使用する場合は、テストに含まれるコンポーネントのレイアウトも含めることができます。[**コンポーネント詳細レイアウト**] を選択し、詳細レイアウトに含める項目を次から選択します。
  - ▶ コンポーネント・ステップを含めるには、[**コンポーネント ステップ**] を選択します。コンポーネント・ステップの表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[**カスタマイズ**] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。
  - ▶ 反復リストを含めるには、[**反復リスト**] を選択します。
- 12 テストの添付ファイルをドキュメントに含めるには、[**添付ファイル**] を選択します。



- 13 テストに加えられたすべての変更、および変更したユーザのリストを表示するには、**[履歴]** を選択します。
- 14 プロジェクト・ドキュメントで各テストの後に改ページを挿入するには、**[各テスト後の改ページ]** を選択します。
- 15 リンクされている不具合の表を含めるには、**[リンクされている不具合]** を選択します。リンクされている不具合の表をカスタマイズするための **[表のレイアウト]** ダイアログ・ボックスを開くには、**[カスタマイズ]** ボタンをクリックします。**[表のレイアウト]** ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。テストに直接リンクされている不具合のみを表示するか、間接的にリンクされている不具合も含めて表示するかを指定することもできます。

### テスト・グリッド・ビューのテスト計画モジュール・データの指定

プロジェクト・ドキュメントに含めるテスト・グリッドのテストを指定するには、**[テストリスト]** ページを使用します。テスト・グリッドの詳細については、第3章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。

テスト・グリッド・ビューからテスト計画モジュール・データを指定するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで [テスト計画] ノードを展開します。[テスト リスト] チェック・ボックスを選択し、[テスト リスト] リンクをクリックします。[テスト リスト] ページが表示されます。



- 2 [テスト] で、ドキュメントに含めるテストを指定します。

オプション	説明
すべてのテスト	テスト・グリッドのすべてのテストを含めます。
選択	選択したテストだけを含めます。テストの選択条件を指定するには、[フィルタとソート] ボタンをクリックします。 [フィルタ] ダイアログ・ボックスの使い方については、第 3 章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。

3 [テストレイアウト] で、テストを整理する方法を指定します。

オプション	説明
ページ全体	プロジェクトのすべてのテストをリスト形式で出力します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。
表	すべてのテストを表形式で出力します。表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。

4 プロジェクト・ドキュメントで各テストの後に改ページを挿入するには、[各テスト後の改ページ] を選択します。

5 [テストレイアウト] の [ページ全体] を選択した場合、テストのデザイン・ステップを含めるには、[ステップのデザイン] チェック・ボックスを選択します。

[レイアウト] で、デザイン・ステップの編成方法を指定します。

オプション	説明
ページ全体	テストのすべてのデザイン・ステップをリスト形式で出力します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。
表	テストのすべてのデザイン・ステップを表形式で出力します。表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。

[プロパティ] で、デザイン・ステップからドキュメントに含める項目を指定します。

オプション	説明
回帰的	デザイン・ステップの呼び出し先のテストを含めます。
添付ファイル	すべてのデザイン・ステップの添付ファイルを含めます。

- 6 [テスト レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合は、次のオプションを設定できます。

オプション	説明
テスト・スクリプト	テスト・スクリプトをドキュメントの本文の中に含めます。
コンポーネントの詳細レイアウト	<p>HP Business Process Testing を使用する場合は、テストに含まれるコンポーネントの詳細なレイアウトも含めることができます。詳細レイアウトに含める項目を次から選択します。</p> <p><b>[コンポーネント ステップ]</b>：コンポーネント・ステップを含めます。コンポーネント・ステップの表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、<b>[カスタマイズ]</b> ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。</p> <p><b>[反復リスト]</b>：反復リストを含めます。</p>
添付ファイル	テスト実行の添付ファイルをドキュメントに含めます。
リンクされている不具合	<p>リンクされている不具合の表を含めます。リンクされている不具合の表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、<b>[カスタマイズ]</b> ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。テストに直接リンクされている不具合のみを表示するか、間接的にリンクされている不具合も含めて表示するかを指定することもできます。</p>
履歴	テストに加えられたすべての変更とその変更者のリストを出力します。

- 7 ドキュメントにグラフを含めるには、[**グラフ**]を選択し、ページの下部にあるグラフ・リストからグラフを選択します。リストには、お気に入りとして保存したグラフだけが保存されます。お気に入りビューの詳細については、第6章「お気に入りビューを使用した作業」を参照してください。

### テスト・ラボ・モジュールのデータの指定

[テストラボ]、[テストセット]、[テスト]、[実行]の各ページを使用して、プロジェクト・ドキュメントに含める、テスト・ラボ・モジュールの情報を指定します。

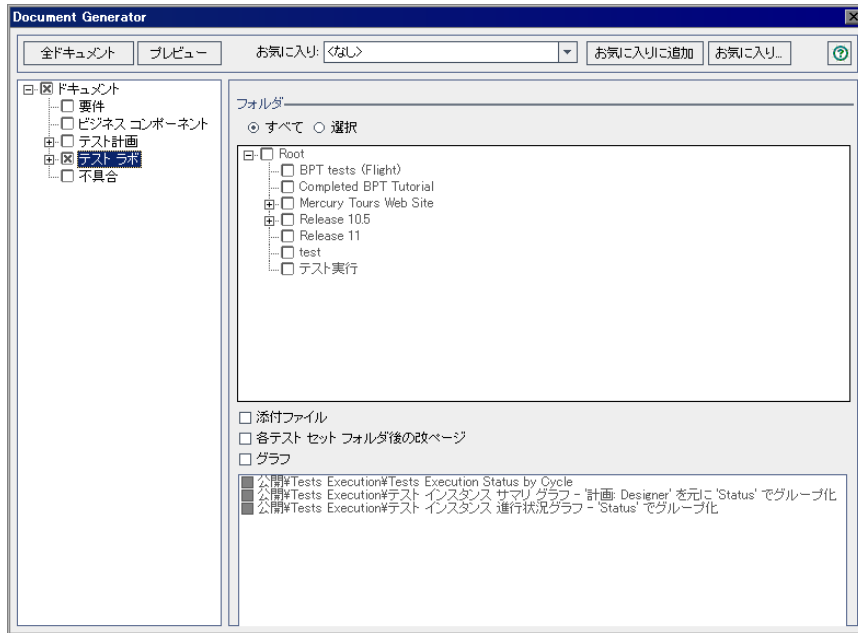
---

**注：**Microsoft Word の目次では、ヘッダは9階層までに制限されています。テスト・セット・ツリーの階層レベルが9階層を超える場合、生成されたプロジェクト・ドキュメントの目次に10階層目以下は表示されません。

---

テスト・ラボ・モジュールのデータを指定するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで **[テスト ラボ]** チェック・ボックスを選択し、**[テスト ラボ]** リンクをクリックします。**[テスト ラボ]** ページが開きます。

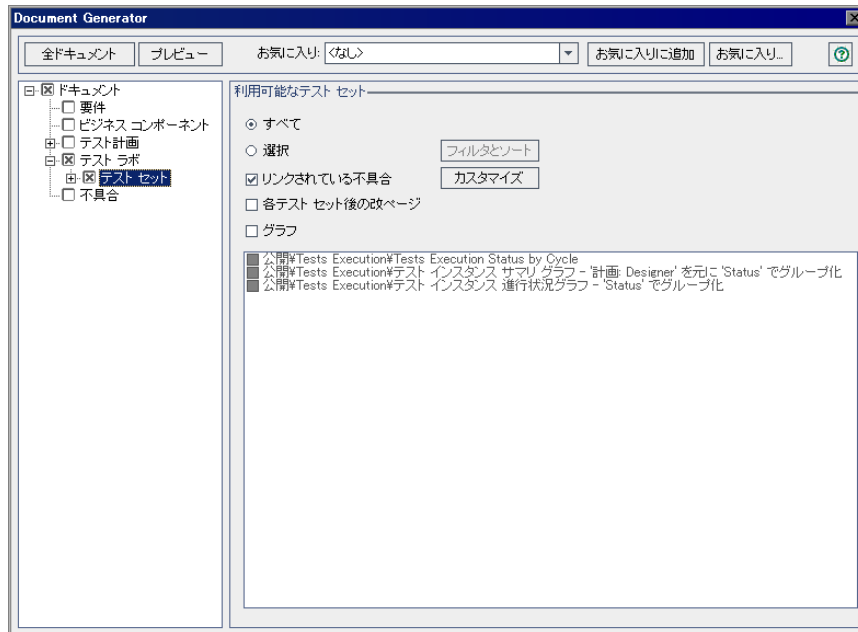


- 2 **[フォルダ]** で、ドキュメントに含めるテスト・ラボ・フォルダを選択します。

オプション	説明
すべて	テスト・セット・ツリー内のすべてのフォルダを含めます。
選択	テスト・セット・ツリーから選択したフォルダのみを含めます。 <b>[フォルダ]</b> の下に表示されているテスト・セット・ツリーからフォルダを選択します。

- 3 テスト・セットの添付ファイルを含めるには、**[添付ファイル]** を選択します。
- 4 プロジェクト・ドキュメントで各テスト・セット・フォルダの後に改ページを挿入するには、**[各テスト セット フォルダ後の改ページ]** を選択します。

- 5 ドキュメントにグラフを含めるには、[**グラフ**] を選択し、ページの下部にあるグラフ・リストからグラフを選択します。リストには、お気に入りとして保存したグラフだけが保存されます。お気に入りビューの詳細については、第6章「お気に入りビューを使用した作業」を参照してください。
- 6 ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで [テストラボ] ノードを展開します。プロジェクト・ドキュメントにテスト・セット・データを含めるには、[**テストセット**] チェック・ボックスを選択し、ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで [テストセット] リンクをクリックします。[テストセット] ページが表示されます。



- 7 **[利用可能なテスト セット]** で、ドキュメントに含めるテスト・セットを指定します。

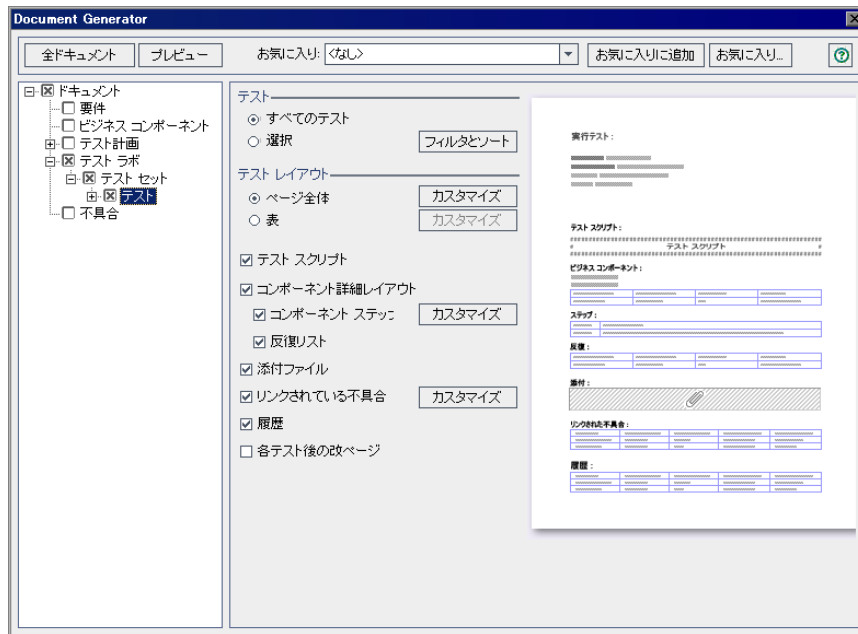
オプション	説明
<b>すべて</b>	選択したテスト・セット・フォルダ内のすべてのテスト・セットを含めます。
<b>選択</b>	選択したテストだけを含めます。テストの選択条件を指定するには、 <b>[フィルタとソート]</b> ボタンをクリックします。 [フィルタ] ダイアログ・ボックスの使い方については、第 3 章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。

- 8 リンクされている不具合を含めるには、**[リンクされている不具合]** を選択します。リンクされている不具合をカスタマイズするには、**[カスタマイズ]** ボタンをクリックします。**[表のレイアウト]** ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。テスト・セットに直接リンクされている不具合のみを表示するか、間接的にリンクされている不具合も含めて表示するかを指定することもできます。
- 9 プロジェクト・ドキュメントで各テスト・セットの後に改ページを挿入するには、**[各テスト セット後の改ページ]** を選択します。
- 10 ドキュメントにグラフを含めるには、**[グラフ]** を選択し、リストからグラフを選択します。リストには、お気に入りとして保存したグラフだけが保存されます。お気に入りビューの詳細については、第 6 章「お気に入りビューを使用した作業」を参照してください。



## 11 ドキュメント・ジェネレータ・ツリーの [テストセット] を展開します。

プロジェクト・ドキュメントにテスト・データを含めるには、[テスト] チェック・ボックスを選択し、[テスト] リンクをクリックします。[テスト] ページが表示されます。



## 12 [テスト] で、ドキュメントに含めるテストを指定します。

オプション	説明
すべてのテスト	選択したテスト・セットにあるすべてのテストを含めます。
選択	選択したテストだけを含めます。テストの選択条件を指定するには、[フィルタとソート] ボタンをクリックします。 [フィルタ] ダイアログ・ボックスの使い方については、第 3 章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。

13 [テスト レイアウト] で、テストを整理する方法を指定します。

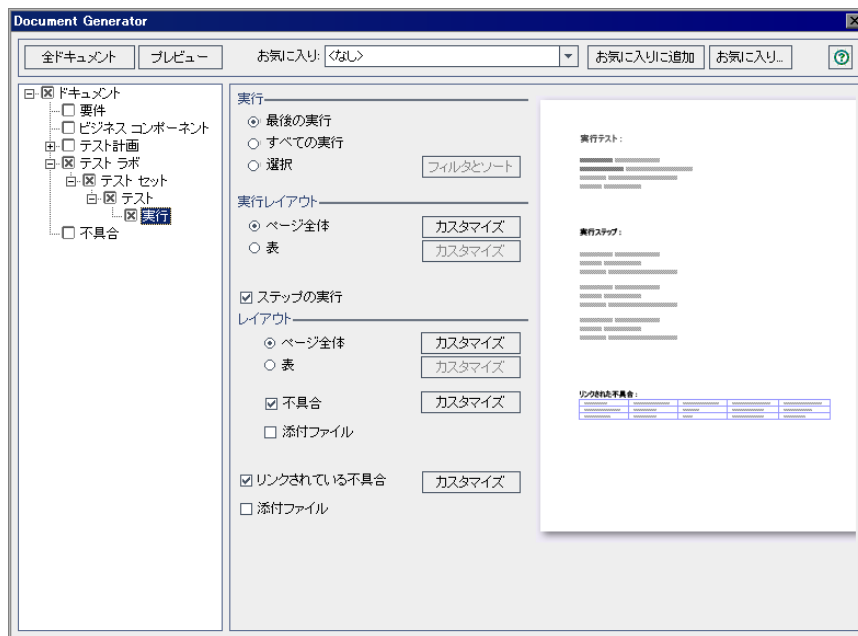
オプション	説明
ページ全体	テスト情報をリスト形式で出力します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。
表	<p>テスト情報を表形式で出力します。表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。</p> <p><b>注：</b>[表] を選択した場合、ドキュメントにテスト実行を含めることはできません。</p>

14 [テスト レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合は、次のオプションを設定できます。

オプション	説明
テスト・スクリプト	テスト・スクリプトをドキュメントの本文の中に含めます。
コンポーネントの詳細レイアウト	<p>HP Business Process Testing を使用する場合は、テストに含まれるコンポーネントの詳細なレイアウトも含めることができます。詳細レイアウトに含める項目を次から選択します。</p> <p>[コンポーネント ステップ]：コンポーネント・ステップを含めます。コンポーネント・ステップの表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。</p> <p>[反復リスト]：反復リストを含めます。</p>
添付ファイル	テスト実行の添付ファイルをドキュメントに含めます。

オプション	説明
リンクされている不具合	リンクされている不具合を表形式で含めます。リンクされている不具合の表をカスタマイズするには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。テストに直接リンクされている不具合のみを表示するか、間接的にリンクされている不具合も含めて表示するかを指定することもできます。
履歴	テストに加えられたすべての変更とその変更者のリストを出力します。
各テスト後の改ページ	プロジェクト・ドキュメントで各テストの後に改ページを挿入します。

- 15 プロジェクト・ドキュメントにテスト実行データを含めるには、ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで [テスト] を展開します。[実行] チェック・ボックスを選択し、[実行] リンクをクリックします。[実行] ページが表示されます。



16 **〔実行〕** で、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
<b>最後の実行</b>	テストの最後の実行だけを含めます。
<b>すべての実行</b>	テストのすべての実行を含めます。
<b>選択</b>	選択した実行だけをドキュメントに含めます。テストの選択条件を指定するには、 <b>〔フィルタとソート〕</b> ボタンをクリックします。 <b>〔フィルタ〕</b> ダイアログ・ボックスの使い方については、第 3 章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。

17 **〔実行レイアウト〕** で、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
<b>ページ全体</b>	すべてのテスト実行をリスト形式で表示します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、 <b>〔カスタマイズ〕</b> ボタンをクリックします。
<b>表</b>	すべてのテスト実行を表形式で出力します。表をカスタマイズするための <b>〔表のレイアウト〕</b> ダイアログ・ボックスを開くには、 <b>〔カスタマイズ〕</b> ボタンをクリックします。 <b>〔表のレイアウト〕</b> ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。

- 18 [テストのレイアウト] の [**ページ全体**] を選択した場合、ドキュメントに実行ステップのリストを含めるには、[**ステップの実行**] を選択します。

ドキュメントに実行ステップを含める場合、[**レイアウト**] で次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
<b>ページ全体</b>	実行のすべてのステップをリスト形式で出力します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、[ <b>カスタマイズ</b> ] ボタンをクリックします。
<b>表</b>	実行のすべてのステップを表形式で出力します。表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[ <b>カスタマイズ</b> ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。

[**不具合**] を選択して、実行ステップにリンクされている不具合の表を含めることができます。リンクされている不具合の表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[**カスタマイズ**] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。実行ステップに直接リンクされている不具合のみを表示するか、間接的にリンクされている不具合も含めて表示するかを指定することもできます。

ドキュメントに実行ステップを含める場合、ドキュメントに実行ステップの添付ファイルを含めるには、[**添付ファイル**] を選択します。

- 19 [実行レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合は、次のオプションを設定できます。

オプション	説明
リンクされている不具合	テスト実行にリンクされている不具合の表を含めます。リンクされている不具合の表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。テスト実行に直接リンクされている不具合のみを表示するか、間接的にリンクされている不具合も含めて表示するかを指定することもできます。
添付ファイル	テスト実行の添付ファイルをドキュメントに含めます。

### 不具合モジュールのデータの指定

[不具合] ページを使用して、プロジェクト・ドキュメントの「不具合の追跡」のセクションに含める、不具合モジュールの不具合情報を指定します。

不具合モジュールのデータを指定するには、次の手順を実行します。

- 1 プロジェクト・ドキュメントに不具合データを含めるには、[不具合] チェック・ボックスを選択し、ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで [不具合] リンクをクリックします。[不具合] ページが表示されます。



- 2 [不具合] で、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
すべての不具合	不具合のグリッドのすべての不具合を含めます。
選択	選択した不具合だけを含めます。不具合の選択条件を指定するには、[フィルタとソート] ボタンをクリックします。 [フィルタ] ダイアログ・ボックスの使い方については、第3章「Quality Center データを使った作業」を参照してください。

3 [不具合レイアウト] で、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
ページ全体	選択したすべての不具合をリスト形式で出力します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。
表	選択したすべての不具合を表形式で出力します。表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。

4 [不具合レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合は、次のオプションも設定できます。

オプション	説明
添付ファイル	不具合の添付ファイルをドキュメントに含めます。
リンクされている不具合	リンクされている不具合を表形式で含めます。リンクされている不具合の表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。不具合リンクのみを出力するかどうかを指定することもできます。
リンクされているエンティティ	リンクされているエンティティを表形式で含めます。リンクされているエンティティの表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。キャプションおよびテーブル・カラムの幅を変更することもできます。
履歴	不具合に加えられたすべての変更のリストを出力します。
不具合後の改ページ	プロジェクト・ドキュメントで各不具合の後に改ページを挿入します。



- 5 ドキュメントにグラフを含めるには、[**グラフ**]を選択し、リストからグラフを選択します。リストには、お気に入りとして保存したグラフだけが保存されます。お気に入りビューの詳細については、第6章「お気に入りビューを使用した作業」を参照してください。

## プロジェクト・ドキュメントの生成

書式を設定し、プロジェクト・データを指定したら、プロジェクト・ドキュメントを生成できます。ドキュメントは、Microsoft Word ファイルとして保存されます。

---

**ヒント：**プロジェクト・ドキュメントのプレビューを生成すれば、すべての詳細を出力することなく、ドキュメントの体裁を迅速に把握できます。プロジェクト・ドキュメントのプレビューを生成するには、[**プレビュー**] ボタンをクリックします。Microsoft Word が起動し、プロジェクト・ドキュメントのプレビューが表示されます。

---

プロジェクト・ドキュメントを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメント・ジェネレータを前回実行したときのプロジェクト・ドキュメント・ファイルが開いている場合は、ファイルを閉じます。
- 2 [**全ドキュメント**] ボタンをクリックします。[名前を付けて保存] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 [**名前を付けて保存**] ボックスで、ネットワーク・ファイル・システムにおけるドキュメントの格納場所を設定します。
- 4 [**ファイル名**] ボックスに、ドキュメントの名前を入力します。
- 5 [**保存**] ボタンをクリックします。

ドキュメントの生成が開始し、ダイアログ・ボックスにドキュメント生成の進行状況が表示されます。ドキュメントの生成を中止するには、[**停止**] ボタンをクリックします。

処理が完了すると、Microsoft Word が起動し、ドキュメントが表示されます。

生成されたドキュメントに添付ファイルへのリンクが含まれると、ドキュメントと同じ場所にフォルダが生成され、このフォルダに添付ファイルがコピーされます。添付ファイルのフォルダの名前は、ドキュメントの名前にサフィックス「\_Attachments」が付いたものです。ドキュメントを誰かに送信する場合、受信者がリンクを使用して添付ファイルにアクセスできるように、ドキュメントとともに添付ファイルも送信できます。

# 第 IX 部

---

付録



# 付録 A

---

## VAPI-XP を使った作業

オープン・テスト・アーキテクチャ API テスト・ツールの VAPI-XP を使用して、テスト・スクリプトの新規作成や既存のスクリプトの編集を行い、アプリケーション管理プロセスにそれらのスクリプトを組み込むことができます。

### 本章の内容

- ▶ VAPI-XP を使用した作業について (710 ページ)
- ▶ VAPI-XP テスト・スクリプトの作成 (710 ページ)
- ▶ VAPI-XP テスト・スクリプトの編集 (720 ページ)
- ▶ VAPI-XP API の使用 (724 ページ)
- ▶ デバッグ・モードでの VAPI-XP テストの実行 (730 ページ)
- ▶ VAPI-XP テストのテスト・モードでの実行 (731 ページ)
- ▶ VAPI-XP テスト・スクリプトのデバッグ (733 ページ)

## VAPI-XP を使用した作業について

VAPI-XP テスト・ツールでは、Microsoft VBScript, Microsoft JavaScript (JScript バージョン), PerlScript, および PythonScript を使用して新規のテスト・スクリプトを作成し、そのスクリプトをアプリケーション管理プロセスに組み込むことができます。VAPI-XP テスト・スクリプトを使用することで、COM/DCOM サーバ、SOAP ベースの Web サービス、Java API (Java クラスや EJB など) およびコンソール・アプリケーションをテストできます。VAPI-XP は、LoadRunner Vuser の作成に使用することもできます。

さらに、VAPI-XP は Quality Center と完全に統合されているため、Quality Center のテストやテスト・セットを呼び出す VAPI-XP テスト・スクリプトを設計し、スクリプトの一部としてそれらのテストやテスト・セットを実行することができます。これによって、より高度なテスト・セット実行フローを構築することができ、各テストのステータスやタイプに基づいて、実行中にテスト・セット内のテストをフィルタ処理することが可能となります。

VAPI-XP は Quality Center のオープン・テスト・アーキテクチャ API とも完全に統合されています。オープン・テスト・アーキテクチャ API のすべてのクラスとメソッドを VAPI-XP ユーザ・インタフェースから参照することができるため、これらをテスト・スクリプトに簡単に組み込むことができます。

## VAPI-XP テスト・スクリプトの作成

VAPI-XP テスト・スクリプトは、テスト計画モジュールのテスト計画ツリーから作成します。



---

**注：**手動テストを VAPI-XP テストに変換することもできます。[ステップのデザイン] タブで、[スクリプトの作成] ボタンをクリックし、「VAPI-XP-TEST」を選択します。Quality Center によって、定義したステップに対応するコードを含む VAPI-XP テスト・スクリプトが作成されます。また、元の手動テストの一部であった呼び出し先のテストのコードも含まれます。手動テストの詳細については、第 20 章「テストの作成」を参照してください。

---

VAPI-XP テスト・スクリプトを作成するには、次の手順を実行します。

1 テスト計画ツリーでサブジェクト・フォルダを選択します。



2 **[テストの新規作成]** ボタンをクリックするか、**[テスト]** > **[テストの新規作成]** を選択します。**[テストの新規作成]** ダイアログ・ボックスが開きます。

3 **[テストのタイプ]** ボックスで、「**VAPI-XP-TEST**」を選択します。

テストの新規作成

テストのタイプ: VAPI-XP-TEST

テスト名:

テンプレート: <なし>

OK キャンセル ヘルプ

4 **[テスト名]** ボックスにテストの名前を入力します。テストの名前には、「¥」, 「/」, 「:」, 「"」, 「?」, 「<」, 「>」, 「|」, 「\*」, 「%」, 「'」 は使用できません。

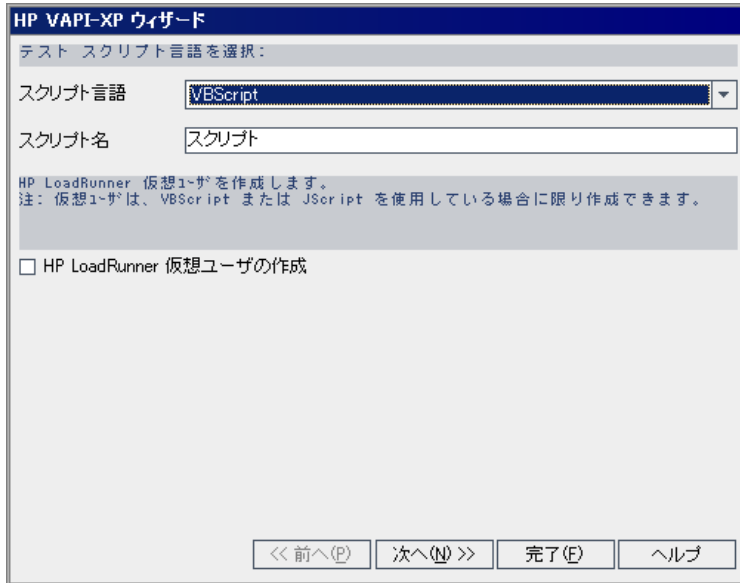
**[OK]** をクリックします。

---

**注:** [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウで必須テスト・フィールドを定義した場合は、**[Required Test Fields]** ダイアログ・ボックスが表示されます。必須フィールドの値を選択し、**[OK]** をクリックします。

---

HP VAPI-XP ウィザードが開きます。



5 **[スクリプト言語]** ボックスで、スクリプト言語を選択します。

---

**注：**

- ▶ ActiveState の ActivePython スクリプトまたは ActivePerl スクリプトを使用して VAPI-XP テスト・スクリプトを作成するには、コンピュータにそのスクリプト言語がインストールされている必要があります。[テスト スクリプト] タブの [ヘルプ] メニューから **[アクティブな Python ホーム ページ]** または **[アクティブな Perl ホーム ページ]** を選択し、指示に従ってインストールします。
- ▶ Microsoft の VBScript および JScript は通常、Internet Explorer と一緒にインストールされています。VBScript および JScript がインストールされていない場合は、[テスト スクリプト] タブの [ヘルプ] メニューから **[VBScript ホーム ページ]** または **[JScript ホーム ページ]** を選択し、画面の指示に従ってインストールします。

---

6 **[スクリプト名]** ボックスに、VAPI-XP テスト・スクリプトの名前を入力します。



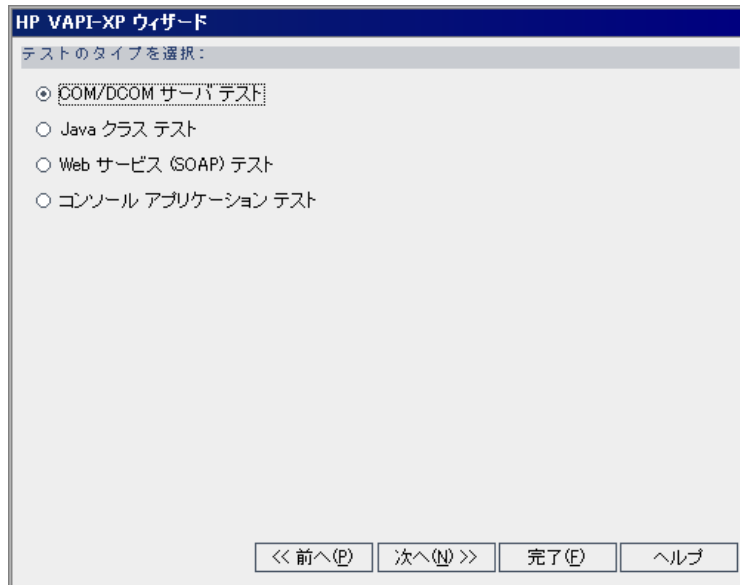
- 7 VBScript または JavaScript をテスト・スクリプト言語として選択した場合、**[Create HP LoadRunner Vuser]** を選択し、LoadRunner Controller で実行可能な LoadRunner Vuser スクリプトを作成することもできます。

---

**注：**作成した Vuser スクリプトを LoadRunner Controller で実行するには、LoadRunner のクライアント・マシンに HP Quality Center Connectivity Add-in の最新バージョンがインストールされている必要があります。このアドインは、**[HP Quality Center アドイン]** ページからインストールできます。詳細については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

---

- 8 **[次へ]** をクリックして、HP VAPI-XP ウィザードによるテスト・スクリプト作成の次の手順に進みます。次のダイアログ・ボックスが開きます。



---

**注：**各ダイアログ・ボックスで **[完了]** をクリックするとウィザードが終了し、**[テストスクリプト]** タブでテスト・スクリプトの作成を続けることができます。

---

- 9 作成するテストの種類を選択します。
- 10 [次へ] をクリックして、HP VAPI-XP ウィザードによるテスト・スクリプト作成の次の手順に進みます。
  - ▶ [COM/DCOM サーバテスト] を選択した場合は、テスト対象マシンのレジストリに登録されている、COM/DCOM オブジェクトのプログラム ID を選択し、[+] ボタンをクリックします。選択した COM/DCOM オブジェクトとその説明が下のボックスに表示されます。



- ▶ **[Java クラス テスト]** を選択した場合は、テスト対象の Java クラスの完全名を **[Java クラス名]** ボックスに入力し、**[+]** ボタンをクリックします。入力した Java クラス名が下のテキスト・ボックスに表示されます。

---

**注：** 使用できるのは、引数のない public コンストラクタを含む Java クラスのみです。

---

標準の Microsoft Java 仮想マシンを使用しない場合は **[Java 仮想マシン]** で **[その他の JVM]** を選択し、次の内容を指定します。

- ▶ **[JVM 実行時]**：Java 仮想マシン・ランタイム実行可能ファイル（通常 **java.exe**）を指定します。
- ▶ **[Java コンパイラ]**：実行プラットフォーム（通常 **javac.exe**）でバイトコードを再コンパイルする実行可能ファイルを指定します。

- ▶ **[Classpath]** : 指定した Java アプリケーションの実行に必要な、追加の（非標準の）Java ライブラリのリストを、セミコロン (;) で区切って指定します。Java クラスパスを指定しない場合、Quality Center は環境変数 **CLASSPATH** を使用します。
- ▶ **[JVM パラメータ]** : Java 仮想マシン・ランタイム実行可能ファイルのパラメータを指定します。

Microsoft の Java 仮想マシン（テスト・スクリプトのデバッグをサポートするために必要）がコンピュータにインストールされていない場合は、HP Quality Center DVD の Redist ディレクトリにある **msjavx86.exe** ファイルを実行します。

他の Java 仮想マシンを使用するには、Bean Scripting Framework (BSF) Java パッケージをクライアント・マシンにインストールします。HP Quality Center DVD の Redist ディレクトリにある **bsf-bin-22.zip** ファイルを解凍します。解凍したファイルで **bsf.jar** ファイルのパスを探し、**CLASSPATH** フィールドに追加します。**CLASSPATH** 環境変数に「.」（ドット：カレント・ディレクトリを示します）が含まれることを確認します。

ほかの Java 仮想マシンを使用する場合は、次のようにシステム・パスに BSF DLL の場所を追加します。コントロール・パネルで **[システム]** > **[システムのプロパティ]** を選択してから、**[詳細設定]** タブをクリックします。**[環境変数]** ボタンをクリックし、**[システム環境変数]** 領域で次の DLL のパスを追加して、**パス**のパラメータを編集します。**msvc60.dll**, **bsfactivscriptengine.dll**, および **bsfactivscriptengine\_g.dll** を追加します。**[OK]** をクリックします。

- ▶ [Web サービス (SOAP) テスト] を選択した場合は [SOAP クライアントライブラリ] リストから SOAP クライアント・ライブラリを選択し、テスト対象の URL を [Web サービス定義] ボックスに入力するか、または選択します。[+] ボタンをクリックします。入力した URL が下のテキスト・ボックスに表示されます。

HP VAPI-XP ウィザード

Web サービスを追加するには、SOAP クライアントライブラリを選択し、Web サービスの URL を入力してから [+] ボタンをクリックします。

SOAP クライアント ライブラリ

Web サービス定義 (WDSL URL)

**エラー メッセージ**  
Microsoft SOAP SDKが WSDL の構文解析を行い、ウィザードを続行するために必要です。  
Microsoft SOAP SDK または Pocket SOAP SOAP テスト テンプレートに必要です。

<< 前へ(P)    次へ(N) >>    完了(F)    ヘルプ

---

**注：** Microsoft SOAP SDK と PocketSOAP の 2 つの SOAP クライアント・ライブラリをサポートしています。PocketSOAP を使用する場合であっても、Web サービスを解析するために Microsoft SOAP SDK をインストールする必要があります。Microsoft SOAP SDK がコンピュータにインストールされていない場合は、HP Quality Center DVD の **Redist** ディレクトリにある **SoapToolkit30.exe** ファイルを実行します。

---

- ▶ **[コンソール アプリケーション テスト]** を選択した場合は、テスト対象のアプリケーション・ファイルの名前を **[アプリケーション実行可能ファイル]** ボックスに入力し、パラメータを **[コマンドラインパラメータ]** ボックスに入力します。

VAPI-XP 出力ウィンドウではなく、標準出力をそのまま使用する場合は、**[標準出力の代わりに VAPI-XP 出力を使用する]** ボックスをクリアします。

**[アプリケーションのタイムアウト]** ボックスに、Quality Center がアプリケーションの実行が完了するまで待つ時間（ミリ秒単位）を入力します。この値を **-1** に設定した場合、Quality Center はアプリケーションの実行が完了するまで、時間の制限なく待機します。

**[+]** ボタンをクリックします。入力したデータが下のテキスト・ボックスに表示されます。

HP VAPI-XP ウィザード

コンソール アプリケーションを追加するには、アプリケーション ファイル名とパラメータを入力してから [+ ] ボタンをクリックします。

コンソール アプリケーション

アプリケーション実行可能ファイル

ping.exe

コマンドラインパラメータ

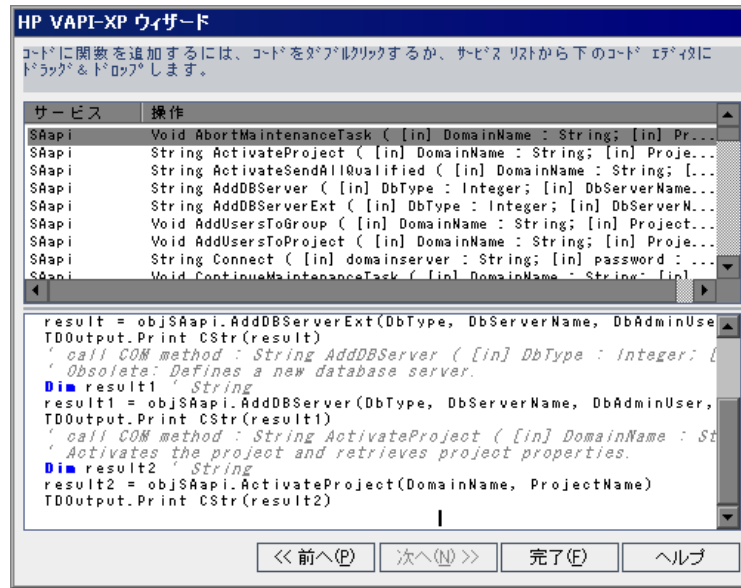
標準出力の代わりに Vapi-XP 出力を使用する

アプリケーションのタイムアウト (ミリ秒単位、-1 = INFINITE)

アプリケーション	引数	タイム...	出力を...
ping.exe		-1	true

<< 前へ(P)    次へ(N) >>    完了(E)    ヘルプ

- 11 [次へ] をクリックして、HP VAPI-XP ウィザードによるテスト・スクリプト作成の次の手順に進みます。次のダイアログ・ボックスが開きます。



- 12 [サービス] リストで、テスト・スクリプトに追加する関数を選択します。関数をダブルクリックするか、またはドラッグ・アンド・ドロップすると、関数がスクリプト・コードに追加されます。関数は、[サービス] リストの下のボックスに追加されます。
- 13 必要に応じて、下部の表示枠で、追加パラメータを入力したり、スクリプトにコードを追加することができます。
- 14 [完了] をクリックします。新しいテストが、テスト計画ツリーで選択したサブジェクト・フォルダの下に表示されます。

---

**注：**作成した VAPI-XP テストに詳細と添付ファイルを追加したり、要件カバレッジを定義したりできます。詳細については、第 18 章「テスト計画ツリーの開発」を参照してください。

---

## VAPI-XP テスト・スクリプトの編集

HP VAPI-XP ウィザードを使用して VAPI-XP テスト・スクリプトを作成した後は、[テスト スクリプト] タブでスクリプトを編集できます。



**ヒント** : [テスト スクリプト] タブは、[表示] > [ウィンドウ] を選択するか、または [ウィンドウ] ボタンをクリックすることで、独立したウィンドウに表示することができます。

VAPI-XP テスト・スクリプトを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画ツリーで VAPI-XP テストを選択し、[テスト スクリプト] タブをクリックします。テスト・スクリプトが表示されます。

```
Sub Test_Main(Debug, CurrentTestSet, CurrentTSTest, CurrentRun)
  *** VBScript Limitation ! ***
  ' On Error Resume Next statement suppresses run-time script errors.
  ' To handle run-time error in a right way, you need to put "If Err.Number <> 0"
  ' after each line of code that can cause such a run-time error.
  On Error Resume Next

  ' clear output window
  TDOutput.Clear

  ' Run "ping.exe" application
  XTools.run "ping.exe", "cinderella", -i

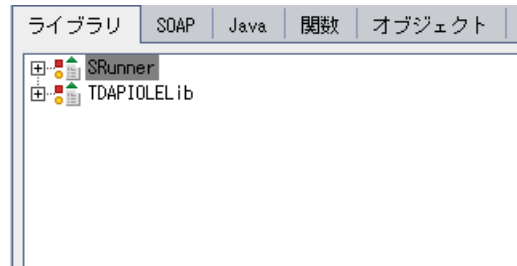
  ' TODO: put your code here

  If Not Debug Then
  End If
  handle run-time errors
  If Err.Number <> 0 Then
  TDOutput.Print "Run-time error [" & Err.Number & "] : " & Err.Description
  ' update execution status in "Test" mode
  If Not Debug Then
    CurrentRun.Status = "Failed"
    CurrentTSTest.Status = "Failed"
  End If
  End If
End Sub
```

**注** : 作成したテスト・スクリプトのプロパティを表示するには、[テスト] > [プロパティ] を選択します。



- 2 スクリプトに追加できるオブジェクト定義、メソッド、およびプロパティのリストを表示するには、次の3つのオプションのいずれかを選択します。
- ▶ **[テスト] > [参照] > [COM ライブラリ リファレンス]** : [参照] ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスでは、表示する COM オブジェクト定義、メソッド、プロパティを選択できます。
  - ▶ **[テスト] > [参照] > [SOAP Web サービス リファレンス]** : [Web サービス参照の追加] ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスでは、表示する Web サービス・オブジェクトの定義またはメソッドを入力できます。
  - ▶ **[テスト] > [参照] > [Java クラス リファレンス]** : [Java クラス参照の追加] ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスでは、表示する Java クラス・オブジェクトの定義またはメソッドを入力できます。
- 3 **[表示] > [ブラウザ]** を選択するか、または **[ブラウザの表示 / 非表示]** ボタンをクリックします。次のタブが表示されます。



- ▶ **[ライブラリ] タブ** : スクリプトに追加できる VAPI-XP (SRunner), Quality Center (TDAPIOLELib), および COM/DCOM のオブジェクト定義、メソッド、およびプロパティのリストが表示されます。VAPI-XP オブジェクトの定義、メソッド、およびプロパティの詳細については、724 ページ「VAPI-XP API の使用」を参照してください。Quality Center のオブジェクト定義、メソッド、およびプロパティの詳細については、『**HP Quality Center Open Test Architecture API Reference**』(英語版)を参照してください。
- ▶ **[SOAP] タブ** : スクリプトに追加できる Web サービスのオブジェクト定義とメソッドのリストが表示されます。
- ▶ **[Java] タブ** : スクリプトに追加できる Java クラスのオブジェクト定義とメソッドのリストが表示されます。

- ▶ **[関数] タブ** : スクリプトに含まれている関数のリストが表示されます。
- ▶ **[オブジェクト] タブ** : スクリプトに追加でき、定義名をもつオブジェクトのリストが表示されます。

---

**注** : 各オブジェクトの定義、メソッド、またはプロパティの説明を表示するには、**[表示]** > **[出力]** を選択し、**[ヘルプ]** タブをクリックします。

---

- 4 スクリプト内の現在の関数に、オブジェクト定義、メソッド、またはプロパティを追加するには、コード内の該当箇所にカーソルを置き、**[ライブラリ]** タブ、**[SOAP]** タブ、または **[Java]** タブに表示されているオブジェクト定義、メソッド、またはプロパティをダブルクリックします。

```
' TODO: put your code here
' clear output window

' VugenType of "VuGenTestType.VugenType.1"
' VugenType Class
Set objVugenType = CreateObject("VuGenTestType.VugenType.1")

' call COM method : Integer CanCreateScriptTemplate
Dim result As Integer
result = objVugenType.CanCreateScriptTemplate()
TDDOutput.Print CStr(result)

If Not Debug Then
End If
```

- 5 定義名をもつオブジェクトを追加するには、[ライブラリ] タブ、[SOAP] タブ、または [Java] タブで、オブジェクト定義、メソッド、またはプロパティを選択し、[テスト] > [オブジェクトの追加] を選択します。[オブジェクトの追加] ダイアログ・ボックスで、オブジェクトに付ける名前を入力し、[OK] をクリックします。オブジェクトが [オブジェクト] タブに追加されます。

名前	ProgID
TDConnection	TDApi01e80.TDConnection
TDHelper	SRunner.TDHelper
TDInput	SRunner.TDInput
TDOutput	SRunner.TDOutput
ThisTest	TDApi01e80.Test
XTools	SRunner.XTools

スクリプトにオブジェクトを追加するには、オブジェクトをダブルクリックするか、オブジェクトを右クリックし [スクリプトに挿入] を選択します。



- 6 コードの構文をチェックするには、[テスト] > [構文のチェック] を選択するか、[構文チェック] ボタンをクリックします。[表示] > [出力] を選択すると、検査の結果が [出力] タブに表示されます。

## その他の編集機能

[テスト スクリプト] タブでは、次に示す編集機能も使用できます。



- ▶ 直前の操作を元に戻すには、[元に戻す] ボタンをクリックします。元に戻した操作をやり直すには、[やり直し] ボタンをクリックします。



- ▶ スクリプトの一部からある部分のコードを削除しスクリプト内の別の場所に挿入するには、コードの該当箇所を選択し、[切り取り] ボタンをクリックし、[貼り付け] ボタンを使用して別の場所に挿入します。



- ▶ スクリプトの一部からある部分のコードをコピーし、スクリプト内の別の場所に挿入するには、コードの該当箇所を選択し、[コピー] ボタンをクリックし、[貼り付け] ボタンを使用して別の場所に挿入します。



- ▶ ある部分のコードを削除するには、該当箇所のコードを選択し、[削除] ボタンをクリックします。



- ▶ スクリプトに含まれる特定のテキストを検索するには、[スクリプト内で検索] ボタンをクリックします。[テキスト検索] ダイアログ・ボックスの [検索テキスト] ボックスに、検索するテキストを入力します。検索のオプション、検索方向、検索範囲、検索開始位置を選択し、[OK] をクリックします。

スクリプト内で同じテキストがさらに含まれているかを調べるには、[検索] > [次を検索] を選択します。



- ▶ スクリプト内の特定のテキストを検索し、該当箇所を別のテキストで置き換えるには、[置換] ボタンをクリックします。[テキストの置換] ダイアログ・ボックスの [検索テキスト] ボックスに、検索するテキストを入力します。[置換後の値] ボックスに、見つかったテキストを置き換える新しいテキストを入力します。検索のオプション、検索方向、検索範囲、検索開始位置を選択し、[OK] をクリックします。スクリプト内に含まれる、検索対象のテキストをすべて一括置換するには、[すべて置換] ボタンをクリックします。

- ▶ スクリプト内の特定の行番号に移動するには、[検索] > [次の行番号に移動] を選択します。[次の行番号に移動] ダイアログ・ボックスに、移動する行番号を入力し、[OK] をクリックします。



- ▶ マージンやフォント、画面やテキストの色など、エディタのオプションを変更するには、[エディタ] ボタンをクリックします。[エディタ]、[表示]、[色] の各タブで必要に応じてプロパティを設定し、[OK] をクリックします。



スクリプトの編集が終わったら、[上書き保存] ボタンをクリックして編集結果を保存します。

## VAPI-XP API の使用

VAPI-XP ツールには、テスト・スクリプトの作成時に参照可能な、VAPI-XP オブジェクト定義の組み込みライブラリが用意されています。

### TDHelper オブジェクトの使用

TDHelper オブジェクトは、Quality Center 関連の作業を実行する次の関数を提供します。

#### RunTestSet

選択したテスト・セットを実行し、テスト・セット実行の最終的なステータスを返します。

```
RunTestSet([Name = "default"], [Filter = ""], [Locally = FALSE], [Host = ""],  
[HostGroup = ""])
```

**Name** : テスト・セット名。任意指定。標準設定値は "default"。

**Filter** : テストに対して設定するフィルタ。実行するテストを指定。何も指定しない場合は、指定したテスト・セット内のすべてのテストを実行。標準設定値は ""。

**Locally** : TRUE にセットした場合は、テスト・セットをローカルで実行。任意指定。標準設定値は FALSE。

**Host** : テスト・セットが実行されるホスト。任意指定。標準設定値は ""。

**HostGroup** : テスト・セットが実行されるホスト・グループ。任意指定。標準設定値は ""。

### **RunTest**

選択したテストを実行し、テストの実行結果を返します。

```
RunTest(Name, Instance, TestSet, [Locally = FALSE], [Host = ""], [HostGroup = ""])
```

**Name** : テスト名。

**Instance** : テスト・インスタンス。

**TestSet** : テスト・セット名。

**Locally** : TRUE にセットした場合は、テスト・セットをローカルで実行。任意指定。標準設定値は FALSE。

**Host** : テスト・セットが実行されるホスト。任意指定。標準設定値は ""。

**HostGroup** : テスト・セットが実行されるホスト・グループ。任意指定。標準設定値は ""。

### **AddDefect**

テストがデバッグ・モードで実行されている場合、現在のテストに新しい不具合を追加します。テストがテスト・モードで実行されている場合、現在のテスト・セットにおけるテスト・インスタンスの現在の実行に新しい不具合が追加されます。作成された不具合オブジェクトを返します。

#### **AddDefect([Fields], [StepKey])**

**Fields** : 2 次元配列。次元の 1 つはフィールド名、もう 1 つはフィールド値。任意指定。

**StepKey** : 新しい不具合に関連するステップのステップ ID。任意指定。

### **AddDefectUI**

[新規不具合] ダイアログ・ボックスを使用して、現在のテスト・セット（デバッグ・モードの場合）または現在の実行（テスト・モードの場合）に新しい不具合を追加します。

#### **AddDefectUI([StepKey])**

**StepKey** : 新しい不具合に関連するステップのステップ ID。任意指定。

### **AddStepToRun**

現在の実行に新しいステップを追加します。作成されたステップ・オブジェクトを返します。

#### **AddStepToRun(Name, [Desc], [Expected], [Actual], [Status])**

**Name** : ステップ名。

**Desc** : ステップの詳細。任意指定。

**Expected** : ステップの期待結果。任意指定。

**Actual** : ステップの実際の結果。任意指定。

**Status** : ステップのステータス。任意指定。

### **DownloadAttachment**

テスト・オブジェクトと関連付けられている添付をダウンロードします。ダウンロードが実行されたローカル・パスを返します。

#### **DownloadAttachment(Name, item)**

**Name** : 添付名。

**item** : 添付付きのオブジェクトのリファレンス。

### **UploadAttachment**

添付をアップロードし、テスト・オブジェクトと関連付けます。

#### **UploadAttachment(path, item)**

**path** : アップロードする項目のローカル・パス (完全なファイル名を指定)

**item** : 添付を関連付けるオブジェクトへのリファレンス。

### **TDInput オブジェクトの使用**

TDInput オブジェクトは、次の関数を提供します。エンド・ユーザからの入力値を取得するために使用できます。

#### **GetInput**

入力ダイアログ・ボックスを表示します。このダイアログ・ボックスでは、エンド・ユーザからの入力値を取得できます。

#### **GetInput([Caption],[Name])**

**Caption** : ダイアログ・ボックスの見出し。任意指定。

**Name** : 入力値の名前。任意指定。

## **TDOutput オブジェクトの使用**

TDOutput オブジェクトは、次の関数を提供します。VAPI-XP の [出力] タブの制御に使用できます。

### **Clear メソッド**

[出力] タブをクリアします。

### **Clear**

### **Print メソッド**

[出力] タブの新しい行にテキスト・メッセージを出力します。

### **Print(Msg)**

### **HookDebug プロパティ**

[OutputDebugString] タブの API 関数用のフックを設定または削除します。

### **HookDebug**

### **Text プロパティ**

[出力] タブのテキストを取得または設定します。

### **String Text**



## XTools オブジェクトの使用

XTools オブジェクトは、一般的な作業を実行する次の関数を提供します。

### run

渡された属性を使って、コマンド・ラインを実行します。

**run(Command, [Args = ""], [Timeout = -1], [UseOutput = TRUE])**

**Command** : アプリケーションの実行可能ファイル。

**Args** : アプリケーションの引数。任意指定。標準設定値は ""。

**Timeout** : タイムアウト時間。単位はミリ秒。-1 の場合、Quality Center はアプリケーションの実行が完了するまで、時間の制限なく待機。

**UseOutput** : TRUE の場合は、Quality Center は標準出力の代わりに VAPI-XP 出力ウィンドウを使用。

### WrapArray

オブジェクトの配列からバリエーションの配列を作成します。たとえば、呼び出されたオブジェクトがメソッドの結果として文字列の配列を返す場合、サポートされているスクリプト・エンジンでは、配列の読み取りができません。

WrapArray 関数を呼び出して、返された配列を関数のパラメータとして渡すことにより、スクリプト・エンジンが解釈できる、バリエーションの配列を作成できます。

### WrapArray (array)

**array** : ラップする配列。

### Sleep

指定した時間の間、スクリプトの実行を中断します。

### Sleep(interval)

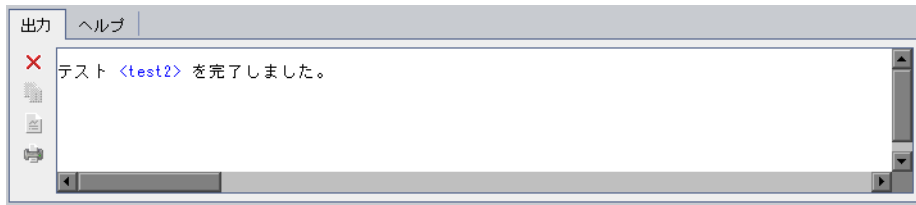
**interval** : スクリプト実行の中断時間 (ミリ秒単位)。

## デバッグ・モードでの VAPI-XP テストの実行

VAPI-XP テスト・スクリプトの作成、編集が完了したら、スクリプトをデバッグ・モードまたはテスト・モードで実行できます。VAPI-XP テストをデバッグ・モードで実行すると、テスト・セットにテストを含めなくてもテストを実行できます。また、Quality Center プロジェクト内にテスト実行データを作成しなくてもテストを実行できます。通常、デバッグ・モードはテストの開発中に使用し、テストが完成したらテスト・モードを使用することをお勧めします。

VAPI-XP テストをデバッグ・モードで実行するには、次の手順を実行します。

- 1 テスト計画モジュールで、テスト計画ツリーから VAPI-XP テストを選択し、**[テストスクリプト]** タブをクリックします。
- 2 **[テスト]** > **[実行 [デバッグモード]]** を選択するか、**[実行スクリプト]** ボタンをクリックします。Quality Center により、選択したテスト・スクリプトの実行が開始されます。
- 3 **[表示]** > **[出力]** を選択すると、テスト・スクリプトによって生成された出力が表示されます。



▶ **[出力]** タブをクリアするには、**[出力のクリア]** ボタンをクリックします。



▶ 出力のテキストをクリップボードにコピーするには、対象テキストを選択し、**[選択したテキストをクリップボードへコピー]** ボタンをクリックします。



▶ テスト・スクリプトの出力を Web ブラウザで閲覧するには、**[Web ブラウザで出力テキストを開く]** ボタンをクリックします。



▶ テスト・スクリプト出力を印刷するには、**[印刷出力]** ボタンをクリックします。



- 4 実行中の VAPI-XP テストを完了前に停止するには、**[テスト]** > **[停止]** を選択するか、**[停止]** ボタンをクリックします。

## VAPI-XP テストのテスト・モードでの実行

テスト・ラボ・モジュールでテスト・セットに VAPI-XP テストを追加したら、VAPI-XP テストをテスト・モードで実行することができます。テスト・セットへのテストの追加の詳細については、第 28 章「テスト・セットの作成」を参照してください。

VAPI-XP テストをテスト・モードで実行する場合、テスト実行データは Quality Center プロジェクトで作成されます。

VAPI-XP テストは、テスト計画モジュールおよびテスト・ラボ・モジュールのどちらからでも、テスト・モードで実行できます。

---

**注：** VAPI-XP テストをリモートで実行するには、HP Quality Center Client Side Setup Add-in と HP Quality Center Connectivity Add-in を、テストを実行するホスト・マシンにインストールする必要があります。HP Quality Center アドインの詳細については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

---

**VAPI-XP テストをテスト計画モジュールからテスト・モードで実行するには、次の手順を実行します。**

- 1 テスト計画ツリーから VAPI-XP テストを選択し、[**テスト スクリプト**] タブをクリックします。
- 2 [**テスト**] > [**実行 [テスト モード]**] を選択します。[テストセットを選択] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 [**テスト セット**] で、現在の VAPI-XP テストを含むテスト・セットを選択します。

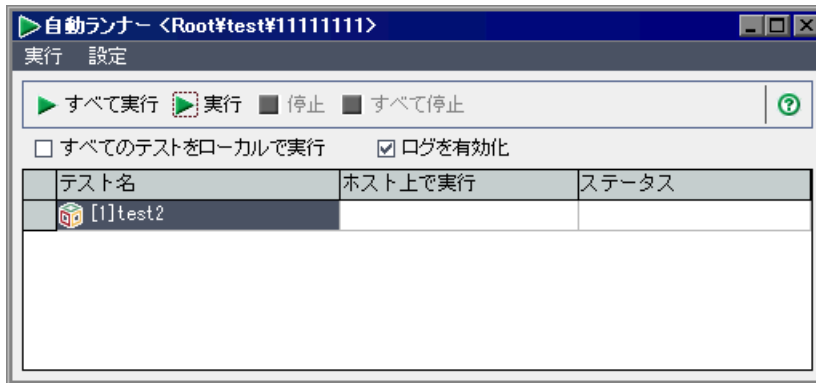
- 4 [インスタンス] ボックスで、実行するテスト・インスタンスを選択します。
- 5 [実行名] ボックスで、テスト実行に付ける名前を入力します。
- 6 [OK] をクリックします。Quality Center により、選択したテストの実行が開始されます。
- 7 テスト・スクリプトによって生成された出力を表示するには、[表示] > [出力] を選択します。[出力] タブの説明については、730 ページ「デバッグ・モードでの VAPI-XP テストの実行」を参照してください。



- 8 実行中の VAPI-XP テストを完了前に停止するには、[テスト] > [停止] を選択するか、[停止] ボタンをクリックします。

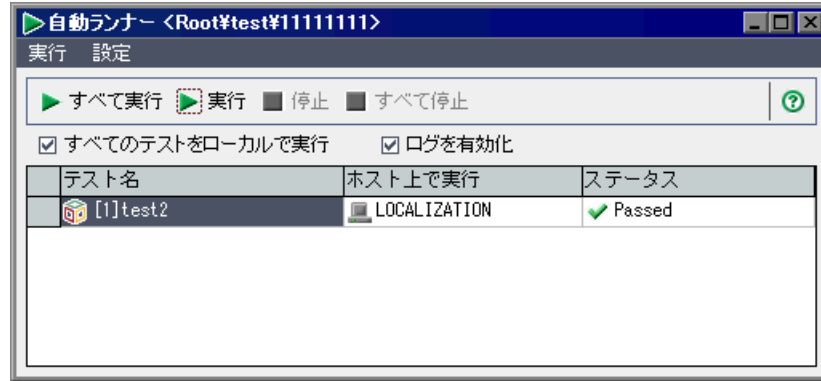
VAPI-XP テストをテスト・ラボ・モジュールからテスト・モードで実行するには、次の手順を実行します。

- 1 [テストセット] リストから、実行する VAPI-XP テストを含むテスト・セットを選択します。
- 2 [実行グリッド] で実行するテストを選択し、[実行] ボタンをクリックします。[自動ランナー] ダイアログ・ボックスが開き、選択したテストが表示されます。



- 3 [ホスト上で実行] カラムで、VAPI-XP テストを実行するホスト・マシンを選択するか、[すべてのテストをローカルで実行] を選択してローカル・マシンでテストを実行します。

- 4 **[実行]** ボタンをクリックします。選択した VAPI-XP テストの実行が開始されると **[VAPI-XP テスト スクリプト]** ウィンドウが開きます。テストの実行が完了すると、**[自動ランナー]** ダイアログ・ボックスにテスト実行のステータスが表示されます。



## VAPI-XP テスト・スクリプトのデバッグ


テスト実行が成功せずに完了したら、VAPI-XP の統合デバッガを使用して VAPI-XP テスト・スクリプトのデバッグ作業を行うことができます。

---

**注：**統合デバッガは PerlScript または PythonScript のテスト・スクリプトのデバッグには使用できません。

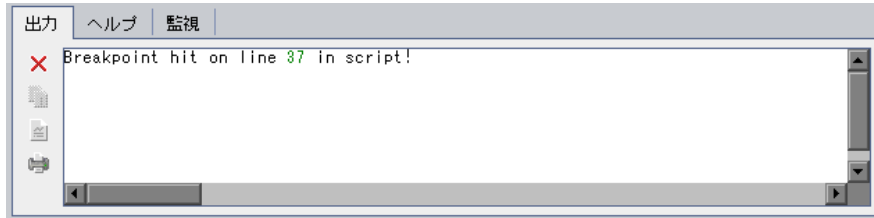
---

VAPI-XP テスト・スクリプトをデバッグするには、次の手順を実行します。

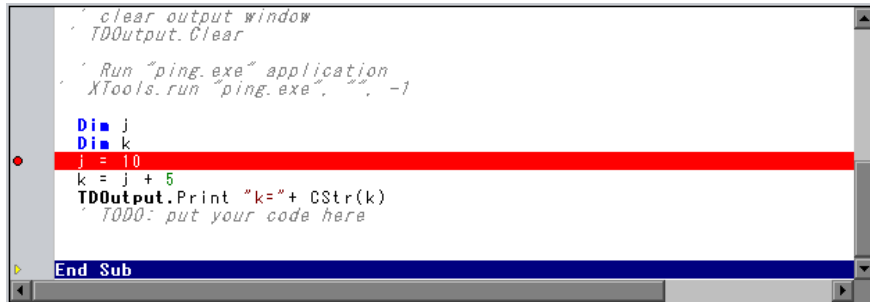
- 1 テスト計画モジュールの **[テスト スクリプト]** タブで、**[デバッグ]** > **[統合デバッガ]** を選択します。デバッグ処理に関するボタンがツールバーに表示されます。
- 2  スクリプト内にブレークポイントを設定するには、ブレークポイントを設定する対象となるスクリプト行を選択し、**[デバッグ]** > **[ブレークポイントの設定 / 解除]** を選択するか、**[ブレークポイントの設定 / 解除]** ボタンをクリックします。あるいは、スクリプトの行の横のグレーのマージンをクリックします。選択した行が赤色で強調表示されます。



- 3 **[実行スクリプト]** ボタンをクリックします。スクリプトの実行が開始し、指定したブレークポイントで停止します。[出力] タブに次のメッセージが表示されます。



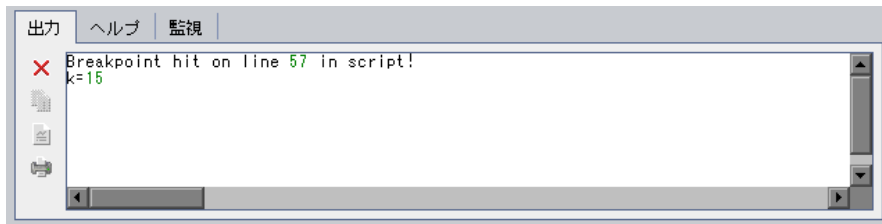
- 4 ブレークポイントの後のスクリプトに進むには、[デバッグ] > [ステップイン] を選択するか、[ステップイントウ] ボタンをクリックします。ブレークポイントの次のスクリプト行が青色で強調表示されます。



- 5 スクリプト内の行をスキップするには、[ステップオーバー] ボタンをクリックするか、[デバッグ] > [ステップオーバー] を選択します。

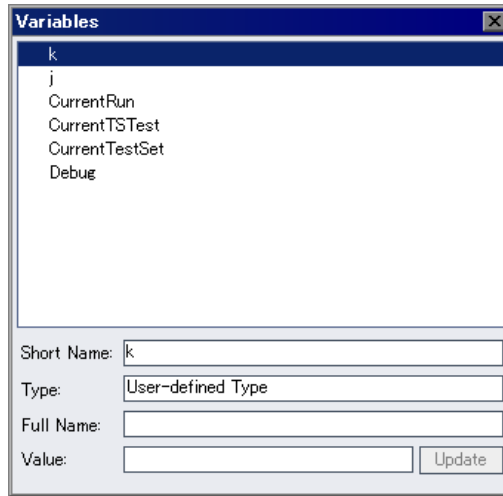


- 6 Quality Center に対してスクリプトを実行するよう指示するには、[デバッグ] > [ステップアウト] を選択するか、[ステップアウト] ボタンをクリックします。出力が [出力] タブに表示されます。





- 7 スクリプト内の各変数の値を表示または編集するには、**[デバッグ]** > **[変数]** を選択するか、または **[変数の表示]** ボタンをクリックします。**[変数]** ダイアログ・ボックスが開き、現在のスクリプトで利用できる変数が表示されます。変数を選択すると、その変数のプロパティが表示されます。



変数の値を変更するには、**[値]** ボックスで変数に割り当てる新しい値を入力し、**[更新]** をクリックします。**[OK]** をクリックすると変更が保存され、**[変数]** ダイアログ・ボックスを閉じます。



- 8 デバッグ中に特定の変数に関する情報を表示するには、**[デバッグ]** > **[監視]** を選択するか、**[監視ウィンドウの表示]** ボタンをクリックして、**[監視]** タブを表示します。

**[監視]** タブに変数を追加するには、**[+]** をクリックし、**[Prompt]** ボックスに変数名を入力して、**[OK]** をクリックします。変数とその値が **[監視]** タブに表示されます。





9 スクリプトの実行を再開するには、[デバッグ] > [実行を再開] を選択するか、[実行を再開] ボタンをクリックします。



10 [デバッグ] > [デバッグ停止] を選択するか、[デバッグ停止] ボタンをクリックし、統合デバッガによるスクリプトのデバッグを終了します。



# 付録 B

---

## Quality Center キーボード・ショートカット

ショートカット・キーを使用して、Quality Center の操作や、多くの Quality Center コマンドの実行ができます。

### 本章の内容

- ▶ Quality Center モジュールの切り換え (738 ページ)
- ▶ 一般的なキーボード・ショートカット (738 ページ)
- ▶ 添付ファイルのショートカット (740 ページ)
- ▶ [電子メールを送信] ダイアログ・ボックスのショートカット (741 ページ)
- ▶ 管理モジュールのショートカット (741 ページ)
- ▶ 要件モジュールのショートカット (742 ページ)
- ▶ テスト計画モジュールのショートカット (742 ページ)
- ▶ テスト・リソース・モジュールのショートカット (743 ページ)
- ▶ テスト・ラボ・モジュールのショートカット (743 ページ)
- ▶ 不具合モジュールのショートカット (745 ページ)
- ▶ ダッシュボード・モジュールのショートカット (746 ページ)

## Quality Center モジュールの切り換え

Quality Center モジュールを切り替えるには、CTRL + SHIFT + < 数字 > ショートカット・キーを使用します。数字は、モジュールがモジュール・サイドバーに表示される順番を表します。たとえば、「要件」が最初のモジュールなら、CTRL + SHIFT + 1 を押します。「ビジネス・コンポーネント」が 2 番目のモジュールなら、CTRL + SHIFT + 2 を押します。

## 一般的なキーボード・ショートカット

次のショートカット・キーを押して、Quality Center の操作や共通コマンドの実行ができます。

ショートカット・キー	機能
下向き矢印または上向き矢印	それぞれ前の項目または次の項目を選択する。
左向き矢印または右向き矢印	ツリー・フォルダでは、それぞれフォルダを展開または折りたたむ。 グリッド・ビューでは、それぞれ前のグリッド・カラムまたは次のグリッド・カラムを選択する。
TAB	タブまたはダイアログ・ボックスで、次のデータ・ボックスを選択する。
SHIFT+TAB	タブまたはダイアログ・ボックスで、前のデータ・ボックスを選択する。
CTRL+SHIFT+ <シーケンス番号>	[要件の詳細]、[不具合の詳細]、および [テストインスタンスのプロパティ] の各ダイアログ・ボックスで、サイドバーの表示を切り替える。
CTRL+TAB	次のタブに移動する。
CTRL+SHIFT+TAB	前のタブに移動する。
F9 または ALT	モジュール・メニューのオプションをフォーカスする。メニューを移動するには、左向き矢印、右向き矢印、下向き矢印、または上向き矢印を押します。

ショートカット・キー	機能
ALT+DOWN	リスト・ボックスのドロップダウン・リストを開く。リストの値を選択するには、下向き矢印または上向き矢印を押します。
左向き矢印	ツリー・ビューでサブフォルダを含むフォルダを展開する (折りたたんでいる場合)。
右向き矢印	ツリー・ビューでサブフォルダを含むフォルダを折りたたむ (展開している場合)。
ALT+G	選択したエンティティに移動する。
ALT+HOME/END	[要件の詳細], [不具合の詳細], または [テストインスタンスのプロパティ] の各ダイアログ・ボックスで、それぞれ最初のエンティティまたは最後のエンティティを表示する。
ALT+ 左向き矢印 または右向き矢印	[要件の詳細], [不具合の詳細], または [テストインスタンスのプロパティ] の各ダイアログ・ボックスで、それぞれ前のエンティティまたは次のエンティティを表示する。
CTRL+F	[検索] ダイアログ・ボックスを開く。指定したテキストの検索に役立ちます。
CTRL+C	選択した項目をコピーし、クリップボードに格納する。
CTRL+V	クリップボードの内容を選択した位置に貼り付ける。
CTRL+X	選択した項目を切り取り、クリップボードに格納する。
CTRL+Z	直前に行った操作を取り消す。
CTRL+A	すべての項目を選択する。
DELETE	選択範囲を削除する。
F1	選択したダイアログ・ボックスのヘルプを表示する。
F2	エンティティの名前を変更する。
F5	選択したツリー、グリッド、またはフォルダのすべてのデータを更新する。

ショートカット・キー	機能
F7	選択した単語またはテキスト・ボックスのスペル・チェックを行う。
SHIFT+F7, SHIFT+CTRL+F7	[類語辞典:英語] ダイアログ・ボックスが開き、選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示される。
CTRL+ALT+T または CTRL+T	タブを作成する (メモ・フィールド用)。

## 添付ファイルのショートカット

対応するショートカット・キーを押して、[添付ファイル] タブおよび [添付ファイル] ダイアログ・ボックスで次のコマンドを実行できます。

ショートカット・キー	機能
CTRL+F	ファイルを添付する。
CTRL+W	URL を添付する。
CTRL+P	スナップショットを添付する。
CTRL+I	システム情報を添付する。
CTRL+B	クリップボードの内容を添付する。
スペース	添付ファイルをダウンロードして開く。
CTRL+U	添付ファイルをアップロードする。
CTRL+S	添付ファイルを保存する。
CTRL+DELETE	添付ファイルを削除する。

## 【電子メールを送信】 ダイアログ・ボックスのショートカット

対応するショートカット・キーを押して、[電子メールを送信] ダイアログ・ボックスで次のコマンドを実行できます。

ショートカット・キー	機能
ALT+C または ALT+T	[受信者の選択] ダイアログ・ボックスを開く。
ALT+S	電子メールを送信する。
CTRL+ALT+O	[スペル オプション] ダイアログ・ボックスを開く。
CTRL+ALT+T	[類語辞典] ダイアログ・ボックスを開く。

## 管理モジュールのショートカット

対応するショートカット・キーを押して、管理モジュールで次のコマンドを実行できます。

ショートカット・キー	機能
ALT+B	新規ベースラインを追加する。
ALT+M	ライブラリをインポートする
ALT+N	新規ライブラリを追加する。
CTRL+N	新規リリース・フォルダを作成する。
CTRL+R	新規リリースを作成する。
CTRL+Y	新規サイクルを作成する。
CTRL+D	サイクルのコピーを作成する。
CTRL+ALT+N	新規ライブラリ・フォルダを追加する。
DELETE	リリース, リリース・フォルダ, またはサイクルを削除する。

## 要件モジュールのショートカット

対応するショートカット・キーを押して、要件モジュールで次のコマンドを実行できます。

ショートカット・キー	機能
DELETE	選択した要件を削除する。
CTRL+ALT+N	新規フォルダを作成する。
ALT+G	[新規要件を作成] ダイアログ・ボックスを開く。
ALT+N	新規要件を作成する。
CTRL+I	ズーム・インする。
CTRL+O	1 レベル、ズーム・アウトする。
SHIFT+CTRL+O	ルート・レベルまでズーム・アウトする。
CTRL+A	カバレッジにテストを追加する。
CTRL+M	([要件の詳細] ダイアログ・ボックスから) 要件を電子メールで送信する。

## テスト計画モジュールのショートカット

対応するショートカット・キーを押して、テスト計画モジュールで次のコマンドを実行できます。

ショートカット・キー	機能
ALT+G	[テストへ移動] ダイアログ・ボックスを開く。
ALT+N	([ステップのデザイン] タブで) 新規ステップを作成する。
DELETE	([ステップのデザイン] タブで) ステップを削除する。
CTRL+P	([ステップのデザイン] タブで) パラメータを挿入する。

ショートカット・キー	機能
SHIFT+ALT+A	([ステップのデザイン] タブで) 添付ファイルを追加する。
CTRL+L	([ステップのデザイン] タブで) 手動テストへの呼び出しを追加する。
CTRL+S	([ステップのデザイン] タブで) ステップを保存する。
ALT+N	([テスト パラメータ] タブで) 新規パラメータを作成する。
CTRL+DELETE	([テスト パラメータ] タブで) パラメータを削除する。
ALT+R	([要件カバレッジ] タブで) 要件をカバレッジから削除する。

## テスト・リソース・モジュールのショートカット

対応するショートカット・キーを押して、テスト・リソース・モジュールで次のコマンドを実行できます。

ショートカット・キー	機能
CTRL+N	新規テスト・リソース・フォルダを作成する。
CTRL+R	新規テスト・リソースを作成する。

## テスト・ラボ・モジュールのショートカット

対応するショートカット・キーを押して、テスト・ラボ・モジュールで次のコマンドを実行できます。

ショートカット・キー	機能
ALT+N	新規テスト・セットを作成する。
ALT+G	[Go To Test Set] ダイアログ・ボックスを開く。
CTRL+A	テスト・セットにテストを追加する。

ショートカット・キー	機能
CTRL+F9	テストを実行する。
CTRL+ALT+F9	テストを手動で実行する。
CTRL+SHIFT+F9	手動実行を続行する。
ALT+F9	テスト・セットを実行する。
CTRL+DELETE	([実行グリッド] タブで) テスト・セットから選択したテスト・インスタンスを削除する。

対応するショートカット・キーを押して、[マニュアルランナー] ダイアログ・ボックスで次のコマンドを実行できます。

ショートカット・キー	機能
CTRL+R	実行を開始する。
CTRL+Q	実行を終了する。
CTRL+K	実行を取り消す。
CTRL+U	[添付ファイル] ダイアログ・ボックスを開く。
CTRL+B	新規不具合を追加する。
CTRL+S	テスト・ステップに添付ファイルを追加する。
CTRL+P	選択したテスト実行ステップを成功させる。
CTRL+F	選択したテスト実行ステップを失敗させる。
CTRL+A	すべてのテスト実行ステップを成功させる。
CTRL+G	すべてのテスト実行ステップを失敗させる。
CTRL+ 上向き矢印または CTRL+ 下向き矢印	前のテスト・ステップまたは次のテスト・ステップを選択する。



## 不具合モジュールのショートカット

対応するショートカット・キーを押して、不具合モジュールで次のコマンドを実行できます。

ショートカット・キー	機能
ALT+N	新規不具合を追加する。
ALT+G	[不具合へ移動] ダイアログ・ボックスを開く。
CTRL+DELETE	選択した不具合を削除する。
CTRL+ALT+G	類似の不具合を検索する。
CTRL+ALT+F	類似のテキストを検索する。
CTRL+L	指定されたテキストの次の一致を検索する。
CTRL+M	([不具合の詳細] ダイアログ・ボックスから) 不具合を電子メールで送信する。
CTRL+N	[新規不具合] ダイアログ・ボックスのすべてのフィールドをクリアする。

## ダッシュボード・モジュールのショートカット

対応するショートカット・キーを押して、ダッシュボード・モジュールの [アナリシス ビュー] タブで次のコマンドを実行できます。

ショートカット・キー	機能
ALT+A	[グラフ表示形式の設定] ダイアログ・ボックスを開く。
ALT+F	グラフを全画面モードで表示する。
ALT+C	グラフをクリップボードへカラーでコピーする。
ALT+F	グラフまたは標準レポートを全画面で表示する。
ALT+G	選択したグラフまたは標準レポートを生成し、[表示] タブに表示する。
ALT+I	サマリ・グラフを円グラフ形式で表示する。
ALT+L	進行状況グラフを線グラフ形式で表示する。
ALT+M	グラフをクリップボードへモノクロでコピーする。
ALT+O	グラフを棒グラフ形式で表示する。
ALT+P	<b>グラフ</b> : グラフをカラーで印刷する。 <b>標準レポート</b> : 現在のページを印刷する。
ALT+Q	[クエリ] タブの場合、[Excel レポート クエリ ビルダ] ダイアログ・ボックスを開く。
ALT+R	グラフをデータ・グリッドとして表示する。
ALT+S	<b>グラフ</b> : グラフ・イメージを保存する。 <b>標準レポート</b> : 現在のページを保存する。
ALT+T	進行状況グラフで、合計値を表示または非表示にする。
ALT+U	[グループ化カテゴリの編集] ダイアログ・ボックスを開く。
ALT+V	グループ化カテゴリをリセットする。
ALT+X	[X 軸のカテゴリの編集] ダイアログ・ボックスを開く。
ALT+Y	X 軸のカテゴリをリセットする。

ショートカット・キー	機能
ALT+ 右向き矢印	<b>グラフ</b> ：ズームが有効な場合、グラフを右にスクロールする。 <b>標準レポート</b> ：最後のページを表示する。
ALT+ 左向き矢印	<b>グラフ</b> ：ズームが有効な場合、グラフを左にスクロールする。 <b>標準レポート</b> ：最初のページを表示する。
ALT+ 上向き矢印	<b>グラフ</b> ：ズーム・レベルを上げる。 <b>標準レポート</b> ：次のページを表示する。
ALT+ 下向き矢印	<b>グラフ</b> ：ズーム・レベルを下げる。 <b>標準レポート</b> ：前のページを表示する。
ALT+ スペース	グラフのズームをリセットする。
CTRL+E	[新規 Excel レポート] ダイアログ・ボックスを開く。
CTRL+G	[新規グラフ] ダイアログ・ボックスを開く。
CTRL+R	[新規標準レポート] ダイアログ・ボックスを開く。
CTRL+W	[グラフ ウィザード] を開く。
CTRL+DELETE	選択したフォルダ、またはアナリシス項目を削除する。
CTRL+ALT+C	全画面グラフをクリップボードへカラーでコピーする。
CTRL+ALT+F	[新規フォルダ] ダイアログ・ボックスを開く。
CTRL+ALT+M	全画面グラフをクリップボードへモノクロでコピーする。
CTRL+ALT+P	<b>グラフ</b> ：グラフをモノクロで印刷する。 <b>標準レポート</b> ：すべてのページを印刷する。
CTRL+ALT+S	標準レポートのすべてのページを保存する。

対応するショートカット・キーを押して、ダッシュボード・モジュールの [ダッシュボード ビュー] タブで次のコマンドを実行できます。

ショートカット・キー	機能
ALT+A	アナリシス・ツリー内の選択したグラフに移動する。
ALT+F	選択したグラフを全画面で表示する。
ALT+G	選択したダッシュボード・ページを生成し、[表示] タブに表示する。
ALT+I	選択したグラフを生成する。
CTRL+P	[新規ダッシュボード ページ] ダイアログ・ボックスを開く。
CTRL+DELETE	選択したフォルダまたはダッシュボード・ページを削除する。
CTRL+ALT+F	[新規フォルダ] ダイアログ・ボックスを開く。
上向き矢印	選択したグラフのプレースホルダを上の行に移動する。
下向き矢印	選択したグラフのプレースホルダを下の行に移動する。
左向き矢印	選択したグラフのプレースホルダを左に移動する (空いている場合)。
右向き矢印	選択したグラフのプレースホルダを右に移動する (空いている場合)。
BACKSPACE	選択したグラフのプレースホルダをダッシュボード・ページから削除する。
DELETE	選択したグラフのプレースホルダをダッシュボード・ページから削除する。
スペース	選択したグラフのプレースホルダを展開または閉じる。
ENTER	選択したグラフをダッシュボード・ページに追加する。

# 付録 C

---

## Quality Center エディション

Quality Center は、Starter、Enterprise、および Premier の 3 つの異なるエディションで使用できます。本項では、各エディションに用意されている機能について説明します。

### 本章の内容

- ▶ Quality Center エディションについて (749 ページ)
- ▶ エディションごとの Quality Center 機能 (750 ページ)

## Quality Center エディションについて

次に使用可能な Quality Center のエディションを示します。

- ▶ **Quality Center Starter Edition** : 既存の Quality Center エディションで、最大コンカレント・ユーザが 5 人の小規模なリリースを管理するアプリケーション・チーム向けです。
- ▶ **Quality Center Enterprise Edition** : 既存の Quality Center エディションで、中規模から大規模リリースを管理するアプリケーション・チーム向けです。以前の TestDirector for Quality Center です。
- ▶ **Quality Center Premier Edition** : 新しい Quality Center エディションで、エンタープライズ・リリースを管理する成熟した CoE (Center of Excellence) 組織向けです。

## エディションごとの Quality Center 機能

次の表に、エディションに応じた Quality Center 機能の可用性を示します。各機能の詳細については、後で説明します。

機能	Starter Edition	Enterprise Edition	Premier Edition
ライセンス	✓ 最大 5	✓	✓
モジュール	✓ 一部除外	✓	✓
Excel レポート	✓	✓	✓
テスト・リソース	✓	✓	✓
バージョン管理	✓ 単一エンティティ	✓	✓
ポイント・アンド・クリック方式のインストール	✓	✗	✗
複数の要件タイプ	✗	✓	✓
要件対要件のトレーサビリティ	✗	✓	✓
リリース管理	✗	✓	✓
リスク・ベース品質管理	✗	✓	✓
要件とテストの共有	✗	✗	✓

機能	Starter Edition	Enterprise Edition	Premier Edition
不具合の共有	✕	✕	✓
クロス・プロジェクトのカスタマイズ	✕	✕	✓
クロス・プロジェクト・レポート	✕	✕	✓
追加オプション	✕	✓	✓
エディションのアップグレード	✓	✓	—

### ライセンス

Quality Center Starter Edition では、最大 5 つのコンカレント・ライセンスが有効です。Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition の場合、購入時の契約に応じてライセンスが決定します。

サイト管理者は、「サイト管理」からライセンス使用状況を監視できます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

### モジュール

Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition は、すべての Quality Center モジュールにアクセスできます。Quality Center Starter Edition でアクセスできるのは、要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・リソース・モジュール、テスト・ラボ・モジュール、不具合モジュール、およびダッシュボード・モジュールです。

### Excel レポート

すべてのエディションで、レポートिंगのために Quality Center データを Excel にエクスポートできます。詳細については、第 43 章「Excel レポートの作成」を参照してください。

## テスト・リソース

すべてのエディションに、テストで使用するリソースを管理するテスト・リソース・モジュールが含まれています。詳細については、第 24 章「テスト・リソースの管理」を参照してください。

## バージョン管理

すべてのエディションで、Quality Center プロジェクトの単一エンティティのバージョン管理ができます。詳細については、第 7 章「バージョン・コントロールを使った作業」を参照してください。

Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition には、ライブラリ内の複数エンティティのベースライニングも含まれています。詳細については、第 38 章「ライブラリとベースライン」を参照してください。

## ポイント・アンド・クリック方式のインストール

Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition は、サポートされているデータベース上で完全インストールを行う必要があります。

Quality Center Starter Edition は、Windows XP 上に簡単なポイント・アンド・クリック・ウィザードを使用してインストールされます。これには、JBoss アプリケーション・サーバ、JBoss Web サーバ、および SQL 2005 Express の自動インストールが含まれます。

インストールおよびサポートされている環境の詳細については、『HP Quality Center インストール・ガイド』を参照してください。

## 複数の要件タイプ

Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition では、複数の要件タイプがサポートされています。要件タイプの詳細については、172 ページ「要件フィールド」を参照してください。Quality Center Starter Edition では、複数の要件タイプはサポートされていません。

## 要件対要件のトレーサビリティ

Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition では、要件間のリンクの定義がサポートされています。要件トレーサビリティの詳細については、第 14 章「要件の追跡」を参照してください。Quality Center Starter Edition では、要件のトレーサビリティはサポートされていません。



## リリース管理

Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition には、リリース・モジュールが含まれています。リリース・モジュールの詳細については、第 8 章「リリース管理のワークフロー」を参照してください。

Quality Center Starter Edition では、リリース管理はサポートされていません。このエディションを使用している場合、サイクルとリリースに関連するフィールドやコマンドは Quality Center で使用できません。たとえば、[ターゲット サイクル] および [ターゲット リリース] は使用できません。

## リスク・ベース品質管理

Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition には、リスク・ベース品質テストが含まれています。リスク・ベース品質管理の詳細については、第 15 章「要件のリスクの計算」を参照してください。

Quality Center Starter Edition では、要件モジュールの [リスク] タブは使用できません。また、リスクに関するフィールドは Quality Center では使用できません。

## 要件とテストの共有

Quality Center Starter Edition および Quality Center Enterprise Edition には、要件、テスト、テスト・リソースの再利用が含まれていません。Quality Center Starter Edition では、ライブラリ・モジュールを使用できません。Quality Center Enterprise Edition では、ライブラリ・モジュールを使用し、要件、テスト、およびテスト・リソースで構成されるベースラインを作成、比較できます。Quality Center Premier Edition では、ライブラリ・モジュールを使用してベースラインを作成、比較できます。また、複数のプロジェクト間でライブラリをインポート、同期化、比較することもできます。

ライブラリ・モジュールの詳細については、第 37 章「ライブラリ・モジュールの概要」を参照してください。

## 不具合の共有

Quality Center Premier Edition では、複数の Quality Center プロジェクト間で不具合を共有できます。不具合の共有や同期化には **HP Quality Center Synchronizer** を使用します。詳細については、[Quality Center アドイン] ページから利用できる『**HP Quality Center Synchronizer User Guide**』を参照してください。

### クロス・プロジェクトのカスタマイズ

Quality Center Premier Edition には、クロス・プロジェクトのカスタマイズが含まれており、テンプレート・プロジェクトで作業できます。詳細については、『**HP Quality Center Administrator Guide**』（英語版）を参照してください。

### クロス・プロジェクト・レポート

Quality Center Premier Edition でグラフを作成する場合、複数のプロジェクトのデータを組み合わせたり比較したりできます。Quality Center レポートとグラフの詳細については、第 40 章「ダッシュボード・モジュール」を参照してください。

### 追加オプション

Business Process Testing (BPT)、Service Test Management (STM)、および Change Impact Testing (CIT) の追加オプションは、Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition で使用できます。

### エディションのアップグレード

Quality Center 10.00 を別のエディションにアップグレードできます。Quality Center Starter Edition を、Quality Center Enterprise Edition または Quality Center Premier Edition にアップグレードできます。同様に、Quality Center Enterprise Edition を Quality Center Premier Edition にアップグレードできます。

アップグレードの詳細については、『**HP Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

---

# 索引

## 数字

1 つ前の変更に移動ボタン 537, 561

1 レベル縮小表示ボタン 193

## A

AddDefect VAPI-XP 関数 726

AddDefectUI VAPI-XP 関数 726

AddStepToRun VAPI-XP 関数 726

Adobe Reader 19

ASCII による並べ替え順 66

Assigned requirements, 進行状況タブ 142

## B

Business Process Testing 45

## C

Clear メソッド, VAPI-XP 728

Contract ボタン, ダッシュボード・ページ 575

## D

DownloadAttachment VAPI-XP 関数 727

## E

Enterprise Edition, 定義 749

### Excel

Quality Center からのグリッド・データの  
エクスポート 75

インポート, Quality Center へ 36

### Excel レポート

SQL クエリの作成 644

後処理スクリプト 652

作成 643

実行 654

セキュリティ設定 652

パラメータの追加 648

Executed coverage, 進行状況タブ 142

Export Word Document コマンド 305

## F

Flow, テスト・タイプの定義 268

## G

GetInput VAPI-XP 関数 727

## H

HookDebug プロパティ, VAPI-XP 728

HP Quality Center 初期ウィンドウ 38

HP Quality Center ログイン・ウィンドウ 40

HP ソフトウェア・サポート Web サイト 21

HP ホームページ 21

HTML ドキュメント, グリッド・データのエク  
スポート 75

## I

ID 順 (トレース開始) コマンド 213

ID 順 (トレース終了) コマンド 213

ITG 要求 ID 398

## L

LoadRunner シナリオ, テスト・タイプの定義  
268

## M

Manual, テスト・タイプの定義 268

Maximize Content ボタン 186

### Microsoft Excel

Quality Center からのグリッド・データの  
エクスポート 75

インポート, Quality Center へ 36

Microsoft Word

- Quality Center からのグリッド・データの  
エクスポート 75
- インポート, Quality Center へ 36
- プロジェクト・ドキュメントの作成 705
- リッチ・テキスト 185

P

- Passed coverage, 進行状況タブ 142
- Planned coverage, 進行状況タブ 142
- Premier Edition, 定義 749
- Print メソッド, VAPI-XP 728

Q

Quality Center

- Quality Center の URL 38
- エディション 749
- 概要 25
- キーボード・ショートカット 737
- 起動 38
- 終了 41, 47
- 初期ウィンドウ 38
- プロジェクトの変更 45
- メイン・ウィンドウ 43
- ログイン・ウィンドウ 40
- QualityCenter\_Demo プロジェクト 41
- QuickTest Professional, テスト・タイプの定義 268

R

- RBQM のカスタムの機能の複雑性, 要件モ  
ジュール 173
- RBQM のカスタムの機能の複雑性を使用, 要  
件モジュール 175
- RBQM のカスタムの結果を使用, 要件モ  
ジュール 175
- RBQM のカスタムの失敗の確率, 要件モ  
ジュール 173
- RBQM のカスタムの失敗の確率を使用, 要件  
モジュール 175
- RBQM のカスタムのテスト時間, 要件モ  
ジュール 173
- RBQM のカスタムのテスト・レベル, 要件モ  
ジュール 173
- RBQM のカスタムのビジネスへの影響, 要件  
モジュール 173
- RBQM のカスタムのビジネスへの影響を使用,

要件モジュール 175

- RBQM のカスタム・リスク, 要件モジュール 173
- RBQM のカスタム・リスクを使用, 要件モ  
ジュール 175
- RBQM の機能の複雑性, 要件モジュール 174
- RBQM の最終分析日, 要件モジュール 173
- RBQM の失敗の確率, 要件モジュール 174
- RBQM のテスト時間, 要件モジュール 174
- RBQM のテスト・レベル, 要件モジュール 174
- RBQM のビジネスへの影響, 要件モジュール 173
- RBQM の分析なし, 要件モジュール 174
- RBQM の有効な機能の複雑性, 要件モジュ  
ール 174
- RBQM の有効な失敗の確率, 要件モジュール 174
- RBQM の有効なビジネスへの影響, 要件モ  
ジュール 174
- RBQM の有効なリスク, 要件モジュール 174
- RBQM リスク, 要件モジュール 174
- RBT の予想 RnD 作用, 要件モジュール 174
- Resources ルート・フォルダ, テスト・リソ  
ース・ツリー 348
- run VAPI-XP 関数 729
- RunTest VAPI-XP 関数 725
- RunTestSet VAPI-XP 関数 724

S

- Sleep VAPI-XP 関数 729
- Spelling and Grammar コマンド  
スペル・チェック 46
- 類語辞典 46
- SQL クエリ, Excel レポート 644
- SQL 表示枠 647
- Starter Edition, 定義 749
- SYSTEM テスト, テスト・タイプの定義 268

T

- TDHelper オブジェクト, VAPI-XP 724
- TDInput オブジェクト, VAPI-XP 727
- TDOutput オブジェクト, VAPI-XP 728
- TestDirector, see Quality Center
- Text プロパティ, VAPI-XP 728

U

- UploadAttachment VAPI-XP 関数 727
- URL, Quality Center 38
- URL, コピー 200, 285, 357, 414, 510

URL のコピー・コマンド 200  
 URL ボタン 89  
 URL をコピー・コマンド 285, 357, 414, 510

## V

## VAPI-XP

API 724

テスト・タイプの定義 268

## VAPI-XP テスト 709

作成 710

テスト・モードでの実行 731

デバッグ 733

デバッグ・モードでの実行 730

編集 720

Visual Basic スクリプト, Excel レポート 652

## W

Web ブラウザで出力テキストを開くボタン  
 730

Web ページ, 添付 89

WinRunner Automated, テスト・タイプの定義  
 268

WinRunner バッチ・テスト 272, 445

WinRunner パラメータ 467

## Word

Quality Center からのグリッド・データ  
 のエクスポート 75

インポート, Quality Center へ 36

カバレッジ・アナリシスのエクスポート  
 305

プロジェクト・ドキュメントの作成 705

Word ドキュメント, エクスポートコマンド 305

WrapArray VAPI-XP 関数 729

## X

XML ドキュメント, グリッド・データのエクスポート 75

XTools オブジェクト, VAPI-XP 729

X軸のカテゴリの編集ダイアログ・ボックス 601

## あ

新しい不具合ボタン, 手動テストの実行 439

アップデート, ドキュメント 22

アドイン・ページ・コマンド 21

後処理スクリプト, Excel レポート 652

後処理の実行チェック・ボックス 653

アナリシス・コマンド

グラフ 588

グラフ・ウィザード 582

レポート 624

アナリシス・ツリー 571

アナリシス・ツリーのグラフへ移動ボタン 576

アナリシス・ビュー・タブ 572

## い

## 依存関係

依存関係タブ 365

使用グリッド 366

使用者グリッド 366

表示 365

## 依存関係タブ

テスト計画モジュール 251

テスト・リソース・モジュール 355

印刷コマンド, 不具合グリッド 510

印刷出力ボタン 730

インジケータ・カラム・コマンド

実行グリッド 384

不具合モジュール 482

実行グリッド 257

テスト・グリッド 159

要件グリッド 162, 164, 167

インポート, Quality Center へ

Excel から 36

Word から 36

インポート実行元タブ 554, 555

インポート元タブ 557

インポート・ライブラリ・アイコン 550

## う

ウィンドウ画面ボタン 720

上のフィールドの移動ボタン, [フィルタ] ダイアログ・ボックス 68

上書き保存ボタン, ドキュメント・ジェネレータ 676

## え

影響分析タブ, 要件のトレーサビリティ 216

エクスポート, グリッド・データ 75

エクスポート・コマンド 75

エディション, Quality Center 749

エディタ・ボタン 724

- 円グラフ・ボタン 597
- エンティティ
  - テストの削除 287
  - プロジェクト間でのテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダのコピー 412
  - プロジェクト間でのテストまたはサブジェクト・フォルダのコピー 282
- エンティティ・ステータス
  - テスト・カバレッジ・タブ 297
  - 要件カバレッジ・タブ 293
- エンティティに移動ボタン 75
- エンティティの依存関係
  - テストの削除 287
  - プロジェクト間でのテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダのコピー 412
  - プロジェクト間でのテストまたはサブジェクト・フォルダのコピー 282
- エンティティのチェックアウト 106
- エンティティのチェックイン 108
- [エンティティの比較] ダイアログ・ボックス 543
- エンティティの比較ボタン 561
- エンティティ表示枠, Excel レポート 646
- エンティティ名
  - テスト・カバレッジ・タブ 297
  - 要件カバレッジ・タブ 293
- エンティティをクエリに追加ボタン 647
  
- お
  - オートメーション・タブ
    - 失敗時 404
    - 通知 402
  - お気に入り追加コマンド 96, 98
  - [お気に入りに追加] ダイアログ・ボックス 96, 98
  - [お気に入りの整理] ダイアログ・ボックス 98
  - お気に入りバー・コマンド 97
  - お気に入りビュー 95
    - 公開フォルダ 95
    - 更新 98
    - 固有フォルダ 95
    - 最近使用した 97
    - 削除 98
    - 追加 96
  - 定義 95
    - プロパティの変更 98
    - 読み込み 97
  - オブジェクトの追加コマンド 723
  - [オブジェクトの追加] ダイアログ・ボックス 723
  - オプション・タブ, ドキュメント・ジェネレータ 674
  - 親要件, 要件モジュール 175
  - 折りたたみコマンド
    - テスト計画ツリー 273
    - 要件ツリー 194
  
- か
  - 回帰テスト・セット 392
  - 開始日
    - リリース・ツリー 136, 137
    - リリース・モジュール 126
  - 開発予想時間, テスト・グリッド 259
  - 拡大表示ボタン, グラフ・ツールバー 597
  - 拡大表示ボタン, 実行フロー 430
  - 確認ステータス, 要件モジュール 176
  - カスタマイズ・コマンド 45, 47
  - カスタマイズ・タブ, ドキュメント・ジェネレータ 677
  - カスタムの機能の複雑性を使用チェック・ボックス 227
  - カスタムの失敗の確率を使用チェック・ボックス 225
  - カスタムのビジネスの危険性チェック・ボックス 225
  - カスタム・ボタン 278
  - カスタム・リスクを使用チェック・ボックス 226
  - 画像, 添付 90
  - 画像をウィンドウに合わせるボタン, 実行フロー 431
  - カテゴリの編集ボタン 601
  - カバーなし (Not Covered) 要件ステータス 172
  - カバレッジ
    - テスト 297
    - 分析 301
    - 要件 293
  - カバレッジ・アナリシス 301
  - [カバレッジアナリシス] ダイアログ・ボックス 301, 682

カバレッジ・アナリシス・ビュー 166  
 カバレッジ・アナリシス・ボタン 302  
 カバレッジから削除ボタン, テスト・カバ  
 レッジ・タブ 301  
 カバレッジ・グリッド  
   テスト・カバレッジ・タブ 297  
   要件カバレッジ・タブ 293  
 カバレッジ・タイプ  
   テスト・カバレッジ・タブ 297  
 カバレッジ・チャート 298  
 カバレッジに追加ボタン  
   テスト・カバレッジ・タブ 300  
   要件カバレッジ・タブ 296  
 カバレッジ・タイプ  
   要件カバレッジ・タブ 293  
 カメラ・アイコン 90  
 カラムの選択コマンド, ステップのデザイ  
 ン・タブ 316  
 [カラムの選択] ダイアログ・ボックス 53  
 カラムの選択ボタン, ステップのデザイン・  
 タブ 316  
 関係タブ, 要件のトレーサビリティ 214  
 完全カバレッジ・チェック・ボックス, テス  
 ト・カバレッジ・タブ 298  
 完全パスを表示コマンド 294  
 管理ボタン 124  
 関連 ID, 使用グリッド 368  
 関連詳細, 使用グリッド 368  
 関連タイプ, 使用グリッド 368  
 関連名, 使用グリッド 368

き

キーボード・ショートカット 737  
 既存の不具合をリンクボタン 517  
 [既存の要件をトレース] ダイアログ・ボック  
 ス 213  
 起動, Quality Center 38  
 起動ボタン 336  
 機能テスト・セット 392  
 機能の複雑性タブ 227  
 機能の複雑性, 定義 226  
 キャンセル・ボタン, 手動テストの実行 437  
 行の高さを調整ボタン 316  
 共有フォルダ, お気に入り 97, 99  
 共有, ライブラリのインポートを参照。  
 切り取りボタン, リリース・モジュール 146

く

クイック・グラフ 588  
 クイック標準レポート 624  
 クエリー結果タブ 646  
 クエリー・パラメータ・タブ 646  
 クエリの実行ボタン 648  
 クエリの追加ボタン 647  
 クエリ・ビルダ 644  
 グラフ  
   概要 582  
   カテゴリの編集 601  
   クイック・グラフの作成 588  
   グラフ・ウィザードによる作成 582  
   グラフの手動作成 589  
   グラフの種類 604  
   クロス・プロジェクト・グラフ 594  
   設定 591  
   テスト計画 - サマリ・グラフ 611  
   テスト計画 - 進行状況グラフ 612  
   テスト計画 - トレンド・グラフ 613  
   テストの実行 - サマリ・グラフ 614  
   テストの実行 - 進行状況グラフ 615  
   ドリル・ダウン 599  
   表示 596  
   表示形式のカスタマイズ 600  
   不具合 - 経過 (不具合期間) グラフ 619  
   不具合 - サマリ・グラフ 616  
   不具合 - 進行状況グラフ 617  
   不具合 - トレンド・グラフ 620  
   要件 - サマリ・グラフ 607  
   要件 - 進行状況グラフ 608  
   要件 - トレンド・グラフ 610  
   要件 - 要件カバレッジ・グラフ 609  
   ライブ・アナリシス・グラフ 657  
   ライブ・アナリシス, テスト・サブ  
   ジェクト・フォルダ 659  
   ライブ・アナリシス, テスト・セッ  
   ト・フォルダ 662  
   ライブ・アナリシスの表示形式のカス  
   タマイズ 666  
   グラフ・ウィザード 582  
   グラフ・カテゴリ 601  
   グラフ・データの保存ボタン 598  
   グラフの印刷ボタン, グラフ・ツールバー 598  
   グラフの削除ボタン 665

[グラフの表示形式] ダイアログ・ボックス  
 グラフ 600  
 ライブ・アナリシス・グラフ 666  
 グラフ表示形式の設定ボタン 600, 662, 665, 666  
 グラフをクリップボードへコピー・ボタン,  
 グラフ・ツールバー 598  
 グラフを全画面で表示ボタン 576  
 グラフを追加リンク 660  
 クリア・ボタン, [新規不具合] ダイアログ・  
 ボックス 494  
 クリア・ボタン, [要件の新規作成] ダイアロ  
 グ・ボックス 183  
 クリア, 履歴 49  
 [クリーンアップテストの選択] ダイアログ・  
 ボックス 404, 469  
 グリッドのフィルタ・コマンド 61  
 グリッド・フィルタ・ボックス 60  
 クリップボードへコピー・コマンド 431  
 クリップボード・ボタン 92  
 グループ化カテゴリの編集ダイアログ・ボッ  
 クス 601  
 グループごとに表示チェック・ボックス 56  
 グループ条件  
 コピー 72  
 設定 68  
 グループ・タブ, [フィルタ] ダイアログ・  
 ボックス 70  
 グループ分け, グリッド・レコード 68  
 クロス・フィルタ 61  
 テスト・セットに含まれていないテス  
 トのフィルタ処理 65  
 要件がカバーされていないテストの  
 フィルタ処理 65  
 クロス・フィルタ条件セクション 65  
 [クロスフィルタ] ダイアログ・ボックス 65  
 クロス・プロジェクト・グラフ 594  
 グローバル・パラメータ・チェック・ボッ  
 クス 650

## け

警告 77  
 [警告] ダイアログ・ボックス 83  
 警告フラグ 83  
 警告ボタン 83, 501  
 警告を削除ボタン 83

[結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックス  
 662, 665

欠落している評価リンク 232

権限 35

現在のフィルタに制限チェック・ボックス 74

[検索結果] ダイアログ・ボックス

実行フロー 430

テスト計画ツリー 279

テスト・セット・ツリー 409

要件ツリー 189

検索コマンド

実行グリッド 453

テスト・グリッド 280

不具合のグリッド 503

要件グリッド 189

要件ツリー 189

[検索] ダイアログ・ボックス 189, 280, 503

実行グリッド 453

ステップのデザイン・タブ 320

不具合のグリッド 503

[検索 / 置換] ダイアログ・ボックス 192, 281,  
 411

実行グリッド 454

不具合のグリッド 192, 281, 504

[検索置換] ダイアログ・ボックス

不具合のグリッド 411

検索, テキスト 73

検索ボタン

テスト・カバレッジ・タブ 300

要件カバレッジ・タブ 295

要件のトレーサビリティ・タブ 212

検出サイクル, 不具合モジュール 488

検出されたバージョン, 不具合のグリッド 488

検出者, 不具合のグリッド 487

検出日, 不具合のグリッド 488

検出リリース, 不具合モジュール 488

検討対象フィールド・リスト 538

## こ

合計値を表示 / 非表示ボタン 597

降順ボタン, [フィルタ] ダイアログ・ボック  
 ス 68

更新日時

テスト・グリッド 260

ライブラリ・モジュール 525

更新ボタン, テスト・カバレッジ・タブ 300



- 構文チェック・コマンド 723
- 構文チェック・ボタン 723
- 固定カラム, [カラムの選択] ダイアログ・ボックス 54
- 固定されたベースラインのクリア・コマンド 541
- 子の自動完了チェック・ボックス 205
- このページのヘルプコマンド 18
- コピー
  - デザイン・ステップ, 同じプロジェクト 317
  - デザイン・ステップ, プロジェクト間 317
  - テスト, 同じプロジェクト 282
  - テスト・セット, 同じプロジェクト 412
  - テスト・セットの URL 414
  - テスト・セット, プロジェクト間 412
  - テストの URL 285
  - テスト, プロジェクト間 282
  - テスト・リソース, 同じプロジェクト 355
  - テスト・リソースの URL 357
  - テスト・リソース, プロジェクト間 356
  - 不具合 509
  - 不具合の URL 510
  - 要件 199
  - 要件の URL 200
- コピー・ボタン
  - VAPI-XP 723
  - 要件ツリー 199
- コメント
  - テスト・グリッド 259
  - 要件モジュール 172
- コメント・タブ, テスト計画ツリー 270
- コメント, テスト・リソース・ツリー 352
- コメントの追加ボタン 501
- コメント表示枠, 不具合のグリッド 483, 487, 501
- 固有フォルダ, お気に入り 96, 99
- [壊れたリンク検証] ダイアログ・ボックス 533
- コンパクト・ビュー・ボタン, 手動テストの実行 438
- さ
  - 最下位の子要件の変換
    - デザイン・ステップ 203
    - テスト 203
  - サイクル ID 126
  - サイクルごとのカバレッジ計算ボックス 302
  - [サイクルに割り当て] ダイアログ・ボックス 185, 395
  - サイクルの合計テスト インスタンス数, 進行状況タブ 141
  - サイクルの合計日数, 進行状況タブ 141
  - サイクルの残り日数, 進行状況タブ 141
  - サイクルの複製ボタン 146
  - 再現可能, 不具合のグリッド 488
  - 最後の実行結果ウィンドウ, 実行グリッド 383
  - 最後の実行結果の表示コマンド 383
  - 最後の同期 558
  - 最終ページ・ボタン, 標準レポート 639
  - 最初にお読みください 19
  - 最初のページ・ボタン, 標準レポート 639
  - サイト管理者からのメッセージの表示 50
  - 削除コマンド
    - 不具合のグリッド 511
    - 要件ツリー 201
  - [削除するテストステップの選択] ダイアログ・ボックス 418
  - [削除タイプの選択] ダイアログ・ボックス 419
  - 削除ボタン
    - VAPI-XP 723
    - すべての実行ビュー 462
    - テスト計画ツリー 287
    - テスト・ラボ・モジュールのテスト・セット 417
    - テスト・ラボ・モジュールのフォルダ 416
    - リリース・モジュール 147
  - 削除ボタン, ダッシュボード・ページ 575
  - [削除リクエストの確認] ダイアログ・ボックス 420
  - 作成時間, 要件モジュール 172
  - 作成者, テスト・リソース・ツリー 352
  - 作成者, トレーサビリティ・グリッド・ビュー 214
  - 作成者, 要件モジュール 172
  - 作成者, ライブラリ・モジュール 524

作成者、リンクされている不具合グリッド 515  
作成日

テスト・グリッド 259  
テスト計画ツリー 270  
テスト・リソース・ツリー 352  
トレーサビリティ・グリッド・ビュー  
214  
要件モジュール 172  
ライブラリ・モジュール 524  
リンクされている不具合グリッド 515

サブジェクト

テスト・グリッド 260  
不具合のグリッド 488

サブジェクト・コマンド 204

サブジェクト・ツリー・チェック・ボックス,  
ドキュメント・ジェネレータ・ツリー  
685

サブジェクト・ツリー・リンク, ドキュメン  
ト・ジェネレータ 685

サブジェクト・テスト・チェック・ボックス,  
ドキュメント・ジェネレータ・ツリー  
687

サブジェクト・テスト・リンク, ドキュメン  
ト・ジェネレータ 687

[サブジェクトの宛先] を選択ダイアログ・  
ボックス 206

サブジェクト・フォルダ

削除 287  
定義 264  
テスト計画ツリーでの検索 279  
テスト計画ツリーでの並べ替え 285  
テスト計画ツリーへの追加 265  
名前の変更 287

サブレポート 635

サブレポートの削除ボタン 636

サブレポートの追加ボタン 635

サマリ表示枠, 不具合のグリッド 483

サマリ, 不具合のグリッド 488

し

詳細タブ

[不具合の詳細] ダイアログ・ボックス  
501  
リリース・モジュール 136, 137

時間

実行グリッド 386

テスト実行への設定 423

時間, テスト実行の詳細 461

時刻の依存アイコン 427

時刻の依存タブ, [テストのスケジュールを実  
行] ダイアログ・ボックス 425

時刻の依存の削除コマンド 428

[システム情報] ダイアログ・ボックス 91

システム情報ボタン 91

システム・テスト 337

下のフィールドの移動ボタン, [フィルタ] ダ  
イアログ・ボックス 68

実行イベント・タブ, [テストインスタンスの  
プロパティ] ダイアログ・ボックス  
468

実行開始ボタン 437

実行グリッド

概要 383

カラムの定義 386

検索と置換 453

実行ログの表示 448

ツールバー 384

手作業でのテストの実行 433

テスト結果の表示 455

テスト・セット 391

テストの自動実行 443

テストの順序の設定 452

フィールド値の置換 411

実行グリッド・タブ 379

実行しない (No Run) 要件ステータス 172

実行時に非表示チェック・ボックス 650

実行条件, 設定 423

実行条件の削除コマンド 427

[実行条件の新規作成] ダイアログ・ボックス  
424

実行スクリプト・ボタン 730, 734

実行ステータス, テスト・グリッド 260

[実行ステップ] ダイアログ・ボックス 463

実行チェック・ボックス, ドキュメント・  
ジェネレータ 699

実行 (テスト・モード) コマンド 731

実行 (デバッグ・モード) コマンド 730

実行の削除コマンド 418

実行の終了ボタン, 手動テストの実行 437,  
439, 440

- [実行の条件] ダイアログ・ボックス 426
- 実行の条件タブ, [テストのスケジュールを実行] ダイアログ・ボックス 423
- 実行の表示リスト, すべての実行ビュー 462
- 実行日
  - 実行グリッド 386
  - テスト実行の詳細 461
- 実行フロー 421
  - 階層レイアウトでのテストの表示 430
  - 概要 388, 421
  - 拡大表示 430
  - 完全なテスト名を表示 431
  - 時刻の依存の削除 428
  - 時刻の依存の追加 423
  - 時刻の依存の編集 427
  - 実行ログの表示 448
  - 縮小表示 431
  - 条件の削除 427
  - 条件の追加 424
  - 条件の編集 426
  - すべての条件と依存の削除 428
  - ツールバー 389
  - 手作業でのテストの実行 433
  - テスト結果の表示 455
  - テスト・セット 391
  - テストの検索 430
  - テストの自動実行 443
  - テストを順に並べる 429
  - 倍率の変更 431
  - フローに時間の依存関係を追加 425
- 実行フロー・タブ 379
- 実行ボタン
  - 実行グリッド・タブ 435, 445
  - 実行フロー・タブ 435, 445
- 実行予定時間
  - 実行グリッド 386
  - テスト実行の詳細 461
- 実行予定日
  - 実行グリッド 386
  - テスト実行の詳細 461
- 実行リンク, ドキュメント・ジェネレータ 699
- 実行レポートリンク, [不具合細] ダイアログ・ボックス 501
- 実行ログ 448
- 実行を再開ボタン, VAPI-XP 736
- 実際の値, テスト・パラメータ 328
- 実際の実行率, 進行状況タブ 140, 141
- 実際の修正時間, 不具合のグリッド 487
- 失敗 (Failed) 要件ステータス 172
- 失敗時リンク 404
- 失敗の確率タブ 225
- 失敗の確率, 定義 224
- 失敗を選択ボタン, 手動テストの実行 439
- 指定不具合のレポートを作成ボタン 501
- 自動タブ, テストインスタンスのプロパティダイアログ・ボックス 467
- 自動テスト
  - 実行 443
    - 自動化しない 334
    - 自動化する場合 333
    - 手動実行 433
      - テスト・スクリプトの生成 334
  - 自動テスト・スクリプトの生成 334
- [自動ランナー] ダイアログ・ボックス 446
- 修正済み
  - 実行グリッド 386
    - トレーサビリティ・グリッド・ビュー 215
    - 不具合のグリッド 488
    - 要件モジュール 172
  - 重要度, 不具合のグリッド 488
- 終了, Quality Center の 41, 47
- 終了バージョン, 不具合のグリッド 487
- 終了日
  - リリース・ツリー 136, 137
  - リリース・モジュール 126
- 終了日, 不具合のグリッド 487
- 縮小表示ボタン, グラフ・ツールバー 597
- 縮小表示ボタン, 実行フロー 431
- [受信者の選択] ダイアログ・ボックス 197, 277, 361, 508
- 出力コマンド 723
- 出力タブ 723
- 出力のクリア・ボタン 730
- 手動テスト
  - VAPI-XP への変換 710
  - 実行 433
- 手動テストの呼び出し 311
- 手動パラメータ・タブ, [テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックス 466
- 使用グリッド 366
- 条件, テスト実行への設定 423

条件の詳細ボックス 224, 225, 227

詳細

テスト実行の詳細 461

テスト・リソース・ツリー 351, 352

不具合のグリッド 487

要件モジュール 172

リリース・ツリー 136, 137

リリース・モジュール 126

詳細タブ

テスト計画ツリー 270

テスト計画モジュール 250, 270

不具合のグリッド 483

要件モジュール 159, 162, 165, 167

詳細タブ, テスト・ラボ・モジュール 398

詳細タブ, テスト・リソース・モジュール  
348, 351

詳細テスト・セット 392

詳細ビュー

[テスト インスタンスのプロパティ]  
ダイアログ・ボックス 460

[要件の詳細] ダイアログ・ボックス  
188

詳細フィルタ 61

詳細フィルタの表示の矢印ボタン 64

使用者グリッド 366

昇順ボタン, [フィルタ] ダイアログ・ボック  
ス 68

情報パネル・コマンド

カバレッジ・アナリシス・ビュー 167

不具合のグリッド 483, 505

要件グリッド 165

要件ツリー・ビュー 159

ショートカット 737

除外コマンド 205

所有者 ID, 使用者グリッド 367

所有者詳細, 使用者グリッド 367

所有者タイプ, 使用者グリッド 367

所有者名, 使用者グリッド 367

新規項目ボタン, Excel レポート 643

新規項目ボタン, グラフ 590

新規項目ボタン, グラフ・ウィザード 583

新規項目ボタン, 標準レポート 629

新規サイクル・ボタン 137

[新規ダッシュボード ページ] ダイアログ・  
ボックス 573

新規テスト・セット・ボタン 396

新機能コマンド 19

[新規のベースライン] ダイアログ・ボックス  
533

[新規のライブラリ フォルダ] ダイアログ・  
ボックス 529

新規フォルダボタン 529

新規不具合コマンド 46

新規ページ・ボタン 573

[新規ホスト] ダイアログ・ボックス 451

新規ホスト・ボタン 451

[新規要件フォルダを作成] ダイアログ・ボッ  
クス 181

[新規要件を作成] ダイアログ・ボックス 182

[新規リソース] ダイアログ・ボックス 349

[新規リソース フォルダ] ダイアログ・ボック  
ス 348

新規リソース・フォルダ・ボタン 348

新規リソース・ボタン 349

新規リリース・フォルダ・ボタン 135

新規リリース・ボタン 136

進行状況タブ, リリース・モジュール 139

す

スクリプト, 生成 334

スクリプト内で検索ボタン 724

スクリプトの作成ボタン 334

ステータス

実行グリッド 386

テスト・グリッド 260

テスト計画ツリー 270

テスト実行の詳細 461

不具合のグリッド 488

ステータス・フィルタ・リスト, テスト・カ  
バレッジ・タブ 298

ステップ・アウト・ボタン 734

ステップ・イントゥ・ボタン 734

ステップ・オーバー・ボタン 734

ステップ・グリッドへ戻るボタン 438

ステップ・コマンド 205

ステップ, テスト・ステップ 307

ステップのコピー・ボタン, ステップのデザ  
イン・タブ 317, 318

ステップの詳細 438

ステップの新規作成ボタン 309

ステップの追加ボタン, 手動テストの実行 440

ステップのデザイン・エディタ 307

- ステップのデザイン・タブ, テスト計画モジュール 251, 308
  - ステップの貼り付けボタン, ステップのデザイン・タブ 317, 318
  - ステップの番号変更ボタン 315
  - ステップの編集ボタン 314
  - ステップの保存ボタン 310
  - ステップ・ボタン, すべての実行ビュー 462
  - ストレス・テスト 244
  - [スナップショット] ダイアログ・ボックス, [添付ファイル] ダイアログ・ボックス 90
  - スナップショット・ボタン, [添付ファイル] ダイアログ・ボックス 90
  - 全てクリア・ボタン 83
  - すべて更新コマンド
    - 要件カバレッジ・タブ 295
  - すべて更新ボタン
    - テストのカバレッジ・タブ 213
    - 要件モジュール 193
  - 全て更新ボタン
    - テスト計画ツリー 273
    - [テストを選択] ダイアログ・ボックス 313
  - 全て更新ボタン, 要件カバレッジ・タブ 295
  - 全て更新ボタン, リリース・モジュール 142, 145
  - すべて失敗コマンド 439
  - すべて成功コマンド 439
  - すべて置換ボタン, VAPI-XP 724
  - すべて展開コマンド, 要件ツリー 194
  - すべてのグラフをページに生成ボタン 576
  - [すべての実行条件を削除] ダイアログ・ボックス 428
  - すべての実行ビュー 462
  - すべてのテストをローカルで実行チェック・ボックス 446
  - すべての要件をサブジェクトに変換しますオプション 203
  - すべて表示ボタン, グラフ・ツールバー 597
  - スペル・オプション・コマンド 46
  - スペル・オプション・ボタン
    - 新規不具合 183, 495
    - メールの送信 198, 278, 509
  - スペル・チェック・コマンド 46
  - スペルチェックコマンド
    - スペル・オプション 46
  - スペル・チェック・ボタン
    - 新規不具合 183, 495
    - メールの送信 198, 278, 509
- せ
- 成功 (Passed) 要件ステータス 172
  - 成功を選択ボタン, 手動テストの実行 439
  - 生成ボタン, Excel レポート 655
  - 生成ボタン, グラフ 597
  - 生成ボタン, ダッシュボード・ページ 576
  - 製品, 要件モジュール 173
  - 責任者, 不具合のグリッド 487
  - セキュリティ・テスト 244
  - 設計者
    - テスト・グリッド 259
    - テスト計画ツリー 270
  - 設定タブ, Excel レポート 644
  - 設定タブ, グラフ 591
  - 設定タブ, ダッシュボード・ページ 574
  - 設定タブ, 標準レポート 632
  - 設定ビュー, [テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックス 465
- 説明
- テスト・グリッド 259
  - ライブラリ・モジュール 525
- 説明コマンド 205
- 全画面でページを表示ボタン 576
  - 全画面表示ボタン 661
  - 線グラフ・ボタン 597
  - [全グリッドデータをエクスポート] ダイアログ・ボックス 75
  - 選択項目のアップロード・ボタン, 添付ファイル 93
  - 選択項目の削除ボタン, 要件カバレッジ・タブ 296
  - 選択項目を子と一緒にレポートするコマンド 625
  - [選択したグリッドデータをエクスポート] ダイアログ・ボックス 75
  - 選択したテキストをクリップボードへコピー・ボタン 730
  - 選択したテストの削除ボタン, テスト・グリッド 258
  - 選択済みの更新コマンド 71, 282, 505, 200
  - 選択範囲の削除ボタン
    - 手動テストの実行 440
    - ステップのデザイン・タブ 316
    - 添付ファイル 94

## 索引

選択をレポート・コマンド 625  
全ドキュメント・ボタン 705

## そ

ソースと比較ボタン 558  
ソース・ライブラリの所有者, ライブラリ・  
モジュール 558  
続行ボタン, すべての実行ビュー 462

## た

ターゲット・サイクル  
実行グリッド 386  
不具合モジュール 489  
要件モジュール 176  
ターゲット・プロジェクトにリソースを貼り  
付けダイアログ・ボックス 357  
ターゲット・リリース  
不具合モジュール 489  
要件モジュール 176  
タイトルをリセット・ボタン 601, 666  
タイプ, テスト・グリッド 260  
タイプ, テスト・リソース・ツリー 352  
ダウンロードして開くボタン, 添付ファイル 92  
ダッシュボード・ツリー 571  
ダッシュボード・ビュー・タブ 573  
ダッシュボード・ページ  
概要 573  
作成 573  
設定 574  
表示 575  
ダッシュボード・ページにグラフを追加ボタ  
ン 575  
ダッシュボード・モジュール  
Excel レポート 641  
アナリシス項目の作成 572  
概要 570  
グラフ 581  
項目とフォルダの管理 577  
ダッシュボード・ページ 573  
ツリーの構築 571  
標準レポート 628

## ち

チェックアウト  
自動 106  
手動 107

チェック・アウト・コマンド 107  
チェックアウト作業を元に戻すコマンド 109  
チェックアウト作業を元に戻すボタン 110  
[チェックアウト] ダイアログ・ボックス 106, 107  
チェックアウト・ボタン 113  
チェックアウト前に警告するコマンド 107  
チェック・イン・コマンド 108  
[チェックイン] ダイアログ・ボックス 108  
チェックインの保留中コマンド 110  
チェック・イン・ボタン 110  
置換コマンド  
実行グリッド 411, 454  
不具合のグリッド 192, 281, 411, 504  
要件ツリー 191  
置換ボタン, VAPI-XP 724  
直接カバレッジ・ステータス, 要件モジュー  
ル 172

## つ

追跡コメント, トレーサビリティ・グリッ  
ド・ビュー 215  
通知リンク 402  
ツールバー  
実行グリッド 384  
実行フロー 389  
テスト・グリッド 258  
テスト計画モジュール 254  
テスト・セット 381  
テストの選択 382  
不具合モジュール 485  
要件モジュール 169  
リリース・モジュール 125  
ツール・ボタン 45  
カスタマイズ・コマンド 45  
新規不具合コマンド 46  
ドキュメント・ジェネレータ・コマン  
ド 672

次からコピー・ボタン 335  
次と比較ボタン 535, 559  
次の行番号に移動コマンド, VAPI-XP 724  
次のページ・ボタン, 標準レポート 639  
次の変更に移動ボタン 537, 561  
次へボタン 45  
次を検索コマンド  
VAPI-XP 724  
テスト・グリッド 280

- 不具合のグリッド 503
- 要件グリッド 189
- て
- 停止ボタン
  - VAPI-XP 730
  - [自動ランナー] ダイアログ・ボックス 447
  - ドキュメント・ジェネレータ 705
- データ・グリッド・ボタン, ダッシュボード・モジュール 597
- データベース, Quality Center でのサポート 35
- データベースの種類ボタン 647
- テキスト検索 73
- テキスト検索ボタン 74, 320
- テキストの検索 / 置換ボタン 321
- デザイン・ステップ
  - カラムの表示設定 316
  - 検索と置換 319
  - コピー, 同じプロジェクト 317
  - コピー, プロジェクト間 317
  - サイズ変更 316
  - 削除 316
  - 手動テストの呼び出し 311
  - 順序変更 315
  - 追加 309
  - 定義 307
  - 番号変更 315
  - 変更 314
- デザイン・ステップの順序変更 315
- [デザインステップをターゲットプロジェクトに貼り付け] ダイアログ・ボックス 318
- 手作業で実行ボタン
  - 実行グリッド・タブ 435
  - 実行フロー・タブ 435
- テスト
  - グリッド内のフィールド値の置換 411
  - コピー, 同じプロジェクト 282
  - コピー, プロジェクト間 282
  - 実行結果の表示 455
  - 自動化 333
  - 自動実行 443
  - 手動実行 433
  - すべての表示 256
  - タイプ 268
  - 手作業実行の続行コマンド 441
  - テスト計画ツリーからの削除 287
  - テスト計画ツリーでの検索 279
  - テスト計画ツリーでのフォルダまたはテストの名前の変更 287
  - テスト計画ツリーへの追加 267
  - テスト実行のスケジュール 421
  - テスト・ステップの作成 307
  - テスト・セット 391
  - テストの検索 280
  - テストの要件へのリンク 297
  - 要件ツリーからの作成 202
  - 要件のテストへのリンク 293
  - リモートでの実行 446
  - ローカルで実行 446
  - テスト ID, テスト・グリッド 260
  - [テストインスタンスの作成] ダイアログ・ボックス 400, 401
  - テストインスタンスの実行進行状況バー, 進行状況タブ 140, 141
  - [テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックス
    - リンクされている不具合タブ 470
  - [テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックス 455
    - 実行イベント・タブ 468
    - 手動パラメータ・タブ 466
    - 詳細ビュー 460
    - すべての実行ビュー 462
    - 設定ビュー 465
    - 履歴ビュー 472
    - リンクされている不具合の表示 470
  - テストインスタンスのプロパティダイアログ・ボックス 467
  - 自動タブ 467
  - テスト・インスタンス, 要件へのリンク 297
  - テスト・カバレッジ 297
    - 概要 290
    - テスト・インスタンスの削除 300
    - テスト・インスタンスの追加 299
    - テストの削除 300
    - テストの追加 299
    - 表示 298
    - 分析 301
    - 例 292
  - テスト・カバレッジ・チャート 304

- テスト・カバレッジ・ビュー, [要件の詳細]
  - ダイアログ・ボックス 188
- テスト完全名の表示コマンド 431
- テスト管理プロセス 27
  - テストの計画 31
  - テストの実行 33
  - 不具合の追跡 34
  - 要件の定義 30
- テストクエリーボタン 648
- テスト・グリッド 256
  - URL をコピー 285
  - カラムの定義 259
  - ツールバー 258
  - テストの検索 280
  - テストの削除 258
  - フィールド値の置換 281
  - 複数のレコードの更新 282
  - プロジェクト・ドキュメントの作成 689
  - メイン・ウィンドウ 256
  - メールでのテストの送信 276
- テスト計画
  - 依存関係タブ 365
- テスト計画ツリー 263
  - URL をコピー 285
  - 概要 264
  - 更新 273
  - 作成 265
  - テスト・アイコン 272
  - テストの追加 267
  - テスト・ラボ・モジュールでの表示 399, 400
  - 展開および折りたたみ 273
  - 表示 273
  - フォルダの並べ替え 285
  - フォルダまたはテストの検索 279
  - フォルダまたはテストの削除 287
  - フォルダまたはテストの名前の変更 287
  - メールでのテストの送信 276
  - 要件カバレッジ 293
  - 要件モジュールでの表示 299, 300
- テスト計画ツリーでテストに移動コマンド 298
  - テスト・ラボ・モジュール 379
- [テスト計画ツリーでフォルダを並べ替え] ダイアログ・ボックス 285
- テスト計画ツリーのテストへ移動ボタン, テスト・グリッド 258
- テスト計画ボタン 250
- テスト計画モジュール
  - 概要 249
  - グラフ 605
  - ツールバー 254
  - テスト・グリッド 256
  - テスト計画ツリー 263
  - テスト・ステップ 307
  - テストの自動化 333
  - テスト・パラメータ 323
  - 標準レポート 623
  - プロジェクト・ドキュメントの作成 684
  - メイン・ウィンドウ 250
  - メニュー・バー 252
  - 要件カバレッジ 293
  - ライブ・アナリシス・グラフ 659
  - ワークフロー 243
- テストごとに設定ボタン 406
- テスト・コマンド 205
  - [テスト/サブジェクト フォルダをターゲット プロジェクトに貼り付け] ダイアログ・ボックス 283
- テスト時間 228
- テスト実行の結果 455
- テスト実行のスケジュール 421
- テスト実行のスケジュール・コマンド 423
  - [テスト失敗時] ダイアログ・ボックス 406
  - [テスト順の設定] ダイアログ・ボックス 実行フロー 429
- テスト・スクリプト, 生成 334
- テスト・スクリプト・タブ 251, 335
- テスト・ステップ 307
- テスト・ステップ, テスト実行中に編集 440
- テスト責任者
  - 実行グリッド 386
  - テスト実行の詳細 461
- テスト設定のコピー・ボタン 407
- テスト設定の貼り付けボタン 407
- テスト・セット 391
  - 概要 392
  - コピー, 同じプロジェクト 412
  - コピー, プロジェクト間 412
  - サイクルへのフォルダの割り当て 395
  - 実行の削除 418
  - 失敗時のルールの設定 404



- タイプ 392
- 追加 396
- 通知の設定 402
- ツリー内での検索 409
- 定義 391
- テスト・セットの削除 417
- テストの削除 412
- テストの実行 443
- テストの追加 399
- 名前の変更 415
- フォルダの削除 416
- ベースラインに固定 540
- リセット 417
- テスト・セットからテストを削除するボタン 412
- テスト・セット・グリッド, URLのコピー 414
- テスト・セット・グリッド・コマンド 396
- [テストセット更新の確認] ダイアログ・ボックス 417
- テスト・セット・チェック・ボックス, ドキュメント・ジェネレータ 695
- テスト・セット・ツリー
  - URLのコピー 414
  - サイクルへのフォルダの割り当て 395
- テスト・セット・ツリー・コマンド 394, 396
- テスト・セット・ツリー, テスト・カバレッジ 297
- [テストセット/テストセットフォルダをターゲットプロジェクトに貼り付け] ダイアログ・ボックス 413
- テスト・セットの実行 443
- テスト・セットの実行ボタン
  - 実行グリッド・タブ 445
  - 実行フロー・タブ 445
- [テストセットの新規作成] ダイアログ・ボックス 396
- テスト・セットの新規作成ボタン 396
- テスト・セットのテストに移動コマンド
  - テスト計画モジュール 274
- テスト・セットのテストへ移動コマンド 298
- テスト・セットのフィルタ/並べ替えのクリア・ボタン 72
- テスト・セットのフィルタ/並べ替えの設定コマンド 58, 67
- テスト・セットのフィルタ/並べ替えの設定ボタン 58, 67
- テスト・セットのリセット・コマンド 417
- テスト・セット・フィルタ/並べ替えの更新コマンド 72
- テスト・セット・フォルダの表示コマンド 139
- テスト・セットへテストの追加ボタン 399, 400
- テスト・セット・メニュー, テスト・ラボ・モジュール 380
- テスト・セット・リンク, ドキュメント・ジェネレータ 695
- [テスト・セットを選択] ダイアログ・ボックス 731
- テスト担当者
  - 実行グリッド 386
  - テスト実行の詳細 461
- テスト・チェック・ボックス, ドキュメント・ジェネレータ 697
- テストのアイコン 272
- [テストのカバレッジ] ダイアログ・ボックス 305
- [テストの検索] ダイアログ・ボックス, 実行フロー 430
- [テストの削除] ダイアログ・ボックス 288
- [テストの作成] ダイアログ・ボックス 207
- [テストの時刻の依存] ダイアログ・ボックス 427
- [テストの時刻存] ダイアログ・ボックス 427
- テストの実行
  - 自動 443
  - 手動 433
  - テスト・セット 443
- テストの実行条件の削除コマンド 427
- [テスト順の設定] ダイアログ・ボックス
  - 実行グリッド 452
- [テストの新規作成] ダイアログ・ボックス 267
- テストの新規作成ボタン 267
- [テストのスケジュールを実行] ダイアログ・ボックス
  - 時刻の依存タブ 425
  - 実行の条件タブ 423
- テストの選択ボタン, テスト計画ツリー 399, 400
- テストのタイプ・リスト, テスト計画モジュール 268
- [テストのパラメータ] ダイアログ・ボックス 329
- テストのフィルタ/並べ替えコマンド 58, 67

- テストのフィルタ / 並べ替えのクリア・コマンド 72
- テストのフィルタ / 並べ替えの更新コマンド 72
- テストのフィルタ / 並べ替えの設定ボタン 58, 67
- テストの変換コマンド 203
- テストの呼び出しボタン 312
- テスト・パラメータ
  - 実際の値の割り当て 328
  - 手動テスト・インスタンスのパラメータ値の設定 465
  - 定義 325
  - デザイン・ステップへの挿入 327
- テストへ移動コマンド
  - テスト・グリッド 258
  - テスト計画ツリー 252
  - テスト・ラボ・モジュール 382
- テスト・ポリシー
  - 仕上げ 230
  - 設定の定義 228
- テスト・ポリシー・グリッド 229
- テスト名, テスト・グリッド 260
- テスト・メニュー
  - テスト計画モジュール 252
  - テスト・ラボ・モジュール 380
- テスト・ラボ・チェック・ボックス, ドキュメント・ジェネレータ 694
- テスト・ラボ・ボタン 378
- テスト・ラボ・モジュール
  - オートメーション・タブ 379
  - 概要 377
  - グラフ 605
  - サイクルへのテスト・セット・フォルダの割り当て 395
  - 実行グリッド・タブ 379
  - 実行フロー・タブ 379
  - テストの選択ツールバー 382
  - 手作業でのテストの実行 433
  - テスト結果の表示 455
  - テスト・セット 391
  - テスト・セット・ツールバー 381
  - テストの自動実行 443
  - 標準レポート 623
  - プロジェクト・ドキュメントの作成 693
  - メイン・ウィンドウ 378
  - メニュー・バー 380
  - ライブ・アナリシス・グラフ 662
  - リンクされている不具合タブ 379
  - ワークフロー 373
- テスト・ラボ・リンク, ドキュメント・ジェネレータ 694
- テスト・リスト・チェック・ボックス, ドキュメント・ジェネレータ 690
- テスト・リスト・リンク, ドキュメント・ジェネレータ 690
- テスト・リソース
  - Resources ルート・フォルダ 348
  - URL をコピー 357
  - アップロード 353
  - 依存関係タブ 365
  - 依存関係の表示 355
  - 移動 362
  - 管理 345
  - 検索 358
  - コピー, 同じプロジェクト 355
  - コピー, プロジェクト間 356
  - 削除 363
  - ダウンロード 354
  - ツリーの作成 348
  - テスト・リソースの名前の変更 363
  - フィルタ処理 359
  - メール送信 359
  - リソース・ファイルの追加 349
  - リソース・フォルダの追加 348
  - 履歴の表示 364
- テスト・リソース・ボタン 347
- テスト・リンク, ドキュメント・ジェネレータ 697
- テスト・レベル 228
- [テストを選択] ダイアログ・ボックス 312
- テストを選択ボタン, テスト・カバレッジ・タブ 299
- デバッグ停止ボタン 736
- デバッグ・モード, VAPI-XP テスト 730
- デモ用プロジェクト 41
- 展開コマンド, テスト計画ツリー 273
- 展開ボタン, ダッシュボード・ページ 575
- [電子メール送信] ダイアログ・ボックス
  - テスト・リソース 360
- 電子メールで送信ボタン
  - テスト 276
  - 不具合 507

- [電子メールの送信] ダイアログ・ボックス
    - 不具合 506
  - 電子メールの送信ダイアログ・ボックス
    - 要件 196
  - [電子メールを送信] ダイアログ・ボックス
    - テスト 276
  - 添付
    - URL の添付 89
    - クリップボードからのアイテムの添付 92
    - 削除 94
    - システム情報の添付 91
    - スナップショットの添付 90
    - 表示 92
    - ファイルの添付 89
    - 変更 93
    - 保存 93
  - [添付ファイル] ダイアログ・ボックス 88
  - 添付ファイルタブ, 不具合のグリッド 484
  - 添付ファイル・タブ, [不具合の詳細] ダイアログ・ボックス 501
  - 添付ファイル・ビュー, [要件の詳細] ダイアログ・ボックス 188
  - テンプレート・テスト 311
  - テンプレート, テスト・グリッド 260
  - テンプレート・テスト・コマンド 269
  - テンプレート・テストとしてマーク・コマンド 269
  - テンプレート・テストとしてマークコマンド 311
  - テンプレート・テストのみを表示チェック・ボックス 312
- と
- 同期ボタン 564
  - 統計, リリース・モジュール 126
  - 統合デバッグ, VAPI-XP 733
  - 動作確認テスト・セット 392
  - ドキュメント・ジェネレータ 669
    - 概要 670
    - 起動 672
    - テスト・グリッド・データの指定 689
    - テスト計画モジュールのデータの指定 684
    - テスト・ラボ・モジュールのデータの指定 693
    - ドキュメント・ジェネレータ・ツリー 679
  - 不具合モジュールのデータの指定 702
  - プロジェクト・データ 679
  - プロジェクト・ドキュメントの書式設定 673
  - プロジェクト・ドキュメントの生成と表示 705
    - 要件モジュールのデータの指定 681
  - ドキュメントのアップデート 22
  - ドキュメントの設定タブ, ドキュメント・ジェネレータ 673
  - トグル・ブレイクポイント・コマンド 733
  - トグル・ブレイクポイント・ボタン 733
  - ドメイン, ライブラリ・モジュール 557
  - ドメイン・リスト, ログイン・ウィンドウ 41
  - トラブルシューティングとナレッジ ベース 21
  - ドリル・ダウン, グラフ 599
  - トレーサビリティから削除ボタン 218
  - トレーサビリティ・グリッド・ビュー 214
  - トレーサビリティに追加ボタン 213
  - トレーサビリティ, 要件 209
    - 削除 218
    - 追加 212
      - トレース開始リンク 210
      - トレース終了リンク 210
    - 表示 214, 216
  - トレース開始ツリー・ビュー 216
  - トレース開始リンク 210
  - トレース終了ツリー・ビュー 216
  - トレース終了リンク 210
- な
- 名前
- 要件モジュール 172
  - ライブラリ・モジュール 524
  - リリース・モジュール 126
- 名前, テスト・リソース・ツリー 351, 352
- 名前の変更コマンド
- テスト計画ツリー 287
  - テスト・セット 415
  - テスト・リソース 363
  - 要件ツリー 199
  - リリース・モジュール 145
- 並べ替え条件
- クリア 72
  - 更新 72
  - コピー 72

## 索引

並べ替えたフィールド・リスト 67

並べ替えのフォルダ・ボタン 285

ナレッジ・ベース 21

## に

認証ボタン 41

## ね

ネットの取得ボタン 450

## は

バージョンおよびベースライン・タブ 112

バージョン・コントロール

エンティティのチェックアウト 106

エンティティのチェックイン 108

概要 102

作業 101

自動チェックアウト 106

手動によるチェックアウト 107

チェックアウト済みエンティティの表示 110

チェックアウトの取り消し 109

バージョン管理されないフィールド 105

バージョン履歴の表示 111

変更の取り消し 109

例 105

バージョン時間, テスト計画モジュール 261

バージョンの所有者, テスト計画モジュール 261

バージョンのステータス

テスト計画モジュール 261

要件モジュール 177

バージョンのチェックアウト時間, 要件モジュール 177

バージョンのチェックアウト実行者, 要件モジュール 177

バージョンのチェックアウトの日付, 要件モジュール 177

バージョンの日付, テスト計画モジュール 261

バージョンの履歴 111

バージョン番号

テスト計画モジュール 261

テスト・リソース・ツリー 352

要件モジュール 177

はじめに 19

パス, テスト・グリッド 260

パスワード

変更 47

リセット 42

[パスワードの変更] ダイアログ・ボックス 48

パスワードのリセット 42

パスワードを忘れた場合リンク 42

パッケージ, Quality Center 749

パフォーマンス・テスト 244

パラメータを表示ボタン, テスト・パラメータ 438

パラメータ, Excel レポートの 648

パラメータ, 手動テスト 323

[パラメータの詳細] ダイアログ・ボックス, テスト計画モジュール 326

[パラメータの新規作成] ダイアログ・ボックス, テスト・パラメータ 325

パラメータの新規作成ボタン, Excel レポート 650

[パラメータの挿入] ダイアログ・ボックス, テスト・パラメータ 327

パラメータの挿入ボタン, テスト・パラメータ 310

パラメータの編集ボタン, Excel レポート 651

パラメータをクエリに追加ボタン 651

貼り付けコマンド, 要件ツリー 200, 201

貼り付けコマンド, リリース・ツリー 146

貼り付けボタン, VAPI-XP 723

貼り付け, 要件 200, 201

範囲 152

## ひ

[比較の設定] ダイアログ・ボックス 538

比較の設定ボタン 538, 561

比較ボタン 113, 540

ビジネス・コンポーネント・モジュール 45

ビジネス致命度タブ 224

ビジネス致命度, 定義 223

ビジネス・プロセス, テストの種類 268

日進行状況バー, 進行状況タブ 140, 141

左ヘスクロール・ボタン, グラフ・ツールバー 597

日付, テスト実行への設定 423

必須実行率, 進行状況タブ 140, 141

ビュー, お気に入り 95

評価不可リンク 232

- 表示可能なカラム・リスト 53
  - 表示, サイト管理者メッセージ 50
  - 表示順序タブ, [フィルタ] ダイアログ・ボックス 67
  - 表示タブ, グラフ 596
  - 表示タブ, ダッシュボード・ページ 575
  - 表示タブ, 標準レポート 638
  - 表示メニュー
    - テスト計画モジュール 252
    - テスト・ラボ・モジュール 380
  - 標準設定時を取得ボタン 466
  - 標準値の設定ボタン 407
  - 標準の倍率 431
  - 標準レポート
    - 概要 623
    - クイック・レポートの作成 624
    - サブレポートの追加 635
    - 設定 632
    - ダッシュボード・モジュールでの作成 628
    - 定義済みレポート 626
    - 表示 638
    - レポート・タイプ 630
  - 標準設定値を取得ボタン 329
  - 開くボタン, 添付ファイル 92
  - 被リンク・ステータス, リンクされている不具合グリッド 515
  - 品質タブ, リリース・モジュール 143
- ふ
- ファイルからロード・ボタン, ドキュメント・ジェネレータ 676
  - ファイル・ボタン 89
  - [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス 198, 278, 509
  - フィルタ
    - クリア 72
    - 更新 72
    - コピー 72
    - 詳細/クロス 61
    - 設定 56
    - テスト・セットに含まれていないテストのフィルタ処理 65
    - ドロップダウン・ユーザ・リスト 55
    - ユーザ・グループの表示 55
    - ユーザのグループ分け 55
    - ユーザの検索 55
    - 要件がカバーされていないテストのフィルタ処理 65
    - [フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス 59
    - フィルタ設定をコピー・ボタン 72
    - フィルタ設定を貼り付けるボタン 72
    - フィルタ/ソートの設定, テスト・カバレッジ・タブ 298, 300
    - フィルタ/ソートをクリア, テスト・カバレッジ・タブ 298
    - [フィルタ] ダイアログ・ボックス
      - グループ・タブ 70
      - 詳細フィルタ 64
      - 表示順序タブ 67
      - フィルタ・タブ 58
    - フィルタ/並べ替えコマンド 58, 67, 72
    - フィルタ/並べ替えのクリア・ボタン 72, 463
    - フィルタ/並べ替えの更新ボタン 72
    - フィルタ/並べ替えの設定ボタン 58, 67, 463
    - 要件モジュール 193
    - フィルタ/並べ替えの設定, 要件のトレーサビリティ・タブ 213
    - フィルタの条件ボックス 59
    - フィルタ・ボックス, グリッドの 60
    - フィルタをクリア・ボタン 72
    - フォルダ ID, テスト・リソース・ツリー 351
    - フォルダ/テスト・セットの検索コマンド 409
    - [フォルダ/テストの検索] ダイアログ・ボックス 279
    - [フォルダの新規作成] ダイアログ・ボックス 266
    - [フォルダの新成] ダイアログ・ボックス 394
    - フォルダの新規作成ボタン 181, 394
    - フォローアップ・フラグ
      - 概要 84
      - 作成 85
      - 変更と削除 86
    - [フォローアップフラグ] ダイアログ・ボックス 85, 86
    - フォローアップ・フラグ・ボタン 85, 86, 501
    - 負荷テスト 244
    - 不具合 ID
      - 不具合のグリッド 487
      - リンクされている不具合グリッド 515
    - 不具合チェック・ボックス, ドキュメント・ジェネレータ 703

- 不具合に移動コマンド 484
- 不具合に移動ボタン 501
- 不具合のグリッド
  - URLのコピー 510
  - カラムの定義 487
  - コピー 509
  - テキストの検索 496
  - 不具合の印刷 510
  - 不具合の検索 496
  - 不具合の更新 500
  - 不具合の削除 511
  - 不具合の追加 493
  - 不具合の履歴の表示 505
  - 複数のレコードの更新 505
  - メールでの不具合の送信 506
- 不具合の検索 496
- [不具合細] ダイアログ・ボックス 500
- 不具合の追加とリンクボタン 517
- 不具合の追跡
  - 概要 481
  - テキストの検索 496
  - 不具合のグリッド 487
  - 不具合の検索 496
  - 不具合の更新 500
  - 不具合の削除 511
  - 不具合の追加 493
  - 不具合の履歴の表示 505
  - メールでの不具合の送信 506
  - ワークフロー 477
- 不具合の比較 496
- 不具合の報告
  - 概要 481
  - テキストの検索 496
  - 不具合のグリッド 487
  - 不具合の検索 496
  - 不具合の更新 500
  - 不具合の削除 511
  - 不具合の追加 493
  - 不具合の履歴の表示 505
  - メールでの不具合の送信 506
  - ワークフロー 477
- 不具合のリンク
  - 概要 513
  - 間接 513
  - 削除 518
  - 直接 513
  - 追加 517
  - 表示 516
- 不具合報告率グラフ, 品質タブ 143, 144
- 不具合ボタン 482
- 不具合ボタン, すべての実行ビュー 462
- 不具合メニュー, 不具合モジュール 484
- 不具合モジュール
  - 概要 481, 492
  - カラムの定義 487
  - グラフ 606
  - ツールバー 485
  - 標準レポート 623
  - 不具合のグリッド 491
  - プロジェクト・ドキュメントの作成 702
  - メイン・ウィンドウ 482
  - メニュー・バー 484
  - ワークフロー 477
- 不具合リンク, ドキュメント・ジェネレータ 703
- 複数のレコードの更新 71
- ブラウザ・コマンド 721
- ブラウザの表示 / 非表示ボタン 721
- 古いタイプ (旧型), 要件モジュール 173
- プレビュー・ボタン, ドキュメント・ジェネレータ 705
- フローに時間の依存関係を追加ボタン 425
- プロジェクト・データベース 35
- プロジェクトの分析
  - ドキュメント・ジェネレータ 669
  - ライブ・アナリシス・グラフ 657
- プロジェクトの変更コマンド 45
- プロジェクト, 不具合のグリッド 488
- プロジェクト, ライブラリ・モジュール 557
- プロジェクト・リスト, ログイン・ウィンドウ 41
- プロジェクトを選択ボタン 594
- フロ内ののテストの検索ボタン 430
- [プロパティ] ダイアログ・ボックス 99
- プロパティの変更 47
- 文書ライブラリ 18
- 分析から除外チェック・ボックス 223
- 分析結果タブ 236

へ

[ページの設定] ダイアログ・ボックス, ドキュメント・ジェネレータ 678

ページの設定ボタン, ドキュメント・ジェネレータ 677

ベースライン

作成 531

テスト・セットを固定 540

比較 534

比較の設定 537

ベースラインの履歴の表示 539

例 531

ベースライン ID, ライブラリ・モジュール 525

ベースラインの作成ボタン 532

ベースラインの作成ログ 534

[ベースライン比較ツール] ダイアログ・ボックス 535

ベースライン名, ライブラリ・モジュール 557

ベースラインに固定コマンド 540

[ベースラインに固定] ダイアログ・ボックス 540

ヘルプ・ボタン 46

編集メニュー

テスト計画モジュール 252

テスト・ラボ・モジュール 380

変数コマンド 735

変数の表示ボタン 735

ほ

棒グラフ・ボタン 597

ホスト 449

ホストの削除ほすとのさくしよ 451

定義 443

ホスト・グループからの削除 451

ホスト・グループの削除 451

ホスト・グループの追加 451

ホスト・グループへの追加 451

ホスト・グループからホストの削除ボタン 451

ホスト・グループの削除ボタン 451

[ホストグループの新規作成] ダイアログ・ボックス 451

ホスト・グループの新規作成ボタン 451

ホスト・グループへホストの追加ボタン 451

ホスト上で実行, [自動ランナー] ダイアログ・ボックス 446

ホストの削除ボタン 451

ホスト・マネージャ 449

[ホストを選択] ダイアログ・ボックス 446

保存先からロード・ボタン, ドキュメント・ジェネレータ 676

保存して子に適用ボタン 233, 234

保存済みを削除ボタン, ドキュメント・ジェネレータ 676

[保留中のチェックイン] ダイアログ・ボックス 110

ま

前のページ・ボタン, 標準レポート 639

マニュアル実行の続行 441

マニュアル・テスト実行の通知を有効にするコマンド 435

[マニュアルランナー] ダイアログ・ボックス 436

み

未解決の不具合グラフ, 品質タブ 143, 144

未完了 (Not Completed) 要件ステータス 172

右へスクロール・ボタン, グラフ・ツールバー 597

未実行テストインスタンス, 進行状況タブ 140, 141

未添付フォルダ, テスト計画ツリー 287

む

無視されたフィールド・リスト 538

も

戻るボタン 45

ゆ

ユーザ

グループ分け 55

検索 55

選択 55

並べ替え 55

ユーザ・グループ 35

[ユーザ定義のズーム] ダイアログ・ボックス 431

ユーザ定義の並べ替えオプション, テスト計画ツリー 285

ユーザ定義ボタン 198, 509

## 索引

- ユーザの権限 35
- ユーザのプロパティ・ウィンドウ 48
- ユーザのプロパティ・リンク 48
- ユーザ・プロパティの変更 47
- 優先度
  - 不具合のグリッド 488
  - 要件モジュール 173
- よ
- 要件
  - グリッドでのフィールド値の置換 192
  - グリッド内での検索 189
  - 検索 189
  - ツリー内での検索 189
  - トレーサビリティの削除 218
  - トレーサビリティの追加 212
  - トレーサビリティの表示 214, 216
  - トレース開始リンク 210
  - トレース終了リンク 210
  - 複数のレコードの更新 200
  - 要件 ID, 要件モジュール 175
  - 要件カバレッジ 293
    - 概要 290
    - 表示 294
    - 分析 301
    - 要件の削除 296
    - 要件の追加 294
    - 例 291
  - 要件カバレッジ・タブ, テスト計画モジュール 251
  - 要件グリッド
    - URL のコピー 200
    - フィールドの定義 172
    - 要件の検索 189
  - 要件グリッド・ビュー 164
  - 要件タイプ, 要件モジュール 176
  - 要件チェック・ボックス, ドキュメント・ジェネレータ 681
  - 要件追跡 ID, トレーサビリティ・グリッド・ビュー 215
  - 要件ツリー
    - URL のコピー 200
    - 値の置換 190
    - 概要 180
    - 更新 193
    - 作成 181
  - 縮小表示 193
  - テスト・カバレッジ 297
  - テスト計画モジュールでの表示 295
  - テストの作成 202
  - 展開および折りたたみ 194
  - フィールド値の置換 192
  - フィールドの定義 172
  - フィルタ処理 193
  - メールでの要件の送信 196
  - 要件の移動 201
  - 要件の検索 189
  - 要件のコピー 199
  - 要件の削除 201
  - 要件の履歴の表示 194
  - 要件名の変更 199
    - リリースまたはサイクルへの要件の割り当て 184
  - 要件, ツリーでの値の置換 190
  - 要件ツリーで要件に移動コマンド 294
  - 要件ツリー・ビュー 158
  - 要件トレーサビリティ 209
    - 削除 218
    - 追加 212
      - トレース開始リンク 210
      - トレース終了リンク 210
    - 表示 214, 216
  - 要件トレーサビリティの追加ボタン 212, 213
  - [要件の詳細] ダイアログ・ボックス 187
  - 要件の詳細ビュー 161
  - 要件の詳細ボタン 187
  - 要件の新規作成ボタン 182
  - 要件の選択ボタン 295
  - 要件のトレーサビリティ・ビュー 188
  - 要件の表示コマンド 138, 139
  - 要件へ移動コマンド
    - カバレッジ・アナリシス・ビュー 168
    - テスト・ラボ・モジュール 382
    - 要件グリッド・ビュー 166
    - 要件ツリー・ビュー 160
    - 要件の詳細ビュー 163
  - 要件ボタン 157
  - メールでの要件の送信 196
  - 要件モジュール 196
    - カバレッジ 297
    - カバレッジ・アナリシス 301
    - カバレッジ・アナリシス・ビュー 166



- グラフ 604
- ツールバー 169
- 貼り付け, 要件 200, 201
- 標準レポート 623
- フィールドの定義 172
- プロジェクト・ドキュメントの作成 681
- メニュー・バー 168
- 要件グリッド・ビュー 164
- 要件ツリー・ビュー 158
- 要件の作成 181
- 要件の詳細ビュー 161
- リリースまたはサイクルへの要件の割り当て 184
- 要件リンク, ドキュメント・ジェネレータ 681
- [要件を検索] ダイアログ・ボックス 189
- 要件を電子メールで送信ボタン 196
- ようこそページ 41
- 予測開発時間ボックス 223
- 予定修正時間, 不具合のグリッド 488
- 予定終了バージョン, 不具合のグリッド 488
- 予定ホスト名
  - 実行グリッド 386
  - テスト実行の詳細 461

## ら

- ライブ・アナリシス・グラフ
  - 削除 665
  - テスト・サブジェクト・フォルダで作成 659
  - テスト・セット・フォルダで作成 662
  - 表示形式のカスタマイズ 666
- ライブ・アナリシス・タブ 659, 662
- ライブラリ
  - インポート
  - 作成 529
  - 同期化 561
  - 比較 558
- ライブラリ ID 525
- [ライブラリ検証] ダイアログ・ボックス 552
- ライブラリ・ツリー, ライブラリ・モジュールを参照。
- ライブラリのインポート・ボタン 552
- ライブラリのインポート・ログ 553
- [ライブラリの作成] ダイアログ・ボックス 530
- [ライブラリ比較ツール] ダイアログ・ボックス 559

- ライブラリ名 557
- ライブラリ・モジュール
  - インポート実行元タブ 554
  - インポート元タブ 557
  - インポート・ライブラリ・アイコン 550
- 概要 522, 528
- ツールバー 523
- 比較の設定 537
- フィールドの定義 524
- ベースラインの削除 542
- ベースラインの作成 531
- ベースラインの比較 534
- ベースラインの例 531
- ベースライン名の変更 541
- メニュー・バー 523
- ライブラリの移動 542
- ライブラリのインポート 550
- ライブラリの削除 542
- ライブラリの作成 529
- ライブラリの同期化 561
- ライブラリの比較 558
- ライブラリのメール送信 564
- ライブラリ名の変更 541
- 例 548

## り

- リスク・アナリシスの実行ボタン 232
- リスク・カテゴリ, 決定 223
- リスク・カテゴリごとの合計テスト時間グラフ 232
- リスク・カテゴリごとの要件数グラフ 232
- リスク・タブ, 要件の詳細ビュー 223, 229, 231, 234
- リスク・ビュー, [要件の詳細] ダイアログ・ボックス 188
- リスク評価タブ 223, 224
- リスク・ベース品質管理 219
  - 設定の定義 228
  - 定数を標準設定に戻す 230
  - テスト・ポリシーの仕上げ 230
  - リスク・カテゴリの決定 223
  - 例 237
- リスク・ベース品質管理カラムの非表示
  - チェック・ボックス 58, 67, 70
- リスク・ベース品質管理レポート 233
- リソース ID, テスト・リソース・ツリー 352

- リソース, テスト・リソース参照
- リソース・ビューア・タブ 354
- [リソースの削除] ダイアログ・ボックス 363
- リッチ・コンテンツ・タブ, 要件モジュール 185
- リッチ・テキスト 185
- リモート実行 443
- リモート・ホスト, 設定 449
- 利用可能なカラム・リスト 53
- 利用可能なフィールド・リスト 67
- 利用可能フィールド情報ボタン 74
- リリース ID 126
- リリース・タブ 124
- サイクル。リリース・ツリーを参照。
- リリース・ツリー 129
  - 概要 130
  - カバレッジの進行状況の表示 139
  - サイクルの追加 137
  - サイクルの複製 146
  - 統計情報 138
  - フォルダとリリースの移動 146
  - フォルダ, リリース, およびサイクルの削除 147
  - フォルダ, リリース, およびサイクルの名前変更 145
  - 不具合の表示 143
  - 変更 145
  - リリースの追加 136
  - ルート・フォルダ 135
  - 割り当て済みテスト・セット・フォルダの表示 138
  - 割り当て済み要件の表示 138
- [リリースに割り当て] ダイアログ・ボックス 185
- リリース・フォルダ, リリース, およびサイクルの貼り付け 146
- リリース・モジュール 124
  - 概要 123
  - カバレッジの進行状況の表示 139
  - サイクルの追加 137
  - サイクルへのテスト・セット・フォルダの割り当て 395
  - 進行状況タブ 139
  - ツールバー 125
  - ツリーの変更 145
  - 統計情報 138
  - 品質タブ 143
- フィールドの定義 126
- フォルダ, リリース, およびサイクルの貼り付け 146
- 不具合の表示 143
- メニュー・バー 125
- 要件の割り当て 184
- リリース・ツリー 129
- リリースの追加 136
- ワークフロー 117
- 割り当て済みテスト・セット・フォルダの表示 138
- 割り当て済み要件の表示 138
- リリースの合計テスト インスタンス数, 進行状況タブ 140
- リリースの合計日数, 進行状況タブ 140
- リリースの残り日数, 進行状況タブ 140
- 履歴
  - クリア 49
- 履歴タブ
  - テスト・グリッド 257
  - バージョンの履歴 111
  - 不具合のグリッド 484, 505
  - [不具合の詳細] ダイアログ・ボックス 502
  - 要件ツリー 194
- 履歴ビュー, [テスト インスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックス 472
- 履歴ビュー, [要件の詳細] ダイアログ・ボックス 188
- リンク ID, リンクされている不具合グリッド 515
- リンクされているエンティティ ID, リンクされている不具合グリッド 515
- リンクされているエンティティ・タイプ, リンクされている不具合グリッド 515
- リンクされているエンティティ・タブ
  - [不具合の詳細] ダイアログ・ボックス 502
- リンクされているエンティティ名, リンクされている不具合グリッド 515
- [リンクされている不具合] ダイアログ・ボックス 514
- [リンクされている不具合] ダイアログ・ボックス, テスト実行 463
- リンクされている不具合タブ 379, 514
  - [テスト インスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックス 470
  - テスト計画モジュール 251

リンクされている不具合の表示, [テストインスタンスのプロパティ] ダイアログ・ボックス 470  
リンクされている不具合ビュー, [要件の詳細] ダイアログ・ボックス 188  
リンク・タイプ, リンクされている不具合グリッド 515  
リンクのコメント, リンクされている不具合グリッド 515  
リンクの削除ボタン 518  
リンク, 不具合  
    概要 513  
    間接 513  
    直接 513  
    リンクの削除 518  
    リンクの追加 517  
    リンクの表示 516

## る

類語辞典コマンド 46  
類語辞典ボタン  
    新規不具合 183, 495  
    メールの送信 198, 278, 509  
[類似したテキストの検索] ダイアログ・ボックス 498  
[類似した不具合] ダイアログ・ボックス 497  
類似した不具合の検索ボタン 497, 498  
類似のパーセント・ボックス 499  
ルートまで縮小表示ボタン 193

## れ

レイアウトの並べ替えボタン, 実行フロー 430  
レポート  
    Excel レポート 641  
    プロジェクト・ドキュメントの作成 669  
レポートの作成ボタン 234  
レポート。標準レポートを参照。  
レポートを添付ファイルとして追加チェック・ボックス 234

## ろ

ロード解除ボタン, ドキュメント・ジェネレータ 676  
ログアウト・ボタン 41, 47  
ログイン・ボタン 41

ログを有効化チェック・ボックス, [自動ランナー] ダイアログ・ボックス 446, 448  
ロゴ・タブ, ドキュメント・ジェネレータ 676

## わ

割り当てテスト時間の合計ボックス 231

